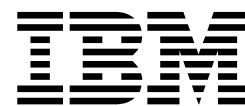


iSeries アドバンスト・シリーズ



AFP Utilities for iSeries: 使用者の手引き

iSeries アドバンスト・シリーズ



AFP Utilities for iSeries: 使用者の手引き

ご注意

本書の情報およびそれによってサポートされる製品を使用する前に、 xvii ページの『特記事項』 に記載する一般情報をお読みください。

本書は、AFP Utilities for iSeries (プログラム番号 5722-AF1) のバージョン 5 リリース 2 に適用されます。また、改訂版などで特に断りのない限り、これ以降のすべてのリリースとモディフィケーションにも適用されます。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

原 典 : S544-5349-02
iSeries Advanced Series
Advanced Function Printing Utilities for iSeries: User's Guide

発 行 : 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当 : ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2002.8

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1996, 2002. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2002

目次

表	xi
図	xv
特記事項	xvii
商標	xvii
IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries について	xix
本書の対象読者	xx
<hr/>	
第 1 部 IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries の紹介	1
第 1 章 IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries の概要	3
AFP Utilities for iSeries を使用してできること	5
オーバーレイの使用	7
イメージの使用	8
バーコードの使用	8
グラフィックスの使用	8
オーバーレイ・ユーティリティ	9
印刷形式ユーティリティ	11
資源管理ユーティリティ	13
AFP 資源および AFP Utilities for iSeries	14
AFP Utilities for iSeries の使用に関する要件	14
ハードウェア要件	14
ソフトウェア要件	15
AFP ユーティリティの基本 (概念)	15
ライブラリー、ファイル、およびメンバー	15
要素	16
AFP Utilities for iSeries の画面	16
機能キー	19
関連オンライン情報	21
画面のヘルプ	21
InfoSeeker	21
制御言語コマンドのヘルプ	21
<hr/>	
第 2 部 オーバーレイ・ユーティリティ	23
第 2 章 オーバーレイ・ユーティリティの紹介	25
印刷用紙およびオーバーレイ	25
ソース・オーバーレイ	26
オーバーレイ仕様	26
オーバーレイ・フォント	26
オーバーレイの設計	27
操作の流れ	28
第 3 章 オーバーレイ・ユーティリティの開始	31
ステップ 1 - オーバーレイ・ユーティリティの開始	33
ステップ 2 - ソース・オーバーレイ・ファイルの作成	34
ステップ 3 - ソース・オーバーレイの作成	36
テキスト要素の定義	38

線要素の定義	41
枠要素の定義	42
バーコード要素の定義	45
グラフィックス要素の挿入	47
AFP ワークベンチ・ビューアーによるオーバーレイの表示	49
ソース・オーバーレイの保管	51
ステップ 4 - ソース・オーバーレイの変更	54
ページ・セグメントの挿入	54
ソース・オーバーレイからのオーバーレイの作成	59
ステップ 5 - オーバーレイの使用	61
印刷装置ファイルの変更	61
印刷装置ファイルの使用	61
AFP Utilities for iSeries を使用したオーバーレイの印刷	62

第 4 章 オーバーレイ・ユーティリティーの開始および終了 63

オーバーレイ・ユーティリティーの開始	63
オプション 1 (ソース・オーバーレイの処理)	64
オプション 2 (ソース・オーバーレイ・ファイルの処理)	64
オーバーレイ・ユーティリティーの終了	64

第 5 章 ソース・オーバーレイの処理 67

プロンプト	68
オプション	70
欄	72
ソース・オーバーレイ・リストの表示	72
ソース・オーバーレイのリストからの選択	72
1= ソース・オーバーレイの作成	74
オーバーレイ仕様の定義	76
ソース・オーバーレイ・フォントの処理	83
オーバーレイの設計	83
2= ソース・オーバーレイの変更	87
3= ソース・オーバーレイのコピー	88
4= ソース・オーバーレイの削除	90
6= ソース・オーバーレイの印刷	91
7= ソース・オーバーレイの名前の変更	91
9= オーバーレイの作成	92

第 6 章 ソース・オーバーレイ・ファイルの処理 95

プロンプト	98
オプション	99
欄	100
ソース・オーバーレイ・ファイル・リストの表示	101
ソース・オーバーレイ・ファイルのリストからの選択	101
1= ソース・オーバーレイ・ファイルの作成	102
2= ソース・オーバーレイ・ファイル記述の変更	104
3= ソース・オーバーレイ・ファイルのコピー	105
4= ソース・オーバーレイ・ファイルの削除	106
7= ソース・オーバーレイ・ファイルの名前の変更	107
8= ソース・オーバーレイ・ファイルの記述の表示	108
12= ソース・オーバーレイの処理	108

第 3 部 印刷形式ユーティリティー 109

第 7 章 印刷形式ユーティリティーの紹介 111

印刷出力形式定義 (PFD 定義)	111
PFD 仕様	111

PFD 定義フォント	112
データベース・ファイル	112
レコード・レイアウト	112
ページ・レイアウト	113
要素	114
レコード選択	115
印刷出力仕様	115
オブジェクト名のマッピング	115
印刷形式ユーティリティを使用した印刷	116
操作の流れ	117
第 8 章 印刷形式ユーティリティの開始	121
ステップ 1 - 印刷形式ユーティリティの開始	122
ステップ 2 - PFD 定義ファイルの作成	123
ステップ 3 - PFD 定義の作成	125
データベース・ファイルの指定	126
レコード・レイアウトの設計	130
ページ・レイアウトの設計	143
印刷出力仕様の定義	147
PFD 定義の終了	148
ステップ 4 - データベース・ファイルの印刷	151
ステップ 5 - 印刷形式ユーティリティの終了	152
ステップ 6 - AFP ユーティリティの解説の印刷	153
第 9 章 印刷形式ユーティリティの開始および終了	155
印刷形式ユーティリティの開始	155
オプション 11 (PFD 定義の処理)	156
オプション 12 (PFD 定義ファイルの処理)	156
オプション 13 (データベース・ファイル・メンバーの印刷)	156
オプション 14 (AFP ユーティリティの解説の印刷)	156
印刷形式ユーティリティの終了	157
第 10 章 PFD 定義の処理	159
プロンプト	160
オプション	161
欄	162
PFD 定義リストの表示	162
リストからの PFD 定義の選択	163
1= PFD 定義の作成	164
PFD 仕様の定義	166
PFD 定義フォントの処理	177
データベース・ファイルの指定	177
切れ目フィールドの指定	181
レコード・レイアウトの設計	183
ページ・レイアウトの設計	190
レコード選択の指定	204
印刷出力仕様の定義	208
マッピング・オブジェクト名の指定	212
2= PFD 定義の変更	218
3= PFD 定義のコピー	219
4= PFD 定義の削除	221
6= PFD 定義の印刷	222
7= PFD 定義の名前の変更	222
9= データベース・ファイルの印刷	222
第 11 章 PFD 定義ファイルの処理	223

プロンプト	226
オプション	228
欄	228
PFD 定義ファイル・リストの表示	229
PFD 定義ファイルのリストからの選択	229
1= PFD 定義ファイルの作成	231
2= PFD 定義ファイルの変更	233
3= PFD 定義ファイルのコピー	234
4= PFD 定義ファイルの削除	235
7= PFD 定義ファイルの名前の変更	236
8= PFD 定義ファイルの記述の表示	236
12= PFD 定義の処理	237

第 12 章 データベース・ファイル・メンバーの印刷 239

「PFD 定義の処理」画面からの印刷の開始	239
AFP ユーティリティーのメニュー画面による印刷の開始	245
PRTPFDDTA による印刷の開始	247

第 4 部 設計操作およびフォント 249

第 13 章 設計操作 251

要素タイプ	251
テキスト	251
線	251
枠	251
バーコード	251
ページ・セグメント	251
グラフィックス	252
レコード・レイアウト	252
設計画面での要素の定義	252
設計画面	253
画面ビューでの要素の定義	254
画面ビューでの要素操作	259
設計画面での機能キー	260
要素の定義または変更	268
既存の要素のコピー、移動、および除去	324
リスト・ビューでの要素の変更	328
リスト・ビューのレイアウト	329
要素の作成または変更	331
ソート要素リスト	332
コピー、移動、除去、または復元	332

第 14 章 フォントの処理 335

2= フォントの変更	338
5= フォントの表示	342
9= 初期フォントの設定	345

第 5 部 資源管理ユーティリティー 347

第 15 章 資源管理ユーティリティー (RMU) の紹介 349

iSeries ページ・セグメントへの変換	349
iSeries データベース・ファイルからページ・セグメントへの変換	349
PC 文書からページ・セグメントへの変換	350
オーバーレイの処理	351
オーバーレイのコピー	351

オーバーレイの削除	352
オーバーレイの名前の変更	352
オーバーレイの印刷	352
オーバーレイ記述の表示	352
オーバーレイ記述の変更	352
物理ファイル・メンバーへのオーバーレイの変換	352
ページ・セグメントの処理	352
ページ・セグメントのコピー	352
ページ・セグメントの削除	352
ページ・セグメントの名前の変更	353
ページ・セグメントの印刷	353
ページ・セグメント記述の表示	353
ページ・セグメント記述の変更	353
物理ファイル・メンバーへのページ・セグメントの変換	353
第 16 章 資源管理ユーティリティの開始	355
資源管理ユーティリティの開始	356
PC 文書のページ・セグメントへの変換	356
オーバーレイの印刷	359
ページ・セグメントの印刷	361
第 17 章 資源管理ユーティリティの開始および終了	365
資源管理ユーティリティの開始	365
STRAFPU コマンドによる資源管理ユーティリティの開始	366
CVTPCDPAGS コマンドによる資源管理の開始	367
CVTPFMPAGS コマンドによる資源管理ユーティリティの開始	368
CVTOVLPFM コマンドによる資源管理ユーティリティの開始	370
CVTPAGSPFM コマンドによる資源管理ユーティリティの開始	371
資源管理ユーティリティの終了	372
第 18 章 ページ・セグメントへの変換機能	373
第 19 章 オーバーレイの処理機能	385
プロンプト	386
オプション	387
欄	388
3= オーバーレイ・オブジェクトのコピー	388
4= オーバーレイの削除	388
6= オーバーレイの印刷	389
7= オーバーレイの名前の変更	391
8= オーバーレイ記述の表示	391
9= 物理ファイル・メンバーへのオーバーレイの変換	391
13= オーバーレイ・テキストの変更	395
第 20 章 ページ・セグメントの処理機能	397
プロンプト	398
オプション	400
欄	401
3= ページ・セグメントのコピー	401
4= ページ・セグメントの削除	402
6= ページ・セグメントの印刷	403
7= ページ・セグメントの名前の変更	404
8= ページ・セグメント記述の表示	405
9= 物理ファイル・メンバーへのページ・セグメントの変換	405
13= ページ・セグメント・テキストの変更	408

第 6 部 参照	409
第 21 章 AFP Utilities for iSeries 用のコマンド	411
STRAFPU (AFP Utilities for iSeries 開始) コマンド	411
STROVLU (オーバーレイ・ユーティリティー開始) コマンド	411
STRPFU (印刷形式ユーティリティー開始) コマンド	415
PRTPFDDTA (PFD データ印刷) コマンド	418
CVTPCDPAGS (PC 文書をページ・セグメントへ変換) コマンド	423
CVTFMPAGS (物理ファイル・メンバーをページ・セグメントへ変換) コマンド	429
CVTOVLPFM (オーバーレイを物理ファイル・メンバーへ変換) コマンド	435
CVTPAGSPFM (ページ・セグメントを物理ファイル・メンバーへ変換) コマンド	439
第 22 章 制限事項および制約事項	443
オーバーレイ・ユーティリティー	443
制限事項	443
制約事項	444
印刷形式ユーティリティー	447
制限事項	447
制約事項	448
資源管理ユーティリティー	450
制限事項	450
制約事項	450
ソース・オーバーレイおよび PFD 定義の送信	451
第 23 章 問題の分析	453
問題分析の手順の使用法	453
問題の識別	453
0100: 問題分析の手順	453
共通の徴候および推定原因	458
センス・コードおよび考えられる原因	462
IBM サービス技術員に連絡する場合	464
要素タイプと位置	465
テキスト要素と位置	465
線要素と位置	466
枠要素と位置	468
バーコード要素と位置	470
ページ・セグメント要素と位置	471
レコード・レイアウト要素と位置	471
グラフィックス要素および位置	472
付録 A. 印刷装置の特性	475
サポートされる印刷装置	475
印刷可能域	475
印刷装置記憶域に関する制限事項	475
付録 B. 枠内の回転、様式、および陰影パターン	477
様式、テキストの挿入、および回転	477
様式	477
テキストの挿入	478
回転の角度	478
枠内の陰影パターン	493
付録 C. グラフィックスの回転	495
付録 D. AFP ユーティリティーでの GDF の使用	497

付録 E. 作業の実行方法	501
この章の利用法	501
ソース・オーバーレイ関連の作業	501
ソース・オーバーレイ・ファイル関連の作業	502
PFD 定義関連の作業	503
PFD 定義ファイル関連の作業	503
オーバーレイ・オブジェクト関連の作業	504
ページ・セグメント関連の作業	505
設計画面の画面ビュー関連の作業	506
要素の定義	506
既存の要素の処理	507
画面のビューの変更	508
設計画面のリスト・ビュー関連の作業	508
要素の定義	508
既存の要素の処理	509
各要素関連の作業	509
テキスト要素	509
線要素	510
枠要素	511
バーコード要素	511
グラフィック要素	512
ページ・セグメント要素	512
レコード・レイアウト要素	513
データベース・ファイルの選択関連の作業	513
レコードの選択関連の作業	513
オーバーレイ仕様関連および PFD 仕様関連の作業	514
フォント関連の作業	515
印刷出力仕様関連の作業	515
マッピング・オブジェクト関連の作業	516
切れ目フィールド関連の作業	516
付録 F. 他のシステムへの可搬性	517
制約事項	517
IPDS タワー	517
PT2 タワー (下線および重ね打ち)	518
フォント	518
ページ・セグメント	519
PSF (印刷サービス機能)	519
付録 G. オーバーレイのサンプルおよび PFD 定義のサンプル	521
オーバーレイのサンプル	521
DMAS 用紙	521
MAPICS/DB 用紙	522
PFD 定義のサンプル	522
AIAG (AUTOMOTIVE INDUSTRY ACTION GROUP) ラベル	523
EIA (米国電子工業会) ラベル	523
AFP ユーティリティ解説 PFD 定義	524
付録 H. コード 128 の文字セット	525
付録 I. フォントのサンプル	527
Times New Roman Medium	527
Helvetica Roman Bold	528
Courier	528
用語集	529

索引 541

表

1. AFP 資源と AFP Utilities for iSeries の関係	14
2. AFP ユーティリティーの機能キーの要約	20
3. ソース・オーバーレイの処理プロンプト	68
4. ソース・オーバーレイの処理オプション	70
5. ソース・オーバーレイの処理欄	72
6. メッセージの原因とその結果	81
7. 「要素の削除の確認」画面のフィールド	82
8. 「ソース・オーバーレイの保管」画面のフィールド	85
9. 「ソース・オーバーレイのコピー」画面のフィールド	89
10. 「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面のフィールド	96
11. ソース・オーバーレイ・ファイルの処理プロンプト	98
12. ソース・オーバーレイ・ファイルの処理オプション	99
13. ソース・オーバーレイ・ファイルの処理欄	100
14. 「ソース・オーバーレイ・ファイルの作成」画面のフィールド	102
15. 「ソース・オーバーレイ・ファイルの変更」画面のフィールド	104
16. 「ソース・オーバーレイ・ファイルのコピー」画面のフィールド	105
17. 「ソース・オーバーレイ・ファイルの確認」画面のフィールド	107
18. PFD 定義の処理プロンプト	160
19. PFD 定義の処理オプション	161
20. PFD 定義の処理欄	162
21. 「PFD 定義の作成」画面のフィールド	164
22. 「PFD 仕様の定義」画面のフィールド	168
23. メッセージの原因とその結果	173
24. 「レコード・レイアウト要素の削除の確認」画面のフィールド	174
25. 「ページ・レイアウト要素の削除の確認」画面のフィールド	175
26. 「データベース・ファイルの指定」画面のフィールド	177
27. 「データベース・ファイルの選択」画面のフィールド	179
28. 「レコード様式の選択」画面のフィールド	180
29. 「切れ目フィールドの指定」画面のフィールド	181
30. 予約済み変数名	185
31. 固定データ要素	186
32. 「レコード・レイアウトの挿入」画面のフィールド	196
33. 合計データ・ストリング	202
34. 「レコード選択の指定」画面のフィールド	205
35. 「マッピング・ページ・セグメント名」画面のフィールド	214
36. 「PFD 定義の終了」画面のフィールド	215
37. 「PFD 定義の保管」画面のフィールド	216
38. 「PFD 定義のコピー」画面のフィールド	219
39. 「PFD 定義の削除の確認」画面のフィールド	221
40. 「PFD 定義ファイルの処理」画面のフィールド	224
41. 「PFD 定義ファイルの処理」のプロンプト	226
42. 「PFD 定義ファイルの処理」のオプション	228
43. 「PFD 定義ファイルの処理」の欄	228
44. 「PFD 定義ファイルの変更」画面のフィールド	233
45. 「PFD 定義ファイルのコピー」画面のフィールド	234
46. 「PFD 定義ファイルの削除の確認」画面のフィールド	236
47. 「データベース・ファイル・メンバーの印刷」画面のフィールド	241
48. 「データベース・ファイル・メンバーの選択」画面のフィールド	244
49. 「オーバーレイの設計」画面の表示フィールド	255
50. スクロール操作の機能キー	258

51.	スクロール操作の制御フィールドのコマンド	258
52.	設計画面でのすべての操作の共通機能キー	260
53.	設計画面での基本操作の機能キー	262
54.	設計画面での定義または変更操作の機能キー	263
55.	設計画面での挿入操作の機能キー	263
56.	設計画面での編集操作の機能キー	264
57.	設計画面で終了位置を指定するための機能キー	264
58.	様式設定例	293
59.	POSTNET タイプ	305
60.	「ページ・セグメントの選択」画面のフィールド	311
61.	レコード様式のフィールドの選択 (グラフィックス)	318
62.	「ソース・オーバーレイ・フォントの処理」画面のフィールド	337
63.	「ソース・オーバーレイの変更」画面のフィールド	338
64.	「PFD 定義フォントの変更」画面のフィールド	340
65.	「ソース・オーバーレイの変更」画面のフィールド	341
66.	「PFD 定義フォントの表示」画面のフィールド	343
67.	「ソース・オーバーレイ・フォントの表示」画面のフィールド	345
68.	「ページ・セグメントへの変換」画面のフィールド	379
69.	オーバーレイの処理機能プロンプト	386
70.	オーバーレイの処理機能オプション	387
71.	オーバーレイの処理機能欄	388
72.	「オーバーレイの削除の確認」画面のフィールド	389
73.	「オーバーレイの印刷」画面のフィールド	390
74.	「オーバーレイのファイルへの変換」画面のフィールド	393
75.	ページ・セグメントの処理機能プロンプト	398
76.	ページ・セグメントの処理機能オプション	400
77.	ページ・セグメントの処理機能欄	401
78.	「ページ・セグメントの削除の確認」画面のフィールド	402
79.	「ページ・セグメントの印刷」画面のフィールド	404
80.	「ファイルへのページ・セグメントの変換」画面のフィールド	406
81.	オーバーレイ・ユーティリティーの下限値および上限値の制限事項	443
82.	印刷形式ユーティリティーの下限値および上限値の制限事項	447
83.	共通の徴候および推定原因	459
84.	センス・バイトおよび考えられる原因	462
85.	回転の角度および回転の様式	478
86.	S/390、iSeries システムで生成した GDF オーダー、および AFP ユーティリティーがサポートする GDF オーダー	498
87.	ソース・オーバーレイ関連の作業	501
88.	ソース・オーバーレイ・ファイル関連の作業	502
89.	PFD 定義関連の作業	503
90.	PFD 定義ファイル関連の作業	503
91.	オーバーレイ・オブジェクト関連の作業	504
92.	ページ・セグメント関連の作業	505
93.	設計画面の画面ビューで要素の定義	506
94.	設計画面の画面ビューで既存の要素の処理	507
95.	設計画面の画面ビューで画面のビューの変更	508
96.	設計画面のリスト・ビューで要素の定義	508
97.	設計画面のリスト・ビューで既存の要素の処理	509
98.	テキスト要素関連の作業	509
99.	テキスト要素関連の作業	510
100.	線要素関連の作業	510
101.	枠要素関連の作業	511
102.	バーコード要素関連の作業	511
103.	グラフィックス要素関連の作業	512
104.	ページ・セグメント要素関連の作業	512
105.	レコード・レイアウト要素関連の作業	513

106. オーバーレイ仕様関連および PFD 仕様関連の作業	514
107. フォント関連の作業	515
108. 印刷出力仕様関連の作業	515
109. マッピング・オブジェクト関連の作業	516
110. 切れ目フィールド関連の作業	516
111. IPDS データ・タイプのタワー	517
112. コード 128 の文字セット	525



1.	従来の書簡の作成方法	5
2.	AFP ユーティリティーを使用した書簡の作成	6
3.	オーバーレイの使用	7
4.	ページ・セグメントの使用	8
5.	オーバーレイの例 (オーバーレイ・ユーティリティーにより作成)	10
6.	ラベルの例 (印刷形式ユーティリティーにより作成)	11
7.	印刷例 (ラベル)	12
8.	ライブラリー内のメンバーとファイル	16
9.	IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries のメニュー	17
10.	「ソース・オーバーレイの処理」画面のプロンプトと欄	18
11.	設計画面	19
12.	オーバーレイの例	26
13.	オーバーレイ・ユーティリティー操作の概要	28
14.	オーバーレイの例	38
15.	レコード・レイアウト例	113
16.	ページ・レイアウト例	114
17.	印刷出力ユーティリティー操作の概要	117
18.	ラベルの例	125
19.	位置を決めてトリムするマッピング	187
20.	ページ・レイアウトの中でのレコードの位置および間隔	324
21.	ページ・セグメントへの変換プロセス	350
22.	ページ・セグメントを含む書簡	351
23.	位置を決めてトリムするマッピングの例	381
24.	合わせて位取りのマッピングの例	381
25.	中央をそろえてトリムのマッピングの例	382
26.	イメージ・ブロックの回転例	383
27.	STROVLU コマンドのコマンド構文	412
28.	STRPFU コマンドのコマンド構文	415
29.	PRTPFDDTA コマンドのコマンド構文	418
30.	CVTPCDPAGS コマンドのコマンド構文	424
31.	CVTPFMPAGS コマンドのコマンド構文	430
32.	CVTOVLPFM コマンドのコマンド構文	436
33.	CVTPAGSPFM コマンドのコマンド構文	439
34.	印刷例 - 1	479
35.	印刷例 - 2	480
36.	印刷例 - 3	481
37.	印刷例 - 4	482
38.	印刷例 - 5	483
39.	印刷例 - 6	484
40.	印刷例 - 7	485
41.	印刷例 - 8	486
42.	印刷例 - 9	487
43.	印刷例 - 10	488
44.	印刷例 - 11	489
45.	印刷例 - 12	490
46.	印刷例 - 13	491
47.	印刷例 - 14	492
48.	印刷例 - 15	493
49.	陰影パターン	494
50.	グラフィックスの回転	495

51.	Times New Roman Medium	527
52.	Helvetica Roman Bold	528
53.	Courier フォントのサンプル.	528

特記事項

本書において、日本では発表されていない IBM 製品 (機械およびプログラム)、プログラミング、またはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのような IBM 製品、プログラミング、またはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBM ライセンス・プログラムまたは他の IBM 製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品またはサービスを使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検証はお客様の責任で行っていただきます。使用許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木 3 丁目 2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation,
Printing Systems Company Legal Department,
Mail Drop 001W, Boulder, Colorado
80301 USA.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

商標

アスタリスク (*) 付きの以下の用語は、IBM Corporation の商標です。

Advanced Function Presentation	OS/2
Advanced Function Printing	OS/400
AFP	Personal Computer AT
Application System/400	Personal System/2
AS/400	Print Services Facility
BCOCA	PSF
GDDM	System/370
IBM	400
IPDS	iSeries
MAPICS	

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries について

Advanced Function Printing Utilities for iSeries (AFP/U) バージョン 5 リリース 2 は、iSeries 上の高機能印刷 (AFP) のアプリケーションをサポートする、3 つの統合モジュールから構成されるライセンス・プログラムです。本書では、AFP Utilities for iSeries の使い方について説明します。本書は、詳細な参照情報に加えて、豊富な例を記載しています。

本書は次に挙げる部から成り立っています。

- **IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries の紹介**では、AFP Utilities for iSeries の概念を紹介し、概要を記載しています。
- **オーバーレイ・ユーティリティー**では、オーバーレイ・ユーティリティーの詳細を説明して、実際の演習によるオーバーレイ・ユーティリティーの使用法の習得に役立っています。
- **印刷形式ユーティリティー**では、印刷形式ユーティリティーの詳細、および実践演習による印刷形式ユーティリティーの使用法の習得について説明します。
- **設計操作およびフォント**では、オーバーレイ、レコード・レイアウト、およびページ・レイアウト内の要素の設計に関して詳細に説明します。さらに、オーバーレイ・ユーティリティーおよび印刷形式ユーティリティーに使用できるフォントについても詳細を説明します。
- **資源管理ユーティリティー**では、資源管理ユーティリティーの詳細、および実践演習による資源管理ユーティリティーの使用法の習得について説明します。
- **参照**では、AFP Utilities for iSeries コマンド、および AFP Utilities for iSeries プログラムの制限事項と制約事項について説明し、問題分析情報を提供します。

「...の開始」の章に記載されている演習を実践すると、AFP Utilities for iSeries に早く慣れることができます。演習が終わったあとは、詳細情報を参照することによって、さらに複雑な作業を行うことができるようになります。iSeries 上の AFP アプリケーションを学習する最善の資料は、*iSeries Guide to Advanced Function Presentation and Print Services Facility*, S544-5319 です。

次に挙げる iSeries の資料には、必要になる情報が記載されています。

CL Reference, SC41-4722 には、CL コマンドに関する情報が記載されています。

Printer Device Programming, SC41-4713 には、iSeries システム上での印刷の仕方について記載されています。

Advanced Function Presentation: Printer Information, S544-3290 には、AFP 印刷装置とその特性、および常駐のフォントについて説明しています。

IBM Printing Systems: Printer Information, S544-5750 には、IBM 印刷システムの印刷装置とその特性、および常駐のフォントについての概要が記載されています。

他の iSeries の関連資料については、以下のいずれかを参照してください。

- iSeries ソフトコピー・ライブラリー内の *Publications Reference*、SC41-4003。
- *AS/400 Information Directory*。IBM または他の出版社から入手できる資料の表題の記述が入った検索可能なデータベースに対する固有のマルチメディア・インターフェースです。 *AS/400 Information Directory* は、システムに無料で添付されています。

本書の対象読者

本書は、システム管理者、システム・プログラマー、および iSeries システムを使用されるすべての方々などの iSeries ユーザーを対象として書かれています。

本書を使用するには、前提条件として、iSeries システムを使用するための入門書の内容を理解する必要があります。AFP ユーティリティーを使用するにあたり、高水準プログラミング言語の使い方は知らなくてもかまいません。

第 1 部 IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries の紹介

第 1 章 IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries の概要	3
AFP Utilities for iSeries を使用してできること	5
オーバーレイの使用	7
イメージの使用	8
バーコードの使用	8
グラフィックスの使用	8
オーバーレイ・ユーティリティー	9
印刷形式ユーティリティー	11
資源管理ユーティリティー	13
AFP 資源および AFP Utilities for iSeries	14
AFP Utilities for iSeries の使用に関する要件	14
ハードウェア要件	14
ソフトウェア要件	15
AFP ユーティリティーの基本 (概念)	15
ライブラリー、ファイル、およびメンバー	15
要素	16
AFP Utilities for iSeries の画面	16
メニュー画面	16
処理画面	17
設計画面	18
機能キー	19
関連オンライン情報	21
画面のヘルプ	21
InfoSeeker	21
制御言語コマンドのヘルプ	21

第 1 章 IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries の概要

Advanced Function Printing Utilities for iSeries (AFP/U) バージョン 4 リリース 2 は、iSeries 上の高機能印刷 (AFP) のアプリケーションをサポートする、3 つの統合ユーティリティから構成されるライセンス・プログラムです。これらのユーティリティを使用すると、電子書式 (オーバーレイ) の作成と管理、イメージ資源の作成と管理、ならびにサーバー・データベース・ファイルからの AFP アプリケーションの作成が可能になります。次に 3 つの AFP ユーティリティを示します。

オーバーレイ・ユーティリティ。サーバー上で直接電子書式を作成し、iSeries AFP アプリケーションで使用することができます。オーバーレイ・ユーティリティは、iSeries 端末で稼働し、対話式的设计インターフェースになります。オーバーレイ・ユーティリティには、次の機能があります。

- iSeries 端末から AFP 電子書式を作成する。
- テキスト、線、枠、陰影付け、バーコード、グラフィックス、およびページ・セグメントを、オーバーレイ・ページ上の任意の場所に挿入する。
- ダウンロード可能フォント (iSeries 常駐の) か印刷装置常駐フォントのいずれかを用いて、テキストを様々な幅のフォントで表現する。
- テキストを、1 バイト文字セット (SBCS) か 2 バイト文字セット (DBCS) のいずれかで表現する。
- テキストを、4 つの方向 (左右、下、後ろ、上) と 3 つの形式 (水平、垂直、および垂直の右から左) で表現する。
- 線の種類 (実線、破線、または点線) と線の厚みの制御によって、水平線と縦線を定義する。
- 枠の種類 (実線、破線、または点線) と陰影付けの制御によって、枠を定義する。
- サイジング、可読情報、および方向の制御によって、14 種類の標準バーコード記号の使い方を定義する。以下のバーコードがサポートされています。
 - 3-of-9 code, MHI/AIM US-3
 - Interleave 2-of-5
 - MSI Plessey
 - Industrial 2-of-5
 - Codabar
 - UPC-A
 - UPC-E
 - EAN-8
 - EAN-13
 - Matrix 2-of-5
 - POSTNET
 - Code128

- 日本郵政省

- Royal Mail

- オーバーレイ、ページ・セグメント、およびグラフィック要素を、行/桁もしくは直接オフセットにより、インチまたはセンチメートルで位置付けする。

資源管理ユーティリティ。 オーバーレイおよびページ・セグメント (イメージ) 資源を完全に管理します。クライアント・ワークステーションで走査されるイメージは、処理、サイズ変更、回転、作成、および印刷を行うことができます。資源管理ユーティリティには、次の機能があります。

- 印刷オプションおよびビュー・オプションを含む、オーバーレイおよびオーバーレイ・ソース・ファイルを管理する。
- サイジング・オプションおよび回転オプションにより、走査イメージ・ファイルからページ・セグメントを作成する。
- 印刷サポートなど、ページ・セグメントを管理する。
- オーバーレイおよびページ・セグメントをファイル形式に変換して、クライアント・ワークステーションのアプリケーションで使用する。

印刷形式ユーティリティ。 データベース・ファイルから直接 AFP 印刷アプリケーションを作成するための、対話式方式を提供します。印刷形式ユーティリティは、照会プログラム (QUERY) iSeries 用に類似していますが、報告書ではなく、AFP 出力の作成用に設計されています。印刷形式ユーティリティを使用すると、データベース主導の変動データを、オーバーレイ、イメージ、バーコード、フォント、その他の文書要素に結び付ける、複雑な文書アプリケーションを作成することができます。印刷形式ユーティリティには、次の機能があります。

- オーバーレイ・ユーティリティがサポートする、テキスト、枠、線、バーコード、グラフィックス、およびイメージ機能のすべて。
- レコード・レイアウトおよびページ・レイアウトを設計する機能。
- データベース・ファイルからレコードを選択する。
- データベース・フィールドをレコード・レイアウト内の任意の場所に配置する。
- 可変ページ・セグメント (イメージ) およびグラフィックスをレコード・レイアウト内に配置する。
- レコード・レイアウトをページ全体およびページの下に複製する。
- 各ページに加えるオーバーレイを選択する。
- データベース・ファイル内の選択したフィールドの制御の切れ目を指定する。

AFP Utilities for iSeries は上記の AFP* 機能をサーバー上で対話方式を用いて提供します。メニュー画面でオプションを選択するか、または選択項目を入力するだけで作業を行うことができます。

この章では、下記の事項について説明します。

- AFP Utilities for iSeries を使用してできること
- AFP Utilities for iSeries の機能
- AFP Utilities for iSeries の使用に関する要件

AFP Utilities for iSeries を使用してできること

AFP Utilities for iSeries を使用すると、ビジネス・レターなどの文書を 1 ステップで印刷することができます。従来の印刷方式によると、レターヘッド付き用紙を印刷装置にセットし、書簡の内容を印刷してから、手でその書簡に署名しなければなりません。

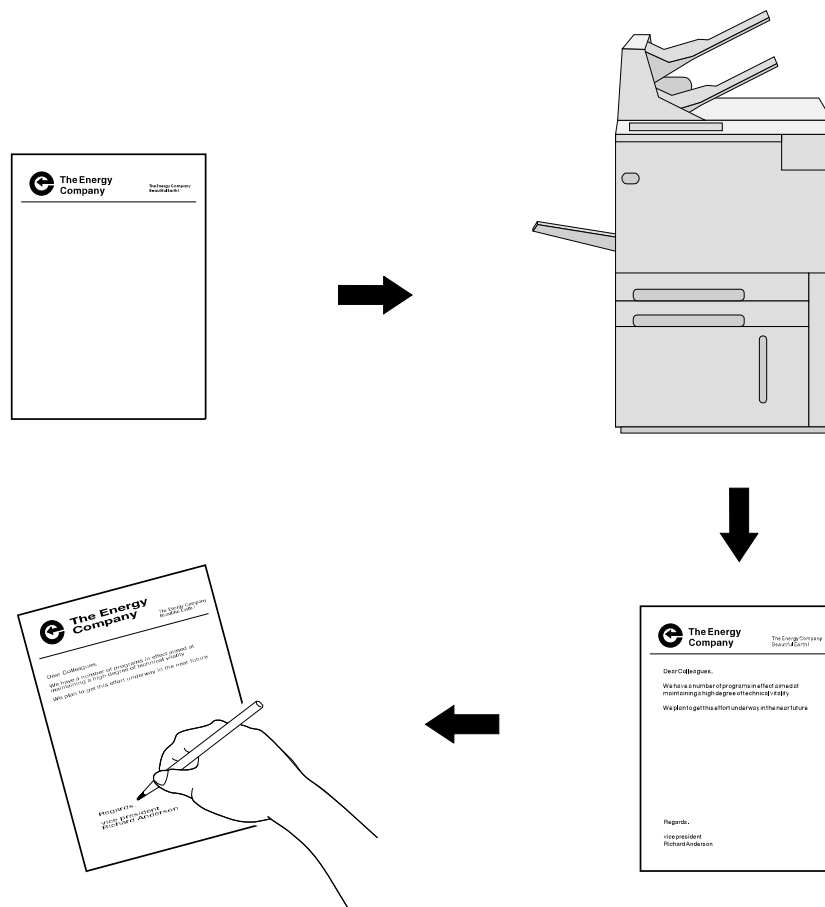


図 1. 従来の書簡の作成方法

AFP Utilities for iSeries を使用すれば、レターヘッドおよび署名を電子的に保管し、すでに IPDS 印刷装置にセットされている無地の用紙にレターヘッド、テキスト、および署名をすべて同時に印刷することができます。さらに、折れ線グラフまたは棒グラフなどのグラフィックスを書簡に組み込んで、複合文書を作成することもできます。

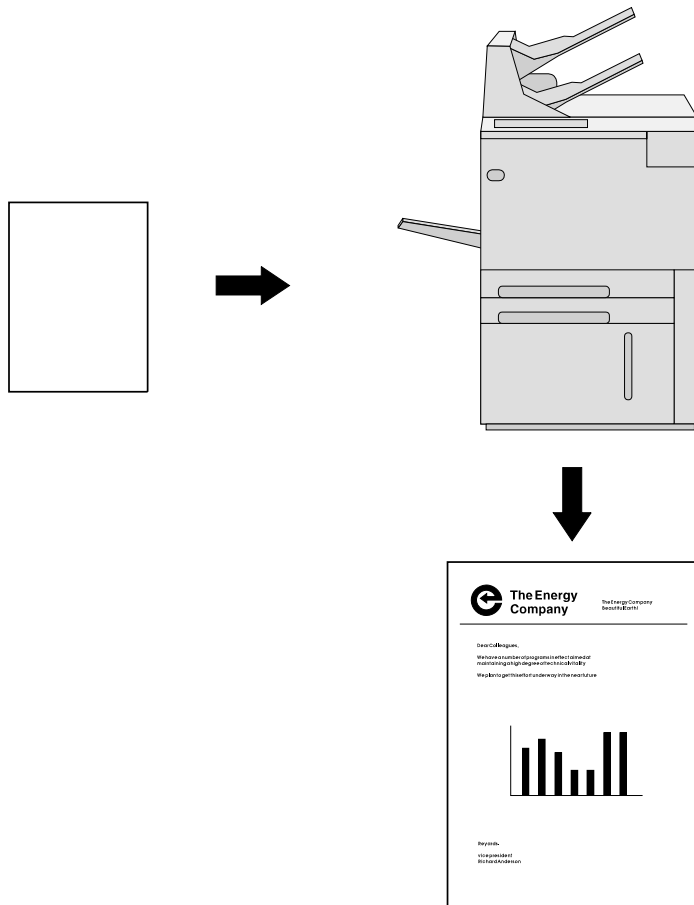


図2. AFP ユーティリティーを使用した書簡の作成

AFP ユーティリティーによって、柔軟な印刷が可能になります。たとえば、AFP ユーティリティーを使用すると、次のことを行うことができます。

- ある一連の項目だけをテキストの他の部分とは異なる書体で印刷することによって、それらを強調表示する。
- レターヘッドとテキストを別々のフォントで印刷する。

レターヘッドを電子的に保管して、それを常に同じ書体で印刷することができます。この印刷概念については、「オーバーレイの使用」で説明します。

オーバーレイの使用

オーバーレイとは、テキスト、グラフィックス、イメージ、およびバーコードの構造が保管され、印刷に必要な指示をすべて備えています。オーバーレイは複雑な構成になっている場合が少なくありません。オーバーレイは、常に保管されたときと同じ様式で印刷され、ページ上の任意の位置に印刷することができます。

オーバーレイは、次の図で示すようなレターヘッドと書式の場合に役に立ちます。

電子的に保管されているフォーム・オーバーレイ

可変ページ・データ

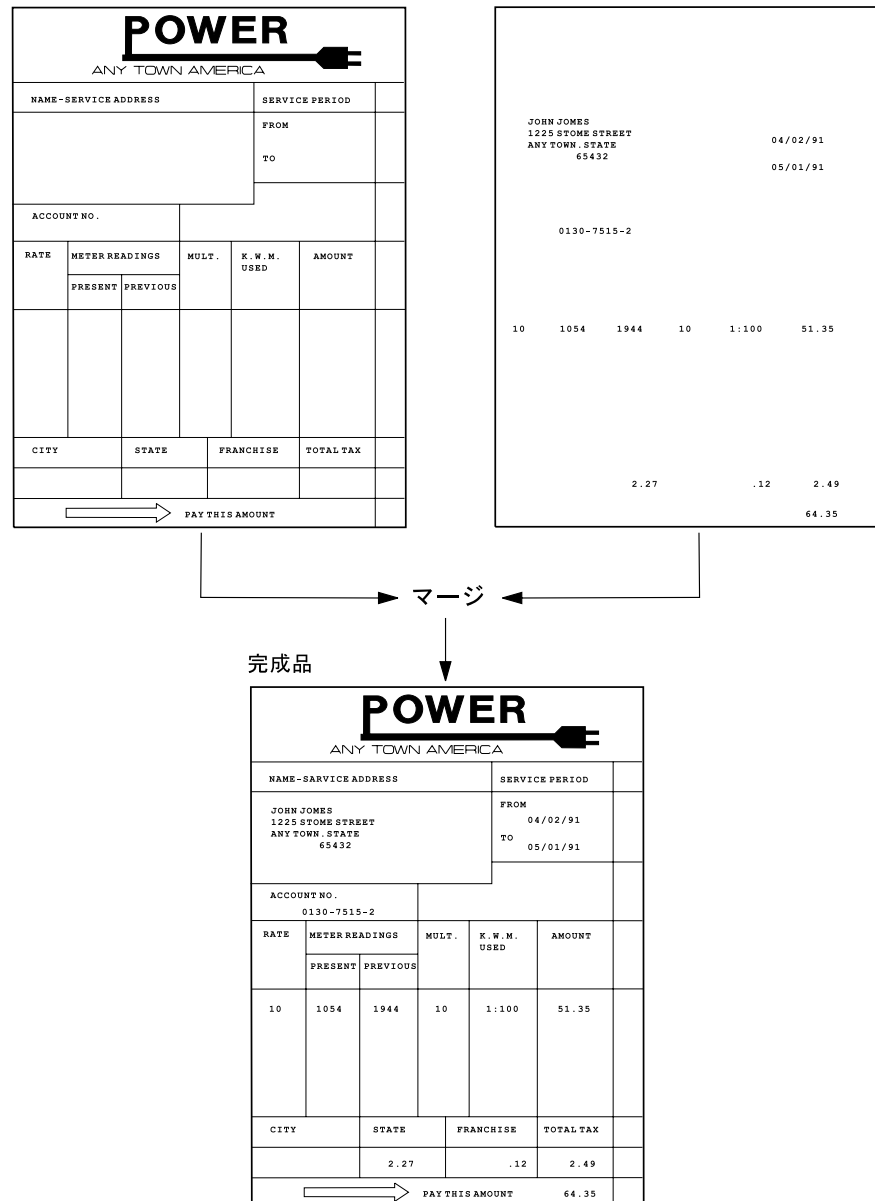


図3. オーバーレイの使用

イメージの使用

ページ上の任意の位置にイメージを挿入することができます。

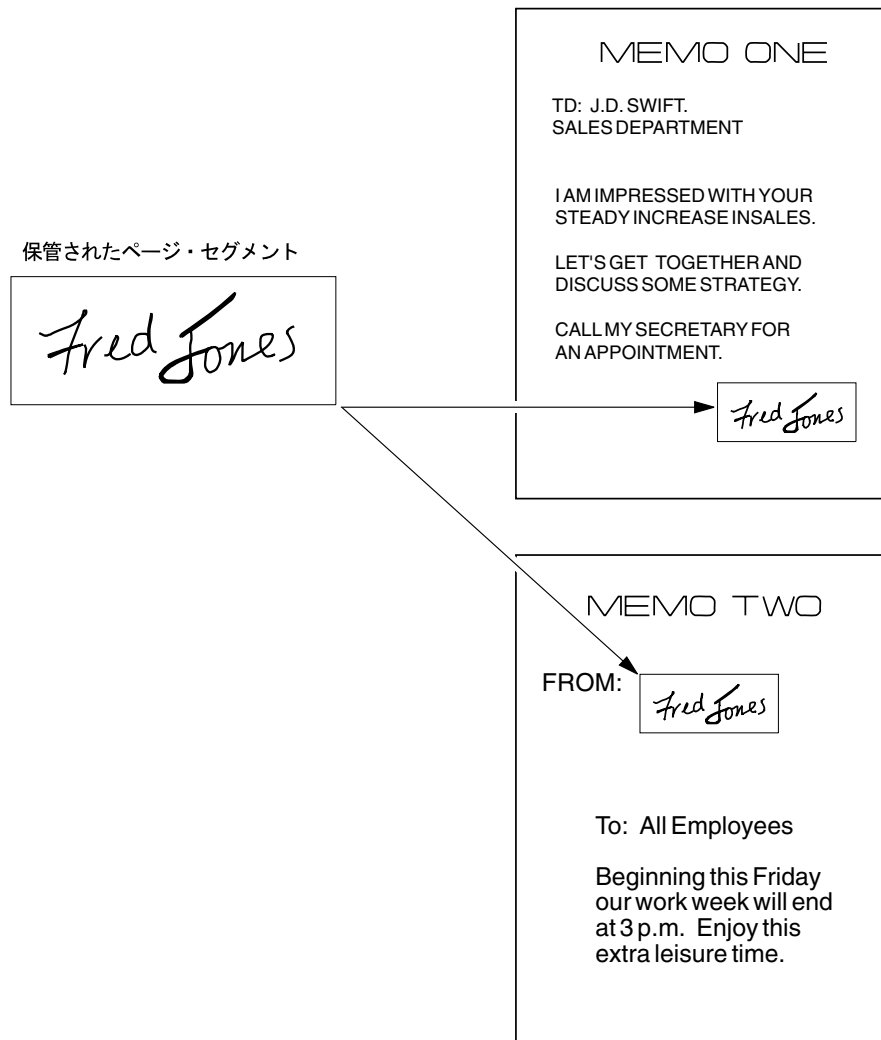


図4. ページ・セグメントの使用

バーコードの使用

バーコード・データは、エンコードされた情報で、光学式走査装置によって認識されるものです。AFP Utilities for iSeries では、様々な種類のバーコードを任意のサイズで、しかも可読文字 (HRI) を付けたり、付けなかったりなど、豊富なバリエーションで印刷することができます。

グラフィックスの使用

AFP Utilities for iSeries には、グラフィック・データ・ファイル (GDF) を組み込むことができます。GDF は、OS/400 グラフィックスまたはシステム/390* 上の GDDM* で作成することができます。詳細については、497 ページの『付録 D. AFP ユーティリティでの GDF の使用』を参照してください。

オーバーレイ・ユーティリティー

オーバーレイ・ユーティリティーでは、オーバーレイ (電子書式) を作成することができます。オーバーレイは、一度作成すると、iSeries 印刷装置ファイル・サポート、高水準言語 (HLL) アプリケーション・プログラムに結び付いたデータ記述仕様 (DDS)、拡張印刷ユーティリティー、iSeries ページおよび用紙定義、AFP Toolbox、印刷形式ユーティリティー、および他の AFP 文書使用可能化アプリケーションを用いて、出力の各ページに挿入することができます。図 3 で、オーバーレイとデータの組み合わせ方法を示します。

以下のことを行うことができます。

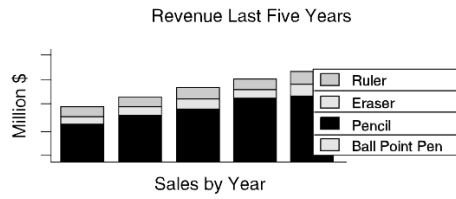
- 表示画面上で対話式にオーバーレイを設計する。
オーバーレイには、各種のフォントのテキスト、線、枠、イメージ、バーコードおよびグラフィックスを入れることができます。
- 設計したオーバーレイのソース・データ (ソース・オーバーレイ) をファイルに保管する。
- 以前にファイルに保管しておいたソース・オーバーレイを変更する。
- ソース・オーバーレイからオーバーレイ・オブジェクトを作成する。
- 指定のライブラリーの中に作成されているオーバーレイ・オブジェクトを印刷する。

図 5 で、オーバーレイの例を示します。



Standard Stationery Sales Slip Date: / /

Item	Quantity	Unit Price	Amount (\$)
Ball Point Pen			
Pencil			
Eraser			
Ruler			
Total			



Form No. 5A-3323-01



図5. オーバーレイの例 (オーバーレイ・ユーティリティーにより作成)

印刷形式ユーティリティー

印刷形式ユーティリティーでは、AFP 出力アプリケーションを、データベース・ファイルから直接開発することができます。印刷形式ユーティリティーを使用すると、次のことを行うことができます。

- オーバーレイ・ユーティリティーの場合と同じ要領で所要のレコードのレイアウトを対話式に設計する。

データベース・ファイル・メンバーのデータのほかに、印刷するテキスト、線、枠、イメージ、バーコード、グラフィックスが入っている見出し、枠、ロゴを定義することができます。

図 6 で、印刷形式ユーティリティーを使用して、データベース・ファイル内のレコードから作成できるラベルの例を示します。



図 6. ラベルの例 (印刷形式ユーティリティーにより作成)

- オーバーレイ・ユーティリティーの場合と同じ要領で、ページ・レイアウトを対話式に設計する。

印刷すべきテキスト、線、枠、イメージ、バーコードおよびテキストが入っている見出し、枠、あるいはロゴを定義することができます。

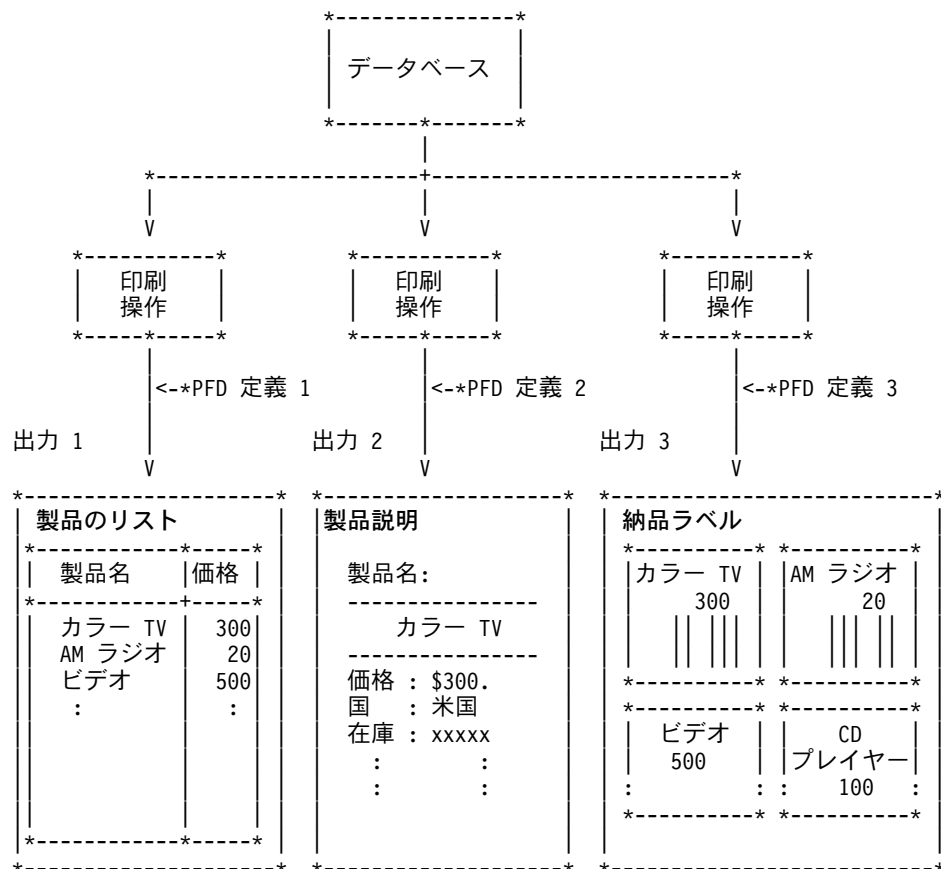
- レコード・レイアウトおよびページ・レイアウトを、印刷出力形式定義としてファイルに保管する。
- 印刷出力形式定義に従ってデータベース・ファイル・メンバーを印刷する。
- 片面複数ページ印刷ラベル・アプリケーションの場合のように、レコード・レイアウトをページ全体およびページの下に複製する。

図 7 で、印刷形式ユーティリティーを使用して作成することができるラベルの印刷例を示します。



図 7. 印刷例 (ラベル)

1 つのデータベース・ファイル・メンバーから様々な種類の出力を作成することができます。たとえば、異なる印刷出力形式定義を用いることで、1 つのデータベース・ファイル・メンバーから、以下のような製品のリスト、製品説明、あるいは納品ラベルでさえも印刷することができます。



資源管理ユーティリティー

オーバーレイ・ユーティリティーおよび印刷形式ユーティリティー (もしくは AFP アプリケーション) が使用するイメージは、ページ・セグメントとして保管されます。これらのイメージは、通常は走査されて、クライアント・ワークステーション内に収められます。資源管理ユーティリティーは、以下の操作を行うための対話式ツールです。

- イメージをページ・セグメントに変換する。
- ページ・セグメントを物理ファイルに変換する。
- オーバーレイ・オブジェクトを物理ファイルに変換する。
- イメージを作成しながら、サイズ変更と回転を行う。

さらに、このユーティリティーは、ページ・セグメントまたはオーバーレイ・オブジェクトなどの AFP 資源オブジェクトの保守も行います。

以下のことを行うことができます。

- ページ・セグメントを物理ファイル・メンバーから作成する。
- ページ・セグメントを PC 文書から作成する。
- ページ・セグメントまたはオーバーレイを物理ファイル・メンバーに変換する。
(その後、これらの AFP 資源オブジェクトを、システム/370 などの他のシステムへ転送することができます。)

- オーバーレイ・オブジェクトのコピー、削除、名前の変更、および印刷、またはオーバーレイ・オブジェクト記述の表示および変更を行う。
- ページ・セグメントのコピー、削除、名前の変更、および印刷、またはページ・セグメント記述の表示および変更を行う。

AFP 資源および AFP Utilities for iSeries

AFP 資源には 5 種類あります。次の表は、AFP 資源と AFP Utilities for iSeries との関係を示しています。

表 1. AFP 資源と AFP Utilities for iSeries の関係

AFP 資源	iSeries オブジェクト・ タイプ	AFP ユーティリティとの関係
オーバーレイ	*OVL	記述の作成、変更 ¹ 、コピー、削除、印刷、名前の変更、表示および変更、ならびに物理ファイルへの変換を行う。
ページ・セグメント	*PAGESEG	記述の作成 ² 、コピー、削除、印刷、名前の変更、表示、および変更、ならびに物理ファイルへの変換を行う。
用紙定義	*FORMDF	データベース・ファイル・メンバーの印刷に、用紙定義 ³ 名または特殊値 *INLINE を指定することができます。
ページ定義 フォント	*PGDFN *FNTRSC	関係なし。 オーバーレイ・ユーティリティおよび印刷形式ユーティリティ内のテキストの印刷には、iSeries と印刷装置の両方に常駐するフォント資源が使用されます。

注:

- ¹ AFP Utilities for iSeries のソース・オーバーレイが使用されるという意味です。
- ² 物理ファイルまたは PC 文書が使用されるという意味です。
- ³ 用紙定義オプションは、データベース・ファイル・メンバーの印刷もしくは PFD 定義の印刷出力仕様の定義の際に指定することができます。

AFP Utilities for iSeries の使用に関する要件

AFP Utilities for iSeries を使用するには、下記のハードウェア製品およびソフトウェア製品が必要です。

ハードウェア要件

- 任意のモデルの iSeries。
- 画面サイズ 80 x 24 をサポートする任意の型式の 5250 表示端末または 5250 エミュレート・ワークステーション。
DBCS サポートの場合は、DBCS ディスプレイ・ワークステーションが必要です。
- 以下のいずれかの IPDS 印刷装置が必要です。

- 4224、4230、4234-12、4230-102、4247、6400、6404、6408、3130、3160、3812、3816、3930、3112、3116、4312、4317、3912、3916、1931、3935、および寒冷地用接続機構を付けた 4028
- SNA LU6.2 を付けた 3820 (SDLC 接続)
- SNA LU6.2 (パーソナル・コンピューター AT* またはパーソナル・システム/55* 上の遠隔印刷管理機能を介するトークンリング接続) の 3820、3825、3827、3829、3831、3835、および 3900

ソフトウェア要件

- OS/400 バージョン 4 リリース 2.0
- IPDS プリンターへの印刷用の、プリント・サービス機能 iSeries 用、バージョン 4 リリース 2.0 (5769-SS1)。 AFP/U により作成されたオーバーレイおよび AFP アプリケーションも、iSeries の統合印刷サブシステムである、ホスト・プリンター変換によって最初に変換されている場合は、HP-CL プリンターで印刷することができます。
- iSeries アクセスなどのプログラムを用いて、クライアント・ワークステーション上のイメージ・ファイルにアクセスするためのサポート。
- オーバーレイおよび印刷形式ユーティリティー・アプリケーションで必要とされる、iSeries 常駐 AFP フォント。使用可能なフォントは、240 ドット/インチ (DPI)、300 dpi であり、アウトライン・フォントは、AFP フォント・コレクション (5468-113) 付きで、共に SBCS (1 バイト文字セット) および DBCS (2 バイト文字セット) バージョンです。

AFP ユーティリティーの基本 (概念)

このセクションでは、AFP Utilities for iSeries で使用される概念および用語について説明します。

ライブラリー、ファイル、およびメンバー

情報およびデータは、様々な形式でシステム上に編成および保管されます。AFP Utilities for iSeries を使用するにあたり、システムにおけるライブラリー、ファイル、およびメンバー間の関係を理解する必要があります。ライブラリーは、ファイルおよびオブジェクトを保管するためのシステム上の場所です。ファイルには1つまたは複数のメンバーが入っています。ファイルが別のファイルにコピーされるとき、元のファイルにあるメンバーもすべて新しいファイルにコピーされます。ファイルが消去されるとき、元のファイルにあったメンバーもすべて消去されます。

図 8 は、ライブラリーの中のメンバーとファイルの関係を示したものです。

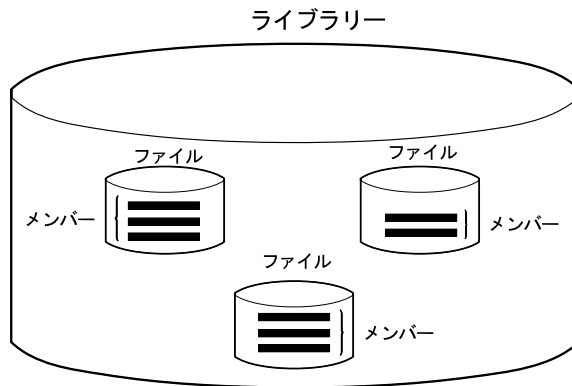


図8. ライブラリー内のメンバーとファイル

ソース・オーバーレイまたは印刷出力形式定義 (PFD 定義) などのようなメンバーを作成する時は、そのメンバーを保管するためのライブラリーおよびファイル (ソース・オーバーレイ・ファイルまたは PFD 定義ファイル) を前もって作成しておく必要があります。

要素

要素とは、ソース・オーバーレイおよび印刷出力形式定義で定義される、テキスト、行、枠、バーコード、ページ・セグメント、およびグラフィックスを指します。印刷出力形式定義のページ・レイアウトでは、レコードを要素として定義することができます。

ソース・オーバーレイおよび印刷出力形式定義における要素の定義の詳細については、251 ページの『第 13 章 設計操作』を参照してください。

AFP Utilities for iSeries の画面

AFP Utilities for iSeries の使用時には、数種類の画面が表示されます。

メニュー画面

STRAFPU コマンドを入力して、AFP Utilities for iSeries を開始すると、IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries のメニューが表示されます。このメニューからは、AFP Utilities for iSeries のどの機能も開始することができます。

図9. IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries のメニュー

AFP	IBM ADVANCED FUNCTION PRINTING UTILITIES
次の1つを選択してください。	
オーバーレイ・ユーティリティ	
1. ソース・オーバーレイの処理	
2. ソース・オーバーレイ・ファイルの処理	
印刷形式ユーティリティ	
11. PFD 定義の処理	
12. PFD 定義ファイルの処理	
13. データベース・ファイル・メンバーの印刷	
14. AFP ユーティリティの解説の印刷	
資源管理ユーティリティ	
21. ページ・セグメントへの変換	
22. オーバーレイの処理	
23. ページ・セグメントの処理	
選択項目またはコマンド	
====> _____	
F3= 終了 F4=プロンプト F9=コマンドの複写 F12= 取り消し F16=システム・メイン・メニュー	
(C) COPYRIGHT IBM CORP. 1991, 2001.	

処理画面

処理画面上のフィールドを示す場合、本書では 2 つの異なる用語を使用します。つまり、**プロンプト**と**欄**です。

プロンプト: プロンプトでは、画面上の情報に対する要求の応答を入力することができます。たとえば、「ソース・オーバーレイの処理」画面では、ファイル、ライブラリー、ソース・オーバーレイ、および位置指定のフィールドがプロンプトです。

プロンプトの右にリストは *F4* が表示されたら、カーソルをそのフィールドに置いて *F4* キーを押すと、リストを表示することができます。

欄: 欄は、リスト内のあるフィールドを定義する、情報の要求または情報の行です。たとえば、「ソース・オーバーレイの処理」画面では、*OPT*、ソース・オーバーレイ、テキスト、および変更フィールドが欄です。

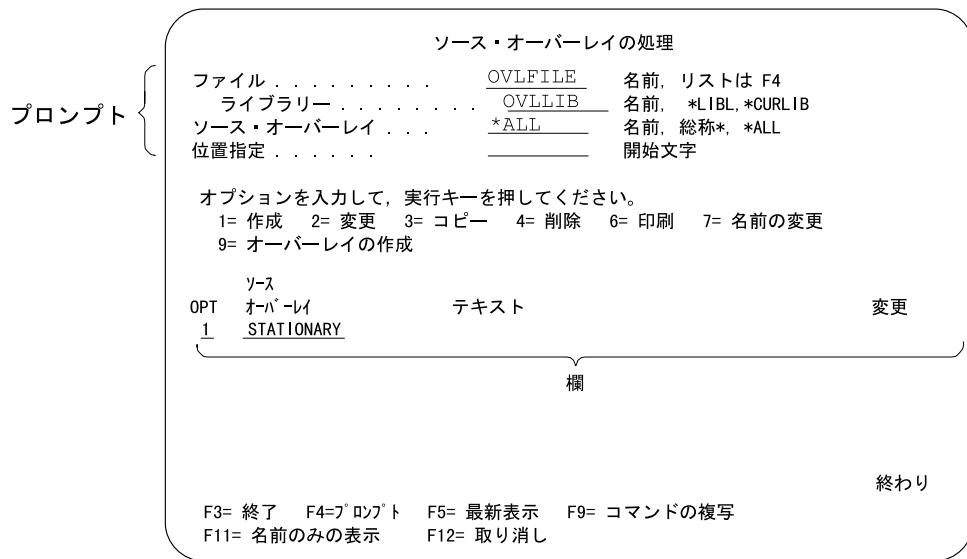


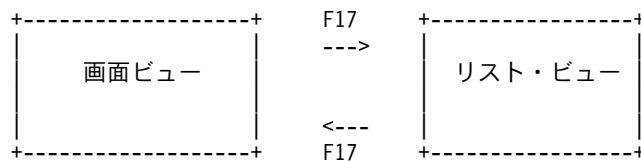
図 10. 「ソース・オーバーレイの処理」画面のプロンプトと欄

設計画面

下記の設計用の画面が使用できます。

- 「オーバーレイの設計」画面
- 「レコード・レイアウトの設計」画面
- 「ページ・レイアウトの設計」画面

設計画面には2つの視点 (ビュー) があります。1つは**画面ビュー**、もう1つは**リスト・ビュー**です。これらの視点間の切り替えは、F17 キーを押すことによって行うことができます。



画面ビュー: 画面ビューでは、おおよその印刷イメージが**イメージ域**と呼ばれる画面の上部に表示されます。画面上で作成されるおおよその印刷イメージを見ながら、オーバーレイ、レコード・レイアウト、およびページ・レイアウトを設計することができます。設計画面を入力するときに、最初に表示されるのは画面ビューです。

画面ビューでは、1つの要素を定義または変更するときに、画面は次のように**イメージ域**と**キー入力域**に分割されます。

図 11. 設計画面

オーバーレイの設計		桁: 1- 74
制御	ソース・オーバーレイ	STATIONERY
* 1 2 3 4 5 6 7		
001		
002	%T001	
003		
004		
005		
006		
007		
008		
009		
010		
011		
012		
		続く . . .
テキストの定義		
マーク	: *T001	測定方式 : 行/桁
位置	: 左右	<u>32</u> 上下 <u>2</u>
テキスト・データ		
F3= 終了 F4= 詳細 F6= 測定方式の変更		
F12= 取り消し F24= キーの続き		

イメージ域

キー入力域

詳細については、254 ページの『画面ビューでの要素の定義』を参照してください。

リスト・ビュー: リスト・ビューでは、リストが「F4=ソート」によってソートされていないかぎり、すべての要素定義がシーケンス番号順に画面にリストされます。リストは、シーケンス番号 (NBR)、名前、左右または上下位置によってソートすることができます。各行がそれぞれ1つの要素を記述します。リスト・ビューは、すでに設計されている要素を検討し、要素に変更を行う場合に使用します。ただし、リスト・ビューは、要素を定義、コピー、移動、または除去するために使用することもできます。バーコード・データやページ・セグメント名など、画面ビューのイメージ域では表示されない、定義部分を見ることができるので、要素を簡単に見つけることができます。F17 を押すことによって、画面ビューへ切り替えることができます。詳細については、328 ページの『リスト・ビューでの要素の変更』を参照してください。

機能キー

AFP Utilities for iSeries の各画面の使用可能な機能キーを使用すると、特定の作業を行うことができます。たとえば、F12 を押すと、画面は、現在の画面が表示される前に処理していた画面に変わります。

注: 使用することができる機能は画面の下部に表示されています。2 行で機能キーを表示している場合は、ほかに表示されていない行が存在している場合があります。画面上でサポートされている機能キーの全リストを調べるには、F24 を押して、残りのキーを表示するか、カーソルを画面の機能キー域に置いて、ヘルプ・キーを押します。

設計用画面では、状況に応じて異なる働きをする機能キーがあります。設計画面でサポートされている機能キーについては、260ページの『設計画面での機能キー』を参照してください。

表2. AFP ユーティリティーの機能キーの要約

ワークステーション ・キー	キー名	説明
F1 または Help	ヘルプ	フィールド、画面、またはメッセージに関する追加の情報を表示する。
F3	終了	現行の作業を終了して、開始した画面に戻る。
F4	リストまたはプロンプト	リスト用の F4 キーをサポートするフィールドにカーソルが位置している場合、選択可能な項目のリストが表示される。 コマンド行にコマンドをタイプして、F4 を押すと、そのコマンドのプロンプト画面を表示することができる。コマンド・プロンプト画面では、F4 キーを押して、カーソルが位置しているフィールドで使用できる項目のリストを表示することができる。
F5	最新表示	画面の入力フィールドを元の値に復元する。画面に情報のリストが表示されている場合には、そのリストが更新されて、システムの最新情報を反映する。
F6	測定方式の変更	幅や高さのような位置およびその他を指定するために使用する測定方式を、行/桁およびインチ/センチメートルの間で変更する。
F11	代替表示	画面で情報のリストが表示されていて、しかもそのリストに別の形式がある場合は、リストがその形式に変更される。たとえば、「ソース・オーバーレイの処理」画面では、F11 キーを押すことによって、テキストが消え、別のソース・オーバーレイの名前が画面に表示される。
F12	取り消し	現行画面を終了する。入力された情報はすべて無視される。前の画面が表示される。
F24	キーの続き	使用可能な次の機能キーのセットが表示される。
Enter (実行)	Enter (実行)	画面上の情報の処理を実行依頼する。
Roll Up (Page Down)	ロールアップ (次ページ)	正方向に移動して、この画面に関する追加の情報または別のメッセージが表示される。
Roll Down (Page Up)	ロールダウン (前ページ)	逆方向に移動して、この画面に関する追加の情報または別のメッセージが表示される。
Print	印刷	この画面に現在表示されている情報が印刷される。
Sys Req	システム要求	現在処理中のジョブが中断されて、様々な作業が選択できるメニューが表示される。

関連オンライン情報

iSeries システムでは、下記のオンライン情報が使用可能です。任意のメニューでヘルプ・キーを押してから、もう 1 度ヘルプ・キーを押すと、InfoSeeker 機能を含むオンライン情報の使用方法についての説明を表示することができます。ヘルプ・キーと F1 キーのどちらを押しても、ヘルプを表示することができます。

画面のヘルプ

任意の画面でヘルプ・キーを押すと、その画面に関する情報を表示することができます。使用可能なヘルプには、次の 2 種類あります。

項目

全般

項目ヘルプは、ヘルプ・キーを押したときにカーソルが位置しているフィールドを説明します。たとえば、あるプロンプトで選択することができる項目を記述します。システム・メッセージが画面の下部に現れた場合に、カーソルをそのメッセージに合わせてヘルプ・キーを押せば、そのメッセージが出された原因と、それに対する適切な処置とが表示されます。

全般ヘルプは画面の目的を説明します。全般ヘルプが表示されるのは、項目ヘルプの使用可能な区域の外にカーソルが位置している時にヘルプ・キーを押した場合、または項目ヘルプを表示中に F2(全般ヘルプ) を押した場合です。

オンライン情報を終了するには、F3(終了) を押してください。ヘルプ・キーを押した時点で表示されていた画面に戻ります。

InfoSeeker

InfoSeeker とは、IBM BookManager Read 体系の iSeries でのインプリメンテーション方法です。InfoSeeker により、任意のワークステーションからオンライン・ブックへアクセスすることができます。InfoSeeker は、強力な探索および検索機能を提供します。InfoSeeker を使用すると、個々のインストール・システムのニーズに合う情報を集めることができます。InfoSeeker は、IBM BookManager BUILD ライセンス・プログラムで作成された資料 (VM、MVS、および OS/2 システムで使用可能) を読むことができます。

InfoSeeker を使用するには、ヘルプ・キーを押してから、F11 (InfoSeeker) を押してください。また、GO INFO メニューのオプション 20 (InfoSeeker) を選択しても、InfoSeeker を使用することができます。

制御言語コマンドのヘルプ

制御言語コマンドのパラメーターに対するプロンプトを表示するには、そのコマンドをタイプしてから、実行キーではなく、F4(プロンプト) を押してください。コマンドの全般ヘルプを表示するには、そのコマンドをタイプし、ヘルプ・キーを押してください。CL コマンドの項目ヘルプについても、表示することができます。

第 2 部 オーバーレイ・ユーティリティー

第 2 章 オーバーレイ・ユーティリティーの紹介	25
印刷用紙およびオーバーレイ	25
ソース・オーバーレイ	26
オーバーレイ仕様	26
オーバーレイ・フォント	26
オーバーレイの設計	27
操作の流れ	28
第 3 章 オーバーレイ・ユーティリティーの開始	31
ステップ 1 - オーバーレイ・ユーティリティーの開始	33
ステップ 2 - ソース・オーバーレイ・ファイルの作成	34
ステップ 3 - ソース・オーバーレイの作成	36
テキスト要素の定義	38
線要素の定義	41
枠要素の定義	42
バーコード要素の定義	45
グラフィックス要素の挿入	47
AFP ワークベンチ・ビューアーによるオーバーレイの表示	49
ソース・オーバーレイの保管	51
ステップ 4 - ソース・オーバーレイの変更	54
ページ・セグメントの挿入	54
ソース・オーバーレイからのオーバーレイの作成	59
ステップ 5 - オーバーレイの使用	61
印刷装置ファイルの変更	61
印刷装置ファイルの使用	61
AFP Utilities for iSeries を使用したオーバーレイの印刷	62
第 4 章 オーバーレイ・ユーティリティーの開始および終了	63
オーバーレイ・ユーティリティーの開始	63
オプション 1 (ソース・オーバーレイの処理)	64
オプション 2 (ソース・オーバーレイ・ファイルの処理)	64
オーバーレイ・ユーティリティーの終了	64
第 5 章 ソース・オーバーレイの処理	67
プロンプト	68
オプション	70
欄	72
ソース・オーバーレイ・リストの表示	72
ソース・オーバーレイのリストからの選択	72
1= ソース・オーバーレイの作成	74
オーバーレイ仕様の定義	76
オーバーレイ仕様の変更	79
要素の削除の確認	82
ソース・オーバーレイ・フォントの処理	83
オーバーレイの設計	83
ソース・オーバーレイの保管	84
2= ソース・オーバーレイの変更	87
3= ソース・オーバーレイのコピー	88
4= ソース・オーバーレイの削除	90
6= ソース・オーバーレイの印刷	91
7= ソース・オーバーレイの名前の変更	91

9= オーバーレイの作成	92
第 6 章 ソース・オーバーレイ・ファイルの処理.	95
プロンプト	98
オプション	99
欄	100
ソース・オーバーレイ・ファイル・リストの表示	101
ソース・オーバーレイ・ファイルのリストからの選択	101
1= ソース・オーバーレイ・ファイルの作成	102
2= ソース・オーバーレイ・ファイル記述の変更	104
3= ソース・オーバーレイ・ファイルのコピー	105
4= ソース・オーバーレイ・ファイルの削除	106
7= ソース・オーバーレイ・ファイルの名前の変更	107
8= ソース・オーバーレイ・ファイルの記述の表示	108
12= ソース・オーバーレイの処理.	108

第 2 章 オーバーレイ・ユーティリティの紹介

オーバーレイ・ユーティリティは、AFP ユーティリティの 1 つです。このユーティリティを用いて電子的な用紙オーバーレイを作成すると、常に保管されたときの様式で印刷することができ、ページ上の任意の位置に印刷することができます。

オーバーレイ・ユーティリティを使用すると、次のことを行うことができます。

1. 画面上で対話式にオーバーレイを設計する。
オーバーレイについて定義した情報のことを、**ソース・オーバーレイ**と呼びます。
2. ソース・オーバーレイをファイルに保管する。
3. ソース・オーバーレイから、IPDS 印刷装置で印刷することができる、**オーバーレイ・オブジェクト**を作成する。

ソース・オーバーレイを変更することによって、オーバーレイのデザインを変更することができます。

注:

1. オーバーレイ・オブジェクトを直接変更することはできません。ソース・オーバーレイを変更し、それを元にしてオーバーレイ・オブジェクトを作成する必要があります。
2. 資源管理ユーティリティを使用して、オーバーレイ・オブジェクトを処理することができます。
詳細については、385 ページの『第 19 章 オーバーレイの処理機能』を参照してください。

印刷用紙およびオーバーレイ

オーバーレイ・オブジェクトと様々なスプール・ファイルを組み合わせ、最終的に印刷出力することができます。オーバーレイは、必要な時点で様々な種類の用紙上で使用することができます。したがって、事前印刷された用紙を用いる必要がなくなります。

オーバーレイは、**要素**と呼ばれる、テキスト、イメージ、グラフィックス、線、枠、およびバーコードで構成されます。環境データ (フォント参照など) のすべてがオーバーレイ定義の一部として定義されます。オーバーレイ用として定義されたフォントは、論理ページ上の可変データに使用されるフォントに影響されることはありません。

オーバーレイの基本機能は、様々なスプール・ファイルと組み合わせるための固定データを確定する、テンプレートに似たパターンを提供することにあります。

オーバーレイ起点からの上下および左右の距離を用いて、各要素の位置を指定します。さらに、オーバーレイ起点についても、ページ起点からの左右および上下の距

離を指定します。初期値は両方の方向でゼロに設定されます。つまり、オーバーレイ起点とページの起点が一致します。こうすることによって、事前印刷用紙の必要性がなくなります。

図 12 で、オーバーレイの例を示します。

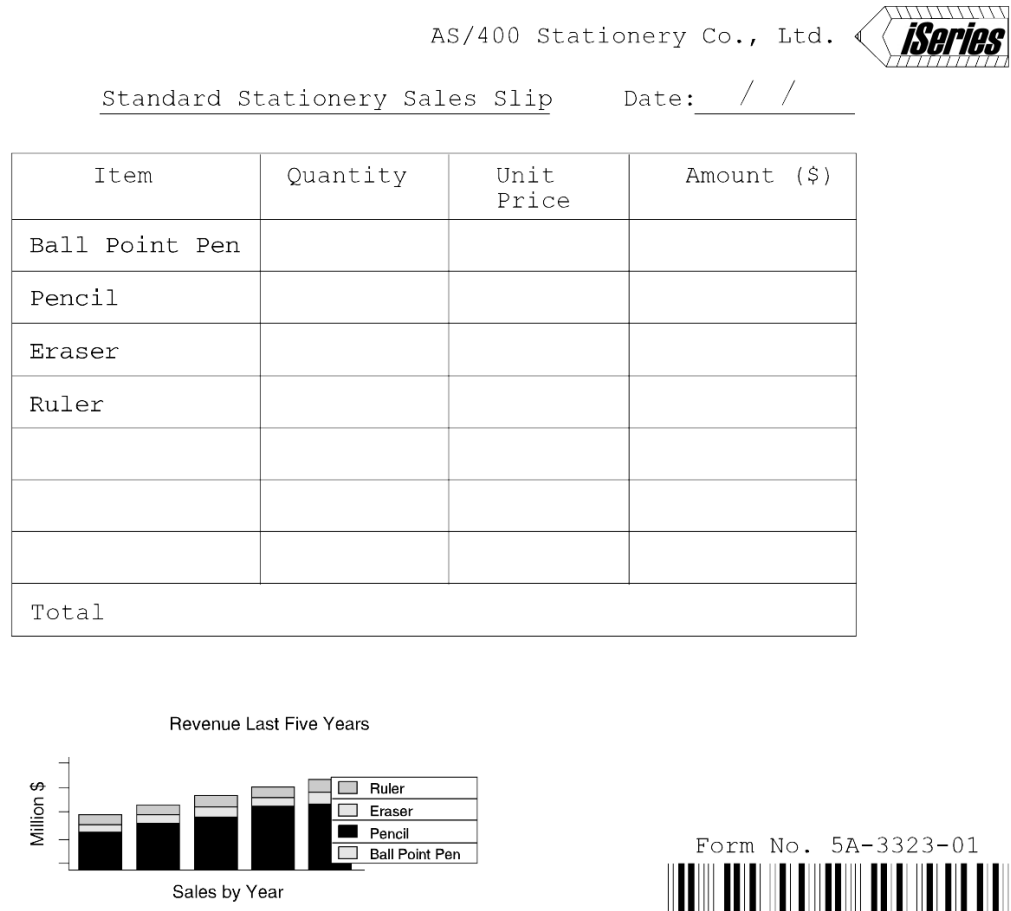


図 12. オーバーレイの例

ソース・オーバーレイ

ソース・オーバーレイは、IPDS 印刷装置で印刷できるオーバーレイ・オブジェクトを作成するのに必要な情報を提供します。

次の情報がソース・オーバーレイに用意されていないとなりません。

オーバーレイ仕様

仕様には、1 インチ当たりの文字数、1 インチ当たりの行数、回転の角度、デフォルトの要素測定方式などの情報を入れます。

オーバーレイ・フォント

フォントは事前に定義されていますが、変更することができます。

オーバーレイの設計

オーバーレイ・イメージは、ソース・オーバーレイで設計することができます。次の要素は、ソース・オーバーレイに入れるか、または定義することができます。

テキスト	オーバーレイに指定されている ABCDE のようなテキストは、テキスト要素と呼ばれます。オーバーレイ上の指定した任意の位置にテキストを挿入することができます。テキスト属性を指定して、フォント選択、形式 (縦方向および横方向)、文字サイズ、重ね打ち、およびカラーなどのテキスト特性を記述することもできます。
線	線要素とは、縦方向または横方向に 2 点間を結ぶ直線のことです。点線、破線、または実線などの線の種類、および線幅を選択することができます。
枠	枠要素は、対角線上の相対する 2 つの角によって定義される長方形のことです。オーバーレイ上の任意の位置に枠を挿入することができます。枠内の陰影パターン、枠囲み線の種類 (点線、破線、または実線)、および線幅を選択することができます。枠内でテキストを定義することもできます。オプションで、枠内のテキスト位置を調整することもできます。
バーコード	バーコード要素は、IPDS 印刷装置によってデータから作成される様々な幅のバーとスペースの集まりです。また、この要素は、オーバーレイ上の指定した位置に挿入することができます。以下の指定を行うことができます。 <ul style="list-style-type: none">• バーコード・データ• 挿入位置• バーコードの種類• サイズ• カラー• 可読文字 (HRI) 印刷の有無• 検査数字組み込みの有無
ページ・セグメント	ページ・セグメントは AFP 資源ライブラリー内のイメージです。ページ・セグメントについては、その名前参照することができ、また、印刷位置を指定して、それをオーバーレイ要素として定義することができます。1 つのオーバーレイの中に同じページ・セグメントを繰り返し組み込むことができます。
グラフィック	グラフィックは、ベクトル・データから構成されるイメージです。グラフィックスは、iSeries GDDM (図形データ表示管理プログラム) またはビジネス・グラフィックス・ユーティリティを用いて作成することができます。グラフィックは、グラフィック・データ・ファイル、つまり iSeries GDDM として iSeries 上の iSeries ファイルに保管されます。グラフィックスは、そのファイルおよびライブラリーの名前で参照し、対角線上の向き合った 2 つの角で定義される領域を指定して、オーバーレイ要素として定義することができます。GDF ファイルの作成方法については、497 ページの『付録 D. AFP ユーティリティでの GDF の使用』を参照してください。

上記のオーバーレイ要素は、いずれも選択して、必要な位置に配置し、オーバーレイを定義することができます。

操作の流れ

図 13 で、オーバーレイ・ユーティリティー操作の概要、およびオーバーレイの作成方法を示します。

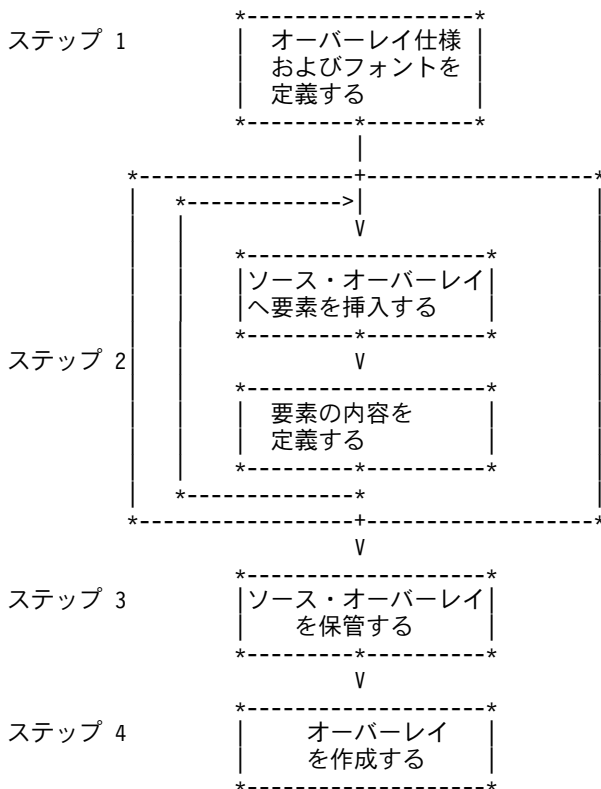


図 13. オーバーレイ・ユーティリティー操作の概要

ステップ 1. これはオプションのステップです。

オーバーレイ仕様の省略時値を変更することができます。変更できる仕様は、印刷装置タイプ、文字/インチ (CPI)、行/インチ (LPI)、回転の角度、計測単位、デフォルトのデータ要素測定方式、オーバーレイ・サイズ、オフセット、およびオーバーレイの設計に役立つ格子などです。詳細については、75 ページの『オーバーレイ仕様の定義』を参照してください。

テキストの印刷に使用するフォントを変更することができます。詳細については、335 ページの『第 14 章 フォントの処理』を参照してください。

ステップ 2. オーバーレイを設計します。

次に挙げる操作を繰り返してください。

- a. テキスト、枠、等々の要素を入りたい画面上の位置にカーソルを置く。
- b. その要素に割り当てられた機能キーを押して、オーバーレイにその要素を置く。

- c. 要素仕様を入力する。データを入力すると、オーバーレイ・ユーティリティーによってその要素にマークが割り当てられます。画面上の要素位置にマークがつかます。

詳細については、251 ページの『第 13 章 設計操作』を参照してください。

- ステップ 3. オーバーレイを設計し終わったら、それをソース・オーバーレイとしてライブラリーに保管してください。オーバーレイ・ユーティリティーから、ソース・オーバーレイを保管するソース・オーバーレイとライブラリーの名前を指定するように求められます。詳細については、83 ページの『ソース・オーバーレイの保管』を参照してください。
- ステップ 4. このソース・オーバーレイからオーバーレイ・オブジェクトを作成し、AFP 資源ライブラリーにそれを保管してください。詳細については、91 ページの『オーバーレイの作成』を参照してください。

以降の章で、それぞれ次に挙げることを行う方法について述べます。

- オーバーレイ・ユーティリティーの開始および (演習を通じての) 実際の使用
- オーバーレイ・ユーティリティーの開始および終了
- ソース・オーバーレイの処理
 - ソース・オーバーレイの作成
 - オーバーレイ仕様の定義
 - ソース・オーバーレイ・フォントの処理
 - オーバーレイの設計
 - ソース・オーバーレイの変更
 - ソース・オーバーレイのコピー
 - ソース・オーバーレイの削除
 - ソース・オーバーレイの名前の変更
 - ソース・オーバーレイの印刷
 - オーバーレイの作成
- ソース・オーバーレイ・ファイルの処理
 - ソース・オーバーレイ・ファイルの作成
 - ソース・オーバーレイ・ファイル記述の変更
 - ソース・オーバーレイ・ファイルのコピー
 - ソース・オーバーレイ・ファイルの削除
 - ソース・オーバーレイ・ファイルの名前の変更
 - ソース・オーバーレイ・ファイル記述の表示

IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries の使用中に、F1 キーを押してヘルプ情報を表示することができます。

第 3 章 オーバーレイ・ユーティリティの開始

本章では、実践演習により、オーバーレイ・ユーティリティを使用してオーバーレイを作成する方法を説明します。

オーバーレイ・ユーティリティを使用してオーバーレイを作成する操作ステップは、次のとおりです。

ステップ 1. オーバーレイ・ユーティリティの開始。

ステップ 2. ライブラリーの中へのソース・オーバーレイ・ファイルの作成

ステップ 3. 前のステップで作成したソース・オーバーレイ・ファイルの中へのソース・オーバーレイの作成

このステップは次に示すサブステップから成り立っています。

a. ソース・オーバーレイの設計

- 1) テキスト要素の定義
- 2) 線要素の定義
- 3) 枠要素の定義
- 4) バーコード要素の定義
- 5) グラフィックス要素の定義

b. AFP ワークベンチ・ビューアーによるオーバーレイの表示

c. ソース・オーバーレイの保管

ステップ 4. ソース・オーバーレイの変更

このステップは次に示すサブステップから成り立っています。

a. ソース・オーバーレイの設計、ページ・セグメントの挿入

b. ソース・オーバーレイの保管

c. ソース・オーバーレイからのオーバーレイの作成

ステップ 5. オーバーレイの使用

注:

1. 印刷装置の中には、バーコードおよびグラフィックスをサポートしていないものもあります。グラフィックスをサポートしない印刷装置を使用する場合には、ソース・オーバーレイの中にグラフィックスを定義しないでください。バーコードをサポートしない印刷装置を使用する場合には、ソース・オーバーレイ作成ステップで、「オーバーレイ仕様の定義」画面を使用して印刷装置タイプを指定しなければなりません。AFP Utilities for iSeries は、これらの印刷装置でバーコードを印刷するための適切なデータを生成します。印刷装置がそれらをサポートしているかどうかをチェックするには、*IBM Printing Systems: Printer Information, S544-5750* を参照してください。
2. 次の作業を実行するには、ページ・セグメントおよび物理ファイルが必要です。ライブラリー QGPL にページ・セグメント QFCLOGO と物理ファイル QAFCGRPH がなければなりません。これらが無い場合には、ライブラリー QAFP のページ・セグメント QFCPAGS および物理ファイル QAFCGDF をライ

ブラリー QGPL にコピーして、それぞれ QFCLOGO および QAFCGRPH に名前を変更してください。「複写オブジェクトの作成 (CRTDUPOBJ)」コマンドを使用することができます。

ステップ1 - オーバーレイ・ユーティリティの開始

処置例:

1. コマンド行に STRAFPU と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

「IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries」メニューが表示されます。

AFPU	IBM ADVANCED FUNCTION PRINTING UTILITIES
次の1つを選択してください。	
オーバーレイ・ユーティリティ	
1. ソース・オーバーレイの処理	
2. ソース・オーバーレイ・ファイルの処理	
印刷形式ユーティリティ	
11. PFD 定義の処理	
12. PFD 定義ファイルの処理	
13. データベース・ファイル・メンバーの印刷	
14. AFP ユーティリティの解説の印刷	
資源管理ユーティリティ	
21. ページ・セグメントへの変換	
22. オーバーレイの処理	
23. ページ・セグメントの処理	
選択項目またはコマンド	
==> 2	
F3= 終了 F4=プロンプト F9=コマンドの複写 F12= 取り消し F16=システム・メイン・メニュー	
(C) COPYRIGHT IBM CORP. 1991, 2001.	

この表示画面から AFP Utilities for iSeries の任意の機能を選択することができます。

オーバーレイ・ユーティリティ機能には次のものがあります。

オプション	機能
1	ソース・オーバーレイの処理
2	ソース・オーバーレイ・ファイルの処理

ソース・オーバーレイを作成する前に、それを保管するためのソース・オーバーレイ・ファイルを作成しておかなければなりません。

注: ソース・オーバーレイを作成するにはライブラリーが必要です。次の例では OVLLIB を使用していますが、ユーザーのライブラリーの名前を使うこともできます。ライブラリーがない場合には、コマンド行に CRTLIB OVLLIB と入力し、実行キーを押して、ライブラリーを作成してください。

ステップ 2 - ソース・オーバーレイ・ファイルの作成

処置例:

1. コマンド行に 2 と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

「作業・オーバーレイ・ファイルの処理」画面が表示されます。

ソース・オーバーレイ・ファイルの処理		
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
ライブラリー	<u>OVLLIB</u>	名前, *USRLIBL, *LIBL *CURLIB, *ALLUSR, *ALL
ファイル	<u>*ALL</u>	名前, 総称 *, *ALL
パラメーターまたはコマンド ===>		
F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F9= コマンドの複写 F12= 取り消し		

処置例: ライブラリーのプロンプトに OVLLIB とタイプし、実行キーを押して、OVLLIB に保管されているソース・オーバーレイ・ファイルをリストしてください。

ソース・オーバーレイ・ファイルの処理		
ライブラリー	<u>OVLLIB</u>	名前, *USRLIBL, *LIBL, *CURLIB...
ファイル	<u>*ALL</u>	名前, 総称 *, *ALL
位置指定	_____	開始文字
オプションを入力して、実行キーを押してください。		
1= 作成 2= 変更 3= コピー 4= 削除 7= 名前の変更		
8= 記述の表示 12= ソース・オーバーレイの処理		
OPT ファイル	ライブラリー	テキスト
<u>1</u> <u>OVFILE</u>	<u>OVLLIB</u>	変更
(ソース・オーバーレイ・ファイルがライブラリー中ではない)		
終わり		
パラメーターまたはコマンド ===>		
F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F9= コマンドの複写 F11= 名前だけの表示 F12= 取り消し		

注: OVLLIB にはソース・オーバーレイ・ファイルがないため、ソース・オーバーレイ・ファイルは表示されません。

処置例:

1. リストの 1 行目の *OPT* の欄に 1 (作成) と入力してください。
2. リストの 1 行目の *ファイル* の欄に *OVLFILE* と入力してください。
3. リストの 1 行目の *ライブラリー* の欄に *OVLlib* と入力してください。
4. 実行キーを押してください。

「ソース・オーバーレイ・ファイルの作成」画面が表示されます。

ソース・オーバーレイ・ファイルの作成		
ファイル	:	OVLFILE
ライブラリー	:	OVLlib
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
ユーザー指定の DBCS データ	N	Y=YES, N=NO
テキスト '記述'	実習用のソース・オーバーレイ・ファイル	
権限	*LIBCRTAUT	名前, *LIBCRTAUT, *ALL *CHANGE, *EXCLUDE, *USE
F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し		

この画面で次に挙げることを指定することができます。

- DBCS データを使用するかどうか (DBCS システムを使用している場合)。
- 長さが SBCS 文字で 50 字以下のソース・オーバーレイ・ファイルに関する短い記述。この記述は、ソース・オーバーレイ・ファイルとともに保管され、ソース・オーバーレイ・ファイルがリストされる時に表示されるため、ソース・オーバーレイ・ファイルの識別に役立ちます。
- ソース・オーバーレイ・ファイルに対して特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限。

処置例:

1. ユーザー指定の *DBCS* データ のプロンプトの省略時の値を変更しないでください。

注: このプロンプトのフィールドが表示されるのは、システムが *DBCS* 使用可能である場合だけです。

2. テキスト '記述' のプロンプトに、実習用のソース・オーバーレイ・ファイルと入力してください。
3. 実行キーを押してください。

「ソース・オーバーレイの処理」画面が表示されます。

ステップ 3 - ソース・オーバーレイの作成

このステップでは、ソース・オーバーレイを作成することによってオーバーレイを設計します。

ソース・オーバーレイの処理		
ファイル	<u>OVLFILE</u>	名前, リストは F4
ライブラリー	<u>OVL LIB</u>	名前, *LIBL, *CURLIB
ソース・オーバーレイ . . .	<u>*ALL</u>	名前, 総称*, *ALL
位置指定	<u> </u>	開始文字

オプションを入力して, 実行キーを押してください。
1= 作成 2= 変更 3= コピー 4= 削除 6= 印刷 7= 名前の変更
9= オーバーレイの作成

ソース	テキスト	変更
OPT オバ-レイ		
1	<u>STATIONERY</u>	

(ファイル中にソース・オーバーレイがない)

終わリ

パラメーターまたはコマンド
====>

F3= 終了 F4= プリント F5= 最新表示 F9= コマンドの複写
F11= 名前だけの表示 F12= 取り消し

処置例:

1. リストの 1 行目の *OPT* の欄に 1 (作成) と入力してください。
2. リストの 1 行目の ソース・オーバーレイ の欄に STATIONERY と入力してください。
3. 実行キーを押してください。

注: オプション 9 (オーバーレイの作成) を使用してオーバーレイ (オブジェクト) を作成すると、ソース・オーバーレイ名の最初の 8 文字がオーバーレイ (オブジェクト) 名に使用されます。 残りの文字は廃棄されます。

「ソース・オーバーレイの作成」画面が表示されます。

ソース・オーバーレイの作成

ファイル : OVLFILE
ライブラリー : OVLLIB
ソース・オーバーレイ : STATIONERY

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1= 選択

OPT	処置
-	オーバーレイ仕様の定義
-	ソース・オーバーレイ・フォントの処理
<u>1</u>	オーバーレイの設計
-	

F3= 終了 F5= 最新表示 F9= すべて選択 F12= 取り消し

処置例:

1. 実行キーを押してください。

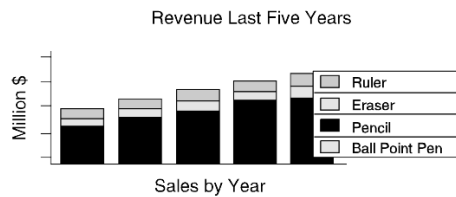
「オーバーレイの設計」画面が表示されます。

この例では、OVLFILE のソース・オーバーレイ STATIONERY で次のオーバーレイを定義します。



Standard Stationery Sales Slip Date: / /

Item	Quantity	Unit Price	Amount (\$)
Ball Point Pen			
Pencil			
Eraser			
Ruler			
Total			



Form No. 5A-3323-01



図 14. オーバーレイの例

テキスト要素の定義

```

                オーバーレイの設計                桁 : 1- 74
制御 . . .      ソース・オーバーレイ . STATIONERY
                *...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002
003
004
005
006
007
008
009
010
011
012
013
014
015
016
017
                続く ...

F3= 終了      F6= テキスト      F9= 線      F10= 枠
F11= バーコード  F13= 挿入      F14= 変更      F24= キーの続き
    
```

処置例:

1. テキストを挿入したい位置 (左右 : 32、上下 : 2) にカーソルを移動してください。
2. F6 キーを押す。

テキスト要素を示すマーク %T001 がイメージ域に表示され、画面の下部にキー入力域が表示されます。

```

                                     オーバーレイの設計          桁: 1- 74
制御 . . . _____ ソース・オーバーレイ . STATIONERY
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002                               %T001
003
004
005
006
007
008
009
010
011
012
                                     続く ...

----- デキストの定義 -----
マーク . . . . . : *T001          測定方法 . . . . . : 行/桁
位置 . . . . .   左右          32     上下      2
テキスト・データ . ISERIES STATIONERY CO., LTD.

F3= 終了      F4= 詳細      F6= 測定方式の変更
F12= 取り消し F24= キーの続き
```

処置例:

1. テキスト・データ のプロンプトに iSeries STATIONERY CO., LTD.と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

次の画面が表示されます。

```

                                     オーバーレイの設計          桁: 1- 74
制御 . . . _____ ソース・オーバーレイ . STATIONERY
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002                               *T001 S STATIONERY CO., LTD.
003
004
005
006
007
008
009
010
011
012
013
014
015
016
017
                                     続く ...

-----
F3= 終了      F6= テキスト      F9= 線      F10= 枠
F11= バーコード F13= 挿入      F14= 変更      F24= キーの続き
```

処置例: 別のテキスト要素を定義します。

1. カーソルを位置 (左右 : 10, 上下 : 4) に移動してください。
2. F6 キーを押す。
3. キー入力域のテキスト・データ のプロンプトに、 Standard Stationery Sales Slip Date: / / と入力してください。
4. 実行キーを押してください。

次の画面が表示されます。

```

                                オーバーレイの設計                桁 : 1- 74
制御 . . . _____ ソース・オーバーレイ . STATIONERY
                *...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002                                *T001 S STATIONERY CO., LTD.
003
004                *T002 RD STATIONERY SALES SLIP    DATE:   /   /
005
006
007
008
009
010
011
012
013
014
015
016
017
                                                                続く ...
-----
F3= 終了   F6= テキスト   F9= 線   F10= 枠
F11= バーコード   F13= 挿入   F14= 変更   F24= キーの続き
```

線要素の定義

処置例:

1. 線を開始する位置 (左右 : 10, 上下 : 5) にカーソルを移動してください。
2. F9 キーを押す。

次の画面が表示されます。

```

                                     オーバーレイの設計          桁 : 1- 74
制御 . . . _____ ソース・オーバーレイ . STATIONERY
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002                               *T001 S STATIONERY CO., LTD.
003
004          *T002 RD STATIONERY SALES SLIP    DATE:  /  /
005          %L003
006
007
008
009
010
011
012
013
014
015
016
017
                                     続く ...

F3= 終了   F5= 最新表示   F9= 線   F12= 取り消し
F15=マーク・オン/オフ   F16= 遮蔽   F19= 左   F20= 右
線の反対側の終わりを指定して、 F9 キーを押してください。

```

処置例:

1. 線を終える位置 (左右 : 39, 上下 : 5) にカーソルを移動してください。
2. F9 キーを押す。

キー入力域が画面に表示されます。

```

                                     オーバーレイの設計          桁 : 1- 74
制御 . . . _____ ソース・オーバーレイ . STATIONERY
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002                               *T001 S STATIONERY CO., LTD.
003
004          *T002 RD STATIONERY SALES SLIP    DATE:  /  /
005          %L003 -----
006
007
008
009
010
011
012
                                     続く ...

                                     線の定義
マーク . . . . . : *L003          測定方式 . . . . . : 行/桁
開始位置 . . . . . 左右          10      上下      5
終了位置 . . . . . 左右          39      上下      5

F3= 終了   F4= 詳細   F6= 測定方式の変更
F12= 取り消し   F24= キーの続き

```

処置例: 実行キーを押して、ソース・オーバーレイの中に線要素を定義してください。

次の画面が表示されます。

```
                   オーバーレイの設計                桁 : 1- 74
制御 . . . _____ ソース・オーバーレイ . STATIONERY
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002                      *T001 S STATIONERY CO., LTD.
003
004                      *T002 RD STATIONERY SALES SLIP    DATE:  /  /
005                      *L003 -----
006
007
008
009
010
011
012
013
014
015
016
017

                                                                続く ...
-----
F3= 終了   F6= テキスト   F9= 線   F10= 枠
F11= バーコード   F13= 挿入   F14= 変更   F24= キーの続き
```

画面上でマーク %L003 が *L003 に変更されて、線が正しく定義されたことを示します。

枠要素の定義

処置例: 枠を定義する位置 (左右 : 5, 上下 : 7) にカーソルを移動し、 F10 キーを押してください。

次の画面が表示されます。

```
                   オーバーレイの設計                桁 : 1- 74
制御 . . . _____ ソース・オーバーレイ . STATIONERY
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002                      *T001 S STATIONERY CO., LTD.
003
004                      *T002 RD STATIONERY SALES SLIP    DATE:  /  /
005                      *L003 -----
006
007                      %B004
008
009
010
011
012
013
014
015
016
017

                                                                続く ...
-----
F3= 終了   F5= 最新表示   F10= 枠   F12= 取り消し
F15=マーク・オン/オフ   F16= 遮蔽   F19= 左   F20= 右
枠の反対の隅を指定して、 F10 キーを押してください。
```


処置例:

1. 枠の反対の角を指定するために、「次ページ」(ロールアップ) キーを 2 回押し
てください。
2. カーソルを枠の反対側の隅の位置 (左右 : 60, 上下 : 26) に移動し、 F10 キー
を押してください。

キー入力域が画面に表示されます。

```

          オーバーレイの設計          桁: 1- 74
 制御 . . .      ソース・オーバーレイ . STATIONERY
  *...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
017  :
018  :
019  :
020  :
021  :
022  :
023  :
024  :
025  :
026  +-----+
027
028
                                         続く ...

          枠の定義
  マーク . . . . . : *B004      測定方式 . . . . . : 行/桁
  開始位置 . . . . . 左右      5      上下      7
  終了位置 . . . . . 左右      60     上下      26

F3= 終了      F4= 詳細      F6= 測定方式の変更
F12= 取り消し  F24= キーの続き
  
```

処置例: 実行キーを押して、ソース・オーバーレイの中に枠要素を定義してください。

次の画面が表示されます。

```

          オーバーレイの設計          桁: 1- 74
 制御 . . .      ソース・オーバーレイ . STATIONERY
  *...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
017  :
018  :
019  :
020  :
021  :
022  :
023  :
024  :
025  :
026  +-----+
027
028
029
030
031
032
033
                                         続く ...

F3= 終了      F6= テキスト      F9= 線      F10= 枠
F11= バーコード  F13= 挿入      F14= 変更      F24= キーの続き
  
```

処置例: 同じ要領で以下の要素を定義してください。

1. 線要素を (左右 : 5, 上下 : 24) から (左右 : 60, 上下 : 24) まで。
2. 線要素を (左右 : 5, 上下 : 22) から (左右 : 60, 上下 : 22) まで。
3. 線要素を (左右 : 5, 上下 : 20) から (左右 : 60, 上下 : 20) まで。
4. 線要素を (左右 : 5, 上下 : 18) から (左右 : 60, 上下 : 18) まで。
5. 線要素を (左右 : 5, 上下 : 16) から (左右 : 60, 上下 : 16) まで。
6. 線要素を (左右 : 5, 上下 : 14) から (左右 : 60, 上下 : 14) まで。
7. 線要素を (左右 : 5, 上下 : 12) から (左右 : 60, 上下 : 12) まで。
8. 線要素を (左右 : 5, 上下 : 10) から (左右 : 60, 上下 : 10) まで。
9. テキスト要素の Ball Point Pen を (左右 : 7, 上下 : 11) で。
10. テキスト要素の Pencil を (左右 : 7, 上下 : 13) で。
11. テキスト要素の Eraser を (左右 : 7, 上下 : 15) で。
12. テキスト要素の Ruler を (左右 : 7, 上下 : 17) で。
13. 線要素を (左右 : 22, 上下 : 7) から (左右 : 22, 上下 : 24) まで。
14. テキスト要素の Total を (左右 : 7, 上下 : 25) で。
15. 線要素を (左右 : 35, 上下 : 24) から (左右 : 35, 上下 : 7) まで。
16. 線要素を (左右 : 46, 上下 : 7) から (左右 : 46, 上下 : 24) まで。
17. テキスト要素の Item を (左右 : 10, 上下 : 8) で。
18. テキスト要素の Quantity を (左右 : 24, 上下 : 8) で。
19. テキスト要素の Unit を (左右 : 37, 上下 : 8) で。
20. テキスト要素の Price を (左右 : 37, 上下 : 9) で。
21. テキスト要素の Amount (\$) を (左右 : 48, 上下 : 8) で。
22. 線要素を (左右 : 52, 上下 : 5) から (左右 : 59, 上下 : 5) まで。
23. テキスト要素の Form No. 5A-3233-01 を (左右 : 45, 上下 : 33) で。

上記の要素が定義されると、次の画面が表示されます。

```

                                オーバーレイの設計                桁 : 1- 74
制御 . . .                      ソース・オーバーレイ . STATIONERY
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
025      : *T018                                     :
026      +-----+
027
028
029
030
031
032
033
034
035
036
037
038
039
040
041
                                *T027 0. 5A-3233-01
                                続く ...

F3= 終了      F6= テキスト      F9= 線      F10= 枠
F11= バーコード  F13= 挿入      F14= 変更      F24= キーの続き
```

バーコード要素の定義

今度はテキスト要素 *T027 の下にバーコード要素を定義することにします。

処置例: カーソルをバーコード要素を置く位置 (左右 : 43, 上下 : 34) に移動し、F11 キーを押してください。

次の画面が表示されます。

```

                                オーバーレイの設計                桁 : 1- 74
制御 . . . _____ ソース・オーバーレイ . STATIONERY
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
025 : *T018 :
026 +-----+
027
028
029
030
031
032
033                                *T027 O. 5A-3233-01
034                                %C028
035
036
                                     続く ...
-----
                                バーコードの定義
マーク . . . . . : *C028      測定方式 . . . . . : 行/桁
位置 . . . . . 左右   43      上下   34      バーコード・タイプ . . . 1
バーコード・データ . . 5A-3233-01

F3= 終了   F4= 詳細   F6= 測定方式の変更
F12= 取り消し   F24= キーの続き
```

処置例:

1. バーコード・タイプ のプロンプトに 1 と入力してください。
2. バーコード・データ のプロンプトに 5A-3233-01 と入力してください。
3. 実行キーを押して、ソース・オーバーレイの中にバーコード要素を定義してください。

次の画面が表示されます。

```

          オーバーレイの設計          桁 : 1- 74
制御 . . .      ソース・オーバーレイ . STATIONERY
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
025      : *T018      :
026      +-----+
027
028
029
030
031
032
033                      *T027 0. 5A-3233-01
034                      *C028
035
036
037
038
039
040
041

```

続く ...

F3= 終了 F6= テキスト F9= 線 F10= 枠
F11= バーコード F13= 挿入 F14= 変更 F24= キーの続き

グラフィックス要素の挿入

注: グラフィックスをサポートしていない印刷装置を使用している場合は、このセクションをとばしてください。

オーバーレイの下端にグラフィックス要素を定義します。

処置例:

1. カーソルをグラフィックス要素を置く位置 (左右 : 5, 上下 : 28) に移動してください。
2. F13 キーを押してから、F6 キーを押します。

次の画面が表示されます。

```

                                オーバーレイの設計                桁 : 1- 74
制御 . . .                      ソース・オーバーレイ . STATIONERY
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
025 : *T018
026 +-----+
027
028 %G029
029
030
031
032
033
034
035
036
037
038
039
040
041
                                *T027 0. 5A-3233-01
                                *C028
                                                                続く ...
-----
F3= 終了   F5= 最新表示   F6=グラフィックス 挿入   F12= 取り消し
F15=マーク・オン/オフ   F16= 遮蔽   F19= 左   F20= 右
グラフィックス・ブロックの反対の隅を指定して、 F6 キーを押してください。
```

処置例: カーソルをグラフィックス域の右下隅 (左右: 25、上下: 34) に移動して、再度 PF6 キーを押してください。

次の画面が表示されます。

オーバーレイの設計 桁 : 1- 74

制御 . . . _____ ソース・オーバーレイ . STATIONERY

*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...

025 : *T018 :

026 +-----+ :

027 :

028 %G029 -----+ :

029 : :

030 : :

031 : :

032 : :

続く ...

グラフィックスの挿入

マーク : *G029 測定方式 : 行/桁

開始位置 左右 5 上下 28

終了位置 左右 25 上下 34

ソース・オブジェクト・タイプ . 2 1=PC 文書, 2= ファイル

F3= 終了 F5= 最新表示 F6= 測定方式の変更 F16= 遮蔽
 F12= 取り消し F15= マーク・オン/オフ F19= 左 F20= 右

処置例:

1. ソース・オブジェクト・タイプ のプロンプトに 2 と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

次の画面が表示されます。

オーバーレイの設計 桁 : 1- 74

制御 . . . _____ ソース・オーバーレイ . STATIONERY

*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...

025 : *T018 :

026 +-----+ :

027 :

028 %G029 -----+ :

029 : :

030 : :

031 : :

032 : :

続く ...

グラフィックスの挿入

マーク : *G029 測定方式 : 行/桁

開始位置 左右 5 上下 28

終了位置 左右 25 上下 34

ソース・オブジェクト・タイプ . 2 1=PC 文書, 2= ファイル

ファイル QAFCGRPH 名前 名前

ライブラリー QGPL 名前, *LIBL, *CURLIB

メンバー *FIRST 名前, *FIRST 名前, *FIRST

F3= 終了 F4= 詳細 F6= 測定方式の変更
 F12= 取り消し F24= キーの続き

処置例:

1. ファイル のプロンプトに QAFCGRPH と入力してください。
2. ライブラリー のプロンプトに QGPL と入力してください。
3. 実行キーを押してください。

メンバー プロンプトでの *FIRST は QAFCGDF に変わります。

処置例: 実行キーを押して、ソース・オーバーレイの中にグラフィックス要素を定義してください。

次の画面が表示されます。

```

                                     オーバーレイの設計                桁 : 1- 74
制御 . . . _____ ソース・オーバーレイ . STATIONERY
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
025 : *T018 :
026 +-----+
027
028 *G029 -----+
029 : :
030 : :
031 : :
032 : :
033 : : *T027 0. 5A-3233-01
034 +-----+ *C028
035
036
037
038
039
040
041
                                     続く ...
F3= 終了 F6= テキスト F9= 線 F10= 枠
F11= バーコード F13= 挿入 F14= 変更 F24= キーの続き
```

すべての要素が定義されました。

AFP ワークベンチ・ビューアーによるオーバーレイの表示

注: AFP ワークベンチ・ビューアーを使用するには、ワークステーションがプログラマブル・ワークステーション (PC) であり、OS/400 V3R1M3 以降用の iSeries アクセスでサーバー・システムに接続されている必要があります。iSeries アクセスのサーバーへの接続については、オンラインの「iSeries Access Users Guide」を参照してください。iSeries アクセスの接続では、iSeries セッションに使用したのと同じユーザー ID を使用する必要があります。PC に iSeries アクセス・ワークベンチ・ビューアーもインストールする必要があります。ご使用のワークステーションが PC でないか、iSeries アクセス・ワークベンチ・ビューアーがシステムにインストールされていない場合は、このステップをとばしてください。

これで、AFP ワークベンチ・ビューアーを用いてオーバーレイの様子を表示することができます。

処置例:

1. TAB キーを押して、カーソルを「制御」フィールドに合わせます。
2. *VIEW と入力して、実行キーを押します。

ソース・オーバーレイから作成された一時的オーバーレイ・オブジェクトの、シミュレートされた印刷出力を示す画面が表示されます。シミュレートされた印刷出力を調べ終わったら、ウィンドウをクローズして、先へ進みます。

注: システム・ライブラリー・リスト内のライブラリーにない組み込みページ・セグメントは、表示されません。代わりに、メッセージ CWBNP1019、「AFP 資源が検出されません」が表示されます。これらのページ・セグメントを表示するには、次のいずれかを行います。

- システム・ライブラリー・リストに、ライブラリー名を追加する (コマンド CHGSYSLIBL)
- ページ・セグメントを、ライブラリー QGPL にコピーする (コマンド CRTDUPOBJ)

ソース・オーバーレイの保管

処置例: F3 キーを押してこの画面を終了してください。

次の画面が表示されます。

ソース・オーバーレイの作成	
ファイル	OVLFILE
ライブラリー	OVL LIB
ソース・オーバーレイ	STATIONERY
オプションを入力して、実行キーを押してください。	
1= 選択	
OPT	処置
-	オーバーレイ仕様の定義
-	ソース・オーバーレイ・フォントの処理
-	オーバーレイの設計
F3= 終了 F5= 最新表示 F9= すべて選択	

処置例: F3 キーを押してこの画面を終了してください。

次の画面が表示されます。

オーバーレイ・ユーティリティーの終了	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。	
オプション	<u>1</u> 1= 保管して終了 2= 保管しないで終了 3= オーバーレイ・ユーティリ ティー・セッションの再開
ソース・オーバーレイ・リストへの 戻り	<u>Y</u> Y=YES, N=NO
F12= 取り消し	

処置例:

1. オプション のプロンプトに 1 (保管して終了) と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

次の画面が表示されます。

ソース・オーバーレイの保管		
選択項目を入力して，実行キーを押してください。		
ソース・オーバーレイ	<u>STATIONERY</u>	名前，リストは F4
ファイル	<u>OVLFILE</u>	名前，リストは F4
ライブラリー	<u>OVLLIB</u>	名前，*CURLIB
テキスト '記述'	<u>用紙番号 3 からのサンプル</u>	
除去した要素の削除	<u>N</u>	Y=YES, N=NO

F4=プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し

処置例:

1. テキスト '記述' プロンプトに、用紙番号 3 からのサンプルと入力してください。
2. 実行キーを押してください。

次の画面が表示されます。

オーバーレイの作成		
ファイル	OVLFILE	
ライブラリー	OVLLIB	
ソース・オーバーレイ	STATIONERY	
テキスト	用紙番号 3 からのサンプル	
選択項目を入力して，実行キーを押してください。		
オーバーレイの作成	<u>N</u>	Y=YES, N=NO
オーバーレイ	<u>STATIONERY</u>	名前
ライブラリー	<u>OVLLIB</u>	名前，*CURLIB
テキスト '記述'	<u>用紙番号 3 からのサンプル</u>	
<hr/>		
格子の組み込み	<u>N</u>	Y=YES, N=NO
置き換え (存在の場合)	<u>N</u>	Y=YES, N=NO
オーバーレイの印刷	<u>N</u>	Y=YES, N=NO
権限	<u>*LIBCRTAUT</u>	名前，*LIBCRTAUT, *ALL *CHANGE, *EXCLUDE, *USE

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

処置例: 実行キーを押してください。

次の画面が表示されて、完了メッセージが出されます。

ソース・オーバーレイの処理			
ファイル	<u>OVLFIL</u>	名前, リストは F4
ライブラリー	<u>OVLLIB</u>	名前, *LIBL, *CURLIB
ソース・オーバーレイ	..	<u>*ALL</u>	名前, 総称*, *ALL
位置指定	_____	開始文字
オプションを入力して, 実行キーを押してください。			
1= 作成 2= 変更 3= コピー 4= 削除 6= 印刷 7= 名前の変更			
9= オーバーレイの作成			
ソース	オーバーレイ	テキスト	変更
—	STATIONERY	用紙番号 3 からのサンプル	02/01/28
			終わり
パラメーターまたはコマンド			
===>			
F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F9= コマンドの複写			
F11= 名前だけの表示 F12= 取り消し			
ソース・オーバーレイ STATIONERY は正常にファイル OVLFIL に保管された。			

ソース・オーバーレイ STATIONERY がライブラリー OVLLIB のファイル OVLFIL に作成され、リストに表示されています。

処置例: F3 キーを押してソース・オーバーレイの作成を完了してください。

次の画面が表示されます。

ソース・オーバーレイ・ファイルの処理			
ライブラリー	<u>OVLLIB</u>	名前, *USRLIBL, *LIBL, *CURLIB...
ファイル	<u>*ALL</u>	名前, 総称*, *ALL
位置指定	_____	開始文字
オプションを入力して, 実行キーを押してください。			
1= 作成 2= 変更 3= コピー 4= 削除 7= 名前の変更 8= 記述の表示			
12= ソース・オーバーレイの処理			
OPT	ファイル	ライブラリー	テキスト
—	OVLFIL	OVLLIB	変更
—	OVLFIL	OVLLIB	実習用のソース・オーバーレイ 02/01/28
			終わり
パラメーターまたはコマンド			
===>			
F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F9= コマンドの複写			
F11= 名前だけの表示 F12= 取り消し			
ソース・オーバーレイ・ファイル OVLFIL がライブラリー OVLLIB に作成された。			

ソース・オーバーレイ STATIONERY がライブラリー OVLLIB のファイル OVLFIL に作成され、リストに表示されています。

処置例: F3 キーを押してこの画面を終了してください。

「IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries」メニューが表示されます。

ステップ 4 - ソース・オーバーレイの変更

ページ・セグメントの挿入

作成したオーバーレイにページ・セグメントとして作成されているロゴ・マークを挿入したい時は、以下のステップを実行してください。

処置例:

1. コマンド行に STRAFP と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

「IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries」メニューが表示されます。

AFP U

IBM ADVANCED FUNCTION PRINTING UTILITIES

次の1つを選択してください。

オーバーレイ・ユーティリティ

1. ソース・オーバーレイの処理
2. ソース・オーバーレイ・ファイルの処理

印刷形式ユーティリティ

11. PFD 定義の処理
12. PFD 定義ファイルの処理
13. データベース・ファイル・メンバーの印刷
14. AFP ユーティリティの解説の印刷

資源管理ユーティリティ

21. ページ・セグメントへの変換
22. オーバーレイの処理
23. ページ・セグメントの処理

選択項目またはコマンド

==> 1

F3= 終了 F4=プロンプト F9=コマンドの複写 F12= 取り消し F16=システム・メイン・メニュー
(C) COPYRIGHT IBM CORP. 1991, 2001.

処置例:

1. コマンド行に 1 と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

「ソース・オーバーレイの処理」画面が表示されます。

ソース・オーバーレイの処理

ファイル	<u>OVLFILE</u>	名前, リストは F4
ライブラリー	<u>OVLLIB</u>	名前, *LIBL, *CURLIB
ソース・オーバーレイ . . .	<u>*ALL</u>	名前, 総称*, *ALL
位置指定	_____	開始文字

オプションを入力して, 実行キーを押してください。
1= 作成 2= 変更 3= コピー 4= 削除 6= 印刷 7= 名前の変更
9= オーバーレイの作成

ソース		
OPT	オーバーレイ	テキスト
		変更
<u>2</u>	STATIONERY	用紙番号 3 からのサンプル
		02/01/28
		終わり

パラメーターまたはコマンド
==>

F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F9= コマンドの複写
F11= 名前だけの表示 F12= 取り消し

処置例:

1. ソース・オーバーレイ名 STATIONERY の隣の OPT 欄に、2 と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

「ソース・オーバーレイの変更」画面が表示されます。

ソース・オーバーレイの変更

ファイル	:	OVLFILE
ライブラリー	:	OVLLIB
ソース・オーバーレイ	:	STATIONERY

オプションを入力して, 実行キーを押してください。
1= 選択

OPT	処置
-	オーバーレイ仕様の定義
-	ソース・オーバーレイ・フォントの処理
<u>1</u>	オーバーレイの設計

F3= 終了 F5= 最新表示 F9= すべて選択 F12= 取り消し

処置例: 実行キーを押してください。

「オーバーレイの設計」画面が表示されます。

```
                   オーバーレイの設計                桁 : 1- 74
制御 . . . _____ ソース・オーバーレイ . STATIONERY
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002                   *T001 S STATIONERY CO., LTD.
003
004           *T002 RD STATIONERY SALES SLIP    DATE:  /  /
005           *L003 -----                    *L026 --
006
007   *B004 -----*L017 -----:-----*L020 -----+
008   :   *T021      : *T022 TY   : *T023      : *T025 ( $ ) :
009   :               :           : *T024      :           :
010   *L012 -----:-----:-----:-----
011   : *T013 OINT PEN :           :           :           :
012   *L011 -----:-----:-----:-----
013   : *T014          :           :           :           :
014   *L010 -----:-----:-----:-----
015   : *T015          :           :           :           :
016   *L009 -----:-----:-----:-----
017   : *T016          :           :           :           :
                                         続く ...

F3= 終了   F6= テキスト   F9= 線   F10= 枠
F11= バーコード   F13= 挿入   F14= 変更   F24= キーの続き
```

処置例:

1. ロゴを挿入する位置 (左右 : 60, 上下 : 1) にカーソルを移動してください。
2. F13 キーを押す。

% がカーソル位置に表示され、F9 キーを押すようにメッセージが出て、機能キー域が変更されます。

```
                   オーバーレイの設計                桁 : 1- 74
制御 . . . _____ ソース・オーバーレイ . STATIONERY
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002                   *T001 S STATIONERY CO., LTD.
003
004           *T002 RD STATIONERY SALES SLIP    DATE:  /  /
005           *L003 -----                    *L026 --
006
007   *B004 -----*L017 -----:-----*L020 -----+
008   :   *T021      : *T022 TY   : *T023      : *T025 ( $ ) :
009   :               :           : *T024      :           :
010   *L012 -----:-----:-----:-----
011   : *T013 OINT PEN :           :           :           :
012   *L011 -----:-----:-----:-----
013   : *T014          :           :           :           :
014   *L010 -----:-----:-----:-----
015   : *T015          :           :           :           :
016   *L009 -----:-----:-----:-----
017   : *T016          :           :           :           :
                                         続く ...

F3= 終了   F6=グラフィックス 挿入   F9=ページ・セグメント 挿入   F12= 取り消し
F24= キーの続き
グラフィックスまたはページ・セグメントを入れるためには、 F6 または F9 キー
```

処置例: F9 キーを押してください。

マーク %S030 がイメージ域に表示されてページ・セグメントを示し、キー入力域が表示されて、ページ・セグメント名を入力するよう要求されます。

オーバーレイの設計 桁 : 1- 74

制御 . . . _____ ソース・オーバーレイ . STATIONERY

*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...

```

001                                     %S030
002                                     *T001 S STATIONERY CO., LTD.
003
004          *T002 RD STATIONERY SALES SLIP    DATE:  /  /
005          *L003 -----                    *L026 --
006
007      *B004 -----*L017 -----:-----*L020 -----+
008      :  *T021      : *T022 TY   : *T023   : *T025 ( $ ) :
009      :              :           : *T024   :           :
010      *L012 -----:-----:-----:-----+
011      : *T013 OINT PEN :           :           :           :
012      *L011 -----:-----:-----:-----+

```

続く ...

ページ・セグメントの挿入

マーク : *S030 測定方式 : 行/桁

位置 左右 60 上下 1

ページ・セグメント . . . QFCLOGO 名前

F3= 終了 F4= 詳細 F6= 測定方式の変更
F12= 取り消し F24= キーの続き

処置例:

1. ページ・セグメントのプロンプトに QFCLOGO と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

注: 指定するページ・セグメントは、ここで探索されるのではなく、オーバーレイの印刷時に、ライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーにわたって探索されます。詳細については、445 ページの『ページ・セグメント』を参照してください。

マークが %S030 から *S030 に変更されて、要素が定義されたことを示します。

オーバーレイの設計 桁 : 1- 74

制御 . . . _____ ソース・オーバーレイ . STATIONERY

*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...

```

001                                     *S030
002                                     *T001 S STATIONERY CO., LTD.
003
004          *T002 RD STATIONERY SALES SLIP    DATE:  /  /
005          *L003 -----                    *L026 --
006
007      *B004 -----*L017 -----:-----*L020 -----+
008      :  *T021      : *T022 TY   : *T023   : *T025 ( $ ) :
009      :              :           : *T024   :           :
010      *L012 -----:-----:-----:-----+
011      : *T013 OINT PEN :           :           :           :
012      *L011 -----:-----:-----:-----+
013      : *T014      :           :           :           :
014      *L010 -----:-----:-----:-----+
015      : *T015      :           :           :           :
016      *L009 -----:-----:-----:-----+
017      : *T016      :           :           :           :

```

続く ...

F3= 終了 F6= テキスト F9= 線 F10= 枠
F11= バーコード F13= 挿入 F14= 変更 F24= キーの続き

処置例: F3 キーを押してオーバーレイの設計を完了してください。

「ソース・オーバーレイの変更」画面が表示されます。

```

                                     ソース・オーバーレイの変更
ファイル . . . . . : OVLFILE
ライブラリー . . . . . : OVLLIB
ソース・オーバーレイ . . . . . : STATIONERY

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1= 選択

OPT   処置
-     オーバーレイ仕様の定義
-     ソース・オーバーレイ・フォントの処理
-     オーバーレイの設計

F3= 終了   F5= 最新表示   F9= すべて選択
```

処置例: F3 キーを押してソース・オーバーレイの変更を終了してください。

「オーバーレイ・ユーティリティーの終了」画面が表示されます。

```

                                     オーバーレイ・ユーティリティーの終了
選択項目を入力して、実行キーを押してください。

オプション . . . . . 1      1= 保管して終了
                                     2= 保管しないで終了
                                     3= オーバーレイ・ユーティリテ
                                       ィー・セッションの再開

ソース・オーバーレイ・リストへの
戻り . . . . . Y      Y=YES, N=NO

F12= 取り消し
```


処置例:

1. オプション のプロンプトに 1 と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

「ソース・オーバーレイの保管」画面が表示されます。

ソース・オーバーレイの保管		
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
ソース・オーバーレイ	<u>STATIONERY</u>	名前, リストは F4
ファイル	<u>OVLFIL</u>	名前, リストは F4
ライブラリー	<u>OVLLIB</u>	名前, *CURLIB
テキスト '記述'	用紙番号 3 からのサンプル	
除去した要素の削除	<u>N</u>	Y=YES, N=NO

F4=プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し

処置例: 実行キーを押してください。

「オーバーレイの作成」画面が表示されます。

ソース・オーバーレイからのオーバーレイの作成

オーバーレイの作成		
ファイル	OVLFIL	
ライブラリー	OVLLIB	
ソース・オーバーレイ	STATIONERY	
テキスト	用紙番号 3 からのサンプル	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
オーバーレイの作成	<u>Y</u>	Y=YES, N=NO
オーバーレイ	<u>STATIONE</u>	名前
ライブラリー	<u>OVLLIB</u>	名前, *CURLIB
テキスト '記述'	用紙番号 3 からのサンプル	
格子の組み込み	<u>N</u>	Y=YES, N=NO
置き換え (存在の場合)	<u>N</u>	Y=YES, N=NO
オーバーレイの印刷	<u>N</u>	Y=YES, N=NO
権限	<u>*LIBCRTAUT</u>	名前, *LIBCRTAUT, *ALL *CHANGE, *EXCLUDE, *USE

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

この画面でオーバーレイを作成することができます。省略時の名前およびテキストは、オーバーレイ名を除いて、ソース・オーバーレイの場合と同じです。ソース・オーバーレイ名の最初の 8 文字が省略時のオーバーレイ名として使用されます。

処置例:

1. オーバーレイの作成 のプロンプトに Y と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

「ソース・オーバーレイの処理」画面が表示され、完了メッセージが出されます。メッセージ行の行末にある + 文字は、メッセージの続きがあることを示しています。この場合は、オーバーレイの作成に関する完了メッセージに続きがあります。

メッセージの続きを表示するには、カーソルをメッセージ行に移動し、「次ページ」キーを押してください。エラー・メッセージが表示されることもあるので、必ずメッセージの続きを表示してみてください。

ソース・オーバーレイの処理

ファイル	<u>OVLFIL</u>	名前, リストは F4
ライブラリー	<u>OVLLIB</u>	名前, *LIBL, *CURLIB
ソース・オーバーレイ . . .	<u>*ALL</u>	名前, 総称*, *ALL
位置指定	<u> </u>	開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1= 作成 2= 変更 3= コピー 4= 削除 6= 印刷 7= 名前の変更
9= オーバーレイの作成

ソース		
OPT オバ-レイ	テキスト	変更
— <u>STATIONERY</u>	用紙番号 3 からのサンプル	02/01/29
		終わり

パラメーターまたはコマンド
==>

F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F9= コマンドの複写
F11= 名前だけの表示 F12= 取り消し
ソース・オーバーレイ **STATIONERY** は正常にファイル **OVLFIL** に保管された。 +

処置例: F3 キーを押してください。

「IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries」メニューが表示されます。

ステップ 5 - オーバーレイの使用

オーバーレイが作成されると、AFP 文書アプリケーションでオーバーレイを挿入するには様々な方法があります。オーバーレイは、拡張印刷ユーティリティ、ページおよび用紙定義、AFP ToolBox API 用、および多数のサード・パーティー・アプリケーションにより、iSeries 印刷装置ファイル内で、DDS 出力仕様によって (OVERLAY キーワード使用) 参照することができます。AFP 文書のアプリケーション・オプションの詳細については、*iSeries AFP と印刷サービス機能の手引き*、SB88-5008 を参照してください。

印刷装置ファイルの変更

オーバーレイを印刷装置ファイルとともに使用するには、OVRPRTF コマンドを入力して、オーバーレイによって印刷装置ファイルを変更してください。

OVRPRTF コマンドの詳細については、*CL 解説書* を参照してください。

次の例では、印刷装置ファイル PRINTF を例として使用しています。ユーザー自身の印刷装置ファイルの名前を代りに使用しても構いません。

処置例:

1. コマンド行に OVRPRTF FILE(PRINTF) FRONTOVL(OVLLIB/STATIONE) と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

印刷装置ファイルの使用

オーバーレイが組み込まれているスプール・ファイルを作成するには、印刷装置ファイルを使用してください。印刷装置ファイルを使用するプログラムであれば、どれでも構いません。

次の例では、プログラム CRTPRT を使用してスプール・ファイルを作成しています。印刷装置ファイル PRINTF を使用するユーザー自身のプログラムの名前を使用してください。

処置例:

1. コマンド行に CALL CRTPRT と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

印刷装置ファイルを使用するプログラムがない場合には、次のようにシステム提供のプログラムでオーバーレイを使用することができます。

1. コマンド行に OVRPRTF FILE(QSYSVRT) FRONTOVL(OVLLIB/STATIONE) と入力してください。
2. 実行キーを押してください。
3. 「ページ印刷」キーを押してください。

「ページ印刷」キーを押すと、システム・プログラムでは、印刷装置ファイル QSYSVRT を使用して、表示されている画面のコピーを印刷します。こうして、表示中の画面のハード・コピーにオーバーレイ STATIONE が印刷されます。

印刷装置タイプが *AFPDS の場合は、印刷装置ファイルに対して DDS 資源のレコード様式のオーバーレイを指定することができます。詳細については、*iSeries Data Description Specifications Reference Version 2, SC41-9620* を参照してください。

AFP Utilities for iSeries を使用したオーバーレイの印刷

オーバーレイは、AFP Utilities for iSeries のメニュー・オプション 22 を使用して、オーバーレイ名の隣にオプション 6= 印刷を指定して印刷することができます。印刷出力形式定義によってオーバーレイを印刷するには、「PFD 定義の作成」または「PFD 定義の変更」のいずれかの画面にある「印刷出力形式定義」オプションを選択してください。さらに、前面オーバーレイと背面オーバーレイのオーバーレイ名とライブラリー名を指定してください。

第 4 章 オーバーレイ・ユーティリティの開始および終了

本章では、オーバーレイ・ユーティリティの開始および終了についての補足説明を記載します。

オーバーレイ・ユーティリティの開始

次のいずれかのコマンドをコマンド行に入力し、実行キーを押すことによって、オーバーレイ・ユーティリティを開始することができます。

1. **STRAFPU** (AFP ユーティリティ開始)
2. **STROVLU** (オーバーレイ・ユーティリティ開始)

STRAFPU を用いて開始した場合は、次の画面が表示されます。

```
AFPU                      IBM ADVANCED FUNCTION PRINTING UTILITIES

次の 1 つを選択してください。

  オーバーレイ・ユーティリティ
    1. ソース・オーバーレイの処理
    2. ソース・オーバーレイ・ファイルの処理

  印刷形式ユーティリティ
    11. PFD 定義の処理
    12. PFD 定義ファイルの処理
    13. データベース・ファイル・メンバーの印刷
    14. AFP ユーティリティの解説の印刷

  資源管理ユーティリティ
    21. ページ・セグメントへの変換
    22. オーバーレイの処理
    23. ページ・セグメントの処理

選択項目またはコマンド
===> _____

F3= 終了  F4=プロンプト  F9=コマンドの複写  F12= 取り消し  F16=システム・メイン・メニュー
(C) COPYRIGHT IBM CORP. 1991, 2001.
```

このメニューから次の 2 つのオーバーレイ・ユーティリティ機能を開始することができます。

オプション	機能
1	ソース・オーバーレイの処理
2	ソース・オーバーレイ・ファイルの処理

次に、上記のメニューで使用できるオプションを説明します。次のいずれかを選択するには、コマンド行にそのオプションの番号を入力し、実行キーを押してください。

オプション1 (ソース・オーバーレイの処理)

ソース・オーバーレイの処理を選択すると、次のことを行うことができます。

- ソース・オーバーレイの作成。 オプション番号とともにソース・オーバーレイ名を指定して、このオプションを開始します。
- ソース・オーバーレイの変更。
- ソース・オーバーレイのコピー。
- ソース・オーバーレイの削除。
- ソース・オーバーレイの印刷。
- ソース・オーバーレイの名前の変更。
- ソース・オーバーレイからのオーバーレイ・オブジェクトの作成。

詳細については、67 ページの『第 5 章 ソース・オーバーレイの処理』を参照してください。

オプション 2 (ソース・オーバーレイ・ファイルの処理)

ソース・オーバーレイ・ファイルの処理を選択すると、次のことを行うことができます。

- オプション番号とともにライブラリー名とソース・オーバーレイ・ファイル名を指定することによるソース・オーバーレイ・ファイルの作成。
- ソース・オーバーレイ・ファイル記述の変更。
- ソース・オーバーレイ・ファイルのコピー。
- ソース・オーバーレイ・ファイルの削除。
- ソース・オーバーレイ・ファイルの名前の変更。
- ソース・オーバーレイ・ファイルの記述の表示。
- 「ソース・オーバーレイの処理」画面の呼び出し。

詳細については、95 ページの『第 6 章 ソース・オーバーレイ・ファイルの処理』を参照してください。

STROVLU によって開始すると、67 ページに記載されている「ソース・オーバーレイの処理」画面が表示されます。 コマンドにソース・オーバーレイ名とオプション番号が指定してあると、「ソース・オーバーレイの処理」画面をスキップすることができます。

詳細については、411 ページの『第 21 章 AFP Utilities for iSeries 用のコマンド』を参照してください。

オーバーレイ・ユーティリティーの終了

オーバーレイ・ユーティリティーの処理が完了したら、F3 キーを繰り返し押してください。 STRAFPU コマンドを使用してオーバーレイ・ユーティリティーを開始した場合は、63 ページに示されているメニュー画面が表示されます。

STROVLU コマンドを使用してオーバーレイ・ユーティリティーを開始した場合は、67 ページに示してあるメニュー画面が表示されます。

オーバーレイ・ユーティリティを終了するには、もう一度 F3 キーを押します。
画面はオーバーレイ・ユーティリティを開始した画面に戻ります。

第 5 章 ソース・オーバーレイの処理

本章では、ソース・オーバーレイの処理オプションの詳細を説明します。

この画面では次の作業を選択することができます。

- ソース・オーバーレイの作成
- ソース・オーバーレイの変更
- ソース・オーバーレイのコピー
- ソース・オーバーレイの削除
- ソース・オーバーレイの名前の変更
- ソース・オーバーレイの印刷
- ソース・オーバーレイからのオーバーレイ・オブジェクトの作成

注: ソース・オーバーレイを作成する前に「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面で 1 (作成) を選択して、ソース・オーバーレイ・ファイルを作成しておく必要があります。

155 ページの「IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries」メニューで 1 (ソース・オーバーレイの処理) を入力し、実行キーを押します。「ソース・オーバーレイの処理」画面が表示されます。

ソース・オーバーレイの処理		
ファイル	OUFILE	名前, リストは F4
ライブラリー	OULIB	名前, *LIBL, *CURLIB
ソース・オーバーレイ . . .	*ALL	名前, 総称*, *ALL
位置指定		開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1= 作成 2= 変更 3= コピー 4= 削除 6= 印刷 7= 名前の変更
9= オーバーレイの作成

ソース	テキスト	変更
OPT	オーバーレイ	
-	OVL1	オーバーレイ 1 02/01/29
-	OVL2	オーバーレイ 2 02/01/29
-	OVL3	オーバーレイ 3 02/01/29
-	OVL4	オーバーレイ 4 02/01/29
		続く ...

パラメーターまたはコマンド
==>

F3= 終了 F4= プリント F5= 最新表示 F9= コマンドの複写
F11= 名前だけの表示 F12= 取り消し

以下の表は、「ソース・オーバーレイの処理」画面について説明しています。

プロンプト

表3. ソース・オーバーレイの処理プロンプト

フィールド名	説明
ファイル	リストおよび処理の対象となるソース・オーバーレイが入っているソース・オーバーレイ・ファイルを指定します。
ライブラリー	指定したライブラリーの中のソース・オーバーレイ・ファイルの選択リストに進むためには、F4 を押してください。 処理したいソース・オーバーレイが入っているソース・オーバーレイ・ファイルを含んだ、ライブラリーの名前を指定します。このフィールドで指定できるライブラリー値としては、次のものがあります。 *LIBL 処理したいソース・オーバーレイが入っているファイルはライブラリー・リストの中のいずれかのライブラリーにあることを指定します。 *CURLIB 処理したいソース・オーバーレイが入っているファイルは現行ライブラリーの中にあることを指定します。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。
ソース・オーバーレイ	ライブラリー名 処理したいソース・オーバーレイを入れたファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。 ファイルの中のソース・オーバーレイのすべて、またはファイルの中のソース・オーバーレイのサブセットを処理したいということを指定します。次の中から選択してください。 ソース・オーバーレイ名 (source overlay name) ソース・オーバーレイ名を指定すると、そのソース・オーバーレイ名を持つものだけがリストに表示されます。 総称名 (generic name) ソース・オーバーレイ名の部分名をアスタリスク (*) で修飾して指定すると、特定のサブセットのソース・オーバーレイが表示されます。総称名の形式は次のとおりです。 ABC* ABC、ABCD および ABCTEST など、文字 ABC で始まるソース・オーバーレイがリストに表示されます。 *ALL *ALL を指定すると、指定したファイルの中のソース・オーバーレイがすべて表示されます。 注: オプション 9 (オーバーレイの作成) を使用してオーバーレイ (オブジェクト) を作成すると、ソース・オーバーレイ名の最初の 8 文字がオーバーレイ (オブジェクト) 名に使用されます。残りの文字は廃棄されます。

表 3. ソース・オーバーレイの処理プロンプト (続き)

位置指定	<p>このプロンプトは、リストをすばやく位置変更するために使用します。リストのサブセット作成用ではありません。次の項目の中から 1 つを選択してください。</p> <p>*TOP これを指定すると、リストの上部に進みます。</p> <p>*BOT これを指定すると、リストの下部に進みます。</p> <p>名前または部分名 リストの中の進みたい先の名前または部分名を指定します。 リストは、指定したストリングで始まる最初の名前に位置指定されます。</p>
------	--

オプション

表4. ソース・オーバーレイの処理オプション

オプション	説明
1= 作成	<p>ソース・オーバーレイを作成します。</p> <p>新しいソース・オーバーレイを作成することができます。 <i>OPT</i> の欄に 1 を、リストの 1 行目に作成したいソース・オーバーレイの名前を入力してください。</p> <p>詳細については、73 ページの『1= ソース・オーバーレイの作成』を参照してください。</p> <p>注: ソース・オーバーレイを作成する前に「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面で 1 (作成) を選択して、ソース・オーバーレイ・ファイルを作成しておく必要があります。</p>
2= 変更	<p>ソース・オーバーレイを変更します。</p> <p>ソース・オーバーレイを変更し、それに同じ名前または新しい名前を付けて保管することができます。つまり、このオプションを使用して、既存のソース・オーバーレイに基づいた新しいソース・オーバーレイを作成することができます。ソース・オーバーレイは、別のソース・オーバーレイ・ファイルまたは別のライブラリーに保管することもできます。変更したいソース・オーバーレイの名前の隣の <i>OPT</i> の欄に 2 と入力してください。</p> <p>詳細については、87 ページの『2= ソース・オーバーレイの変更』を参照してください。</p>
3= コピー	<p>ソース・オーバーレイを新しいソース・オーバーレイにコピーします。</p> <p>ソース・オーバーレイを別のファイル、または別のライブラリー、あるいはその両方にコピーすることもできます。コピーしたいソース・オーバーレイの名前の隣の <i>OPT</i> の欄に 3 と入力してください。</p> <p>詳細については、88 ページの『3= ソース・オーバーレイのコピー』を参照してください。</p>
4= 削除	<p>ソース・オーバーレイ・ファイルからソース・オーバーレイを削除します。</p> <p>実際に削除する前に、次の画面でこの選択内容を確認することができます。削除したいソース・オーバーレイの名前の隣の <i>OPT</i> の欄に 4 と入力してください。</p> <p>詳細については、90 ページの『4= ソース・オーバーレイの削除』を参照してください。</p>
6= 印刷	<p>ソース・オーバーレイを印刷します。</p> <p>印刷したいソース・オーバーレイの名前の隣の <i>OPT</i> の欄に 6 と入力してください。</p> <p>詳細については、91 ページの『6= ソース・オーバーレイの印刷』を参照してください。</p>

表 4. ソース・オーバーレイの処理オプション (続き)

7= 名前の変更	ソース・オーバーレイの名前を変更します。 変更したいソース・オーバーレイの名前の隣の <i>OPT</i> の欄に 7 と入力してください。 詳細については、91 ページの『7= ソース・オーバーレイの名前の変更』を参照してください。
9= オーバーレイの作成	ソース・オーバーレイからオーバーレイ・オブジェクトを作成します。 オーバーレイ・オブジェクトを作成する基にしたいソース・オーバーレイの名前の隣の <i>OPT</i> の欄に 9 と入力してください。 詳細については、91 ページの『9= オーバーレイの作成』を参照してください。

表5. ソース・オーバーレイの処理欄

フィールド名	説明
Opt	作業を行いたいソース・オーバーレイの隣の <i>OPT</i> のプロンプトに作業の番号を指定します。
ソース・オーバーレイ	同じオプションを複数のソース・オーバーレイの隣に同時に入力しても、異なるオプションを別々のソース・オーバーレイの隣に同時に入力しても構いません。 指定したファイルの中であって、サブセット基準に適合するすべてのソース・オーバーレイのリストを表示します。リストの最上部の位置を使用して、作成したいソース・オーバーレイ、または別のオプションを選択したいソース・オーバーレイを入力することができます。
テキスト 変更	ソース・オーバーレイのテキスト記述が表示されます。 ソース・オーバーレイを最後に変更した日付が示されます。

ソース・オーバーレイ・リストの表示

ライブラリー のプロンプトおよびファイル のプロンプトを指定することによって、ソース・オーバーレイを画面の下部にリストすることができます。リストの内容を変更したいときには、ファイルとライブラリーの名前を指定して実行キーを押します。位置指定 プロンプトに開始文字を指定することによって、画面上でリストのページ送りまたはページ戻しを行うことができます。

注: ソース・オーバーレイ プロンプト、ファイル プロンプト、またはライブラリー プロンプトのいずれかを指定すると、*OPT* 欄にオプションを指定することはできません。

ソース・オーバーレイのリストからの選択

画面のリストには、ファイル のプロンプトで指定されたソース・オーバーレイ・ファイルの中のすべての、または指定されたサブセットのソース・オーバーレイの名前が入っています。リストには、ソース・オーバーレイを記述するテキスト、およびソース・オーバーレイが最後に変更された日付も示されます。

リストが表示されている時は、リストの右下に 1 語からなる標識が必ず現れ、今表示されているのがそのリスト内のどこにあたるかを示します。続く...は、今表示されている項目の後に項目が続くことを意味します。終わりは、今表示されているのがそのリストの終わりであることを意味します。

リストを正方向または逆方向に移動するには、「次ページ」キーまたは「前ページ」キーを使用してください。

ソース・オーバーレイを作成する場合には、新しい名前を選択する前に、このリストを調べて、すでに使用されている名前を確認することができます。最初のリスト位置に 1 およびソース・オーバーレイ名を入力するとソース・オーバーレイを作成することができます。また、1 (作成) 以外のいずれかのオプションを使用すると、他のソース・オーバーレイをリストから選択することができます。

したがって、次のいずれか一方または両方を行うことによって、1 つまたは複数の名前を選択することができます。

- 使用したいリスト内のソース・オーバーレイ名の隣の *OPT* の欄に、使用するオプション (作業) の番号を入力します。
- リストの最初 (最上部) の位置に限り、*OPT* およびソース・オーバーレイ の欄に、それぞれオプション番号 (作業の) およびソース・オーバーレイ名を入力します。

注: 新しいソース・オーバーレイの名前を指定することによってこの画面からソース・オーバーレイを作成することができます。ただし、この画面からソース・オーバーレイ・ファイルを作成することはできません。ソース・オーバーレイ・ファイルを作成するには、「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面を使用してください。ソース・オーバーレイ・ファイル用のライブラリーがない場合は、「ライブラリー作成」 (**CRTL**) コマンドを使用して、ライブラリーを作成してください。

1= ソース・オーバーレイの作成

ソース・オーバーレイを作成するには、67 ページの画面で以下に挙げることを行ってください。

1. リストの1行目の *OPT* の欄に 1 と入力する。
2. リストの 1 行目のソース・オーバーレイ の欄にソース・オーバーレイ名を入力する。
3. 実行キーを押す。

「ソース・オーバーレイの作成」画面が表示されます。

ソース・オーバーレイの作成

ファイル : OUFIL
ライブラリー : OULIB
ソース・オーバーレイ : OVLI

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1= 選択

OPT	処置
-	オーバーレイ仕様の定義
-	ソース・オーバーレイ・フォントの処理
<u>1</u>	オーバーレイの設計

F3= 終了 F5= 最新表示 F9= すべて選択 F12= 取り消し

この画面でソース・オーバーレイを作成することができます。この画面の *OPT* の欄に 1 を入力することによって、「オーバーレイ仕様の定義」画面、「ソース・オーバーレイ・フォントの処理」画面、または「オーバーレイの設計」画面に進むことができます。

フィールド名	説明
ファイル	作成中のソース・オーバーレイを入れるソース・オーバーレイ・ファイル名を示します。
ライブラリー	作成中のソース・オーバーレイを入れるソース・オーバーレイ・ファイルが入っているライブラリー名を示します。
ソース・オーバーレイ	作成中のソース・オーバーレイ名を示します。
1 = 選択	<i>OPT</i> の欄に 1 と入力することによって、1 つの処置またはいくつかの処置を実行することができます。
Opt	実行したい処置の隣の <i>OPT</i> の欄に 1 を指定します。
処置	<i>OPT</i> の欄に 1 と入力したときにシステムによって実行される処置を示します。

オーバーレイ仕様の定義

各ソース・オーバーレイは、それ自身を記述する様々な仕様をもっています。これらの仕様は、オーバーレイの設計を通して IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries で使用されます。これらの仕様は、オフセット位置および回転の角度など、ユーザー・データにオーバーレイを組み合わせる方法を決めるためにも使用されます。

オーバーレイ仕様の定義

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

印刷装置タイプ	<u>*DEFAULT</u>	*DEFAULT, 1 - 9999
1 インチ当たりの文字数	<u>10.00</u>	5.00, 10.00, 12.00, 13.30, 15.00 16.70, 18.00, 20.00
1 インチ当たりの行数	<u>6.00</u>	3.00, 4.00, 6.00, 7.50, 8.00, 9.00 12.00
回転の角度	<u>0</u>	0, 90, 180, 270
DBCS の S0/SI のスペース . . .	<u>Y</u>	Y=YES, N=NO

続く ...

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

オーバーレイ仕様の定義

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

測定単位	<u>1</u>	1= インチ, 2= センチメートル
データ要素:		
測定方式	<u>1</u>	1= 行/桁, 2= インチ/センチメートル
サイズ:		
測定方式	<u>1</u>	1= 行/桁, 2= インチ/センチメートル
幅	<u>80</u>	1-999
高さ	<u>60</u>	1-999
オフセット:		
測定方式	<u>1</u>	1= 行/桁, 2= インチ/センチメートル
左右	<u>0</u>	0-999
上下	<u>0</u>	0-999
格子線:		
測定方式	<u>1</u>	1= 行/桁, 2= インチ/センチメートル
左右	<u>10</u>	1-999
上下	<u>6</u>	1-999

終わり

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

「オーバーレイ仕様の定義」画面を使用して、オーバーレイ仕様を定義することができます。

この画面で指定された情報が使用されるのは、次の場合です。

- オーバーレイの設計時に、そのサイズを調べ、印刷装置のタイプに適用可能かどうかを調べるため。

- オーバーレイ・オブジェクトの作成時に、適切なデータ・ストリームを生成するため。

フィールド名	説明																
印刷装置タイプ	<p>使用する印刷装置のタイプを指定します。</p> <table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>4224, 4234, 4230</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>3812, 3816, 3930</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3916, 4028</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>3820, 3825, 3827, 3829, 3835, 3900</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>3825, 3835, 3900 (高機能イメージおよびグラフィックス機能付き)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>3831</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>3935</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>指定しない</td> </tr> </table> <p>指定した値は、次のことに使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 各要素が印刷装置によってサポートされているかどうかを検査する。 • 各印刷装置に適したデータ・ストリームを作成する。 <p>9 または *DEFAULT が選択されると、印刷装置に関する以下の属性を確認もしくは変更するための、別のパネルが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 画素密度 • グラフィックス • テキストのカラー • カラーの陰影付け • DBCS 用の上下右から左様式 • PTOCA Tower 2、下線、重ね打ち、文字拡張 • BCOCA、バーコード・オブジェクト・コンテンツ体系 <p>印刷装置の相違については、475 ページの『付録 A. 印刷装置の特性』を参照してください。</p>	1	4224, 4234, 4230	2	3812, 3816, 3930	3	3916, 4028	4	3820, 3825, 3827, 3829, 3835, 3900	5	3825, 3835, 3900 (高機能イメージおよびグラフィックス機能付き)	6	3831	7	3935	9	指定しない
1	4224, 4234, 4230																
2	3812, 3816, 3930																
3	3916, 4028																
4	3820, 3825, 3827, 3829, 3835, 3900																
5	3825, 3835, 3900 (高機能イメージおよびグラフィックス機能付き)																
6	3831																
7	3935																
9	指定しない																
1 インチ当たりの文字数	<p>桁の幅を指定します。たとえば、12 CPI の場合、各桁の幅は 1/12 インチになります。有効値は、5.00、10.00、12.00、13.30、15.00、16.70、18.00、および 20.00 です。</p> <p>この値は、測定方式が行/桁のときに、横方向の位置 (桁) を決めるために使用されます。</p> <p>この値は、枠要素のテキストの横方向の位置を指定するためにも使用されます。</p>																

フィールド名	説明
1 インチ当たりの行数	<p>行間の距離を指定します。たとえば、8 LPI は、行の下端と次の行の下端との間隔が 1/8 インチであることを意味します。有効値は、3.00、4.00、6.00、7.50、8.00、9.00、および 12.00 です。</p> <p>この値は、測定方式が行/桁のときに、縦方向の位置 (行) を決めるために使用されます。</p> <p>この値は、枠要素のテキストの縦方向の位置を指定するためにも使用されます。</p>
回転の角度	<p>オーバーレイの時計まわりの回転角度に、0、90、180 または 270 を指定します。</p>
DBCS の SO/SI のスペース	<p>シフトアウト (SO) およびシフトイン (SI) 文字を、ブランクとして印刷するかどうかを指定します。</p> <p>Y (YES) テキスト・データの中のシフトアウト文字およびシフトイン文字がブランク文字として印刷されます。</p> <p>N (NO) テキスト・データの中のシフトアウト文字およびシフトイン文字は印刷されません。これらの文字は印刷出力ではスペースをとりません。</p>
測定単位	<p>注: DBCS の SO/SI のスペースを指定することができるのは、ファイルが DBCS 使用可能ファイルの場合だけです。</p> <p>使用する測定単位を指定します。</p> <p>1 インチ</p> <p>2 センチメートル</p>
データ要素の測定方式	<p>テキスト、線、枠、バーコード、グラフィックス、またはページ・セグメントなどの要素を定義あるいは挿入する際に使用する初期の測定方式を指定します。測定方式は、要素の定義および要素の変更のパネル上で変更することができます。</p> <p>指定できる値を以下に示します。</p> <p>1 初期の測定方式は、行/桁が使用されます。</p> <p>2 初期の測定方式は、測定単位で指定された値に応じて、インチかセンチメートルのいずれかが使用されます。</p>
サイズ	<p>オーバーレイのサイズを次のものによって指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 測定方式 • 幅 • 高さ
測定方式	<p>オーバーレイ・サイズを指定するのに使用する測定方式を指定します。</p> <p>指定できる値を以下に示します。</p> <p>1 行/桁が測定方式として使用されます。</p> <p>2 測定単位 で指定された値に応じて、インチかセンチメートルのいずれかが測定方式として使用されます。</p> <p>注: 測定方式と後続のフィールドの両方を変更する場合は、後続のフィールドを変更する前に、まず測定方式の値を変更し、実行キーを押しておく必要があります。</p>

フィールド名	説明
幅	<p>オーバーレイの横方向のサイズを指定します。</p> <p>指定できる値を以下に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1 ~ 999 (桁) • 0.10 ~ 22.25 (インチ)
高さ	<p>オーバーレイの縦方向のサイズを指定します。</p> <p>指定できる値を以下に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1 ~ 999 (行) • 0.10 ~ 22.25 (インチ) • 0.10 ~ 57.79 (センチメートル)
オフセット	<p>ページ内におけるオーバーレイのオフセットを次のものによって指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 測定方式 • 左右 • 上下
測定方式	<p>オフセットに使用される測定方式を指定します。</p> <p>指定できる値を以下に示します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 行／桁が測定方式として使用されます。 2 測定単位 で指定された値に応じて、インチかセンチメートルのいずれかが測定方式として使用されます。 <p>注: 測定方式と後続のフィールドの両方を変更する場合は、後続のフィールドを変更する前に、まず測定方式の値を変更し、実行キーを押しておく必要があります。</p>
左右	<p>論理ページの左端から、作成されるソース・オーバーレイの起点までの横方向の距離を指定します。</p> <p>指定できる値を以下に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 ~ 999 (桁) • 0 ~ 22.25 (インチ) • 0 ~ 57.79 (センチメートル)
上下	<p>論理ページの上端から作成するオーバーレイの起点までの縦方向の距離を指定します。</p> <p>指定できる値を以下に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 ~ 999 (行) • 0 ~ 22.25 (インチ) • 0 ~ 57.79 (センチメートル)
格子	<p>格子線の間隔を次のものによって指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 測定方式 • 左右 • 上下

フィールド名	説明
測定方式	<p>格子に使用される測定方式を指定します。</p> <p>指定できる値を以下に示します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 行／桁が測定方式として使用されます。 2 測定単位 で指定された値に応じて、インチかセンチメートルのいずれかが測定方式として使用されます。 <p>注: 測定方式と後続のフィールドの両方を変更する場合は、後続のフィールドを変更する前に、まず測定方式の値を変更し、実行キーを押しておく必要があります。</p> <p>設計作業に役立つように、印刷出力に横線および縦線を印刷するよう指定することができます。後続のフィールドで格子線の上下および左右の間隔を指定します。</p>
左右	<p>格子の縦線の左右の間隔を指定します。</p> <p>指定できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1 ~ 999 (行) • 0.10 ~ 22.25 (インチ) • 0.10 ~ 57.79 (センチメートル)
上下	<p>格子の横線の上下の間隔を指定します。</p> <p>指定できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1 ~ 999 (行) • 0.10 ~ 22.25 (インチ) • 0.10 ~ 57.79 (センチメートル)

オーバーレイ・ユーティリティーによって、オーバーレイ仕様を定義するのに必要な情報が表示されます。該当する値を入力し、実行キーを押して、オーバーレイ仕様を設定することができます。

オーバーレイ仕様の変更

既存のオーバーレイのオーバーレイ仕様を変更したり、あるいは既存のソース・オーバーレイを変更して、それを基にした新しいオーバーレイを作成することもできます。同じソース・オーバーレイ内で、前に定義した要素と変更したオーバーレイ仕様間で矛盾が生じることがあります。下記の場合に起こります。

注: 変更操作は作成操作と似ています。唯一の相違点は、表示画面が現れるときに、前に入力されたパラメーターが各フィールドにすでに入っているということです。各パラメーターについては、75 ページの『オーバーレイ仕様の定義』を参照してください。

• オーバーレイ・サイズの縮小

オーバーレイ・サイズを前に定義した値よりも小さくしようとすると、オーバーレイ要素によっては新しく定義したオーバーレイからはみ出してしまう場合もあります。オーバーレイ・サイズは、常にオーバーレイの起点、つまり左上角から測定されます。たとえば、前のオーバーレイの右端か下端の近くに置かれていた

オーバーレイ要素は、新しく定義したオーバーレイの外にはみ出してしまふことがあります。このような場合、その位置がオーバーレイの境界から外にはみ出していれば、要素は削除されます。

そのような状況が生じた場合は、オーバーレイ・ユーティリティーによって確認画面が表示されるので、要素の削除操作を実行するか、またはオーバーレイ仕様の変更操作を取り消すことができます。詳細については、82ページの『要素の削除の確認』を参照してください。

- 単位の変更

オーバーレイ・ユーティリティーでは、オーバーレイ仕様の中の測定単位をインチかセンチメートルのどちらかに変更することができます。各要素ごとに定義されている数字は変更されません。したがって、要素によっては、サイズに指定されている値がその測定単位で指定できる最大値を超えた場合、オーバーレイからはみ出すものがあります。また、モジュールの幅など、値がパラメーターの下限を超えてしまう場合もあります。

- 印刷装置タイプの変更

オーバーレイ・ユーティリティーでは、オーバーレイ仕様の中の印刷装置タイプを変更することができます。オーバーレイ・ユーティリティーは、前に定義されているオーバーレイ要素と新しく指定された印刷装置タイプとの互換性を検査します。オーバーレイ・ユーティリティーが印刷装置に合わない要素を見つけた場合は、確認画面を表示し、それらの要素を画面にリストします。この場合には、その要素を削除することや、オーバーレイ仕様の変更を取り消すことができます。

オーバーレイ仕様のパラメーター値を変更することによって、要素のパラメーター値が正しくなくなった場合は、警告メッセージが表示されます。実行キーを押してこれらの要素のパラメーター値を調整することも、オーバーレイ仕様のパラメーター値を変更してエラーを訂正することもできます。

次の表は、警告メッセージの原因および結果を記載したものです。

表6. メッセージの原因とその結果

原因	結果
測定単位 が 1 = インチ から 2 = センチメートルに変更され、モジュールの幅 の値が小さくなり過ぎている。たとえば、0.001 インチは 0.001 センチメートルになる。	正しい最小値 0.003 センチメートルが使用される。
測定単位 が 2 = センチメートルから 1 = インチに変更され、モジュールの幅 または線幅 が大きくなり過ぎている。たとえば 2 センチは 2 インチになる。	正しい最大値 1 インチが使用される。
印刷装置のタイプ が 1=4224/4234/4230 または 9= 指定しないが別のタイプに変更され、カラー の値が正しくなくなる。たとえば、1=青は正しくない。	値 *DEFAULT が使用される。
印刷装置のタイプ が別のタイプから 1=4224/4234/4230、 2=3812/3816/3930、 3=3916/4028、 または 7=3935 に変更され、様式 の値が正しくなくなっている。たとえば、2=上下は正しくない。	値 1 = 左右が使用される。
印刷装置タイプ が 1=4224/4234/4230、 2=3812/3816、 3=3916/4028、 7=3935、または 9=指定しないから別のタイプに変更され、重ね打ち の値が正しくなくなっている。たとえば、X は正しくない。	ブランクが使用される。
印刷装置のタイプ が 1=4224/4234/4230、 2=3812/3816/3930、 3=3916/4028、 7=3935、または 9=指定しないから別のタイプに変更され、下線 の値が正しくなくなる。たとえば、Y は正しくない。	値 N が使用される。
印刷装置のタイプ が 1=4224/4234/4230、 2=3812/3816/3930、 3=3916/4028、 7=3935、または 9=指定しないから別のタイプに変更され、文字サイズ の値が正しくなくなっている。たとえば、1 は正しくない。	値 *DEFAULT が使用される。

要素の削除の確認

要素の削除の確認

削除の選択項目が正しい場合には、実行キーを押してください。
 選択項目を変更するためには、F12 キーを押して戻ってください。

マーク	名前	左右の 位置 指定	上下の 位置 指定	理由
*T001		135	4	オーバーレイ外
*T012		18.03	0.42	オーバーレイ外
*T013		18.03	0.83	オーバーレイ外
*T014		18.03	1.24	オーバーレイ外
*L020		17.00	1.50	オーバーレイ外
*B021		2.10	1.50	オーバーレイ外
*S026	LOGO	136	1	オーバーレイ外
*B029		2.12	12.23	オーバーレイ外
*G031	GDF1	5.60	1.85	印刷装置タイプによってサポートされていない

終わり

F12= 取り消し

「要素の削除の確認」画面には、オーバーレイ仕様の変更が原因で削除されることになる要素がリストされます。理由の欄には、要素が削除される理由が示されます。

このような要素は、実行キーを押すことによって削除することができます。これらの要素を削除したくない場合は、F12 を押して取り消すと、「オーバーレイ仕様の定義」画面が表示されます。

表7. 「要素の削除の確認」画面のフィールド

フィールド名	説明
マーク	削除される要素の要素マークを示します。マークは、アスタリスク (*), 要素タイプを示す文字、3桁の番号 (001~ 999)、およびブラケットで構成されます。各要素タイプを表す文字は次のとおりです。 T テキスト L 線 B 枠 C バーコード S ページ・セグメント G グラフィックス
名前	「要素明細の定義」画面で指定された要素名を示します。
左右の指定位置	オーバーレイ要素の左右の開始位置を示します。
上下の指定位置	オーバーレイ要素の上下の開始位置を示します。

表7. 「要素の削除の確認」画面のフィールド (続き)

フィールド名	説明
理由	<p>要素を削除する理由を示します。</p> <p>以下に値を示します。</p> <p>オーバーレイ外</p> <p>要素の横方向の位置または縦方向の位置 (あるいはその両方) がオーバーレイのサイズ内に収まっていません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 要素がテキスト、バーコード、またはページ・セグメントである場合は、その開始位置がはみ出ている。 要素が、線、枠、またはグラフィックスの場合は、その右下隅がはみ出ている。 <p>印刷装置タイプによってサポートされていない</p> <p>要素が使用する機能が、指定された印刷装置タイプでサポートされていません。</p> <p>要素がグラフィックスである場合には、印刷装置はグラフィックスを印刷する機能をサポートしていません。</p>

ソース・オーバーレイ・フォントの処理

「ソース・オーバーレイのフォントの処理」画面が表示されます。フォントの処理操作については、335 ページの『第 14 章 フォントの処理』を参照してください。

オーバーレイの設計

「オーバーレイの設計」画面でソース・オーバーレイを設計することができます。ソース・オーバーレイでは、次の要素を定義することができます。

- テキスト
- 線
- 枠
- バーコード
- ページ・セグメント
- グラフィックス

ソース・オーバーレイの設計操作の詳細については、251 ページの『第 13 章 設計操作』を参照してください。

ソース・オーバーレイの保管

ソース・オーバーレイを作成したら、次の手順に従ってソース・オーバーレイを保管してください。

ステップ 1. 「オーバーレイの設計」画面で F3 キーを押してください。

ステップ 2. 「ソース・オーバーレイの作成」画面が表示されます。

F3 キーを押してください。

ステップ 3. 次の画面が表示されます。

ステップ4. オプション のプロンプトに 1 と入力し、実行キーを押してください。
「ソース・オーバーレイの保管」画面が表示されます。

ソース・オーバーレイの保管

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ソース・オーバーレイ	OVL1	名前, リストは F4
ファイル	OUFILE	名前, リストは F4
ライブラリー	OULIB	名前, *CURLIB
テキスト'記述'	オーバーレイ 1	
除去した要素の削除		
	N	Y=YES, N=NO

F4=プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し

「ソース・オーバーレイの保管」画面では、以下を指定することができます。

表8. 「ソース・オーバーレイの保管」画面のフィールド

フィールド名	説明
ソース・オーバーレイ	前に選択したソース・オーバーレイ名が省略時の値として表示されます。
ファイル	作成中のソース・オーバーレイに指定した省略時のファイル名が表示されます。またはソース・オーバーレイを保管したいソース・オーバーレイ・ファイルの名前を指定します。
ライブラリー	作成中のソース・オーバーレイに指定した省略時のファイル名が表示されます。またはソース・オーバーレイを保管したいライブラリー名を指定します。
テキスト '記述'	ソース・オーバーレイの記述を指定します。
除去した要素の削除	除去した要素を削除するには、Y を指定します。他の要素の各要素マーク中の番号は付け直されます。それから、オーバーレイ・ユーティリティーによってオーバーレイが保管されます。 除去した要素を削除しない場合は N を指定します。 省略時の値は N です。 除去した要素とは、要素除去機能を使って除去した要素のことです。除去した要素は、画面ビューでは表示されませんが、リスト・ビューでは要素タイプの後にアスタリスク (*) 付きで表示されます。除去した要素は、リスト・ビューで復元 (S) コマンドを使用して回復することができます。
	注: 「ソース・オーバーレイの保管」のフィールドのすべて、またはいずれかを変更することができます。

- ステップ 5. この画面での操作を完了し、実行キーを押すと、「オーバーレイの作成」画面が表示されます。
- ステップ 6. 実行キーを押してください。「ソース・オーバーレイの処理」画面が表示されます。

2= ソース・オーバーレイの変更

ソース・オーバーレイを変更するには、67 ページの「ソース・オーバーレイの処理」画面で次のことを行ってください。

1. 変更したいソース・オーバーレイの隣の *OPT* の欄に 2 と入力する。
2. 実行キーを押す。

「ソース・オーバーレイの変更」画面が表示されます。

ソース・オーバーレイの変更

ファイル : OUFIL
ライブラリー : OULIB
ソース・オーバーレイ : OVL6

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1= 選択

OPT	処置
-	オーバーレイ仕様の定義
-	ソース・オーバーレイ・フォントの処理
<u>1</u>	オーバーレイの設計

F3= 終了 F5= 最新表示 F9= すべて選択 F12= 取り消し

「ソース・オーバーレイの変更」画面を使用して、ソース・オーバーレイを作成するのと同じ要領で、上記の画面で処置を選択することによって、既存のソース・オーバーレイを変更することができます。詳細については、73 ページの『1= ソース・オーバーレイの作成』を参照してください。

3= ソース・オーバーレイのコピー

ソース・オーバーレイをコピーするには、67 ページの「ソース・オーバーレイの処理」画面で次のことを行ってください。

1. コピーしたいソース・オーバーレイの隣の *OPT* の欄に 3 と入力する。
2. 実行キーを押す。

「ソース・オーバーレイのコピー」画面が表示されます。

ソース・オーバーレイのコピー

FROM ファイル :	OUFIL	
ライブラリー :	OULIB	
ソース・オーバーレイ :	OVL1	
テキスト :	オーバーレイ 1	

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

T0 ファイル :	OUFIL	名前, リストは F4
ライブラリー :	OULIB	名前, *CURLIB, *LIBL
ソース・オーバーレイ :	OVL2	名前
テキスト '記述' :	オーバーレイ 2	

F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し

「ソース・オーバーレイのコピー」画面を使用して、ソース・オーバーレイを同じファイルまたはライブラリー、あるいは別のファイルまたはライブラリーの中のソース・オーバーレイにコピーすることができます。

「ソース・オーバーレイのコピー」機能が呼び出されると、FROM ファイル名、FROM ライブラリー名、および FROM ソース・オーバーレイの名前を示す画面が表示されます。また、コピー先のファイル名、ライブラリー名、およびソース・オーバーレイ名に、同じ FROM ファイル名、FROM ライブラリー名、およびソース・オーバーレイ名が表示されます。

コピー要求が正しく実行されるには、「プロンプト」画面に表示された値が固有のものでなければなりません。

表9. 「ソース・オーバーレイのコピー」画面のフィールド

フィールド名	説明
FROM ファイル	コピーする元のソース・オーバーレイが入っているソース・オーバーレイ・ファイルの名前を示します。
ライブラリー	コピーする元のソース・オーバーレイを含んだファイルが入っているライブラリーの名前を示します。
ソース・オーバーレイ	コピーする元のソース・オーバーレイの名前を示します。
テキスト	コピーする元のソース・オーバーレイのテキスト記述を示します。
TO ファイル	コピーされたオーバーレイを受け取るのに適したソース・オーバーレイ・ファイル名の選択リストを表示するには、F4 キーを押します。この画面の TO ファイルには、FROM ファイル名と同じファイル名、コピー元のライブラリー名と同じライブラリー名、およびソース・オーバーレイ名と同じ名前が表示されます。ソース・オーバーレイがコピー元ファイルと同じファイルにコピーされる場合は、省略時の TO ファイル名およびライブラリー名のままにしておいてください。
FROM ライブラリー	コピーされるソース・オーバーレイを含むライブラリーの名前を指定します。
TO ライブラリー	コピーされたソース・オーバーレイを受け取るライブラリーの名前を指定します。
	このフィールドで指定できる値を、次に示します。
	*LIBL コピーされたソース・オーバーレイが入るファイルは、ライブラリー・リストのいずれかのライブラリーに入っているということを指定します。
	*CURLIB コピーされたソース・オーバーレイが入るファイルは、現行ライブラリーに入っているということを指定します。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。
	ライブラリー名 ソース・オーバーレイをコピーしたい先の特定のライブラリー名を指定します。
ソース・オーバーレイ	コピーする先の新しいソース・オーバーレイを指定します。このフィールドには、コピー元のソース・オーバーレイ名と同じソース・オーバーレイ名が表示されます。ソース・オーバーレイを同じソース・オーバーレイ名で異なるファイル、または別のライブラリーにコピーしたい場合は、省略時の値のままにしておいてください。
テキスト '記述'	このフィールドには、ソース・オーバーレイの短い記述を指定するか、あるいはコピー元のソース・オーバーレイの記述と同じ記述を付けてソース・オーバーレイをコピーしたい場合には省略時値のままにしておきます。この記述は、ソース・オーバーレイとともに保管され、ソース・オーバーレイをリストするときに表示されるため、ソース・オーバーレイを識別するのに役立ちます。

選択項目を入力し終えたら、実行キーを押してください。

4= ソース・オーバーレイの削除

ソース・オーバーレイを削除するには、67 ページの「ソース・オーバーレイの処理」画面で次のことを行ってください。

1. 削除したいソース・オーバーレイの隣の *OPT* の欄に 4 を入力する。
画面上では複数のソース・オーバーレイを選択することができます。
2. 実行キーを押す。

「ソース・オーバーレイの削除の確認」画面が表示されます。

ソース・オーバーレイの削除の確認

ファイル : OUFIL
ライブラリー : OULIB

「4= 削除」の選択項目が正しい場合には、実行キーを押してください。
選択項目を変更するためには、F12 キーを押して戻ってください。

ソース		テキスト	変更
OPT	オバ-レイ		
4	OVL2	オーバーレイ 2	02/01/29
4	OVL3	オーバーレイ 3	02/01/29
4	OVL4	オーバーレイ 4	02/01/29

終わり

F11= 名前だけの表示 F12= 取り消し

この画面には、前の画面で削除するように指定したソース・オーバーレイが、確認のためにすべてリストされます。実行キーを押して削除する選択項目を確定すると、これらのソース・オーバーレイは削除されます。それらのソース・オーバーレイを削除したくない場合には、F12 を押して前の画面へ戻り、選択内容を変更してください。

フィールド名	説明
ファイル	ソース・オーバーレイが入っているソース・オーバーレイ・ファイルの名前が表示されます。
ライブラリー	削除するために選択したソース・オーバーレイを含んでいるソース・オーバーレイ・ファイルが入っているライブラリーの名前が表示されます。
Opt	確認画面を表示させた削除オプションを示す <i>OPT</i> 欄。この画面では、オプション番号は常に 4 です。
ソース・オーバーレイ	削除することを選択したすべてのソース・オーバーレイがリストされます。
テキスト	ソース・オーバーレイのテキスト記述が表示されます。
変更	ソース・オーバーレイを最後に変更した日付が表示されます。

ソース・オーバーレイを削除するには、実行キーを押してください。

6= ソース・オーバーレイの印刷

ソース・オーバーレイを印刷するには、67 ページの「ソース・オーバーレイの処理」画面で次のことを行ってください。

1. ソース・オーバーレイの隣の *OPT* の欄に 6 と入力する。
2. 実行キーを押す。

指定したソース・オーバーレイが印刷されます。

7= ソース・オーバーレイの名前の変更

ソース・オーバーレイの名前の変更をするには、67 ページの「ソース・オーバーレイの処理」画面で次のことを行ってください。

1. ソース・オーバーレイの隣の *OPT* の欄に 7 と入力する。
2. 実行キーを押す。

「メンバー名の変更」画面が表示されます。新規メンバーのプロンプトにソース・オーバーレイの新しい名前を入力してください。

9= オーバーレイの作成

ソース・オーバーレイからオーバーレイ・オブジェクトを作成するには、67 ページの「ソース・オーバーレイの処理」画面で以下を行ってください。

1. ソース・オーバーレイの隣の *OPT* の欄に 9 と入力する。
2. 実行キーを押す。

「オーバーレイの作成」画面が表示されます。

```

                                オーバーレイの作成
ファイル . . . . . : OUFIL
ライブラリー . . . . . : OULIB
ソース・オーバーレイ . . . . . : OVL1
テキスト . . . . . :   オーバーレイ 1

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

  オーバーレイの作成 . . . . . Y           Y=YES, N=NO
  オーバーレイ . . . . . OVL1           名前
  ライブラリー . . . . . OULIB        名前, *CURLIB
  テキスト '記述' . . . . . オーバーレイ 1

-----
  格子の組み込み . . . . . N           Y=YES, N=NO
  置き換え (存在の場合) . . . . . N       Y=YES, N=NO
  オーバーレイの印刷 . . . . . N         Y=YES, N=NO
  権限 . . . . . *LIBCRTAUT         名前, *LIBCRTAUT, *ALL
                                           *CHANGE, *EXCLUDE, *USE

F3= 終了   F5= 最新表示   F12= 取り消し
```

この画面を使用すると、オーバーレイ・ユーティリティーを使用して作成したソース・オーバーレイから、オーバーレイ・オブジェクトを作成することができます。

フィールド名	説明
ファイル	ソース・オーバーレイが入っているソース・オーバーレイ・ファイル名を示します。
ライブラリー	処理中のソース・オーバーレイが存在するソース・オーバーレイ・ファイルが入っているライブラリー名を示します。
ソース・オーバーレイ	処理中のソース・オーバーレイ名を示します。
テキスト	ソース・オーバーレイの記述テキストを示します。
オーバーレイの作成	オーバーレイ・オブジェクトを作成する場合は Y を指定します。オーバーレイ・オブジェクトを作成しない場合は N と入力してください。 作成オプションに Y を指定し、実行キーを押すことによって、オーバーレイ・ユーティリティーは、ソース・オーバーレイからオーバーレイ・オブジェクトを作成します。
オーバーレイ	オーバーレイ・オブジェクト名を指定します。ソース・オーバーレイの名前の最初の 8 文字が省略時の値として用意されます。
ライブラリー	オーバーレイ・オブジェクトを保管する先のライブラリー名を指定します。
テキスト '記述'	オーバーレイ・オブジェクトの記述を指定します。省略時の値は、ソース・オーバーレイのテキストと同じ記述です。
格子の組み込み	Y を指定すると、印刷出力でオーバーレイに格子が組み込まれます。オーバーレイ・ユーティリティーは、オーバーレイ仕様に指定されている値に応じて、格子を作成します。 省略時の値は N です。
置き換え (存在している場合)	Y を指定すると、オーバーレイ・オブジェクトが無条件でライブラリーに保管されます。 N を指定すると、同じ名前のオーバーレイ・オブジェクトが存在している場合は、置き換えられません。
オーバーレイの印刷	省略時の値は N です。 Y を指定するとオーバーレイが印刷されます。オーバーレイ・ユーティリティーは、印刷装置用のスプール・ファイル・タイプが *AFPDS のオーバーレイ印刷データ・ストリームを作成します。省略時の値は N です。
権限	注: 「オーバーレイの印刷」画面が表示されます。 オーバーレイに対して特定の権限を持っていないユーザー、権限リストに載っていないユーザー、およびオーバーレイに対して特定の権限を持っていないユーザー・グループのユーザーに対して付与する権限を指定します。 注: 既存のオーバーレイを置き換える場合は、この値は無視され、現行の権限が残ります。

フィールド名	説明
権限	<p>このパラメーターには次の値を指定することができます。</p> <p>*LIBCRTAUT システムは、作成するオーバーレイが入るライブラリーの「ライブラリー作成」コマンド (CRTLIB) の、作成権限 プロンプト (CRTAUT パラメーター) で指定された値を用いて、オーバーレイに対する権限を決定します。作成権限 プロンプト (CRTAUT パラメーター) で指定された値が変更されても、新しい値は既存のオーバーレイに影響を与えません。</p> <p>*CHANGE ユーザーが変更権限を持っている場合は、所有者に限定されている操作、またはオブジェクト存在権限およびオブジェクト管理権限の管理下にある操作を除いて、すべての操作をオーバーレイに対して実行することが可能になります。ユーザーは、オーバーレイを変更し、オーバーレイに対して基本機能を実行することができます。変更権限が付与されると、オブジェクト操作権およびすべてのデータ権限を有します。</p> <p>*ALL ユーザーが全権限を持っている場合は、所有者に限定されている操作、または権限リスト管理権限の管理下にある操作を除いて、すべての操作をオーバーレイに対して実行することができます。ユーザーはオーバーレイの存在を管理し、オーバーレイについてセキュリティーを指定し、オーバーレイを変更し、オーバーレイに対して基本機能を実行することができます。ユーザーは、オーバーレイの所有権を移転することはできません。</p> <p>*USE ユーザーが使用権限を持っている場合は、プログラムの実行やファイルの読み取りなどの基本操作をオーバーレイに対して実行することができます。ユーザーによるオーバーレイの変更はできません。使用権限が付与されると、オブジェクト操作権、読み取り権限、および実行権限を使用することができます。</p> <p>*EXCLUDE 排他権限は、オーバーレイに対するユーザーのアクセスを禁じます。</p> <p>権限リスト名 作成されるオーバーレイ・オブジェクトのセキュリティーのために使用される権限リストの名前を指定します。</p>

オーバーレイはソース・オーバーレイから作成されます。ソース・オーバーレイは、次に挙げるものから構成されています。

- オーバーレイ仕様
- フォント情報
- 要素定義

実行キーを押して、オーバーレイを作成してください。オーバーレイ・オブジェクトが正しく作成されると、「ソース・オーバーレイの処理」画面または「ソース・オーバーレイの処理」画面の前の画面が表示され、その画面の下部にメッセージが

出ます。このメッセージは、「オーバーレイの終了」画面のソース・オーバーレイ・リストへの戻り のプロンプトの値によって異なってきます。

入力パラメーターまたは画面上の資源選択にエラーがあると、エラーのあるフィールドが反転表示され、画面の下部にエラー・メッセージが表示されます。

第 6 章 ソース・オーバーレイ・ファイルの処理

この章では、「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面の詳細について説明します。

「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面では、次の機能を選択することができます。

- ・ ソース・オーバーレイを入れるソース・オーバーレイ・ファイルの作成。
- ・ ソース・オーバーレイ・ファイルの記述テキストの変更。
- ・ ソース・オーバーレイが入っているソース・オーバーレイ・ファイルから別のソース・オーバーレイ・ファイルへのコピー。
- ・ ソース・オーバーレイ・ファイルの削除。
- ・ ソース・オーバーレイ・ファイルの名前の変更。
- ・ ソース・オーバーレイ・ファイルの記述テキストの表示。
- ・ 「ソース・オーバーレイの処理」画面の呼び出し。

注: ソース・オーバーレイ・ファイルを作成するには、ソース・オーバーレイ・ファイルを入れるライブラリーが必要です。ライブラリーがない場合は、任意の画面のコマンド行に **CRTL**IB(ライブラリー作成) コマンドを入力することによって、ライブラリーを作成することができます。

「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面を表示するには、「AFP ユーティリティ」のメニューのコマンド行に 2 と入力して、実行キーを押してください。次の画面が表示されます。

ソース・オーバーレイ・ファイルの処理

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ライブラリー	<u>OULIB</u>	名前, *USRLIBL, *LIBL, *CURLIB, *ALLUSR, *ALL
ファイル	<u>*ALL</u>	名前, 総称 *, *ALL

パラメーターまたはコマンド
===>

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F9= コマンドの複写 F12= 取り消し

この画面を使用して、リストし、処理したいソース・オーバーレイ・ファイルを選択してください。ライブラリー およびファイル のプロンプトを使用して、サブセ

ット基準を指定することができます。実行キーを押すと、「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面が表示され、ソース・オーバーレイ・ファイルのリストが示されます。

次の表は、画面の各フィールドについての説明です。

表 10. 「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面のフィールド

フィールド名	説明
ライブラリー	リストし、処理したいソース・オーバーレイ・ファイルが入っているライブラリーを指定します。次の中から選択してください。
ライブラリー名	処理したいソース・オーバーレイ・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。
*USRLIBL	ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが探索されます。
*LIBL	ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分とシステム部分のライブラリーがすべて探索されます。 注: この値を指定した場合は、「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面が表示されるまでに時間がかかることがあります。
*CURLIB	ジョブの現行ライブラリーが探索されます。ライブラリー・リストに現行項目がない場合は、ライブラリー QGPL が使用されます。
*ALLUSR	「ユーザー定義の」ライブラリーがすべて探索されます。「ユーザー定義の」ライブラリーには、ライブラリー QGPL は含まれますが、英字「Q」で始まるその他のライブラリーは、いずれもこれには含まれません。 注: この値を指定した場合は、「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面が表示されるまでに時間がかかることがあります。
*ALL	システムの中のライブラリー (QSYS をも含めて) がすべて探索されます。 注: この値を指定した場合は、「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面が表示されるまでに時間がかかることがあります。

表 10. 「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面のフィールド (続き)

ファイル	ライブラリーの中のすべてのソース・オーバーレイ・ファイル、またはライブラリーの中のソース・オーバーレイ・ファイルのサブセットを処理したい、ということ指定します。次の中から選択してください。
ソース・オーバーレイ・ファイル名	
	ソース・オーバーレイ・ファイル名を指定すると、そのソース・オーバーレイ・ファイル名を持つものだけがリストに表示されます。
総称名	ソース・オーバーレイ・ファイル名の部分名をアスタリスク (*) で修飾して指定すると、特定のサブセットのソース・オーバーレイ・ファイルが表示されます。総称名の形式は次のとおりです。
ABC*	文字 ABC で始まるすべてのソース・オーバーレイ・ファイルのリストが表示されます。たとえば、ABC、ABCD、または ABCTEST などです。
*ALL	*ALL を指定すると、指定したライブラリーの中のすべてのソース・オーバーレイ・ファイルが表示されます。

前の画面で実行キーを押すと、次の画面が表示されます。

ソース・オーバーレイ・ファイルの処理

ライブラリー OULIB 名前, *USRLIBL, *LIBL, *CURLIB...

ファイル *ALL 名前, 総称*, *ALL

位置指定 開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。

1= 作成 2= 変更 3= コピー 4= 削除 7= 名前の変更 8= 記述の表示

12= ソース・オーバーレイの処理

OPT	ファイル	ライブラリー	テキスト	変更
—	OUIFILE	OULIB	ソース・オーバーレイ・ファイ	02/01/30
—	OUIFILE2	OULIB	ソース・オーバーレイ・ファイ	02/01/30
—	OUIFILE3	OULIB	ソース・オーバーレイ・ファイ	02/01/30
—	OUIFILE4	OULIB	ソース・オーバーレイ・ファイ	02/01/30
—	OUIFILE5	OULIB	ソース・オーバーレイ・ファイ	02/01/30
—	OUIFILE6	OULIB	ソース・オーバーレイ・ファイ	02/01/30

続く ...

パラメーターまたはコマンド
 ==>

F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F9= コマンドの複写
 F11= 名前だけの表示 F12= 取り消し

次の表は、「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面の各フィールドについての説明です。

プロンプト

表 II. ソース・オーバーレイ・ファイルの処理プロンプト

プロンプト	説明
ライブラリー	<p>リストし、処理したいソース・オーバーレイ・ファイルが入っているライブラリーを指定します。次の中から選択してください。</p> <p>ライブラリー名 処理したいソース・オーバーレイ・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。</p> <p>*USRLIBL ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが探索されます。</p> <p>*LIBL ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分とシステム部分のライブラリーがすべて探索されます。 注: この値を指定した場合は、「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面が表示されるまでに時間がかかることがあります。</p> <p>*CURLIB ジョブの現行ライブラリーが探索されます。ライブラリー・リストに現行項目がない場合は、ライブラリー QGPL が使用されます。</p> <p>*ALLUSR 「ユーザー定義の」ライブラリーがすべて探索されます。「ユーザー定義の」ライブラリーには、ライブラリー QGPL は含まれますが、英字「Q」で始まるその他のライブラリーは、いずれもこれには含まれません。 注: この値を指定した場合は、「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面が表示されるまでに時間がかかることがあります。</p> <p>*ALL システムの中のライブラリー (QSYS をも含めて) がすべて探索されます。 注: この値を指定した場合は、「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面が表示されるまでに時間がかかることがあります。</p>
ファイル	<p>ライブラリーの中のすべてのソース・オーバーレイ・ファイル、またはライブラリーの中のソース・オーバーレイ・ファイルのサブセットを処理したい、ということ指定します。次の中から選択してください。</p> <p>ソース・オーバーレイ・ファイル名 ソース・オーバーレイ・ファイル名を指定すると、そのソース・オーバーレイ・ファイル名を持つものだけがリストに表示されます。</p> <p>総称名 ソース・オーバーレイ・ファイル名の部分名をアスタリスク (8) で修飾して指定すると、ソース・オーバーレイ・ファイルの特定のサブセットが表示されます。総称名の形式は次のとおりです。</p> <p>ABC* 文字 ABC で始まるすべてのソース・オーバーレイ・ファイルのリストが表示されます。たとえば、ABC、ABCD、または ABCTEST などです。</p> <p>*ALL *ALL を指定すると、指定されたライブラリーのすべてのソース・オーバーレイが表示されます。</p>

表 11. ソース・オーバーレイ・ファイルの処理プロンプト (続き)

位置指定	このプロンプトは、リストをすばやく位置変更するために使用します。リストのサブセット作成用ではありません。次の項目の中から 1 つを選択してください。
	*TOP これを指定すると、リストの上部に進みます。
	*BOT これを指定すると、リストの下部に進みます。
	名前または部分名 リストの中の進みたい先の名前または部分名を指定します。リストは、指定したストリングで始まる最初の名前に位置指定されます。

オプション

表 12. ソース・オーバーレイ・ファイルの処理オプション

オプション	説明
1= 作成	<p>ソース・オーバーレイ・ファイルを作成します。OPT の欄に 1、そしてリストの 1 行目に作成したいソース・オーバーレイ・ファイル、およびライブラリーの名前を入力してください。</p> <p>ソース・オーバーレイ・ファイルが作成されると、「ソース・オーバーレイの処理」画面が表示されるので、ソース・オーバーレイ・ファイルの中にソース・オーバーレイを作成することができます。詳細については、102 ページの『1= ソース・オーバーレイ・ファイルの作成』を参照してください。</p> <p>注: ソース・オーバーレイ・ファイルを作成するには、ソース・オーバーレイ・ファイルを入れるライブラリーが必要です。ライブラリーがない場合には、任意の画面のコマンド行に「ライブラリー作成 (CRTLIB)」コマンドを入力することによってライブラリーを作成することができます。</p>
2= 変更	<p>ソース・オーバーレイ・ファイルの記述テキストを変更します。記述変更したいソース・オーバーレイ・ファイルの名前の隣の OPT の欄に 2 と入力します。詳細については、104 ページの『2= ソース・オーバーレイ・ファイル記述の変更』を参照してください。</p>
3= コピー	<p>ソース・オーバーレイ・ファイルを新しいソース・オーバーレイ・ファイルにコピーします。コピーしたいソース・オーバーレイ・ファイルの名前の隣の OPT の欄に 3 と入力してください。ソース・オーバーレイ・ファイルをコピーすると、そのファイルの中のすべてのソース・オーバーレイもコピーされます。詳細については、105 ページの『3= ソース・オーバーレイ・ファイルのコピー』を参照してください。</p>
4= 削除	<p>ソース・オーバーレイ・ファイルを削除します。削除したいソース・オーバーレイ・ファイルの隣の OPT の欄に 4 と入力してください。ファイルを実際に削除する前に、その次の画面で選択内容を確認することができます。ソース・オーバーレイ・ファイルを削除すると、そのファイルの中のすべてのソース・オーバーレイも削除されます。詳細については、106 ページの『4= ソース・オーバーレイ・ファイルの削除』を参照してください。</p>

表 12. ソース・オーバーレイ・ファイルの処理オプション (続き)

7= 名前の変更	ソース・オーバーレイ・ファイル名を変更します。名前の変更をした いソース・オーバーレイ・ファイルの隣の <i>OPT</i> の欄に 7 と入力して ください。
8= 記述の表示	ソース・オーバーレイ・ファイルの記述を表示します。記述の表示を 行いたい、ソース・オーバーレイ・ファイルの名前の隣の <i>OPT</i> の欄 に 8 と入力します。詳細については、108 ページの『8= ソース・オ ーバーレイ・ファイルの記述の表示』を参照してください。
12= ソース・オーバ ーレイの処理	ソース・オーバーレイ・ファイルの中のソース・オーバーレイの処理 を開始します。処理したいソース・オーバーレイが入っている、ソー ス・オーバーレイ・ファイルの名前の隣の <i>OPT</i> の欄に 12 と入力し てください。詳細については、67 ページの『第 5 章 ソース・オーバ ーレイの処理』を参照してください。

欄

表 13. ソース・オーバーレイ・ファイルの処理欄

欄	説明
Opt	作業を行いたいソース・オーバーレイ・ファイルの隣の <i>OPT</i> のプロンプ トに該当する作業の番号を指定します。同じオプションを複数のソース・ オーバーレイ・ファイルの隣に同時に入力することも、異なるオプション を異なるソース・オーバーレイ・ファイルの隣に同時に入力することもで きます。
ファイル	指定されたライブラリーまたはライブラリー・リストの中であって、サブ セット基準に適合するすべてのソース・オーバーレイ・ファイルのリスト を表示します。リストの最上部の位置を使用して、作成または別のオプシ ョンを選択したいソース・オーバーレイ・ファイルを入力することができます。
	<p>注: ファイルが次の 4 つの条件に適合する場合は、ソース・オーバーレ イ・ファイルとして作成されたものでなくても、ソース・オーバーレイ・ ファイルとして「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面に表示さ れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ファイルが物理ファイルである。 • ファイルがソース・ファイルではない。 • ファイルが DDM ファイルではない。 • レコード長が 80 である。
ライブラリー	オーバーレイ・ユーティリティを使用して作成したファイルを使用する ことをお勧めします。
テキスト 変更	ソース・オーバーレイ・ファイルのテキスト記述が表示されます。 ソース・オーバーレイ・ファイルのソース・オーバーレイを最後に変更し た日付、またはソース・オーバーレイ・ファイルの記述テキストを最後に 変更した日付が表示されます。

OPT の欄にいずれかのオプションを指定し、実行キーを押してください。

F3(終了) または F12(取り消し) を押せば、この画面を終了することができます。

ソース・オーバーレイ・ファイル・リストの表示

ライブラリー フィールドおよびファイル フィールドを指定することによって、ソース・オーバーレイ・ファイルを画面の下部にリストすることができます。リストの内容を変更したい時は、ファイルとライブラリーの名前を指定し、実行キーを押してください。位置指定 プロンプトに開始文字を指定することによって、画面上でリストのページ送りまたはページ戻しを行うことができます。

注: ファイル フィールドまたはライブラリー フィールドを指定する場合には、*OPT* の欄を指定することはできません。

ソース・オーバーレイ・ファイルのリストからの選択

画面のリストには、ライブラリー のプロンプトが示すライブラリー (複数の場合もある) に存在する、ソース・オーバーレイ・ファイルのすべての名前、あるいは指定されたサブセットの名前が入っています。(ただし、表示されるのは、ユーザーが必要とされる権限を持っているソース・オーバーレイ・ファイルおよびライブラリーだけです)。リストには、ソース・オーバーレイ・ファイルを記述するテキストおよびファイルが最後に変更された日付も示されます。

リストが表示されている時は、リストの右下に 1 語からなる標識が必ず現れ、今表示されているのがそのリスト内のどこにあたるかを示します。続く...は、今表示されている項目の後に項目が続くことを意味します。終わりは、今表示されているのがそのリストの終わりであることを意味します。

リストを正方向または逆方向に移動するには、「次ページ」キーまたは「前ページ」キーを使用してください。

ソース・オーバーレイ・ファイルを作成する場合には、新しい名前を選択する前に、このリストを調べて、すでに使用されている名前を確認することができます。最初のリスト位置に 1、ソース・オーバーレイ・ファイル名、およびライブラリー名を入力すれば、ソース・オーバーレイ・ファイルを作成することができます。また、1 (作成) 以外のオプションを使用して、リストから他のソース・オーバーレイ・ファイルを選択することができます。

したがって、次のいずれか一方または両方を行うことによって、1 つまたは複数の名前を選択することができます。

- 使用したいリスト内のソース・オーバーレイ・ファイル名の隣の *OPT* の欄に、使用するオプション (作業) の番号を入力する。
- リストの最初 (最上部) の位置でのみ、*OPT*、ファイル、およびライブラリー の欄に、それぞれオプション (作業) 番号、ソース・オーバーレイ・ファイル名、およびライブラリー名を入力する。

1= ソース・オーバーレイ・ファイルの作成

ソース・オーバーレイ・ファイルを作成するには、「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面で以下を行ってください。

1. リストの 1 行目のファイル の欄にソース・オーバーレイ・ファイル名を、ライブラリー の欄にライブラリー名を、それぞれ入力する。
2. OPT の欄に 1 と入力する。
3. 実行キーを押す。

「ソース・オーバーレイ・ファイルの作成」画面が表示されます。

ソース・オーバーレイ・ファイルの作成

ファイル : OUFILE
ライブラリー : OULIB

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ユーザー指定の DBCS データ	N	Y=YES, N=NO
テキスト '記述'	ソース・オーバーレイ・ファイル	
権限	*LIBCRTAUT	名前, *LIBCRTAUT, *ALL *CHANGE, *EXCLUDE, *USE

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

「ソース・オーバーレイ・ファイルの作成」画面を使用して、この画面に指定した情報からソース・オーバーレイ・ファイルを作成することができます。

ソース・オーバーレイ・ファイルが作成されると、「ソース・オーバーレイの処理」画面が表示されるので、ソース・オーバーレイ・ファイルの中にソース・オーバーレイを作成することができます。

次の表は、「ソース・オーバーレイ・ファイルの作成」画面の各フィールドについての説明です。

表 14. 「ソース・オーバーレイ・ファイルの作成」画面のフィールド

フィールド名	説明
ファイル	作成するソース・オーバーレイ・ファイルの名前を示します。
ライブラリー	ソース・オーバーレイ・ファイルが作成されるライブラリーの名前を示します。
ユーザー指定の DBCS データ	このプロンプトに「N」(NO) または「Y」(YES) を指定して、ソース・オーバーレイ・ファイルの中のソース・オーバーレイのテキスト・データに DBCS (2 バイト文字セット) を使用するかどうかを指定します。

注: このプロンプトが表示されるのは、システムで DBCS が使用可能な場合だけです。

表 14. 「ソース・オーバーレイ・ファイルの作成」画面のフィールド (続き)

フィールド名	説明
テキスト '記述'	<p>ソース・オーバーレイ・ファイルについての簡単な記述をこのプロンプトに指定します。この記述は、ソース・オーバーレイ・ファイルとともに保管され、ソース・オーバーレイ・ファイルがリストされる時に表示されるため、ソース・オーバーレイ・ファイルを識別する場合に役立ちます。たとえば、ソース・オーバーレイ・ファイルの簡単な記述を次のように入力します。</p>
権限	<p>学習用ソース・オーバーレイ・ファイル ファイルに対して特定の権限を持っていないユーザー、権限リストに載っていないユーザー、およびファイルに対して特定の権限を持っていないユーザー・グループのユーザーに付与する権限を指定します。指定できる値は次のとおりです。</p> <p>*LIBCRTAUT システムは、作成されるファイルが入るライブラリーの「ライブラリー作成」(CRTLIB) コマンドの、作成権限のプロンプト (CRTAUT パラメーター) で指定された値を用いて、ファイルの権限を決定します。作成権限 プロンプト (CRTAUT パラメーター) に指定した値が変更されても、新しい値は既存のファイルに影響を与えません。</p> <p>*ALL ユーザーは、ファイルの存在の管理、ファイルのセキュリティの指定、ファイルの変更、ファイルの所有者の変更、ファイルに対する基本機能の実行を行うことができます。ユーザーに全権限が与えられていると、ユーザーは、所有者に限定されている操作あるいは権限リスト管理権限によって制御されている操作を除き、ファイルについてすべての操作を実行することができます。</p> <p>*CHANGE ユーザーは、ファイルを変更し、ファイルに対して基本機能を実行することができます。ユーザーは変更権限があると、所有者に限定されている操作またはオブジェクト存在権限およびオブジェクト管理権限の管理下にある操作を除き、ファイルについてすべての操作を行うことができます。変更権限が付与されると、オブジェクト操作権およびすべてのデータ権限が与えられます。</p> <p>*EXCLUDE 排他権限は、ファイルに対するユーザーのアクセスを禁止します。</p> <p>*USE ユーザーはファイルに対して、ファイルの読み取りなど、基本操作を実行することができます。ユーザーはファイルの変更はできません。使用権限が付与されると、オブジェクト操作権および読み取り権限が与えられます。</p> <p>権限リスト名 権限リストの名前を指定します。権限リストに含まれているユーザーは、そのリストで指定されているファイルに対する権限が付与されます。権限リストはファイルの作成時に存在していなければなりません。</p>

選択項目を指定し終えたら、実行キーを押してください。

2= ソース・オーバーレイ・ファイル記述の変更

ソース・オーバーレイ・ファイル記述を変更するには、「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面で以下を行います。

1. 記述を変更したいソース・オーバーレイ・ファイルの隣の *OPT* の欄に 2 と入力する。
2. 実行キーを押す。

「ソース・オーバーレイ・ファイルの変更」画面が表示されます。

ソース・オーバーレイ・ファイルの変更

ファイル : OUFILE
ライブラリー : OULIB

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

テキスト '記述' ソース・オーバーレイ・ファイル

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

「ソース・オーバーレイ・ファイルの変更」画面を使用して、ソース・オーバーレイ・ファイルの記述テキストを変更することができます。

ソース・オーバーレイ・ファイルの新しいテキスト記述を指定します。

次の表は、「ソース・オーバーレイ・ファイルの変更」画面の各フィールドについての説明です。

表 15. 「ソース・オーバーレイ・ファイルの変更」画面のフィールド

フィールド名	説明
ファイル	変更しようとするソース・オーバーレイ・ファイルの名前を示します。
ライブラリー	ソース・オーバーレイ・ファイルが存在するライブラリーの名前を示します。
テキスト '記述'	そのファイルおよびその機能について簡単に記述するユーザー定義のテキストを指定します。ここにテキストを指定すると、前にあったテキストが置き換えられます。

選択項目を指定し終えたら、実行キーを押してください。

3= ソース・オーバーレイ・ファイルのコピー

ソース・オーバーレイ・ファイルをコピーするには、「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面で次のことを行ってください。

1. コピーしたいソース・オーバーレイ・ファイルの名前の隣の *OPT* の欄に 3 と入力する。
2. 実行キーを押す。

ソース・オーバーレイ・ファイルのコピー

```

FROM ファイル. . . . . : OUFIL
ライブラリー . . . . . : OULIB
テキスト . . . . . : ソース・オーバーレイ・ファイル
    
```

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

```

TO ファイル. . . . . OUFIL2      名前
ライブラリー . . . . . OULIB      名前, *CURLIB
テキスト '記述' . . . . . ソース・オーバーレイ・ファイル
    
```

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

「ソース・オーバーレイ・ファイルのコピー」画面を使用して、ソース・オーバーレイ・ファイルを新しいソース・オーバーレイ・ファイルにコピーすることができます。ソース・オーバーレイのセット全体がすべて新しいファイルにコピーされます。

次の表は、「ソース・オーバーレイ・ファイルのコピー」画面の各フィールドについての説明です。

表 16. 「ソース・オーバーレイ・ファイルのコピー」画面のフィールド

フィールド名	説明
FROM ファイル ライブラリー	コピーする元のソース・オーバーレイ・ファイルの名前を示します。 ソース・オーバーレイ・ファイルが存在するライブラリーの名前を示します。
テキスト	コピーされるソース・オーバーレイ・ファイルのテキスト記述を示します。
TO ファイル	コピーする先の新しいソース・オーバーレイ・ファイルを指定します。 このプロンプトには FROM ファイル名と同じファイル名が入ります。 ファイルを同じファイル名で別のライブラリーにコピーしたい場合は、省略時の値のままにしておいてください。

表 16. 「ソース・オーバーレイ・ファイルのコピー」画面のフィールド (続き)

ライブラリー	ソース・オーバーレイ・ファイルをコピーする先のライブラリーを指定します。このプロンプトには、コピー元のライブラリー名と同じライブラリー名が入ります。ファイルを同じライブラリーの中の別のファイルにコピーしたい場合は、省略時の値のままにしておいてください。このフィールドで指定できる値を、次に示します。
	<p>*CURLIB</p> <p>ジョブの現行ライブラリーを使用して、コピーされたファイルを保管します。</p> <p>名前 指定されたライブラリー名を使用して、コピーされたファイルを保管します。</p>
テキスト '記述'	ソース・オーバーレイ・ファイルの簡単な記述をこのプロンプトに指定しますが、FROM ファイル記述と同じファイル記述を付けてファイルをコピーしたい場合は、省略時の値のままにしておいてください。この記述は、ソース・オーバーレイ・ファイルとともに保管され、ソース・オーバーレイ・ファイルがリストされる時に表示されるため、ソース・オーバーレイ・ファイルを識別する場合に役立ちます。

選択項目を指定し終わったら、実行キーを押してください。

4= ソース・オーバーレイ・ファイルの削除

ソース・オーバーレイ・ファイルを削除するには、「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面で次のことを行ってください。

1. 削除したいソース・オーバーレイ・ファイルの名前の隣の *OPT* の欄に 4 と入力する。
2. 実行キーを押す。

「ソース・オーバーレイ・ファイルの削除の確認」画面が表示されます。

ソース・オーバーレイ・ファイルの削除の確認

「4= 削除」の選択項目が正しい場合には、実行キーを押してください。
 選択項目を変更するためには、F12 キーを押して戻ってください。

OPT	ソース・オーバーレイ ファイル	ライブラリー	テキスト	変更
4	OUFILE2	OULIB	ソース・オーバーレイ・ファイ	02/01/30
4	OUFILE3	OULIB	ソース・オーバーレイ・ファイ	02/01/30
4	OUFILE4	OULIB	ソース・オーバーレイ・ファイ	02/01/30

終わり

F11= 名前だけの表示 F12= 取り消し

「ソース・オーバーレイ・ファイルの削除の確認」画面を使用して、「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面でオプション 4 (削除) を指定した、削除しようとしているファイルを確認することができます。

注: 削除することができるのは、そのファイルに対して削除する権限を持っているソース・オーバーレイ・ファイルだけです。ソース・オーバーレイ・ファイルに対して *OBJOPR 権限および *OBJEXIST 権限を持っていない場合は、そのソース・オーバーレイ・ファイルは削除されません。

表示されている名前のリストを使用して、表示されているソース・オーバーレイ・ファイルのすべてを削除したいかどうかを確認してください。すべて削除する場合は、実行キーを押して削除します。一部に削除してはならないものがある場合は、F12 (取り消し) を押してください。F12 を押すと、「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面に戻り、そこには選択項目がすべて再び表示されるため、削除したくないソース・オーバーレイ・ファイルの隣の欄から 4 を取り除くことができます。

次の表は、「ソース・オーバーレイ・ファイルの削除の確認」画面の各フィールドの説明です。

表 17. 「ソース・オーバーレイ・ファイルの確認」画面のフィールド

フィールド名	説明
Opt	OPT フィールドには、削除オプションが表示されます。この指定によって確認画面が表示されます。この画面では、オプション番号は常に 4 です。
ファイル	削除するために選択したすべてのソース・オーバーレイ・ファイルがリストされます。
ライブラリー	ソース・オーバーレイ・ファイルが存在するライブラリーの名前を示します。
テキスト 変更	ソース・オーバーレイ・ファイルのテキスト記述が示されます。 ソース・オーバーレイ・ファイルのソース・オーバーレイを最後に変更した日付、またはソース・オーバーレイ・ファイルの記述テキストを最後に変更した日付が表示されます。

実行キーを押して削除するか、または F12 キーを押して操作を取り消してください。

7= ソース・オーバーレイ・ファイルの名前の変更

ソース・オーバーレイ・ファイルの名前を変更するには、「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面で、以下を行ってください。

1. 名前を変更したいソース・オーバーレイ・ファイルの隣の OPT の欄に 7 と入力する。
2. 実行キーを押す。

「オブジェクト名の変更」画面が表示されます。新規オブジェクトのプロンプトにソース・オーバーレイ・ファイルの新しい名前を入力してください。

8= ソース・オーバーレイ・ファイルの記述の表示

ソース・オーバーレイ・ファイルの記述を表示するには、「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面で以下を行ってください。

1. 記述を表示したいソース・オーバーレイ・ファイルの隣の *OPT* の欄に 8 と入力する。
2. 実行キーを押す。

「オブジェクト記述表示 (DSPOBJD)」コマンドが呼び出され、ソース・オーバーレイ・ファイルの記述が表示されます。

12= ソース・オーバーレイの処理

ソース・オーバーレイの処理を開始するには、「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面で以下のステップを行ってください。

1. 処理したいソース・オーバーレイが入っているソース・オーバーレイ・ファイルの隣の *OPT* の欄に 12 と入力する。
2. 実行キーを押す。

「ソース・オーバーレイの処理」画面が表示されます。

詳細については、67 ページの『第 5 章 ソース・オーバーレイの処理』を参照してください。

第 3 部 印刷形式ユーティリティー

第 7 章 印刷形式ユーティリティーの紹介	111
印刷出力形式定義 (PFD 定義)	111
PFD 仕様	111
PFD 定義フォント	112
データベース・ファイル	112
レコード・レイアウト	112
ページ・レイアウト	113
要素	114
レコード選択	115
印刷出力仕様	115
オブジェクト名のマッピング	115
印刷形式ユーティリティーを使用した印刷	116
操作の流れ	117
第 8 章 印刷形式ユーティリティーの開始	121
ステップ 1 - 印刷形式ユーティリティーの開始	122
ステップ 2 - PFD 定義ファイルの作成	123
ステップ 3 - PFD 定義の作成	125
データベース・ファイルの指定	126
レコード・レイアウトの設計	130
固定テキスト・データの指定	131
データベース・ファイル・レコードからの可変テキスト・データの指定	133
ページ・セグメントの指定	136
バーコード要素の指定	137
枠要素の指定	139
要素選択	140
線要素の指定	142
レコード・レイアウトの設計の終了	143
ページ・レイアウトの設計	143
印刷出力仕様の定義	147
PFD 定義の終了	148
ステップ 4 - データベース・ファイルの印刷	151
ステップ 5 - 印刷形式ユーティリティーの終了	152
ステップ 6 - AFP ユーティリティーの解説の印刷	153
第 9 章 印刷形式ユーティリティーの開始および終了	155
印刷形式ユーティリティーの開始	155
オプション 11 (PFD 定義の処理)	156
オプション 12 (PFD 定義ファイルの処理)	156
オプション 13 (データベース・ファイル・メンバーの印刷)	156
オプション 14 (AFP ユーティリティーの解説の印刷)	156
印刷形式ユーティリティーの終了	157
第 10 章 PFD 定義の処理	159
プロンプト	160
オプション	161
欄	162
PFD 定義リストの表示	162
リストからの PFD 定義の選択	163
1= PFD 定義の作成	164
PFD 仕様の定義	166

PFD 仕様の変更	171
要素の削除の確認	174
PFD 定義フォントの処理	177
データベース・ファイルの指定	177
データベース・ファイルの選択	178
レコード様式の選択	180
切れ目フィールドの指定	181
レコード・レイアウトの設計	183
レコード・レイアウトの中のデータ	184
数値編集	189
ページ・レイアウトの設計	190
ページ内でのレコードの反復	192
レコード選択の指定	204
印刷出力仕様の定義	208
マッピング・オブジェクト名の指定	212
PFD 定義の保管	215
2= PFD 定義の変更	218
3= PFD 定義のコピー	219
4= PFD 定義の削除	221
6= PFD 定義の印刷	222
7= PFD 定義の名前の変更	222
9= データベース・ファイルの印刷	222
第 11 章 PFD 定義ファイルの処理	223
プロンプト	226
オプション	228
欄	228
PFD 定義ファイル・リストの表示	229
PFD 定義ファイルのリストからの選択	229
1= PFD 定義ファイルの作成	231
2= PFD 定義ファイルの変更	233
3= PFD 定義ファイルのコピー	234
4= PFD 定義ファイルの削除	235
7= PFD 定義ファイルの名前の変更	236
8= PFD 定義ファイルの記述の表示	236
12= PFD 定義の処理	237
第 12 章 データベース・ファイル・メンバーの印刷	239
「PFD 定義の処理」画面からの印刷の開始	239
AFP ユーティリティーのメニュー画面による印刷の開始	245
PRTPFDDTA による印刷の開始	247

第 7 章 印刷形式ユーティリティーの紹介

印刷形式ユーティリティーでは、AFP アプリケーションを、データベース・ファイルから直接開発することができます。Query for iSeries と同じ方法で、データベース・レコードを選択し、処理して、可変データ、テキスト、オーバーレイ、バーコード、線、枠、イメージ、およびグラフィックスを組み合わせた全ページ出力を作成します。印刷形式ユーティリティーの設計過程を通じて作成される命令は、すべて印刷出力形式定義 (PFD) として保管されます。個々のレコード・レイアウトを設計して、そのレイアウトをページの左右、上下に複製する印刷形式ユーティリティーの機能は、片面複数ページ印刷のバーコード・ラベルなどのアプリケーションにとってはきわめて能率的です。

データベース・ファイル・メンバーに入っているデータの他に、任意の要素タイプ (テキスト、枠、線、バーコード、ページ・セグメント、またはグラフィックス) によって定義した固定データを印刷することができます。たとえば、固定データには以下があります。

- タイトル
- 会社のロゴ
- 図面

以下のようなデータベース・メンバーに定義されていない可変データを印刷することもできます。

- ジョブ日付
- ジョブ時刻
- ページ番号
- レコード番号
- データベース・ファイル名
- データベース・ライブラリー名
- データベース・メンバー名

印刷形式ユーティリティーによってデータを印刷するには、**PFD 定義**を作成して、データの印刷形式をメニュー画面で対話式に指定する必要があります。

印刷出力形式定義 (PFD 定義)

PFD 定義は、印刷したいデータ、用紙、および形式に関する必要なデータを備えています。

PFD 定義に、以下の情報を指定しなければなりません。

PFD 仕様

仕様には、以下が含まれます。

- 印刷装置タイプ

- 1 インチ当たりの文字数
- 1 インチ当たりの行数
- 回転の角度
- ページごとにページ番号を付ける必要の有無
- 測定単位
- 初期要素測定方式
- ページ・サイズ
- オフセット
- 格子 (設計補助) 位置

何も指定しなければ、省略時の値が使用されます。

PFD 定義フォント

フォントは事前定義されていますが、必要ならば、PFD 定義フォントを変更することができます。

データベース・ファイル

データベース・ファイル内の印刷するデータのフィールドを指定することができます。

データベース・ファイルの名前、ライブラリー、およびレコード様式を指定することができます。これらを PFD 定義で指定しない場合は、データベース・ファイル・メンバーを印刷する際に指定しなければなりません。データベース・ファイルの中の、改ページをさせるためのフィールドを指定することもできます。

レコード・レイアウト

印刷形式ユーティリティでは、定義に応じて次のように区別される 2 種類のレコードを管理します。

- レコードは、データベース・ファイルで定義されます。それを、「データベース・ファイル・レコード」と呼びます。
- 印刷するデータの単位もしくはセットとして、印刷形式ユーティリティによって定義されたレコード。これは単に「レコード」と呼びます。レコードは、データベース・ファイル・レコードからのデータと、そのレコードについて定義するテキスト、線、枠、バーコードといったその他のデータから構成されます。

要素と呼ばれるデータをレコード・レイアウトとしてレコード内に配置する方法を、定義しなければなりません。

たとえば、印刷形式ユーティリティを使用して、データベース・ファイル・メンバーのレコードから次のようなラベルを印刷することができます。

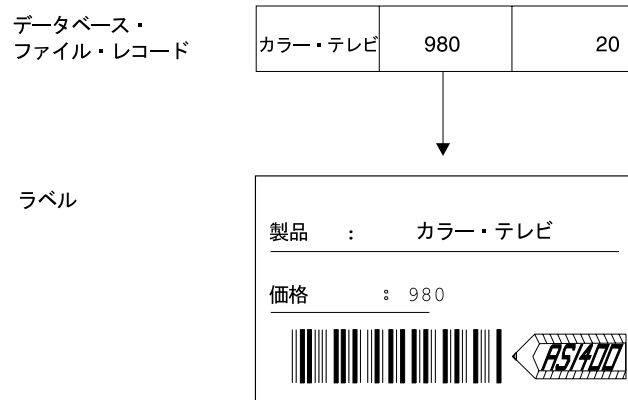


図 15. レコード・レイアウト例

上記のラベルで、製品名「カラー・テレビ」、価格「980」およびこの価格からコード化されたバーコードは、データベース・ファイル・レコードのフィールドから取り出されます。「製品:」、「価格:」、線、およびロゴなど、このラベルの中の上記以外のデータは、データベース・ファイル・レコードのデータとは無関係に、このレコードの中でラベル用として定義されています。

テキスト要素または枠要素上のテキスト・データ内に、**予約済み変数名**と呼ばれる文字ストリングを指定することによって、いくつかの可変データ（ジョブ日付、ジョブ時刻、ページ番号、レコード番号、データベース・ファイル名、ライブラリー名、およびメンバー名など）を印刷することもできます。

ページ・レイアウト

前のセクションで説明したレコードをページ内に **ページ・レイアウト**として配置する方法も、定義する必要があります。定義したレコードを 1 ページ内に配置する場所と回数を指定する必要があります。テキスト、線、枠、バーコードなどの固定データを、レコードに指定したのと同じように指定することができます。

次の図はページ・レイアウトの例を示しています。



図 16. ページ・レイアウト例

テキスト要素または枠要素上のテキスト・データ内に、**予約済み変数名**と呼ばれる文字ストリングを指定することによって、いくつかの可変データ（ジョブ日付、ジョブ時刻、ページ番号、レコード番号、データベース・ファイル名、ライブラリー名、およびメンバー名など）を印刷することができます。

また、テキスト要素上または枠要素上のテキスト・データ内に**合計データ**と呼ばれる文字ストリングを指定することによって、グループの最初のレコードのフィールド値、グループ内の最後のレコードのフィールド値、グループ内のフィールド値の合計、グループ内のフィールド値の平均、グループ内の最大フィールド値、グループ内の最小フィールド値、グループのレコード数などの可変データを印刷することもできます。

要素

レコード・レイアウトとページ・レイアウトは、**要素**と呼ばれるテキスト、ページ・セグメント、線、枠、グラフィックス、あるいはバーコードを配置することによって定義します。

データベース・ファイル・レコード内のデータは、レコード・レイアウト内のテキスト要素、バーコード要素、枠要素内のテキスト、ページ・セグメント、あるいはグラフィックス要素として指定することができます。

固定データは、レコード・レイアウトまたはページ・レイアウト内の、テキスト要素、線要素、枠要素、バーコード要素、ページ・セグメント要素、またはグラフィックス要素として指定することができます。

フィールド内のデータを、テキスト要素、枠要素内テキスト、バーコード要素、ページ・セグメント、あるいはグラフィックス要素として印刷する場合には、要素データのパラメーターとして、名前の前にアンパーサンド (&)、と名前の後にピリオド (.) が付いたフィールド名を指定してください。

詳細については、251 ページの『第 13 章 設計操作』を参照してください。

レコード選択

データベース・ファイル・レコードのフィールドに条件を指定して、印刷すべきフィールドのデータを選択することができます。このオプションを指定しないと、データベース・ファイル・レコード内のすべてのデータが印刷されます。

印刷出力仕様

「印刷出力仕様の定義」画面を使用すると、次のような、印刷出力を印刷する方法を定義することができます。

- コピー部数
- 印刷品質
- ソース用紙入れ

オブジェクト名のマッピング

以下のいずれかのオブジェクト名として、フィールド名を指定することができます。

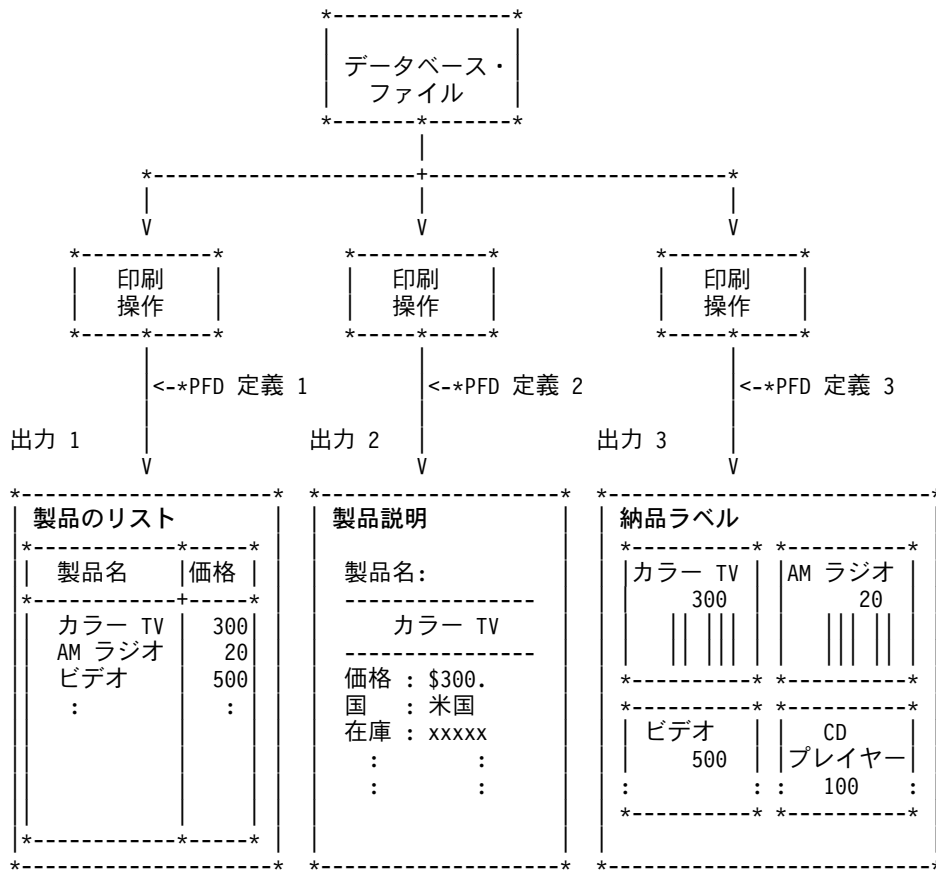
- ページ・セグメント
- フォルダー
- PC 文書
- ライブラリー
- ファイル
- メンバー

入力データベース・ファイル内のフィールドの値がオブジェクト名として使用されます。データベース・ファイル内の値が、オブジェクト名として不適切な場合もあります。たとえば、「A.B.C」や「IBM 社」などはオブジェクト名にはできません。データベース・ファイル内のデータを変更する必要はありません。その代わりに、「マッピング・オブジェクト名の指定」画面でこれらの値からオブジェクト名へのマッピングを指定しなければなりません。

印刷形式ユーティリティーを使用した印刷

印刷形式ユーティリティーを使用すると、PFD 定義を iSeries ファイル・メンバーとして保管することができ、次にデータベース・ファイル・メンバーを印刷するときに同じ定義を使用することができます。一度 PFD 定義を保管すると、その画面上で変更することにより前の PFD 定義をもとにした新しい PFD 定義を作成することができます。

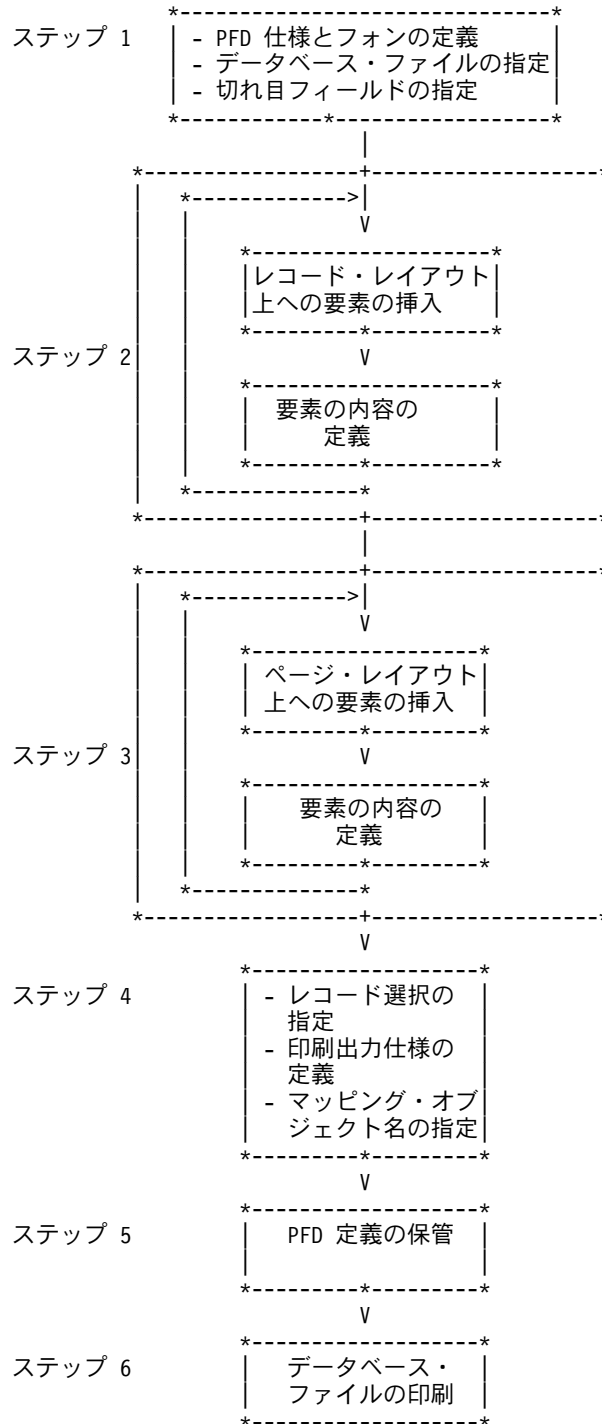
さまざまな PFD 定義を準備することによって、1 つのデータベース・ファイル・メンバーから各種の印刷出力を印刷することができます。たとえば、異なる印刷形式定義を使用することによって、下に示すように 1 つのデータベース・ファイル・メンバーから**製品のリスト**、**製品説明**、および**納品ラベル**を作成することができます。



操作の流れ

図 17 は、印刷形式ユーティリティー操作の概要を示しています。

図 17. 印刷出力ユーティリティー操作の概要



ステップ 1. これはオプションのステップです。

PFD 仕様の省略時の値を変更することができます。変更できる仕様は、オフセット、行/インチ (LPI)、字/インチ (CPI)、単位、DBCS SO/SI のスペース、回転の角度、および印刷装置タイプです。詳細については、166 ページの『PFD 仕様の定義』を参照してください。

テキストの印刷に使用するフォントを変更することができます。詳細については、335 ページの『第 14 章 フォントの処理』を参照してください。

印刷したいデータベース・ファイルを指定することができます。これはオプションですが、ステップ 2 でフィールド名を容易に指定できるので、データベース・ファイルを指定することをお勧めします。詳細については、177 ページの『データベース・ファイルの指定』を参照してください。

データベース内のフィールドを指定することによって改ページをさせることもできます。詳細については、181 ページの『切れ目フィールドの指定』を参照してください。

ステップ 2. レコード・レイアウトを設計します。

次に挙げる操作を繰り返してください。

- a. テキスト、枠などの要素を入れたい画面上の位置にカーソルを置く。
- b. その要素に割り当てられている機能キーを押して、レコード・レイアウトに要素を配置する。
- c. 要素仕様を入力する。データを入力すると、印刷形式ユーティリティーがその要素にマークを割り当てます。画面上の要素位置にマークが付きます。

詳細については、183 ページの『レコード・レイアウトの設計』を参照してください。

ステップ 3. ページ・レイアウトを設計します。

次に挙げる操作を繰り返してください。

- a. テキスト、枠などの要素を入れたい画面上の位置にカーソルを置く。
- b. その要素に割り当てられている機能キーを押して、ページ・レイアウトに要素を配置する。
- c. 要素仕様を入力する。データを入力すると、印刷形式ユーティリティーがその要素にマークを割り当てます。画面上の要素位置にマークが付きます。

詳細については、190 ページの『ページ・レイアウトの設計』を参照してください。

ステップ 4. これはオプションのステップです。

最大 5 つまで論理条件を指定することによって、印刷するレコードを指定することができます。詳細については、204 ページの『レコード選択の指定』を参照してください。

印刷出力仕様の省略時値を変更することができます。変更できる値は、コピー部数、印刷品質、およびソース用紙入れなどです。詳細については、207 ページの『印刷出力仕様の定義』を参照してください。

オブジェクト名への可変データのマッピングを指定することができます。詳細については、211 ページの『マッピング・オブジェクト名の指定』を参照してください。

ステップ 5. PFD 定義を定義し終わったら、それをライブラリーに保管してください。詳細については、215 ページの『PFD 定義の保管』を参照してください。

ステップ 6. PFD 定義を使用して、を印刷します。詳細については、239 ページの『第 12 章 データベース・ファイル・メンバーの印刷』を参照してください。

以降の章で、それぞれ次に挙げることを行う方法について述べます。

- 印刷形式ユーティリティーの開始と、実際の演習を通じてのその使用
- 印刷形式ユーティリティーの開始および終了
- PFD 定義の処理
 - PFD 定義の作成
 - PFD 仕様の定義
 - PFD 定義フォントの処理
 - データベース・ファイルおよびレコード様式の指定
 - 切れ目フィールドの指定
 - レコード・レイアウトの設計
 - ページ・レイアウトの設計
 - レコード選択の指定
 - 印刷出力仕様の定義
 - マッピング・オブジェクト名の指定
 - PFD 定義の変更
 - PFD 定義のコピー
 - PFD 定義の削除
 - PFD 定義の名前の変更
 - PFD 定義の印刷
- PFD 定義ファイルの処理
 - PFD 定義ファイルの作成
 - PFD 定義ファイル記述の変更
 - PFD 定義ファイルのコピー
 - PFD 定義ファイルの削除
 - PFD 定義ファイルの名前の変更
 - PFD 定義ファイル記述の表示
 - PFD 定義の処理
- データベース・ファイル・メンバーの印刷

IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries の使用中に、F1 キーを押してヘルプ情報を表示することができます。

第 8 章 印刷形式ユーティリティーの開始

本章では、実践演習により、印刷形式ユーティリティーを使用してデータベース・ファイル・メンバーからデータを印刷する方法を説明します。

印刷形式ユーティリティーによる印刷の操作ステップは、次のとおりです。

ステップ 1. 印刷形式ユーティリティーの開始

ステップ 2. ライブラリーでの PFD 定義の作成。

ステップ 3. ステップ 2 で作成した PFD 定義ファイルへの PFD 定義の作成。このステップは、次に示すサブステップから成り立っています。

- a. データベース・ファイルの指定
- b. レコード・レイアウトの設計
- c. ページ・レイアウトの設計
- d. 印刷出力仕様の定義
- e. PFD 定義の保管

ステップ 4. PFD 定義に基づいたデータベース・ファイルの印刷。

ステップ 5. 印刷形式ユーティリティーの終了。

ステップ 6. AFP ユティリティーの解説の印刷。

注: バーコードをサポートしない印刷装置を使用する場合には、PFD 定義作成ステップで、「PFD 仕様定義」画面上で印刷装置タイプを指定する必要があります。AFP Utilities for iSeries は、印刷装置でバーコードを印刷するための適切なデータを生成します。印刷装置がそれらをサポートしているかどうかをチェックするには、*IBM Printing Systems: Printer Information*、S544-5750 を参照してください。

次の作業を実行するには、ページ・セグメントが必要です。ライブラリー QGPL にページ・セグメント QFCLOGO が必要です。ない場合には、ライブラリー QAAP 内のページ・セグメント QFCPAGS を QGPL へコピーして、名前を QFCLOGO に変更します。「複写オブジェクトの作成 (CRTDUPOBJ)」コマンドを使用することができます。

ステップ 1 - 印刷形式ユーティリティーの開始

処置例: AFP Utilities for iSeries を開始するには、コマンド行に STRAFP (AFP ユーティリティーの開始) を入力し、実行キーを押してください。

「IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries」メニューが表示されます。

```
AFPU                IBM ADVANCED FUNCTION PRINTING UTILITIES

次の 1 つを選択してください。

オーバーレイ・ユーティリティー
  1. ソース・オーバーレイの処理
  2. ソース・オーバーレイ・ファイルの処理

印刷形式ユーティリティー
  11. PFD 定義の処理
  12. PFD 定義ファイルの処理
  13. データベース・ファイル・メンバーの印刷
  14. AFP ユーティリティーの解説の印刷

資源管理ユーティリティー
  21. ページ・セグメントへの変換
  22. オーバーレイの処理
  23. ページ・セグメントの処理

選択項目またはコマンド
===> 12

-----
F3= 終了   F4=プロット   F9=コマンドの複写   F12= 取り消し   F16=システム・メイン・メニュー
(C) COPYRIGHT IBM CORP. 1991, 2001.
```

この表示画面から AFP ユーティリティーの任意の機能を選択することができます。

印刷形式ユーティリティーの機能は、次のとおりです。

選択	機能
11	PFD 定義の処理
12	PFD 定義ファイルの処理
13	データベース・ファイル・メンバーの印刷
14	AFP ユーティリティーの解説の印刷

PFD 定義を作成する前に、それを保管するための **PFD 定義ファイル**を作成しておかなければなりません。

注: PFD 定義ファイルを保管するためのライブラリーが必要です。次の例では MYLIB を使用していますが、ユーザーのライブラリーの名前を使用することもできます。ライブラリーがない場合は、CRTLIB MYLIB と入力し、実行キーを押して、ライブラリーを作成してください。

ステップ 2 - PFD 定義ファイルの作成

処置例: PFD 定義ファイルを作成するには、「IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries」メニューのコマンド行に 12 (PFD 定義ファイルの処理) と入力し、実行キーを押してください。

「PFD 定義ファイルの処理」画面が表示され、PFD 定義ファイルを作成することができます。

PFD 定義ファイルの処理

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ライブラリー	<u>MYLIB</u>	名前, *USRLIBL, *LIBL *CURLIB, *ALLUSR, *ALL
ファイル	<u>*ALL</u>	名前, 総称 * *ALL

パラメーターまたはコマンド

===>

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F9= コマンドの複写 F12= 取り消し

最後に使用したライブラリー名がライブラリー のプロンプトに表示され、ファイルのプロンプトに *ALL が表示されます。

処置例: ライブラリー のプロンプトに MYLIB と入力し、実行キーを押して、MYLIB に保管されている PFD 定義ファイルをリストしてください。

PFD 定義ファイルの処理

ライブラリー	<u>MYLIB</u>	名前, *USRLIBL, *LIBL, *CURLIB...
ファイル	<u>*ALL</u>	名前, 総称 *, *ALL
位置指定	<u> </u>	開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。

1= 作成 2= 変更 3= コピー 4= 削除 7= 名前の変更 8= 記述の表示
12=PFD 定義の処理

OPT	ファイル	ライブラリー	テキスト	変更
1	<u>PFDFILE</u>	<u>MYLIB</u>		

(PFD 定義ファイルがライブラリー中がない)

終わり

パラメーターまたはコマンド

===>

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F9= コマンドの複写
F11= 名前だけの表示 F12= 取り消し

注: PFD 定義ファイルが MYLIB に保管されていないため、PFD 定義ファイルは表示されません。

処置例:

1. リストの 1 行目の *OPT* の欄に 1 (作成) と入力してください。
2. リストの 1 行目の *ファイル* の欄に PFDFILE と入力してください。
3. リストの 1 行目の *ライブラリー* の欄に MYLIB と入力してください。
4. 実行キーを押してください。

「PFD 定義ファイルの作成」画面が表示されます。

PFD 定義ファイルの作成

ファイル : PFDFILE
ライブラリー : MYLIB

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ユーザー指定の DBCS データ . Y Y=YES, N=NO
テキスト '記述' 実習用の PFD ファイル

権限 *LIBCRTAUT 名前, *LIBCRTAUT, *ALL
*CHANGE, *EXCLUDE, *USE

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

この画面で次に挙げることを指定することができます。

- DBCS データを使用するかどうか (DBCS システムを使用している場合)。
- 長さが SBCS 文字で 50 字以下の PFD 定義ファイルに関する短い記述。この記述は、PFD 定義ファイルとともに保管され、PFD 定義ファイルがリストされる時に表示されるので、PFD 定義ファイルを識別するのに役立ちます。
- PFD 定義ファイルに対して特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限。

処置例:

1. ユーザー指定の *DBCS* データ のプロンプトの省略時の値を変更しないでください。

注: このプロンプトが表示されるのは、システムで DBCS が使用可能の場合だけです。

2. テキスト '記述' のプロンプトに、実習用の PFD ファイルと入力してください。
3. 実行キーを押してください。

PFD 定義ファイルが作成されると、ファイルに PFD 定義を作成する「PFD 定義の処理」画面が表示されます。

ステップ 3 - PFD 定義の作成

PFD 定義ファイルからデータを印刷するには、「PFD 定義の処理」画面で PFD 定義を作成しなければなりません。AFP Utilities for iSeries は、PFD 定義に従ってデータを印刷します。

PFD 定義の処理

ファイル	PFDFILE	名前, リストは F4
ライブラリー	MYLIB	名前, *LIBL, *CURLIB
PFD 定義	*ALL	名前, 総称 *, *ALL
位置指定	_____	開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。
 1= 作成 2= 変更 3= コピー 4= 削除 6= PFD 定義の印刷 7= 名前の変更
 9= データベース・ファイルの印刷

OPT	PFD 定義	テキスト	変更
1	PRODUCTLBL		

(PFD 定義がファイル中がない)

終わり

パラメーターまたはコマンド
 ==>

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F9= コマンドの複写
 F11= 名前だけの表示 F12= 取り消し

たとえば、ライブラリー 'MYLIB' にある PFD ファイル 'PFDFILE' に PFD 定義を作成し、ライブラリー QGPL のデータベース・ファイル 'QAFCPFDDTA' から下記のラベルを印刷する方法を、以下に説明します。

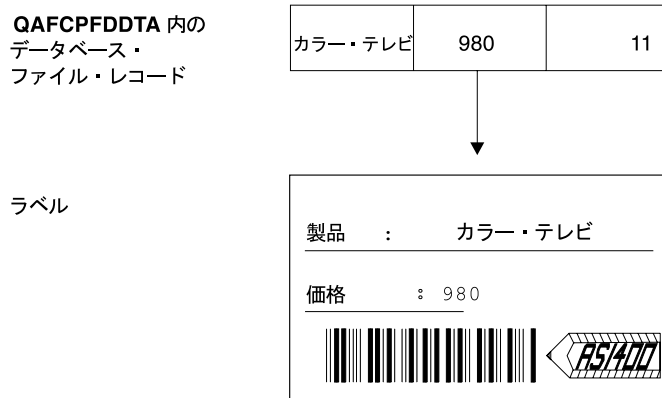


図 18. ラベルの例

処置例:

1. リストの 1 行目の **OPT** の欄に 1 (作成) と入力してください。
2. リストの 1 行目の **PFD 定義** の欄に PFD 定義名 PRODUCTLBL と入力してください。
3. 実行キーを押してください。

「PFD 定義の作成」画面が表示され、PFD 定義を作成するための処置項目を選択することができます。

PFD 定義の作成

ファイル : PFDFILE
ライブラリー : MYLIB
PFD 定義 : PRODUCTLBL

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1= 選択

OPT	処置
-	PFD 仕様の定義
-	PFD 定義フォントの処理
I	データベース・ファイルの指定
I	切れ目フィールドの指定
I	レコード・レイアウトの設計
I	ページ・レイアウトの設計
-	レコード選択の指定
-	印刷出力仕様の定義
-	マッピング・オブジェクト名の指定

F3= 終了 F5= 最新表示 F9= すべての選択 F12= 取り消し

OPT の欄に 1 を指定した処置項目は、PFD 定義を作成するために必須の処置です。 *OPT* の欄が空白のままになっているその他の処置項目は、オプションの処置です。

処置例:

1. 印刷出力仕様の定義 の隣の *OPT* の欄に 1 と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

「データベース・ファイルの指定」画面が表示されます。

データベース・ファイルの指定

データベース・ファイルの指定

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

データベース・ファイル	_____	名前, リストは F4
ライブラリー	QGPL	名前, *LIBL, *CURLIB
レコード様式	*FIRST	名前, *FIRST, リストは F4

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し

処置例:

1. ライブラリー のプロンプトに QGPL と入力してください。
2. カーソルをデータベース・ファイル のプロンプトに移動して F4 キーを押し、ライブラリー QGPL のデータベース・ファイルをリストします。

データベース・ファイルの選択

ライブラリー : QGPL

位置指定 _____ 開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1= 選択

OPT	ファイル	テキスト
-	QAAPFILE	Symbol set symbol definitions logical file
-	QAAPFILE\$	Symbol set small symbol definitions
-	QAAPFILE#	Symbol set medium symbol definitions
-	QAAPFILE@	Symbol set large symbol definitions
-	QAFGRPH	SAMPLE GDF
<u>1</u>	QAFCPFDDTA	SAMPLE DATABASE FILE FOR PFU
-	QAFCTUTDBF	SAMPLE DATABASE FILE FOR TUTORIAL
-	QAFCTUTOR	AFPU TUTORIAL TEXT
-	QAFCTUTPFD	AFP Utilities for AS/400 tutorial PFD file
-	QAFCTUTXMP	Sample PFD File
-	QAFXCMPA12	SAMPLE DATABASE FILE (AIAG_B2)

続く ...

F5= 最新表示 F12= 取り消し

ライブラリー QGPL に保管されているデータベース・ファイルがリストされます。リストのデータベース・ファイル名の隣の OPT の欄に 1 を入力することによって、そのデータベース・ファイルを選択することができます。

処置例:

1. QAFCPFDDTA の隣の OPT の欄に 1 と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

「データベース・ファイルの指定」画面が再度表示され、データベース・ファイルのプロンプトに、選択したデータベース・ファイル名が表示されています。

データベース・ファイルの指定

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

データベース・ファイル	<u>QAFCPFDDTA</u>	名前, リストは F4
ライブラリー	<u>QGPL</u>	名前, *LIBL, *CURLIB
レコード様式	<u>*FIRST</u>	名前, *FIRST, リストは F4

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し

処置例:

1. 実行キーを押してください。レコード様式のプロンプトの値が *FIRST から PRODMASTER に変更されます。
2. 実行キーを押してください。

「レコード・レイアウトの設計」画面が表示されます。

レコード・レイアウトの設計

```
レコード・レイアウトの設計                      1- 74
制御 . . . _____ PFD 定義 . . . . . PRODUCTLBL
*...+...1....+...2....+...3....+...4....+...5....+...6....+...7....
001
002
003
004
005
006
007
008
009
010
011
012
013
014
015
016
017
                                         続く ...
-----
F3= 終了   F6= テキスト   F9= 行   F10= 枠
F11= バー・コード   F13= 挿入   F14= 変更   F24= キーの続き
```

レコードには 2 種類あり、その定義に応じて次のように区別されています。

- データベース・ファイルで定義されるレコードを、「データベース・ファイル・レコード」と呼びます。
- 印刷形式ユーティリティーの「レコード・レイアウトの設計」プロセスで定義されたレコードは、「レコード」または「レコード・レイアウト」と呼びます。

この画面から、レコードの中のデータのレイアウトを指定することができます。最初は、レコードの中には何も定義されていません。この画面から、レコード・レイアウトを定義することができます。つまり、データベース・ファイル内のレコードのどのフィールドを、あるいは線、枠、バーコードなどの種類のうちどの要素を、レコードのどの場所に印刷するかを定義することができます。

次に、レコードに指定できる種々のタイプのデータを示します。

可変データ

データベース・ファイルからのフィールド・データを、**可変データ**と呼びます。

テキスト

ページ内の位置だけでなく、色、方向なども指定できます。

バーコード

ページ内の位置だけでなく、色、方向なども指定できます。

イメージ

データベース・ファイル内のデータのページ・セグメント名へのマッピングを指定できます。

グラフィックス

データベース・ファイル内のデータの、フォルダー、文書、ライブラリー、ファイル、またはメンバーの名前へのマッピングを指定することができます。

注: 可変データを指定することができるのは、レコード・レイアウトの中だけです。

固定データ

データベース・ファイルからのデータに加えて、以下の要素の任意の組み合わせを定義することができます。これを**固定データ**と呼びます。レコード・レイアウトでは、固定データは印刷されるデータベース・ファイルの内容には影響を受けません。

テキスト

各種フォント、下線の有無、カラー、等々を持つテキスト。

線および枠

様々な長さ、幅、破線/点線、陰影、その他の指定をもつデータ。

バーコード

サポートされているバーコード・タイプについては、251ページの『第13章 設計操作』を参照のこと。

イメージ

ページ・セグメントとして保管されているもの。

グラフィックス

グラフィックス要素として保管されているもの。

予約可変データ

データベース・ファイル・メンバー印刷の実行時に解決される様々なデータ(たとえば日付、時刻、レコード番号など)を印刷することもできます。このようなデータは、テキスト要素上または枠要素上のテキスト・データに指定することができます。

125 ページの図 18 のラベルは、次に示す可変データおよび固定データで構成されています。

1. レコード・レイアウトで定義されている可変データ：

テキスト	製品名 (カラー・テレビ)、および価格 (980)。
バーコード	コード (11) はバーコードとして価格の下に印刷される。

2. レコード・レイアウトで定義されている固定データ：

テキスト	「製品 :」 および 「価格 :」。
線	テキスト要素の周囲の枠およびテキスト要素間の線。
イメージ	右下のロゴ・マーク。

上記のラベルの例を作成するプロセスを、以下のステップで説明します。

固定テキスト・データの指定

処置例: 画面の中でテキスト要素を挿入したい位置 (左右 : 3, 上下 : 3) にカーソルを移動し、 F6 キーを押してください。

次の画面が表示されます。

```
レコード・レイアウトの設計                      1- 74
制御 . . . _____ PFD 定義 . . . . . PRODUCTLBL
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002
003  %T001
004
005
006
007
008
009
010
011
012
                                         続く ...
-----
                        テキストの定義
マーク . . . . . : *T001      測定方式 . . . . . : 行/桁
位置 . . . . .   左右   3     上下   3
テキスト・データ . . . . . 製品 : _____

F3= 終了   F4= 詳細   F6= 測定方式の変更
F12= 取り消し   F24= キーの続き
```

テキスト要素の要素マーク (%T001) がカーソル位置に表示され、**キー入力域**が画面の下部に表示されます。% は、当該要素が処理中であることを示します。キー入力域には、位置などの、指定中の要素に関する情報が入っています。

画面上部の区域は要素を配置することができる区域であり、これを**イメージ域**と呼びます。イメージ域には、印刷出力の概略イメージが示されます。

処置例:

1. テキスト・データ のプロンプトに**製品 :** と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

次のような「レコード・レイアウトの設計」画面が表示されます。

```
レコード・レイアウトの設計 1- 74
制御 . . . _____ PFD 定義 . . . . . PRODUCTLBL
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002
003 *T001 :
004
005
006
007
008
009
010
011
012
013
014
015
016
017
F3= 終了 F6= テキスト F9= 行 F10= 枠
F11= バー・コード F13= 挿入 F14= 変更 F24= キーの続き
続く ...
```

T001 の前の記号が「%」から「*」に変更され、このテキスト要素がレコード・レイアウトで定義されたことを示します。

処置例: 同じ要領で、「価格 :」が含まれている別のテキスト要素を (左右 :3、上下 : 5) に指定します。

次の画面が表示されます。

```
レコード・レイアウトの設計 1- 74
制御 . . . _____ PFD 定義 . . . . . PRODUCTLBL
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002
003 *T001 :
004
005 *T002 :
006
007
008
009
010
011
012
013
014
015
016
017
F3= 終了 F6= テキスト F9= 行 F10= 枠
F11= バー・コード F13= 挿入 F14= 変更 F24= キーの続き
続く ...
```

テキスト「価格 :」は、一部がそのマーク *T002 で隠されています。

注: マークをオフにセットすると (F15)、最後のマークだけが表示され、それ以外は表示されません。

データベース・ファイル・レコードからの可変テキスト・データの指定

処置例: 画面の中で製品名を挿入したい位置 (左右 : 13, 上下 : 3) にカーソルを移動し、 F6 キーを押してください。

- データベース・ファイル・レコードのフィールド名が分っている場合は、アンパサンド (&)、フィールド名、およびピリオド (.) を入力し、実行キーを押してください。フィールド名をこのように指定する場合、文字は大文字でなければなりません。
- フィールド名が分っていない場合は、F4 キーを 2 回押してリストを表示してください。

処置例: F4 キーを押してください。

「テキスト明細の定義」画面が表示されます。

テキスト明細の定義	
マーク : *T003	測定方式 : 行/桁
選択項目を入力して、実行キーを押してください。	
位置 :	
左右	13 1-999
上下	3 1-999
テキスト・データ	_____

要素	_____
形式	1 リストは F4 名前
回転の角度	0 1= 左右, 2= 上下 3= 上下, 右から左 0, 90, 180, 270

F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F6= 測定方式の変更 F10= 数値の編集	
F12= 取り消し	
テキスト・データが指定されていない。	
続 く . . .	

「テキスト明細の定義」画面では、1 つのテキスト要素に関するすべてのパラメータを指定することができます。

注: F4 キーを押すと、テキスト要素と同様に任意の要素に関する「明細定義」画面も見ることができます。

処置例: カーソルをテキスト・データ のプロンプトに移動し、F4 キーを押してください。

「レコード様式のフィールドの選択」画面が表示されます。

レコード様式のフィールドの選択

データベース・ファイル . . . : QAFCPFDDTA
 ライブラリー : QGPL
 レコード様式 : PRODMASTER

オプションを入力して、実行キーを押してください。
 1= 選択

OPT	フィールド	長さ	タイプ	テキスト
1	NAME	15	C	PRODUCT NAME
-	CODE	8	C	PRODUCT CODE
-	NATION	15	C	THE COUNTRY NAME DEVELOPED
-	PRICE	3,0	P	PRODUCT PRICE
-	AMOUNT	4,0	P	AMOUNT OF STOCK

終わり

F5= 最新表示 F11= 予約済み変数の選択 F12= 取り消し

OPT の欄に 1 (選択) を入力することによって、レコード様式のフィールドを選択することができます。

処置例:

1. NAME の隣の OPT の欄に 1 と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

「テキスト明細の定義」画面が再度表示され、テキスト・データ のプロンプトに、選択したフィールド名が表示されています。

テキスト明細の定義

マーク : *T003 測定方式 : 行/桁

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

位置 :
 左右 13 1-999
 上下 3 1-999
 テキスト・データ &NAME.

要素 リストは F4
 形式 1 名前
 1= 左右, 2= 上下
 3= 上下, 右から左
 回転の角度 0 0, 90, 180, 270

続く ...

F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F6= 測定方式の変更 F10= 数値の編集
 F12= 取り消し

この例の場合は、&NAME. が表示されますが、これは選択したフィールドが NAME だからです。

処置例: 実行キーを押してください。

次の画面が表示されます。

```
レコード・レイアウトの設計                                1- 74
制御 . . . _____ PFD 定義 . . . . . PRODUCTLBL
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002
003 *T001 : *T003
004
005 *T002 :
006
007
008
009
010
011
012
013
014
015
016
017
                                         続く ...
-----
F3= 終了   F6= テキスト   F9= 線   F10= 枠
F11= バーコード   F13= 挿入   F14= 変更   F24= キーの続き
```

可変データがテキスト要素として定義され、指定した可変レコードの位置にテキスト要素を示すマーク ***T003** が表示されます。

処置含む: 同じ要領で、レコードの PRICE フィールドのデータを内容とするもう 1 つの可変テキスト要素を指定してください。

注: テキスト・データ のプロンプトに次のように入力することによって、可変データと固定データを連結することができます。

Price : &PRICE.

ページ・セグメントの指定

次のプロセスにより、レコードの中にイメージを指定することができます。

処置例: 画面の中でイメージを挿入したい位置 (左右 : 25, 上下 : 6) にカーソルを移動し、 F13 キーを押してください。

```
レコード・レイアウトの設計 1- 74
制御 . . . _____ PFD 定義 . . . . . PRODUCTLBL
*...+....1...+....2...+....3...+....4...+....5...+....6...+....7...
001
002
003 *T001 : *T003
004
005 *T002 : *T004 .
006 %
007
008
009
010
011
012
013
014
015
016
017
                                         続く ...
-----
F3= 終了   F6=グラフィック 挿入   F9=ページ・セグメント 挿入   F12= 取り消し
F24= キーの続き
グラフィックスまたはページ・セグメントを入れるためには、 F6 または F9 キー
```

カーソル位置に % が表示され、グラフィックスまたはページ・セグメントを挿入するために F6 キーまたは F9 キーを押すように指示するプロンプトが出されま

処置例: F9 キーを押してください。

画面の下部にキー入力域が現れます。

```
レコード・レイアウトの設計 1- 74
制御 . . . _____ PFD 定義 . . . . . PRODUCTLBL
*...+....1...+....2...+....3...+....4...+....5...+....6...+....7...
001
002
003 *T001 : *T003
004
005 *T002 : *T004 .
006 %S005
007
008
009
010
011
012
                                         続く ...
-----
                     ページ・セグメントの挿入
マーク . . . . . : *S005      測定方式 . . . . . : 行/桁
位置 . . . . . : 左右      25      上下      6
ページ・セグメント . . . : QFCLOGO      名前
-----
F3= 終了   F4= 詳細   F6= 測定方式の変更
F12= 取り消し   F24= キーの続き
```

処置例:

1. ページ・セグメントのプロンプトに QFCLOGO と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

注: ページ・セグメントの制約事項については、449 ページの『ページ・セグメント』を参照してください

画面が次のように変わります。

```
レコード・レイアウトの設計                      1- 74
制御 . . . _____ PFD 定義 . . . . . PRODUCTLBL
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002
003 *T001 : *T003
004
005 *T002 : *T004 .
006 *S005
007
008
009
010
011
012
013
014
015
016
017
                                         続く ...
F3= 終了   F6= テキスト   F9= 線   F10= 枠
F11= バーコード   F13= 挿入   F14= 変更   F24= キーの続き
```

イメージ・データはページ・セグメント要素として定義され、指定した位置にページ・セグメント要素を示すマーク *S005 が表示されます。

バーコード要素の指定

以下のプロセスによって、レコード・レイアウトにバーコードを指定することができます。

処置例:

1. 画面の中でバーコードを挿入したい位置 (左右 : 7, 上下 : 3) にカーソルを移動してください。
2. F11 キーを押す。

キー入力域が現れます。

```

制御 . . . . . PFD 定義 . . . . . PRODUCTLBL
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002
003 *T001 : *T003
004
005 *T002 : *T004 .
006 *S005
007 %C006
008
009
010
011
012

```

続く ...

```

                バーコードの定義
マーク . . . . . : *C006      測定方式 . . . . . : 行/桁
位置 . . . . . : 左右      3      上下      7      バーコード・タイプ . . . . . 1
バーコード・データ . . . &CODE.

```

F3= 終了 F4= 詳細 F6= 測定方式の変更
F12= 取り消し F24= キーの続き

処置例:

1. バーコード・タイプ のプロンプトに 1 と入力してください。
2. バーコード・データ のプロンプトに入力してください。
3. 実行キーを押してください。

注: フィールド名が分っていない場合は、次の操作を行います。

1. バーコード・タイプ のプロンプトに 1 と入力して、F4 キーを押してください。
2. 「バーコード明細の定義」画面で、カーソルを バーコード・データ のプロンプトに移動し、F4 キーを押してください。
3. 「レコード様式のフィールドの選択」画面で、選択したいフィールドの隣の *OPT* の欄に 1 と入力してください。
4. 実行キーを押してください。
「バーコード明細の定義」画面が表示されます。
5. 実行キーを 2 回押してください。
「レコード・レイアウトの設計」画面が表示されます。


```

レコード・レイアウトの設計
制御 . . . _____ PFD 定義 . . . . . PRODUCTLBL
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002
003 *T001 : *T003
004
005 *T002 : *T004 .
006 *S005
007 *C006
008
009
010
011
012
013
014
015
016
017

```

続く ...

F3= 終了 F6= テキスト F9= 線 F10= 枠
F11= バーコード F13= 挿入 F14= 変更 F24= キーの続き

データベース・ファイル・レコードの指定したフィールドから作成されるバーコードが定義され、バーコード要素を示すマーク *C006 が表示されます。

枠要素の指定

レコード・レイアウトに枠を描くことができます。

処置例: カーソルを枠の隅の位置 (左右 : 1, 上下 : 1) に移動し、F10 キーを押してください。

その位置に要素マーク %B007 が表示され、再度 F10 キーを押すように求めるメッセージが出ます。

```

レコード・レイアウトの設計
制御 . . . _____ PFD 定義 . . . . . PRODUCTLBL
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001 %B007
002
003 *T001 : *T003
004
005 *T002 : *T004 .
006 *S005
007 *C006
008
009
010
011
012
013
014
015
016
017

```

続く ...

F3= 終了 F5= 最新表示 F10= 枠 F12= 取り消し
F15=マークオン/オフ F16= 遮蔽 F19= 左 F20= 右
枠の反対の隅を指定して、 F10 キーを押してください。

処置例: カーソルを枠の反対側の隅の位置 (左右 : 35, 上下 : 9) に移動し、 F10 キーを押してください。

イメージ域に枠が描かれ、画面の下部にキー入力域が表示されます。

```

レコード・レイアウトの設計
制御 . . . PFD 定義 . . . . . PRODUCTLBL
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001 %B007 -----+
002 : :
003 : *T001 : *T003 :
004 : :
005 : *T002 : *T004 . :
006 : *S005 :
007 : *C006 :
008 : :
009 +-----+
010
011
012

```

続く ...

```

枠の定義
マーク . . . . . : *B007
開始位置 . . . . . 左右 1 上下 1
終了位置 . . . . . 左右 35 上下 9

```

F3= 終了 F4= 詳細 F6= 測定方式の変更
F12= 取り消し F24= キーの続き

処置例: 実行キーを押して、レコード・レイアウトに枠要素を定義してください。

次の画面が表示されます。

```

レコード・レイアウトの設計
制御 . . . PFD 定義 . . . . . PRODUCTLBL
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001 *B007 -----+
002 : :
003 : *T001 : *T003 :
004 : :
005 : *T002 : *T004 . :
006 : *S005 :
007 : *C006 :
008 : :
009 +-----+
010
011
012
013
014
015
016
017

```

続く ...

```

F3= 終了 F6= テキスト F9= 線 F10= 枠
F11= バーコード F13= 挿入 F14= 変更 F24= キーの続き

```

要素選択

要素選択により、レコード・レイアウト内のフィールドを選択して印刷することができます。要素選択で条件を指定しないと、レコード・レイアウトが印刷されるたびに、その要素も印刷されます。要素を選択するための論理条件を最大 5 つまで

指定することができます。印刷形式ユーティリティーは各レコードの指定されたフィールドの内容を、指定された値と比較し、テストの結果が真であるレコードの要素のみを印刷します。

処置例:

1. テキスト要素 T004 を変更するには、位置 (左右 : 13、上下 : 5) にカーソルを移動してください。
2. F14 キーを押す。
3. キー入力域で、F9 キーを押す。
4. 「要素選択の指定」画面上で、フィールドの下に **NATION**、テストの下に **NE**、そして値の下に **'RUSSIA'**を入力してください。

その結果を示す画面が表示されます。

要素の選択の指定

選択項目を入力して、実行キーを押してください。
テスト : EQ, NE, LE, GE, LT, GT, RANGE

AND /OR	フィールド リストは F4	テスト リストは F4	値 (フィールド, 数字, または '' 文字 '') リストは F4
	NATION	NE	'RUSSIA'
—	_____	_____	_____
—	_____	_____	_____
—	_____	_____	_____
—	_____	_____	_____

F3= 終了 F4=プリント F5= 最新表示 F12= 取り消し

処置例: 実行キーを押してください。

データの印刷時に、NATION フィールドが 'RUSSIA' でないレコードの PRICE フィールドのみが印刷されます。各レコードの NATION フィールドが Russia 以外の国であるため、各レコードの PRICE フィールドが印刷されます。

線要素の指定

レコード・レイアウトに線を引くことができます。

処置例: 線の始点 (左右 : 3, 上下 : 4) にカーソルを移動し、F9 キーを押してください。

要素マーク %L008 が表示され、F9 キーを押すように求めるメッセージが出ます。

```

レコード・レイアウトの設計                                1- 74
制御 . . . _____ PFD 定義 . . . . . PRODUCTLBL
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001 *B007 -----+
002 : :
003 : *T001 : *T003 :
004 : %L008 :
005 : *T002 : *T004 . :
006 : : *S005 :
007 : *C006 :
008 : :
009 +-----+
010
011
012
013
014
015
016
017
                                         続く ...
F3= 終了      F5= 最新表示      F9= 線      F12= 取り消し
F15=マーク・オン/オフ  F16= 遮蔽      F19= 左      F20= 右
線の反対側の終わりを指定して、 F9 キーを押してください。

```

処置例: 線の終点 (左右 : 33, 上下 : 4) にカーソルを移動し、 F9 キーを押してください。

イメージ域に線が引かれ、画面の下部にキー入力域が表示されます。

```

レコード・レイアウトの設計                                1- 74
制御 . . . _____ PFD 定義 . . . . . PRODUCTLBL
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001 *B007 -----+
002 : :
003 : *T001 : *T003 :
004 : %L008 -----+
005 : *T002 : *T004 . :
006 : : *S005 :
007 : *C006 :
008 : :
009 +-----+
010
011
012
                                         続く ...
                                         線の定義
マーク . . . . . : *L008      測定方式 . . . . . : 行/桁
開始位置 . . . . . 左右      3      上下      4
終了位置 . . . . . 左右      33     上下      4
F3= 終了      F4= 詳細      F6= 測定方式の変更
F12= 取り消し  F24= キーの続き

```

処置例: 実行キーを押してください。

線が定義されます。

処置例: 同じ要領で、(左右 : 3, 上下 : 6) から (左右 : 15, 上下 : 6) までの別の線要素を定義してください。

次の画面が表示されます。

```
レコード・レイアウトの設計                                1- 74
制御 . . . PFD 定義 . . . . . PRODUCTLBL
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001 *B007 -----+
002 : :
003 : *T001 : *T003 :
004 : *L008 -----+
005 : *T002 : *T004 . :
006 : *L009 ----- *S005 :
007 : *C006 :
008 : :
009 +-----+
010
011
012
013
014
015
016
017
                                         続く ...
F3= 終了   F6= テキスト   F9= 線   F10= 枠
F11= バーコード   F13= 挿入   F14= 変更   F24= キーの続き
```

レコード・レイアウトの設計の終了

処置例: レコード・レイアウトにすべての要素を指定し終わったら、F3 キーを押してこの画面を終了してください。

「ページ・レイアウトの設計」画面が表示されます。

ページ・レイアウトの設計

「ページ・レイアウトの設計」の画面では、レコード・レイアウトをページ内に印刷する方法、およびテキストや線などの他の要素をそのページに印刷する方法を定義することができます。

本章の例以外にも、予約可変データ (日付、時刻、ページ番号) およびフィールド値の合計データをデータベース・ファイルの中に定義することができます。詳細については、159 ページの『第 10 章 PFD 定義の処理』を参照してください。

```

                ページ・レイアウトの設計          桁： 1- 74
制御 . . . _____ PFD 定義 . . . . . PRODUCTLBL
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002
003
004
005
006
007
008
009
010
011
012
013
014
015
016
017
                                                    続く ...
-----
F3= 終了      F6= テキスト      F9= 線      F10= 枠
F11= バーコード  F13= 挿入      F14= 変更      F24= キーの続き

```

最初、上記のページ・レイアウトには何も定義されていません。対話式にページ内にレコード・レイアウトを配置し、固定データを定義してください。固定データは、レコード・レイアウトの設計時に行ったのと同じ要領で、定義することができます。

レコード・レイアウトの配置は、以下のステップによって行うことができます。

処置例: レコード・レイアウトを挿入したい位置 (左右 : 5, 上下 : 5) にカーソルを移動し、F13 キーを押してください。

```

                ページ・レイアウトの設計          桁：      1- 74
制御 . . . _____ PFD 定義 . . . . . PRODUCTLBL
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002
003
004
005      %
006
007
008
009
010
011
012
013
014
015
016
017
                                                    続く ...
-----
F3= 終了      F6= グラフィックス挿入      F9= ページ・セグメント挿入
F11= レコード・レイアウト挿入      F12= 取り消し      F24= キーの続き
F13= 挿入      F14= 変更      F24= キーの続き
F9 または F11 キーを押してください。

```

カーソル位置を示す、パーセント記号 (%) が表示されます。(要素タイプがまだ指定されていないため、マークは表示されません。)

機能キー域が変わり、F11=レコード・レイアウト挿入が表示されます。

処置例: F11 キーを押してレコードを挿入してください。

制御		ページ・レイアウトの設計	桁:	1- 74
PF1 定義		PRODUCTLBL		
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...				
001				
002				
003				
004				
005	%R001-001			
006				
007				
008				
009				
010				
011				
012				
				続く ...
レコード・レイアウトの挿入				
マーク	: *R001	測定方式	: 行/桁	
位置	左右	5	上下	5
F3= 終了 F4= 詳細 F6= 測定方式の変更				
F12= 取り消し F24= キーの続き				

イメージ域のカーソルがある位置にマーク %R001-001 が表示され、画面の下部にキー入力域が表示されます。

レコード・レイアウトのマークにはシーケンス番号が後ろに付きます。このシーケンス番号は、レコード・レイアウトが繰り返されるつど 1 ずつ増えて、*R001-002、*R001-003、というようになります。

処置例: カーソルをキー入力域に移動し、F4 キーを押してください。

「レコード・レイアウト明細の挿入」画面が表示されます。

レコード・レイアウト明細の挿入		
マーク: *R001	測定方式 :	行/桁
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
位置:		
左右	5	1-999
上下	5	1-999
要素 名前		
方向	1	1= 左右, 2= 上下
反復:		
左右	2	1-99
上下	4	1-99
距離:		
左右	40	1-999
上下	10	1-999
終わり		
F3= 終了 F5= 最新表示 F6= 測定方式の変更 F12= 取り消し		

希望の選択項目を詳細リストに入力することができます。

処置例:

1. 印刷するレコード・レイアウトの反復の値 (左右 : 2, 上下 : 4) を入力してください。
2. 印刷するレコード・レイアウトの距離の値 (左右 : 40, 上下 : 10) を入力してください。
3. 実行キーを押してください。

「ページ・レイアウトの設計」画面が表示されます。

```
                ページ・レイアウトの設計                桁 : 1- 74
制御 . . . _____ PFD 定義 . . . . . PRODUCTLBL
*...+...1....+...2....+...3....+...4....+...5....+...6....+...7....
001
002
003
004
005      *R001-001                *R001-002
006
007
008
009
010
011
012
013
014
015      *R001-003                *R001-004
016
017
                                         続く ...
-----
F3= 終了   F6= テキスト   F9= 線   F10= 枠
F11= バーコード   F13= 挿入   F14= 変更   F24= キーの続き
```

ページ内にタイトルを印刷するには、次のようにしてください。

処置例:

1. テキストを定義する位置 (左右 : 33, 上下 : 2) にカーソルを移動し、 F6 キーを押してください。キー入力域が現れます。
2. テキスト・データのプロンプトに製品納品ラベルと入力してください。
3. 実行キーを押してください。

次の画面が表示されます。

ページ・レイアウトの設計 桁: 1- 74

制御 . . . _____ PFD 定義 PRODUCTLBL
 *...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...

001
 002 *T002 納品ラベル
 003
 004
 005 *R001-001 *R001-002
 006
 007
 008
 009
 010
 011
 012
 013
 014
 015 *R001-003 *R001-004
 016
 017

続く ...

F3= 終了 F6= テキスト F9= 線 F10= 枠
 F11= バーコード F13= 挿入 F14= 変更 F24= キーの続き

処置例: F3 キーを押して「ページ・レイアウトの設計」画面を終了してください。

「PFD 定義の作成」画面で印刷出力仕様の定義を選択したため、「印刷出力仕様の定義」画面が表示されます。

印刷出力仕様の定義

印刷出力仕様の定義

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

コピー部数	2	1-255
印刷精度	*CONTENT	*CONTENT, *ABSOLUTE
印刷品質	*STD	*STD, *DRAFT, *NLQ
両面印刷	*NO	*NO, *YES, *TUMBLE
背面ページ・レイアウトの省略	N	Y=YES, N=NO
用紙タイプ	*STD	文字値, *STD
ソース用紙入れ	1	1-255, *E1, *CUT
前面オーバーレー:		
オーバーレー	*NONE	名前, *NONE, リストは F4
ライブラリー	*LIBL	名前, *LIBL, *CURLIB
左右オフセット00	0.00-22.75
上下オフセット00	0.00-22.75
背面オーバーレー:		
オーバーレー	*NONE	名前, *NONE, リストは F4
ライブラリー	*LIBL	名前, *LIBL, *CURLIB
左右オフセット00	0.00-22.75
上下オフセット00	0.00-22.75

続く ...

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し

印刷するコピーの枚数、印刷に使用する用紙の種類、異なる用紙定義、および用紙のそれぞれのサイドのオーバーレイ、等々の情報を指定することができます。

処置例:

1. コピー部数 プロンプトに 2 と入力してください。
2. 「次ページ」キーを押してください。

次の「印刷出力仕様の定義」画面が表示されます。

印刷出力仕様の定義

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

用紙定義	<u>*INLINE</u>	名前, *DEVD, *INLINE
ライブラリー	_____	名前, *LIBL, *CURLIB

終わり

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し

印刷形式ユーティリティーがインライン用紙定義を作成する必要があることを指定します。

処置例:

1. 用紙定義 のプロンプトに *INLINE と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

「PFD 定義の作成」画面が表示されます。

PFD 定義の終了

これで PFD 定義を保管し、PFD 定義の定義を終了することができます。

PFD 定義の作成

ファイル	: PFDFILE
ライブラリー	: MYLIB
PFD 定義	: PRODUCTLBL

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1= 選択

OPT 処置

- PFD 仕様の定義
- PFD 定義フォントの処理
- データベース・ファイルの指定
- 切れ目フィールドの指定
- レコード・レイアウトの設計
- ページ・レイアウトの設計
- レコード選択の指定
- 印刷出力仕様の定義
- マッピング・オブジェクト名の指定

F3= 終了 F5= 最新表示 F9= すべての選択

処置例: F3 キーを押して PFD 定義の作成を終了してください。

PFD 定義の終了

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

オプション	<u>1</u>	1= 保管して終了 2= 保管しないで終了 3= PFU セッションの再開
PFD 定義リストへの戻り	<u>Y</u>	Y=YES, N=NO

F12= 取り消し

処置例:

1. オプション プロンプトに 1 と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

「PFD 定義の保管」画面が表示されます。

PFD 定義の保管

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

PFD 定義	<u>PRODUCTLBL</u>	名前, リストは F4
ファイル	<u>PFDFILE</u>	名前, リストは F4
ライブラリー	<u>MYLIB</u>	名前, *CURLIB
テキスト '記述'	<u>PFD の実習</u>	
<hr/>		
除去した要素の削除	<u>N</u>	Y=YES, N=NO

F4= プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し

処置例: テキスト '記述' のプロンプトに PFD 実習と入力して、実行キーを押してください。

次の画面が表示されます。

PFD 定義の処理

ファイル	PFDFILE	名前, リストは F4
ライブラリー	MYLIB	名前, *LIBL, *CURLIB
PFD 定義	*ALL	名前, 総称*, *ALL
位置指定		開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。
 1= 作成 2= 変更 3= コピー 4= 削除 6=PFD 定義の印刷 7= 名前の変更
 9= データベース・ファイルの印刷

OPT	PFD 定義	テキスト	変更
9	PRODUCTLBL		
-	PRODUCTLBL	PFD の実習	02/01/30

終わり

パラメーターまたはコマンド
 ==>

F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F9= コマンドの複写
 F11= 名前だけの表示 F12= 取り消し

PFD 定義 PRODUCTLBL がファイル PFDFILE に正常に保管された。

この画面からデータベース・ファイルを印刷することができます。

ステップ 4 - データベース・ファイルの印刷

次の手順でデータベース・ファイルを印刷することができます。

処置例:

1. PRODUCTLBL の隣の OPT の欄に 9 (印刷) と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

「データベース・ファイル・メンバーの印刷」画面が表示されます。

データベース・ファイル・メンバーの印刷		
ファイル	:	PFDFILE
ライブラリー	:	MYLIB
PFD 定義	:	PRODUCTLBL
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
データベース・ファイル	<u>*PFD</u>	名前, *PFD, リストは F4
ライブラリー	<u>*LIBL</u>	名前, *LIBL, *CURLIB
メンバー	<u>*FIRST</u>	名前, *FIRST, リストは F4
格子の組み込み	N	Y=YES, N=NO
レコード選択	<u>Y</u>	Y=YES, N=NO
終了ページ	<u>*END</u>	1-9999, *END
ソース用紙入れ	<u>*PFD</u>	1-255, *PFD, *E1
出力ピン	<u>*DEV</u>	1-65535, *DEV
コピー部数	<u>*PFD</u>	1-255, *PFD
出力待ち行列	<u>*JOB</u>	名前, *JOB
ライブラリー	_____	名前, *LIBL, *CURLIB
続く ...		
F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し		

処置例: 実行キーを押して、省略時の値を使用してください。

データベース・ファイル・メンバーが印刷されます。

注: 印刷操作によって出力キューにスプール・ファイルが作成され、印刷書き出しプログラムがそのスプール・ファイルを印刷装置に送ると、データベース・ファイル・メンバーが印刷されます。

ステップ 5 - 印刷形式ユーティリティーの終了

データベース・ファイルが印刷されると、次の画面が表示されます。

PFD 定義の処理		
ファイル	<u>PFDFILE</u>	名前, リストは F4
ライブラリー	<u>MYLIB</u>	名前, *LIBL, *CURLIB
PFD 定義	<u>*ALL</u>	名前, 総称*, *ALL
位置指定	<u> </u>	開始文字
オプションを入力して, 実行キーを押してください。		
1= 作成 2= 変更 3= コピー 4= 削除 6=PFD 定義の印刷 7= 名前の変更		
9= データベース・ファイルの印刷		
OPT	PFD 定義	テキスト
—	<u>PRODUCTLBL</u>	
—	<u>PRODUCTLBL</u>	PFD の実習
		02/01/30
		変更
		終わり
パラメーターまたはコマンド		
===>		
F3= 終了 F4=フリップ F5= 最新表示 F9= コマンドの複写		
F11= 名前だけの表示 F12= 取り消し		
データベース・ファイル QAFCPFDDTA のメンバー QAFCPFDDTA が印刷された。		

処置例: F3 キーを押して「PFD 定義の処理」画面を終了してください。

「PFD 定義ファイルの処理」画面が表示されます。

PFD 定義ファイルの処理		
ライブラリー	<u>MYLIB</u>	名前, *USRLIBL, *LIBL, *CURLIB...
ファイル	<u>*ALL</u>	名前, 総称*, *ALL
位置指定	<u> </u>	開始文字
オプションを入力して, 実行キーを押してください。		
1= 作成 2= 変更 3= コピー 4= 削除 7= 名前の変更 8= 記述の表示		
12=PFD 定義の処理		
OPT	ファイル	ライブラリー
—	<u>PFDFILE</u>	<u>MYLIB</u>
—	<u>PFDFILE</u>	<u>MYLIB</u>
		実習用の PFD ファイル
		02/01/30
		変更
		終わり
パラメーターまたはコマンド		
===>		
F3= 終了 F4=フリップ F5= 最新表示 F9= コマンドの複写		
F11= 名前だけの表示 F12= 取り消し		
PFD 定義ファイル PFDFILE がライブラリー MYLIB に作成された。		

処置例: F3 キーを押してください。

「IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries」メニューが表示されます。

次の1つを選択してください。

- オーバーレイ・ユーティリティ
1. ソース・オーバーレイの処理
 2. ソース・オーバーレイ・ファイルの処理

- 印刷形式ユーティリティ
11. PFD 定義の処理
 12. PFD 定義ファイルの処理
 13. データベース・ファイル・メンバーの印刷
 14. AFP ユーティリティの解説の印刷

- 資源管理ユーティリティ
21. ページ・セグメントへの変換
 22. オーバーレイの処理
 23. ページ・セグメントの処理

選択項目またはコマンド

===> _____

F3= 終了 F4=プロンプト F9=コマンドの複写 F12= 取り消し F16=システム・メインメニュー
(C) COPYRIGHT IBM CORP. 1991, 2001.

ステップ 6 - AFP ユーティリティの解説の印刷

「IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries」メニューのオプション 14 を使用すると、IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries の機能を説明し、その他の例を記載した解説、または解説の一部を印刷することができます。

処置例:

1. 「選択項目またはコマンド」の行に 14 (AFP ユーティリティの解説の印刷) と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

「データベース・ファイル・メンバーの印刷」画面が表示されます。

データベース・ファイル・メンバーの印刷

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ファイル	QAFCTUTPFD	名前, リストは F4
ライブラリー	QGPL	名前, *LIBL, *CURLIB
PFD 定義	TUTORIAL	名前, *FIRST, リストは F4
データベース・ファイル	*PFD	名前, *PFD, リストは F4
ライブラリー	*LIBL	名前, *LIBL, *CURLIB
メンバー	*FIRST	名前, *FIRST, リストは F4
格子の組み込み	N	Y=YES, N=NO
レコード選択	Y	Y=YES, N=NO
終了ページ	*END	1-9999, *END
ソース用紙入れ	*PFD	1-255, *PFD, *E1
出力ビン	*DEVD	1-65535, *DEVD
コピー部数	*PFD	1-255, *PFD
出力待ち行列	*JOB	名前, *JOB
ライブラリー	_____	名前, *LIBL, *CURLIB

続く ...

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し

解説の概要のみを印刷する場合。

処置例:

1. TAB キーを 2 回押して、カーソルを「PFD 定義」のプロンプトに合わせます。
2. F4 キーを押してください。

「PFD 定義の選択」画面が表示されます。

```

                                PFD 定義の選択
ファイル . . . . . : QAFCTUTPFD
ライブラリー . . . . : QGPL

位置指定 . . . . . _____ 開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1= 選択

OPT   PFD 定義       テキスト
-     TUTORIAL      ENTIRE TUTORIAL
-     TUTOR10       OVERVIEW - TOPICS COVERED IN THE TUTORIAL
-     TUTOR20       CREATE SOURCE OVERLAY FILE AND SOURCE OVERLAY
-     TUTOR25       CREATE SOURCE OVERLAY
-     TUTOR30       CREATE THE DATABASE FILE AND ADD DATA WITH DFU
-     TUTOR32       CREATE THE DATABASE FILE - NO DATA
-     TUTOR40       ADD DATA TO THE DATABASE FILE WITH DFU
-     TUTOR50       CREATE PFD FILE, CREATE AND CHANGE A PFD
-     TUTOR55       CREATE A PFD DEFINITION
-     TUTOR57       CHANGE A PFD DEFINITION

                                         続く ...

F5= 最新表示   F12= 取り消し
```

処置例:

1. TAB キーを押して、カーソルを PFD 定義「TUTOR10」に合わせます。
2. 1 と入力して、実行キーを押します。

「データベース・ファイル・メンバーの印刷」画面が、再度表示されます。

処置例:

1. もう一度実行キーを押して、解説の概要を印刷します。

注: 印刷操作によって出力キューにスプール・ファイルが作成され、印刷書き出しプログラムがそのスプール・ファイルを印刷装置に送ると、データベース・ファイル・メンバーが印刷されます。

「IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries」メニューが表示されます。

処置例: F3 キーを押して「メイン・メニュー」に戻ってください。

第 9 章 印刷形式ユーティリティの開始および終了

本章では、印刷形式ユーティリティの開始および終了についての補足説明を記載します。

印刷形式ユーティリティの開始

次のいずれかのコマンドをコマンド行に入力し、実行キーを押すことによって、印刷形式ユーティリティを開始することができます。

1. **STRAFPU** (IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries の開始)
2. **STRPFU** (印刷形式ユーティリティ開始)

STRAFPU を入力して開始した場合には、次のメニューが表示されます。

```
AFPU                      IBM ADVANCED FUNCTION PRINTING UTILITIES

次の 1 つを選択してください。

オーバーレイ・ユーティリティ
  1. ソース・オーバーレイの処理
  2. ソース・オーバーレイ・ファイルの処理

印刷形式ユーティリティ
  11. PFD 定義の処理
  12. PFD 定義ファイルの処理
  13. データベース・ファイル・メンバーの印刷
  14. AFP ユーティリティの解説の印刷

資源管理ユーティリティ
  21. ページ・セグメントへの変換
  22. オーバーレイの処理
  23. ページ・セグメントの処理

選択項目またはコマンド
===> _____

F3= 終了   F4=プロンプト   F9=コマンドの複写   F12= 取り消し   F16=システム・メインメニュー
(C) COPYRIGHT IBM CORP. 1991, 2001.
```

このメニューから次の 4 つの印刷形式ユーティリティ機能を開始することができます。

オプション	機能
11	PFD 定義の処理
12	PFD 定義ファイルの処理
13	データベース・ファイル・メンバーの印刷
14	AFP ユーティリティの解説の印刷

上記のメニューで選択することができるオプションについて以下で説明します。次のいずれかを選択するには、コマンド行にそのオプションの番号を入力し、実行キーを押してください。

オプション 11 (PFD 定義の処理)

PFD 定義の処理を選択すると、次のことを行うことが可能になります。

- PFD 定義の作成。オプション番号とともに PFD 定義の名前を指定することによって、このオプションを開始します。
- PFD 定義の変更
- PFD 定義のコピー
- PFD 定義の削除
- PFD 定義の印刷
- PFD 定義の名前を変更
- データベース・ファイルの印刷

詳細については、159 ページの『第 10 章 PFD 定義の処理』を参照してください。

オプション 12 (PFD 定義ファイルの処理)

PFD 定義ファイルの処理を選択すると、次のことを行うことが可能になります。

- ライブラリーの名前、PFD 定義ファイルの名前、およびオプション番号を指定することによる PFD 定義の作成
- PFD 定義ファイルの記述の変更
- PFD 定義ファイルのコピー
- PFD 定義ファイルの削除
- PFD 定義の名前を変更
- PFD 定義ファイルの記述の表示
- 「PFD 定義の処理」画面の呼び出し

詳細については、223 ページの『第 11 章 PFD 定義ファイルの処理』を参照してください。

オプション 13 (データベース・ファイル・メンバーの印刷)

データベース・ファイル・メンバーの印刷を選択すると、PFD 定義、データベース・ファイル、出力キュー、および他のデータベース・ファイル・メンバーを印刷するための情報を指定することで、システムに対する印刷要求を対話式に作成することができます。詳細については、239 ページの『第 12 章 データベース・ファイル・メンバーの印刷』を参照してください。

印刷形式ユーティリティーを **STRPFU** コマンドを使用して開始した場合は、159 ページの「PFD 定義の処理」画面が表示されます。コマンドとともに PFD 定義とオプション番号とを指定すると、「PFD 定義の処理」画面をスキップできます。

詳細については、411 ページの『第 21 章 AFP Utilities for iSeries 用のコマンド』を参照してください。

オプション 14 (AFP ユーティリティーの解説の印刷)

AFP ユーティリティーの解説の印刷を用いると、解説の全部、または一部を印刷することができます。「データベース・ファイル・メンバーの印刷」画面が表示され

ます。指定された値を変更して、コピー部数を指定したり、あるいは出力先を別の出力キューにしたりすることができます。解説全体を印刷する場合は、実行キーを押してください。解説の一部だけを印刷する場合は、カーソルを PFD 定義のプロンプトに置いて、F4 を押します。「PFD 定義の選択」画面が表示され、印刷したい解説のセクションを選択することができます。次に、選択できるセクションを示します。

- 解説全体
- 概要 - 解説で扱われるトピック
- ソース・オーバーレイ・ファイルおよびソース・オーバーレイの作成
- ソース・オーバーレイの作成
- データベース・ファイルの作成および DFU によるデータの追加
- データベース・ファイルの作成 - データなし
- DFU によるデータのデータベース・ファイルへの追加
- PFD ファイルの作成、PFD の作成と変更
- PFD 定義の作成
- PFD 定義の変更
- PFD データの印刷
- PFD 定義のコピー
- ページ・セグメントの物理ファイル・メンバーへの変換
- 物理ファイル・メンバーのページ・セグメントへの変換

印刷形式ユーティリティの終了

印刷形式ユーティリティの処理が完了したら、F3 キーを繰り返し押してください。 STRAFP コマンドを使用して印刷形式ユーティリティを開始した場合は、155 ページのメニュー画面が表示されます。

STRPFU コマンドを使用して印刷形式ユーティリティを開始した場合は、159 ページのメニュー画面が表示されます。

印刷形式ユーティリティを終了するには、もう一度 F3 キーを押します。画面は印刷形式ユーティリティを開始した画面に戻ります。

第 10 章 PFD 定義の処理

この章では、「PFD 定義の処理」画面の補足説明を行います。

この画面では次のオプションを選択することができます。

- PFD 定義の作成
- PFD 定義の変更
- PFD 定義のコピー
- PFD 定義の削除
- PFD 定義の印刷
- PFD 定義の名前の変更
- データベース・ファイルの印刷

155 ページの「AFP ユーティリティー」メニューで 11 (PFD 定義の処理) を選択して、実行キーを押してください。次の画面が表示されます。

PFD 定義の処理		
ファイル	PFUFILE	名前, リストは F4
ライブラリー	PFULIB	名前, *LIBL, *CURLIB
PFD 定義	*ALL	名前, 総称*, *ALL
位置指定		開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1= 作成 2= 変更 3= コピー 4= 削除 6=PFD 定義の印刷 7= 名前の変更
9= データベース・ファイルの印刷

OPT	PFD	定義	テキスト	変更
-	PFD1		PFD 定義のサンプル	02/01/30
-	PFD2		PFD 定義のサンプル	02/01/30
-	PFD3		PFD 定義のサンプル	02/01/30
-	PFD4		PFD 定義のサンプル	02/01/30

パラメーターまたはコマンド
====>

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F9= コマンドの複写
F11= 名前だけの表示 F12= 取り消し

定義が最初に作成する PFD 定義である場合には、画面に定義リストは表示されません。

注: PFD 定義を作成する前に、「PFD 定義ファイルの処理」画面で 1 (作成) を選択して、PFD 定義ファイルを作成しておく必要があります。

次の表は、「PFD 定義の処理」画面について説明したものです。

プロンプト

表 18. PFD 定義の処理プロンプト

プロンプト	説明
ファイル	リストし処理したい PFD 定義が入っている PFD 定義ファイルを指定します。
ライブラリー	<p>指定したライブラリーの PFD 定義ファイルの選択リストに進むには、F4 キーを押します。</p> <p>処理したい PFD 定義が入っている PFD 定義ファイルを含んだライブラリーの名前を指定します。このフィールドで指定できるライブラリー値としては、次のものがあります。</p> <p>*LIBL 処理したい PFD 定義が入っているファイルは、ライブラリー・リストの中のいずれかのライブラリーにあることを指定するのに用います。</p> <p>*CURLIB 処理したい PFD 定義が入っているファイルは、現行のライブラリーであることを指定するのに用います。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。</p>
PFD 定義	<p>ライブラリー名 処理したい PFD 定義が入っているファイルが入っているライブラリーを指定します。</p> <p>ファイルの中のすべての PFD 定義、またはファイルの中の PFD 定義のサブセットを処理したいということを指定します。次の中から選択してください。</p> <p>PFD 定義名 PFD 定義名を指定すると、その PFD 定義名を持つものだけがリストに表示されます。</p> <p>総称名 PFD 定義名の部分名をアスタリスク (*) で修飾したものを指定すると、PFD 定義の特定のサブセットが表示されます。総称名の形式は次のとおりです。</p> <p>ABC* 文字 ABC で始まるすべての PFD 定義のリストを表示します。たとえば、ABC、ABCD、または ABCTEST です。</p>
位置指定	<p>*ALL 指定したファイルの中のすべての PFD 定義を表示するのに用います。</p> <p>このプロンプトは、リストをすばやく位置変更するために使用します。リストのサブセット作成用ではありません。次の項目の中から 1 つを選択してください。</p> <p>*TOP これを指定すると、リストの上部に進みます。</p> <p>*BOT これを指定すると、リストの下部に進みます。</p> <p>名前または部分名 リストの中の進みたい先の名前または部分名を指定します。リストは、指定したストリングで始まる最初の名前に位置指定されません。</p>

オプション

表 19. PFD 定義の処理オプション

オプション	説明
1= 作成	<p>PFD 定義を作成します。</p> <p>新しい PFD 定義を作成することができます。OPT の欄に 1、リストの 1 行目に、作成したい PFD 定義の名前を入力してください。</p> <p>詳細については、164 ページの『1= PFD 定義の作成』を参照してください。</p> <p>注: PFD 定義を作成する前に、「PFD 定義ファイルの処理」画面で 1 (作成) を選択して、PFD 定義ファイルを作成しておく必要があります。</p>
2= 変更	<p>PFD 定義を変更します。</p> <p>PFD 定義を変更し、同じ名前か新しい名前のいずれかで保管することができます。つまり、このオプションを使用すれば、既存の PFD 定義を基にした新しい PFD 定義を作成することができます。また、その PFD 定義を別の PFD 定義ファイルまたは別のライブラリーに保管することもできます。変更したい PFD 定義の名前の隣の OPT の欄に 2 と入力してください。</p> <p>詳細については、218 ページの『2= PFD 定義の変更』を参照してください。</p>
3= コピー	<p>PFD 定義を新しい PFD 定義にコピーします。</p> <p>PFD 定義を別のファイル、または別のライブラリー、あるいはその両方にコピーすることもできます。コピーしたい PFD 定義の名前の隣の OPT の欄に 3 と入力してください。</p> <p>詳細については、219 ページの『3= PFD 定義のコピー』を参照してください。</p>
4= 削除	<p>PFD 定義ファイルから PFD 定義を削除します。</p> <p>PFD 定義を削除する前に、その次の画面で選択内容を確認することができます。削除したい PFD 定義の名前の隣の OPT の欄に 4 と入力してください。</p> <p>詳細については、221 ページの『4= PFD 定義の削除』を参照してください。</p>
6= 印刷	<p>PFD 定義を印刷します。</p> <p>印刷したい PFD 定義の名前の隣の OPT の欄に 6 を指定してください。</p> <p>詳細については、222 ページの『6= PFD 定義の印刷』を参照してください。</p>
7= 名前の変更	<p>PFD 定義の名前を変更します。</p> <p>名前を変更したい PFD 定義の名前の隣の OPT の欄に 7 を指定してください。</p> <p>詳細については、222 ページの『7= PFD 定義の名前の変更』を参照してください。</p>

表 19. PFD 定義の処理オプション (続き)

9= データベース・ファイルの印刷	データベース・ファイル・メンバーを印刷します。 PFD 定義に基づいてデータベース・ファイル・メンバーを印刷することができます。データベース・ファイル・メンバーの印刷の基本にしたい PFD 定義の名前の隣の <i>OPT</i> の欄に 9 と入力してください。 詳細については、222 ページの『9= データベース・ファイルの印刷』を参照してください。
-------------------	---

欄

表 20. PFD 定義の処理欄

欄	説明
Opt	作業を行いたい PFD 定義の隣の <i>OPT</i> の欄にその作業の番号を指定します。 同じオプションを複数の PFD 定義の隣に同時に指定することができ、また異なるオプションをそれぞれ異なる PFD 定義の隣に同時に入力することもできます。
PFD 定義	指定したファイルの中であって、サブセット基準に適合するすべての PFD 定義のリストを表示します。リストの最上部の位置は、作成したい PFD 定義を入力したり、別のオプションを選択したりするときを使用することができます。
テキスト変更	PFD 定義のテキスト記述が表示されます。 PFD 定義が最後に変更された日付が示されます。

PFD 定義リストの表示

ライブラリーのプロンプトおよびファイルのプロンプトに指定することによって、画面の下部に PFD 定義をリストすることができます。リストの内容を変更したいときには、ファイルとライブラリーの名前を指定して実行キーを押します。位置指定プロンプトに開始文字を指定することによって、画面上でリストのページ送りまたはページ戻しを行うことができます。

注: PFD 定義のプロンプト、ファイルのプロンプト、およびライブラリーのプロンプトのいずれかを指定した場合は、*OPT* の欄を指定することはできません。

リストからの PFD 定義の選択

画面のリストには、ファイルのプロンプトで指定された PFD 定義ファイルの中のすべての、または指定したサブセットの PFD 定義の名前が入っています。PFD 定義を記述するテキスト、および PFD 定義が最後に変更された日付もリストに示されます。

リストが表示されている時は、リストの右下に 1 語からなる標識が必ず現れ、今表示されているのがそのリスト内のどこにあたるかを示します。続く...は、今表示されている項目の後に項目が続くことを意味します。終わりは、今表示されているのがそのリストの終わりであることを意味します。

リストを正方向または逆方向に移動するには、「次ページ」キーまたは「前ページ」キーを使用してください。

PFD 定義を作成する場合は、新しい名前を選択する前に、このリストを調べてすでに使用されている名前を確認することができます。最初のリスト位置に 1 および PFD 定義名を入力すれば、PFD 定義を作成することができ、また、1 (作成) 以外のいずれかのオプションを使用すると、他の PFD 定義をリストから選択することができます。

したがって、次のいずれか一方または両方を行うことによって、1 つまたは複数の名前を選択することができます。

- 使用したいリストの PFD 定義名の隣の *OPT* の欄に、使用するオプションの番号 (作業) を入力する。
- リストの最初 (最上部) の位置に限り、*OPT* と *PFD* 定義 の欄に、それぞれ (作業の) オプション番号と PFD 定義を入力する。

注: この画面に新しい PFD 定義を指定して、PFD 定義を作成することができますが、この画面から PFD 定義ファイルを作成することはできません。PFD 定義ファイルを作成するには、「PFD 定義ファイルの処理」画面を使用してください。PFD 定義ファイル用のライブラリーがない場合は、「ライブラリー作成」(**CRTLIB**) コマンドを使用して、ライブラリーを作成してください。

1= PFD 定義の作成

PFD 定義を作成するには、159 ページの画面で次のことを行ってください。

1. リストの 1 行目の *OPT* の欄に 1 と入力する。
2. リストの 1 行目の *PFD* 定義 の欄に PFD 定義名を入力する。
3. 実行キーを押してください。

次の画面が表示されます。

PFD 定義の作成

ファイル : PFUFILE
 ライブラリー : PFULIB
 PFD 定義 : PFDNEW

オプションを入力して、実行キーを押してください。
 1= 選択

OPT	処置
-	PFD 仕様の定義
-	PFD 定義フォントの処理
I	データベース・ファイルの指定
-	切れ目フィールドの指定
I	レコード・レイアウトの設計
I	ページ・レイアウトの設計
-	レコード選択の指定
-	印刷出力仕様の定義
-	マッピング・オブジェクト名の指定

F3= 終了 F5= 最新表示 F9= すべての選択 F12= 取り消し

「PFD 定義の作成」画面では、次の処置の中から 1 つまたはそれ以上を選択して、PFD 定義を作成することができます。

- PFD 仕様の定義
- PFD 定義フォントの処理
- データベース・ファイルの指定
- 切れ目フィールドの指定
- レコード・レイアウトの設計
- ページ・レイアウトの設計
- レコード選択の指定
- 印刷出力仕様の定義
- マッピング・オブジェクト名の指定

次の表は、「PFD 定義の作成」画面の各フィールドについての説明です。

表 21. 「PFD 定義の作成」画面のフィールド

フィールド名	説明
ファイル	ユーザー指定の PFD 定義ファイル名を示します。
ライブラリー	PFD 定義ファイルが入っているライブラリーの名前が表示されます。
PFD 定義	前の画面でユーザーが指定した PFD 定義の名前が表示されます。
1 = 選択	リストから 1 つまたはそれ以上の処置を選択することができます。
Opt	選択したい処置の隣の <i>OPT</i> の欄に 1 (選択) を指定します。

表 21. 「PFD 定義の作成」画面のフィールド (続き)

フィールド名	説明
処置	<p>PFD 定義に関して次に挙げる処置の中の 1 つ、いくつか、または全部を選択することができます。</p>
	<p>PFD 仕様の定義 1 インチ当たりの文字数、1 インチ当たりの行数、サイズ (幅および長さ) など、印刷出力形式の仕様を定義することができます。</p>
	<p>PFD 定義フォントの処理 印刷に使用するフォントを変更することができます。</p>
	<p>データベース・ファイルの指定 印刷するデータベース・ファイルを指定することができます。</p>
	<p>切れ目フィールドの指定 改ページをさせるためのフィールドを選択することができます。</p>
	<p>レコード・レイアウトの設計 データベース・ファイルの中のレコードのフィールドをレコード・レイアウトのどこに挿入するかを定義することができます。指定されたフィールドの値はテキスト、ページ・セグメント、グラフィックス、あるいはバーコード (可変データ) として印刷されます。また、ジョブ日付、ジョブ時刻、ページ番号、レコード番号、データベース・ファイル名、ライブラリー名、およびメンバー名 (予約可変データ) などの可変データをレコード・レイアウトの中に置くこともできます。</p> <p>また、テキスト、バーコード、線、枠、ページ・セグメント、およびグラフィックスなどの固定データをレコード・レイアウトのどこに挿入するかを定義することもできます。</p>
	<p>ページ・レイアウトの設計 レコードをページ上に繰り返し印刷する方法を指定することができます。また、ジョブ日付、ジョブ時刻、ページ番号、レコード番号、データベース・ファイル名、ライブラリー名、およびメンバー名 (予約可変データ) などの可変データをページ上のどこに置くかを定義することもできます。</p> <p>また、グループ中の最初のレコードのフィールド値、グループの中の最後のレコードのフィールド値、グループの中のフィールド値の合計、グループの中のフィールド値の平均、グループの中の最大フィールド値、グループの中の最小フィールド値、およびグループの中のレコード・カウント (合計データ) などの可変データを印刷することもできます。</p> <p>また、この処置を用いると、テキスト、バーコード、線、枠、ページ・セグメント、およびグラフィックスなどの固定データをページ上に定義することができます。</p>

表 21. 「PFD 定義の作成」画面のフィールド (続き)

フィールド名	説明
処置	<p>レコード選択の指定 等しい、より大、より小など、指定した比較条件に基づいてレコードを選択することができます。</p> <p>印刷出力仕様の定義 次のような印刷出力の印刷方法を定義することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コピー部数 • 印刷品質 • ソース用紙入れ • 用紙タイプ • 用紙定義 <p>マッピング・オブジェクト名の指定 データベース・フィールドの値とオブジェクト名との間のマッピングの指定ができます。</p>

選択したオプションは 1 つずつ実行され、すべての操作が完了すると、この画面が再び表示されます。

選択したい処置の隣の *OPT* の欄に 1 を指定します。

すべての処置を選択したい場合は、F9 を押してください。

操作をすべて完了したら、F3 を押してこの画面を終了してください。

PFD 仕様の定義

PFD 仕様の定義

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

印刷装置タイプ	<u>*DEFAULT</u>	*DEFAULT, 1 - 9999
1 インチ当たりの文字数	<u>10.00</u>	5.00, 10.00, 12.00, 13.30, 15.00 16.70, 18.00, 20.00
1 インチ当たりの行数	<u>6.00</u>	3.00, 4.00, 6.00, 7.50, 8.00, 9.00 12.00
回転の角度	<u>0</u>	0, 90, 180, 270
ページ番号	<u>N</u>	Y=YES, N=NO
DBCS の S0/SI のスペース . . .	<u>Y</u>	Y=YES, N=NO

続く ...

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

PFD 仕様の定義

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

測定単位	<u>1</u>	1= インチ, 2= センチメートル
データ要素:		
測定方式	<u>1</u>	1= 行/桁, 2= インチ/センチメートル
サイズ:		
測定方式	<u>1</u>	1= 行/桁, 2= インチ/センチメートル
幅	<u>80</u>	1-999
高さ	<u>60</u>	1-999
オフセット:		
測定方式	<u>1</u>	1= 行/桁, 2= インチ/センチメートル
左右	<u>0</u>	0-999
上下	<u>0</u>	0-999
格子線:		
測定方式	<u>1</u>	1= 行/桁, 2= インチ/センチメートル
左右	<u>10</u>	1-999
上下	<u>6</u>	1-999

終わり

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

「PFD 仕様の定義」画面を使用すると、印刷装置のタイプ、1 インチ当たりの文字数、1 インチ当たりの行数、ページ・サイズ、および回転の角度など、PFD 仕様を定義することができます。

次の表は、「PFD 仕様の定義」画面の各フィールドについての説明です。

表 22. 「PFD 仕様の定義」画面のフィールド

フィールド名	説明
印刷装置タイプ	使用する印刷装置のタイプを指定します。印刷装置のタイプとして、1、2、3、4、5、6、7、および 9 を使用することができます。これらの値は、次の印刷装置のタイプを以前から引き続きサポートしています。
1	4224, 4234, 4230
2	3812, 3816, 3930
3	3916, 4028
4	3820, 3825, 3827, 3829, 3835, 3900
5	3825, 3835, 3900 (高機能イメージおよびグラフィックス機能付き)
6	3831
7	3935
9	指定しない

*DEFAULT は、指定なしも意味します。 *DEFAULT または 9 を指定すると、「印刷装置属性の確認または変更」画面が表示され、印刷装置のタイプの属性を指定することができます。印刷装置の属性は分かっても、AFP Utilities for iSeries の現行リリースが印刷装置をサポートしていない場合は、この画面を用いて属性を指定します。たとえば、印刷装置がバーコード・オブジェクト・コンテンツ体系 (BCOCA) をサポートしていることを指定すると、バーコード用の印刷装置データ・ストリームが BCOCA によって作成されます。しかし、印刷装置が BCOCA をサポートしていないと指定すると、バーコードは、表示テキスト・オブジェクト・コンテンツ体系 (PTOCA) によって作成されます。PTOCA バーコードは、すべての IPDS 印刷装置で印刷することができますが、BCOCA バーコードの方が高速で印刷します。

任意の有効な 4 桁の IBM IPDS 印刷装置タイプを指定することもできます。このパラメーターのフィールド・レベル・ヘルプには、バージョン 3、リリース 2 以降の各リリースでサポートされる印刷装置のリストが示されます。新しい印刷装置タイプが追加されてサポートされると、4 桁のタイプ番号が、サポートされている印刷装置のリストに追加されます。これはリリースが変わると起こるため、リストは完全でない場合があります。

指定した値は、次のことに使用されます。

- 各要素が印刷装置によってサポートされているかどうかを検査する。
- 各印刷装置ごとに適切なデータ・ストリームを作成する。

印刷装置の違いについては、475 ページの『付録 A. 印刷装置の特性』を参照してください。

表 22. 「PFD 仕様の定義」画面のフィールド (続き)

フィールド名	説明
1 インチ当たりの文字数	<p>印刷する 1 インチ当たりの文字数を指定します。2 バイト文字は 2 文字として数えられます。CPI には、5.00、10.00、12.00、13.30、15.00、16.70、18.00 および 20.00 から選択することができます。省略時の値は 10.00 です。</p> <p>この値は、測定方式が行/桁のときに、横方向の位置 (桁) を決めるために使用されます。</p> <p>この値は、枠要素の中のテキストの横方向の位置 (桁) を決めるために使用されます。</p>
1 インチ当たりの行数	<p>印刷する 1 インチ当たりの行数を指定します。LPI には、3.00、4.00、6.00、7.50、8.00、9.00 および 12.00 から選択することができます。省略時の値は 6.00 です。</p> <p>この値は、測定方式が行/桁のときに、縦方向の位置 (行) を決めるために使用されます。</p> <p>この値は、枠要素の中のテキストの縦方向の位置 (行) を決めるために使用されます。</p>
測定単位	<p>使用する測定単位を指定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 行/桁が測定方式として使用されます。 2 単位に指定された値に応じて、インチかセンチメートルのいずれかが測定方式として使用されます。
サイズ	<p>ページ・サイズは、測定方式、幅、および高さによって定義されます。</p>
測定方式	<p>サイズに使用される測定方式を指定します。</p> <p>指定できる値を以下に示します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 行/桁が測定方式として使用されます。 2 単位に指定された値に応じて、インチかセンチメートルのいずれかが測定方式として使用されます。
幅	<p>注: 測定方式と後続のフィールドの両方を変更する場合は、後続のフィールドを変更する前に、まず測定方式の値を変更し、実行キーを押しておく必要があります。</p> <p>ページの横方向のサイズを指定します。指定できる値は、指定した測定方式によって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1~999 (桁) • 0.10 ~ 22.75 (インチ) • 0.10 ~ 57.79 (センチメートル)
高さ	<p>ページの縦方向のサイズを指定します。指定できる値は、指定した測定方式によって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1~999 (行) • 0.10 ~ 22.75 (インチ) • 0.10 ~ 57.79 (センチメートル)
回転の角度	<p>時計方向にページを回転させる角度を指定します。0、90、180、または 270 度を選択することができます。</p>

表 22. 「PFD 仕様の定義」画面のフィールド (続き)

フィールド名	説明
ページ番号	<p>ページ番号を印刷するかどうかを指定します。 次のいずれか 1 つを入力してください。</p> <p>Y (YES) ページ番号を印刷します。</p> <p>N (NO) ページ番号を印刷しません。</p>
DBCS の SO/SI のスペース	<p>Y または N を指定して、シフトアウト (SO) 文字およびシフトイン (SI) 文字をブランクとして印刷するかどうかを指定します。</p> <p>Y (YES) テキスト・データの中のシフトアウト文字およびシフトイン文字がブランク文字として印刷されます。</p> <p>N (NO) テキスト・データの中のシフトアウト文字およびシフトイン文字は印刷されません。 これらの文字は印刷出力ではスペースをとりません。</p>
オフセット	<p>注: DBCS の SO/SI のスペースを指定することができるのは、ファイルが DBCS 使用可能ファイルの場合だけです。</p> <p>オフセットは、ページ起点とページ・レイアウトの間の距離のことで、測定方式、左右 (横方向の距離) および上下 (縦方向の距離) の桁数および行数によって定義されます。</p>
測定方式	<p>オフセットに使用される測定方式を指定します。</p> <p>指定できる値を以下に示します。</p> <p>1 行/桁が測定方式として使用されます。</p> <p>2 単位に指定された値に応じて、インチかセンチメートルのいずれかが測定方式として使用されます。</p> <p>注: 測定方式と後続のフィールドの両方を変更する場合は、後続のフィールドを変更する前に、まず測定方式の値を変更し、実行キーを押しておく必要があります。後続のフィールドは、ページ・レイアウトのオフセットを指定します。</p>
左右	<p>格子の縦線の左右の間隔を指定します。 指定できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 ~ 999 (桁) • 0~22.75 (インチ) • 0 ~ 57.79 (センチメートル)
上下	<p>格子の縦線の上下の間隔を指定します。 指定できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 ~ 999 (行) • 0~22.75 (インチ) • 0 ~ 57.79 (センチメートル)
格子	<p>格子は、一定の間隔で配された線の組み合わせであり、測定方式、左右 (横方向の間隔)、および上下 (縦方向の間隔) によって定義されます。</p>

表 22. 「PFD 仕様の定義」画面のフィールド (続き)

フィールド名	説明
測定方式	<p>格子に使用される測定方式を指定します。</p> <p>指定できる値を以下に示します。</p> <p>1 行／桁が測定方式として使用されます。</p> <p>2 単位に指定された値に応じて、インチかセンチメートルのいずれかが測定方式として使用されます。</p> <p>注: 測定方式と後続のフィールドの両方を変更する場合は、後続のフィールドを変更する前に、まず測定方式の値を変更し、実行キーを押しておく必要があります。</p> <p>設計作業に役立つように、印刷出力に横線および縦線を印刷するように指定することができます。後続のフィールドで格子線の上下および左右の間隔を指定します。</p>
左右	<p>格子の縦線の左右の間隔を指定します。指定できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1～999 (桁) • 0.10～22.75 (インチ) • 0.10～57.79 (センチメートル)
上下	<p>格子の縦線の上下の間隔を指定します。指定できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1～999 (行) • 0.10～22.75 (インチ) • 0.10～57.79 (センチメートル)

PFD 仕様の変更

既存の PFD 定義の仕様を変更することも、既存の PFD 定義を変更して、それを基にした新しい PFD 定義を作成することもできます。同じ PFD 定義の中で前に定義した要素と変更された PFD 仕様との間に矛盾が生じることがあります。下記の場合に起こります。

注: 変更操作は作成操作と似ています。唯一の違いは、画面が表示されたときに、前に入力されたパラメーターが各フィールドにすでに入っているという点です。各パラメーターについては、166 ページの『PFD 仕様の定義』を参照してください。

- ページ・サイズの縮小

ページ・サイズを、以前に定義した値よりも小さい値に変更しようとする、要素によっては、新しく定義されたページからはみ出すものがあります。したがって、たとえば、前のページ・レイアウトまたはレコード・レイアウトの右端近くにあった要素は、新しく定義されたページの外にはみ出ることがあります。このような場合には、位置がページからはみ出している要素は削除されます。

このような状況が生じた場合は、印刷形式ユーティリティーによって確認画面が表示されるので、要素の削除操作を実行するか、または PFD 仕様変更操作を取り消すことができます。詳細については、174 ページの『要素の削除の確認』を参照してください。

- 単位の変更

印刷形式ユーティリティーを使用すると、PFD 仕様の測定単位をインチかセンチメートルのどちらかに変更することができます。各要素ごとに定義されている数字は変更されません。したがって、要素によっては、サイズに指定されている値がその測定単位で指定できる最大値を超えた場合、ページ・レイアウトまたはレコード・レイアウトからはみ出すものがあります。この場合は、前に説明したようにページ・サイズが縮小されます。

- 印刷装置タイプの変更

印刷形式ユーティリティーでは、PFD 仕様の中の印刷装置タイプを変更できるようになっています。印刷形式ユーティリティーでは、前に定義された要素と新しく指定された印刷装置タイプとの間の互換性を検査します。印刷形式ユーティリティーが印刷装置に合わない要素を見つけた場合、確認画面を表示し、それらの要素を画面上にリストします。この場合には、その要素を削除することや、PFD 仕様の変更を取り消すことができます。

PFD 仕様のパラメーター値を変更した結果、要素のパラメーター値が妥当でない値になった時は、警告メッセージが表示されます。実行キーを押して次のようにそれらの要素のパラメーター値を調整する、または PFD 仕様のパラメーター値を変更してエラーを訂正することもできます。

次の表は、警告メッセージの原因および結果を記載したものです。

表 23. メッセージの原因とその結果

原因	結果
測定単位 が 1 = インチ から 2 = センチメートルに変更され、モジュールの幅 の値が小さくなり過ぎている。たとえば、0.001 インチは 0.001 センチメートルになる。	正しい最小値 0.003 センチメートルが使用される。
測定単位 が 2 = センチメートルから 1 = インチに変更され、モジュールの幅 または線幅 が大きくなり過ぎている。たとえば 2 センチは 2 インチになる。	正しい最大値 1 インチが使用される。
印刷装置のタイプ が 1 = 4224/4234/4230、または 9 = 指定しないから別のタイプに変更され、カラー の値が正しくなくなっている。たとえば、1 = 青が正しくない。	値 *DEFAULT が使用される。
印刷装置のタイプ が別のタイプから 1=4224/4234/4230、2=3812/3816/3930、3=3916/4028、または 7=3935 に変更され、様式 の値が正しくなくなっている。たとえば、2 = 上下方向が正しくない。	値 1 = 左右が使用される。
印刷装置タイプ が 1=4224/4234/4230、 2=3812/3816、 3=3916/4028、 7=3935、または 9=指定しないから別のタイプに変更され、重ね打ち の値が正しくなくなっている。たとえば、X が正しくない。	ブランクが使用される。
印刷装置のタイプ が 1=4224/4234/4230、 2=3812/3816/3930、 3=3916/4028、 7=3935、または 9=指定しないから別のタイプに変更され、下線 の値が正しくなくなっている。たとえば、Y は正しくない。	値 N が使用される。
印刷装置のタイプ が 1=4224/4234/4230、 2=3812/3816/3930、 3=3916/4028、 7=3935、または 9=指定しないから別のタイプに変更され、文字サイズ の値が正しくなくなっている。たとえば、1 は正しくない。	値 *DEFAULT が使用される。

要素の削除の確認

レコード・レイアウト要素の削除の確認

レコード・レイアウト要素の削除の確認

削除の選択項目が正しい場合には、実行キーを押してください。
選択項目を変更するためには、F12 キーを押して戻ってください。

マーク	名前	左右の 位置指定	上下の 位置指定	理由
*S001	LOGO	25	66	ページ外
*G003		1	1	ページ外
*L007		3	4	ページ外

F12= 取り消し

終わり

「レコード・レイアウト要素の削除の確認」画面には、PFD 仕様の変更が原因で削除されるレコード・レイアウトの要素のリストが表示されます。理由の欄には、その要素が削除される理由が示されます。

このような要素は、実行キーを押すことによって削除することができます。これらの要素を削除したくない場合に、F12 を押して取り消すと、「PFD 仕様の定義」画面が表示されます。

表 24. 「レコード・レイアウト要素の削除の確認」画面のフィールド

フィールド名	説明
マーク	要素マークを示します。
名前	「要素明細の作成または変更」画面で各要素に割り当てられている要素名を示します。
左右の指定位置	要素の横方向の位置を示します。
上下の指定位置	要素の縦方向の位置を示します。
理由	要素を削除する理由を示します。
	ページ外
	要素の位置が PFD 仕様に指定されているサイズ内に収まっていません。
	<ul style="list-style-type: none">要素がテキスト、バーコード、またはページ・セグメントである場合は、その開始位置がはみ出ている。要素が、線、枠、またはグラフィックスの場合は、その右下隅がはみ出ている。
	印刷装置タイプによってサポートされていない
	このタイプの要素は、PFD 仕様で指定されている印刷装置タイプではサポートされていません。
	要素がグラフィックスである場合には、印刷装置はグラフィックスを印刷する機能をサポートしていません。

ページ・レイアウト要素の削除の確認

ページ・レイアウト要素の削除の確認

選択項目が正しい場合には、実行キーを押してください。
選択項目を変更するためには、F12 キーを押して戻ってください。

マーク	名前	左右の 位置指定	上下の 位置指定	理由
*B001		5	5	ページ外
*T003		88	2	ページ外
*G011		27	10	印刷装置タイプによってサポートされていない

F12= 取り消し

終わり

「ページ・レイアウト要素の削除の確認」画面には、PFD 仕様の変更が原因で削除されるページ・レイアウトの要素のリストが表示されます。理由の欄には、その要素が削除される理由が示されます。

このような要素は、実行キーを押すことによって削除することができます。これらの要素を削除したくない場合は、F12 を押して取り消します。こうすると、「PFD 仕様の定義」画面が表示されます。

表 25. 「ページ・レイアウト要素の削除の確認」画面のフィールド

欄	説明
マーク	要素マークを示します。
名前	「要素明細の作成または変更」画面で各要素に割り当てられている要素名を示します。
左右の指定位置	要素の横方向の位置を示します。
上下の指定位置	要素の縦方向の位置を示します。

表 25. 「ページ・レイアウト要素の削除の確認」画面のフィールド (続き)

理由	要素を削除する理由を示します。
	ページ外 要素の位置が PFD 仕様に指定されているサイズ内に収まっていません。 <ul style="list-style-type: none">• 要素がテキスト、バーコード、またはページ・セグメントである場合は、その開始位置がはみ出ている。• 要素が、線、枠、またはグラフィックスの場合は、その右下隅がはみ出ている。• 要素がレコード・レイアウトの場合は、その最後の繰り返しはみ出ている。
	印刷装置タイプによってサポートされていない このタイプの要素は、PFD 仕様で指定されている印刷装置タイプではサポートされていません。 要素がグラフィックスである場合には、印刷装置はグラフィックスを印刷する機能をサポートしていません。

PFD 定義フォントの処理

フォントの処理操作については、335 ページの『第 14 章 フォントの処理』を参照してください。

データベース・ファイルの指定

データベース・ファイルの指定		
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
データベース・ファイル	<u> </u>	名前, リストは F4
ライブラリー	<u>QGPL</u>	名前, *LIBL, *CURLIB
レコード様式	<u>*FIRST</u>	名前, *FIRST, リストは F4

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し

この画面では、印刷されるデータベース・ファイルの名前と、データベース・ファイルを含むライブラリーの名前を指定してください。ファイルに複数のレコード様式がある場合は、使用するレコード様式も指定しなければなりません。

次の表は、「データベース・ファイルの指定」画面の各フィールドについての説明です。

表 26. 「データベース・ファイルの指定」画面のフィールド

フィールド名	説明
データベース・ファイル	印刷するデータベース・ファイルの名前を指定します。ライブラリーの中のデータベース・ファイル名をリストするには、F4 を使用してください。
ライブラリー	印刷するデータベース・ファイルが入っているライブラリー名を指定します。ライブラリーとして *CURLIB または *LIBL を指定することもできます。
レコード様式	印刷するデータベース・ファイルのレコード様式名を指定します。*FIRST を指定することもできます。実行キーを押すと、実際の様式名によって *FIRST は置換されます。レコード様式名をリストするには、F4 を使用してください。

データベース・ファイルもレコード様式名もリスト表示する必要がない場合は、フィールドに入力して実行キーを押してください。別の処置に関する画面が表示されます。

レコード様式をリスト表示するには、カーソルを レコード様式 プロンプトに移動して、F4 キーを押し、183 ページの『レコード・レイアウトの設計』に進んでください。

データベース・ファイルをリスト表示するには、カーソルをデータベース・ファイル プロンプトに移動して、F4 キーを押してください。

データベース・ファイルの選択

データベース・ファイルの選択

ライブラリー : QGPL

位置指定 _____ 開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1= 選択

OPT	ファイル	テキスト
-	QAAPFILE	Symbol set symbol definitions logical file
-	QAAPFILE\$	Symbol set small symbol definitions
-	QAAPFILE#	Symbol set medium symbol definitions
-	QAAPFILE@	Symbol set large symbol definitions
-	QAFCGRPH	SAMPLE GDF
I	QAFCPFDDTA	SAMPLE DATABASE FILE FOR PFU
-	QAFTUTDBF	SAMPLE DATABASE FILE FOR TUTORIAL
-	QAFTUTOR	AFPU TUTORIAL TEXT
-	QAFTUTPFD	AFP Utilities for iSeries tutorial PFD file
-	QAFTUTXMP	Sample PFD File
-	QAFCXMPAI2	SAMPLE DATABASE FILE (AIAG_B2)

続く ...

F5= 最新表示 F12= 取り消し

この画面では、指定したライブラリーの中のデータベース・ファイルの名前と記述がリストされます。

次の表は、「データベース・ファイルの選択」画面の各フィールドについての説明です。

表 27. 「データベース・ファイルの選択」画面のフィールド

フィールド名	説明
ライブラリー	データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前が表示されます。
位置指定	このプロンプトは、リストをすばやく位置変更するために使用します。リストのサブセット作成用ではありません。次の項目の中から 1 つを選択してください。 *TOP これを指定すると、リストの上部に進みます。 *BOT これを指定すると、リストの下部に進みます。 名前または部分名 リストを位置決めするための名前または部分名を指定します。リストは、指定したストリングで始まる最初の名前に位置指定されます。
1 = 選択 Opt	リストからデータベース・ファイルを選択することができます。選択するデータベース・ファイルの隣の <i>OPT</i> の欄に 1 (選択) を指定します。
ファイル	指定したライブラリーの中に入っているデータベース・ファイルの名前を示します。
テキスト	データベース・ファイルの記述テキストを示します。

選択するフィールドの隣の *OPT* の欄に 1 を指定して、実行キーを押してください。

データベース・ファイル (および必要であればレコード様式) を指定すると、183 ページの『レコード・レイアウトの設計』の画面が表示されます。

レコード様式の選択

レコード様式の選択

データベース・ファイル . . . : QAFCPFDDTA
 ライブラリー : QGPL

オプションを入力して、実行キーを押してください。
 1= 選択

OPT	レコード 様式	テキスト
1	PRODMASTER	Product master
-	QUALITY	Quality data
-	ROADMAP	Road map

終わり

F5= 最新表示 F12= 取り消し

この画面では、指定したデータベース・ファイルの中のレコード様式の名前と記述がリストされます。

次の表は、「レコード様式の選択」画面の各フィールドについての説明です。

表 28. 「レコード様式の選択」画面のフィールド

フィールド名	説明
データベース・ファイル	指定したデータベース・ファイルの名前を示します。
ライブラリー	データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を示します。
1 = 選択	リストからレコード様式を選択することができます。
Opt	選択したいレコード様式の隣の <i>OPT</i> の欄に 1 を指定します。
レコード様式	指定したデータベース・ファイルの中に入っているレコード様式の名前を示します。
テキスト	指定したデータベース・ファイルの中に入っているレコード様式の記述テキストが示されます。

選択するレコード様式の隣の *OPT* の欄に 1 を指定して、実行キーを押してください。「データベース・ファイルの指定」画面が表示されます。

切れ目フィールドの指定

切れ目フィールドの指定

データベース・ファイル . . . : QAFCPFDDTA
 ライブラリー : QGPL
 レコード様式 : PRODMASTER

オプションを入力して、実行キーを押してください。
 1= 選択

OPT	フィールド	長さ	タイプ	テキスト
-	NAME	15	C	PRODUCT NAME
-	CODE	8	C	PRODUCT CODE
-	NATION	15	C	THE COUNTRY NAME DEVELOPED
-	PRICE	3,0	P	PRODUCT PRICE
-	AMOUNT	4,0	P	AMOUNT OF STOCK

終わり

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

この画面を使用すれば、現行ページのレコード数が最大値に到達していないときでも、レコードの中のフィールド値に従って改ページを行いたい場合に、改ページを引き起こすフィールドを指定することができます。あるレコードの指定フィールドの値が前のレコードのフィールド値と等しくないときに、印刷形式ユーティリティはそのレコードを新しいページに印刷します。

切れ目フィールドとして複数のフィールドが指定されている場合は、そのレコードのいずれかの指定フィールドの値が前のレコードのフィールド値と等しくないときに、改ページが行われます。この画面では、指定したデータベース・ファイルの中のフィールドの名前、長さ、タイプ、および記述がリストされます。

次の表は、「切れ目フィールドの指定」画面の各フィールドについての説明です。

表 29. 「切れ目フィールドの指定」画面のフィールド

フィールド名	説明
データベース・ファイル	「データベース・ファイルの指定」画面で指定したデータベース・ファイルの名前が示されます。
ライブラリー	データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を示します。
レコード様式	「データベース・ファイルの指定」画面で指定したレコード様式の名前が示されます。
1 = 選択 Opt	リストからフィールドを選択することができます。 選択したいフィールドの隣の <i>OPT</i> の欄に 1 を入力して、実行キーを押してください。改ページを行わせる選択済みフィールドを '切れ目フィールド' と呼びます。
フィールド 長さ	指定したレコード様式に入っているフィールドの名前を示します。 指定したレコード様式に入っているフィールドの長さを示します。

表 29. 「切れ目フィールドの指定」画面のフィールド (続き)

フィールド名	説明
タイプ	指定したレコード様式に入っているフィールドのタイプを示します。
P	パック 10 進データ・フィールド
Z	ゾーン 10 進数データ・フィールド
B	2 進データ・フィールド
F	浮動小数点データ・フィールド
C	文字データ・フィールド
D	DBCS データ可能フィールド
VC	可変文字データ・フィールド
VD	可変 DBCS データ可能フィールド
L	日付データ・フィールド
T	時刻データ・フィールド
S	タイム・スタンプ・データ・フィールド
G	DBCS グラフィック・データ・フィールド
VG	可変 DBCS グラフィック・データ・フィールド
テキスト	フィールドに関する記述テキストが示されます。

選択するフィールドの隣の *OPT* の欄に 1 を入力して、実行キーを押してください。

レコード・レイアウトの設計

このセクションでは、レコードはその定義によって次のように区別します。

- データベース・ファイルで定義されるレコードを、「データベース・ファイル・レコード」と呼びます。
- データベース・ファイル・レコードを基にして、以下に示す印刷形式ユーティリティのプロセスで定義されるレコードのことを、単にレコードと呼びます。

レコード・レイアウトの設計		1- 74
制御 . . . _____	PFD 定義 PRODUCTLBL	
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...		
001		
002		
003		
004		
005		
006		
007		
008		
009		
010		
011		
012		
013		
014		
015		
016		
017		
		続く ...
F3= 終了 F6= テキスト F9= 行 F10= 枠		
F11= バー・コード F13= 挿入 F14= 変更 F24= キーの続き		

最初は、レコードの中には何も定義されていません。この画面からレコード・レイアウトを定義することができます。すなわち、PFD 定義に定義されているレコード内のどの場所に、データベース・ファイル・メンバーのどのフィールドを、あるいは線、枠、またはバーコードなど、どの要素を印刷するかということを、定義することができます。

レコード・レイアウトの中のデータ

印刷のために指定できるデータには次の 3 つのタイプがあります。

- 可変データ
- 予約可変データ
- 固定データ

可変データ: データベース・ファイルからのフィールド・データ (テキスト、バーコード、および参照されるページ・セグメント名またはグラフィックス名として印刷される) は、**可変データ**と呼ばれます。レコード・レイアウトの中の場所だけでなく、テキストに使用されるフォントや、下線の有無、カラー、方向、バーコードのタイプなども指定することができます。

次のいずれかを使用して、値が印刷されるフィールドの名前を指定してください。

テキスト要素の場合は、**テキスト・データ** のプロンプト。

バーコード要素の場合は、**バーコード・データ** のプロンプト。

枠要素の場合は、**テキスト・データ** のプロンプト。

フィールド名は、大文字にして、アンパーサンド (&) とピリオド (.) で囲む必要があります。たとえば、フィールド名 **PRODC** は、次のように指定します。

テキスト・データ &PRODC.

フィールド名と定数データは、1 つのプロンプトに連結することができます。次に挙げるものはすべて正しい値です。

ABC&PRODC.XYZ
&PRODC.&PRICE.
The **&PRODC.** is the best product, and price is **&PRICE.** dollars.

印刷されるオブジェクト名を含むフィールド名は、次のいずれかを使用して指定することができます。

ページ・セグメントの場合は、**ページ・セグメント** プロンプト

グラフィック要素の場合は、**フォルダー** プロンプト、**文書** プロンプト、**ファイル** プロンプト、**ライブラリー** プロンプト、および**メンバー** プロンプト

フィールド名は、大文字にして、アンパーサンド (&) とピリオド (.) で囲む必要があります。可変テキスト・データの場合と同じように、複数の可変フィールドと固定データを連結させることが可能です。

マッピング名に関する詳細は、211 ページの『マッピング・オブジェクト名の指定』を参照してください。

注: 可変データを指定することができるのは、レコード・レイアウトの中だけです。

予約可変データ: 次のデータは、レコード・レイアウトの中のテキスト要素上または枠要素上のテキストとして、データベース・ファイルから可変データを印刷する場合と同じ方法で指定することができます。次の予約済み変数名を指定して、可変データを印刷することができます。

表 30. 予約済み変数名

*DATE	データベース・ファイル・メンバーの印刷が要求されたときのジョブ日付。
*TIME	データベース・ファイル・メンバーの印刷が要求されたときのジョブ時刻。
*PAGNBR	レコードが印刷されるページ数。
*RCDNBR	データベース・ファイル内のレコード番号。
*DBFIL	印刷されるデータベース・ファイルの名前。
*DBLIB	データベース・ファイルのライブラリー名。
*DBMBR	印刷されるメンバー名。

予約済み変数名を選択するには、「テキスト明細の定義」(または「枠明細の定義」)画面で F4 キーを押してください。次の画面が表示されます。

レコード様式のフィールドの選択

データベース・ファイル . . . : MLTFMT
 ライブラリー : SENDAI
 レコード様式 : MLTFMT

オプションを入力して、実行キーを押してください。
 1= 選択

OPT	フィールド	長さ	タイプ	テキスト
-	AREA	8	C	製品開発区域
-	PRICE	3	P	製品価格
-	PRODC	12	C	製品名
-	SIZE	4	P	サイズ

終わり

F5= 最新表示 F11= 予約済み変数の選択 F12= 取り消し

ここで、F11 キーを押してください。次の画面が表示されます。

予約済み変数名の選択

オプションを入力して、実行キーを押してください。
 1= 選択

OPT	予約済み変数名	説明
-	*DATE	ジョブ日付
-	*TIME	ジョブ時刻
-	*PAGNBR	ページ番号
-	*RCDNBR	レコード番号
-	*DBFIL	データベース・ファイル名
-	*DBLIB	データベース・ライブラリー名
-	*DBMBR	データベース・メンバー名

F5= 最新表示 F11= フィールドの選択 F12= 取り消し

予約済み変数名の隣の *OPT* の欄に 1 を入力して、実行キーを押してください。
「テキスト明細の定義 (または枠明細の定義)」画面が、アンパーサンド (&) および
ピリオド (.) で囲まれた選択済みの予約変数名とともに表示されます。

予約済み変数名は、次のように可変データ (フィールド名) または固定データと連結
することができます。

Page number: &*PAGNBR.
&*DATE.-&*TIME.
&COMPANY. is in the record number &*RCDNBR..

注: 予約可変データは次の様式で印刷されます。

- ジョブ日付は、ジョブ定義属性に定義された日付形式と日付区切り記号を使用
して印刷されます。
- ジョブ時刻は、ジョブ定義属性に定義された時刻区切り記号を使用して印刷
されます。
- ページ番号は 8 桁の数値データとして印刷されます。先行ゼロは空白で
置き換えられます。
- レコード番号は 8 桁の数値データとして印刷されます。先行ゼロは空白
で置き換えられます。

固定データ: データベース・ファイルからのデータに加えて、PFD 定義の作成もし
くは変更時に、**固定データ**と呼ばれるデータを定義することができます。

次の要素を任意に組み合わせて、レコード・レイアウトに固定データとして印刷す
ることができます。

表 31. 固定データ要素

テキスト	様々なフォント、下線の有無、カラー、その他の指定、などをもつ テキスト。
線および枠	様々な長さ、幅、破線、点線、および陰影などの指定があるもの。 サポートされているバーコード・タイプについては、251 ページ の『バーコード』を参照のこと。
バーコード	PC 文書か物理ファイル・メンバーのいずれかから変換されたペー ジ・セグメント。
イメージ	物理ファイル・メンバーまたはフォルダー内の PC 文書にあるグ ラフィック・データ (GDF 様式)。

固定データを含む PFD 定義を作成するには、これらの要素の内容を定義してくだ
さい。これらは印刷される内容によって影響されることはありません。これらの要
素の使用例としては、次のようなものがあります。

テキスト:	タイトル
線および枠:	枠
イメージ:	ロゴ

次はレコード・レイアウトおよびページ・レイアウトの中の可変データおよび固定
データの例です。

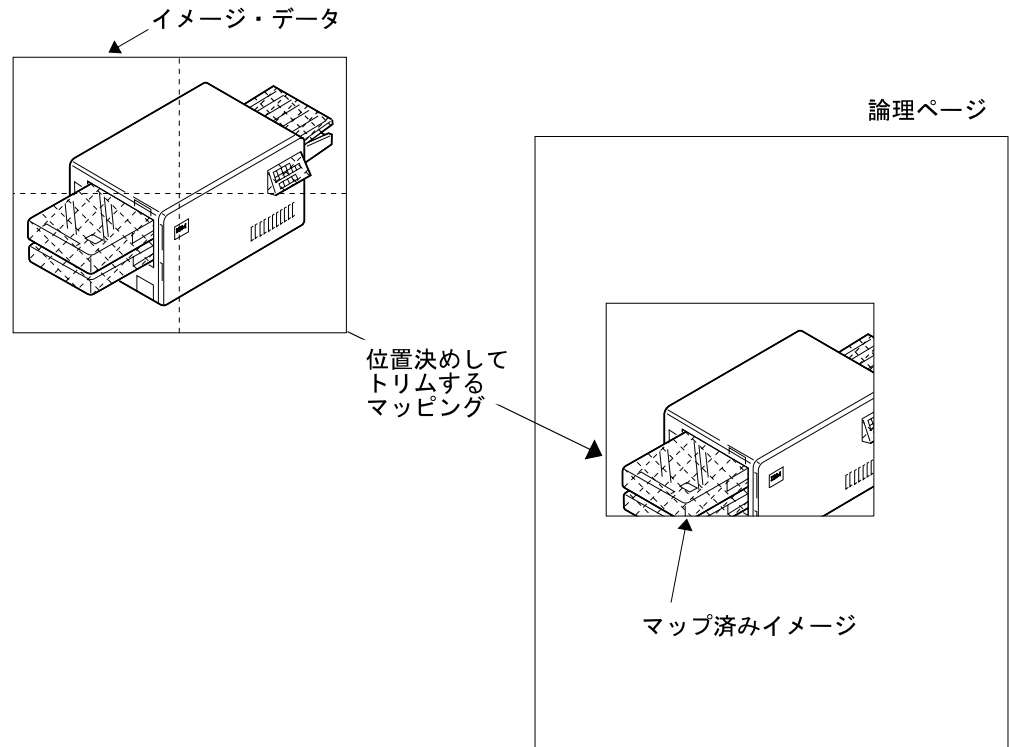


図 19. 位置を決めてトリムするマッピング

1. レコード・レイアウトの中で定義されている可変データ：

テキスト	名前 (Raymond Bills) および従業員番号 (058297)。
バーコード	従業員番号 (058297) は、テキストとして印刷される従業員番号の下にバーコードとして印刷される。

2. レコード・レイアウトの中で定義されている固定データ：

テキスト	「従業員名:」および「従業員番号:」
線	テキスト要素間の線
枠	テキスト要素の周囲の枠

3. ページ・レイアウトの中で定義されている固定データ (ページ・レイアウトについては後で述べます)：

テキスト	「従業員レコード」および「iSeries Stationery Co., Ltd.」
イメージ	最上部のロゴ

可変データと固定データの連結: テキストを次のように入力することによって、可変データと固定データを連結することができます。

レコード・レイアウトの設計 1- 74

制御 . . . PFD 定義 PRODUCTLBL
 *...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...

001
 002
 003
 004 %T001
 005
 006
 007
 008
 009
 010
 011
 012

続く ...

テキストの定義

マーク : *T001 測定方法 : 行/桁
 位置 : 左右 16 上下 4
 テキスト・データ . Product name : &PRODUCT. Price : &PRICE.

F3= 終了 F4= 詳細 F6= 測定方式の変更
 F12= 取り消し F24= キーの続き

固定データは、オーバーレイ・ユーティリティーを使用して定義する場合と同じように、定義することができます。

設計操作の詳細については、251 ページの『第 13 章 設計操作』を参照してください。

レコード・レイアウトの設計を完了したら、F3 キーを押してこの画面を終了してください。

数値編集

印刷形式ユーティリティーを使用して、データベース・ファイルからの数値データの印刷方法を示す編集コードを指定することができます。編集コードを指定しないと、印刷形式ユーティリティーは、フィールド定義上の編集情報に従って、あるいは、編集情報が存在していない場合には、省略時様式で数値フィールド・データを印刷します。

印刷形式ユーティリティーでは、レコード・レイアウトの中の、次に挙げる要素上のフィールドについて、編集コードを指定することができます。

- テキスト要素上のテキスト・データ
- 枠要素上のテキスト・データ

「テキスト明細の定義」画面または「枠明細の定義」画面のテキスト・データのプロンプトにフィールド名が指定されているときに、F10 キーを押すと、次の画面が表示されます。

数値の編集

フィールド : PRICE

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

編集コード - 1-4, A-D, J-Q, X-Z
5-9 (ユーザー定義)

編集コード修飾子 - 1= アスタリスク充てん
2= 浮動通貨記号

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

この画面で、編集コードと編集コード修飾子を指定することができます。

フィールド名	説明
フィールド	編集コードと編集コード修飾子を指定するためのフィールド名が表示されます。
編集コード	数値フィールドの印刷方法を示す編集コードを指定します。指定可能な編集コード (1-9, A-D, J-Q, X-Z) とその印刷形式は、DDS 上でサポートされるものと同じです。このパラメーターを指定しないと、印刷形式ユーティリティーは、DDS または IDDU によって定義された編集情報に基づいてフィールドを印刷します。
編集コード修飾子	このパラメーターはオプションです。これは、編集コード・パラメーターに 1-4, A-D、および J-Q のいずれかを指定したときだけ有効です。 1 各先行ゼロにつき、アスタリスク (*) が 1 つ印刷されます。残高がゼロのフィールドの場合は、アスタリスクだけの 1 つのフィールドが印刷されます。 2 システム値 QCURSYM に定義された通貨記号が、最初の有効数字の左側に印刷されます。残高ゼロを置き換える編集コードを使用した場合には、残高ゼロには記号が印刷されません。

上記のパラメーターを指定し、実行キーを押すと、「テキスト明細の定義」画面が再度表示されます。

テキスト・データ プロンプトに複数のフィールドを指定した場合には、「数値の編集」画面を表示する前に、フィールドを選択するための「数値編集フィールドの選択」画面が表示されます。

数値の編集のためのフィールドの選択

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1= 選択

OPT	フィールド
-	PRICE
-	AMOUNT

終わり

F5= 最新表示 F12= 取り消し

「数値の編集」画面は、各選択フィールドごとに繰り返し表示されます。「数値編集フィールドの選択」画面は、選択フィールドに関する数字コードを指定すると再度表示されます。

選択画面で実行キーまたは F12 キーを押して、「テキスト明細の定義」画面 (または「枠明細の定義」画面) に戻ってください。

ページ・レイアウトの設計

次の画面でページ・レイアウトの設計を指定することができます。

	ページ・レイアウトの設計	桁 : 1- 74
制御 . . .	PF D 定義 PRODUCTLBL	
	*...+....1....+....2....+....3....+....4....+....5....+....6....+....7....	
001		
002		
003		
004		
005		
006		
007		
008		
009		
010		
011		
012		
013		
014		
015		
016		
017		

続く ...

F3= 終了 F6= テキスト F9= 線 F10= 枠
F11= バーコード F13= 挿入 F14= 変更 F24= キーの続き

このページ・レイアウトには、最初は何も定義されていません。対話式に、ページの中にレコードを置き、固定データと可変データ (合計データあるいは予約可変データなど) を定義します。

固定データは、オーバーレイ・ユーティリティを使用して定義する場合と同じように、定義することができます。設計操作の詳細については、251 ページの『第 13 章 設計操作』を参照してください。

レコードは次に挙げるステップで挿入することができます。

```

                ページ・レイアウトの設計      桁:      1- 74
制御 . . . _____ PFD 定義 . . . . . PRODUCTLBL
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002
003
004      %
005
006
007
008
009
010
011
012
013
014
015
016
017
                                                    続く ...
F3= 終了      F6= グラフィックス挿入      F9= ページ・セグメント挿入
F11= レコード・レイアウト挿入      F12= 取り消し      F24= キーの続き
グラフィックス、ページ・セグメント、またはレコード・レイアウトの場合には、
F6、F9 または F11 キーを押してください。

```

% はカーソル位置を示します。(要素タイプがまだ未定であるため、マークは表示されません。)

F11 キーを押してレコードを挿入すると、イメージ域のカーソル位置にマーク %R001-001 が表示され、画面の下部にキー入力域が現れます。カーソルは、次のようにキー入力域の最初の入力フィールドに移動します。

ページ・レイアウトの設計 桁: 1- 74

制御 PFD 定義 PRODUCTLBL
 *...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...

001
 002
 003
 004 %R001-001
 005
 006
 007
 008
 009
 010
 011
 012

続く ...

レコード・レイアウトの挿入

マーク : *R001 測定方式 : 行/桁
 位置 左右 10 上下 4

F3= 終了 F4= 詳細 F6= 測定方式の変更
 F12= 取り消し F24= キーの続き

レコード・レイアウトのマークには末尾反復番号が付きます。この反復番号は、レコード・レイアウトが繰り返されるつど 1 ずつ増えて、*R001-002、*R001-003 というようになります。レコードの反復の詳細については、次の「ページ内でのレコードの反復」を参照してください。

実行キーを押すとレコードが挿入されて、マーク *R001-001 がレコードの位置に表示されます。このマークは、このレコードがページ内の最初の要素であり、反復要素ではないことを示します。

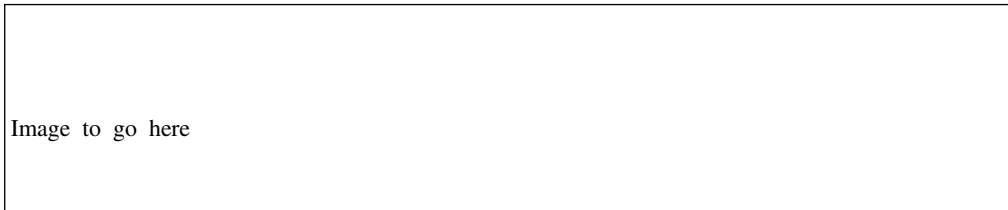
ページ内でのレコードの反復

ページ内でレコードを繰り返させる方向は 2 つあります。1 つはレコードの横方向の繰り返しで、まず左から右へ、ついで上から下へという順序で行われます。もう 1 つは、レコードの縦方向の繰り返しで、まず上から下へ、ついで左から右へという順序で行われます。次に例を示します。

レコードの縦方向の反復の例



レコードの横方向の反復の例



レコードを繰り返し挿入するためには、F4 (詳細) キーを押して「レコード・レイアウト明細の挿入」画面を表示します。

レコード・レイアウト明細の挿入

マーク: *R001 測定方式: 行/桁

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

位置:			
左右	10		1-999
上下	4		1-999
要素			名前
方向	1		1= 左右, 2= 上下
反復:			
左右	1		1-99
上下	1		1-99
距離:			
左右	—		1-999
上下	—		1-999

F3= 終了 F5= 最新表示 F6= 測定方式の変更 F12= 取り消し

この画面では、レコード要素の特性を詳細に指定することができます。たとえば、方向、反復、および距離を指定することができます。

次の表は、「レコード・レイアウト明細の挿入」画面の各フィールドについての説明です。

表 32. 「レコード・レイアウトの挿入」画面のフィールド

フィールド名	説明
マーク	<p>要素マークを示します。 マークは、システム割り当てのマークか、ユーザー割り当ての名前のいずれかであり、画面に表示されるものと同じです。マークは長さが 6 文字で、最初の文字はアスタリスク (*)、最後の文字はブランクです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • システム割り当てのマークの場合は、中間の 4 文字は要素タイプを示す 1 文字の後に、3 桁のシーケンス番号が続きます。 レコード・レイアウトの場合、要素タイプ R でシーケンス番号は 001 から 999 です。 • ユーザー割り当ての名前の場合は、中間の 4 文字は要素名の値として指定した 4 文字です。 <p>注: レコード・マークが「レコード・レイアウト明細の挿入」画面に表示されると、レコード・マークの 5 番目の文字の後にダッシュと 3 桁の反復番号が挿入されます (たとえば、*R001-001)。</p>
測定方式	<p>位置を指定するのに使用する測定方式を示します。この値は、F6 を押して変更することができます。「PFD 仕様の定義」画面で測定単位を指定することによって、測定単位としてセンチメートルまたはインチを選択することもできます。</p>

表 32. 「レコード・レイアウトの挿入」画面のフィールド (続き)

フィールド名	説明
位置	レコード位置は、ページ起点からの横方向の距離 (左右) と縦方向の距離 (上下) によって定義されます。 左右 指定した測定方式での要素の横方向の起点を指定します。
要素	左右 指定した測定方式での要素の縦方向の起点を指定します。 要素名は 1 から 4 文字の長さです。ある要素について要素名が指定された (ブランクではない) 場合は、要素マークはアスタリスク (*) の後にその要素名が続いた形で表示されます。アスタリスク (*) の後に要素タイプと 3 桁のシーケンス番号が続く形ではありません。
方向	レコードは 2 つの方向に繰り返すことができます。方向としては、次のいずれかを選択してください。 1 左右 (まず左から右へ、ついで上から下へという順序) 2 上下 (まず上から下へ、ついで左から右へという順序)
反復	ページ上でレコードが繰り返される回数を指定します。 左右 ページ上でレコードが横方向に繰り返される回数を指定します。 左右 ページ上でレコードが縦方向に繰り返される回数を指定します。
距離	レコード間の横方向および縦方向の間隔を指定します。 左右 指定した測定方式でのレコード間の横方向の間隔を指定します。 左右 指定した測定方式でのレコード相互間の縦方向の距離を指定します。

すべての選択項目を入力して、実行キーを押してください。

たとえば、次のデータを指定して、実行キーを押してください。

レコード・レイアウト明細の挿入

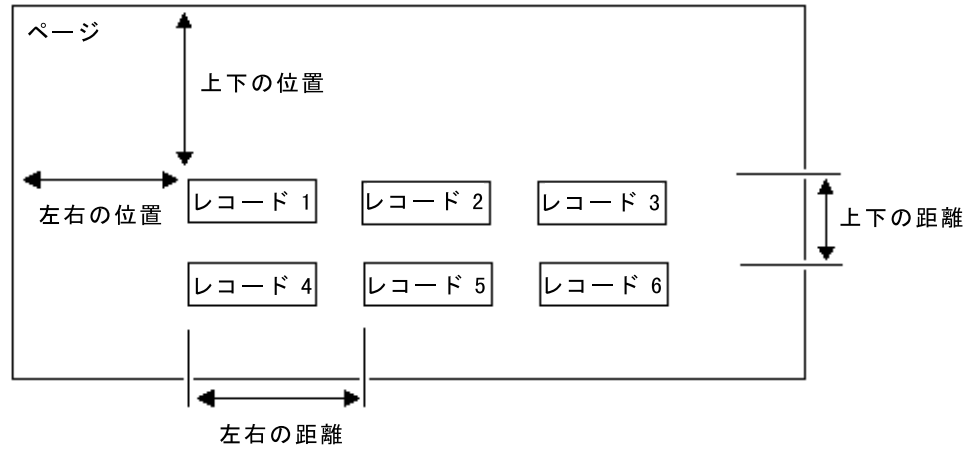
マーク: *R001 測定方式: 行/桁

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

位置:		
左右	10	1-999
上下	4	1-999
要素		名前
方向	1	1= 左右, 2= 上下
反復:		
左右	3	1-99
上下	2	1-99
距離:		
左右	25	1-999
上下	8	1-999

F3= 終了 F5= 最新表示 F6= 測定方式の変更 F12= 取り消し

上記の選択項目を下に図示してあります。



方向 : 1 (左右)
 左右の反復 : 3
 上下の反復 : 2
 左右の距離 : 25
 上下の距離 : 8

次の画面が表示されます。

```

                ページ・レイアウトの設計                桁 : 1- 74
制御 . . . _____ PFD 定義 . . . . . PRODUCTLBL
* . . . . . 1 . . . + . . . 2 . . . + . . . 3 . . . + . . . 4 . . . + . . . 5 . . . + . . . 6 . . . + . . . 7 . . .
001
002
003
004      *R001-001                *R001-002                *R001-003
005
006
007
008
009
010
011
012      *R001-004                *R001-005                *R001-006
013
014
015
016
017
                                                    続く . . .
F3= 終了   F6= テキスト   F9= 線   F10= 枠
F11= バーコード   F13= 挿入   F14= 変更   F24= キーの続き
    
```

レコードは、*R001-001、*R001-002、... *R001-006 というように表示されます。これでレコード (複数の場合もある) のページ内への挿入は完了しました。このレコード以外に、固定データ (テキスト、線、枠、イメージ、グラフィックス、またはバーコード) をページ内に入れたい場合には、その固定データを開始する点にカーソルを移動して、以下のキーを押してください。

F6 テキスト要素を定義する場合
F9 線要素を定義する場合
F10 枠要素を定義する場合
F11 バーコード要素を定義する場合
F13、ついで F6 グラフィックス要素を定義する場合
F13、ついで F9 ページ・セグメントを挿入する場合

設計操作の詳細については、251 ページの『第 13 章 設計操作』を参照してください。

次の画面は、4 つの固定データ要素 (3 つのテキスト *T002、*T003、*T004 と 1 つのページ・セグメント *S005) を指定したページ・レイアウトの例です。

```

                ページ・レイアウトの設計                桁 : 1- 74
制御 . . .      PFD 定義 . . . . . PRODUCTLBL
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001      *T002 PRINT OF PRODUCT AND PRICE                *S005
002      *T003 IS AS FOLLOWS: 1 2 3
003              *T004 6
004      *R001-001                *R001-002                *R001-003
005
006
007
008
009
010
011
012      *R001-004                *R001-005                *R001-006
013
014
015
016
017
                                                    続く ...
F3= 終了   F6= テキスト   F9= 線   F10= 枠
F11= バーコード   F13= 挿入   F14= 変更   F24= キーの続き

```

F15 キーを押してマークをオフにセットすると、テキストが次のように完全に表示されます。

```

                ページ・レイアウトの設計                桁 : 1- 74
制御 . . . . . PFD 定義 . . . . . PRODUCTLBL
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001 LABEL PRINT OF PRODUCT AND PRICE *S005
002 LAYOUT IS AS FOLLOWS: 1 2 3
003                          4 5 6
004          *R001-001          *R001-002          *R001-003
005
006
007
008
009
010
011
012          *R001-004          *R001-005          *R001-006
013
014
015
016
017
                                                    続く ...
F3= 終了   F6= テキスト   F9= 線   F10= 枠
F11= バーコード   F13= 挿入   F14= 変更   F24= キーの続き

```

注: マーク *S005 は、そのページの最後の要素であるため残っています。

次の**合計データ**を定義して、グループ化されたデータベース・レコード内のフィールド値の合計データを、テキスト要素あるいは枠要素内のテキストとして印刷することもできます。

- グループの中の最初のレコードのフィールド値。
- グループの中の最後のレコードのフィールド値。
- グループの中のフィールド値の合計。
- グループの中のフィールド値の平均。
- グループの中の最小フィールド値。
- グループの中の最大フィールド値。
- グループ内のレコード数。

合計データは、次の 2 つのグループに分けて印刷することができます。

- 1 ページの中のレコード (ページごとの要約)。
 - ページごとの要約は、要約レコードが入っている同じページに印刷されます。
- ある切れ目から次の切れ目までのレコード (改ページごとの要約)。
 - 改ページごとの合計データは、グループの最後のレコードが入っているページに印刷されます。

次の例は、各合計データがページ上にどのように印刷されるかを示しています。

データベース:

	PRODUCT	BRANCH	SALES
Record 1	Color TV	Boston	200
Record 2	Color TV	Chicago	500
Record 3	Color TV	Los Angeles	1000
Record 4	Color TV	Miami	100
Record 5	Color TV	San Francisco	800
Record 6	Color TV	St. Louis	40
Record 7	Color TV	Washington	300
Record 8	Radio	Denver	100
Record 9	Radio	Milwaukee	200
Record 10	Radio	Santa Fe	60
Record 11	Radio	Boca Raton	300
Record 12	Video	New York	500
:	:	:	:

PFD 定義 :

- 1 ページに 4 つのレコードを挿入する
- PRODUCT は切れ目フィールド
- SALES に関するページごとの合計データを指定
- SALES に関する改ページごとの合計データを指定

PFD 定義を使用してデータベース・ファイルを印刷

挿入されるレコード:	レコード 1
	レコード 2
	レコード 3
	レコード 4
SALES に関するページごとの合計データ	
最初の値	: 200 (レコード 1 から)
最後の値	: 100 (レコード 4 から)
合計	: 1800 (Record 1-4 から)
平均	: 450 (合計/レコード・カウント)
最大値	: 1000 (レコード 3 から)
最小値	: 100 (レコード 4 から)
レコード・カウント:	4
SALES に関する改ページごとの合計データ	
最初の値	: 印刷されない
最後の値	: 印刷されない
合計	: 印刷されない
平均	: 印刷されない
最大値	: 印刷されない
最小値	: 印刷されない
レコード・カウント:	印刷されない

注: PRODUCT フィールドの値が変化しないので、ページ 1 では切れ目の処理は行われません。したがって、改ページごとの合計データは印刷されません。

挿入されるレコード:	レコード 5
	レコード 6
	レコード 7
SALES に関するページごとの合計データ	
最初の値	: 800 (レコード 5 から)
最後の値	: 300 (レコード 7 から)
合計	: 1140 (レコード 5-7 から)
平均	: 380 (合計/レコード・カウント)
最大値	: 800 (レコード 5 から)
最小値	: 40 (レコード 6 から)
レコード・カウント:	3
SALES に関する改ページごとの合計データ	
最初の値	: 200 (レコード 1 から)
最後の値	: 300 (レコード 7 から)
合計	: 2940 (レコード 1-7 から)
平均	: 420 (合計/レコード・カウント)
最大値	: 1000 (レコード 3 から)
最小値	: 40 (レコード 6 から)
レコード・カウント:	7

注: レコード 8 で改ページが行われます。レコード 8 は次のページに印刷されます。この改ページについての合計データはカラー・テレビのすべての売上げ (SALES) データを要約します。

挿入されるレコード:	レコード 8
	レコード 9
	レコード 10
	レコード 11
SALES に関するページごとの合計データ	
最初の値	: 100 (レコード 8 から)
最後の値	: 300 (レコード 11 から)
合計	: 660 (レコード 8-11 から)
平均	: 165 (合計/レコード・カウント)
最大値	: 300 (レコード 11 から)
最小値	: 60 (レコード 10 から)
レコード・カウント:	4
SALES に関する改ページごとの合計データ	
最初の値	: 100 (レコード 8 から)
最後の値	: 300 (レコード 11 から)
合計	: 660 (レコード 8-11 から)
平均	: 165 (合計/レコード・カウント)
最大値	: 300 (レコード 11 から)
最小値	: 60 (レコード 10 から)
レコード・カウント:	4

注: レコード 12 で改ページが行われます。このページには、切れ目の前の最後のレコードが入っているので、改ページごとの合計データはこのページに印刷されます。直前の改ページは直前のページで行われているので、改ページごとの

合計データは、ページごとの合計データと等しくなり、ラジオに関するすべての売上げ (SALES) データを要約します。

データの終了は、改ページとして処理されます。最後のページに、改ページごとの合計データが印刷されます。

合計データをページ・レイアウトの中のテキスト要素または枠要素に定義するには、要約するフィールドと印刷する合計データをテキスト・データのプロンプトに指定する必要があります。それには、アンバーサンド (&)、フィールド名、左かっこ '(', 合計データのストリング、右かっこ ')、およびピリオド '.' を、次のようにスペースを挿入せずに入力します。

```
Text data . . . . &SALES (*TOTAL).
```

各合計データを示すストリングは次のとおりです。

表 33. 合計データ・ストリング

合計データ	ストリング
最初の値	*FIRST
最後の値	*LAST
合計	*TOTAL
平均	*AVG
最大値	*MAX
最小値	*MIN
レコード・カウント	*CNT

「テキスト明細の定義」画面または「枠明細の定義」画面のテキストのプロンプトで F4 キーを押すと、「レコード様式内のフィールドの選択」画面が「レコード・レイアウトの設計」画面と同様に表示されます。

「レコード様式内のフィールドの選択」画面で「データベース・ファイル・フィールド」を選択し、実行キーを押すと、「テキスト明細の定義」画面 (または「枠明細の定義」画面) が、テキスト・データのプロンプト内の選択済みのフィールドとともに次のように表示されます。

```
Text data . . . . . &SALES (*FIRST).
```

*FIRST は省略時の合計機能です。F10 キーを押せば、「合計データの定義」画面を表示して、合計機能を変更することができます。この画面で、合計データのための編集コードを指定することもできます。

合計データの定義

フィールド : PRICE

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

合計機能 *FIRST *FIRST, *LAST, *TOTAL, *AVG
*MAX, *MIN, *CNT

数値の編集:

編集コード - 1-4, A-D, J-Q, X-Z
5-9 (ユーザー定義)

編集コード修飾子 - 1= アスタリスク充てん
2= 浮動通貨記号

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

フィールド名	説明
フィールド	合計機能が使用されるフィールド名を示します。
合計機能	フィールド値を要約するために使用される特殊値を示します。合計データを印刷するために、次の合計機能値を指定することができます。 *FIRST 指定済みフィールド内の最初の値。 *LAST 指定済みフィールド内の最後の値。 *TOTAL 指定済みフィールドの値の合計。この合計データは、浮動小数点数データを除き、数値フィールドに有効です。合計の整数桁の数は、フィールドの整数桁数に 3 を加えた数です。たとえば、整数桁が 3 で小数桁が 2 であるフィールドの合計は、整数桁が 6 で小数桁が 2 である数値として印刷されます。 *AVG 指定済みフィールド内の値の平均。この合計データは、浮動小数点数データを除き、数値フィールドに有効です。 *MAX 指定済みフィールド内の最大値。 *MIN 指定済みフィールド内の最小値。 *CNT レコード・カウント。 8 桁の整数として印刷されます。フィールド値がヌルであるレコードの場合、そのレコードはカウントされません。
編集コード	合計データの印刷方法を示す編集コードを指定します。指定可能な編集コード (1-9, A-D, J-Q, X-Z) とその印刷形式は、DDS 上でサポートされるものと同じです。このパラメーターを指定しないと、印刷形式ユーティリティーは、DDS または IDDU によって定義された編集情報に基づいて、レコード・カウント以外のフィールドを印刷します。編集コードを指定しないと、印刷形式ユーティリティーは、先行ゼロをブランクで抑止したレコード・カウントを印刷します。

フィールド名	説明
編集コード修飾子	このパラメーターはオプションです。これは、編集コード・パラメーターに 1-4、A-D、および J-Q を指定したときだけ有効です。
	<ol style="list-style-type: none"> 1 各先行ゼロにつき、アスタリスク (*) が 1 つ印刷されます。残高がゼロのフィールドの場合は、アスタリスクだけの 1 つのフィールドが印刷されます。 2 システム値 QCURSYM に定義された通貨記号が、最初の有効数字の左側に印刷されます。残高ゼロを置き換える編集コードを使用した場合には、残高ゼロには記号が印刷されません。

上記のパラメーターを指定して、実行キーを押すと、「テキスト明細の定義」画面 (または「枠明細の定義」画面) が再度表示されます。

テキスト・データのプロンプトに複数の合計データを指定した場合には、「合計データ定義フィールドの選択」画面が表示されるので、合計機能を変更したり、編集コードを指定するためのフィールドを選択することができます。

「合計データの定義」画面は、各選択済みフィールドごとに繰り返し表示されます。

切れ目フィールドを指定する場合には、「テキスト明細の定義」画面 (または「枠明細の定義」画面) の改ページでのみ印刷のプロンプトに Y または N を指定することによって、改ページごとまたはページごとに合計データを印刷することができます。改ページでのみ印刷のプロンプトは、切れ目フィールドを指定したときだけ、「明細」画面の下部に表示されます。たとえば、ページごとに SALES フィールドの合計を印刷するには、プロンプトに次のように指定してください。

```

テキスト・データ . . . . . &SALES (*TOTAL).
.
.
改ページでのみ印刷 . . . . . N

```

改ページごとに SALES フィールドの合計を印刷するには、プロンプトに次のように指定してください。

```

テキスト・データ . . . . . &SALES (*TOTAL).
.
.
改ページでのみ印刷 . . . . . Y

```

合計データを、他の合計データ、定数、および予約変数と、次のように連結することができます。

```

&SALES(TOTALS) is for &PRODUCT (*FIRST)..
&SALES (*TOTAL). as of &*DATE..

```

改ページが行われる場合にも、次の要素を印刷するように指定することもできます。たとえば、合計データの見出しおよびフレームとして、以下の要素を印刷することができます。

- テキスト要素
- バーコード要素

- 枠要素
- 線要素
- ページ・セグメント要素
- グラフィック・エレメント

改ページが行われたときだけ要素を印刷するには、「行明細の定義」画面などの明細画面の改ページでのみ印刷 プロンプトに Y を指定してください。改ページが行われたときだけ要素を印刷するように指定すると、設計画面の要素番号の後に、文字 '>' のマークが次のように表示されます。

```
*L001>
*T002>
```

予約可変データは、ページ・レイアウトとレコード・レイアウトの両方に定義することができます。

注: ページ・レイアウト内の *RCDNBR 特殊値に使用される値は、ページの最後のレコードのレコード番号になります。

詳細については、183 ページの『レコード・レイアウトの設計』を参照してください。

ページ・レイアウトの設計を終了したら、F3 キーを押して、「ページ・レイアウトの設計」画面を終了してください。

レコード選択の指定

これはオプションのステップです。この画面でレコード選択の条件を指定しなければ、データベース・ファイル・メンバーのすべてのレコードが印刷されます。

レコード選択の指定

選択項目を入力して、実行キーを押してください。
テスト: EQ, NE, LE, GE, LT, GT, RANGE

AND /OR	フィールド	テスト	値 (フィールド, 数値, または「文字」) リストは F4
	PRODUCT	NE	' 誤品 '
AND	PRODUCT	NE	' 不良品 '
—	_____	_____	_____
—	_____	_____	_____

F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し

レコードを選択するための論理条件を最大 5 つまで指定することができます。印刷形式ユーティリティは、各レコードの指定されたフィールドの内容を指定された値と比較し、テスト結果が真のレコードだけを印刷します。

次の表は、「レコード選択の指定」画面の欄について説明しています。

表 34. 「レコード選択の指定」画面のフィールド

欄	説明																
AND/OR	<p>AND/OR の欄に指定することができる値は、AND と OR だけです。この欄がブランクのままであり、同じ行の他の 3 つの欄 (フィールド、テスト、および値) には指定がある場合は、AND と見なされます。</p> <p>AND と OR を一緒に指定すると、AND が OR よりさきに評価されます。たとえば、</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td></td> <td>YEAR</td> <td>EQ</td> <td>1990</td> </tr> <tr> <td>AND</td> <td>MONTH</td> <td>RANGE</td> <td>11 12</td> </tr> <tr> <td>OR</td> <td>YEAR</td> <td>EQ</td> <td>1991</td> </tr> <tr> <td>AND</td> <td>MONTH</td> <td>RANGE</td> <td>1 2</td> </tr> </table>		YEAR	EQ	1990	AND	MONTH	RANGE	11 12	OR	YEAR	EQ	1991	AND	MONTH	RANGE	1 2
	YEAR	EQ	1990														
AND	MONTH	RANGE	11 12														
OR	YEAR	EQ	1991														
AND	MONTH	RANGE	1 2														
フィールド	<p>上の例では、1990 年 11 月から 1991 年 2 月までの期間を意味します。入力データベース・ファイルの中の入力レコード様式の任意のフィールドを指定することができます。カーソルをこの欄に置いてから F4 キーを押せば、データベース・ファイルの中のすべてのフィールドをリストすることができます。</p>																
テスト	<p>テストはデータ選択のための論理条件です。以下の中の 1 つを指定することができます。</p> <p>EQ テストの結果データが選択されるのは、フィールドの内容が値と等しい場合です。たとえば、</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>PRICE</td> <td>EQ</td> <td>200</td> </tr> </table> <p>レコードが選択されるのは、フィールド PRICE に 200 という値が入っている場合です。</p> <p>NE テストの結果データが選択されるのは、フィールドの内容が値と等しくない場合です。</p> <p>LE テストの結果データが選択されるのは、フィールドの内容が値より小か等しい場合です。</p> <p>GE テストの結果データが選択されるのは、フィールドの内容が値より大か等しい場合です。</p> <p>LT テストの結果データが選択されるのは、フィールドの内容が値より小の場合です。</p> <p>GT テストの結果データが選択されるのは、フィールドの内容が値より大の場合です。</p> <p>RANGE テストの結果レコードが選択されるのは、フィールドの内容が 2 つの値の間にある場合、あるいは 2 の値のうちいずれか一方と等しい場合です。</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>PRICE</td> <td>RANGE</td> <td>100</td> <td>300</td> </tr> </table> <p>レコードが選択されるのは、フィールド PRICE に 100 から 300 までの値が入っている場合です。これは次の例と同じこととなります。</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td></td> <td>PRICE</td> <td>GE</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>AND</td> <td>PRICE</td> <td>LE</td> <td>300</td> </tr> </table>	PRICE	EQ	200	PRICE	RANGE	100	300		PRICE	GE	100	AND	PRICE	LE	300	
PRICE	EQ	200															
PRICE	RANGE	100	300														
	PRICE	GE	100														
AND	PRICE	LE	300														

表 34. 「レコード選択の指定」画面のフィールド (続き)

欄	説明																														
値	<p>以下の中の 1 つを指定することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 数値定数 <p>これを指定することができるのは、フィールドが数値タイプのデータの場合です。数値定数は 1~31 桁の長さで、次の文字を含むことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 数字 (0~9) - 先頭の正符号 (+) または負符号 (-) 1 つ - ピリオド 1 つ <p>浮動小数点数データは使用できますが、浮動小数点数式は使用できません。</p> <p>例:</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>正しい</th> <th>誤り</th> <th>理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>+12.5</td> <td>+12.5.0</td> <td>2 つのピリオドが含まれている。</td> </tr> <tr> <td>-20</td> <td>20-</td> <td>負符号が先頭がない。</td> </tr> <tr> <td>.00005</td> <td>.0000A5</td> <td>「A」は数字ではない。</td> </tr> <tr> <td>123456</td> <td>1.23456E+5</td> <td>浮動小数点数式である。</td> </tr> </tbody> </table> • 文字定数 ('ABC' など) <p>これを指定することができるのは、フィールドが文字タイプのデータの場合です。文字の最大の長さは、値の欄の長さと同じです。文字定数はアポストロフィで囲んだだけの文字 (たとえば、'xxx')。文字定数にアポストロフィが含まれている場合は、そのアポストロフィは、2 つのアポストロフィとして入力しなければなりません。たとえば、Granger's Circle のような町名をリストするレコードを印刷したい場合であれば、定数を 'Granger's Circle' のように入力してください。</p> <p>例:</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>正しい</th> <th>誤り</th> <th>理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>'ABCDEF'</td> <td>ABCDEF</td> <td>アポストロフィがないためフィールド名として見なされます。</td> </tr> <tr> <td>'abc def'</td> <td>'abc def</td> <td>終わりのアポストロフィが抜けている。</td> </tr> <tr> <td>'Tom''s bed'</td> <td>'Tom's bed'</td> <td>定数内には 2 つのアポストロフィが必要。</td> </tr> <tr> <td>'123456'</td> <td>123456</td> <td>アポストロフィがないため数値定数と見なされます。</td> </tr> </tbody> </table> • データベース・ファイル・メンバーのフィールド名 <p>入力データベース・ファイル・メンバーの中の任意のフィールドを指定できますが、そのデータ・タイプがフィールドに指定されているデータ・タイプと合致しなければなりません。たとえば、データ・タイプが数字の場合は、数字データとして指定する必要があります。文字データの場合は、文字データとして指定しなければなりません。SBCS タイプと DBCS タイプの比較は可能です。</p> <p>F4 を押して、データベース・ファイルの中のフィールド名のリストからフィールド名を選択することができます。</p> <p>フィールドと値の長さが同じでない場合は、印刷形式ユーティリティーは、短い方が長い方と同じ長さを持つものとして、次のように処理します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 数値の左に 0 を追加する。 • 文字値の右に SBCS ブランクを追加する。 	正しい	誤り	理由	+12.5	+12.5.0	2 つのピリオドが含まれている。	-20	20-	負符号が先頭がない。	.00005	.0000A5	「A」は数字ではない。	123456	1.23456E+5	浮動小数点数式である。	正しい	誤り	理由	'ABCDEF'	ABCDEF	アポストロフィがないためフィールド名として見なされます。	'abc def'	'abc def	終わりのアポストロフィが抜けている。	'Tom''s bed'	'Tom's bed'	定数内には 2 つのアポストロフィが必要。	'123456'	123456	アポストロフィがないため数値定数と見なされます。
正しい	誤り	理由																													
+12.5	+12.5.0	2 つのピリオドが含まれている。																													
-20	20-	負符号が先頭がない。																													
.00005	.0000A5	「A」は数字ではない。																													
123456	1.23456E+5	浮動小数点数式である。																													
正しい	誤り	理由																													
'ABCDEF'	ABCDEF	アポストロフィがないためフィールド名として見なされます。																													
'abc def'	'abc def	終わりのアポストロフィが抜けている。																													
'Tom''s bed'	'Tom's bed'	定数内には 2 つのアポストロフィが必要。																													
'123456'	123456	アポストロフィがないため数値定数と見なされます。																													

印刷出力仕様の定義

印刷出力仕様の定義

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

コピー部数	<u>1</u>	1-255
印刷精度	<u>*CONTENT</u>	*CONTENT, *ABSOLUTE
印刷品質	<u>*STD</u>	*STD, *DRAFT, *NLQ
両面印刷	<u>*NO</u>	*NO, *YES, *TUMBLE
背面ページ・レイアウトの省略	<u>N</u>	Y=YES, N=NO
用紙タイプ	<u>*STD</u>	文字値, *STD
ソース用紙入れ	<u>1</u>	1-255, *E1, *CUT
前面オーバーレー:		
オーバーレー	<u>*NONE</u>	名前, *NONE, リストは F4
ライブラリー	<u>*LIBL</u>	名前, *LIBL, *CURLIB
左右オフセット	<u>.00</u>	0.00-22.75
上下オフセット	<u>.00</u>	0.00-22.75
背面オーバーレー:		
オーバーレー	<u>*NONE</u>	名前, *NONE, リストは F4
ライブラリー	<u>*LIBL</u>	名前, *LIBL, *CURLIB
左右オフセット	<u>.00</u>	0.00-22.75
上下オフセット	<u>.00</u>	0.00-22.75

続く ...

F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し

印刷出力仕様の定義

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

用紙定義	<u>*DEV D</u>	名前, *DEV D, *INLINE
ライブラリー	<u> </u>	名前, *LIBL, *CURLIB

終わり

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し

「印刷出力仕様の定義」画面を使用すると、次のような、印刷出力を印刷する方法を定義することができます。

- コピー部数
- 印刷品質
- ソース用紙入れ

プロンプト	説明
コピー部数	<p>印刷する部数を指定します。</p> <p>指定できる値は次のとおりです。</p> <p>1 出力のコピーが 1 枚だけ印刷されます。</p>
印刷精度	<p>コピー部数</p> <p>1～255 の範囲の値を指定してください。</p> <p>書き出しプログラムによる印刷出力の印刷時にエラーが検出された場合に取りるべき処置を指定します。</p> <p>指定できる値は次のとおりです。</p> <p>*CONTENT</p> <p>エラーを訂正する方法がある限り、印刷は行われます。たとえば、</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定されたフォントが使用できない場合は、代替フォントが使用されます。 その機能が宛先印刷装置でサポートされていない場合は、データは無視されて印刷されません。バーコードがその例です。 <p>*ABSOLUTE</p> <p>エラーが見つかった場合は、印刷を取り消します。印刷が完了するのは、ファイルがデータ・ストリームによって指定されたとおりに正確に印刷できた場合だけです。たとえば、</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定されたフォントが使用できない場合、代替フォントが使用されるのは、同じ特性のフォントが使用可能な場合だけです。それ以外の場合は、印刷は取り消されます。
印刷品質	<p>でき上がった印刷出力の品質を指定します。</p> <p>指定できる値は次のとおりです。</p> <p>*STD 出力は標準品質で印刷されます。</p> <p>*DRAFT</p> <p>出力はドラフト品質で印刷されます。</p>
両面に印刷する。	<p>*NLQ 出力はレター品質に近い品質で印刷されます。出力が印刷されるのが用紙の片面か両面かということを指定します。</p> <p>指定できる値は次のとおりです。</p> <p>*NO 出力は用紙の片面に印刷されます。</p> <p>*YES 出力は用紙の両面に印刷され、印刷されたページの上部がいずれも用紙の同じ端に来ようになります。これは通常、横とじされる出力について行われます。</p> <p>*TUMBLE</p> <p>出力は両面印刷で、交互に上下が入れ替わります。これは通常、上部でとじる出力について使用します。</p>

プロンプト	説明
背面ページ・レイアウトの省略	<p>ページ・レイアウトの印刷を用紙の前面に限るかどうかを指定します。このオプションが使用されるのは、用紙の背面で背面オーバーレイのみが印刷される場合です。</p> <p>指定できる値は次のとおりです。</p> <p>N (NO) ページ・レイアウトは、用紙の両面で印刷されます。</p> <p>Y (YES)</p> <p>ページ・レイアウトは、用紙の前面のみで印刷されます。</p> <p>注：両面印刷に Y が指定され、背面オーバーレイが指定されている場合、背面ページ・レイアウトの省略に指定できるのは Y のみです。</p>
用紙タイプ	<p>印刷装置で使用される用紙のタイプを指定します。</p> <p>指定できる値は次のとおりです。</p> <p>*STD そのシステム用の標準用紙が使用されます。</p> <p>用紙タイプ</p> <p>この印刷装置ファイルで印刷出力用に使用される用紙タイプの ID を指定してください。</p>
ソース用紙入れ	<p>カット用紙を印刷装置に送り込む場合に用いるソース用紙入れを指定します。</p> <p>指定できる値は次のとおりです。</p> <p>1-255 ソース用紙入れの数を指定します。</p> <p>*E1 封筒入れから封筒が送り込まれます。</p> <p>*CUT 手動送り込みを用いる印刷装置では、カット用紙は手動送り込み機構を通じて手操作で送りこまれます。</p>
前面オーバーレイ	<p>ページの前面 (表面) に印刷されるオーバーレイおよびライブラリーの名前を指定します。このパラメーターでオーバーレイを挿入する点も指定します。指定できる値は次のとおりです。</p> <p>*NONE オーバーレイは使用しません。</p> <p>オーバーレイ名</p> <p>オーバーレイの名前を指定してください。</p> <p>カーソルをこのプロンプトに移動して F4 を押せば、オーバーレイ名をリストすることができます。</p>
ライブラリー	<p>ライブラリーとして指定できる値は次のとおりです。</p> <p>*LIBL ライブラリー・リストを使用して、オーバーレイを見つけます。</p> <p>*CURLIB</p> <p>ジョブの現行ライブラリーを使用して、オーバーレイを見つけます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。</p> <p>名前</p> <p>オーバーレイが入っているライブラリーの名前を指定してください。</p>

プロンプト	説明
左右オフセット	<p>オーバーレイを挿入する横方向の位置 (オフセット) を指定します。</p> <p>指定できる値の範囲は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0.0~22.75 (インチ) • 0.0~57.79 (センチメートル)
上下オフセット	<p>オーバーレイを挿入する縦方向の位置 (オフセット) を指定します。</p> <p>指定できる値の範囲は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0.0~22.75 (インチ) • 0.0~57.79 (センチメートル)
裏面オーバーレイ	<p>ページの裏面 (後面) に印刷されるオーバーレイおよびライブラリーの名前を指定します。このパラメーターでオーバーレイを挿入する点も指定します。指定できる値は次のとおりです。</p> <p>*NONE オーバーレイは使用しません。</p> <p>オーバーレイ名 オーバーレイの名前を指定してください。</p> <p>カーソルをこのプロンプトに移動して F4 を押せば、オーバーレイ名をリストすることができます。</p>
ライブラリー	<p>ライブラリーとして指定できる値は次のとおりです。</p> <p>*LIBL ライブラリー・リストを使用して、オーバーレイを見つけます。</p> <p>*CURLIB ジョブの現行ライブラリーを使用して、オーバーレイを見つけます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。</p> <p>名前 オーバーレイが入っているライブラリーの名前を指定してください。</p>
左右オフセット	<p>オーバーレイを挿入する横方向の位置 (オフセット) を指定します。</p> <p>指定できる値の範囲は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0.0~22.75 (インチ) • 0.0~57.79 (センチメートル)
上下オフセット	<p>オーバーレイを挿入する縦方向の位置 (オフセット) を指定します。</p> <p>指定できる値の範囲は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0.0~22.75 (インチ) • 0.0~57.79 (センチメートル)

プロンプト	説明
用紙定義	<p>印刷形式ユーティリティにより作成されたスプール・ファイルを印刷する際に使用する、用紙定義を指定します。</p> <p>指定できる値は次のとおりです。</p> <p>*DEVD 装置記述で指定された用紙定義を使用する必要があることを指定します。</p> <p>*INLINE 印刷形式ユーティリティが、データの印刷時に使用するインライン用紙定義を作成する必要があることを指定します。追加情報については、用紙定義のヘルプ・テキストを参照してください。</p> <p>用紙定義名 用紙定義の名前を指定します。</p>
ライブラリー	<p>ライブラリーとして指定できる値は次のとおりです。</p> <p>*LIBL ライブラリー・リストを使用して、用紙定義を見つけます。</p> <p>*CURLIB ジョブの現行ライブラリーを使用して、用紙定義を見つけます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。</p> <p>名前 用紙定義が入っているライブラリーの名前を指定してください。</p>

マッピング・オブジェクト名の指定

マッピング・オブジェクト名の指定

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1= 選択

OPT	オブジェクト
—	ページ・セグメント
—	フォルダー
—	PC 文書
—	ライブラリー
—	ファイル
—	メンバー

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

「ページ・セグメントの挿入」画面または「グラフィックの挿入」画面のオブジェクト名パラメーター内に、フィールド名を指定することができます。フィールド名を指定する場合は、必要であれば、オブジェクト名へのフィールド値のマッピングを指定することができます。

たとえば、データベース・ファイル内の会社名フィールドに基づいてその会社の種々のロゴを印刷したい場合は、そのロゴ・データを含んでいるページ・セグメント・オブジェクトに、フィールド内の会社名と同じ名前を付けなければなりません。しかし、場合によっては、会社名の長さおよび文字が iSeries オブジェクト名として無効な場合があります。AFP Utilities for iSeries は、このような場合、データベース・ファイル内のフィールド値を iSeries システム内のオブジェクト名にマップする機能を提供しています。

どの値をどの iSeries のオブジェクト名にマップしなければならないかを指定することができます。このマッピングは、それぞれのオブジェクト・タイプ、ページ・セグメント、文書、フォルダー、ファイル、ライブラリー、およびメンバーについて指定することができます。たとえば、フィールド値 'IBM Co.' をページ・セグメント名 'QFCLOGO' およびファイル名 'QAFCCRPH' にマップすることができます。

可変データをページ・セグメントまたはグラフィックスに指定した場合には、AFP Utilities for iSeries はまず PFD 定義内でそのオブジェクト・タイプ用の指定されたマッピングを探索します。そのオブジェクト用に指定したマッピングがない場合、または探索するフィールド値が見つからない場合は、そのフィールド値がオブジェクト名として用いられます。フィールドの値の長さがオブジェクト名の最大長よりも長い場合は、右側の文字が無視されます。

「マッピング・オブジェクト名の指定」画面で、マッピングを指定するオブジェクトを指定することができます。以下について、選択することができます。

- ページ・セグメント
- フォルダー
- PC 文書
- ライブラリー
- ファイル
- メンバー

フィールド名	説明
1 = 選択 Opt オブジェクト	1 つまたは複数のオブジェクトをリストから選択することができます。 選択したいオブジェクトの隣の <i>OPT</i> 欄に 1 (選択) を指定します。 マッピングを指定できるオブジェクト

「マッピング・オブジェクト名の指定」画面上でページ・セグメント を選択すると、次の画面が表示されます。

注: 他のオブジェクトについてもこれに類似した画面が表示されます。

ページ・セグメント名のマッピング

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

NBR	データベース・フィールド値	ページ・セグメント
1	_____	_____
2	_____	_____
3	_____	_____
4	_____	_____
5	_____	_____
6	_____	_____
7	_____	_____
8	_____	_____
9	_____	_____
10	_____	_____
11	_____	_____
12	_____	_____
13	_____	_____
14	_____	_____
15	_____	_____
16	_____	_____

続く ...

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

次の表は、「マッピング・ページ・セグメント名」画面の各フィールドについての説明です。

表35. 「マッピング・ページ・セグメント名」画面のフィールド

フィールド名	説明						
NBR	そのマッピングの通し番号を表示します。 99 のマッピングまで指定できます。						
データベース・フィールド値	<p>データベース・レコード内のフィールド値を指定します。 このフィールドに指定したデータとレコード内のデータの比較は、実データの右にブランクを追加して、文字として処理されます。</p> <p>そのフィールドが数値フィールドの場合、AFP Utilities for iSeries はその数値を数値定義 (総桁数、小数桁、編集コードなど) に基づいた文字ストリングに変換します。その後、AFP Utilities for iSeries はその変換されたストリングでマッピング内の値を探索します。</p> <p>ワイルドカードとしてアスタリスク (*) を指定することができます。 AFP Utilities for iSeries は、指定した文字で始まるすべての可変データをマップします。 ワイルドカードの様式は 'ABC*' です。このワイルドカードを使用すると、'ABC'、'ABCD'、または 'ABC123' のように 'ABC' で始まるすべての変数をページ・セグメント・フィールドで指定されたオブジェクトにマッピングすることができます。</p> <p>注: ページ・セグメントがデータベース・フィールド値に指定された複数の値と一致する場合は、シーケンス番号に最も小さい値が最初にテストされます。ワイルドカードが順序の最初にくる場合は、このことに注意する必要があります。次の例では、ワイルドカードが最初にテストされて、'ABC' との一致を得ます。'ABC' および 'ABA' のデータベース・フィールド値がテストされることはありません。</p> <p>NBR データベース・フィールド値</p> <table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>AB*</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ABC</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ABA</td> </tr> </table> <p>ページ・セグメント フィールド値をマップするページ・セグメント名を指定します。</p>	1	AB*	2	ABC	3	ABA
1	AB*						
2	ABC						
3	ABA						

注: 他のオブジェクト・タイプをマップするときにも同じ方法でデータの指定を行うことができます。

PFD 定義の保管

PFD 定義を完了すると、「PFD 定義の作成」画面または「PFD 定義の変更」画面が表示されます。F3 キーを押して PFD 定義を終了してください。次の画面が表示されます。

PFD 定義の終了	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。	
オプション	<u>1</u> 1= 保管して終了 2= 保管しないで終了 3= PFU セッションの再開
PFD 定義リストへの戻り	<u>Y</u> Y=YES, N=NO
F12= 取り消し	

PFD 定義の終了の方法を指定することができます。次のことを選択することができます。

- PFD 定義を保管するかどうか。
- どの画面に戻りたいか。

次の表は、「PFD 定義の終了」画面の各フィールドについての説明です。

表 36. 「PFD 定義の終了」画面のフィールド

フィールド名	説明
オプション	以下の番号のうちの 1 つを指定して、処理中の PFD 定義をどのように処理したいかを指定します。 1 保管して終了 のプロンプトを選択すると、作成したばかりの PFD 定義を保管してから、作業を終了することができます。 2 保管しないで終了 のプロンプトを選択すると、作成したばかりの PFD 定義を保管しないで、作業を終了することができます。 3 PFU セッションの再開 を選択すると、「PFD 定義の作成」画面または「PFD 定義の変更」画面に戻ることができます。
PFD 定義リストへの戻り	次の選択肢のいずれかを指定します。 Y (YES) 「PFD 定義の処理」画面へ戻ります。 N (NO) 「PFD 定義の処理」画面を迂回して、印刷形式ユーティリティーを開始した時の画面へ戻ります。

すべての選択項目を入力して、実行キーを押してください。

オプションのプロンプトに 1 を指定し、PFD 定義リストへの戻り のプロンプトに Y を指定すると、次の画面が表示されます。

PFD 定義の保管

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

PFD 定義	PFDNEW	名前, リストは F4
ファイル	PFUFILE	名前, リストは F4
ライブラリー	PFULIB	名前, *CURLIB
テキスト '記述'	PFD 定義のサンプル	
除去した要素の削除 <u> </u> N Y=YES, N=NO		

F4= プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し

PFD 定義、PFD 定義ファイル、およびライブラリーの名前、ならびに記述テキストを指定してください。

除去した要素を削除するかどうかについても指定することができます。

次の表は、「PFD 定義の保管」画面の各フィールドについての説明です。

表 37. 「PFD 定義の保管」画面のフィールド

フィールド名	説明
PFD 定義	作成したばかりの定義を記憶するのに用いる PFD 定義の名前を指定します。この名前は有効な iSeries のメンバー名でなければなりません。
ファイル	F4 を押せば、指定した PFD 定義ファイルの中の既存の PFD 定義のリストを表示することができます。 PFD 定義が保管される PFD 定義ファイルの名前を指定します。この名前は有効な iSeries のファイル名でなければなりません。
ライブラリー	F4 を押すことによって、指定したライブラリーの中の既存の PFD 定義ファイルのリストを表示し、そのリストから PFD 定義ファイルを選択することができます。 PFD 定義を保管する PFD 定義ファイルを入れるためのライブラリーの名前を指定します。この名前は有効な iSeries のライブラリー名でなければなりません。
テキスト '記述' 除去した要素の削除	保管する PFD 定義を記述する 50 字以内の文字を指定します。 除去した要素を削除し他の要素に番号付けをやり直したい場合には「Y」(YES) を指定します。そうでない場合には「N」(NO) を指定します。

上記のプロンプトについて指定し、実行キーを押すと、次の画面が表示されます。

PFD 定義の処理

ファイル	PFUFILE	名前, リストは F4
ライブラリー	PFULIB	名前, *LIBL, *CURLIB
PFD 定義	*ALL	名前, 総称*, *ALL
位置指定		開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。
 1= 作成 2= 変更 3= コピー 4= 削除 6=PFD 定義の印刷 7= 名前の変更
 9= データベース・ファイルの印刷

OPT	PFD 定義	テキスト	変更
-	PFDNEW		
-	PFD1	PFD 定義のサンプル	02/01/30
-	PFD2	PFD 定義のサンプル	02/01/30
-	PFD3	PFD 定義のサンプル	02/01/30
-	PFD4	PFD 定義のサンプル	02/01/30
			終わり

パラメーターまたはコマンド
 ==>

F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F9= コマンドの複写
 F11= 名前だけの表示 F12= 取り消し

PFD 定義 PFDNEW がファイル PFUFILE に正常に保管された。

F3 キーを押して上記の画面を終了してください。印刷形式ユーティリティーを開始した時の画面が表示されます。

2= PFD 定義の変更

PFD 定義を変更するには、159 ページの画面で以下のことを行ってください。

1. 変更したい PFD 定義の隣の *OPT* 欄に 2 と入力する。
2. 実行キーを押してください。

次の画面が表示されます。

PFD 定義の変更

ファイル : PFUFILE
ライブラリー : PFULIB
PFD 定義 : PFDNEW

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1= 選択

OPT	処置
-	PFD 仕様の定義
-	PFD 定義フォントの処理
I	データベース・ファイルの指定
-	切れ目フィールドの指定
I	レコード・レイアウトの設計
I	ページ・レイアウトの設計
-	レコード選択の指定
-	印刷出力仕様の定義
-	マッピング・オブジェクト名の指定

F3= 終了 F5= 最新表示 F9= すべての選択 F12= 取り消し

PFD 定義を変更するには、PFD 定義を作成したのと同じ要領で、上記の画面で処置を選択してください。詳細については、164 ページの『1= PFD 定義の作成』を参照してください。

3= PFD 定義のコピー

PFD 定義をコピーするには、159 ページの画面で以下のことを行ってください。

1. コピーしたい PFD 定義の隣の *OPT* 欄に 3 と入力する。
2. 実行キーを押してください。

次の画面が表示されます。

PFD 定義のコピー

```

FROM ファイル . . . . . : PFUFILE
   ライブラリー . . . . . : PFULIB
PFD 定義 . . . . . : PFDNEW
テキスト . . . . . : PFD 定義のサンプル
    
```

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

```

TO ファイル. . . . . PFUFILE   名前, リストは F4
   ライブラリー . . . . . PFULIB   名前, *LIBL, *CURLIB
PFD 定義 . . . . . PFDNEW2   名前
テキスト '記述'. . . . . PFD 定義のサンプル
    
```

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し

「PFD 定義のコピー」画面を使用して、同じファイルまたはライブラリー、あるいは別のファイルまたはライブラリーの中に PFD 定義をコピーすることができます。

次の表は、「PFD 定義のコピー」画面の各フィールドについての説明です。

表 38. 「PFD 定義のコピー」画面のフィールド

フィールド名	説明
FROM ファイル	コピーする PFD 定義が入っている PFD 定義ファイルの名前を示します。
ライブラリー	コピーする PFD 定義のファイルが入っているライブラリーの名前を示します。
PFD 定義	コピーする PFD 定義の名前を示します。
テキスト	コピーする PFD 定義のテキスト記述を示します。
TO ファイル	PFD 定義のコピー先である PFD 定義ファイルを指定します。
	指定したライブラリーの PFD 定義ファイルの選択リストに進むには、F4 キーを押します。
	このプロンプトには、コピー元の PFD 定義ファイル名と同じファイル名が入っています。PFD 定義を別の PFD 定義名にコピーするか、あるいは同じファイル名で別のライブラリーにコピーしたい場合は、省略時の値のままにしておいてください。

表 38. 「PFD 定義のコピー」画面のフィールド (続き)

フィールド名	説明
ライブラリー	<p>PFD 定義をコピーする先のライブラリーを指定します。このプロンプトには、コピー元のライブラリー名と同じライブラリー名が入ります。PFD 定義を別のファイルにコピーするか、あるいは同じライブラリーの別の PFD 定義にコピーしたい場合は、省略時の値のままにしておいてください。このフィールドで指定できる値を、次に示します。</p> <p>*LIBL コピーされた PFD 定義が入るファイルはライブラリー・リスト中のいずれかのライブラリーに入っているということを指定します。</p> <p>*CURLIB コピーされた PFD 定義が入るファイルは、現行ライブラリーにあるということを指定します。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。</p> <p>ライブラリー名 PFD 定義をコピーしたい先の特定のライブラリー名を指定します。</p>
PFD 定義	<p>コピー先となる新しい PFD 定義を指定します。このプロンプトには、コピー元の PFD 定義名と同じ PFD 定義名が入っています。PFD 定義を同じ PFD 定義名で別のファイルにコピーするか、あるいは別のライブラリーにコピーしたい場合は、省略時の値のままにしておいてください。</p>
テキスト '記述'	<p>このプロンプトでは PFD 定義の短い記述を指定しますが、コピー元の PFD 定義の記述と同じ記述を付けて PFD 定義をコピーしたい場合は、省略時の値のままにしておいてください。この記述は、PFD 定義と一緒に保管され、PFD 定義がリストされる時に表示されるので、PFD 定義を識別するのに役立ちます。</p>

PFD 定義名を PFDNEW2 に変更します。

実行キーを押すと、PFD 定義がコピーされます。コピーが完了すると、画面は 159 ページの「PFD 定義の処理」画面に戻ります。

4= PFD 定義の削除

PFD 定義を削除するには、159 ページに示した画面で次のことを実行してください。

1. 削除したい PFD 定義の隣の *OPT* 欄に 4 と入力する。
2. 実行キーを押してください。

次の画面が表示されます。

PFD 定義の削除の確認

ファイル : PFUFILE
ライブラリー : PFULIB

「4= 削除」の選択項目が正しい場合には、実行キーを押してください。
選択項目を変更するためには、F12 キーを押して戻ってください。

OPT	PFD 定義	テキスト	変更
4	PFNEW	PFD 定義のサンプル	02/01/30

終わり

F11= 名前だけの表示 F12= 取り消し

この画面で、削除を指定したすべての PFD 定義が、確認のためリストされます。実行キーを押して削除する選択項目を確定してください。すると、これらの PFD 定義は削除されます。これらの PFD 定義を削除したくない場合は、F12 を押して前の「PFD 定義の処理」画面に戻って、選択内容を変更してください。

次の表は、「PFD 定義削除の確認」画面についての説明です。

表 39. 「PFD 定義の削除の確認」画面のフィールド

フィールド名	説明
ファイル ライブラリー	PFD 定義が入っている PFD 定義ファイルの名前が表示されます。削除するように選択した PFD 定義が入っているファイルが入っているライブラリーの名前を示します。
Opt	確認画面を表示させた、削除オプションを示す <i>OPT</i> 欄。この画面では、オプション番号は常に 4 です。
PFD 定義 テキスト	削除するように選択したすべての PFD 定義のリストを示します。 PFD 定義のテキスト記述を示します。
変更	PFD 定義を最後に変更した日付が示されます。

削除するように以前に選択した (オプション 4)PFD 定義がリストされます。リストを確認してから、実行キーを押してこれらの定義を削除するか、あるいは F12 キーを押して 159 ページの「PFD 定義の処理」画面に戻って選択項目を変更します。

PFD 定義が削除されると、画面は「PFD 定義の処理」画面に戻り、24 行目にメッセージが出ます。削除される定義が複数ある場合には、メッセージは各定義ごとに出力され、24 行目の右端の桁に正符号 (+) が表示されて、システムから出されるメッセージが続いていることを示します。メッセージは、カーソルを 24 行目に移してから「次ページ」キーを押すと、次々に続きが表示されます。

6= PFD 定義の印刷

PFD 定義を印刷するには、159 ページの画面で次のことを行ってください。

1. 印刷したい PFD 定義の隣の *OPT* 欄に 6 と入力する。
2. 実行キーを押してください。

指定した PFD 定義が印刷され、画面は 159 ページの「PFD 定義の処理」画面へ戻ります。

7= PFD 定義の名前の変更

PFD 定義を名前を変更するには、159 ページの画面で次のことを行ってください。

1. 名前を変更したい PFD 定義の隣の *OPT* 欄に 7 と入力する。
2. 実行キーを押してください。

「メンバー名の変更」画面が表示されます。新規メンバーのプロンプトに、PFD 定義の新しい名前を入力して、実行キーを押してください。

9= データベース・ファイルの印刷

データベース・ファイルの印刷を開始するには、159 ページの「PFD 定義の処理」画面で次のことを行ってください。

1. 印刷に使用する PFD 定義の隣の *OPT* 欄に 9 と入力する。
2. 実行キーを押してください。

159 ページの画面が表示されます。

第 11 章 PFD 定義ファイルの処理

この章では、「PFD 定義ファイルの処理」画面の補足説明を行います。

この画面では次のオプションのいずれかを選択することができます。

- PFD 定義ファイルの作成
- PFD 定義ファイル記述の変更
- PFD 定義ファイルのコピー
- PFD 定義ファイルの削除
- PFD 定義ファイルの名前の変更
- PFD 定義ファイル記述の表示
- 「PFD 定義の処理」画面の呼び出し

155 ページの「AFP ユーティリティー」のメニュー画面で、12 (PFD 定義ファイルの処理) を選択して、実行キーを押してください。 次の画面が表示されます。

PFD 定義ファイルの処理

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ライブラリー	PFULIB	名前, *USRLIBL, *LIBL *CURLIB, *ALLUSR, *ALL
ファイル	*ALL	名前, 総称, *ALL

パラメーターまたはコマンド
===>

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F9= コマンドの複写 F12= 取り消し

この画面を使用して、リストし処理したい PFD 定義ファイルを選択してください。 ライブラリー およびファイル のプロンプトを使用して、サブセット基準を指定することができます。 実行キーを押すと、「PFD 定義ファイルの処理」画面が表示されます。 次の表は、画面の各フィールドについての説明です。

表 40. 「PFD 定義ファイルの処理」画面のフィールド

フィールド名	説明
ライブラリー	<p>リストし処理したい PFD 定義ファイルが入っているライブラリーを指定します。次の中から選択してください。</p> <p>ライブラリー名 処理したい PFD 定義ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。</p> <p>*USRLIBL ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが探索されます。</p> <p>*LIBL ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分とシステム部分のライブラリーがすべて探索されます。 注: この値を指定すると、「PFD 定義ファイルの処理」画面が表示されるまでに時間がかかることがあります。</p> <p>*CURLIB ジョブの現行ライブラリーが探索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合は、QGPL が使用されます。</p> <p>*ALLUSR 「ユーザー定義の」ライブラリーがすべて探索されます。 「ユーザー定義の」ライブラリーには、ライブラリー QGPL は含まれますが、英字「Q」で始まるその他のライブラリーは、いずれもこれには含まれません。 注: この値を指定すると、「PFD 定義ファイルの処理」画面が表示されるまでに時間がかかることがあります。</p> <p>*ALL システムの中のライブラリー (QSYS をも含めて) がすべて探索されます。 注: この値を指定すると、「PFD 定義ファイルの処理」画面が表示されるまでに時間がかかることがあります。</p>
ファイル	<p>ライブラリーの中のすべての PFD 定義ファイル、またはライブラリーの中の PFD 定義ファイルのサブセットを処理したいということを指定します。次の中から選択してください。</p> <p>PFD 定義ファイル名 PFD 定義ファイル名を指定すると、リストにその PFD 定義名だけが表示されます。</p> <p>総称名 PFD 定義ファイル名の部分名をアスタリスク (*) で修飾したものを指定すると、特定の PFD 定義ファイルのサブセットが表示されます。総称名の形式は次のとおりです。 ABC* 文字 ABC で始まるすべての PFD 定義ファイルのリストが表示されます。たとえば、ABC、ABCD、または ABCTEST などです。</p> <p>*ALL *ALL を指定すると、指定したライブラリーの中の PFD 定義がすべて表示されます。</p>

上記のフィールドに指定し終わったら、実行キーを押してください。次の画面が表示されます。

PFD 定義ファイルの処理			
ライブラリー	PFULIB	名前, *USRLIBL, *LIBL, *CURLIB...	
ファイル	*ALL	名前, 総称*, *ALL	
位置指定		開始文字	
オプションを入力して、実行キーを押してください。			
1= 作成 2= 変更 3= コピー 4= 削除 7= 名前の変更 8= 記述の表示			
12=PFD 定義の処理			
OPT	ファイル	ライブラリー	テキスト
—	PFUFILE	PFULIB	実習用の PFD ファイル
—			02/01/30
			終わり
パラメーターまたはコマンド			
===>			
F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F9= コマンドの複写			
F11= 名前のみの表示 F12= 取り消し			

「PFD 定義ファイルの処理」画面を使用して、PFD 定義ファイルの作成、変更、コピー、削除、名前の変更をしたり、あるいは PFD 定義ファイル記述を表示したり、または PFD 定義ファイル内の PFD 定義の処理を開始することができます。

注: PFD 定義ファイルを作成するには、PFD 定義ファイルを入れるためのライブラリーが必要です。ライブラリーがない場合には、任意の画面のコマンド行に「ライブラリー作成 (CRTLIB)」コマンドを入力することによってライブラリーを作成することができます。

この画面を使用すると、ユーザーは、リスト表示して処理したい PFD 定義ファイルの名前を (ファイルのプロンプトに) 指定し、同時にライブラリー名の名前を (ライブラリーのプロンプトに) 指定して、ファイルを探すことができます。

注: ライブラリー またはファイル のいずれかの値、または両方の値を変更する場合、ユーザーは OPT の欄にオプションを指定する前に実行キーを押す必要があります。

次の表は、「PFD 定義ファイルの処理」画面の各フィールドについての説明です。

プロンプト

表 41. 「PFD 定義ファイルの処理」のプロンプト

プロンプト	説明
ライブラリー	<p>リストし処理したい PFD 定義ファイルが入っているライブラリーを指定します。次の中から選択してください。</p> <p>ライブラリー名 処理したい PFD 定義ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。</p> <p>*USRLIBL ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが探索されます。</p> <p>*LIBL ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分とシステム部分のライブラリーがすべて探索されます。</p> <p>注: この値を指定すると、「PFD 定義ファイルの処理」画面が表示されるまでに時間がかかることがあります。</p> <p>*CURLIB ジョブの現行ライブラリーが探索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合は、QGPL が使用されます。</p> <p>*ALLUSR 「ユーザー定義の」ライブラリーがすべて探索されます。「ユーザー定義の」ライブラリーには、ライブラリー QGPL は含まれますが、英字「Q」で始まるその他のライブラリーは、いずれもこれには含まれません。</p> <p>注: この値を指定すると、「PFD 定義ファイルの処理」画面が表示されるまでに時間がかかることがあります。</p> <p>*ALL システムの中のライブラリー (QSYS をも含めて) がすべて探索されます。</p>
ファイル	<p>ライブラリーの中のすべての PFD 定義ファイル、またはライブラリーの中の PFD 定義ファイルのサブセットを処理したいということを指定します。次の中から選択してください。</p> <p>PFD 定義ファイル名 PFD 定義ファイル名を指定すると、リストにその PFD 定義名だけが表示されます。</p> <p>総称名 PFD 定義ファイル名の部分名をアスタリスク (*) で修飾したものを指定すると、特定の PFD 定義ファイルのサブセットが表示されます。総称名の形式は次のとおりです。</p> <p>ABC* 文字 ABC で始まるすべての PFD 定義ファイルのリストが表示されます。たとえば、ABC、ABCD、または ABCTEST などです。</p> <p>*ALL *ALL を指定すると、指定したライブラリーの中の PFD 定義がすべて表示されます。</p>

表 41. 「PFD 定義ファイルの処理」のプロンプト (続き)

プロンプト	説明
位置指定	<p data-bbox="651 275 1438 369">このプロンプトは、リストをすばやく位置変更するために使用します。リストのサブセット作成用ではありません。次の項目の中から 1 つを選択してください。</p> <p data-bbox="651 390 1235 420">*TOP これを指定すると、リストの上部に進みます。</p> <p data-bbox="651 441 1235 470">*BOT これを指定すると、リストの下部に進みます。</p> <p data-bbox="651 491 841 520">名前または部分名</p> <p data-bbox="748 520 1438 611">リストの中の進みたい先の名前または部分名を指定します。リストは、指定したストリングで始まる最初の名前に位置指定されます。</p>

オプション

表 42. 「PFD 定義ファイルの処理」のオプション

オプション	説明
1= 作成	<p>PFD 定義ファイルを作成します。 <i>OPT</i> の欄に 1 を入力し、リストの最初の行に、PFD 定義の名前と作成したいファイルとライブラリーの名前を入力します。</p> <p>PFD 定義ファイルが作成されると、「PFD 定義の処理」画面が表示されるので、その PFD 定義ファイルの中に PFD 定義を作成することができます。</p> <p>注: PFD 定義ファイルを作成するには、PFD 定義ファイルを入れるためのライブラリーが必要です。ライブラリーがない場合には、任意の画面のコマンド行に「ライブラリー作成 (CRTLIB)」コマンドを入力することによってライブラリーを作成することができます。</p>
2= 変更	<p>PFD 定義ファイルの記述テキストを変更します。記述を変更したい PFD 定義ファイルの名前の隣の <i>OPT</i> の欄に 2 を入力します。</p>
3= コピー	<p>PFD 定義ファイルを新しい PFD 定義ファイルにコピーします。コピーしたい PFD 定義ファイルの名前の隣の <i>OPT</i> の欄に 3 を入力します。</p> <p>PFD 定義ファイルがコピーされると、ファイルの中の PFD 定義もすべてコピーされます。</p>
4= 削除	<p>PFD 定義ファイルを削除します。削除したい PFD 定義ファイルの名前の隣の <i>OPT</i> の欄に 4 と入力してください。実際に削除する前に、その次の画面で選択内容を確認することができます。PFD 定義ファイルが削除されると、ファイルの中の PFD 定義もすべて削除されます。</p>
7= 名前の変更	<p>PFD 定義ファイルの名前の変更をします。名前の変更をしたい PFD 定義ファイルの名前の隣の <i>OPT</i> の欄の隣に 7 と入力してください。</p>
8= 記述の表示	<p>PFD 定義ファイルの記述を表示します。記述を表示したい PFD 定義ファイルの名前の隣の <i>OPT</i> の欄に 8 を入力します。</p>
12= PFD 定義の処理	<p>PFD 定義ファイルの中の PFD 定義の処理を開始します。処理したい PFD 定義が入っている PFD 定義ファイルの名前の隣の <i>OPT</i> の欄に 12 を入力します。</p>

欄

表 43. 「PFD 定義ファイルの処理」の欄

欄	説明
Opt	<p>作業を実行したい PFD 定義ファイルの隣の <i>OPT</i> の欄に作業の番号を指定します。複数の PFD 定義ファイルの隣に同じオプションを同時に入力してもよいし、異なる PFD 定義ファイルの隣に異なるオプションを同時に入力することもできます。</p>

表 43. 「PFD 定義ファイルの処理」の欄 (続き)

欄	説明
ファイル	<p>指定したライブラリーまたはライブラリー・リストの中であって、サブセット基準に適合するすべての PFD 定義ファイルのリストを示します。リスト中の最上位に位置を使用して、作成またはその他のオプションを行いたい PFD 定義ファイルを入力することができます。</p> <p>注: ファイルが下記の 4つの条件に適合する場合は、たとえ PFD 定義ファイルとして作成されたものでなくても、「PFD 定義ファイルの処理」画面には PFD 定義ファイルとして表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ファイルが物理ファイルである。 • ファイルがソース・ファイルではない。 • ファイルが DDM ファイルではない。 • レコード長が 80 である。 <p>印刷形式ユーティリティを使用して作成したファイルを使用するようお勧めします。</p>
ライブラリー	PFD 定義ファイルが入っているライブラリーの名前が表示されます。
テキスト	PFD 定義ファイルのテキスト記述が表示されます。
変更	PFD 定義ファイルの中の PFD 定義を最後に変更した日付または PFD 定義ファイルの記述テキストを最後に変更した日付が表示されます。

PFD 定義ファイル・リストの表示

PFD 定義ファイルは、ライブラリー フィールドとファイル フィールドを指定することにより、画面の下部にリストすることができます。リストの内容を変更したい場合には、ファイルとライブラリーの名前を指定します。位置指定 プロンプトに開始文字を指定することによって、画面上でリストのページ送りまたはページ戻しを行うことができます。

注: PFD 定義ファイル フィールドまたは ライブラリー フィールドを指定する場合には、OPT の欄を指定することはできません。

PFD 定義ファイルのリストからの選択

画面上のリストには、ライブラリー フィールドで示されるライブラリー (複数の場合もある) に入っているすべての PFD 定義ファイルあるいは PFD 定義ファイルの指定されたサブセットの名前が入っています。(ただし、表示されるのはユーザーが必要な権限を持っている PFD 定義ファイルおよびライブラリーだけです。) PFD 定義ファイルを記述するテキストおよびファイルが最後に変更された日付もリストに表示されます。

リストが表示されている時は、リストの右下に 1 語からなる標識が必ず現れ、今表示されているのがそのリスト内のどこにあたるかを示します。続く...は、今表示されている項目の後に項目が続くことを意味します。終わりは、リストが終わりに到達したことを意味します。

リストを正方向または逆方向に移動するには、「次ページ」キーまたは「前ページ」キーを使用してください。

PFD 定義ファイルを作成する場合は、新しい名前を選択する前に、このリストを調べてすでに使用されている名前を確認することができます。最初のリスト位置に 1、および PFD 定義ファイル名、およびライブラリー名を入力すれば PFD 定義ファイルを作成することができ、また、1 (作成) 以外のオプションのいずれかを使用すると、リストから他の PFD 定義ファイルを選択することもできます。

したがって、次のいずれか一方または両方を行うことによって、1 つまたは複数の名前を選択することができます。

- 使用したいリストの PFD 定義ファイル名の隣の *OPT* の欄に、使用するオプション (作業) の番号を入力する。
- リストの最初 (最上部) の位置に限り、*OPT*、ファイル、およびライブラリーの欄に、それぞれオプション番号 (作業の)、PFD 定義ファイル名、およびライブラリー名を入力する。

1= PFD 定義ファイルの作成

PFD 定義を作成する前に PFD 定義ファイルを作成しておかなければなりません。PFD 定義ファイルを作成するには、225 ページに示した「PFD 定義ファイルの処理」画面で以下を行ってください。

1. リストの 1 行目の *OPT* の欄に 1 と入力する。
2. リストの 1 行目の ファイル のプロンプトに新しい PFD 定義ファイルの名前を入力する。
3. リストの 1 行目の ライブラリー のプロンプトに、PFD 定義ファイルを入れるライブラリーの名前を入力する。
4. 実行キーを押す。

次の画面が表示されます。

PFD 定義ファイルの作成

ファイル : PFD2
 ライブラリー : PFULIB

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ユーザー指定の DBCS データ . N Y=YES, N=NO
 テキスト '記述' 製品ラベルのファイル

権限 *LIBCRTAUT 名前, *LIBCRTAUT, *ALL
 *CHANGE, *EXCLUDE, *USE

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

「PFD 定義ファイルの作成」画面を使用して、この画面で指定した情報を基にした PFD 定義ファイルを作成することができます。

PFD 定義ファイルが作成されると、「PFD 定義の処理」画面が表示されるので、PFD 定義ファイルの中に PFD 定義を作成することができます。

フィールド名	説明
ファイル	作成する PFD 定義ファイルの名前を示します。
ライブラリー	PFD 定義ファイルが作成されるライブラリーの名前を示します。
ユーザー指定の DBCS データ	このプロンプトが表示されるのは、DBCS システムを使用している場合 だけです。このプロンプトに N (NO) または Y (YES) を指定して、 PFD 定義ファイルの中の PFD 定義のテキスト・データで DBCS (2 バ イト文字セット) データが使用されるかどうかを指定します。
テキスト記述	このプロンプトには PFD 定義ファイルの簡単な記述を指定します。こ の記述は、PFD 定義ファイルとともに保管され、PFD 定義ファイルが リストされる時に表示されるので、PFD 定義ファイルを識別するのに役 立ちます。たとえば、PFD 定義ファイルの簡単な記述を次のように入 力してください。 解説用 PFD 定義ファイル

フィールド名	説明
権限	<p>ファイルに対して特定の権限を持っていないユーザー、権限リストに載っていないユーザー、およびファイルに対して特定の権限を持っていないユーザー・グループのユーザーに付与する権限を指定します。指定できる値は次のとおりです。</p> <p>*LIBCRTAUT</p> <p>システムは、作成されるファイルが入るライブラリーの「ライブラリー作成」(CRTLIB) コマンドの、作成権限のプロンプト (CRTAUT パラメーター) で指定された値を用いて、ファイルの権限を決定します。作成権限 プロンプト (CRTAUT パラメーター) に指定した値が変更されても、新しい値は既存のファイルに影響を与えません。</p> <p>*ALL</p> <p>ユーザーは、ファイルの存在の管理、ファイルのセキュリティの指定、ファイルの変更、ファイルの所有者の変更、ファイルに対する基本機能の実行を行うことができます。ユーザーに全権限が与えられていると、ユーザーは、所有者に限定されている操作あるいは権限リスト管理権限によって制御されている操作を除き、ファイルについてすべての操作を実行することができます。</p> <p>*CHANGE</p> <p>ユーザーは、ファイルを変更し、ファイルに対して基本機能を実行することができます。ユーザーは変更権限があると、所有者に限定されている操作またはオブジェクト存在権限およびオブジェクト管理権限の管理下にある操作を除き、ファイルについてすべての操作を行うことができます。変更権限が付与されると、オブジェクト操作権およびすべてのデータ権限が与えられます。</p> <p>*EXCLUDE</p> <p>排他権限は、ファイルに対するユーザーのアクセスを禁止します。</p> <p>*USE</p> <p>ユーザーはファイルに対して、ファイルの読み取りなど、基本操作を実行することができます。ユーザーはファイルの変更はできません。使用権限が付与されると、オブジェクト操作権および読み取り権限が与えられます。</p> <p>権限リスト名</p> <p>権限リストの名前を指定します。権限リストに含まれているユーザーは、そのリストで指定されているとおりに、ファイルに対して権限を付与されています。権限リストはファイルの作成時に存在していなければなりません。</p>

実行キーを押すと、指定した記述が入った PFD 定義ファイルが作成され、画面は 225 ページに示した「PFD 定義ファイルの処理」画面へ戻ります。

3= PFD 定義ファイルのコピー

PFD 定義ファイルをコピーするには、225 ページに示した「PFD 定義ファイルの処理」画面で以下を行ってください。

1. コピーしたい PFD 定義ファイルの隣の *OPT* の欄に 3 と入力する。
2. 実行キーを押す。

次の画面が表示されます。

PFD 定義ファイルのコピー

FROM ファイル : PFUFILE
 ライブラリー : PFULIB
 テキスト : 実習用の PFD ファイル

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

TO ファイル PFUFILE2 名前
 ライブラリー PFULIB 名前, *CURLIB
 テキスト '記述' 実習用の PFD ファイル

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

「PFD 定義ファイルのコピー」画面を使用して、PFD 定義ファイルを新しい PFD 定義ファイルにコピーすることができます。PFD 定義のセット全体がすべて新しいファイルにコピーされます。

表 45. 「PFD 定義ファイルのコピー」画面のフィールド

フィールド名	説明
FROM ファイル	コピー元にする PFD 定義ファイルの名前を示します。
ライブラリー	PFD 定義ファイルが入っているライブラリーの名前を示します。
テキスト	コピーされる PFD 定義ファイルのテキスト記述を示します。
TO ファイル	コピー先にする新しい PFD 定義ファイルを指定します。このプロンプトには FROM ファイル名と同じファイル名が入ります。ファイルを同じファイル名で別のライブラリーにコピーしたい場合は、省略時の値のままにしておいてください。
ライブラリー	PFD 定義ファイルのコピー先にするライブラリーを指定します。このプロンプトには、コピー元のライブラリー名と同じライブラリー名が入ります。ファイルを同じライブラリーの中の別のファイルにコピーしたい場合は、省略時の値のままにしておいてください。このフィールドで指定できる値を、次に示します。
	*CURLIB
	ジョブの現行ライブラリーを使用して、コピーされたファイルを保管します。
	名前
	指定されたライブラリー名を使用して、コピーされたファイルを保管します。

表 45. 「PFD 定義ファイルのコピー」画面のフィールド (続き)

フィールド名	説明
テキスト'記述'	このプロンプトには PFD 定義ファイルの簡単な記述を指定しますが、FROM ファイルの記述と同じファイル記述をもつファイルをコピーしたい場合は、省略時の値をそのままにしておきます。この記述は、PFD 定義ファイルとともに保管され、PFD 定義ファイルがリストされる時に表示されるので、PFD 定義ファイルを識別するのに役立ちます。

実行キーを押すと、ファイルがコピーされます。コピーが完了すると、画面は 225 ページの「PFD 定義ファイルの処理」画面に戻ります。

4= PFD 定義ファイルの削除

PFD 定義ファイルを削除するには、225 ページに示した「PFD 定義ファイルの処理」画面で以下を行ってください。

1. 削除したい PFD 定義ファイルの隣の OPT の欄に 4 と入力する。
2. 実行キーを押す。

次の画面が表示されます。

PFD 定義ファイルの削除の確認

「4= 削除」の選択項目が正しい場合には、実行キーを押してください。
 選択項目を変更するためには、F12 キーを押して戻ってください。

OPT	ファイル	ライブラリ	テキスト	変更
4	PF2	PFULIB	製品ラベルのファイル	02/01/30

終わり

F11= 名前だけの表示 F12= 取り消し

「PFD 定義ファイルの削除の確認」画面を使用して、「PFD 定義ファイルの処理」画面でオプション 4 (削除) を指定して選択した、削除したいファイルを確認することができます。

注: 削除することができるのは、削除するための権限を持っている PFD 定義ファイルだけです。PFD 定義ファイルに対して *OBJOPR 権限および *OBJEXIST 権限を持っていない場合は、その PFD 定義ファイルは削除されません。

表示された名前だけのリストを使用して、表示されている PFD 定義ファイルのすべてを削除したいかどうかを調べてください。すべて削除する場合は、実行キーを押す

て削除します。一部に削除してはならないものがある場合は、F12 (取り消し) を押してください。F12 を押した場合は、「PFD 定義ファイルの処理」画面に戻りますが、選択した項目はすべてそのまま表示されるため、削除したくない PFD 定義ファイルの隣の欄から 4 を除去することができます。

表 46. 「PFD 定義ファイルの削除の確認」画面のフィールド

フィールド名	説明
Opt	OPT フィールドには、削除オプションが表示されます。ここの指定によって確認画面が表示されます。この画面では、オプション番号は常に 4 です。
ファイル	削除することを選択したすべての PFD 定義ファイルのリストを示します。
ライブラリー	PFD 定義ファイルが入っているライブラリーの名前を示します。
テキスト	PFD 定義ファイルのテキスト記述を示します。
変更	PFD 定義ファイルの中の PFD 定義を最後に変更した日付または PFD 定義ファイルの記述テキストを最後に変更した日付が表示されます。

削除するために選択した (オプション 4) PFD 定義ファイルがリストされます。リストを確認し、実行キーを押してこれらのファイルを削除するか、または選択項目 (複数の場合もある) を変更するために、F12 キーを押して 225 ページに示した「PFD 定義ファイルの処理」画面へ戻ってください。

ファイルが削除されると、画面は「PFD 定義ファイルの処理」画面へ戻り、24 行目にメッセージが出ます。削除するファイルが複数ある場合は、各ファイルごとにメッセージが出され、24 行目の右端の桁に正符号が表示されて、システムからメッセージが続けて出されることを示します。メッセージは、24 行目にカーソルを移動してから「次ページ」キーを押すと、次々に続きが表示されます。

7= PFD 定義ファイルの名前の変更

PFD 定義ファイルの名前を変更するには、「PFD 定義ファイルの処理」画面で以下を行ってください。

1. 名前の変更をしたい PFD 定義ファイルの隣の *OPT* の欄に 7 と入力する。
2. 実行キーを押す。

「オブジェクト名の変更」画面が表示されます。PFD 定義ファイルの新しい名前を、新規オブジェクトのプロンプトに入力してください。

8= PFD 定義ファイルの記述の表示

PFD 定義ファイルの記述を表示するには、「PFD 定義ファイルの処理」画面で以下を行ってください。

1. 記述を表示したい PFD 定義ファイルの隣の *OPT* の欄に 8 を入力する。
2. 実行キーを押す。

「オブジェクト記述表示 (DSPOBJD)」コマンドが呼び出され、PFD 定義ファイルの記述が表示されます。

12= PFD 定義の処理

「PFD 定義の処理」画面に進むには、「PFD 定義ファイルの処理」画面で、以下のことを行ってください。

1. 処理を行いたい PFD 定義が含まれている PFD 定義ファイルの隣の *OPT* の欄に 12 と入力する。
2. 実行キーを押す。

「PFD 定義の処理」画面が表示されます。

詳細については、159 ページの『第 10 章 PFD 定義の処理』を参照してください。

第 12 章 データベース・ファイル・メンバーの印刷

印刷形式ユーティリティー・アプリケーションは、一度設計してしまえば、次の 3 つの方法のどれを使用しても実行することができます。

- 「PFD 定義の処理」画面から、データベース・ファイルの印刷を選択する。
「PFD 定義の処理」画面に進むには、STRPFU コマンドまたは STRAFPU オプション 11 を使用します。
- APFU メニュー画面から、データベース・ファイルの印刷を選択する。
- PRTPFDDTA コマンドを実行する。

「PFD 定義の処理」画面からの印刷の開始

「PFD 定義の処理」画面でデータベース・ファイル・メンバーの印刷を開始するには、データベース・ファイル・メンバーを印刷するのに使用したい PFD 定義の隣の OPT の欄に 9 を入力し、実行キーを押します。

PFD 定義の処理		
ファイル	PFDFILE	名前, リストは F4
ライブラリー	MYLIB	名前, *LIBL, *CURLIB
PFD 定義	*ALL	名前, 総称*, *ALL
位置指定		開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1= 作成 2= 変更 3= コピー 4= 削除 6=PFD 定義の印刷 7= 名前の変更
9= データベース・ファイルの印刷

OPT	PFD 定義	テキスト	変更
9	PRODUCTLBL	PFD の実習	02/01/30

終わりに

パラメーターまたはコマンド
===>

F3= 終了	F4= プリント	F5= 最新表示	F9= コマンドの複写
F11= 名前だけの表示	F12= 取り消し		

「データベース・ファイル・メンバーの印刷」画面が表示されます。

データベース・ファイル・メンバーの印刷

ファイル : PFDFILE
 ライブラリー : MYLIB
 PFD 定義 : PRODUCTLBL

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

データベース・ファイル	<u>*PFD</u>	名前, *PFD, リストは F4
ライブラリー	<u>*LIBL</u>	名前, *LIBL, *CURLIB
メンバー	<u>*FIRST</u>	名前, *FIRST, リストは F4
格子の組み込み	N	Y=YES, N=NO
レコード選択	<u>Y</u>	Y=YES, N=NO
終了ページ	<u>*END</u>	1-9999, *END
ソース用紙入れ	<u>*PFD</u>	1-255, *PFD, *E1
出力ピン	<u>*DEVD</u>	1-65535, *DEVD
コピー部数	<u>*PFD</u>	1-255, *PFD
出力待ち行列	<u>*JOB</u>	名前, *JOB
ライブラリー	_____	名前, *LIBL, *CURLIB

続く ...

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し

データベース・ファイル・メンバーの印刷

ファイル : PFDFILE
 ライブラリー : MYLIB
 PFD 定義 : PRODUCTLBL

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

用紙定義	<u>*PFD</u>	名前, *PFD, *DEVD, *INLINE
ライブラリー	_____	名前, *LIBL, *CURLIB

終わり

F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し

この画面では、データベース・ファイル・メンバーを印刷する方法を指定することができます。次のことを指定することができます。

- 印刷すべきデータベース・ファイル。
- レコード選択を使用するかどうか。
- 印刷を特定のページで終了する時期。
- 使用する出力キュー。
- 印刷する枚数。

次の表は、「データベース・ファイル・メンバーの印刷」画面についての説明です。

表 47. 「データベース・ファイル・メンバーの印刷」画面のフィールド

フィールド名	説明
ファイル	データベース・ファイルを印刷するために使用する PFD 定義ファイルを示します。
ライブラリー	PFD 定義が含まれている PFD 定義ファイルが入っているライブラリーを示します。
PFD 定義	PFD 定義名を示します。
データベース・ファイル	印刷したいメンバーが入っているデータベース・ファイルの名前を指定します。ライブラリーのプロンプトに指定されているライブラリーの中のデータベース・ファイルをすべてリストするには、カーソルをこのプロンプトに移動し、F4 を押してください。
ライブラリー	<p>PFD 定義の中で指定したデータベース・ファイルを使用する場合は、*PFD を指定してください。</p> <p>データベース・ファイルが入っているライブラリーを指定します。以下から選択することができます。</p> <p>ライブラリー名 データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。</p> <p>*LIBL ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分とシステム部分のライブラリーがすべて探索されます。</p> <p>*CURLIB ジョブの現行ライブラリーが探索されます。ライブラリー・リストに現行項目がない場合は、ライブラリー QGPL が使用されます。</p>
メンバー	データベース・ファイル・メンバー名を指定します。*FIRST を指定した場合は、データベース・ファイルの最初のメンバーが印刷されます。データベース・ファイルのプロンプトに指定されているファイルのメンバーをすべてリストするには、カーソルをこのプロンプトに移動し、F4 を押してください。
格子の組み込み	以下のいずれか 1 つを指定します。
	<p>Y (YES) 「PFD 仕様の定義」画面で指定したデータベース・ファイル・メンバーを、格子を組み込んで印刷します。</p> <p>N (NO) 格子を組み込まないでデータベース・ファイル・メンバーを印刷します。</p>
レコード選択	<p>格子を印刷すると、印刷出力を設計するのに便利です。</p> <p>以下のいずれか 1 つを指定します。</p> <p>N (NO) PFD 定義の中のレコード選択条件の指定に関係なく、データベース・ファイル・メンバーの中のレコードがすべて選択されます。</p> <p>Y (YES) PFD 定義にレコード選択条件が指定されている場合は、その選択条件に従ってレコードが選択されます。PFD 定義に選択条件が指定されていない場合は、すべてのレコードが選択されます。</p>

表 47. 「データベース・ファイル・メンバーの印刷」画面のフィールド (続き)

フィールド名	説明
終了ページ	<p>印刷を停止するページの番号を指定します。</p> <p>*END 選択されたレコードをすべて印刷します。</p> <p>n n ページが印刷されると、印刷を終了します。 1~9999 の範囲の値が使用できます。</p> <p>これは、試しに最初の数ページを印刷して、印刷出力のデザインを調べる場合に便利です。</p>
ソース用紙入れ	<p>単一カット用紙を印刷装置に送り込むとき、使用するソース用紙入れを指定します。 指定できる値は次のとおりです。</p> <p>*PFD 印刷出力仕様で指定された値が使用されます。*PFD が省略時値です。</p> <p>*E1 封筒はカット用紙送り機構上の封筒入れから送り込まれます。</p> <p>*CUT 手動送り込みを用いる印刷装置では、カット用紙は手動送り込み機構を通じて手操作で送りこまれます。</p> <p>ソース用紙入れ 用紙をどの用紙入れから送るかを指定します。有効な値は 1 から 255 までです。手動送りの印刷装置では、100 を指定することは、*CUT を指定するのと同じことです。</p>
出力ビン	<p>複数出力ビンを扱える印刷装置上での出力の宛先を指定します。 指定できる値は次のとおりです。</p> <p>*DEVD 装置記述で指定された値が使用されます。 *DEVD が省略時値です。</p> <p>出力ビン 出力の宛先としての出力ビンを指定します。 指定できる値の範囲は 1 から 65535 までです。</p>
コピー部数	<p>印刷する部数を指定します。</p> <p>*PFD 印刷出力仕様 に指定されている値が使用されます。</p> <p>n 1~255 の範囲で指定することができます。</p>
出力キュー	<p>印刷形式ユーティリティで作成したスプール・ファイルを入れるための出力キューを指定します。</p>
ライブラリー	<p>出力キューを探すライブラリーを指定します。次のライブラリー値を使用することができます。</p> <p>*LIBL ライブラリー・リストを使用して、出力キューを見つけます。</p> <p>*CURLIB ジョブの現行ライブラリーを使用して、出力キューを見つけます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合は、QGPL が使用されます。</p> <p>ライブラリー名 出力キューが入っているライブラリーを指定します。</p>

表 47. 「データベース・ファイル・メンバーの印刷」画面のフィールド (続き)

フィールド名	説明
用紙定義	<p>印刷形式ユーティリティにより作成されたスプール・ファイルを印刷する際に使用する、用紙定義を指定します。指定できる値は次のとおりです。</p> <p>*DEVD 装置記述で指定された用紙定義を使用する必要があることを指定します。</p> <p>*INLINE データの印刷時に使用するインライン用紙定義を作成する必要があることを指定します。追加情報については、用紙定義のヘルプ・テキストを参照してください。</p> <p>用紙定義名 用紙定義の名前を指定します。</p>
ライブラリー	<p>ライブラリーとして指定できる値は次のとおりです。</p> <p>*LIBL ライブラリー・リストを使用して、用紙定義を見つけます。</p> <p>*CURLIB ジョブの現行ライブラリーを使用して、用紙定義を見つけます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。</p> <p>名前 用紙定義が入っているライブラリーの名前を指定してください。</p>

リストからデータベース・ファイルおよびメンバーを選択することができます。たとえば、カーソルをメンバーのプロンプトに移動し、F4 キーを押してください。「データベース・ファイル・メンバーの選択」画面が表示されます。

データベース・ファイル・メンバーの選択

ファイル : QAFCPFDDTA
 ライブラリー : QGPL

位置指定 _____ 開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。
 1= 選択

OPT	メンバー	テキスト
<u>1</u>	QAFCPFDDTA	SAMPLE DATABASE FILE FOR PFU

終わり

F5= 最新表示 F12= 取り消し

前の画面で指定したデータベース・ファイルに入っているデータベース・ファイル・メンバーがリストされます。位置指定のプロンプトにデータベース・ファイ

ル・メンバーの名前の開始文字を指定することによって、データベース・ファイル・メンバーのリストのページを出すことができます。

次の表は、「データベース・ファイル・メンバーの選択」画面についての説明です。

表 48. 「データベース・ファイル・メンバーの選択」画面のフィールド

フィールド名	説明
ファイル ライブラリー 位置指定	<p>前の画面で指定したデータベース・ファイルが表示されます。 物理ファイルが入っているライブラリーの名前を示します。 このプロンプトは、リストをすばやく位置変更するために使用します。リストのサブセット作成用ではありません。次の項目の中から 1 つを選択してください。</p> <p>*TOP これを指定すると、リストの上部に進みます。 *BOT これを指定すると、リストの下部に進みます。</p> <p>名前または部分名 リスト中で使用したい名前または部分名を指定します。リストは、指定したストリングで始まる最初の名前に位置指定されます。</p>
Opt メンバー	<p>選択したいメンバーの隣の <i>OPT</i> の欄に 1 と入力します。 指定したデータベース・ファイルに入っているメンバーの名前を示します。</p>
テキスト	<p>指定したデータベース・ファイルに入っているメンバーの記述テキストを示します。</p>

メンバーの *OPT* の欄に 1 と入力してメンバーを選択し、実行キーを押してください。

「データベース・ファイル・メンバーの印刷」画面が表示されます。

データベース・ファイル・メンバーの印刷

```

ファイル . . . . . : PFDFILE
ライブラリー . . . . . : MYLIB
PFD 定義 . . . . . : PRODUCTLBL

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

データベース・ファイル . . . . . QAFCPFDATA 名前, *PFD, リストは F4
ライブラリー . . . . . QGPL 名前, *LIBL, *CURLIB
メンバー . . . . . QAFCPFDATA 名前, *FIRST, リストは F4

格子の組み込み . . . . . N Y=YES, N=NO
レコード選択 . . . . . Y Y=YES, N=NO
終了ページ . . . . . *END 1-9999, *END
ソース用紙入れ . . . . . *PFD 1-255, *PFD, *E1
出力ピン . . . . . *DEVD 1-65535, *DEVD
コピー部数 . . . . . *PFD 1-255, *PFD
出力待ち行列 . . . . . *JOB 名前, *JOB
ライブラリー . . . . . _____ 名前, *LIBL, *CURLIB

```

続く ...

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し

データベース・ファイルの印刷の準備ができたら、実行キーを押してください。印刷形式ユーティリティによりデータベース・ファイルの印刷が開始します。

印刷が完了すると画面は「PFD 定義の処理」画面に戻り、完了メッセージあるいは印刷中に生じた事柄に応じたエラー・メッセージが表示されます。「PFD 定義で使用されるフィールドがデータベース・ファイル内にありません」などの、印刷形式ユーティリティーによって検出されたエラーが、印刷形式ユーティリティーで作成される印刷出力リストに印刷されます。

F3 キーを押せば、「PFD 定義の処理」画面を終了することができます。

AFP ユーティリティーのメニュー画面による印刷の開始

印刷を開始するには、「AFP ユーティリティー」メニュー画面のコマンド行で 13 と入力します。

```
AFPU                IBM ADVANCED FUNCTION PRINTING UTILITIES

次の 1 つを選択してください。

オーバーレイ・ユーティリティー
  1. ソース・オーバーレイの処理
  2. ソース・オーバーレイ・ファイルの処理

印刷形式ユーティリティー
  11. PFD 定義の処理
  12. PFD 定義ファイルの処理
  13. データベース・ファイル・メンバーの印刷
  14. AFP ユーティリティーの解説の印刷

資源管理ユーティリティー
  21. ページ・セグメントへの変換
  22. オーバーレイの処理
  23. ページ・セグメントの処理

選択項目またはコマンド
===> 13

-----
F3= 終了   F4=ﾌﾟﾛﾝﾄ   F9=ｺﾏﾝﾄ の複写   F12= 取り消し   F16=ｼｽﾃﾑ・ﾒｲﾝ・ﾒﾆｭ
```

「データベース・ファイル・メンバーの印刷」画面が表示されます。

データベース・ファイル・メンバーの印刷

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ファイル	_____	名前, リストは F4
ライブラリー	MYLIB	名前, *LIBL, *CURLIB
PFD 定義	_____	名前, *FIRST, リストは F4
データベース・ファイル	QAFCPFDDTA	名前, *PFD, リストは F4
ライブラリー	QGPL	名前, *LIBL, *CURLIB
メンバー	QAFCPFDDTA	名前, *FIRST, リストは F4
格子の組み込み	N	Y=YES, N=NO
レコード選択	N	Y=YES, N=NO
終了ページ	*END	1-9999, *END
ソース用紙入れ	*PFD	1-255, *PFD, *E1
出力ピン	*DEVDT	1-65535, *DEVDT
コピー部数	*PFD	1-255, *PFD
出力待ち行列	*JOB	名前, *JOB
ライブラリー	_____	名前, *LIBL, *CURLIB

続く ...

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し

指定したライブラリーの中の PFD 定義ファイルのリストを表示することができます。カーソルをファイルのプロンプトに移動し、F4 キーを押してください。

「PFD 定義ファイルの選択」画面が表示されます。

PFD 定義ファイルの選択

ライブラリー : MYLIB
 位置指定 _____ 開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。
 1= 選択

OPT	ファイル	テキスト
1	PFDFILE	実習用の PFD ファイル

終わり

F5= 最新表示 F12= 取り消し

指定した PFD 定義ファイルの中の PFD 定義のリストを表示することもできます。「データベース・ファイル・メンバーの印刷」画面の PFD 定義 プロンプトにカーソルを移動し、F4 キーを押します。

「PFD 定義の選択」画面が表示されます。

PFD 定義の選択

ファイル : PFDFILE
ライブラリー : MYLIB

位置指定 _____ 開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1= 選択

OPT	PFD 定義	テキスト
1	PRODUCTLBL	PFD の実習

終わり

F5= 最新表示 F12= 取り消し

詳細については、239 ページから 245 ページを参照してください。

印刷が完了すると、画面は「AFP ユーティリティー」メニュー画面に戻り、画面の 24 行目に完了メッセージまたは印刷中に生じた事柄に応じたエラー・メッセージが表示されます。

PRTPFDDTA による印刷の開始

iSeries のメインメニューもしくは「コマンド入力」画面からコマンド **PRTPFDDTA** (データベース・ファイル・メンバーの印刷) を用いて印刷を開始するには、画面のコマンド行に PRTPFDDTA を入力して、F4 キーを押します。このコマンドを使用すると、バッチ・ジョブに PFD を使用して印刷することも、制御言語 (CL) プログラムから印刷ジョブを実行依頼することもできます。

MAIN	OS/400 メイン・メニュー	システム: SYSTNAME
------	-----------------	----------------

次の中から 1 つを選んでください。

1. ユーザー・タスク
2. オフィス・タスク
3. 汎用システム・タスク
4. ファイル、ライブラリー、およびフォルダー
5. プログラミング
6. 通信
7. システムの定義または変更
8. 問題処理
9. メニューの表示
10. 情報援助オプション
11. クライアント・アクセス/400 タスク

90. サインオフ

選択項目またはコマンド
===> PRTPFDDTA

F3= 終了 F4= プロンプト F9= コマンドの複写 F12= 取り消し F13= 情報援助
F23= 初期メニューの設定

次のコマンド・プロンプトが表示されます。

PFD データの印刷 (PRTPFDDTA)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

PFD ファイル	_____	名前
ライブラリー	*LIBL _____	名前, *LIBL, *CURLIB
PFD 定義	*FIRST _____	名前, *FIRST
データベース・ファイル	*PFD _____	名前, *PFD
ライブラリー	_____	名前, *LIBL, *CURLIB
メンバー	*FIRST _____	名前, *FIRST
格子の組み込み	*NO _____	*YES, *NOs
レコード選択	*YES _____	*YES, *NO
終了ページ	*END _____	1-9999, *END
ソース用紙入れ	*PFD _____	1-255, *PFD, *E1
出力ビン	*DEV D _____	1-65535, *DEV D
コピー部数	*PFD _____	1-255, *PFD
出力待ち行列	*JOB _____	名前, *JOB
ライブラリー	_____	名前, *LIBL, *CURLIB
用紙定義	*PFD _____	名前, *PFD, *DEV D, *INLINE
ライブラリー	_____	名前, *LIBL, *CURLIB

終わり

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し
 F13= この画面の使用法 F24= キーの続き

詳細については、239 ページから 245 ページを参照してください。

印刷が完了すると、画面は上記の画面に戻り、画面の 24 行目に完了メッセージまたは印刷中に生じた事柄に応じたエラー・メッセージが表示されます。

第 4 部 設計操作およびフォント

第 13 章 設計操作	251
要素タイプ	251
テキスト	251
線	251
枠	251
バーコード	251
ページ・セグメント	251
グラフィックス	252
レコード・レイアウト	252
設計画面での要素の定義	252
設計画面	253
画面ビュー	254
リスト・ビュー	254
画面ビューでの要素の定義	254
画面ビューのレイアウト	254
イメージ域における要素表示ー要素マーク	256
要素マーク・オン/オフ	257
隠蔽	257
最新表示	258
スクロール	258
画面ビューでの要素操作	259
要素の定義操作	259
要素の変更操作	259
編集操作	260
設計画面での機能キー	260
要素の定義または変更	268
テキスト	278
線	280
枠	285
バーコード	298
ページ・セグメント	309
グラフィックス	317
レコード・レイアウト	322
既存の要素のコピー、移動、および除去	324
要素編集	325
ブロック編集	327
リスト・ビューでの要素の変更	328
リスト・ビューのレイアウト	329
要素の作成または変更	331
作成	331
変更	332
ソート要素リスト	332
コピー、移動、除去、または復元	332
要素編集	333
第 14 章 フォントの処理	335
2= フォントの変更	338
5= フォントの表示	342
9= 初期フォントの設定	345

第 13 章 設計操作

この章では、ソース・オーバーレイ、レコード・レイアウト、ページ・レイアウトなどの設計操作に関する次のような情報について説明します。

- オーバーレイ、レコード・レイアウト、ページ・レイアウトなどの中で定義できる要素タイプ。
- 要素を定義する方法。
- 要素について定義できること。

要素タイプ

1 つのソース・オーバーレイ、レコード・レイアウト、およびページ・レイアウトで、6 つの要素を定義することができます。ページ・レイアウトには、レコード・レイアウトを要素として挿入することもできます。

テキスト

オーバーレイに指定されている ABCDE のようなテキストは、テキスト要素と呼ばれます。オーバーレイ上の指定した任意の位置にテキストを挿入することができます。テキスト属性を指定して、フォント選択、形式、および下線、重ね打ち、カラーによる強調表示などのテキスト特性を記述することもできます。

線

線要素とは、縦方向または横方向に 2 点間を結ぶ直線のことです。点線、破線、または実線などの線の種類、および線幅を選択することができます。

枠

枠要素は対角線上の向かい合った 2 つの角で定義される長方形の要素です。オーバーレイ上の任意の位置に枠を挿入することができます。枠内の陰影パターン、および点線、破線、または実線と線幅などの枠囲み線の種類を選択することができます。枠内でテキストを定義することもできます。オプションで、枠内のテキスト位置を調整することもできます。

バーコード

バーコード要素は、IPDS 印刷装置または AFP Utilities for iSeries によってデータから作成される様々な幅のバーとスペースの集まりです。また、この要素は、オーバーレイ上の指定した位置に挿入することができます。指定できるのは、バーコード・データ、挿入する位置、バーコードの種類、および任意指定属性 (サイズ、カラー、可読文字 (HRI) 印刷の有無、検査数字の有無など) です。

ページ・セグメント

ページ・セグメントは AFP 資源ライブラリー内のイメージです。ページ・セグメントをオーバーレイに挿入したいときは、資源管理ユーティリティーまたは CRTPAGSEG コマンドを用いて、ページ・セグメントを作成しなければなりません

ん。このページ・セグメントは、名前で参照することができ、印刷位置を指定すれば、要素として定義することができます。1つのオーバーレイ、ページ・レイアウト、およびレコード・レイアウトに同じページ・セグメントを繰り返し組み込むことができます。

グラフィックス

物理ファイル・メンバーまたはフォルダー内の PC 文書にあるグラフィック・データ (GDF 形式) を組み込むことができます。グラフィック要素は、そのファイル名とメンバー名、もしくはそのフォルダーと文書名で参照し、印刷位置とそのサイズを指定して、それを対角線上の向かい合った 2 つの角により要素として定義することができます。

レコード・レイアウト

レコード・レイアウトは PFD 定義によって決定されるものです。印刷形式ユーティリティを用いて、上記のレコード内の要素を定義し、これらの要素の集まりを 1 つのレコード・レイアウトとして扱うことができます。ページ・レイアウトでは、レコード・レイアウトは要素として定義します。

設計画面での要素の定義

次に挙げる 3 つの画面で要素を定義することができます。

- 「オーバーレイの設計」画面

この画面で、テキスト要素、線要素、枠要素、バーコード要素、ページ・セグメント、およびグラフィックス要素を含むオーバーレイを設計することができます。

「オーバーレイの設計」画面に進むには、次のようにします。

1. コマンド行が表示されている任意の画面で、STRAFPU と入力し、実行キーを押してください。
2. 「Advanced Function Printing Utilities」のメニュー画面で、オプション 1 (ソース・オーバーレイの処理) を選択し、実行キーを押してください。
3. 「ソース・オーバーレイの処理」画面に、ソース・オーバーレイ・ファイルの中のソース・オーバーレイのリストが表示されます。別のソース・オーバーレイ・ファイルまたはライブラリーを使用したい場合は、画面の上部のライブラリーのプロンプトおよびファイルのプロンプトにその名前を入力し、実行キーを押してください。
4. 「ソース・オーバーレイの処理」画面で、次のいずれかを行ってください。
 - 新しいソース・オーバーレイを作成する場合には、リストの 1 行目の OPT の欄に 1 (作成) を、ソース・オーバーレイ 欄に新しい新しいソース・オーバーレイの名前をそれぞれ入力し、実行キーを押して新しいソース・オーバーレイを作成する。
 - 既存のソース・オーバーレイを変更する場合は、リストの 1 行目の OPT の欄に 2(変更)、ソース・オーバーレイ の欄にソース・オーバーレイ名をそれぞれ入力するか、あるいはリスト内の変更したいソース・オーバーレイの隣の OPT の欄に 2 と入力して、実行キーを押す。

5. 「ソース・オーバーレイの作成」画面または「ソース・オーバーレイの変更」画面で、処置リストのオーバーレイの設計 オプションの隣に 1 (選択) と入力し、実行キーを押します。
 6. 「オーバーレイの設計」画面が表示されます。
- 「レコード・レイアウトの設計」画面
この画面を使用すると、 PFD 定義によって決定されるレコード・レイアウトを設計することができます。レコード・レイアウトには、テキスト要素、線要素、枠要素、バーコード要素、ページ・セグメント、グラフィックス要素のいずれでも入れることができます。テキスト要素、枠要素、バーコード要素、ページ・セグメント、およびグラフィックスは固定データであっても可変データ (データベース・ファイルのフィールド名が入っている) であっても構いません。
 - 「ページ・レイアウトの設計」画面
この画面を用いると、 PFD 定義によって決定されるページ・レイアウトを設計することができます。ページ・レイアウトには、テキスト要素、線要素、枠要素、バーコード要素、ページ・セグメント、グラフィックス要素、およびレコード・レイアウトのいずれでも入れることができます。

「レコード・レイアウトの設計」画面または「ページ・レイアウトの設計」画面に進むには、次のようにします。

1. コマンド行が表示されている任意の画面で、STRAFPU と入力し、実行キーを押してください。
2. 「Advanced Function Printing Utilities」のメニュー画面で、オプション 11 (PFD 定義の処理) を選択し、実行キーを押してください。
3. 「PFD 定義の処理」画面には、PFD 定義ファイルの中の PFD 定義のリストが表示されます。別の PFD 定義ファイルまたはライブラリーを使用したい場合は、画面の上部のライブラリー のプロンプトおよびファイル のプロンプトにその名前を入力し、実行キーを押してください。
4. 「PFD 定義の処理」画面で、次のいずれかを行ってください。
 - 新しい PFD 定義を作成する場合は、リストの 1 行目の OPT の欄に 1 (作成) を、PFD 定義 の欄に新しい PFD 定義名をそれぞれ入力し、実行キーを押す。
 - 既存の PFD 定義を変更する場合は、リストの 1 行目の OPT の欄に 2 (変更) を、PFD 定義 の欄に PFD 定義名をそれぞれ入力するか、あるいはリスト内の変更したい PFD 定義の隣の OPT の欄に 2 と入力し、実行キーを押す。
5. 「PFD 定義の作成」画面または「PFD 定義の変更」画面で、処置リストの レコード・レイアウトの設計 またはページ・レイアウトの設計 の隣に 1 (選択) と入力し、実行キーを押してください。
6. 「レコード・レイアウトの設計」画面または「ページ・レイアウトの設計」画面が表示されます。

設計画面

画面には要素を設計するために次の 2 種類のビュー (視点) が用意されています。

- 画面ビュー
- リスト・ビュー

画面ビュー

画面ビューには、印刷されるものに類似したイメージが表示されます。印刷出力イメージが表示されるのは画面の上部であり、この部分のことをイメージ域と呼びます。画面ビューでは、イメージ域の中のカーソル位置で、要素の位置を指定することができます。設計画面は、最初は画面ビューになります。F17 (ビューの切り替え) キーを押すことによって、リスト・ビューに切り替えることができます。

詳細については、254 ページの『画面ビューでの要素の定義』を参照してください。

リスト・ビュー

リスト・ビューでは、すべての要素定義がシーケンス番号の順に、1行に1要素ずつ表示されます。要素が表示される順序は、リストを順序番号 (NBR)、名前、左右または上下フィールドでリストをソート (F4= ソート) して変更できます。リストをソートするには、カーソルをこれらのフィールド名の1つに置き、F4 を押します。リスト・ビューの用途は、ソース・オーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの中の定義済みの要素を表示し、それらの要素に少し修正を加えることにあります。画面ビューのイメージ域には表示されない、バーコード・データやページ・セグメント名など、定義の部分を表示することができるので、要素を簡単に見つけることができます。F17 (ビュー切り替え) キーを押すことによって、画面ビューに切り替えることができます。

詳細については、328 ページの『リスト・ビューでの要素の変更』を参照してください。

画面ビューでの要素の定義

画面ビューでは、画面に印刷イメージを入力することによって、オーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトを設計することができます。実際のイメージが全点アドレス可能 (APA) 印刷装置で印刷されるのに対して、印刷イメージは文字画面に表示されるので、画面に表示して見ることができるのはオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの概略のイメージに過ぎません。

画面ビューのレイアウト

設計画面の画面ビューを次に示します。

オーバーレイの設計		桁: 1- 74
制御	_____	ソース・オーバーレイ . STATIONERY
* . . + . . . 1 . . . + . . . 2 . . . + . . . 3 . . . + . . . 4 . . . + . . . 5 . . . + . . . 6 . . . + . . . 7 . . .		
001		
002		%T001
003		
004		
005		
006		
007		
008		
009		
010		
011		
012		
		続く . . .
テキストの定義		
マーク	: *T001	測定方式 : 行/桁
位置	: 左右 32 上下 2	
テキスト・データ		
F3= 終了 F4= 詳細 F6= 測定方式の変更		
F12= 取り消し F24= キーの続き		

イメージ域

キー入力域

機能キー域

次の表は、上記の画面の各フィールドについての説明です。

表 49. 「オーバーレイの設計」画面の表示フィールド

フィールド名	説明
桁	このフィールドには、画面に表示されている現在のイメージ域が示されています。続く...というメッセージがイメージ域の最下行の右側に表示されている場合は、この区域から移動（スクロール）して、別の区域を設計することができます。
制御	このフィールドでスクロール・コマンドを入力し、実行キーを押すことによって、イメージ域ウィンドウをスクロールすることができます。
イメージ域	オーバーレイを設計するときは、*VIEW コマンドを入力して AFP ワークベンチ・ビューアーを呼び出し、設計するオーバーレイのシミュレートされた印刷出力を見ることがもできます。AFP ワークベンチ・ビューアーは、バーコード・オブジェクト・コンテンツ体系 (BCOCA) で作成されたバーコードは表示しません。
キー入力域	イメージ域は画面の上部になります。ここにオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの概略印刷イメージが示されます。どのような種類の要素が入力されたか、またそれがイメージ域のどこに入れられたかを見ることができます。
機能キー域	キー入力域は画面の下部になります。この区域を使用してパラメーターを入力し要素を定義します。これは要素を定義または変更するときには表示されません。
機能キー域	この区域は、現在使用可能な機能キーを表示するのに使用されます。

イメージ域における要素表示－要素マーク

要素マークは、必ずアスタリスク (*) で始まり、その後に要素タイプを識別する ID、3 桁のシーケンス番号、および1つの空白文字が続きます。したがって、要素マークは6桁で表示されます。

注: ページ・レイアウトの中の要素を、改ページが行われたときだけ印刷するように指定した場合には、シーケンス番号の後に、空白文字の代わりに'>'が表示されます。

画面上のイメージ域で要素を定義するときは、以下を行う必要があります。

1. 要素を挿入したい位置にカーソルを移動します。
2. 該当する機能キーを押して、キー入力域を表示します。
3. キー入力域の要素に関するデータを確認および変更します。
F4 (詳細) キーを押すことによって、「要素明細の定義」画面を表示することができます。
4. 実行キーを押して要素を定義します。

機能キーは次のように要素に割り当てられています。

機能キー	要素
F6	テキスト
F9	線
F10	枠
F11	バーコード
F13 について F6	グラフィックス
F13 について F9	ページ・セグメント
F13 について F11	レコード・レイアウト (ページ・レイアウトの中の)

上記の機能キーの1つを押すと、カーソル位置に %Xnnn が表示されますが、これが **要素マーク**と呼ばれるものです。% は、その要素が位置指定はされているが、まだ定義はされていないことを示します。X は、要素 ID であり、定義される要素を示します。要素 ID は次のように表示されます。

要素 ID	要素
T	テキスト
L	線
B	枠
C	バーコード
S	ページ・セグメント
G	グラフィックス
R	レコード・レイアウト

パラメーターを入れ実行キーを押して要素の定義を完了すると、要素マークの % はアスタリスク (*) に変わります。

nnn は3桁のシーケンス番号 (001~999) です。シーケンス番号は、オーバーレイ・ユーティリティーまたは印刷形式ユーティリティーによって自動的に割り当てられます。

オーバーレイ・ユーティリティーおよび印刷形式ユーティリティーを使用すると、上記の要素マーク以外に、要素にユーザーが都合のよい名前を割り当てることができます。この名前は、オーバーレイ・ユーティリティーおよび印刷形式ユーティリティーによって割り当てられた要素マークの代わりに、イメージ域に表示されて要素位置を示します。オーバーレイ・ユーティリティーと印刷形式ユーティリティーは、たとえユーザーがこの要素に名前を割り当てている場合であっても、システムが要素に割り当てたマークを保持します。オーバーレイ・ユーティリティーおよび印刷形式ユーティリティーは、ユーザーが割り当てた名前をもっている要素については、システムが割り当てたマークを使用しません。

要素マークは、イメージ域で、アスタリスクとその後に要素名が続いたものに変更されます。たとえば、テキスト要素をオーバーレイの最初の要素として定義し、*ABCD という名前を割り当てると、要素マーク *T001 は ABCD に変更されます。

要素名を定義または変更するには、「定義」または「変更」のいずれかのパネルから F4= 詳細を押します。要素プロンプトの隣に、要素に割り当てたい名前を入力します。

以前に割り当てた名前を消去した場合は、オーバーレイ・ユーティリティーおよび印刷形式ユーティリティーでは、その名前を*T001 のようなシステムが割り当てたマークで置き換えます。最大4文字までの任意の文字を要素名として割り当てることができます。

要素名の長さが4文字未満であっても、要素マークは6文字を占めます。イメージ域のマークはアスタリスク、名前、および1つの空白文字で構成されるからです。

要素マーク・オン/オフ

イメージ域の要素マークは、F15 (マーク・オン/オフ) を押すことによって、抑止または最新表示することができます。最初に F15 キーを押すと、イメージ域に表示されたすべての要素マークは、最後のものを除き、画面から消えます。これは、他の要素マークを無効にすることなしに、テキスト要素全体または線/枠要素を検証するのに特に役立ちます。

2 回目に F15 キーを押すと、要素マークはすべてイメージ域に再度表示されます。

隠蔽

画面上で1つの要素に他の要素がオーバーラップすることがあります。要素マーク同士がイメージ域でオーバーラップした場合は、最後に作成された要素マークが表示されます。オーバーラップされた側のマークは表示されません。要素を繰り返して作成すると、要素によってはイメージ域に表示されません。この問題を解決するために用意されているのが隠蔽機能です。この機能によって、カーソル位置の要素が1つずつ一時的に除去され、隠蔽された要素でオーバーラップされていた要素が表示されます。F16 (隠蔽) キーを押せば、この機能を使用することができます。

隠蔽された要素は、イメージ域から除去されますが、実際に除去されたわけではありません。F5 (最新表示) キーを押すことによって、表示することができます。

最新表示

オーバーレイ・ユーティリティーおよび印刷形式ユーティリティーは、最新表示機能も提供しています。F5 (最新表示) キーを押すことによって、この機能を使用することができます。隠蔽機能によって一時的に隠蔽された要素を復元します。

隠蔽機能と最新表示機能は両方とも画面に表示されたイメージについてのみ影響を及ぼします。両機能は入力した要素を変更しません。また、オーバーレイ・データまたは PFD データの印刷時の印刷出力も変更しません。

スクロール

オーバーレイ・ユーティリティーおよび印刷形式ユーティリティーは、画面ビューとリスト・ビューでスクロールを行うのに、次の 2 通りの方法を提供します。

- 機能キー
- 制御フィールド

機能キー: イメージ域を使用することにより、要素またはオーバーレイ、ページ・レイアウト、またはレコード・レイアウト全体の位置を画面に表示することができます。イメージ域はレイアウトを見ることができるようにするウィンドウのようなものです。レイアウトがイメージ域より長い場合は、その一部分だけが表示されます。したがって、レイアウトの残りの部分を表示するには、イメージ域をスクロールする必要があります。イメージ域のスクロールに使用できるキーとしては次のものがあります。

表 50. スクロール操作の機能キー

キー	機能	説明
前ページ	逆方向	イメージ域が一番上の行に移動する。
次ページ	正方向	イメージ域が一番下の行に移動する。
F19	左	イメージ域が最初の桁へ移動する。
F20	右	イメージ域が最終の桁へ移動する。

制御フィールド: 機能キーによるスクロール機能の他に、オーバーレイ・ユーティリティーおよび印刷形式ユーティリティーは、画面上の制御フィールドを使用してイメージ域をスクロールするという機能を提供しています。以下を行ってください。

1. 下記のコマンドの 1 つをイメージ域の制御フィールドに入力する。
2. 実行キーを押す。

表 51. スクロール操作の制御フィールドのコマンド

コマンド	機能	説明
-n	逆方向	イメージ域が最上行の方向へ n 行移動する。
+n	正方向	イメージ域が最下行の方向へ n 行移動する。
W-n	左	イメージ域が最初の桁の方向へ n 桁移動する。
W+n	右	イメージ域が最後の桁の方向へ n 桁移動する。
n	特定行移動	イメージ域が n 行目へ移動する。
Wn	特定桁移動	イメージ域が n 桁目へ移動する。
*TOP	絶対行移動	イメージ域が最初の行へ移動する。
*BOT	絶対行移動	イメージ域が最後の行へ移動する。

表 51. スクロール操作用の制御フィールドのコマンド (続き)

コマンド	機能	説明
*VIEW		シミュレートされた印刷出力がワークステーション上に表示されます。詳細については、制御フィールドのヘルプを参照してください。

画面ビューでの要素操作

画面ビューでは、次の要素操作を行うことができます。

- 要素の定義 (挿入)
- 要素の変更
- 要素の編集 (コピー、移動、または除去)
- 要素のブロックの編集 (コピー、移動、または除去)

操作ステップは各操作ごとに異なっていますが、以下の操作を開始する前に、まず必要とする部分が表示されるまで、イメージ域をスクロールする必要があります。

要素の定義操作

定義しようとする要素に応じて、F6、F9、F10、F11、または F13 のキーを押すことにより、要素定義操作に入ることができます。要素定義操作によって、オーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの要素を定義することができます。

キー入力域が表示されます。その形式は定義すべき要素のタイプにより決まります。入力フィールドは、要素を定義するための必須パラメーターです。要素の追加特性を指定する必要がある場合は、F4 (詳細) キーを押して「明細の定義」画面を表示する必要があります。

この操作の詳細については、以下のいずれかを参照してください。

- 251 ページの『テキスト』
- 251 ページの『線』
- 251 ページの『枠』
- 251 ページの『バーコード』
- 251 ページの『ページ・セグメント』
- 252 ページの『グラフィックス』
- 252 ページの『レコード・レイアウト』

要素の変更操作

カーソルが要素のマーク上に位置している時に F14 (変更) キーを押すことにより、要素の変更操作に入ることができます。キー入力域が表示され、その後の操作は要素の定義操作の場合と同じになります。カーソルがマークのアスタリスク上またはその後の 4 文字の上であれば、マーク上に位置しているものと見なされます。

ページ・レイアウト上に挿入されたレコードを除き、要素はすべて変更中に複製することもできます。「要素変更」画面から、F13 (要素反復) キーを押します。「要素反復」画面が表示されます。

「要素反復」画面で、最初の反復の位置、要素名、反復の方向、左右上下の反復回数、要素と要素間の左右上下の距離を指定することができます。要素反復機能に関する追加情報については、「要素反復」画面のヘルプ・テキストを参照してください。

編集操作

画面ビューの画面で F21 または F22 キーを押すことにより編集操作に入ります。要素は一つずつ編集する(要素編集)こともできるし、対角線上の向かい合った2つの位置を指定して定義されるブロックで編集する(ブロック編集)こともできます。要素編集操作の場合は F21 (要素編集) キーによって、ブロック編集操作の場合は F22 (ブロック編集) キーによって、それぞれ開始されます。両編集タイプの機能はコピー、移動、除去です。要素編集では、カーソルを要素マークに合わせてその要素を選択します。ブロック編集では、カーソルで対角線上の向かい合った2つの位置を指定することによって、ブロックを選択します。

選択した要素またはブロックについて、該当する機能キーを押して、移動、コピー、または除去操作のいずれかを指定してください。表示されていない要素があっても、そのブロック内のすべての要素に対して操作が行われます。線要素、枠要素、およびグラフィックス要素の場合は、要素全体が指定したブロックで囲まれている必要はありません。それ以外の要素の場合は、マーク(先頭のアスタリスクのみ)がブロック内にあればそれらの要素は選択されます。

選択された要素またはブロックのコピー先または移動先の位置にカーソルを合わせてから、該当する機能キーを押す必要があります。除去する場合には、該当する機能キーを押してください。

詳細情報については、次のいずれかを参照してください。

- 324 ページの「要素編集」
- 326 ページの「ブロック編集」

設計画面での機能キー

設計画面では、ある種のキーは実行する操作とは無関係に同じ働きをし、またある種のキーは行っている操作に応じて異なる働きをします。

以下の機能キーは同じ働きをするものです。(キー名のあとに * が付いているものは、リスト・ビューでは使用できないキーです。キー名のあとに @ が付いているものは、リスト・ビューだけで使用できるキーです。)

表 52. 設計画面でのすべての操作の共通機能キー

キー	機能	説明
F1	ヘルプ	様々なカーソル位置でそれぞれ異なるヘルプ画面を表示します。
F5 *	最新表示	F16 キーによって以前に隠蔽されていた要素を最新表示します。このキーが作用するのは、画面に表示されているオーバーレイ・イメージに対してのみであり、入力した要素が変更されることはありません。 この機能キーはリスト・ビューでは使用できません。

表 52. 設計画面でのすべての操作の共通機能キー (続き)

キー	機能	説明
F15 *	マーク・オン/オフ	イメージ域の要素マークを最新表示または抑止します。この機能を使用すると、他の要素マークで変更しなくても、テキスト要素、線要素、または枠要素全体を見ることができます。
F16 *	隠蔽	この機能キーはリスト・ビューでは使用できません。カーソル位置の要素を連続して隠蔽します。この機能を使用すると、イメージ域の要素を見ることができます。隠蔽された要素は依然として存在し、印刷されます。
F19	左	この機能キーはリスト・ビューでは使用できません。イメージ域を最初の桁位置の方向へ移動します。
F20	右	イメージ域を最後の桁位置の方向へ移動します。
F24	キーの続き	現在画面に表示されていない機能キーの割り当てを表示します。
次ページ	正方向	イメージ域を最下行の方向へ移動します。
前ページ	逆方向	イメージ域を最上行の方向に移動します。

次のいずれかを行った時は基本操作の状態です。

- 「設計」画面に入る。
- F3 または F12 キーを押して要素定義操作を終了する。
- 「設計」画面で操作を完了する。

基本操作では、次のキーを使用することができます。

表 53. 設計画面での基本操作の機能キー

キー	機能	説明
F3	終了	設計画面を終了します。
F4 @	ソート	要素リストをカーソルが設定されているフィールドでソートします。要素リストをソートするために使用できるフィールドは NBR、名前、左右、上下です。
F6	テキスト	この機能は画面ビューでは使用できません。 テキスト要素を定義します。
F9	線	線要素を定義します。このキーを 2 回押して、開始位置と終了位置を入力してください。
F10	枠	枠要素を定義します。このキーを 2 回押して、開始位置と終了位置を入力してください。
F11	バーコード	バーコード要素を定義します。
F13	挿入	ページ・セグメント、グラフィック、またはレコード・レイアウトを挿入します。希望する位置にカーソルを置いて、F13 キーを押してください。次に長方形の 2 つの向かい合う角で F6 キーを押してグラフィックスを挿入するか、F9 キーを押してページ・セグメントを配置するか、F11 キーを押してレコード・レイアウトを挿入します。
F14	変更	レコード・レイアウトを挿入することができるのは、「ページ・レイアウトの設計」画面上でだけです。 既存の要素を変更します。カーソルを要素マーク (またはリスト・ビューの要素行) に置き、F14 キーを押してください。
F17	ビューの切り替え	ビューを画面ビューとリスト・ビューの間で交互に切り替えます。
F21 *	要素編集	要素編集操作を開始します。
F22 *	ブロック編集	ブロック編集操作を開始します。

表 54. 設計画面での定義または変更操作の機能キー

キー	機能	説明
F3	終了	定義または変更操作を終了し、基本操作に戻ります。
F4	詳細	パラメーターの続きを入力するために、「明細の定義」または「明細の変更」画面を表示します。
F6	測定方式の変更	測定方式を行／桁とインチ／センチメートルの間で交互に変更します。
F12	取り消し	定義または変更操作を取り消し、前の操作に戻ります。前の操作としては次のものがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • 基本操作 (テキスト要素またはバーコード要素を定義しているか、あるいは要素を変更している場合) • 終了位置指定 (線要素、枠要素、またはグラフィックス要素を定義または変更している場合) • 終了位置指定 (線要素、または枠要素を定義している場合)
F13	要素反復	要素反復用のパラメーターを指定する、「要素反復」画面を表示します。この機能キーは、ページ・レイアウト上に挿入されたレコードの変更には使用できません。挿入されたレコードの反復を変更するには、F4 (詳細) キーを使用します。

グラフィックス要素、ページ・セグメント、またはレコード・レイアウトを挿入する場合には次の機能キーを使用することができます。

- F13 キーを押す。

表 55. 設計画面での挿入操作の機能キー

キー	機能	説明
F3	終了	挿入操作を終了し、基本操作に戻ります。
F6	グラフィックス挿入	このキーを 2 回押して、マップするグラフィック・データのサイズを決めます。次にグラフィックス要素の名前を入力するためにキー入力域が表示されます。
F9	ページ・セグメントの挿入	ページ・セグメントの名前を入力するためのキー入力域が表示されます。
F11	レコード・レイアウトの挿入	レコード・レイアウトを挿入するためのパラメーターを入力するためのキー入力域が表示されます。
F12	取り消し	この機能を使用することができるのは、「ページ・レイアウトの設計」画面が表示されている時だけです。挿入操作を取り消し、直前の操作に戻ります。

要素または要素のブロックを編集するときには次の機能キーを使用することができます。

- F21 キーを押す。
- F22 キーを 2 回押す。

表 56. 設計画面での編集操作の機能キー

キー	機能	説明
F3	終了	編集操作を終了し、基本操作に戻ります。
F6	コピー	要素または複数の要素を望みの位置にコピーします。
F9	移動	要素または複数の要素を望みの位置へ移動します。
F10	除去	要素または複数の要素を除去します。
F12	取り消し	挿入操作を取り消し、直前の操作に戻ります。

前の操作としては次のものがあります。

- 基本操作 (テキスト要素またはバーコード要素を定義しているか、あるいは要素を変更している場合)
- 挿入操作 (グラフィックス、ページ・セグメント、またはレコード・レイアウトを挿入している場合)
- 終了位置指定 (線要素、枠要素、またはグラフィックス要素を定義している場合)

終了位置の指定時には、次の機能キーを使用することができます。

- F6 キーを押してグラフィックスの終了位置を指定する。
- F9 キーを押して線の終了位置を指定する。
- F10 キーを押して枠の終了位置を指定する。
- F22 キーを押してブロックの終了位置を指定する。

表 57. 設計画面で終了位置を指定するための機能キー

キー	機能	説明
F3	終了	「終了位置の表示」画面を終了し、基本操作に戻ります。
F6	グラフィックス	前に F6 キーを押した場合は、終了位置を指定します。
F9	線	前に F9 キーを押した場合には、終了位置を指定します。
F10	枠	前に F10 キーを押した場合には、終了位置を指定します。
F12	取り消し	「終了位置の指定」画面を取り消し、直前の操作に戻ります。
F22	ブロック編集	前に F22 キーを押した場合には、終了位置を指定します。

要素の定義または変更

画面ビューの中で、次の手順で要素を指定できます。

- ステップ 1. イメージ域でカーソルを移動し、要素を挿入したい位置または変更したい要素のマークに合わせてください。
- ステップ 2. その要素に割り当てられている適切な機能キーを押してください。使用できる機能キーを次に示します。

テキスト	F6 (テキスト)
線	F9 (線)
枠	F10 (枠)
バーコード	F11 (バーコード)
グラフィックス	F13 (挿入)、ついで F6 (グラフィックス)
ページ・セグメント	F13 (挿入)、ついで F9 (ページ・セグメント)
レコード・レイアウト	F13 (挿入)、ついで F11 (レコード・レイアウト)
変更 (任意の要素)	F14

% で始まる要素マークがカーソル位置に表示されます。

- ステップ 3. 線、枠、またはグラフィックを定義するときは、カーソルを要素の終わりに移し、F6、F9、または F10 を再度押します。これ以外の要素を定義する場合は、このステップは必要ありません。
- ステップ 4. キー入力域が現れます。

以上のステップを終えると、オーバーレイ・ユーティリティーおよび印刷形式ユーティリティーによって、設計画面にキー入力域が表示されます。イメージ域の下部分がキー入力域に置き換わります。キー入力域の各パラメーターに関する次の説明、および要素のタイプに応じて詳述した説明を参照してください。

テキスト	251 ページの『テキスト』
線	251 ページの『線』
枠	251 ページの『枠』
バーコード	251 ページの『バーコード』
ページ・セグメント	251 ページの『ページ・セグメント』
グラフィックス	252 ページの『グラフィックス』
レコード・レイアウト	252 ページの『レコード・レイアウト』

		オーバーレイの設計	桁: 1- 74
制御 . . .	_____	ソース・オーバーレイ	STATIONERY
	*. . .+. . .1. . .+. . .2. . .+. . .3. . .+. . .4. . .+. . .5. . .+. . .6. . .+. . .7. . .		
001			
002		%T001	
003			
004			
005			
006			
007			
008			
009			
010			
011			
012			
		続く ...	
----- テキストの定義 -----			
マーク	: *T001	測定方法	: 行/桁
位置	左右	<u>32</u> 上下	<u>2</u>
テキスト・データ .			

F3= 終了	F4= 詳細	F6= 測定方式の変更	
F12= 取り消し	F24= キーの続き		

キー入力域の形式は、定義する要素タイプによって異なります。上記の画面では、オーバーレイ・ユーティリティーおよび印刷形式ユーティリティーによって、要素マークがこの要素に割り当てられて、イメージ域の直前のカーソル位置に表示されます。オーバーレイ・ユーティリティーおよび印刷形式ユーティリティーは、カーソルをキー入力域の該当する入力フィールドに移します。

いずれの要素タイプの場合も、キー入力域のすべての必須パラメーターを入力して、要素定義を完成しなければなりません。

ステップ 5. パラメーターの値を入力してください。

オーバーレイ・ユーティリティーおよび印刷形式ユーティリティーは、要素を作成するために必須のパラメーターを入力するようにプロンプトを出します。たとえば、上に示す画面で、次の画面のようにテキスト・データ プロンプトに示されている、THIS IS AN EXAMPLE. といったテキスト・データを入力する必要があります。


```

                                     オーバーレイの設計          桁:      1- 74
制御  . . . _____ ソース・オーバーレイ . . . . STATIONERY
      *...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002                                     %T001
003
004
005
006
007
008
009
010
011
012
                                     テキストの定義          続く ...
-----
マーク . . . . . : *T001          測定方法 . . . . . : 行/桁
位置 . . . . . 左右          32      上下          2
テキスト・データ . THIS IS AN EXAMPLE.
-----
F3= 終了          F4= 詳細          F6= 測定方式の変更
F12= 取り消し    F24= キーの続き

```

以前に作成された要素を変更するには、カーソルをその要素マークの位置においてください。次に F14 キーを押して変更機能を使用してください。要素を作成する場合と同じ画面がイメージ域に表示されますが、すでに入力済みのパラメーターがそれぞれ該当するフィールドに表示されているという点だけが異なります。

以下のパラメーターは、上記の画面ですべての要素に共通のものです。

フィールド名	説明
マーク	このフィールドには要素マークが表示されます。システム割り当てのマークかユーザー割り当ての名前のいずれかになります。
測定方式	このフィールドには、位置を指定するのに使用される測定方式が表示されます。このフィールドは、F6 キーを押すことによって変更することができます。
位置	位置パラメーターは左右の値と上下の値とで構成されます。これらの値は、定義する要素の横方向および縦方向の位置を指定するものです。このフィールドで指定できる各測定方式の値は次のとおりです。 測定方式 指定できる値の範囲 インチ 0～22.75 センチメートル 0～57.79 行 / 列 1～999 注: 指定できる値の範囲は、オーバーレイまたはページ・レイアウトのサイズによって異なります。サイズが上記の値より小さい場合は、オーバーレイまたはページ・レイアウトのサイズが指定できる最大値となります。 オーバーレイ・ユーティリティーおよび印刷形式ユーティリティーは、指定された値を検査し、以前にオーバーレイ仕様または PFD 仕様で定義されているページ・サイズを参照して、その要素がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの中に完全に収まるかどうかを確認します。F6 キーを押してアドレッシングを現行値から別の値に変更した場合、このフィールドの値は、オーバーレイ・ユーティリティーおよび印刷形式ユーティリティーによって、新しい測定単位で該当する値にできるだけ近い値に変更されます。 このフィールドの値を変更した場合は、イメージ域の要素表示位置は新しい位置に移動します。

上記のパラメーターに加えて、要素タイプに応じた必須パラメーターを入力する必要があります。

ステップ 6. 仕様を定義してください。

F4 キーを押すことによって、パラメーターの続きを追加してより詳細に要素を指定することができます。

ステップ7. 実行キーを押して定義を完了してください。

最後に、定義済みの要素が次に示すようにイメージ域に表示されます。

```
                   オーバーレイの設計                      桁 : 1- 74
制御 . . . _____ ソース・オーバーレイ . STATIONERY
                   *...+....1...+....2...+....3...+....4...+....5...+....6...+....7...
001
002
003                      *T001 S AN EXAMPLE.
004
005
006
007
008
009
010
011
012
013
014
015
016
017
                                                                続く ...
-----
F3= 終了      F6= テキスト      F9= 線      F10= 枠
F11= バーコード  F13= 挿入      F14= 変更      F24= キーの続き
```

以上のステップを繰り返して、残りの要素を定義してください。

ステップ8. すべての要素を定義し終えたら、F3 キーを押してオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトを保管してください。

テキスト

テキスト要素を作成するには、F6 (テキスト) キーを押してください。キー入力域が次のように画面の下部に表示されます。テキスト要素を変更するために F14 キーを押した場合にも、この画面が表示されます。実行キーを押すと、オーバーレイ・ユーティリティーおよび印刷形式ユーティリティーによって、入力したパラメーターの妥当性が検査されます。エラーがない場合は、操作が完了し、キー入力域が画面から消えます。

F4(詳細) キーを押すことによって、テキスト要素の明細特性を定義することができます。

```

                オーバーレイの設計          桁:          1- 74
制御 . . .      ソース・オーバーレイ . . . . STATIONERY
                *...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002                      %T001
003
004
005
006
007
008
009
010
011
012
                                                    続く ...
                テキストの定義
マーク . . . . . : *T001          測定方法 . . . . . : 行/桁
位置 . . . . .   : 左右          32      上下      2
テキスト・データ . ISERIES STATIONERY CO., LTD
F3= 終了          F4= 詳細          F6= 測定方式の変更
F12= 取り消し     F24= キーの続き

```

次の表は、上記の各フィールドについての説明です。

フィールド名	説明
制御	<p>次のコマンドの 1 つをこのフィールドに入力し、実行キーを押せば、リスト・ビューのウィンドウを移動することができます。</p> <p>-n 逆方向 イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最上行の方へ n 行移動する。</p> <p>+n 正方向 イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最下行の方へ n 行移動する。</p> <p>W-n 左 イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最初の桁の方へ n 桁移動する。</p> <p>W+n 右 イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最後の桁の方へ n 桁移動する。</p> <p>n イメージ域が n 行目へ移動する。</p> <p>Wn イメージ域が n 桁目へ移動する。</p> <p>*TOP イメージ域が一番上の行に移動する。</p> <p>*BOT イメージ域が一番下の行に移動する。</p>
マーク	このフィールドには要素マークが表示されます。システム割り当てのマークかユーザー割り当ての名前のいずれかになります。
測定方式	このフィールドには、位置を指定するのに使用される測定方式が表示されます。このフィールドは、F6 キーを押すことによって変更することができます。

フィールド名	説明
位置	位置パラメータは左右の値と上下の値とで構成されます。これらの値は、定義する要素の横方向および縦方向の位置を指定するものです。
テキスト・データ	このフィールドにテキスト・データを入力することや、このフィールドに表示される入力済みのテキスト・データを更新することができます。最大 58 文字まで入力することができます。58 文字を超えるテキスト・データを入力する必要がある場合は、F4 (詳細) を押して「テキスト明細の定義」画面に入ってください。 以前に定義したテキスト・データが、58 文字よりも長い場合には、このフィールドの終わりに 3 つのピリオド (...) が表示されます。これは、テキスト・データに続きがあるという意味です。DBCS システムで実行中の場合は、このフィールドに DBCS データを入力できます。

実行キー、F3 キー、F12 キーのいずれかを押して「オーバーレイの設計」画面に戻るか、F4 キーを押してパラメータの続きを指定してください。

テキスト要素をさらに詳細に定義する必要がある場合は、「テキスト明細の定義」画面で、そのテキスト要素についてさらにパラメータを指定することができます。たとえば、テキスト要素の文字フォントおよびカラーを指定することができます。オーバーレイ・ユーティリティおよび印刷形式ユーティリティは、指定された値を検査し、以前にオーバーレイ仕様または PFD 仕様で定義されているページ・サイズを参照して、その要素がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの中に完全に収まるかどうかを確認します。

テキスト明細の定義

マーク : *T001 測定方式 : 行/桁

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

位置 :		
左右	32	1-999
上下	3	1-999
テキスト・データ	<u>I</u> SERIES STATIONERY CO., LTD	

要素		名前
形式	<u>1</u>	1= 左右, 2= 上下
回転の角度	<u>0</u>	0, 90, 180, 270
カラー	<u>*DEFAULT</u>	*DEFAULT, 1= 青, 2= 赤 3= マゼンタ色, 4= 緑, 5= シアン 6= 黄色, 7= 茶色, 8= 黒
下線	<u>N</u>	Y=YES, N=NO

続く ...

F3= 終了 F4=7°印入力 F5= 最新表示 F6= 測定方式の変更 F12= 取り消し

テキスト明細の定義

マーク : *T001 測定方式 : 行/桁

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

重ね打ち		文字
フォント	<u>*DEFAULT</u>	*DEFAULT, 1-8, リストは F4
文字サイズ :		
幅	<u>*DEFAULT</u>	*DEFAULT, 0.10-99.99
高さ	<u>*DEFAULT</u>	*DEFAULT, 0.10-99.99

終わり

F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F6= 測定方式の変更 F12= 取り消し

フィールド名	説明
マーク	要素マークを示します。 マークは、システム割り当てのマークか、ユーザー割り当ての名前のいずれかであり、画面に表示されるものと同じです。マークは長さが 6 文字で、最初の文字はアスタリスク (*)、最後の文字はブランクです。 中間の 4 文字は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> システム割り当てのマークの場合は、中間の 4 文字は要素タイプを示す 1 文字の後に、3 桁のシーケンス番号が続きます。 テキスト要素では、要素タイプは T で、シーケンス番号は 001 から 999 です。 ユーザー割り当ての名前の場合は、中間の 4 文字は要素名の値として指定した 4 文字です。
測定方式	位置を指定するのに使用する測定方式を示します。この値は、F6 を押して変更することができます。「オーバーレイ仕様の定義」画面または「PFD 仕様の定義」画面で測定単位を指定することによって、測定単位としてセンチメートルまたはインチを選択することもできます。
位置	位置パラメーターは左右の値と上下の値とで構成されます。これらの値は、定義する要素の横方向および縦方向の位置を指定するものです。

フィールド名	説明
テキスト・データ	<p>このフィールドにはテキスト・データを指定します。テキスト・データとして指定できる長さの最大は 203 バイトです。長さが 203 バイトを超えるテキスト・データを入力または更新する必要がある場合には、それを複数のテキスト要素として定義しなければなりません。</p>
要素	<p>印刷出力形式定義 (PFD 定義) のレコード・レイアウトの場合は、データベース・フィールド名を入力することができます。たとえば、フィールド名 <code>PRODC</code> を <code>"&PRODUCT"</code> と指定します。カーソルをテキスト・データのプロンプトに合わせ、<code>F4</code> キーを押すことによって、フィールドのリストを表示し、フィールドの一つを選択することができます。</p> <p>レコード・レイアウトおよびページ・レイアウトの中に予約可変データを指定すること、およびページ・レイアウトの中に合計データを指定することもできます。詳細については、159 ページの『第 10 章 PFD 定義の処理』を参照してください。</p> <p>注: テキスト要素一つについて、テキストは 1 行しか入力することができません。複数行のテキストを入力するためには、枠要素か複数のテキスト要素を使用してください。</p> <p>このプロンプトには要素名を指定します。</p> <p>要素名は 1 から 4 文字の長さです。ある要素について要素名が指定された (ブランクではない) 場合は、要素マークはアスタリスク (*) の後にその要素名が続いた形で表示されます。アスタリスク (*) の後に要素タイプと 3 桁のシーケンス番号が続く形ではありません。</p>

フィールド名	説明
様式	<p>テキストの印刷方向を指定します。次の値のいずれか一つを指定してください。</p> <p>右左 文字は左から右へ印刷されます。</p> <p>上下 文字は上から下へ縦に印刷されます。縦方向のテキスト行は左から右へ印刷されます。</p> <p>上下、右から左 文字は上から下へ縦に印刷されます。縦方向のテキスト行は、日本語古来の様式設定にならって、右から左へ印刷されます。テキストが 1 行しかないときには、上下と同じ意味になります。この選択項目が表示されるのは、ユーザー指定の <i>DBCS</i> データのプロンプトに Y (YES) を指定したファイルで <i>DBCS</i> データを使用する場合です。「右から左」のオプションは非 <i>DBCS</i> システムには適用されません。</p> <p>様式設定の例については、293 ページを参照してください。</p> <p>注:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキスト要素一つについて、テキストは 1 行しか入力することができません。複数行のテキストを入力するためには、枠要素が複数のテキスト要素を使用してください。 2. すべての印刷装置が上下様式をサポートしているわけではありません。印刷装置が縦方向様式をサポートしていない場合は、2 (上下) および 3 (上下、右から左) を入力することはできません。 3. 「2=上下」、および「3=上下、右から左」を使用する場合は、次のことに注意しなければなりません。 <ul style="list-style-type: none"> • 印刷装置タイプが 1 の場合は、これらの様式を使用することはできない。 • 印刷装置タイプが 2 または 3 の場合は、フォントのタイプ 2 または 3 を指定しなければなりません。 • 印刷装置タイプがそれ以外の場合は、制約はありません。
回転の角度	<p>テキストの回転の角度をオーバーレイ、ページ・レイアウト、またはレコード・レイアウトから時計まわりに測定した角度で指定します。省略時の値は 0 です。</p>
カラー	<p>テキストを印刷するのに使用する色を指定します。省略時の値は *DEFAULT で、印刷装置の省略時のカラーです。</p> <p>注:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. すべての印刷装置でカラー印刷機能がサポートされているわけではありません。印刷装置でカラー印刷がサポートされていない場合は、カラーのプロンプトに値を入れることはできません。 2. 選択したカラーが印刷装置でサポートされていない場合は、エラーが起こるか、あるいはこのテキストの印刷に省略時のカラーが使用されます。印刷装置でサポートされているカラーをよく調べてください。 3. *DEFAULT および 8= 黒以外の値を使用する場合は、以下に注意してください。 <ul style="list-style-type: none"> • 印刷装置タイプは 1 または 9 でなければならず、しかもその印刷装置は指定したカラーを印刷できなければなりません。

フィールド名	説明
下線	<p>テキストに下線を付けて印刷するかどうかを指定します。</p> <p>Y (YES) 下線が印刷されます。</p> <p>N (NO) 下線は印刷されません。</p> <p>下線はテキスト・データ (先頭の空白文字および文字間に空白が存在する場合は、それも含め) の始めから開始されます。下線はテキスト・データの終わりで停止します。</p>
重ね打ち	<p>注:</p> <ol style="list-style-type: none"> すべての印刷装置でこの機能がサポートされているわけではありません。印刷装置でこの機能がサポートされていない場合は、この値を入力することはできません。 下線を使用する場合は、以下に注意しなければなりません。 <ul style="list-style-type: none"> 印刷装置タイプが 4、5、または 6 の場合は、フォントのタイプ 1 または 3 を指定しなければなりません。 印刷装置タイプがそれ以外の場合は、制約はありません。 <p>重ね打ち のプロンプトに SBCS 文字を 1 文字指定すると、定義したテキスト・データの中の文字が、空白文字 (複数の場合もある) も含めて、すべて重ね打ちされます。テキストに DBCS 文字が存在している場合は、その DBCS 文字は重ね打ちされません。</p>
フォント	<p>注:</p> <ol style="list-style-type: none"> すべての印刷装置でこの機能がサポートされているわけではありません。印刷装置でこの機能がサポートされていない場合は、この値を入力することはできません。 重ね打ちを使用する場合は、次のことに注意しなければなりません。 <ul style="list-style-type: none"> 印刷装置タイプが 4、5、または 6 の場合は、フォントのタイプ 1 または 3 を指定しなければなりません。 印刷装置タイプがそれ以外の場合は、制約はありません。 <p>フォント番号を指定します。フォント番号は 1~8、および *DEFAULT です。番号または *DEFAULT は、「ソース・オーバーレイ・フォントの処理」画面または「PFD 定義フォントの処理」画面で定義します。このフィールドにカーソルを合わせ、F4 キーを押すことによって、フォント・リストを表示し、いずれかのフォントを選択することができます。</p> <p>注:</p> <ol style="list-style-type: none"> 指定したフォントがあるかどうか、およびそれが SBCS フォントであるかどうかは検査されません。フォントが存在しない場合は、このテキストが印刷される時、エラーが起こることがあります。DBCS フォントを指定した場合は、結果は予測できません。予想外の文字が印刷されることもあれば、エラーが起こることもあります。 *DEFAULT は印刷装置の省略時フォントを使用することを意味していません。*DEFAULT が希望のものとは異なっている場合は、「ソース・オーバーレイ・フォントの処理」画面または「PFD 定義フォントの処理」画面でそれを変更してください。

フィールド名	説明
DBCS フォント	<p>フォント番号を指定します。フォント番号は 1 ～ 8 であり、各番号は「ソース・オーバーレイ・フォントの処理」画面または「PFD 定義フォントの処理」画面で定義されます。このフィールドにカーソルを合わせ、F4 キーを押すことによって、フォント・リストを表示し、いずれかのフォントを選択することができます。このプロンプトが表示されるのは、ユーザー指定の DBCS データのプロンプトに Y (YES) を指定したファイルで DBCS データを使用しているときです。</p> <p>注: 指定したフォントがあるかどうか、しかもそれが DBCS フォントであるかどうかは検査されません。指定したフォントが存在しない場合は、このテキストの印刷時にエラーが起こることがあります。SBCS フォントを指定した場合は、結果は予測できません。予想外の文字が印刷されることもあれば、エラーが起こることもあります。</p>
文字サイズ	<p>印刷する文字の幅および高さを指定します。</p> <p>注: *DEFAULT 以外の値を使用すると、パフォーマンスに影響を与えます。以下の点についても注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 印刷装置タイプが 4、5、または 6 の場合は、このパラメーターを指定することはできません。 印刷装置タイプが 2 または 3 の場合は、フォント・タイプ 1 を指定しなければなりません。 印刷装置タイプがそれ以外の場合は、制約はありません。
幅	<p>各文字の幅を指定します。測定方法が行/桁の場合は、オーバーレイ仕様または PFD 仕様で文字/インチとして指定した文字幅の倍数を指定することができます。あるいは、その測定方法、すなわちオーバーレイ仕様または PFD 仕様での測定単位で、文字幅を指定することができます。印刷装置は、オーバーレイ・テキスト・データを拡大文字または縮小文字で印刷します。省略時の値 *DEFAULT は、フォントがそのまま使用され、拡大または縮小は行われなことを示します。</p> <p>文字幅は、そのフォント・ボックス幅によって測定されます。文字フォントの起点は、フォント・ボックスの左下隅に設定されます。</p> <p>注:</p> <ol style="list-style-type: none"> すべての印刷装置でこの機能がサポートされているわけではなく、指定した印刷装置でこの機能がサポートされていない場合は、このプロンプトは表示されません。 指定した値が、4224 印刷装置、4234 印刷装置、および 4230 印刷装置に対して小さ過ぎると、テキストは正しく印刷されません。

フィールド名	説明
高さ	<p>各文字の高さを指定します。測定方法が行/桁の場合は、オーバーレイ仕様または PFD 仕様で文字/インチとして指定した文字の高さの倍数を指定することができます。あるいは、その測定方法、すなわちオーバーレイ仕様または PFD 仕様での測定単位で、文字の高さを指定することができます。印刷装置は、オーバーレイ・テキスト・データを拡大文字または縮小文字で印刷します。省略時の値 *DEFAULT は、フォントがそのまま使用され、拡大または縮小は行われなことを示します。</p> <p>文字の高さは、そのフォント・ボックスの高さによって測定されます。文字フォントの起点は、フォント・ボックスの左下隅に設定されます。</p> <p>注:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. すべての印刷装置でこの機能がサポートされているわけではなく、指定した印刷装置でこの機能がサポートされていない場合は、このプロンプトは表示されません。 2. 指定した値が、4224 印刷装置、4234 印刷装置、および 4230 印刷装置に対して小さすぎると、テキストは正しく印刷されません。

実行キーを押すと、オーバーレイ・ユーティリティーおよび印刷形式ユーティリティーによって、入力したパラメーターの妥当性が検査されます。エラーが検出されなければ、テキスト要素は定義されて、設計画面が表示されます。

フォントの選択: フォント または *DBCS* フォント のプロンプトにカーソルの位置を合わせ、F4 (プロンプト) キーを押せば、「ソース・オーバーレイ・フォントの選択」画面または「PFD 定義フォントの選択」画面を表示することができます。

使用するフォントをリストから選択することができます。フォントは、「ソース・オーバーレイ・フォントの処理」画面および「PFD 定義フォントの処理」画面で定義します。

ソース・オーバーレイ・フォントの選択

オプションを入力して、実行キーを押してください。

1= 選択

OPT	フォント 番号	テキスト
	*DEFAULT	10 CPI COURIER
-	1	10 CPI COURIER
-	2	10 CPI COURIER
-	3	10 CPI COURIER
-	4	10 CPI COURIER
-	5	10 CPI COURIER
-	6	10 CPI COURIER
-	7	10 CPI COURIER
-	8	10 CPI COURIER

終わり

F5= 最新表示 F12= 取り消し

この画面には、ソース・オーバーレイ・フォントまたは PFD 定義フォントのリストが表示されます。フォント番号 の欄の隣の OPT の欄に 1 と入力し、実行キーを押せば、フォントを選択することができます。

次の表は、上記の各フィールドについての説明です。

フィールド名	説明
Opt	1 を指定すると、ソース・オーバーレイ・フォントまたは PFD 定義フォントが指定されます。
フォント番号	フォント番号を示します。
テキスト	フォントの記述を示します。

OPT の欄に 1 を指定してから、実行キーを押すことができます。これで前の画面へ戻ります。

線

線要素を指定するには、まずカーソルを線の開始位置に移動し、F9 キーを押して線要素を定義してください。開始位置にマーク %Lnnn (nnn は 001 から 999) が表示されます。

カーソルを線要素の終了位置に移動し、再度 F9 キーを押します。

するとキー入力域がイメージ域の下部に現れます。カーソルによって指定した開始および終了位置が表示されます。イメージ域に線イメージも表示されて、イメージ域の開始位置と終了位置を示します。

線要素を変更する場合は、カーソルを移動して線のマークに合わせ、F14 (変更) キーを押してください。するとキー入力域がイメージ域の下部に現れます。

```

                                オーバーレイの設計          桁:          1- 74
制御 . . . _____ ソース・オーバーレイ . . . . STATIONERY
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002
003
004
005          %L002 -----
006
007
008
009
010
011
012
                                                    続く ...

                                線の定義
マーク . . . . . : *L002          測定方式 . . . . . : 行/桁
開始位置 . . . . . 左右          19      上下      5
終了位置 . . . . . 左右          50      上下      5

F3= 終了          F4= 詳細          F6= 測定方式の変更
F12= 取り消し     F24= キーの続き

```

次の表は、上記の各フィールドについての説明です。

フィールド名	説明
制御	<p>次のコマンドの一つをこのフィールドに入力し、実行キーを押せば、リスト・ビューのウィンドウを移動することができます。</p> <p>-n 逆方向 イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最上行の方へ n 行移動する。</p> <p>+n 正方向 イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最下行の方へ n 行移動する。</p> <p>W-n 左 イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最初の桁の方へ n 桁移動する。</p> <p>W+n 右 イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最後の桁の方へ n 桁移動する。</p> <p>n イメージ域が n 行目へ移動する。</p> <p>Wn イメージ域が n 桁目へ移動する。</p> <p>*TOP イメージ域が一番上の行に移動する。</p> <p>*BOT イメージ域が一番下の行に移動する。</p>
マーク	このフィールドには要素マークが表示されます。システム割り当てのマークかユーザー割り当ての名前のいずれかになります。
測定方式	このフィールドには、位置を指定するのに使用される測定方式が表示されます。このフィールドは、F6 キーを押すことによって変更することができます。

フィールド名	説明
開始位置	位置パラメーターは左右の値と上下の値とで構成されます。これらの値は、定義する要素の横方向と縦方向の開始位置を指定します。
終了位置	位置パラメーターは左右の値と上下の値とで構成されます。これらの値は、定義する要素の横方向と縦方向の終了位置を指定します。

パラメーターを指定したら、実行キー、F3 キー、F12 キーのいずれかを押してください。パラメーターの続きを指定する場合は、F4 キーを押してください。

F4 キーを押すと次の画面が表示されるので、そこに示されている特性を指定することができます。

線明細の定義

マーク: *L002 測定方式: 行/桁

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

開始桁:		
左右	19	1-999
上下	<u>5</u>	1-999
終了桁:		
左右	50	1-999
上下	<u>5</u>	1-999
要素		名前
線の種類	<u>1</u>	1= 実線, 2= 破線, 3= 点線
線の幅	<u>*MEDIUM</u>	*NARROW, *MEDIUM, *WIDE
		0.00-1.00
線の挿入	<u>1</u>	1= 中央, 2= 縁

終わり

F3= 終了 F5= 最新表示 F6= 測定方式の変更 F12= 取り消し

次の表は、上記の各フィールドについての説明です。

フィールド名	説明
マーク	要素マークを示します。 マークは、システム割り当てのマークか、ユーザー割り当ての名前のいずれかであり、画面に表示されるものと同じです。マークは長さが 6 文字で、最初の文字はアスタリスク (*), 最後の文字はブランクです。 中間の 4 文字は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> システム割り当てのマークの場合は、中間の 4 文字は要素タイプを示す 1 文字の後に、3 桁のシーケンス番号が続きます。 線要素では、要素タイプは L で、シーケンス番号は 001 から 999 です。 ユーザー割り当ての名前の場合は、中間の 4 文字は要素名の値として指定した 4 文字です。
測定方式	位置を指定するのに使用される測定方式を示します。この値は、F6 を押して変更することができます。「オーバーレイ仕様の定義」画面または「PFD 仕様の定義」画面で単位を指定することによって、測定単位としてセンチメートルまたはインチを選択することもできます。
開始位置	位置パラメーターは左右の値と上下の値とで構成されます。これらの値は、定義する要素の横方向と縦方向の開始位置を指定します。

フィールド名	説明
終了位置	位置パラメーターは左右の値と上下の値とで構成されます。これらの値は、定義する要素の横方向と縦方向の終了位置を指定します。
要素	正規の線要素マーク (*L001 など) の代わりにイメージ域に表示される、要素名を指定します。省略時の値はブランクで、正規の要素マークが表示されます。
線の種類	印刷装置で枠を描くのに使用される線の種類を指定します。 1 実線 — 2 破線 ----- 3 点線
線の幅	省略時の値は 1 (実線) です。 印刷装置で線を描くのに使用される線の幅を指定します。 *NARROW 1/120 インチ *MEDIUM 1/60 インチ *WIDE 1/40 インチ n 仕様に指定されている単位がインチの場合は、n は 0.00 ~ 1.00 であり、それ以外の場合は、n は 0.00 ~ 2.54 です。
線の挿入	線の挿入を指定します。このパラメーターが使用されるのは、測定方式が行/桁の場合だけです。 1 中央 線は文字セルの中央に描かれます。 2 縁 横線は文字セルの上側に描かれます。縦線は文字セルの左側に描かれます。 省略時の値は 1 (中央) です。

パラメーターを指定したら、実行キー、F3 キー、F12 キーのいずれかを押ししてください。「設計」画面が表示されます。

枠

枠要素の定義の場合に対角点を指定して F10 キーを押すか、あるいは枠要素の変更するには F14 キーを押すと、次の画面が表示されます。

実行キーを押すと、オーバーレイ・ユーティリティーおよび印刷形式ユーティリティーによって、入力したパラメーターの妥当性が検査されます。エラーがない場合は、操作が完了し、キー入力域が画面から消えます。

オーバーレイの設計 桁: 1- 74

制御 . . . _____ ソース・オーバーレイ . . . STATIONERY
 *...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...

```

001
002
003
004  %B002 -----+
005  : :
006  : :
007  : :
008  : :
009  : :
010  +-----+
011
012

```

続く ...

枠の定義

マーク : *B002	測定方式 : 行/桁
開始位置 左右	5 上下 4
終了位置 左右	<u>60</u> 上下 <u>10</u>

F3= 終了 F4= 詳細 F6= 測定方式の変更
 F12= 取り消し F24= キーの続き

次の表は、上記の各フィールドについての説明です。

フィールド名	説明
制御	<p>次のコマンドの一つをこのフィールドに入力し、実行キーを押せば、リスト・ビューのウィンドウを移動することができます。</p> <p>-n 逆方向</p> <p>イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最上行の方へ n 行移動する。</p> <p>+n 正方向</p> <p>イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最下行の方へ n 行移動する。</p> <p>W-n 左</p> <p>イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最初の桁の方へ n 桁移動する。</p> <p>W+n 右</p> <p>イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最後の桁の方へ n 桁移動する。</p> <p>n イメージ域が n 行目へ移動する。</p> <p>Wn イメージ域が n 桁目へ移動する。</p> <p>*TOP イメージ域が一番上の行に移動する。</p> <p>*BOT イメージ域が一番下の行に移動する。</p>
マーク	このフィールドには要素マークが表示されます。システム割り当てのマークかユーザー割り当ての名前のいずれかになります。
測定方式	このフィールドには、位置を指定するのに使用される測定方式が表示されます。このフィールドは、F6 キーを押すことによって変更することができます。

フィールド名	説明
開始位置	位置パラメーターは左右の値と上下の値とで構成されます。これらの値は、定義する要素の横方向と縦方向の開始位置を指定します。
終了位置	位置パラメーターは左右の値と上下の値とで構成されます。これらの値は、定義する要素の横方向と縦方向の終了位置を指定します。

パラメーターを指定したら、実行キー、F3 キー、F12 キーのいずれかを押すか、パラメーターの続きを指定する場合は、F4 キーを押してください。

F4 キーを押すと、次の画面が表示されます。そこで、枠要素の明細を指定することができます。たとえば、線の種類、線の幅、線の挿入、陰影パターン、および陰影タイプをこの画面で指定することができます。

枠明細の定義

マーク: *B002 測定方式: 行/桁

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

開始桁:		
左右	5	1-999
上下	4	1-999
終了桁:		
左右	60	1-999
上下	10	1-999
要素	—	名前
線の種類	1	1= 実線, 2= 破線, 3= 点線
線の幅	*MEDIUM	*NARROW, *MEDIUM, *WIDE 0.00-1.00
線の挿入	1	1= 中央, 2= 縁

続く . . .

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F6= 測定方式の変更 F12= 取り消し

「次ページ」キーを押して、「枠明細の定義」画面の続きのページを表示してください。

枠明細の定義

マーク: *B002 測定方式: 行/桁

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

陰影:		
パターン	—	1= 標準, 2= 画面
タイプ	*MEDIUM	*LIGHT, *MEDIUM, *DARK *HIGHLIGHT, 0.01-100.00 (%)
テキスト:		
テキスト・データ	_____	

続く . . .

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F6= 測定方式の変更 F12= 取り消し

「次ページ」キーを押して、「枠明細の定義」画面の続きのページを表示してください。

枠明細の定義		
マーク :	*B002	測定方式 : 行/桁
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
テキスト :		
形式	<u>1</u>	1= 左右, 2= 上下
配置 :		
横方向	<u>1</u>	1= 左, 2= 中央, 3= 右 4= 平均
縦方向	<u>1</u>	1= 最上, 2= 中央, 3= 最下
回転の角度	<u>0</u>	0, 90, 180, 270
カラー	<u>*DEFAULT</u>	*DEFAULT, 1= 青, 2= 赤 3= マジェンタ色, 4= 緑, 5= シアン 6= 黄色, 7= 茶色, 8= 黒
下線	<u>N</u>	Y=YES, N=NO
重ね打ち		文字
フォント	<u>*DEFAULT</u>	*DEFAULT, 1-8, リストは F4 続く ...
F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F6= 測定方式の変更 F12= 取り消し		

「次ページ」キーを押して、「枠明細の定義」画面の続きのページを表示してください。

枠明細の定義		
マーク :	*B002	測定方式 : 行/桁
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
文字スペーシング:		
横方向	<u>*CPI</u>	*CPI, 5.00, 10.00, 12.00, 13.30 15.00, 16.70, 18.00, 20.00
縦方向	<u>*LPI</u>	*LPI, 3.00, 4.00, 6.00, 7.50 8.00, 9.00, 12.00.
終わり		
F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F6= 測定方式の変更 F12= 取り消し		

次の表は、上記の各フィールドについての説明です。

フィールド名	説明
マーク	<p>要素マークを示します。 マークは、システム割り当てのマークか、ユーザー割り当ての名前のいずれかであり、画面に表示されるものと同じです。マークは長さが 6 文字で、最初の文字はアスタリスク (*)、最後の文字はブランクです。 中間の 4 文字は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> システム割り当てのマークの場合は、中間の 4 文字は要素タイプを示す 1 文字の後に、3 桁のシーケンス番号が続きます。 枠要素では、要素タイプは B で、シーケンス番号は 001 から 999 です。 ユーザー割り当ての名前の場合は、中間の 4 文字は要素名の値として指定した 4 文字です。
測定方式	<p>位置を指定するのに使用される測定方式を示します。この値は、F6 を押して変更することができます。「オーバーレイ仕様の定義」画面で測定単位を指定することによって、測定単位としてセンチメートルまたはインチを選択することができます。</p>
開始位置	<p>位置パラメーターは左右の値と上下の値とで構成されます。 これらの値は、定義する要素の横方向と縦方向の開始位置を指定します。</p>
終了位置	<p>位置パラメーターは左右の値と上下の値とで構成されます。 これらの値は、定義する要素の横方向と縦方向の終了位置を指定します。</p>
要素	<p>要素名は 1 から 4 文字の長さです。ある要素について要素名が指定された (ブランクではない) 場合は、要素マークはアスタリスク (*) の後にその要素名が続いた形で表示されます。アスタリスク (*) の後に要素タイプと 3 桁のシーケンス番号が続く形ではありません。要素名を指定します。</p>
線の種類	<p>印刷装置で枠を描くのに使用される線の種類を指定します。</p> <p>1 実線 ___</p> <p>2 破線 - - - - -</p> <p>3 点線 </p>
線の幅	<p>省略時の値は 1 (実線) です。</p> <p>印刷装置で枠を描くのに使用される線の幅を指定します。</p> <p>*NARROW 1/120 インチ</p> <p>*MEDIUM 1/60 インチ</p> <p>*WIDE 1/40 インチ</p> <p>n 仕様に指定されている単位がインチの場合は、n は 0.00 ~ 1.00 であり、それ以外の場合は、n は 0.00 ~ 2.54 です。</p> <p>このパラメーターに 0 を指定した場合は、枠の中のテキストが様式設定され、枠は印刷されません。 枠の中のテキストの測定方式が行／桁の場合は、線の挿入パラメーターに従って様式設定されます。</p>

フィールド名	説明
線の挿入	<p>枠を描くのに使用される線の挿入を指定します。このパラメーターが使用されるのは、測定方式が行／桁の場合だけです。</p> <p>1 中央 線は文字セルの中央に引かれます。</p> <p>2 縁 上横線は文字セルの上側に引かれ、下横線は文字セルの下側に引かれます。左縦線は文字セルの左側に引かれ、右縦線は文字セルの右側に引かれます。</p>
陰影パターン	<p>省略時の値は 1 (中央) です。</p> <p>枠に陰影を付けるのに使用されるパターンを指定します。</p> <p>1= 標準 標準の陰影パターンが使用されます。</p> <p>2= スクリーン スクリーン陰影パターンが使用されます。</p> <p>陰影パターンの例については、493 ページの『枠内の陰影パターン』を参照してください。</p>
陰影タイプ	<p>何も指定しない場合は、枠に陰影はつきません。</p> <p>陰影パターン のプロンプトに指定がされた場合に、陰影のタイプを指定します。</p> <p>*LIGHT 黒が 24% で、白が 76% です。</p> <p>*MEDIUM 黒が 48% で、白が 52% です。</p> <p>*DARK 黒が 72% で、白が 28% です。</p> <p>*HIGHLIGHT 陰影域は、カラーで強調表示されます。使用するカラーは印刷装置の強調表示カラーですが、カラーに陰影を付けて濃淡を出すことができます。「枠明細の定義」パネルが再度表示されて、パーセント・カラーおよびパーセント黒の入力を受け入れることができます。2 つのパーセント値の合計が、100 % を超えることはできません。カラー強調表示をサポートする印刷装置グループの場合、あるいは印刷装置のタイプが *DEFAULT で「印刷装置属性の確認または変更」パネルのカラー陰影 に Y (YES) を選択した場合に選択できるのは、*HIGHLIGHT のみです。陰影タイプ に *HIGHLIGHT が選択されると、陰影パターン は、常に 1 (標準) に設定されます。</p> <p>n 枠には黒が n% の陰影が付けられます。ただし、n は 0.01 ~ 100.00 です。</p> <p>省略時の値は *MEDIUM です。陰影パターン のプロンプトが指定されなかった場合は、陰影タイプ が *HIGHLIGHT のときを除いて、このプロンプトは無視されます。</p> <p>陰影パターンの例については、493 ページの『枠内の陰影パターン』を参照してください。</p>

フィールド名	説明
テキスト・データ	<p data-bbox="691 237 1458 401">このフィールドにはテキスト・データを指定します。テキスト・データとして指定できる長さの最大は 203 バイトです。長さが 203 バイトを超えるテキスト・データを入力または更新する必要がある場合は、複数の枠要素として、またはテキスト要素として指定しなければなりません。</p> <p data-bbox="691 436 1458 600">印刷出力形式定義 (PFD 定義) のレコード・レイアウトの場合は、"&<フィールド名>" として可変データ・フィールドに入力することができます。カーソルをテキスト・データのプロンプトに合わせ、F4 キーを押すことによって、フィールドのリストを表示し、フィールドの 1 つを選択することができます。</p> <p data-bbox="691 636 1458 758">レコード・レイアウトおよびページ・レイアウトの中に予約可変データを指定すること、およびページ・レイアウトの中に合計データを指定することもできます。詳細については、159 ページの『第 10 章 PFD 定義の処理』を参照してください。</p> <p data-bbox="691 793 1458 888">枠要素の中のテキスト・データとして、2 行以上の行数のテキストを指定することができます。様式 およびテキストの挿入 のプロンプトに指定された値に応じて、それらは様式設定されます。</p> <p data-bbox="691 924 1458 1018">複数行のテキストを指定するには、次に示すように、各テキスト行をアポストロフィで囲み、2 つのアポストロフィの間に 1 文字またはそれ以上の空白を入れる必要があります。</p> <pre data-bbox="727 1033 857 1060">'ABC' 'DEF'</pre> <p data-bbox="691 1087 1458 1115">この場合は、1 行目が ABC で、2 行目が DEF であるという意味です。</p> <p data-bbox="691 1150 1458 1245">複数行のテキストの中にあるアポストロフィ (') を指定するには、次のように、1 つのアポストロフィにつき 2 つのアポストロフィを指定してください。</p> <pre data-bbox="727 1260 1263 1312">'Tom''s cap' 'Jane''s car' ---> Tom's cap Jane's car</pre>

フィールド名	説明
様式	<p>テキストの印刷方向を指定します。次の値のいずれか一つを指定してください。</p> <p>右左 文字は左から右へ印刷されます。</p> <p>上下 文字は上から下へ縦に印刷されます。縦方向のテキスト行は左から右へ印刷されます。</p> <p>上下、右から左 文字は上から下へ縦に印刷されます。縦方向のテキスト行は、日本語古来の様式設定にならって、右から左へ印刷されます。この選択項目が表示されるのは、DBCS ファイルを使用している場合です。このオプションはシステムが DBCS 処理可能でない場合は表示されません。</p> <p>様式の例については、293 ページまたは 477 ページの『付録 B. 枠内の回転、様式、および陰影パターン』を参照してください。</p> <p>注:</p> <ol style="list-style-type: none"> すべての印刷装置が上下様式をサポートしているわけではありません。印刷装置で縦方向様式が使用できない場合は、2 (上下) および 3 (上下、右から左) を入力することはできません。 「2=上下」、および「3=上下、右から左」を使用する場合は、次のことに注意しなければなりません。 <ul style="list-style-type: none"> 印刷装置タイプが 1 の場合は、これらの様式を使用することはできない。 印刷装置タイプが 2 または 3 の場合は、フォントのタイプ 2 または 3 を指定しなければなりません。 印刷装置タイプがそれ以外の場合は、制約はありません。
テキストの挿入: 左右	<p>枠の中でのテキストの位置付けを指定します。</p> <p>1 (左) テキストの行はすべて左そろえになります。</p> <p>2 (中央) 次の 2 つのスペースの幅が同じになります。 <ul style="list-style-type: none"> 枠の左縦線とテキストの最初の文字の間のスペース 枠の右縦線とテキストの最後の文字の間のスペース </p> <p>3 (右) テキストの行はすべて右そろえになります。</p> <p>4 (平均) 各文字と枠の両縦線の間のスペースがすべて同じ幅になります。これが指定できるのは、様式 が左右の場合だけです。</p> <p>省略時の値は 1 (左) です。</p> <p>例については、477 ページの『付録 B. 枠内の回転、様式、および陰影パターン』を参照してください。</p>

フィールド名	説明
テキストの挿入: 上 下	<p>枠の中でのテキストの位置付けを指定します。</p> <p>1 (最上) テキストの最初の行が枠の上横線のすぐ下に位置指定されます。</p> <p>2 (中央) 次の 2 つのスペースの間隔が同じになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 枠の上横線とテキストの最初の行の間のスペース • 枠の下横線とテキストの最後の行の間のスペース <p>3 (最下) テキストの最後の行が枠の下横線のすぐ上に位置指定されます。</p> <p>4 (平均) 各文字と枠の両縦線間のスペースがすべて同じ幅になります。これが指定できるのは、様式 が上下の場合だけです。</p> <p>省略時の値は 1 (最上) です。</p>
回転の角度	<p>例については、477 ページの『付録 B. 枠内の回転、様式、および陰影パターン』を参照してください。</p> <p>テキストの回転の角度をオーバーレイ、ページ・レイアウト、またはレコード・レイアウトから時計まわりに測定した角度で指定します。省略時の値は 0 です。</p>
カラー	<p>例については、477 ページの『付録 B. 枠内の回転、様式、および陰影パターン』を参照してください。</p> <p>テキストを印刷するのに使用する色を指定します。省略時の値は *DEFAULT です。これは印刷装置の省略時のカラーです。</p> <p>注:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. すべての印刷装置でカラー印刷機能がサポートされているわけではありません。印刷装置でカラー印刷がサポートされていない場合は、カラー のプロンプトに値を入れることはできません。 2. 選択したカラーが印刷装置でサポートされていない場合は、エラーが起こるか、あるいはこのテキストの印刷に省略時のカラーが使用されます。印刷装置でサポートされているカラーをよく調べてください。

フィールド名	説明
下線	<p>テキストに下線を付けて印刷するかどうかを指定します。</p> <p>Y (YES) 下線が印刷されます。</p> <p>N (NO) 下線は印刷されません。</p> <p>下線はテキスト・データ (先頭のブランク文字、および文字間にブランクが存在している場合はそれも含む) の始めから開始されます。下線はテキスト・データの終わりで停止します。</p> <p>注:</p> <ol style="list-style-type: none"> すべての印刷装置でこの機能がサポートされているわけではありません。印刷装置でこの機能がサポートされていない場合は、この値を入力することはできません。 下線を使用する場合は、以下に注意しなければなりません。 <ul style="list-style-type: none"> 印刷装置タイプが 4、5、または 6 の場合は、フォントのタイプ 1 または 3 を指定しなければなりません。 印刷装置タイプがそれ以外の場合は、制約はありません。
重ね打ち	<p>重ね打ちのプロンプトに SBCS 文字を 1 文字指定すると、定義したテキスト・データの中の文字が、ブランク文字 (複数の場合もある) も含めて、すべて重ね打ちされます。テキストに DBCS 文字が存在している場合は、その DBCS 文字は重ね打ちされません。</p> <p>注:</p> <ol style="list-style-type: none"> すべての印刷装置でこの機能がサポートされているわけではありません。印刷装置でこの機能がサポートされていない場合は、この値を入力することはできません。 重ね打ちを使用する場合は、次のことに注意しなければなりません。 <ul style="list-style-type: none"> 印刷装置タイプが 4、5、または 6 の場合は、フォントのタイプ 1 または 3 を指定しなければなりません。 印刷装置タイプがそれ以外の場合は、制約はありません。
フォント	<p>フォント番号を指定します。フォント番号は 1~8、および *DEFAULT です。各番号または *DEFAULT は「ソース・オーバーレイ・フォントの処理」画面または「PFD 定義フォントの処理」画面で定義されます。このフィールドにカーソルを合わせ、F4 キーを押すことによって、フォント・リストを表示し、いずれかのフォントを選択することができます。詳細については、277 ページを参照してください。</p> <p>注:</p> <ol style="list-style-type: none"> 指定したフォントがあるかどうか、しかもそれが SBCS フォントであるかどうかは検査されません。指定したフォントが存在しない場合は、このテキストの印刷時にエラーが起こることがあります。DBCS フォントを指定した場合は、結果は予測できません。予想外の文字が印刷されることもあれば、エラーが起こることもあります。 *DEFAULT は印刷装置の省略時フォントを使用することを意味していません。*DEFAULT が希望のものとは異なっている場合は、「ソース・オーバーレイ・フォントの処理」画面または「PFD 定義フォントの処理」画面でそれを変更してください。

フィールド名	説明
DBCS フォント	<p>フォント番号を指定します。フォント番号は 1 ～ 8 であり、各番号は「ソース・オーバーレイ・フォントの処理」画面または「PFD 定義フォントの処理」画面で定義されます。このフィールドにカーソルを合わせ、F4 キーを押すことによって、フォント・リストを表示し、いずれかのフォントを選択することができます。詳細については、277 ページを参照してください。</p>
文字間隔 (左右)	<p>注: 指定したフォントがあるかどうか、しかもそれが DBCS フォントであるかどうかは検査されません。指定したフォントが存在しない場合は、このテキストの印刷時にエラーが起こることがあります。SBCS フォントを指定した場合は、結果は予測できません。予想外の文字が印刷されることもあれば、エラーが起こることもあります。</p> <p>枠要素の中でテキスト・データの文字が占める横方向のスペースを計算するために、左右 プロンプトに指定されたデータが使用されます。</p> <p>測定方法が行/桁の場合には、*CPI、5.00、10.00、12.00、13.30、15.00、16.70、18.00 または 20.00 を指定してください。</p> <p>測定方法がインチの場合には、*CPI または 0.01 から 22.75 までのインチ単位の値を指定してください。</p> <p>測定方法がセンチメートルの場合には、*CPI または 0.01 から 57.79 までのセンチメートル単位の値を指定してください。</p> <p>省略時値は *CPI で、「オーバーレイ仕様の定義」画面または「PFD 仕様の定義」画面上の文字/インチの値と同じです。</p> <p>左右 プロンプトに指定された値は、SBCS フォントにのみ適用されません。DBCS フォントの文字スペース・サイズは、iSeries システム上のフォント資源から出されます。したがって、テキスト・データに DBCS データが含まれていて、オーバーレイの作成時またはデータベース・ファイル・メンバーの印刷時に、フォント資源にアクセスできない場合には、枠内のテキスト・データの形式が正しくない場合があります。</p>

フィールド名	説明
文字間隔 (上下)	<p data-bbox="662 237 1414 300">上下 プロンプトで指定されたデータは、枠要素を占めるテキスト・データの文字の縦方向スペースの計算に使用されます。</p> <p data-bbox="662 331 1414 394">測定方法が行/桁の場合には、*LPI、3.00、4.00、6.00、7.50、8.00、9.00、または 12.00 を指定してください。</p> <p data-bbox="662 426 1414 489">測定方法がインチの場合には、*LPI または 0.01 から 22.75 までのインチ単位の値を指定してください。</p> <p data-bbox="662 520 1414 583">測定方法がセンチメートルの場合には、*LPI または 0.01 から 57.79 までのセンチメートル単位の値を指定してください。</p> <p data-bbox="662 615 1414 678">省略時値は *LPI で、「オーバーレイ仕様の定義」画面または「PFD仕様の定義」画面の行/インチ単位の値と同じです。</p> <p data-bbox="662 709 1414 926">上下 プロンプトに指定された値は、SBCS フォントにのみ適用されません。DBCS フォントの文字スペース・サイズは、iSeries システム上のフォント資源から出されます。したがって、テキスト・データに DBCS データが含まれていて、オーバーレイの作成時またはデータベース・ファイル・メンバーの印刷時に、フォント資源にアクセスできない場合には、枠内のテキスト・データの形式が正しくない場合があります。</p>

様式設定例:

表 58. 様式設定例
左右

文字は左から右へ印刷されます。次に例を示してあります。

```
-----  
| 1 行目  
| 2 行目  
| 3 行目  
|  
-----
```

上下

文字は上から下へ縦に印刷されます。縦方向のテキスト行は左から右へ印刷されます。次に例を示してあります。

```
-----  
| 一 二 三  
| 行 行 行  
| 目 目 目  
|  
-----
```

上下、右から左

文字は上から下へ縦に印刷されます。縦方向のテキスト行は、日本語古来の様式設定にならって、右から左へ印刷されます。テキストが 1 行しかないときには、上下と同じ意味になります。この選択項目が表示されるのは、DBCS データを使用する場合です。次に例を示してあります。

```
-----  
| 三 二 一  
| 行 行 行  
| 目 目 目  
|  
-----
```

「枠明細の定義」画面で、選択項目を入力し、パラメーターを指定し終わったら、実行キー、F3 キー、F12 キーのいずれかを押してください。「設計」画面が表示されます。

バーコード

F11 (バーコード) キーを押せば、バーコードの定義操作を開始することができ、カーソルをバーコード要素マークに合わせて、F14 キーを押せば、バーコードの変更操作を開始することができます。次に示すように、イメージ域の下部に置き換わり、キー入力域が表示されます。

		オーバーレイの設計		桁:	1- 74
制御 . . .	_____	ソース・オーバーレイ	STATIONERY		
		*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...			
001					
002					
003					
004	%C002				
005					
006					
007					
008					
009					
010					
011					
012					
					続く ...
バーコードの定義					
マーク	*C002	測定方式	行/桁		
位置	左右	10	上下	4	バーコード・タイプ
バーコード・データ . . .					
F3= 終了 F4= 詳細 F6= 測定方式の変更					
F12= 取り消し F24= キーの続き					

次の表は、上記の各フィールドについての説明です。

フィールド名	説明
制御	次のコマンドの一つをこのフィールドに入力し、実行キーを押せば、リスト・ビューのウィンドウを移動することができます。
-n	逆方向 イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最上行の方へ n 行移動する。
+n	正方向 イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最下行の方へ n 行移動する。
W-n	左 イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最初の桁の方へ n 桁移動する。
W+n	右 イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最後の桁の方へ n 桁移動する。
n	イメージ域が n 行目へ移動する。
Wn	イメージ域が n 桁目へ移動する。
*TOP	イメージ域が一番上の行に移動する。
*BOT	イメージ域が一番下の行に移動する。

フィールド名	説明
マーク	このフィールドには要素マークが表示されます。システム割り当てのマークかユーザー割り当ての名前のいずれかになります。
測定方式	このフィールドには、位置を指定するのに使用される測定方式が表示されます。このフィールドは、F6 キーを押すことによって変更することができます。
位置	位置パラメーターは左右の値と上下の値とで構成されます。これらの値は、定義する要素の横方向および縦方向の位置を指定するものです。
バーコード・タイプ	このフィールドには、バーコードのタイプを指定し、バージョンが適用される場合には、それも含めて指定します。使用できるバーコード・タイプは次のとおりです。
タイプ 説明	
1	3-of-9 code, MHI/AIM USD-3
2	MSI
3	UPC/CGPC-バージョン A
4	UPC/CGPC-バージョン E
5	EAN-8 (JAN-short を含む)
6	EAN-13 (JAN-standard を含む)
7	2-of-5 Industrial
8	2-of-5 Matrix
9	Interleaved 2-of-5 (MHI/AIM USD-1)
10	Codabar (MHI/AIM USD-4).
11	Code128 (AIM USS-128)
12	POSTNET (Postal Numeric Encoding Technique)
13	RM4SCC (Royal Mail Bar Code)
14	JPBC (日本郵政バーコード)
15	Australian Postal

フィールド名	説明
バーコード・データ	<p>一連の文字またはデータの長さが有効であるかどうかは、バーコード・タイプによって決まります。</p> <p>このフィールドにバーコード・データを入力するか、またはこのフィールドに表示されている以前に入力したバーコード・データを更新することができます。入力できるバーコードの長さは最大 58 文字です。58 文字を超えるバーコード・データを入力する必要がある場合には、F4 (詳細) キーを押して「バーコード明細の定義」画面に入ってください。</p> <p>以前に定義したバーコード・データが 58 文字よりも長い場合には、このフィールドの終わりに 3 つのピリオド (...) が表示されます。これは、バーコード・データに続きがあるという意味です。</p> <p>実行キーを押すと、入力したパラメーターの妥当性が検査されます。入力したパラメーターが有効の場合は、定義または変更が行われます。こうしてバーコードの定義操作が完了すると、キー入力域が画面から消えます。</p> <p>入力したデータがバーコード仕様に一致しない場合は、エラー・メッセージが画面の最下部に表示され、データ・フィールド・イメージが反転表示され、操作は行われません。詳細については、301 ページを参照してください。</p>

パラメーターを指定したら、実行キー、F3 キー、F12 キーのいずれかを押してください。パラメーターの続きを指定する場合は、F4 キーを押してください。

F4 キーを押すと、次の画面が表示されます。バーコード要素の明細を指定することができます。

注: 「バーコード明細の変更」画面の内容は、バーコード・タイプによって異なり、どのタイプのバーコードの場合も以下のプロンプトがすべて画面に表示されるわけではありません。

バーコード明細の定義

マーク : *C002 測定方式 : 行/桁

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

位置 :		
左右	10	1-999
上下	4	1-999
バーコード・タイプ	3	1=CODE30F9, 2=MSI, 3=UPC-A
		4=UPC-E, 5=EAN-8, 6=EAN-13
		7=INDUST25, 8=MATRIX25
		9=INTERL25, 10=CODABAR
		11=CODE128, 12=POSTNET
		13=RM4SCC, 14=JPBC
		15= オーストラリア郵便

バーコード・データ 12345678901

要素 名前

続く ...

F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F6= 測定方式の変更 F12= 取り消し

「次ページ」キーを押して、「バーコード明細の定義」画面の続きのページを表示してください。

バーコード明細の定義

マーク : *C002

測定方式 : 行/桁

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

文字の補足	<u>0</u>	0, 2, 5
オフセット:		
左右	<u> </u>	番号
回転の角度	<u>0</u>	0, 90, 180, 270
カラー	<u>*DEFAULT</u>	*DEFAULT, 1= 青, 2= 赤 3= マジェンタ色, 4= 緑, 5= シ アン 6= 黄色, 7= 茶色, 8= 黒
検査数字	<u>N</u>	Y=YES, N=NO
HRI	<u>3</u>	1= 下, 2= 上, 3= NO
HRI アスタリスク	<u>N</u>	Y=YES, N=NO
HRI フォント	<u>*DEFAULT</u>	*DEFAULT, 1-8, リストは F4
モジュールの幅	<u>*DEFAULT</u>	*DEFAULT, 0.001-0.254
要素の高さ	<u>*DEFAULT</u>	*DEFAULT, 0.01-22.75
広幅/狭幅比	<u>*DEFAULT</u>	*DEFAULT, 2.00-3.00

終わり

F3= 終了 F4=7°入力 F5= 最新表示 F6= 測定方式の変更 F12= 取り消し

次の表は、上記の各フィールドについての説明です。

フィールド名	説明																														
マーク	<p>要素マークを示します。 マークは、システム割り当てのマークか、ユーザー割り当ての名前のいずれかであり、画面に表示されるものと同じです。マークは長さが 6 文字で、最初の文字はアスタリスク (*)、最後の文字はブランクです。 中間の 4 文字は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> システム割り当てのマークの場合は、中間の 4 文字は要素タイプを示す 1 文字の後に、3 桁のシーケンス番号が続きます。 バルコード要素では、要素タイプは C で、シーケンス番号は 001 から 999 です。 ユーザー割り当ての名前の場合は、中間の 4 文字は要素名の値として指定した 4 文字です。 																														
測定方式	<p>位置を指定するのに使用する測定方式を示します。この値は、F6 を押し変更することができます。「オーバーレイ仕様の定義」画面または「PFD 仕様の定義」画面で単位を指定することによって、測定単位としてセンチメートルまたはインチを選択することもできます。</p>																														
位置	<p>左右および上下の位置を指定します。</p>																														
バーコード・タイプ	<p>バーコードの名前を指定し、バージョンが適用される場合には、それも含めて指定します。 バルコード・タイプは次のとおりです。</p> <p>タイプ 説明</p> <table border="0"> <tr><td>1</td><td>3-of-9 code, MHI/AIM USD-3</td></tr> <tr><td>2</td><td>MSI</td></tr> <tr><td>3</td><td>UPC/CGPC-バージョン A</td></tr> <tr><td>4</td><td>UPC/CGPC-バージョン E</td></tr> <tr><td>5</td><td>EAN-8 (JAN-short を含む)</td></tr> <tr><td>6</td><td>EAN-13 (JAN-standard を含む)</td></tr> <tr><td>7</td><td>2-of-5 Industrial</td></tr> <tr><td>8</td><td>2-of-5 Matrix</td></tr> <tr><td>9</td><td>Interleaved 2-of-5 (MHI/AIM USD-1)</td></tr> <tr><td>10</td><td>Codabar (MHI/AIM USD-4)</td></tr> <tr><td>11</td><td>Code128 (MIM USS-128)</td></tr> <tr><td>12</td><td>POSTNET (Postal Numeric Encoding Technique)</td></tr> <tr><td>13</td><td>RM4SCC (Royal Mail Bar Code)</td></tr> <tr><td>14</td><td>JPBC (日本郵政バーコード)</td></tr> <tr><td>15</td><td>AUSTRALIAN POSTAL</td></tr> </table> <p>注: すべての印刷装置がすべてのバーコードをサポートしているわけではありません。</p>	1	3-of-9 code, MHI/AIM USD-3	2	MSI	3	UPC/CGPC-バージョン A	4	UPC/CGPC-バージョン E	5	EAN-8 (JAN-short を含む)	6	EAN-13 (JAN-standard を含む)	7	2-of-5 Industrial	8	2-of-5 Matrix	9	Interleaved 2-of-5 (MHI/AIM USD-1)	10	Codabar (MHI/AIM USD-4)	11	Code128 (MIM USS-128)	12	POSTNET (Postal Numeric Encoding Technique)	13	RM4SCC (Royal Mail Bar Code)	14	JPBC (日本郵政バーコード)	15	AUSTRALIAN POSTAL
1	3-of-9 code, MHI/AIM USD-3																														
2	MSI																														
3	UPC/CGPC-バージョン A																														
4	UPC/CGPC-バージョン E																														
5	EAN-8 (JAN-short を含む)																														
6	EAN-13 (JAN-standard を含む)																														
7	2-of-5 Industrial																														
8	2-of-5 Matrix																														
9	Interleaved 2-of-5 (MHI/AIM USD-1)																														
10	Codabar (MHI/AIM USD-4)																														
11	Code128 (MIM USS-128)																														
12	POSTNET (Postal Numeric Encoding Technique)																														
13	RM4SCC (Royal Mail Bar Code)																														
14	JPBC (日本郵政バーコード)																														
15	AUSTRALIAN POSTAL																														
バーコード・データ	<p>このフィールドにはバーコード・データを指定します。詳細については、301 ページを参照してください。</p>																														
要素	<p>このフィールドには、正規のバーコード・マークに代ってイメージ域に表示される要素名を指定します。 省略時の値はブランクで、正規の要素マークが表示されます。</p>																														
文字の補足	<p>文字の補足を指定します。0、2、または 5 のいずれか 1 つを文字の補足として指定することができます。 補足がサポートされるのは、タイプ 3、4、または 6 だけです。</p>																														

フィールド名	説明
オフセット	<p>バーコードの開始位置からの補足文字の開始位置のオフセットを、オーバーレイ仕様または PFD 仕様の中で指定されている測定単位で指定します。</p> <p>省略時の値は、印刷装置タイプによって異なります。このプロンプトをブランクのままにしておくと、印刷装置タイプの省略時の値が使用されます。</p>
POSTNET タイプ	<p>このプロンプトは、バーコード・タイプとして POSTNET が指定されている場合に表示されます。これは、POSTNET の記号タイプを指定するものです。バーコード・データの有効な長さは、この値によって決まります。使用できるタイプは次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ZIP コード (5 桁) 2 ZIP+4 (9 桁) 3 拡張バーコード (11 桁) 4 可変長データ (100 桁まで)
回転の角度	<p>省略時の値 = 1</p> <p>オーバーレイ、ページ・レイアウト、またはレコード・レイアウトから時計まわりに測定した角度で、バーコード記号の回転の角度を指定します。省略時の値は 0 です。</p>
カラー	<p>このフィールドには、バーコード記号および HRI のカラーを指定します。省略時の値は *DEFAULT で、印刷装置の省略時の値になります。</p> <p>注:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. すべての印刷装置でカラー印刷機能がサポートされているわけではありません。印刷装置でカラー印刷がサポートされていない場合は、カラーのプロンプトに値を入力することはできません。 2. 印刷装置がサポートしていないカラーを選択すると、エラーが生じるか、またはこのバーコードを印刷する際に省略時のカラーが使用されます。印刷装置でサポートされているカラーをよく調べてください。 3. *DEFAULT および 8= 黒以外の値を使用する場合は、以下に注意してください。 <ul style="list-style-type: none"> • 印刷装置タイプは 1 または 9 でなければならず、しかもその印刷装置は指定したカラーを印刷できなければなりません。
検査数字	<p>このフィールドには、使用する検査数字アルゴリズムを指定します。指定できる値はバーコード・タイプによって異なります。詳細については、304 ページを参照してください。</p>
HRI	<p>このフィールドには、可読文字 (HRI) を挿入する場所を指定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 HRI をバーコード記号の下に挿入する。 2 HRI をバーコード記号の上に挿入する。 3 HRI を挿入しない。 <p>注: バーコード・タイプによっては、この値は印刷装置で無視されます。たとえば、</p> <ul style="list-style-type: none"> • HRI の位置を 1 種類しかサポートしていないバーコード・タイプの場合。 • HRI が必要なバーコード・タイプの場合。

フィールド名	説明
HRI アスタリスク	<p>このフィールドは、アスタリスクを印刷するかどうかということを指定します。</p> <p>Y 3-of-9 code の場合に、開始バーと停止バーおよびスペース・パターンとして、アスタリスクが HRI の中に印刷されます。</p> <p>N 3-of-9 code の場合に、開始バーと停止バーおよびスペース・パターンとして、アスタリスクが HRI の中に印刷されることはありません。</p>
HRI フォント	<p>省略時の値は N です。</p> <p>フォント番号が 1~8 の HRI フォントを指定することができます。その番号に使用される実際のフォントは、「ソース・オーバーレイ・フォントの処理」画面または「PFD 定義フォントの処理」画面で定義されたものです。省略時値は *DEFAULT で、バーコードをサポートする印刷装置タイプを指定した場合は、その印刷装置の省略時値が指定されます。バーコード・オブジェクト・コンテンツ体系をサポートしない印刷装置タイプの場合には、以下のコード・ページと文字セットが *DEFAULT に使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Code128 <ul style="list-style-type: none"> コード・ページ T1V10500 文字セット C0S0CR10 • UPCA、UPCE、EAN8、EAN13 <ul style="list-style-type: none"> コード・ページ T1V10500 文字セット C0L00BOA • その他 (POSTNET を除く) <ul style="list-style-type: none"> コード・ページ T1V10500 文字セット C0L00AOA
モジュールの幅	<p>モジュールの幅を指定します。モジュールとは、最小の定義バーコード寸法のことです。</p> <p>このプロンプトに指定することができる値は *DEFAULT、もしくはオーバーレイ仕様または PFD 仕様に指定されている測定単位による数です。指定できる値の範囲は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0.001 ~ 0.254 (インチ) • 0.003 ~ 0.645 (センチメートル) <p>指定できるモジュールの幅の範囲は、バーコード・タイプとアプリケーションによって異なります。省略時の値は *DEFAULT です。</p>

フィールド名	説明
要素の高さ	<p>記号バーおよびスペース要素の高さを指定します。指定できる値は *DEFAULT、もしくはオーバーレイ仕様または PFD 仕様に指定されている測定単位による数です。指定できる値の範囲は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0.01 ~ 22.75 (インチ) • 0.01 ~ 57.79 (センチメートル) <p>UPC、CGPC、EAN および JAN バーコード・タイプの場合は、記号の高さの合計にはバーおよびスペースのパターンと HRI も含まれます。省略時の値は *DEFAULT です。</p>
広幅 / 狭幅比	<p>サイズの異なる要素が 2 つしかない場合のバーコードの広幅要素の寸法と狭幅要素の寸法との比を指定します。この広幅/狭幅比は UPC および EAN コードには適用されません。MSI の場合の比は常に 2.00 であり、このプロンプトに指定された値は関係しません。このプロンプトをブランクのままにしておいた場合は、印刷装置の省略時の値 *DEFAULT が使用されます。</p>

パラメーターを指定したら、実行キー、F3 キー、F12 キーのいずれかを押してください。「設計」画面が表示されます。

バーコード・データ: 以下にバーコード・データ のプロンプトについて詳細に説明します。指定できる文字とデータ長のセットは、バーコード・タイプによって異なります。

印刷出力形式定義 (PFD 定義) のレコード・レイアウトの場合は、"<フィールド名>" として可変データ・フィールドに入力することができます。カーソルをバーコード・データ のプロンプトに合わせ、F4 キーを押すことによって、フィールドのリストを表示し、フィールドの 1 つを選択することができます。次に各バーコード・タイプごとに指定できる文字およびデータ長を示します。

- 3-of-9 code, MHI/AIM USD-3

次の文字が指定できます。

```
0123456789
ABCDEFGHIJKLMN
OPQRSTUVWXYZ
-.$/+% blank
```

可能なデータの長さは 100 文字までです。後書きスペースを追加したい場合には、次のようにデータをアポストロフィで囲んでください。

```
'ABC      '
  |_____|
  |_____| 後書きスペース
```

- MSI

次の文字が指定できます。

```
0123456789
```

データの長さは、検査数字がない場合は 15 文字まで、検査数字が 1 桁の場合は 14 文字まで、また、検査数字が 2 桁の場合は 13 文字まで可能です。検査数字は、バーコード明細の定義操作の中で指定してください。省略時の値は検査数字なしです。

- UPC/CGPC-バージョン A

次の文字が指定できます。

0123456789

データの長さは 11、13、または 16 文字です。最初の 1 桁は数体系の数字です。次の 10 桁は商品番号数字です。データの長さが 13 文字の場合は、最後の 2 桁は UPC 2 文字補足と解釈されます。データの長さが 16 文字の場合は、最後の 5 桁は UPC 5 文字補足と解釈されます。

- UPC/CGPC-バージョン E

次の文字が指定できます。

0123456789

データの長さは 10、12、または 15 文字です。印刷装置は最初の 10 桁から検査数字とバーコード化する 6 文字を生成します。検査数字はバーコード化されません。検査数字は、バーコード化する 6 文字に奇数または偶数パリティを割り当てるためだけのものです。

データの長さが 12 文字の場合は、最後の 2 桁は UPC 2 文字補足と解釈されます。データの長さが 15 文字の場合は、最後の 5 桁は UPC 5 文字補足と解釈されます。

- EAN-8 (JAN-short を含む)

次の文字が指定できます。

0123456789

データの長さは 7 文字です。

- EAN-13 (JAN-standard を含む)

次の文字が指定できます。

0123456789

データの長さは 12、14、または 17 文字です。最初の 2 桁はフラグ・ディジットです。次の 10 桁は商品識別数字です。1 桁目のフラグ・ディジットはバーコード化されません。2 桁目のフラグ・ディジット、および商品識別数字と印刷装置で生成される検査数字はバーコード化されます。

データの長さが 14 文字の場合は、最後の 2 桁は EAN 2 桁付加と解釈されます。データの長さが 17 文字の場合には、最後の 5 桁は EAN 5 桁付加と解釈されます。

- 2-of-5 industrial

次の文字が指定できます。

0123456789

可能なデータの長さは 100 文字までです。

- 2-of-5 matrix

次の文字が指定できます。

0123456789

可能なデータの長さは 100 文字までです。

- Interleaved 2-of-5 (MHI/AIM USD-1)

次の文字が指定できます。

0123456789

可能なデータの長さは 100 文字までです。

- Codabar (MHI/AIM USD-4)

次の文字が指定できます。

0123456789

-\$:/.+ABCD

可能なデータの長さは 100 文字までです。文字 A、B、C、および D は、開始および停止区切り文字のみに使用するようになっています。

- CODE128

ASCII の 128 個の文字セットの値はすべて有効であり、データの長さは可変です。

- POSTNET

次の文字が指定できます。

0123456789

指定できる POSTNET タイプは次のとおりです。

表 59. POSTNET タイプ

1	ZIP コード (最大長は 5 桁)
2	ZIP+4 (9 桁)
3	拡張バーコード (11 桁)
4	可変長データ (100 桁まで)

- RM4SCC

次の文字が指定できます。

0123456789

ABCDEFGHIJKLMNPOQRSTUVWXYZ

データに使用できる長さは、5 から 12 文字です。

Royal Mail Bar Code (RM4SCC) は次の 4 つの部分から構成されます。すなわち、国際接頭部 (International Prefix) (オプション)、外部コード (Outward Code) (必要)、内部コード (Inward Code) (必要)、および配達地点接尾部 (Delivery Point Suffix) (オプション) です。

国際接頭部 (International Prefix) が使用される場合は、3 桁の数字が入ります。

外部コード (Outward Code) には、A を英字、N を数字とする、以下の 7 つのうちのいずれかの形式を取る 2 桁から 4 桁の文字が入ります。

ANA
AAN
AANN
AANA
AN
ANN
AAA

内部コード (Inward Code) には、1桁の数字とその後に2文字の英字が入りません。

配達地点接尾部 (Delivery Point Suffix) が使用される場合は、1桁の数字とその後に C、I、K、M、O、および V 以外の1文字の英字が入ります。

- JPBC

次の文字が指定できます。

```
0123456789  
ABCDEFGHIJKLMN  
OPQRSTUVWXYZ  
-
```

データに使用できる長さは、7 から 50 文字です。

JPBC バーコード・データに関する追加情報については、「バーコードの定義」画面または「バーコードの変更」画面の「バーコード・データ」のプロンプトにカーソルを置いてヘルプ・キーを押してください。規則の全体については、「Japan Postal Bar Code Command Specifications」を参照してください。

- Australian Postal

次の文字が指定できます。

```
012346789  
# スペース  
ABCDEFGHIJKLMN  
OPQRSTUVWXYZ  
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
```

AFP ユーティリティーは、オーストラリア郵便 (Australian Postal) 用に次の4つのカスタマー・バーコード構造をサポートしています。

標準カスタマー・バーコード (Standard Customer Bar Code)

37本のバーで、カスタマー情報用のバーはありません。データの長さは10です。

返信料付き (Reply Paid) 郵便バーコード

37本のバーで、カスタマー情報用のバーはありません。データの長さは10です。

カスタマー・バーコード (Customer Bar Code) 2

52本のバーで、カスタマー情報用に16本のバーがあります。データの長さは10～18です。

カスタマー・バーコード (Customer Bar Code) 3

67本のバーで、カスタマー情報用に31本のバーがあります。データの長さは10～25です。

注: Australian Postal バーコード・データに関する追加情報については、「バーコードの定義」画面または「バーコードの変更」画面の「バーコード・データ」のプロンプトにカーソルを置いてヘルプ・キーを押してください。

検査数字: 次に検査数字のプロンプトについて詳細に説明します。

- 3-of-9 code, 2-of-5 Industrial, 2-of-5 Matrix, Interleaved 2-of-5, Codabar.

Y 検査文字を生成し、それをバーコードとともに印刷します。
N 印刷装置生成の検査文字を付けずにバーコードを印刷します。

省略時の値は N です。

- MSI

1 印刷装置で生成された IBM modulo-10 検査数字を付けてバーコードを印刷し、この検査数字はデータの終わりに置きます。IBM modulo-10 検査数字は 2 番目の検査数字になります。

2 印刷装置で生成された検査数字を両方とも付けてバーコードを印刷し、それらの検査数字はデータの終わりに置きます。1 番目および 2 番目の検査数字は IBM modulo-10 です。

3 印刷装置で生成された検査数字を両方とも付けてバーコードを印刷し、それらの検査数字はデータの終わりに置きます。1 番目の検査数字は NCR modulo-11 です。2 番目の検査数字は IBM modulo-10 です。残りが検査数字に等しくなります。10 という検査数字はエラーです。

4 印刷装置で生成された検査数字を両方とも付けてバーコードを印刷し、それらの検査数字はデータの終わりに置きます。1 番目の検査数字は IBM modulo-11 です。2 番目の検査数字は IBM modulo-10 です。残りが検査数字に等しくなります。10 という検査数字はエラーです。

5 印刷装置で生成された検査数字を両方とも付けてバーコードを印刷し、それらの検査数字はデータの終わりに置きます。1 番目の検査数字は NCR modulo-11 です。2 番目の検査数字は IBM modulo-10 です。11 から引いた残りが検査数字に等しくなります。検査数字 10 は 0 になります。

6 印刷装置で生成された検査数字を両方とも付けてバーコードを印刷し、それらの検査数字はデータの終わりに置きます。1 番目の検査数字は IBM modulo-11 です。2 番目の検査数字は IBM modulo-10 です。11 から引いた残りが検査数字に等しくなります。検査数字 10 は 0 になります。

7 印刷装置で生成された検査数字を両方とも付けてバーコードを印刷し、それらの検査数字はデータの終わりに置きます。1 番目の検査数字は NCR modulo-11 です。2 番目の検査数字は IBM modulo-10 です。11 から引いた残りが検査数字に等しくなります。10 という検査数字はエラーです。

8 印刷装置で生成された検査数字を両方とも付けてバーコードを印刷し、それらの検査数字はデータの終わりに置きます。1 番目の検査数字は IBM modulo-11 です。2 番目の検査数字は IBM modulo-10 です。11 から引いた残りが検査数字に等しくなります。10 という検査数字はエラーです。

N 印刷装置生成の検査文字を付けずにバーコードを印刷します。

省略時の値は N です。

- その他

その他のバーコード・タイプの場合は、このプロンプトは無視されます。省略時の値はありません。

ページ・セグメント

注: 印刷装置によっては、(ページ・セグメントの) IOCA イメージをサポートしていないものもあります。詳細については、*IBM Printing Systems: Printer Information*、S544-5750 を参照してください。AFP ユーティリティーは IOCA 機能セット 10 のみをサポートします。

オーバーレイの中でページ・セグメントを指定するには、まずページ・セグメントの開始位置にカーソルを移動してから、F13 (挿入) キーを押してください。次の画面が表示されます。

```
                   オーバーレイの設計           桁:           1- 74
制御 . . . _____ ソース・オーバーレイ . . . STATIONERY
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002
003
004          %
005
006
007
008
009
010
011
012
013
014
015
016
017
                                         続く ...
-----
F3= 終了           F6= グラフィックス挿入   F9= ページ・セグメント挿入
F12= 取り消し     F24= キーの続き
グラフィックスまたはページ・セグメントを入れるためには、F6 または F9 キーを
押してください。
```

F9 キーを押して、ページ・セグメントの挿入を選択してください。すると、次の画面のように、% マークが %Snnn (nnn は 001 から 999 までの値) に変わり、キー入力域がイメージ域の下部に表示されます。


```

          オーバーレイの設計          桁:          1- 74
制御 . . . _____ ソース・オーバーレイ . . . . STATIONERY
          *...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002
003
004          %S003
005
006
007
008
009
010
011
012
                                          続く ...
          ページ・セグメントの挿入
マーク . . . . . : *S003          測定方式 . . . . . : 行/桁
位置 . . . . . : 左右          10          上下          4
ページ・セグメント _____ 名前

F3= 終了          F4= 詳細          F6= 測定方式の変更
F12= 取り消し    F24= キーの続き

```

次の表は、上記の各フィールドについての説明です。

フィールド名	説明
制御	<p>次のコマンドの一つをこのフィールドに入力し、実行キーを押せば、リスト・ビューのウィンドウを移動することができます。</p> <p>-n 逆方向 イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最上行の方へ n 行移動する。</p> <p>+n 正方向 イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最下行の方へ n 行移動する。</p> <p>W-n 左 イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最初の桁の方へ n 桁移動する。</p> <p>W+n 右 イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最後の桁の方へ n 桁移動する。</p> <p>n イメージ域が n 行目へ移動する。</p> <p>Wn イメージ域が n 桁目へ移動する。</p> <p>*TOP イメージ域が一番上の行に移動する。</p> <p>*BOT イメージ域が一番下の行に移動する。</p>
マーク	このフィールドには要素マークが表示されます。システム割り当てのマークかユーザー割り当ての名前のいずれかになります。
測定方式	このフィールドには、位置を指定するのに使用される測定方式が表示されます。このフィールドは、F6 キーを押すことによって変更することができます。

フィールド名	説明
位置	位置パラメーターは左右の値と上下の値とで構成されます。これらの値は、定義する要素の横方向および縦方向の位置を指定するものです。
ページ・セグメント	望みのページ・セグメントの名前を入力する必要があります。次に実行キーを押して、ページ・セグメントの挿入操作を完了してください。

パラメーターを指定したら、実行キー、F3 キー、F12 キーのいずれかを押すか、パラメーターの続きを指定する場合は、F4 キーを押してください。

F4 キーを押すと、次の画面が表示されます。次の画面でページ・セグメント名を入力し、操作を完了することもできますが、ページ・セグメントのフィールドで F4 キーを押して、ページ・セグメントのリストを表示することもできます。

注: この時点ではページ・セグメントが存在しなくてもかまわないため、オーバーレイ・ユーティリティーおよび印刷形式ユーティリティーは、指定したページ・セグメントが資源ライブラリーにあるかどうかの検証は行いません。詳細については、445 ページの『ページ・セグメント』および 449 ページの『ページ・セグメント』を参照してください。

ページ・セグメント明細の挿入

マーク: *S003 測定方式: 行/桁

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

位置:			
左右	10		1-999
上下	4		1-999
ページ・セグメント			名前、リストは F4
要素			名前

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F6= 測定方式の変更 F12= 取り消し

ページ・セグメント名が指定されていない。

次の表は、上記の各フィールドについての説明です。

フィールド名	説明
マーク	要素マークを示します。 マークは、システム割り当てのマークか、ユーザー割り当ての名前のいずれかであり、画面に表示されるものと同じです。マークは長さが 6 文字で、最初の文字はアスタリスク (*) で、最後の文字はブランクです。 中間の 4 文字は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">システム割り当てのマークの場合は、中間の 4 文字は要素タイプを示す 1 文字の後に、3 桁のシーケンス番号が続きます。 ページ・セグメント要素では、要素タイプは S で、シーケンス番号は 001 から 999 です。ユーザー割り当ての名前の場合は、中間の 4 文字は要素名の値として指定した 4 文字です。
測定方式	位置を指定するのに使用する測定方式を示します。この値は、F6 を押して変更することができます。「オーバーレイ仕様の定義」画面または「PFD 仕様の定義」画面で単位を指定することによって、測定単位としてセンチメートルまたはインチを選択することもできます。
位置	このフィールドには、ページ・セグメント要素の横方向 (左右) および縦方向 (上下) の位置を指定します。
ページ・セグメント	ページ・セグメント名を指定します。カーソルをこのフィールドに置いて F4 キーを押すと、次の画面が表示されます。 <ul style="list-style-type: none">レコード・レイアウトを設計する場合は、「レコード様式のフィールドの選択」画面でデータベース・ファイルのフィールド・リストから可変のデータ・フィールド名を選択します。ここで F11 キーを押して「ページ・セグメントの選択」画面を表示し、リストから既存のページ・セグメント・オブジェクトを選択します。オーバーレイまたはページ・レイアウトを設計している場合は、「ページ・セグメントの選択」画面が表示されるので、リストから既存のページ・セグメント・オブジェクトを選択します。 次の操作については、下記の「ページ・セグメントの選択」を参照してください。
要素	正規のページ・セグメント要素マーク (*S003 など) の代りにイメージ域に表示される要素名を指定します。省略時の値はブランクで、正規の要素マークが表示されます。

パラメーターを指定したら、実行キー、F3 キー、F12 キーのいずれかを押してください。「設計」画面が表示されます。

ページ・セグメントの選択: レコード・レイアウトを設計する場合は、「レコード様式のフィールドの選択」画面でデータベース・ファイルのフィールド・リストから可変のデータ・フィールド名を選択します。可変フィールド名が選択されると、フィールドの内容は、ページ・セグメント名として置換されるか、「マッピング・オブジェクト名の指定」機能によってページ・セグメント名にマップされます。

レコード様式のフィールドの選択

データベース・ファイル . . . : MLTFMT
ライブラリー : SENDAI
レコード様式 : MLTFMT

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1= 選択

OPT	フィールド	長さ	タイプ	テキスト
-	AREA	8	C	製品開発区域
-	PRICE	3	P	製品価格
-	PRODC	12	C	製品名
-	SIZE	4	P	サイズ

終わり

F5= 最新表示 F11= オブジェクトの選択 F12= 取り消し

ここで F11 キーを押して「ページ・セグメントの選択」画面を表示し、リストから既存のページ・セグメント・オブジェクトを選択します。

オーバーレイまたはページ・レイアウトを設計している場合に、「ページ・セグメント明細の挿入」画面でカーソルをページ・セグメント プロンプトに置いて F4 (詳細) キーを押すと、次の画面が表示されるので、そこでページ・セグメント名を選択してください。 次の画面で、OPT の欄に 1 と入力し、実行キーを押すことによって、ページ・セグメント名を選択することができます。

ページ・セグメントの選択

位置指定 _____ 開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1= 選択

OPT	ページ セグメント	ライブラリー	テキスト
-	BEAR	QGPL	bear

終わり

F5= 最新表示 F12= 取り消し

「ページ・セグメントの選択」画面には、ライブラリー・リストのライブラリーに入っているページ・セグメントのリストが表示されます。 ページ・セグメント の欄の隣の OPT の欄に 1 と入力し、実行キーを押すことによって、ページ・セグメントを選択することができます。

注: ライブラリー名は渡されないので、ページ・セグメントがこのライブラリーから取り出されるとは限りません。スプール・ファイルを作成したときのライブラリー・リストの内容により決まります。詳細については、445 ページの『ページ・セグメント』および 449 ページの『ページ・セグメント』を参照してください。

表 60. 「ページ・セグメントの選択」画面のフィールド

フィールド名	説明
位置指定	このプロンプトを使用して、リスト内の特定の区域に進みます。リストのサブセットを作成するためではなく、リストの位置を変更するために使用してください。次の中から選択してください。 *TOP リストの最上部に進みます。 *BOT リストの最下部に進みます。 名前または部分名 リストの中の進みたい先の名前または部分名を指定します。リストは、指定したストリングで始まる最初の名前に位置指定されます。
1 = 選択	ソース・オーバーレイまたは印刷出力形式定義 (PFD 定義) で使用するページ・セグメントを指定します。
Opt	1 を指定すると、ページ・セグメントが選択されます。
ページ・セグメント	ページ・セグメント名を示します。
ライブラリー	ページ・セグメントが存在するライブラリー名を示します。
テキスト	ページ・セグメントの記述を示します。

変数ページ・セグメントの指定: レコード・レイアウトの中で可変ページ・セグメントを指定することができます。詳細については、211 ページの『マッピング・オブジェクト名の指定』を参照してください。

グラフィックス

注: 印刷装置によっては、グラフィックスをサポートしていないものもあります。詳細については、*IBM Printing Systems: Printer Information*, S544-5750 を参照してください。

オーバーレイのグラフィック要素を指定するために、まずカーソルをグラフィック要素の開始位置に動かしてから、F13 (挿入) を押してください。次の画面が表示されます。

```

                オーバーレイの設計                桁:      1- 74
制御  . . . _____ ソース・オーバーレイ . . . . STATIONERY
          *...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002
003
004          %
005
006
007
008
009
010
011
012
013
014
015
016
017
                                                    続く ...
F3= 終了      F6= グラフィックス挿入   F9= ページ・セグメント挿入
F12= 取り消し  F24= キーの続き
グラフィックスまたはページ・セグメントを入れるためには、F6 または F9 キーを
押してください。

```

グラフィックの挿入を選択するために F6 キーを押します。% が次のように %Gnnn (nnn は 001 から 999) に変わります。

```

                オーバーレイの設計                桁 :   1- 74
制御  . . . _____ ソース・オーバーレイ . STATIONERY
          *...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002
003
004          %G003
005
006
007
008
009
010
011
012
013
014
015
016
017
                                                    続く ...
F3= 終了      F5= 最新表示   F6= グラフィックス挿入   F12= 取り消し
F15= マークオン/オフ  F16= 遮蔽   F19= 左   F20= 右
グラフィックス・ブロックの反対の隅を指定して、F6 キーを押してください。

```

カーソルをグラフィック域の右下角に動かしサイズを決定し、次に F6 キーを再度押します。次の画面に示されるように、キー入力域がイメージ域の下部に表示されます。

```

                                オーバーレイの設計          桁： 1- 74
制御 . . . _____ ソース・オーバーレイ . STATIONERY
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002
003
004      %G003 -----+
005      :                               :
006      :                               :
007      :                               :
008      :                               :
                                続く ...
-----
                                グラフィックスの挿入
マーク . . . . . : *G003      測定方式 . . . . . : 行/桁
開始位置 . . . . 左右      10      上下      4
終了位置 . . . . 左右      41      上下      14
ソース・オブジェクト・タイプ . _      1=PC 文書, 2= ファイル

F3= 終了      F5= 最新表示      F6= 測定方式の変更      F16= 遮蔽
F12= 取り消し      F15= マーク・オン/オフ      F19= 左      F20= 右

```

ソース・オブジェクト・タイプとして「2= ファイル」を指定すると、次の画面が表示されます。

```

                                オーバーレイの設計          桁： 1- 74
制御 . . . _____ ソース・オーバーレイ . . . . STATIONERY
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002
003
004      %G003 -----+
005      :                               :
006      :                               :
007      :                               :
008      :                               :
                                続く ...
-----
                                グラフィックスの挿入
マーク . . . . . : *G003      測定方式 . . . . . : 行/桁
開始位置 . . . . 左右      10      上下      4
終了位置 . . . . 左右      41      上下      14
ソース・オブジェクト・タイプ 2      1=PC 文書, 2= ファイル
ファイル . . . . . _____ 名前
ライブラリー . . . . *LIBL _____ 名前, *LIBL, *CURLIB
メンバー . . . . . *FIRST _____ 名前, *FIRST

F3= 終了      F4= 詳細      F6= 測定方式の変更
F12= 取り消し      F24= キーの続き

```

次の表は、これらの画面の各フィールドについて説明します。

フィールド名	説明
制御	<p>次のコマンドの一つをこのフィールドに入力し、実行キーを押せば、リスト・ビューのウィンドウを移動することができます。</p> <p>-n 逆方向 イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最上行の方へ n 行移動する。</p> <p>+n 正方向 イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最下行の方へ n 行移動する。</p> <p>W-n 左 イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最初の桁の方へ n 桁移動する。</p> <p>W+n 右 イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最後の桁の方へ n 桁移動する。</p> <p>n イメージ域が n 行目へ移動する。</p> <p>Wn イメージ域が n 桁目へ移動する。</p> <p>*TOP イメージ域が一番上の行に移動する。</p> <p>*BOT イメージ域が一番下の行に移動する。</p>
マーク	このフィールドには要素マークが表示されます。システム割り当てのマークかユーザー割り当ての名前のいずれかになります。
測定方式	このフィールドには、位置を指定するのに使用される測定方式が表示されます。このフィールドは、F6 キーを押すことによって変更することができます。
開始位置	開始位置パラメーターは、左右の値と上下の値とで構成されます。これらの値は、定義される要素の左上隅の横方向および縦方向位置を指定します。
終了位置	<p>終了位置パラメーターは、左右の値と上下の値とで構成されます。これらの値は、定義される要素の右下隅の横方向および縦方向位置を指定します。</p> <p>注: 開始位置および終了位置は、印刷されるグラフィック・データのサイズを決めます。グラフィック・データは、印刷時にこのサイズにマップされます。</p>
ソース・オブジェクト・タイプ	ソース・オブジェクト・タイプを指定するには、1 (PC 文書) または 2 (ファイル) を入力します。
フォルダー	PC 文書が入っているフォルダーの名前を指定します。
PC 文書	<p>グラフィック・データが入っている PC 文書名を指定します。</p> <p>注: ソース・オブジェクト・タイプとして、「1=PC 文書」が選択された場合は、フォルダーおよび PC 文書プロンプトは、ファイル、ライブラリー、およびメンバー・プロンプトを置き換えます。</p>
ファイル	メンバーが入っているファイル名を指定します。
ライブラリー	ファイルが入っているライブラリー名を指定します。
メンバー	グラフィック・データが入っているメンバー名を指定します。

パラメーターを指定したら実行キーを、パラメーターの続きを指定する場合は F4 キーを、操作を取り消す場合には F3 キーまたは F12 キーを押してください。

F4 キーを押すと、次の画面の 1 つが表示されます。以下の画面でデータを入力して操作を完了することもできるし、あるいは各フィールドで F4 キーを押して、フォルダー、PC 文書、ファイル、ライブラリー、またはメンバーのリストを表示させることもできます。

注: グラフィックスはこの時点では存在していなくてもかまわないので、オーバーレイ・ユーティリティーおよび印刷形式ユーティリティーは、指定した名前が資源ライブラリーにあるかどうかの検証は行いません。オーバーレイ作成時、またはデータベース・ファイルが PFD 定義で印刷される際にそれがチェックされます。ソース・オブジェクト・タイプとして「1= PC 文書」を指定して、次に F4 キーを押すと次の画面が表示されます。

グラフィックス明細の挿入		
マーク: *G003	測定方式:	行/桁
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
開始桁:		
左右	10	1-999
上下	4	1-999
終了桁:		
左右	41	1-999
上下	14	1-999
ソース・オブジェクト・タイプ	1	1= PC 文書, 2= ファイル
フォルダ		
<hr/>		名前
PC 文書		名前, リストは F4
要素		名前
回転の角度	0	0, 90, 180, 270
フォント	*DEFAULT	*DEFAULT, 1-8, リストは F4
終わり		
F3= 終了	F4= プロンプト	F5= 最新表示
F6= 測定方式の変更	F12= 取り消し	

ソース・オブジェクト・タイプとして「2= ファイル」を指定すると、次の画面が表示されます。

次の表は、これらの画面の各フィールドについて説明します。

フィールド名	説明
マーク	<p>要素マークを示します。 マークは、システム割り当てのマークか、ユーザー割り当ての名前のいずれかであり、画面に表示されるものと同じです。マークは長さが 6 文字で、最初の文字はアスタリスク (*) で、最後の文字は空白です。 中間の 4 文字は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> システム割り当てのマークの場合は、中間の 4 文字は要素タイプを示す 1 文字の後に、3 桁のシーケンス番号が続きます。 グラフィックス要素では、要素タイプは G で、シーケンス番号は 001 から 999 です。 ユーザー割り当ての名前の場合は、中間の 4 文字は要素名の値として指定した 4 文字です。
測定方式	<p>位置を指定するのに使用する測定方式を示します。この値は、F6 を押して変更することができます。「オーバーレイ仕様の定義」画面または「PFD 仕様の定義」画面で単位を指定することによって、測定単位としてセンチメートルまたはインチを選択することもできます。</p>
開始位置	<p>開始位置パラメーターは、左右の値と上下の値とで構成されます。これらの値は、定義される要素の左上隅の横方向および縦方向位置を指定します。</p>
終了位置	<p>終了位置パラメーターは、左右の値と上下の値とで構成されます。これらの値は、定義される要素の右下隅の横方向および縦方向位置を指定します。</p> <p>注: 開始位置および終了位置は、マップされるグラフィック・データのサイズを決めます。</p>
ソース・オブジェクト・タイプ フォルダー PC 文書 ファイル ライブラリー メンバー 要素	<p>ソース・オブジェクト・タイプを指定するには、1 (PC 文書) または 2 (ファイル) を入力します。</p> <p>PC 文書が入っているフォルダーの名前を指定します。</p> <p>グラフィック・データが入っている PC 文書名を指定します。</p> <p>メンバーが入っているファイル名を指定します。</p> <p>ファイルが入っているライブラリー名を指定します。</p> <p>グラフィック・データが入っているメンバー名を指定します。</p> <p>*G003 などの通常のグラフィックス要素マークの代りにイメージ域に表示される要素名を指定します。省略時の値は空白で、正規の要素マークが表示されます。</p>
回転の角度	<p>オーバーレイ、ページ・レイアウト、またはレコード・レイアウトから時計まわりに計測した角度でグラフィックスの回転角度を指定します。省略時の値は 0 です。</p>
フォント	<p>フォント番号を指定します。フォント番号は 1 から 8 または *DEFAULT を指定できます。各番号または *DEFAULT は「ソース・オーバーレイ・フォントの処理」画面または「PFD 定義フォントの処理」画面で定義されます。このフィールドにカーソルを合わせ、F4 キーを押すことによって、フォント・リストを表示し、いずれかのフォントを選択することができます。</p> <p>注: 指定したフォントがあるかどうか、しかもそれが SBCS フォントであるかどうかは検査されません。もし存在しないと、このグラフィックス要素が印刷されるときエラーが起こることがあります。DBCS フォントを指定した場合は、結果は予測できません。予想外の文字が印刷されることもあれば、エラーが起こることもあります。</p>

パラメーターを指定したら実行キーを、パラメーターの続きを指定する場合は F4 キーを、操作を取り消す場合には F3 キーまたは F12 キーを押してください。

レコード様式のフィールドの選択 (グラフィックス): 「グラフィックス明細の挿入」画面でカーソルがフォルダー、PC 文書、ライブラリー、ファイル またはメンバー のプロンプトにある場合に F4 (詳細) キーを押すと、次のようなことが起こります。

表 61. レコード様式のフィールドの選択 (グラフィックス)

	ソース・オーバーレイまたはページ・レイアウトを設計している場合	レコード・レイアウトを設計している場合
フォルダー	サポートしていない	「レコード様式のフィールドの選択」画面が表示されます。
PC 文書	指定フォルダーに存在している PC 文書のリストを表示している「文書選択」画面で、PC 文書を選択することができる。	「レコード様式のフィールドの選択」画面が表示される。F11 キーを押すと「文書選択」画面に切り替えることができる。戻るには、F11 キーを再度押します。
ファイル	指定したライブラリー内に入っているデータベース・ファイルのリストを表示する「データベース・ファイル選択」画面でデータベース・ファイルを選択することができる。	「レコード様式のフィールドの選択」画面が表示される。F11 キーを押すと、「データベース・ファイルの選択」画面に切り替えることができる。戻るには、F11 キーを再度押します。
ライブラリー	サポートしていない	「レコード様式のフィールドの選択」画面が表示される。
メンバー	指定したライブラリーおよびファイルに存在するメンバーのリストを表示する「データベース・ファイル・メンバーの選択」画面で、メンバーを選択することができる。	「レコード様式のフィールドの選択」画面が表示される。F11 キーを押して、「データベース・ファイル・メンバーの選択」画面に切り替えることができる。戻るには、F11 キーを再度押します。

レコード様式のフィールドの選択

データベース・ファイル . . . : MLTFMT
 ライブラリー : SENDAI
 レコード様式 : MLTFMT

オプションを入力して、実行キーを押してください。
 1= 選択

OPT	フィールド	長さ	タイプ	テキスト
-	AREA	8	C	製品開発区域
-	PRICE	3	P	製品価格
-	PRODCT	12	C	製品名
-	SIZE	4	P	サイズ

終わり

F5= 最新表示 F11= オブジェクトの選択 F12= 取り消し

可変グラフィックの指定: レコード・レイアウトにおいて可変グラフィック要素を指定できます。詳細については、211 ページの『マッピング・オブジェクト名の指定』を参照してください。

レコード・レイアウト

ページ・レイアウトの中でレコード・レイアウトを指定するには、まずカーソルをレコード・レイアウトの位置に移動してから、F13(挿入) キーを押してください。次の画面が表示されます。

```

                                     ページ・レイアウトの設計      桁:      1- 74
制御 . . . _____ PFD 定義 . . . . . PRODUCTLBL
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...

001
002
003
004
005      %
006
007
008
009
010
011
012
013
014
015
016
017

                                     続く ...
-----
F3= 終了      F6= グラフィックス挿入      F9= ページ・セグメント挿入
F11= レコード・レイアウト挿入      F12= 取り消し      F24= キーの続き
グラフィックス、ページ・セグメント、またはレコード・レイアウトの場合には、
F6、F9 または F11 キーを押してください。
```

F11 キーを押して、レコード・レイアウトの挿入を選択してください。すると、次の画面のように、% マークが %Rnnn-001 (nnn は 001 から 999) に変わり、キー入力域がイメージ域の下部に表示されます。

```

                                     ページ・レイアウトの設計      桁:      1- 74
制御 . . . _____ PFD 定義 . . . . . PRODUCTLBL
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...

001
002
003
004
005      %R001-001
006
007
008
009
010
011
012

                                     続く ...
-----
                                     レコード・レイアウトの挿入
マーク . . . . . : *R001      測定方式 . . . . . : 行/桁
位置 . . . . . 左右      5      上下      5

F3= 終了      F4= 詳細      F6= 測定方式の変更
F12= 取り消し      F24= キーの続き
```

次の表は、上記の各フィールドについての説明です。

フィールド名	説明
制御	<p>次のコマンドの一つをこのフィールドに入力し、実行キーを押せば、リスト・ビューのウィンドウを移動することができます。</p> <p>-n 逆方向 イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最上行の方へ n 行移動する。</p> <p>+n 正方向 イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最下行の方へ n 行移動する。</p> <p>W-n 左 イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最初の桁の方へ n 桁移動する。</p> <p>W+n 右 イメージ域がオーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトの最後の桁の方へ n 桁移動する。</p> <p>n イメージ域が n 行目へ移動する。</p> <p>Wn イメージ域が n 桁目へ移動する。</p> <p>*TOP イメージ域が一番上の行に移動する。</p> <p>*BOT イメージ域が一番下の行に移動する。</p>
マーク	このフィールドには要素マークが表示されます。システム割り当てのマークかユーザー割り当ての名前のいずれかになります。
測定方式	このフィールドには、位置を指定するのに使用される測定方式が表示されます。このフィールドは、F6 キーを押すことによって変更することができます。
位置	位置パラメーターは左右の値と上下の値とで構成されます。これらの値は、定義される要素の横方向および縦方向の位置を指定します。

パラメーターを指定したら、実行キー、F3 キー、F12 キーのいずれかを押すか、パラメーターの続きを指定する場合は、F4 キーを押してください。

F4 キーを押すと、次の画面が表示されます。

レコード・レイアウト明細の挿入

マーク: *R001 測定方式 : 行/桁

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

位置:			
左右	5		1-999
上下	5		1-999
要素			名前
方向	1		1= 左右, 2= 上下
反復:			
左右	1		1-99
上下	1		1-99
距離:			
左右	—		1-999
上下	—		1-999

F3= 終了 F5= 最新表示 F6= 測定方式の変更 F12= 取り消し

この画面では、挿入レコード要素の明細特性をさらに指定することができます。たとえば、方向、反復、および距離を指定することができます。

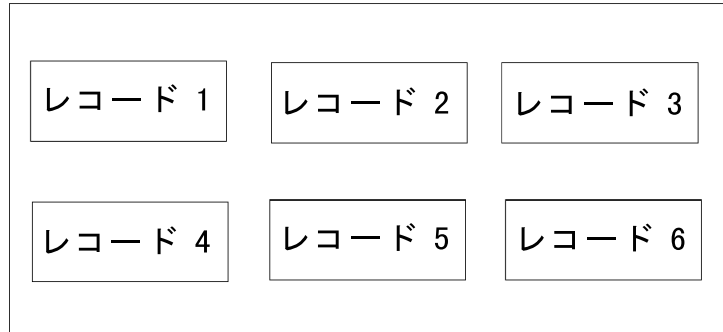
フィールド名 説明

マーク	<p>要素マークを示します。 マークは、システム割り当てのマークか、ユーザー割り当ての名前のいずれかであり、画面に表示されるものと同じです。マークは長さが 6 文字で、最初の文字はアスタリスク (*) で、最後の文字はブランクです。 中間の 4 文字は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> システム割り当てのマークの場合は、中間の 4 文字は要素タイプを示す 1 文字の後に、3 桁のシーケンス番号が続きます。 レコード要素では、要素タイプは R で、シーケンス番号は 001 から 999 です。 ユーザー割り当ての名前の場合は、中間の 4 文字は要素名の値として指定した 4 文字です。 <p>注: レコード・レイアウトは繰り返し挿入されることがあるため、ページ・レイアウト上に挿入されるときは、レコード・レイアウトのマークにはそれぞれ 001 から 999 の範囲の反復番号が付きます。</p>
測定方式	<p>位置を指定するのに使用する測定方式を示します。この値は、F6 を押して変更することができます。「PFD 仕様の定義」画面で測定単位を指定することによって、測定単位としてセンチメートルまたはインチを選択することもできます。</p>
位置 要素	<p>レコード・レイアウトの左右および上下の位置を指定します。 要素名は 1 から 4 文字の長さです。ある要素について要素名が指定された(ブランクではない) 場合は、要素マークはアスタリスク (*) の後にその要素名が続いた形で表示されます。</p>

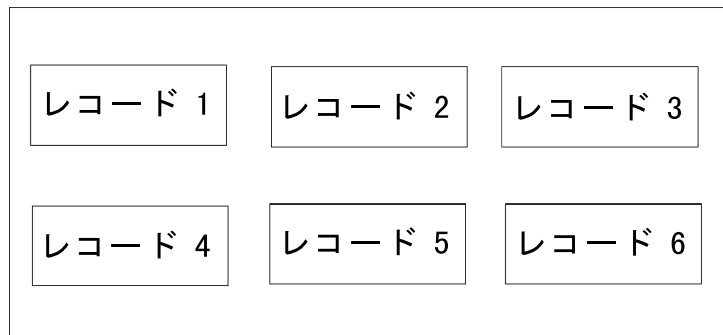
フィールド名	説明
--------	----

方向 レコードは 2 つの方向に繰り返すことができます。 方向としては、次のいずれかを選択してください。

- 1 左右 (まず左から右へ、ついで上から下へという順序) 次に例を示します。



- 2 上下 (まず上から下へ、ついで左から右へという順序) 次に例を示します。



左右反復	ページ上でレコードが横方向に繰り返される回数を指定します。
上下反復	ページ上でレコードが縦方向に繰り返される回数を指定します。
左右距離	レコード間の左右の間隔を指定します。
上下距離	レコード間の上下の間隔を指定します。

下の図は、ページ・レイアウトの中でのレコードの位置および間隔を示したものです。

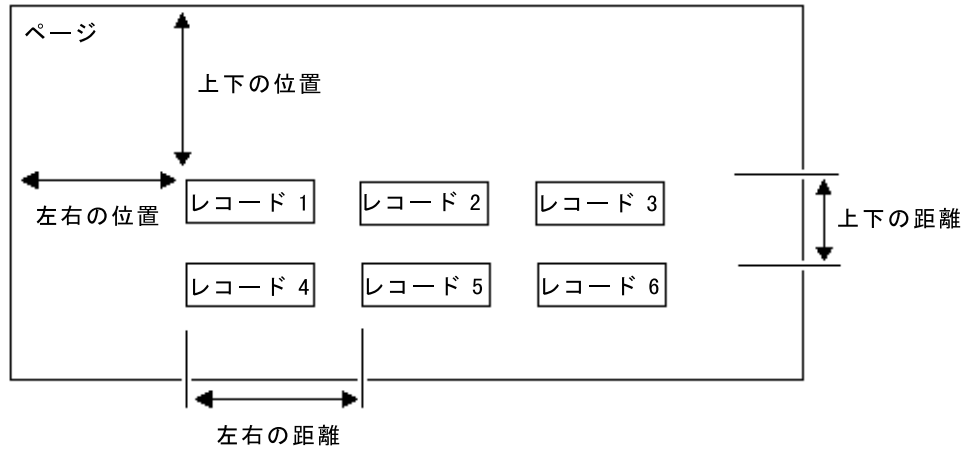


図 20. ページ・レイアウトの中でのレコードの位置および間隔

パラメーターを指定したら、実行キー、F3 キー、F12 キーのいずれかを押ししてください。設計画面へ戻ります。

既存の要素のコピー、移動、および除去

画面ビューでは、イメージ域で既存の要素をコピー、移動、または除去することができます。

要素編集

要素編集操作によって単一の要素をコピー、移動、または除去することができます。次の例は、要素をコピーする方法を示すものです。

ステップ 1. ウィンドウをスクロールして、編集したい要素を表示してください。

ステップ 2. 編集したい要素マークにカーソルを合わせてください。

ステップ 3. F21 キーを押して要素編集操作を開始してください。次の例では、要素編集を行う要素に *T001 が選択されています。次に示すように、アスタリスク (*) がソース要素を示すパーセント (%) に変わり、要素編集用の機能キーがイメージ域の下部に表示されます。

```

                                オーバーレイの設計          桁:      1- 74
制御  . . . _____ ソース・オーバーレイ . . . . . SAMPLE
          *...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002
003
004
005
006          %T001 S AN EXAMPLE.
007
008
009
010
011
012
013
014
015
016
017
                                                    続く ...
-----
F3= 終了      F6= コピー      F9= 移動      F10= 除去
F12= 取り消し F19= 左          F20= 右      F24= キーの続き
宛先を指定して、F6、F9、または F10 キーを押してください。

```

ステップ 4. 要素を除去するには、F10 を押してください。要素をコピーまたは移動するには、カーソルをコピー (または移動) する位置に動かしてください。必要に応じて、ページを戻すか進めて、画面の位置を決めてください。

ステップ 5. 要素をコピーもしくは移動する場合は、以下のいずれかの機能キーを押してください。

- コピー F6
- 移動 F9

要素のコピー、移動、除去が行われ、要素編集操作は完了します。

```

                                オーバーレイの設計          桁 :    1- 74
制御  . . . _____ ソース・オーバーレイ . SAMPLE
          *...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002
003
004
005
006          *T001 S AN EXAMPLE.
007
008
009          *T002 S AN EXAMPLE.
010
011
012
013
014
015
016
017
                                                    続く ...
-----
F3= 終了      F6= テキスト      F9= 線      F10= 枠
F11= バーコード F13= 挿入      F14= 変更      F24= キーの続き
          1つの要素がコピーされた。

```

ブロック編集

ブロック編集機能を使用すれば、長方形の区域内の複数の要素を一度にコピー、移動、または除去することができます。この機能を使用すれば、要素マークが表示されていない要素、または他の要素の下に隠蔽されている要素も編集することができます。次の例は、複数の要素をコピー、移動または除去する方法を示しています。

- ステップ 1. ウィンドウをスクロールして、編集したい要素を表示してください。
- ステップ 2. 編集したい要素が含まれている長方形の区域の一方の角にカーソルを合わせてください。
- ステップ 3. F22 キーを押してブロック編集操作を開始し、長方形の区域の一方の角を指定してください。 % 符号がカーソル位置に表示されます。

```
                   オーバーレイの設計           桁:      1- 74
制御  . . . _____ ソース・オーバーレイ . . . . SAMPLE
      *...+....1...+....2...+....3...+....4...+....5...+....6...+....7...
001
002
003
004
005          %
006          *T001 S AN EXAMPLE.
007
008
009          *T002 S AN EXAMPLE.
010
011
012
013
014
015
016
017
                                                    続く ...

F3= 終了      F5= 最新表示  F12= 取り消し  F15= マーク・オン/オフ
F16= 遮へい  F19= 左       F20= 右       F22= ブロック編集
ブロックの反対の隅を指定して、F22 キーを押してください。
```

- ステップ 4. 長方形の区域の反対側の角にカーソルを移動してください。必要ならばウィンドウをスクロールしてください。

注: 線、枠、およびグラフィックスはこの長方形の区域の中に完全に入っていないければなりません。要素タイプは、長方形の区域内に要素マークの開始位置 (開始位置部分) を持つだけでかまいません。

- ステップ 5. もう一度 F22 キーを押して、長方形の区域のもう一方の角を指定してください。その区域は等号 (=) で囲まれます。等号はどの要素の上にも重ね書きされます。 % マークはコピー、移動、または除去される区域の起点を示します。

```

                                オーバーレイの設計          桁:      1- 74
制御  . . . _____ ソース・オーバーレイ . . . . SAMPLE
          *...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002
003
004
005          %=*****
006          =*T001 S AN EXAMPLE.      =
007          =                          =
008          =                          =
009          =      *T002 S AN EXAMPLE.=
010          =====
011
012
013
014
015
016
017
                                                    続く ...
-----
F3= 終了      F6= コピー   F9= 移動   F10= 除去
F12= 取り消し F19= 左      F20= 右   F24= キーの続き
宛先を指定して、F6、F9、または F10 キーを押してください。

```

ステップ 6. 要素を除去するには、F10 を押してください。要素をコピーまたは移動するには、カーソルを、コピーまたは移動する区域の起点と同じ、宛先区域の左上角に移動してください。これは、長方形の区域に含まれていてもかまいません。必要ならばウィンドウをスクロールしてください。

ステップ 7. 長方形の区域内の要素をコピーもしくは移動する場合は、以下のいずれかの機能キーを押してください。

コピー F6
移動 F9

長方形の区域内の要素がコピー、移動、または除去されます。

F6 キーを押すと、次の画面が表示されます。

```
                   オーバーレイの設計                      桁 : 1- 74
制御 . . . _____ ソース・オーバーレイ . SAMPLE
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...
001
002
003
004
005
006          *T001 S AN EXAMPLE.
007
008
009          *T002 S AN EXAMPLE.
010
011
012
013          *T003 S AN EXAMPLE.
014
015
016          *T004 S AN EXAMPLE.
017
                                                                続く ...
-----
F3= 終了   F6= テキスト   F9= 線   F10= 枠
F11= バーコード   F13= 挿入   F14= 変更   F24= キーの続き
      2 要素がコピーされた。
```

リスト・ビューでの要素の変更

オーバーレイ・ユーティリティーおよび印刷形式ユーティリティーには、画面ビューに加えて、要素を定義するためのリスト・ビューがあります。リスト・ビューと画面ビューの切り替えは F17 キーを押すことで簡単にできます。

リスト・ビューによって、すべての要素定義を見たり変更することができます。リスト・ビューは、オーバーレイ、レコード・レイアウト、またはページ・レイアウトにすでに定義されている要素に小さな変更を加える場合に便利です。リスト・ビューは、新規要素を作成する場合にも使用することができます。新しい要素の作成は、概略イメージを表示する画面ビューで行うほうが、より簡単です。

リスト・ビューのレイアウト

リスト・ビューには一度に最高 16 個の要素を表示することができます。要素の続きを表示するには、ウィンドウを縦方向にスクロールしてください。各要素ごとにパラメーターのフィールドに最高 44 文字が表示されます。パラメーターのフィールドの残りを表示するには、ウィンドウを横方向にスクロールしてください。パラメーターのフィールドに入るのは、各要素の必須パラメーターだけです。その他のパラメーターを表示または変更するには、要素の行にカーソルを合わせ、F14 キーを押して、「明細の変更」画面に進み、そこで F4 キーを押してください。

次の図に、リスト・ビューの画面例が示してあります。

オーバーレイの設計						
制御	...	_____	ソース・オーバーレイ STATIONERY			
NBR	ID	名前	M	左右	上下	パラメーター
001	T	_____	1	32	2	FONT=0 ISERIES STATIONERY CO., LTD.
002	T	_____	1	19	4	FONT=0 STANDARD STATIONERY SUPPLY LIST
003	L	_____	1	19	5	END ACROSS= 50 END DOWN = 5
004	B	_____	1	5	7	END ACROSS= 60 END DOWN = 26
005	L	_____	1	5	24	END ACROSS= 60 END DOWN = 24
006	L	_____	1	5	22	END ACROSS= 60 END DOWN = 22
007	L	_____	1	5	20	END ACROSS= 60 END DOWN = 20
008	L*	_____	1	5	18	END ACROSS= 60 END DOWN = 18
009	L	_____	1	5	16	END ACROSS= 60 END DOWN = 16
010	L	_____	1	5	14	END ACROSS= 60 END DOWN = 14
011	L	_____	1	5	12	END ACROSS= 60 END DOWN = 12
012	L	_____	1	5	10	END ACROSS= 60 END DOWN = 10
013	T	_____	2	0.7	1.83	FONT=0 BALL POINT PEN
014	T	PEN	1	7	13	FONT=0 PENCIL
015	T	_____	1	7	15	FONT=0 ERASER
016	T	_____	1	7	17	FONT=0 RULER

続く ...

F3= 終了 F4= ソート (分類) F6= テキスト F9= 線
 F10= 枠 F11= バーコード F13= 挿入 F24= キーの続き

次の表は、上記の各フィールドについての説明です。

フィールド名	説明
制御	次のコマンドの一つをこのフィールドに入力し、実行キーを押せば、リスト・ビューのウィンドウを移動することができます。
-n	逆方向 リストが最上行の方へ n 行移動する。
+n	正方向 リストが最下行の方へ n 行移動する。
W-n	左 パラメーター の欄が左へ n 桁移動する。
W+n	右 パラメーター の欄が右へ n 桁移動する。
n	行が n 行目へ移動する。
Wn	パラメーター の欄が n 桁目へ移動する。
*TOP	リストが一番上の行に移動する。
*BOT	リストが一番下の行に移動する。
	注: *TOP または *BOT が制御フィールドにあると、機能キーは使用不可になります。
	オーバーレイを設計する際、ワークステーション上でオーバーレイのシミュレートされた印刷出力を表示することができます。詳細情報と制約事項については、制御フィールドのヘルプを参照してください。
*VIEW	オーバーレイのシミュレートした印刷出力が表示されます。この機能は、レコード・レイアウトおよびページ・レイアウトを設計するときは、利用不能です。

フィールド名	説明
NBR	これは、シーケンス番号フィールドです。リストが名前、左右または上下フィールドでソートされていない限り、要素のシーケンス番号は昇順にリストされます。さらに、このフィールドは要素編集コマンドの入力にも使用されます。
ID	これは要素タイプのフィールドです。その要素が要素除去操作によって一時的に除去されている場合は、2番目の文字位置にアスタリスクが表示されます。このフィールドには何も入力できません。
名前	これは要素名のフィールドです。このフィールドには、ユーザーが割り当てた4文字までの要素名が入ります。要素に名前がない場合は、このフィールドはブランクのままです。このフィールドには何も入力できません。
M	このフィールドには、位置を指定するのに使用される2つの測定方式が表示されます。 1 行／桁が使用される。 2 インチまたはセンチメートルが使用される。 このフィールドには何も入力できません。
左右	これは要素の左右の位置です。Mの欄が1(測定方式が行／桁)の場合は、この欄には1～999の範囲の整数が入ります。 Mの欄が2(測定方式がインチまたはセンチメートル)の場合は、この欄には、「オーバーレイ仕様の定義」画面または「PFD仕様の定義」画面で指定されている測定単位に応じて、次の値の1つが入ります。 インチ 0～22.75 センチメートル 0～57.79 注: 最大値は、オーバーレイまたはページ・レイアウトのサイズによって異なります。
上下	このフィールドには何も入力できません。 これは要素の上下の位置です。Mの欄が1(測定方式が行／桁)の場合は、この欄には1～999の範囲の整数が入ります。 Mの欄が2(測定方式がインチまたはセンチメートル)の場合は、この欄には、「オーバーレイ仕様の定義」画面または「PFD仕様の定義」画面で指定されている測定単位に応じて、次の値の1つが入ります。 インチ 0～22.75 センチメートル 0～57.79 注: 最大値は、オーバーレイまたはページ・レイアウトのサイズによって異なります。 このフィールドには何も入力できません。

フィールド名	説明
パラメーター	<p>表示されるパラメーターは要素タイプによって異なります。これらのパラメーターは各要素ごとに下記の値が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • テキスト <p>フォントの値が表示されます。SBCS システムの場合は、その値は "FONT=F" と表示されます。ここで、F は省略時値の場合は 0、フォント・ローカル ID を指定した場合には 1 - 8 です。DBCS システムのテキスト要素の場合は、その要素に DBCS フォントが指定されていないと、その値は "SBCS FONT=F" と表示され、その要素に DBCS フォントが指定されていると、"SBCS FONT=F DBCS FONT=F" と表示されます。テキスト・データはフォントの値のあとに表示されます。フォントの値と最初のテキスト文字の間には 3 文字のスペースが挿入されます。</p> • 線 <p>終了位置が表示されます。</p> • 枠 <p>終了位置が表示されます。枠の指定とともにテキストが指定されている場合は、終了位置の後にフォントの値とテキストも表示されます。</p> • バーコード <p>HRI が印刷される場合は、HRI フォントの値が表示されます。フォントの値の後にバーコード・データが表示されます。フォントの値とバーコード・データの間には 3 文字のスペースが挿入されます。</p> • ページ・セグメント <p>ページ・セグメント名が表示されます。</p> • グラフィックス <p>終了位置が表示されます。</p> • レコード・レイアウト <p>なし。</p> <p>このフィールドには何も入力できません。「明細の変更」画面で要素を変更した場合は、その他のパラメーターを表示することができます。</p>

要素の作成または変更

リスト上でパラメーターを直接入力したり変更したりすることはできません。しかし、要素の作成または変更操作によって、新しい要素の定義または既存の要素の変更を簡単かつ効率よく行うことができます。

作成

リスト・ビューで新しい要素を定義するには、次のようにします。

ステップ 1. カーソル位置には関係なく、要素のタイプに応じて次の機能キーのいずれか 1 つを押してください。

テキスト	F6
線	F9
枠	F10
バーコード	F11

グラフィックス	F13 ついで F6
ページ・セグメント	F13 ついで F9
レコード・レイアウト	F13 ついで F11

キー入力域が画面の下部に表示されます。これ以降の要素の作成操作は、画面ビューでの要素の作成操作と同じです。

- ステップ 2. 他のパラメーターを指定する必要がある場合は、F4 キーを押してください。
- ステップ 3. パラメーターの指定を完了したら、実行キーを押して要素の作成操作を完了してください。新しく作成された要素は、最後に作成された要素のシーケンス番号より 1 大きい番号が付けられ、そしてリストの最下部に追加されます。

変更

既存の要素を変更するには、次のようにします。

- ステップ 1. 変更したい要素の行にカーソルを置いてください。
- ステップ 2. F14 キーを押してください。キー入力域が画面の下部に表示されます。これ以降は、パラメーターが前に指定された値を伴ってキー入力域に表示されているという点を除いて、要素の変更操作は要素の作成操作と同じです。
- ステップ 3. 他のパラメーターを指定する必要がある場合は、F4 キーを押してください。
- ステップ 4. パラメーターの指定が完了したら、実行キーを押して要素の変更操作を完了してください。リストに要素の変更が反映されます。

ソート要素リスト

リスト編集パネルでカーソルを NBR フィールド、名前フィールド、左右フィールド、上下フィールドのいずれかに置いて F4 を押すと、リストはそのフィールドの内容に従ってソートされ、最新表示されます。

測定方式がリストのすべての要素で同一でない場合は、そのリストは左右フィールドまたは上下フィールドでソートできません。

カーソルが名前フィールドに設定されている場合は、そのフィールド内に何も表示されていない要素には、1 文字の ID と NBR フィールドに表示されている 3 桁の数字で構成される名前が割り当てられます。これは画面編集モードで、アスタリクスなしに表示される要素マークと同じです。割り当てられた名前は表示されません。

ソート・リストに追加された要素はリストの最終行に追加されます。ソート・リストで変更された要素は、そのリストが再度ソートされるまで同じリスト位置にあります。

コピー、移動、除去、または復元

リスト・ビューでは、要素編集機能を使用して、既存の要素をコピー、移動、または除去することができます。除去された要素を復元することもできますが、これは画面ビューでは不可能です。

要素編集

要素をコピー、移動、除去、または復元するには、次のようにします。

ステップ 1. コピー、移動、除去、または復元したい要素の行の *NBR* の欄にカーソルを置いてください。

ステップ 2. 次のコマンドの 1 つを入力し、実行キーを押してください。実行する操作は選択したオプションにより決まります。

C 要素をコピーします。

キー入力域が画面の下部に表示され、左右のプロンプトおよび上下のプロンプトに新しい要素の位置を指定することができます。

新しく作成された要素がリストの最後の行の後ろに追加され、画面がスクロールして新しい要素が表示されます。元の要素がこのコピーにより影響を受けることはありません。

M 要素を移動します。

キー入力域が画面の下部に表示され、左右のプロンプトおよび上下のプロンプトに位置を指定して、要素の新しい位置を指定することができます。

R 要素を除去します。

除去済みマーク (*) が *ID* の欄に表示されます。除去操作が除去された要素または残っているその他の要素に影響を及ぼすことはありません。画面ビューでは、除去した要素はイメージ域に表示されず、これを変更することはできません。しかし、リスト・ビューでは、除去された要素は *ID* の欄にアスタリスクが付けられてイメージ域に表示されます。除去された要素は印刷されません。

S 要素を復元します。

ID の欄に表示されていた除去済みマーク (*) が消えます。画面ビューでは、復元された要素はイメージ域に表示され、その変更も可能になります。

ステップ 3. 実行キーを押す。(このステップはコピー操作と移動操作にのみ必要です。)

選択された要素がコピーまたは移動されます。

第 14 章 フォントの処理

この章では、「ソース・オーバーレイ・フォントの処理」画面および「PFD 定義フォントの処理」画面で、フォントに関して指定できることについて説明します。

ソース・オーバーレイ・フォントの処理

オプションを入力して、実行キーを押してください。
2= 変更 5= 表示 9= 初期フォントの設定

OPT	フォント 番号	テキスト
-	*DEFAULT	10 CPI COURIER
-	1	10 CPI COURIER
-	2	10 CPI COURIER
-	3	10 CPI COURIER
-	4	10 CPI COURIER
-	5	10 CPI COURIER
-	6	10 CPI COURIER
-	7	10 CPI COURIER
-	8	10 CPI COURIER

終わり

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

PFD 定義フォントの処理

オプションを入力して、実行キーを押してください。
2= 変更 5= 表示 9= 初期フォントの設定

OPT	フォント 番号	テキスト
-	*DEFAULT	10 CPI COURIER
-	1	10 CPI COURIER
-	2	10 CPI COURIER
-	3	10 CPI COURIER
-	4	10 CPI COURIER
-	5	10 CPI COURIER
-	6	10 CPI COURIER
-	7	10 CPI COURIER
-	8	10 CPI COURIER

終わり

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

ソース・オーバーレイ・フォントおよび PFD 定義フォントは、同じ要領で指定することができます。処理するフォントに従って変わるのは、画面タイトルのみです。

以下の例は、PFD 定義フォントに関するもので、ソース・オーバーレイ・フォントにも適用されます。

フォントを必要とする「オーバーレイの設計」、「レコード・レイアウトの設計」、または「ページ・レイアウトの設計」画面の要素 (テキスト、HRI のバーコード、またはテキストの入った枠) ごとに、フォント番号またはフォント・ローカル ID (1~8)、もしくは *DEFAULT によってフォントが指定されます。この画面では、フォント・ローカル ID ごとに実際に使用されるフォントを指定することができます。

フォントは、印刷装置 (印刷装置常駐) か iSeries システム (ホスト常駐) に保管されます。ホスト常駐フォントが、コード化フォント名、あるいはコード・ページと文字セットの組み合わせで選択されるのに対し、印刷装置常駐フォントは、フォント・グローバル ID (FGID) を用いて選択されます。FGID は、Courier に対する 011 または Times New Roman に対する 5687 のような番号です。ほとんどの印刷装置には、すべての印刷装置常駐フォントを FGID 番号付きで印刷出力する操作パネル・オプションがあります。

ホスト常駐フォントは、iSeries オブジェクトで、iSeries ライブラリー内に格納されています。たとえば、iSeries に付いて出荷され、QFNTCPL ライブラリー内に常駐する、240 ドット/インチ (DPI) の IBM 互換フォント・セットがあります。240 DPI、300 DPI、および 600 DPI の印刷解像度をサポートする印刷装置では、IBM 互換フォントは、おそらくほとんどのアプリケーションにとって十分ではありません。IBM AFP フォント・コレクション (5648-113) は、事務用文書で使用される最も一般的な書体に加えて、様々な印刷装置の解像度をすべてサポートする AFP フォントの包括的なセットです。240 DPI および 300 DPI の解像度用のフォントは、ラスターもしくはビットマップ・フォントです。これは、各文字がドットのパターンから構成されることを意味します。各文字セットには、必要な文字はすべて含まれています (AFP フォント・コレクション内では 48 を超える異なる言語がサポートされているため、これらの文字は変化することができます)。使用するポイント・サイズ、および字体ごとに、異なる文字セットがあります。最も一般的に使用されるフォント文字セットのサンプルについては、527 ページの『付録 I. フォントのサンプル』を参照してください。たとえば、文字セット COH40060 は Helvetica Roman Bold 6-point であり、COH400Z0 は Helvetica Roman Bold 36-point です。

IBM AFP フォント・コレクションには、アウトライン (拡張が容易な) フォントも入っています。アウトライン・フォントを使用すると、各文字は、ベクトルの連続で表現されます。その結果、1 つの文字セットをどのようなポイント・サイズにも「拡大縮小」することができます。たとえば、Helvetica Roman Bold のアウトライン文字セットは CZH400 です。この 1 つの文字セットで、任意のポイント・サイズの文字を印刷することができます。ホスト常駐のアウトライン・フォントをサポートする印刷装置の場合、このフォントは、印刷装置にダウンロードされ、文字の拡張は、印刷装置が必要に応じて行います。

印刷装置常駐とホスト常駐という 2 つのタイプのフォントは、AFP/U 内では、次の 3 つの異なる方法で指定することができます。

- フォント・グローバル ID (FGID)
- コード化フォント名
- コード・ページおよび文字セット名

コード化フォント名は、本質的には、コード・ページおよび文字セット名と同じです。コード化フォント名は、コード・ページと文字セット名の組み合わせの省略表

現に過ぎません。コード・ページは、特定の国と文字の区別を容易にするテーブルです。たとえば、コード・ページ T1V10037 は標準の US 英語のコード・ページであるのに対し、コード・ページ T1V10285 は標準の英国英語のコード・ページです。これらのコード・ページのどちらを使用しても、作成されるテキストにはわずかな差しかありません。

次の表は、「ソース・オーバーレイ・フォントの処理」画面と「PFD 定義フォントの処理」画面の説明です。

表 62. 「ソース・オーバーレイ・フォントの処理」画面のフィールド

フィールド名	説明
2= 変更	このオプションを選択すると、フォントの定義を変更することができます。変更したいフォントの隣の <i>OPT</i> の欄に 2(変更) と入力してください。
5= 表示	このオプションを選択すると、フォントの定義を表示することができます。
9= 初期フォントの設定	このオプションで、フォントの定義を初期値に変更することが可能になります。
Opt	1 つまたは複数のフォント番号の隣にオプション番号を指定して、オプションを 1 つずつ実行します。
フォント番号	各フォントのフォント番号を示します。
テキスト	フォント番号は、常に 1~8 または *DEFAULT です。フォントの記述を示します。

注: オプション 2 (変更) またはオプション 9 (初期フォントの設定) を使用して選択したフォントの種類が矛盾する場合は、エラー・メッセージが表示されます。矛盾が生じるのは、選択したフォントのタイプを、印刷装置タイプおよびある要素の他のプロンプトに指定した値と一緒に使用できない場合です。そのような場合には、実行キーを再度押せば、システムがプロンプトの値を次のように変更します。

新しいフォントのタイプ	プリンター・タイプ	要素	プロンプト (影響を受ける)	古い値 (ユーザー指定の)	新しい値 (システム変更の)
1	2	テキスト、枠	様式	2, 3	1
2	4, 5, 6	テキスト、枠	重ね打ち	ブランク以外	ブランク
2	4, 5, 6	テキスト、枠	下線	Y	N
2, 3	2	テキスト	文字サイズ	*DEFAULT 以外	*DEFAULT

2= フォントの変更

フォントを変更するには、「ソース・オーバーレイ・フォントの処理」画面または「PFD 定義フォントの処理」画面で、以下を行ってください。

1. 変更したいフォント番号の隣の *OPT* の欄に 2 と入力する。
2. 実行キーを押す。

次の画面が表示されます。

PFD 定義フォントの変更

フォント番号 : 1

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

フォントの種類 1

1=	フォントおよび文字識別コード
2=	コード化フォント
3=	コード・ページおよびフォント文字セット

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

- 1、2、または 3 を指定し、実行キーを押す。

次の表は、「ソース・オーバーレイ・フォントの変更」画面および「PFD 定義フォントの変更」画面についての説明です。

表 63. 「ソース・オーバーレイの変更」画面のフィールド

フィールド名	説明
フォント番号	変更するフォントのフォント番号を示します。
フォントの種類	フォントを指定する方法を変更したい場合、フォントの種類を指定します。フォントの種類に関する詳細については、518 ページの『フォント』を参照してください。

次に表示される画面は、フォントの種類 のプロンプトでの選択内容によって異なります。

フォントには、印刷装置に常駐するものもあれば、システムに常駐して、印刷装置へダウンロードされるものもあります。前者のフォントを使用する場合は、フォントの種類 のプロンプトに 1 と入力してください。後者のフォントを使用する場合は、2 または 3 を入力してください。システムに常駐するフォントは 3 つのオブジェクトで構成されます。

コード化フォント

属性 CDEFNT を備えたオブジェクト・タイプ「*FNTRSC」を持っています。SBCS フォントのコード化フォントには、コード・ページ名とフォント文字セット名で構成されるコードの組み合わせが含まれています。DBCS フォントのコード化フォントには、多くの組み合わせのコード・ページ名とフォント文字セット名が含まれています。

システムに常駐する SBCS フォントを使用する場合は、コード化フォント名か、コード・ページ名とフォント文字セット名の対のいずれかを指定することができます。システムに存在する DBCS フォントを使用する場合は、コード化フォント名を指定しなければなりません。

コード・ページ

属性 CDEPAG を備えたオブジェクト・タイプ「*FNTRSC」を持っています。コード・ページは、多くのコード点とそれに対応する文字 ID を持っています。文字 ID は、フォント文字セットによって、対応する文字パターンにマップされます。

フォント文字セット

属性 FNTCHRSET を備えたオブジェクト・タイプ「*FNTRSC」を持っています。フォント文字セットは、多くの文字 ID とそれに対応する文字パターンをもっています。

WRKFNTRSC コマンドを使用すると、フォント資源のリストが表示されます。フォントのほとんどは、名前が QFNT で始まるライブラリーに入っています。

フォントの変更 (フォントの種類=1): フォントの種類 のプロンプトに 1 を選択すると、次の画面が表示されます。

PFD 定義フォントの変更

フォント番号 : 1
フォントの種類 : 1 フォントおよび文字識別コード

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

フォント:
 識別コード : 11 1-65535
 ポイント・サイズ : *NONE 0.1-999.9, *NONE

文字識別コード:
 グラフィック文字セット . . . : *SYSVAL 1-32767, *SYSVAL
 コード・ページ : 1-32767
 テキスト '記述' : 10 CPI COURIER

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

この画面を使用すれば、フォント ID、ポイント・サイズ、グラフィック文字セット、コード・ページ、および記述テキストを変更することができます。

表 64. 「PFD 定義フォントの変更」画面のフィールド

フィールド名	説明
フォント番号	変更するフォントのフォント番号を示します。
フォントの種類 ID	前の画面で指定したフォントの種類を示します。 フォント ID を指定します。フォントとして、1 ~ 65535 の番号を指定することができます。
ポイント・サイズ	ポイント・サイズを示します。ポイント・サイズとして 0.1 ~ 999.9 の範囲の値を使用することができます。
グラフィック文字セ ット	グラフィックス文字 ID を指定します。1 ~ 32767 の範囲の数を使用することができます。*SYSVAL を指定することもできます。
コード・ページ	コード・ページを指定します。コード・ページとして 1 から 32767 の範囲の数を入力することができます。
テキスト	このフォントの記述を指定します。これは注釈であり、リストからフォントを選択する時に役に立ちます。

これらのパラメーター詳細については、CL 解説書の CRTPRTF コマンドの説明を参照してください。

フォントの変更 (フォントの種類=2): フォントの種類 のプロンプトに 2 を選択すると、次の画面が表示されます。

PFD 定義フォントの変更

フォント番号 : 1
 フォントの種類 : 2 コード化フォント

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

コード化フォント NONE 名前, リストは F4
 ポイント・サイズ *NONE 0.1-999.9, *NONE
 テキスト '記述' _____

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し

この画面を用いて、使用するコード化フォント、アウトライン・フォントのポイント・サイズ、および記述テキストを変更することができます。

次の表は、「ソース・オーバーレイ・フォントの変更」画面および「PFD 定義フォントの変更」画面についての説明です。

表 65. 「ソース・オーバーレイの変更」画面のフィールド

オプション	説明
フォント番号	変更するフォントのフォント番号を示します。
フォントの種類	前の画面で指定したフォントの種類を示します。

表 65. 「ソース・オーバーレイの変更」画面のフィールド (続き)

オプション	説明
コード化フォント	コード化フォント名を指定します。ライブラリー QFNTCPL、ならびにライブラリー・リストのすべてのライブラリーに入っているすべてのコード化フォントの選択リストを表示するには、カーソルをこのフィールドに合わせて、F4 キーを押してください。
ポイント・サイズ	希望するポイント・サイズを指定します。ポイント・サイズとして 0.1 ~ 999.9 の範囲の値を使用することができます。1 ポイントは 1/72 インチです。ポイント・サイズは、アウトライン・フォントにのみ有効です。この値は、ラスター・フォントの場合は無視されます。
テキスト	このフォントの記述を指定します。これは注釈であり、リストからフォントを選択する時に役に立ちます。 F4 キーを押すことによって表示された画面のリストからコード化フォントを選択した時にこのフィールドがブランクの場合は、このフィールドはそのコード化フォントの記述テキストでもって自動的に埋められます。

フォントの変更 (フォントの種類=3): フォントの種類 のプロンプトに 3 を選択すると、次の画面が表示されます。

PFD 定義フォントの変更

フォント番号 : 1
 フォントの種類 : 3 コード・ページおよびフォント文字セット

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

コード・ページ		名前, リストは F4
フォント文字セット		名前, リストは F4
ポイント・サイズ	*NONE	0.1-999.9, *NONE
テキスト '記述'		

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し

この画面を用いて、コード・ページ、フォント文字セット、アウトライン・フォントのポイント・サイズ、および記述テキストを変更することができます。

次の表は、「ソース・オーバーレイ・フォントの変更」画面および「PFD 定義フォントの変更」画面についての説明です。

フィールド名	説明
フォント番号	変更するフォントのフォント番号を示します。
フォントの種類	前の画面で指定したフォントの種類を示します。

フィールド名	説明
コード・ページ	コード・ページ名を指定します。ライブラリー QFNTCPL、ならびにライブラリー・リストのすべてのライブラリーに入っているすべてのコード・ページの選択リストを表示するには、カーソルをこのフィールドに合わせて、F4 キーを押してください。
フォント文字セット	フォント文字セットを指定します。ライブラリー QFNTCPL、ならびにライブラリー・リストのすべてのライブラリーに入っているすべてのフォント文字セットの選択リストを表示するには、カーソルをこのフィールドに合わせて、F4 キーを押してください。
ポイント・サイズ	希望するポイント・サイズを指定します。ポイント・サイズとして 0.1 ~ 999.9 の範囲の値を使用することができます。1 ポイントは 1/72 インチです。ポイント・サイズは、アウトライン・フォントにのみ有効です。この値は、ラスター・フォントの場合は無視されます。
テキスト	このコード・ページおよびフォント文字セットの記述を指定します。これは単なる注釈で、リストからコード・ページまたはフォント文字セットを選択する時に役に立ちます。 リストからコード・ページを選択したときに、このフィールドがブランクの場合は、そのコード・ページの記述テキストでもってこのフィールドが自動的に埋められます。 リストからフォント文字セットを選択したときに、このフィールドがブランクの場合は、このフィールドはそのフォント文字セットの記述テキストでもって自動的に埋められます。

5= フォントの表示

フォントを表示するには、「ソース・オーバーレイ・フォントの処理」画面または「PFD 定義フォントの処理」画面で、以下を行ってください。

1. 表示したいフォント番号の隣の *OPT* の欄に 5 と入力する。
2. 実行キーを押す。

フォントの表示 (フォントの種類=1):

PFD 定義フォントの表示

フォント番号 : 1
フォントの種類 : 1 フォントおよび文字識別コード
フォント:
 識別コード : 11
 ポイント・サイズ : *NONE
文字識別コード:
 グラフィック文字セット . . . : *SYSVAL
 コード・ページ :

テキスト : 10 CPI COURIER

続行するためには、実行キーを押してください。

F3= 終了 F12= 取り消し

この画面で、種類 1 のフォントの定義を詳細に調べることができます。

表 66. 「PFD 定義フォントの表示」画面のフィールド

フィールド名	説明
フォント番号	フォント番号を示します。
フォントの種類 ID	フォントの種類 (フォントおよび文字 ID) を示します。 フォント ID を示します。
ポイント・サイズ	ポイント・サイズを示します。
グラフィック文字セット	グラフィックス文字セットを示します。
コード・ページ	コード・ページ番号を示します。
テキスト	フォントの記述を示します。

フォントの表示 (フォントの種類=2):

PFD 定義フォントの表示

```
フォント番号 . . . . . : 1
フォントの種類 . . . . . : 2          コード化フォント
コード化フォント . . . . . : X0GB12
ポイント・サイズ . . . . . : *NONE
テキスト . . . . . : BOLD 12 CPI
```

続行するためには、実行キーを押してください。

F3= 終了 F12= 取り消し

この画面は、種類 2 のフォントの定義を表示します。

次の表は、「ソース・オーバーレイ・フォントの表示」画面および「PFD 定義フォントの表示」画面についての説明です。

表 67. 「ソース・オーバーレイ・フォントの表示」画面のフィールド

フィールド名	説明
フォント番号	フォント番号を示します。
フォントの種類	フォントの種類 (コード化フォント) を示します。
コード化フォント	コード化フォント名を示します。
ポイント・サイズ	ポイント・サイズを示します。
テキスト	フォントの記述を示します。

フォントの表示 (フォントの種類=3):

PFD 定義フォントの表示

```
フォント番号 . . . . . : 1
フォントの種類 . . . . . : 3      コード・ページおよびフォント文字セット
コード・ページ . . . . . : T1D0BASE
フォント文字セット . . . . . : C0D0DB10
ポイント・サイズ . . . . . : *NONE
テキスト . . . . . : GOTHIC ROMAN BOLD 10 POINTS
```

続行するためには、実行キーを押してください。

F3= 終了 F12= 取り消し

この画面は、種類 3 のフォントの定義を表示します。

次の表は、「ソース・オーバーレイ・フォントの表示」画面および「PFD 定義フォントの表示」画面についての説明です。

フィールド名	説明
フォント番号	フォント番号を示します。
フォントの種類	フォントの種類 (コード・ページおよびフォント文字セット) を示します。
コード・ページ	コード・ページ名を示します。
フォント文字セット	フォント文字セット名を示します。
ポイント・サイズ	ポイント・サイズを示します。
テキスト	フォントの記述を示します。

9= 初期フォントの設定

フォントの定義を初期値に変更するには、「ソース・オーバーレイ・フォントの処理」画面または「PFD 定義フォントの処理」画面で次のように行います。

1. 定義を変更したいフォント番号の隣の *OPT* の欄に 9 と入力する。
2. 実行キーを押す。

第 5 部 資源管理ユーティリティー

第 15 章 資源管理ユーティリティー (RMU) の紹介	349
iSeries ページ・セグメントへの変換	349
iSeries データベース・ファイルからページ・セグメントへの変換	349
PC 文書からページ・セグメントへの変換	350
オーバーレイの処理	351
オーバーレイのコピー	351
オーバーレイの削除	352
オーバーレイの名前の変更	352
オーバーレイの印刷	352
オーバーレイ記述の表示	352
オーバーレイ記述の変更	352
物理ファイル・メンバーへのオーバーレイの変換	352
ページ・セグメントの処理	352
ページ・セグメントのコピー	352
ページ・セグメントの削除	352
ページ・セグメントの名前の変更	353
ページ・セグメントの印刷	353
ページ・セグメント記述の表示	353
ページ・セグメント記述の変更	353
物理ファイル・メンバーへのページ・セグメントの変換	353
第 16 章 資源管理ユーティリティーの開始	355
資源管理ユーティリティーの開始	356
PC 文書のページ・セグメントへの変換	356
オーバーレイの印刷	359
ページ・セグメントの印刷	361
第 17 章 資源管理ユーティリティーの開始および終了	365
資源管理ユーティリティーの開始	365
STRAFPU コマンドによる資源管理ユーティリティーの開始	366
オプション 21：ページ・セグメントへの変換機能	366
オプション 22：オーバーレイの処理機能	366
オプション 23：ページ・セグメントの処理機能	366
CVTPCDPAGS コマンドによる資源管理の開始	367
CVTPFMPAGS コマンドによる資源管理ユーティリティーの開始	368
CVTOVLPFM コマンドによる資源管理ユーティリティーの開始	370
CVTPAGSPFM コマンドによる資源管理ユーティリティーの開始	371
資源管理ユーティリティーの終了	372
第 18 章 ページ・セグメントへの変換機能	373
第 19 章 オーバーレイの処理機能	385
プロンプト	386
オプション	387
欄	388
3= オーバーレイ・オブジェクトのコピー	388
4= オーバーレイの削除	388
6= オーバーレイの印刷	389
7= オーバーレイの名前の変更	391
8= オーバーレイ記述の表示	391
9= 物理ファイル・メンバーへのオーバーレイの変換	391

13= オーバーレイ・テキストの変更	395
第 20 章 ページ・セグメントの処理機能	397
プロンプト	398
オプション	400
欄	401
3= ページ・セグメントのコピー	401
4= ページ・セグメントの削除	402
6= ページ・セグメントの印刷	403
7= ページ・セグメントの名前の変更	404
8= ページ・セグメント記述の表示	405
9= 物理ファイル・メンバーへのページ・セグメントの変換	405
13= ページ・セグメント・テキストの変更	408

第 15 章 資源管理ユーティリティー (RMU) の紹介

資源管理ユーティリティーは、AFP ユーティリティーの 1 つであり、これによってオーバーレイ・ユーティリティーで作成されるオーバーレイ・オブジェクト、またはページ・セグメントなどの AFP 資源を対話式に管理できるようになります。

資源管理ユーティリティーには、次の 3 つの機能があります。

- ページ・セグメントへの変換
- オーバーレイの処理
- ページ・セグメントの処理

iSeries ページ・セグメントへの変換

オーバーレイにイメージを挿入したいとか、署名やロゴといったイメージを含むページを印刷したいときは、オーバーレイ・ユーティリティーまたは印刷形式ユーティリティーでそのようなイメージを使用する前に、それらのイメージをページ・セグメントとしてサーバーにまず保管する必要があります。

この機能を使用すると、以下のものからを作成することができます。

- イメージ・オブジェクト・コンテンツ体系 (IOCA) 機能セット 10 のイメージが入っている iSeries データベース・ファイル。
- イメージ・オブジェクト・コンテンツ体系 (IOCA) 機能セット 10 のイメージが入っていて、iSeries アクセスの共用フォルダー機能を用いてサーバー・フォルダーに保管される PC 文書。

ページ・セグメントを、イメージ・データ・ストリーム (IMDS) イメージが入ったファイルから作成するには、CRTPAGSEG コマンドを使用してください。

iSeries データベース・ファイルからページ・セグメントへの変換

サーバーが通信回線によってシステム/370 に接続されているときは、以下のステップによって、イメージ・データのデータベース・ファイルからページ・セグメントを作成することができます。

1. システム/370 イメージ・アプリケーションを用いて、IOCA 機能セット 10 イメージのイメージを作成する。
2. そのイメージをシステム/370 ファイルに保管する。
3. システム/370 システムからサーバーへ、イメージ・データを送信する。
4. イメージ・データを物理ファイル・メンバーとして受信する。
5. (STRAFPU コマンド) を開始する。
6. 「ページ・セグメントへの変換」(オプション 21) を選択する。

PC 文書からページ・セグメントへの変換

PC 文書からページ・セグメントを作成する場合には、以下を行って PC 文書を作成します。

1. PC イメージ・アプリケーション・プログラムを用いて、IOCA 機能セット 10 イメージを作成する。
2. iSeries アクセス共用フォルダー機能を用いて、それを PC 文書として iSeries フォルダに保管する。
3. (STRAFPU コマンド) を開始する。
4. 「ページ・セグメントへの変換」(オプション 21) を選択する。

次の図に、ページ・セグメントへの変換の手順が示してあります。

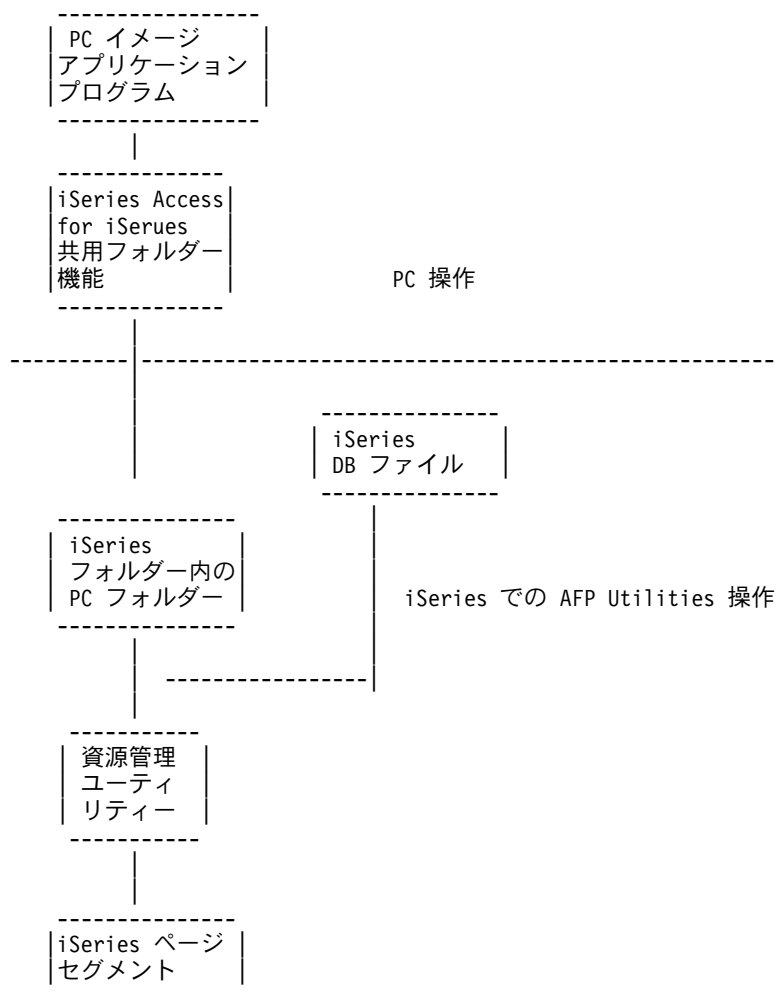


図 21. ページ・セグメントへの変換プロセス

資源管理ユーティリティーによって作成され、資源ライブラリーに保管されたページ・セグメントを使用して次の例を作成できます。

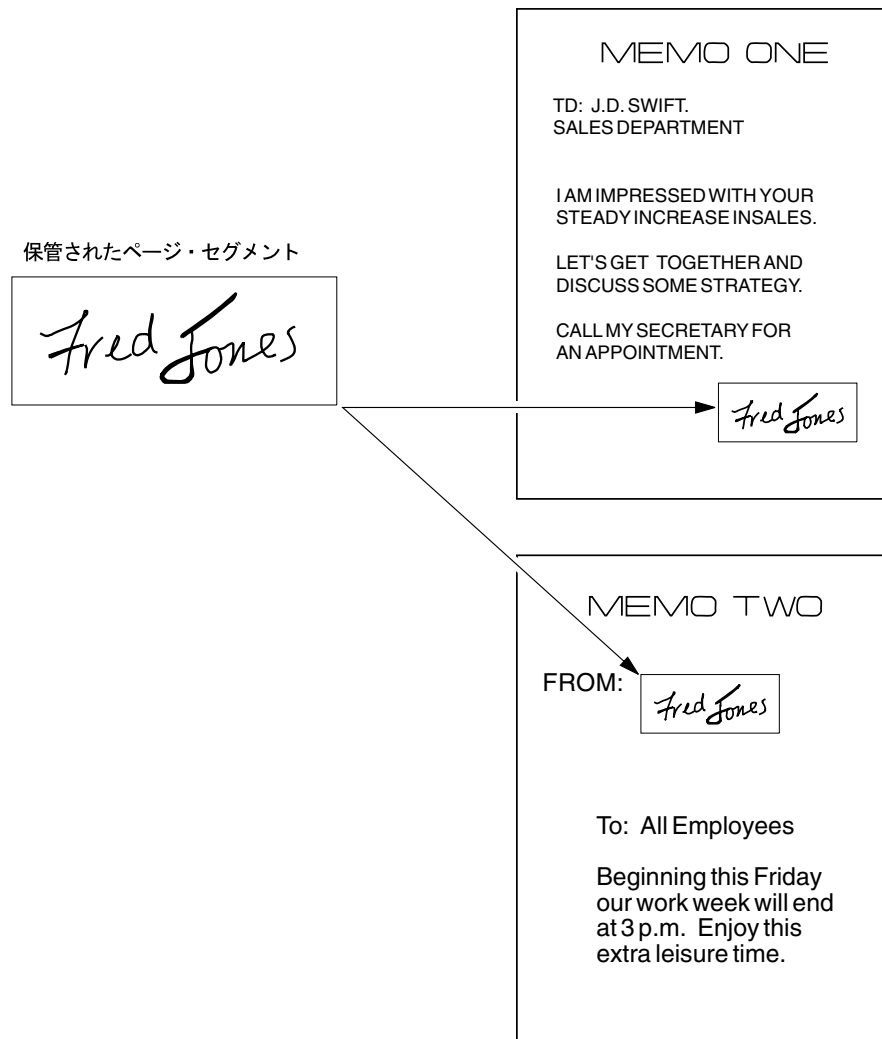


図 22. ページ・セグメントを含む書簡

オーバーレイの処理

この機能を使用すると、以下を行うことが可能になります。

- ライブラリーの中のオーバーレイ・オブジェクトのコピー。
- ライブラリーの中のオーバーレイ・オブジェクトの削除。
- ライブラリーの中のオーバーレイの印刷。
- ライブラリーの中のオーバーレイの名前の変更。
- オーバーレイ・オブジェクトの記述の表示。
- オーバーレイ・オブジェクトの記述の変更。
- 物理ファイル・メンバーへのオーバーレイの変換。

オーバーレイのコピー

この機能は、CL コマンド **CRTDUPOBJ** を呼び出し、オーバーレイ・オブジェクトを新しくコピーします。

オーバーレイの削除

この機能は、CL コマンド **DLTOVL** を呼び出し、指定されたオーバーレイを削除します。

オーバーレイの名前の変更

この機能は、CL コマンド **RNMOBJ** を呼び出し、指定したオーバーレイの名前の変更をします。

オーバーレイの印刷

この機能を使用すると、IPDS 印刷装置で iSeries のオーバーレイを印刷することができます。資源管理ユーティリティーは、iSeries によって IPDS 印刷装置で印刷されるスプール・ファイルとして、AFPDS データ・ストリームを生成します。

オーバーレイ記述の表示

この機能は、CL コマンド **DSPOBJD** を呼び出し、オーバーレイ記述を表示します。

オーバーレイ記述の変更

この機能は、CL コマンド **CHGOBJD** を呼び出し、オーバーレイ記述を変更します。

物理ファイル・メンバーへのオーバーレイの変換

この機能によって、オーバーレイを物理ファイル・メンバーに変換することができます。オーバーレイをシステム/370 などの他のシステムに転送することができます。

ページ・セグメントの処理

この機能を使用すると、以下を行うことが可能になります。

- ライブラリーの中のページ・セグメント・オブジェクトのコピー。
- ライブラリーの中のページ・セグメント・オブジェクトの削除。
- ライブラリーの中のページ・セグメント・オブジェクトの名前の変更。
- ライブラリーの中のページ・セグメント・オブジェクトの印刷。
- ページ・セグメントの記述の表示。
- ページ・セグメントの記述の変更。
- ページ・セグメントの物理ファイル・メンバーへの変換

ページ・セグメントのコピー

この機能は、CL コマンド **CRTDUPOBJ** を呼び出し、ページ・セグメントを新しくコピーします。

ページ・セグメントの削除

この機能は、CL コマンド **DLTPAGSEG** を呼び出し、指定されたページ・セグメントを削除します。

ページ・セグメントの名前の変更

この機能は、CL コマンド **RNMOBJ** を呼び出し、指定したページ・セグメントの名前の変更をします。

ページ・セグメントの印刷

この機能を使用すると、IPDS 印刷装置で iSeries のページ・セグメントを印刷することができます。資源管理ユーティリティーは、iSeries によって IPDS 印刷装置で印刷されるスプール・ファイルとして、AFPDS データ・ストリームを生成します。

ページ・セグメント記述の表示

この機能は、CL コマンド **DSPOBJD** を呼び出し、ページ・セグメント記述を表示します。

ページ・セグメント記述の変更

この機能は、CL コマンド **CHGOBJD** を呼び出し、ページ・セグメント記述を変更します。

物理ファイル・メンバーへのページ・セグメントの変換

この機能によって、ページ・セグメントを物理ファイル・メンバーに変換することができます。ページ・セグメントをシステム/370 などの他のシステムに転送することができます。

第 16 章 資源管理ユーティリティの開始

この章では、資源管理ユーティリティの代表的な作業方法について説明します。

この章で扱っている作業には次のものがあります。

1. PC 文書のページ・セグメントへの変換
2. オーバーレイの印刷
3. ページ・セグメントの印刷

これら 3 つの作業はそれぞれ独立しているので、上記の順に実行する必要はありません。

注: 作業によっては、その作業で使用する入力データを準備しておく必要があるものもあります。詳細については、各セクションの最初の部分を読んでください。

資源管理ユーティリティの開始

処置例:

1. コマンド行に STRAFPU と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

「IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries」メニューが表示されます。

AFP	IBM ADVANCED FUNCTION PRINTING UTILITIES
次の 1 つを選択してください。	
オーバーレイ・ユーティリティ	
1. ソース・オーバーレイの処理	
2. ソース・オーバーレイ・ファイルの処理	
印刷形式ユーティリティ	
11. PFD 定義の処理	
12. PFD 定義ファイルの処理	
13. データベース・ファイル・メンバーの印刷	
14. AFP ユーティリティの解説の印刷	
資源管理ユーティリティ	
21. ページ・セグメントへの変換	
22. オーバーレイの処理	
23. ページ・セグメントの処理	
選択項目またはコマンド	
==> 21	

F3= 終了 F4=プロンプト F9=コマンドの複写 F12= 取り消し F16=システム・メイン・メニュー	
(C) COPYRIGHT IBM CORP. 1991, 2001.	

次に挙げる 3 つの資源管理ユーティリティ機能をこの画面から開始することができます。

選択	機能
21	ページ・セグメントへの変換
22	オーバーレイの処理
23	ページ・セグメントの処理

PC 文書のページ・セグメントへの変換

注: 以下の作業を実行するには、IMDS 形式または IOCA 機能セット 10 のイメージ・データを含む PC 文書がフォルダーに入っていないとはなりません。PC 文書を作成するには、次のようにします。

1. 必要ならば、ユーザー ID 用の登録簿項目 (ADDDIRE) を追加するようにシステム管理担当者に依頼してください。
2. 「フォルダー作成 (CRTFLR)」コマンドを使用して、フォルダーを作成してください。
3. サーバーに接続され、そこで iSeries アクセス共用フォルダー機能を実行しているパーソナル・コンピュータで、イメージ処理プログラムを使用して、IMDS 形式または IOCA 機能セット 10 のイメージ・データ・ファイルを作成してください。
4. そのパーソナル・コンピュータで、そのファイルを共用フォルダーの中の文書にコピーしてください。

以下の例では次の名前が使用されます。

IOCAFLR (フォルダー名)

LOGO (PC 文書名)

MYLIB (ライブラリー名)

LOGO (ページ・セグメント名)

上記の名前は、ユーザー独自の名前に変更しても構いません。

処置例:

1. 画面の「選択項目またはコマンド」行に 21 と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

「ページ・セグメントへの変換」画面が表示されます。

ページ・セグメントへの変換

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ページ・セグメント	LOGO	名前
ライブラリー	MYLIB	名前, *CURLIB
ソース・オブジェクト・タイ プ	1	1=PC 文書, 2= ファイル

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

終わり

作成したいページ・セグメントの修飾名、および入力データのソース・オブジェクト・タイプを入力する必要があります。

処置例:

1. ページ・セグメント のプロンプトに LOGO と入力してください。
2. ライブラリー のプロンプトに MYLIB と入力してください。
3. ソース・オブジェクト・タイプ のプロンプトに 1 と入力してください。
4. 実行キーを押してください。

入力データの指定したオブジェクト・タイプに応じて、残りのパラメーターが表示されます。

ページ・セグメントへの変換		
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
ページ・セグメント	<u>LOGO</u>	名前
ライブラリー	<u>MYLIB</u>	名前, *CURLIB
ソース・オブジェクト・タイプ	<u>1</u>	1=PC 文書, 2= ファイル
FROM フォルダー	<u>IOCAFLR</u>	
FROM PC 文書	<u>LOGO</u>	名前
イメージ・サイズの変更	<u>N</u>	Y=YES, N=NO
回転の角度	<u>0</u>	0, 90, 180, 270
イメージ・オフセットの変更	<u>N</u>	Y=YES, N=NO
権限	<u>*LIBCRTAUT</u>	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE *ALL, *USE, *EXCLUDE
テキスト '記述'	<u>LOGO</u>	
置き換え	<u>Y</u>	Y=YES, N=NO
終わり		
F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し		

フォルダー名および PC 文書名の入力が必要です。その他のパラメーターを入力することもできます。たとえば、イメージ・サイズを拡大または縮小したい場合には、イメージ・サイズの変更 のプロンプトに Y と入力し、イメージを上下逆に印刷したい場合には、回転の角度 のプロンプトに 180 と入力します。

処置例:

1. FROM フォルダー のプロンプトに IOCAFLR と入力してください。
2. FROM PC 文書 のプロンプトに LOGO と入力してください。
3. テキスト '記述' のプロンプトに LOGO と入力してください。
4. 実行キーを押してください。

「IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries」メニューが表示されます。ページ・セグメント LOGO がライブラリー MYLIB の中に作成されました。

オーバーレイの印刷

注: 次の作業を実行するには、オーバーレイ・オブジェクトが必要です。オーバーレイ・オブジェクトを作成するには、67 ページの『第 5 章 ソース・オーバーレイの処理』で説明されている作業を行ってください。

以下の例では次の名前が使用されます。

*LIBL (ライブラリー名)
STATIONE (オーバーレイ名)

上記の名前は、ユーザー独自の名前に変更しても構いません。

処置例:

1. 画面の「選択項目またはコマンド」行に 22 と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

「オーバーレイの処理」画面が表示されます。

オーバーレイの処理		
ライブラリー	*LIBL _____	名前, *LIBL, *CURLIB *ALL, *USRLIBL, *ALLUSR
オーバーレイ	*ALL _____	名前, 総称 *, *ALL
位置指定	_____	開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。
3= コピー 4= 削除 6= 印刷 7= 名前の変更 8= 記述の表示
9= ファイルへの変換 13= テキストの変更

OPT オーバーレイ ライブラリー テキスト
(オーバーレイがライブラリー中ではない)

終わり

パラメーターまたはコマンド
====>

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F9= コマンドの複写
F11= 名前だけの表示 F12= 取り消し

ライブラリー・リストの中のライブラリーに入っているオーバーレイが、すべて画面に表示されます。リストに表示されるオーバーレイの数は、使用しているシステムによって異なります。どのオプションを選択することもできますし、ライブラリーのプロンプトにライブラリー名を入力して、リストを変更することもできます。

注: ライブラリー名を変更するときは、OPT プロンプトを空白にしておかなければなりません。

処置例:

1. ライブラリー のプロンプトに OVLLIB と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

同じ「オーバーレイの処理」画面に別のオーバーレイのリストが表示されます。

オーバーレイの処理

ライブラリー	<u>OVLLIB</u>	名前, *LIBL, *CURLIB *ALL, *USRLIBL, *ALLUSR
オーバーレイ	<u>*ALL</u>	名前, 総称 *, *ALL
位置指定	_____	開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。
3= コピー 4= 削除 6= 印刷 7= 名前の変更 8= 記述の表示
9= ファイルへの変換 13= テキストの変更

OPT オーバーレイ ライブラリー テキスト
6 STATIONE OVLLIB 用紙番号 3 からのサンプル

終わり

パラメーターまたはコマンド
==>

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F9= コマンドの複写
F11= 名前だけの表示 F12= 取り消し

前に作成したオーバーレイの STATIONE という名前がリストに表示されているはずですが、その名前が表示されない場合は、名前が表示されるまで「次ページ」(ロールアップ)キーを押すか、位置指定 のプロンプトにその名前を入力し、実行キーを押してください。リストはオーバーレイ名で昇順に表示されます。

オーバーレイに対し任意のオプションを選択できます。

処置例:

1. オーバーレイ名 STATIONE の隣の OPT の欄に 6 と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

「オーバーレイの印刷」画面が表示されます。

オーバーレイの印刷

オーバーレイ : STATIONE
ライブラリー : OVLLIB

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

出力待ち行列	<u>*JOB</u>	名前, *JOB
ライブラリー	_____	名前, *LIBL, *CURLIB
コピー部数	<u>2</u>	1-255
印刷精度	<u>*CONTENT</u>	*CONTENT, *ABSOLUTE

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

終わり

処置例:

1. コピー部数 プロンプトに 2 と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

「オーバーレイの処理」画面が表示され、完了メッセージが出されます。

オーバーレイ STATIONE が印刷されました。

「IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries」メニューに戻るには、実行キーを押してください。

ページ・セグメントの印刷

注: 次の作業を実行するには、ページ・セグメントが必要です。ライブラリー QGPL にページ・セグメント QFCLOGO が必要です。ない場合には、ライブラリー QAFP 内のページ・セグメント QFCPAGS をライブラリー QGPL の QFCLOGO にコピーします。

ページ・セグメントを作成するには、373 ページの『第 18 章 ページ・セグメントへの変換機能』で説明している作業を行ってください。

以下の例では次の名前が使用されます。

QGPL (ライブラリー名)

QFCLOGO (ページ・セグメント名)

上記の名前は、ユーザー独自の名前に変更しても構いません。

処置例:

1. 画面の「選択項目またはコマンド」行に 23 と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

「ページ・セグメントの処理」画面が表示されます。

ページ・セグメントの処理			
ライブラリー.....	*LIBL _____	名前, *LIBL, *CURLIB *ALL, *USRLIBL, *ALLUSR	
ページ・セグメント.....	*ALL _____	名前, 総称*, *ALL	
位置指定.....	_____	開始文字	
オプションを入力して、実行キーを押してください。			
3= コピー 4= 削除 6= 印刷 7= 名前の変更 8= 記述の表示			
9= ファイルへの変換 13= テキストの変更			
ページ			
OPT	セグメント	ライブラリー	テキスト
6	QFCLOGO	QGPL	SAMPLE PAGE SEGMENT - IM1 FORMAT
-	QFCLOGO2	QGPL	SAMPLE PAGE SEGMENT - IOCA FUNCTION SET 10 FORMAT
-			
			終わり
パラメーターまたはコマンド			
===>			
F3=	終了	F4=	プロンプト
F5=	最新表示	F9=	コマンドの複写
F11=	名前だけの表示	F12=	取り消し

ライブラリー・リストの中のライブラリーに入っているページ・セグメントが、すべて画面に表示されます。リストに表示されるページ・セグメントの数は、使用しているシステムによって異なります。どのオプションを選択することもできますし、ライブラリーのプロンプトにライブラリー名を入力して、リストを変更することもできます。

注: ライブラリー名を変更するときは、*OPT* プロンプトを空白にしておかなければなりません。

リストには、ページ・セグメント *QFCLOGO* とライブラリー *QGPL* が表示されているはずですが、その名前が表示されない場合は、名前が表示されるまで「次ページ」（ロールアップ）キーを押すか、位置指定のプロンプトにその名前を入力し、実行キーを押してください。リストは、ページ・セグメント名の昇順に表示されます。

処置例:

1. ページ・セグメント名 *QFCLOGO* の隣の *OPT* の欄に *6* と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

「ページ・セグメントの印刷」画面が表示されます。

ページ・セグメントの印刷		
ページ・セグメント	: QFCLOGO	
ライブラリー	: QGPL	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
出力待ち行列	*JOB _____	名前, *JOB
ライブラリー	_____	名前, *LIBL, *CURLIB
コピー部数	2 _____	1-255
印刷精度	*CONTENT _____	*CONTENT, *ABSOLUTE
F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し		終わり

処置例:

1. コピー部数 プロンプトに 2 と入力してください。
2. 実行キーを押してください。

「ページ・セグメント」画面が表示され、完了メッセージが出されます。
ページ・セグメント QFCLOGO が印刷されました。

「IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries」メニューに戻るには、実行キーを押してください。

第 17 章 資源管理ユーティリティの開始および終了

資源管理ユーティリティの開始

次のコマンドをコマンド行に入力し、実行キーを押せば、開始することができます。

STRAFPU

AFP Utilities for iSeries を開始します。資源管理ユーティリティの任意の機能を選択することができます。

CVTPCDPAGS

共用フォルダーの中の PC 文書をページ・セグメントに変換することができます。

CVTPFMPAGS

これを使うと物理の中のメンバーをページ・セグメントに変換することができます。

CVTOVLPFM

オーバーレイを物理ファイル・メンバーに変換することができます。

CVTPAGSPFM

ページ・セグメントを物理ファイル・メンバーに変換することができます。

STRAFPU コマンドによる資源管理ユーティリティの開始

STRAFPU コマンドで資源管理ユーティリティを開始すると、次の画面が表示されます。

AFP	IBM ADVANCED FUNCTION PRINTING UTILITIES
次の 1 つを選択してください。	
オーバーレイ・ユーティリティ	
1. ソース・オーバーレイの処理	
2. ソース・オーバーレイ・ファイルの処理	
印刷形式ユーティリティ	
11. PFD 定義の処理	
12. PFD 定義ファイルの処理	
13. データベース・ファイル・メンバーの印刷	
14. AFP ユーティリティの解説の印刷	
資源管理ユーティリティ	
21. ページ・セグメントへの変換	
22. オーバーレイの処理	
23. ページ・セグメントの処理	
選択項目またはコマンド	
====> _____	
F3= 終了 F4=プロンプト F9=コマンドの複写 F12= 取り消し F16=システム・メインメニュー	
(C) COPYRIGHT IBM CORP. 1991, 2001.	

次に挙げる 3 つの資源管理ユーティリティー機能をこの画面から開始することができます。

選択	機能
21	ページ・セグメントへの変換
22	オーバーレイの処理
23	ページ・セグメントの処理

以下は前ページの画面で選択できる項目の説明です。次の中から1つを選択するには、オプションの番号をコマンド行に入力し、実行キーを押してください。

オプション 21 : ページ・セグメントへの変換機能

ページ・セグメントへの変換機能を使用すると、ページ・セグメントを以下のように作成することができます。

- 作成したいページ・セグメントの名前、およびそのページ・セグメントを入れるためのライブラリーの名前を指定してください。
- ページ・セグメントに変換する入力ソース・オブジェクトの種類を指定してください。
- ページ・セグメントを PC 文書から作成する場合は、iSeries のフォルダーおよび PC 文書の名前を指定してください。
- ページ・セグメントをデータベース・ファイル・メンバーから作成する場合は、iSeries のファイル・メンバー、ファイル、およびライブラリーの名前を指定してください。

詳細については、373 ページの『第 18 章 ページ・セグメントへの変換機能』を参照してください。

オプション 22 : オーバーレイの処理機能

オーバーレイの処理機能では、オーバーレイ・オブジェクトのコピー、削除、名前の変更、および印刷を行うこと、オーバーレイ・オブジェクトの記述を表示して変更すること、およびオーバーレイ・オブジェクトを物理ファイル・メンバーに変換することができます。

詳細については、385 ページの『第 19 章 オーバーレイの処理機能』を参照してください。

オプション 23 : ページ・セグメントの処理機能

ページ・セグメントの処理機能によって、ページ・セグメントのコピー、削除、名前の変更、および印刷を行うこと、ページ・セグメントの記述を表示して変更すること、およびページ・セグメントを物理ファイル・メンバーに変換することができます。

詳細については、397 ページの『第 20 章 ページ・セグメントの処理機能』を参照してください。

CVTPCDPAGS コマンドによる資源管理の開始

CVTPCDPAGS コマンドで開始すると、次の画面が表示されます。

PCD のページ・セグメントへの変換 (CVTPCDPAGS)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ページ・セグメント	_____	名前, *PRV
ライブラリー	*CURLIB	名前, *CURLIB
取り出しフォルダー	*PRV	
<hr/>		
送信元 PC 文書	*PRV	名前, *PRV, *PAGSEG

終わり

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F10= 追加のパラメーター
F12= 取り消し F13= この画面の使用法 F24= キーの続き

プロンプトにデータを入力して F10 キーを押すと、次のような画面が表示されます。

PCD のページ・セグメントへの変換 (CVTPCDPAGS)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ページ・セグメント	LOGO	名前, *PRV
ライブラリー	*CURLIB	名前, *CURLIB
取り出しフォルダー	LOGOFLD	
<hr/>		
送信元 PC 文書	LOGODOC	名前, *PRV, *PAGSEG
イメージ・サイズの変更	*NO	*SAME, *NO, *YES

終わり

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し
F13= この画面の使用法 F24= キーの続き

実行キーを押すと、次の画面が表示されます。

PCD の ページ・セグメント への変換 (CVTPCDPAGS)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ページ・セグメント	> LOGO	名前 , *PRV
ライブラリー	*CURLIB	名前 , *CURLIB
取り出しフォルダー	> LOGOFLD	
<hr/>		
送信元 PC 文書	> LOGODOC	名前 , *PRV, *PAGSEG
イメージ・サイズの変更	*NO	*SAME, *NO, *YES
回転の角度	*SAME	0, 90, 180, 270, *SAME
イメージ・オフセットの変更	*NO	*NO, *YES

追加のパラメーター

権限	*SAME	名前 , *LIBCRTAUT...
テキスト ' 記述 '	*SAME	
<hr/>		
置き換え	*YES	*NO, *YES

終わり

F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し
F13= この画面の使用法 F24= キーの続き

この画面では、共用フォルダーの中の PC 文書をページ・セグメントに変換することができます。

詳細については、423 ページの『CVTPCDPAGS (PC 文書をページ・セグメントへ変換) コマンド』を参照してください。

CVTPFMPAGS コマンドによる資源管理ユーティリティーの開始

CVTPFMPAGS コマンドで資源管理ユーティリティーを開始し、F4 キーを押すと、次の画面が表示されます。

PFM の ページ・セグメントへの変換 (CVTPFMPAGS)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ページ・セグメント		名前 , *PRV
ライブラリー	*CURLIB	名前 , *CURLIB
取り出しファイル	*PRV	名前 , *PRV
ライブラリー		名前 , *LIBL, *CURLIB
取り出しメンバー	*PRV	名前 , *PRV, *PAGSEG

終わり

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F10= 追加のパラメーター
F12= 取り消し F13= この画面の使用法 F24= キーの続き

プロンプトにデータを入力して F10 キーを押すと、次のような画面が表示されます。

PFM のページ・セグメントへの変換 (CVTPFMPAGS)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ページ・セグメント	<u>LOGO</u>	名前, *PRV
ライブラリー	<u>*CURLIB</u>	名前, *CURLIB
取り出しファイル	<u>LOGOFILE</u>	名前, *PRV
ライブラリー	<u>*CURLIB</u>	名前, *LIBL, *CURLIB
取り出しメンバー	<u>LOGOMBR</u>	名前, *PRV, *PAGSEG
イメージ・サイズの変更	<u>*NO</u>	*SAME, *NO, *YES

終わり

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し
F13= この画面の使用法 F24= キーの続き

実行キーを押すと、次の画面が表示されます。

PFM のページ・セグメントへの変換 (CVTPFMPAGS)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ページ・セグメント	<u>LOGO</u>	名前, *PRV
ライブラリー	<u>*CURLIB</u>	名前, *CURLIB
取り出しファイル	<u>LOGOFILE</u>	名前, *PRV
ライブラリー	<u>*CURLIB</u>	名前, *LIBL, *CURLIB
取り出しメンバー	<u>LOGOMBR</u>	名前, *PRV, *PAGSEG
イメージ・サイズの変更	<u>*NO</u>	*SAME, *NO, *YES
回転の角度	<u>*SAME</u>	0, 90, 180, 270, *SAME
イメージ・オフセットの変更	<u>*NO</u>	*NO, *YES

追加のパラメーター

権限	<u>*SAME</u>	名前, *LIBCRTAUT...
テキスト ' 記述 '	<u>*SAME</u>	

置き換え	<u>*YES</u>	*NO, *YES
----------------	-------------	-----------

終わり

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し
F13= この画面の使用法 F24= キーの続き

この画面では、データベース・ファイルの中のメンバーをページ・セグメントに変換することができます。

詳細については、429 ページの『CVTPFMPAGS (物理ファイル・メンバーをページ・セグメントへ変換) コマンド』を参照してください。

CVTOVLPMF コマンドによる資源管理ユーティリティの開始

CVTOVLPMF コマンドで資源管理ユーティリティを開始し、F4 キーを押すと、次の画面が表示されます。

オーバーレイの PFM への変換 (CVTOVLPMF)		
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
オーバーレイ	_____	名前
ライブラリー	*LIBL	名前, *LIBL, *CURLIB
データ形式	_____	*FIXED, *CONTINUOUS
T0 ファイル	_____	名前, *VM, *MVS
ライブラリー	*CURLIB	名前, *CURLIB
T0 メンバー	*OVL	名前, *OVL
テキスト '記述'.	*OVLTXT	
置き換え	*NO	*YES, *NO
ファイル作成	*NO	*YES, *NO

終わり

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し
F13= この画面の使用方法 F24= キーの続き

この画面で、オーバーレイ・オブジェクトをデータベース・ファイル・メンバーに変換することができます。

フィールドにデータを入力し、ファイル作成 フィールドを「*YES」に変更し、実行キーを押すと、次のような画面が表示されます。

オーバーレイの PFM への変換 (CVTOVLPMF)		
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
オーバーレイ	> <u>S</u> MPOVL	名前
ライブラリー	> <u>Q</u> GPL	名前, *LIBL, *CURLIB
データ形式	> * <u>F</u> IXED	*FIXED, *CONTINUOUS
T0 ファイル	> * <u>V</u> M	名前, *VM, *MVS
ライブラリー	* <u>C</u> URLIB	名前, *CURLIB
T0 メンバー	* <u>O</u> VL	名前, *OVL
テキスト '記述'.	* <u>O</u> VLTXT	
置き換え	*NO	*YES, *NO
ファイル作成	> * <u>Y</u> ES	*YES, *NO
テキスト '記述'.	* <u>B</u> LANK	

終わり

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し
F13= この画面の使用方法 F24= キーの続き

詳細については、435 ページの『CVTOVLPMF (オーバーレイを物理ファイル・メンバーへ変換) コマンド』を参照してください。

CVTPAGSPFM コマンドによる資源管理ユーティリティの開始

CVTPAGSPFM コマンドで資源管理ユーティリティを開始し、F4 キーを押すと、次の画面が表示されます。

ページ・セグメントの PFM への変換 (CVTPAGSPFM)		
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
ページ・セグメント	_____	名前
ライブラリー	<u>*LIBL</u>	名前, *LIBL, *CURLIB
データ形式	_____	*FIXED, *CONTINUOUS
T0 ファイル	_____	名前, *VM, *MVS
ライブラリー	<u>*CURLIB</u>	名前, *CURLIB
T0 メンバー	<u>*PAGSEG</u>	名前, *PAGSEG
テキスト '記述'.	<u>*PSGTXT</u>	
<hr/>		
置き換え	<u>*NO</u>	*YES, *NO
ファイル作成	<u>*NO</u>	*YES, *NO
<hr/>		
終わり		
F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し		
F13= この画面の使用法 F24= キーの続き		

この画面で、ページ・セグメントをデータベース・ファイル・メンバーに変換することができます。

フィールドにデータを入力し、ファイル作成 フィールドを「*YES」に変更し、実行キーを押すと、次のような画面が表示されます。

ページ・セグメントの PFM への変換 (CVTPAGSPFM)		
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
ページ・セグメント	> <u>QFCLOGO</u>	名前
ライブラリー	> <u>QGPL</u>	名前, *LIBL, *CURLIB
データ形式	> <u>*FIXED</u>	*FIXED, *CONTINUOUS
T0 ファイル	> <u>*VM</u>	名前, *VM, *MVS
ライブラリー	<u>*CURLIB</u>	名前, *CURLIB
T0 メンバー	<u>*PAGSEG</u>	名前, *PAGSEG
テキスト '記述'.	<u>*PSGTXT</u>	
<hr/>		
置き換え	<u>*NO</u>	*YES, *NO
ファイル作成	> <u>*YES</u>	*YES, *NO
テキスト '記述'.	<u>*BLANK</u>	
<hr/>		
終わり		
F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し		
F13= この画面の使用法 F24= キーの続き		

詳細については、439 ページの『CVTPAGSPFM (ページ・セグメントを物理ファイル・メンバーへ変換) コマンド』を参照してください。

資源管理ユーティリティの終了

「ページ・セグメントへの変換」画面、「オーバーレイの処理」画面、または「ページ・セグメントの処理」画面で F3 キーを押せば、資源管理ユーティリティを終了することができます。資源管理ユーティリティを開始したときの画面が表示されます。

第 18 章 ページ・セグメントへの変換機能

ページ・セグメントへの変換機能を開始するには、「IBM Advanced Function Printing Utilities」のメニュー画面で「選択項目またはコマンド」行に 21 と入力し、実行キーを押してください。「ページ・セグメントへの変換」画面が表示されます。

ページ・セグメントへの変換

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ページ・セグメント		名前
ライブラリー	*CURLIB	名前, *CURLIB
ソース・オブジェクト・タイ		
プ		1=PC 文書, 2= ファイル

終わり

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

注: AFP Utilities for iSeries は、ページ・セグメントとライブラリーに関する情報を、ユーザー・プロファイルの「対話式プロファイル項目」に保管します。この機能が次に使用されるときに表示される値は、これらの値に置き換えられます。

「ページ・セグメントへの変換」画面を使用すると、iSeries のフォルダーに入っている PC 文書あるいは物理ファイル・メンバーのいずれかから、ページ・セグメントを作成することができます。PC 文書または物理ファイル・メンバーには、イメージ・データ・ストリーム (IMDS) データ、または IOCA 機能セット 10 データが入っていないければなりません。作成したページ・セグメントは、オーバーレイ・ユーティリティーを用いてソース・オーバーレイに使用し、IPDS 印刷装置で印刷することができます。ページ・セグメントを、印刷形式ユーティリティーを用いてレコード・レイアウトまたはページ・レイアウトに挿入することも、IPDS 印刷装置で印刷することもできます。

この画面では、ページ・セグメントの名前およびライブラリーを指定し、ページ・セグメントを物理ファイル・メンバーから作成するのか、PC 文書から作成するのかということを指定する必要があります。

次の表は、「ページ・セグメントへの変換」画面のフィールドについての説明です。

表 68. 「ページ・セグメントへの変換」画面のフィールド

フィールド名	説明
ページ・セグメント ライブラリー	作成するページ・セグメントの名前を指定してください。 ページ・セグメントを作成するライブラリーの名前を指定します。 このプロンプトに指定できるライブラリー値としては、以下のものがあります。 *CURLIB ジョブの現行ライブラリーを使用して、ページ・セグメントを作成します。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。 名前 指定されたライブラリーを使用して、ページ・セグメントを作成します。
ソース・オブジェクト・タイプ	次の項目のうちいずれか 1 つを使用して、ページ・セグメントを作成する元になる原始オブジェクトのタイプを指定します。 1 iSeries のフォルダーの中の PC 文書からページ・セグメントを作成する場合。 2 物理ファイル・メンバーからページ・セグメントを作成する場合。

選択内容を入力し、実行キーを押してください。ソース・オブジェクト・タイプのプロンプトに選択した内容に応じて、次に挙げる画面のいずれかが表示されます。

ページ・セグメント名およびライブラリーを入力し、ソース・オブジェクト・タイプのプロンプトに **1** (PC 文書) を選択した場合は、次の画面が表示されます。

ページ・セグメントへの変換

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ページ・セグメント	LOGO	名前
ライブラリー	MYLIB	名前, *CURLIB
ソース・オブジェクト・タイプ	1	1=PC 文書, 2= ファイル
FROM フォルダー		
<hr/>		
FROM PC 文書		名前
イメージ・サイズの変更	N	Y=YES, N=NO
回転の角度	0	0, 90, 180, 270
イメージ・オフセットの変更	N	Y=YES, N=NO
権限	*LIBCRTAUT	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE *ALL, *USE, *EXCLUDE
テキスト ' 記述 '		
<hr/>		
置き換え	Y	Y=YES, N=NO

終わり

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

ページ・セグメント名およびライブラリーを入力し、ソース・オブジェクト・タイプのプロンプトに **2** (ファイル) を選択した場合は、次の画面が表示されます。

ページ・セグメントへの変換

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ページ・セグメント	<u>LOGO</u>	名前
ライブラリー	<u>MYLIB</u>	名前, *CURLIB
ソース・オブジェクト・タイプ	<u>2</u>	1=PC 文書, 2= ファイル
FROM ファイル	<u>*CURLIB</u>	名前
ライブラリー	<u>*CURLIB</u>	名前, *LIBL, *CURLIB
FROM メンバー	<u>N</u>	名前
イメージ・サイズの変更	<u>0</u>	Y=YES, N=NO
回転の角度	<u>0</u>	0, 90, 180, 270
イメージ・オフセットの変更	<u>N</u>	Y=YES, N=NO
権限	<u>*LIBCRTAUT</u>	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE *ALL, *USE, *EXCLUDE
テキスト ' 記述 '	_____	
置き換え	<u>Y</u>	Y=YES, N=NO

終わり

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

次の表は、「ページ・セグメントへの変換」画面のフィールドについての説明です。

フィールド名	説明
ページ・セグメント ライブラリー	作成するページ・セグメントの名前を指定してください。 ページ・セグメントを作成するライブラリーの名前を指定します。このプロンプトに指定できるライブラリー値としては、以下のものがあります。 *CURLIB ジョブの現行ライブラリーを使用して、ページ・セグメントを作成します。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。 名前 ページ・セグメントを作成して入れるライブラリーを指定します。
ソース・オブジェクト・タイプ	次の項目のうちいずれか 1 つを使用して、ページ・セグメントを作成する元になる原始オブジェクトのタイプを指定します。 1 iSeries のフォルダーの中の PC 文書からページ・セグメントを作成する場合。 2 物理ファイル・メンバーからページ・セグメントを作成する場合。
FROM フォルダ	ページ・セグメントの作成元になる PC 文書が入っているフォルダの名前を指定してください。
FROM PC 文書	ページ・セグメントの作成元になる PC 文書の名前を指定してください。
FROM ファイル	ページ・セグメントの作成元になるメンバーが入っているファイルの名前を指定してください。
ライブラリー	ページ・セグメントの作成元になる物理ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

フィールド名	説明
FROM メンバー	ページ・セグメントの作成元になる物理ファイル・メンバーの名前を指定してください。
イメージ・サイズの変更	<p>資源管理ユーティリティーは、入力イメージ・サイズと同じ出力イメージのサイズを決定します。入力イメージ・サイズのイメージの幅または長さの値が 0 の場合は、資源管理ユーティリティーはページ・セグメントを作成せずに、エラー・メッセージを出します。</p> <p>出力イメージ・サイズは、変更することができます。次の 1 つを選択してください。</p> <p>Y (YES) 出力イメージ・サイズを変更します。この値を選択すると、イメージ・サイズを指定するためのパラメーターのプロンプトが表示されます。</p> <p>N (NO) 出力イメージ・サイズは入力イメージ・サイズと同じになります。</p>
回転の角度	出力イメージ域の時計まわりの回転角度を指定します。このパラメーターには、0、90、180、および 270 を指定することができます。

フィールド名	説明
権限	<p>ページ・セグメントに対する特定の権限を持っていないユーザー、権限リストに載っていないユーザー、およびページ・セグメントに対する特定の権限を持っていないユーザー・グループに属するユーザーに付与する権限を指定します。</p>
	<p>このパラメーターには次の値を指定することができます。</p>
	<p>*LIBCRTAUT</p> <p>作成されるページ・セグメントが入るライブラリー用のライブラリー作成コマンド (CRTLIB) の作成権限プロンプト (CRTAUT パラメーター) に指定された値を使用して、システムがページ・セグメントに対する権限を決めます。作成権限プロンプト (CRTAUT パラメーター) に指定した値が変更されても、新しい値がこのページ・セグメントに影響を与えることはありません。</p>
	<p>*CHANGE</p> <p>ユーザーに変更権限が付与されている場合は、ユーザーは、所有者に限定されている操作、あるいはオブジェクト存在権限およびオブジェクト管理権限の制御下にある操作を除き、すべての操作をページ・セグメントに対して実行することができます。ユーザーは、ページ・セグメントを変更し、ページ・セグメントに対して基本機能を実行することができます。変更権限が付与されると、オブジェクト操作権およびすべてのデータ権限を有します。</p>
	<p>*ALL</p> <p>ユーザーに全権限が付与されている場合は、ユーザーは所有者に限定されている操作、あるいは権限リスト管理権限の制御下にある操作を除き、すべての操作をページ・セグメントに対して実行することができます。ユーザーは、ページ・セグメントの存在を管理し、ページ・セグメントのセキュリティを指定し、ページ・セグメントを変更し、ページ・セグメントに対して基本機能を実行します。ユーザーは、ページ・セグメントの所有権を移転することはできません。</p>
	<p>*USE</p> <p>ユーザーに使用権限が付与されている場合は、ユーザーはページ・セグメントの読み取りなどの、ページ・セグメントに対して基本操作を実行することができます。ユーザーはページ・セグメントを変更することは許されていません。使用権限が付与されると、オブジェクト操作権、読み取り権限、および実行権限を使用することができます。</p>
	<p>*EXCLUDE</p> <p>排他権限は、ユーザーがページ・セグメントにアクセスすることを禁じます。</p>
	<p>権限リスト名</p> <p>作成されるページ・セグメント・オブジェクトのセキュリティのために使用される権限リストの名前を指定します。</p> <p>テキスト'記述'</p> <p>ページ・セグメントを簡潔に記述する記述テキストを指定します。記述テキストは、50 文字以内のテキストをアポストロフィで囲んで指定しなければなりません。</p>

フィールド名	説明
置き換え	<p>同じ名前のページ・セグメントがライブラリーの中にすでに存在している場合に、既存のページ・セグメントを置き換えるかどうかを指定します。次の値のいずれか一方を指定することができます。</p> <p>Y (YES) 既存のページ・セグメントを置き換えます。</p> <p>N (NO) 既存のページ・セグメントを置き換えません。</p>

イメージ・サイズの変更 のプロンプトで **Y (YES)** を選択し、実行キーを押すと、「ページ・セグメントへの変換」画面が次のように変わります。

ページ・セグメントへの変換

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ページ・セグメント	LOGO	名前
ライブラリー	MYLIB	名前, *CURLIB
ソース・オブジェクト・タイプ	1	1=PC 文書, 2= ファイル
FROM フォルダー	TOCAFLR	
FROM PC 文書	LOGO	名前
イメージ・サイズの変更	Y	Y=YES, N=NO
選択項目 Y=YES の場合:		
測定単位	1	1= インチ, 2= センチメートル
幅	_____	0.10-22.75 (インチ) 0.10-57.79 (センチメートル)
長さ	_____	0.10-22.75 (インチ) 0.10-57.79 (センチメートル)
		続く ...

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

ページ・セグメントへの変換

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

マッピング・オプション	1	1= 位置決めてトリム 2= 合わせて位取り 3= 中央そろえてトリム 4= 画素へのイメージ・ポイント 5= 二重点線の画素へのイメージ・ポイント
回転の角度	0	0, 90, 180, 270
イメージ・オフセットの変更	N	Y=YES, N=NO
権限	*LIBCRTAUT	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE *ALL, *USE, *EXCLUDE
テキスト ' 記述 '	LOGO	
置き換え	Y	Y=YES, N=NO

終わり

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

次の表は、「ページ・セグメントへの変換」画面に新しく表示されるフィールドについての説明です。

フィールド名	説明
測定単位	<p>このプロンプトが表示されるのは、イメージ・サイズの変更 のプロンプトに Y (はい) を指定した場合だけです。これは幅 と 長さ のプロンプトの測定単位として、インチとセンチメートルのどちらを使用するかを指定します。</p> <p>次の 1 つを選択してください。</p> <ol style="list-style-type: none">1 インチが測定単位として使用されます。2 センチメートルが測定単位として使用されます。
幅	<p>このプロンプトが表示されるのは、イメージ・サイズの変更 のプロンプトに Y (はい) を指定した場合だけです。これは印刷する出力イメージ域の横方向のサイズを指定します。</p> <p>このパラメーターには次の値を指定することができます。</p> <ul style="list-style-type: none">• 0.10～22.75 (インチ)• 0.10～57.79 (センチメートル)
長さ	<p>このプロンプトが表示されるのは、イメージ・サイズの変更 のパラメーターに Y (はい) を指定した場合だけです。これは印刷されるイメージ域の縦方向のサイズを指定します。</p> <p>このプロンプトには次の値を指定することができます。</p> <ul style="list-style-type: none">0.10～22.75 (インチ)0.10～57.79 (センチメートル)

フィールド名	説明
マッピング・オプション	<p>このプロンプトが表示されるのは、イメージ・サイズの変更のプロンプトに Y (はい) を指定した場合だけです。これはイメージを出力イメージ域にマップする方法を指定します。</p> <p>このプロンプトには、次の値のいずれか一方を指定することができます。</p> <p>1 (位置を決めてトリム) 出力イメージ区域の起点にイメージの左上角を合わせて指定します。出力イメージ区域の限界からはみ出すイメージ部分は切り捨てられます。</p> <p>2 (合わせて位取り) イメージの中心を出力イメージ区域の中心に合わせてセットし、イメージ表示スペースが出力イメージ区域の限界内に収まるように縮小されます。</p> <p>3 (中央そろえてトリム) イメージの中心を出力イメージ区域の中心に合わせてセットします。出力イメージ区域の限界からはみ出すイメージ部分は切り捨てられます。</p> <p>4 (イメージ・ポイントから画素) イメージの起点を出力イメージ区域の起点にマップします。出力イメージ区域をはみ出るイメージの部分はブロック境界のところで切り捨てられます。解像度修正は行われません。</p> <p>5 (イメージ・ポイントから二重点線の画素) イメージの起点を出力イメージ区域の起点にマップし、各イメージ・ポイントを二次元とも 2 倍に (コピー) します。出力イメージ区域をはみ出るイメージの部分はブロック境界のところで切り捨てられます。解像度修正は行われません。</p> <p>詳細については、次ページを参照してください。</p>

以下の図は、マッピング・オプションの意味、およびイメージ回転パラメーターについての説明です。

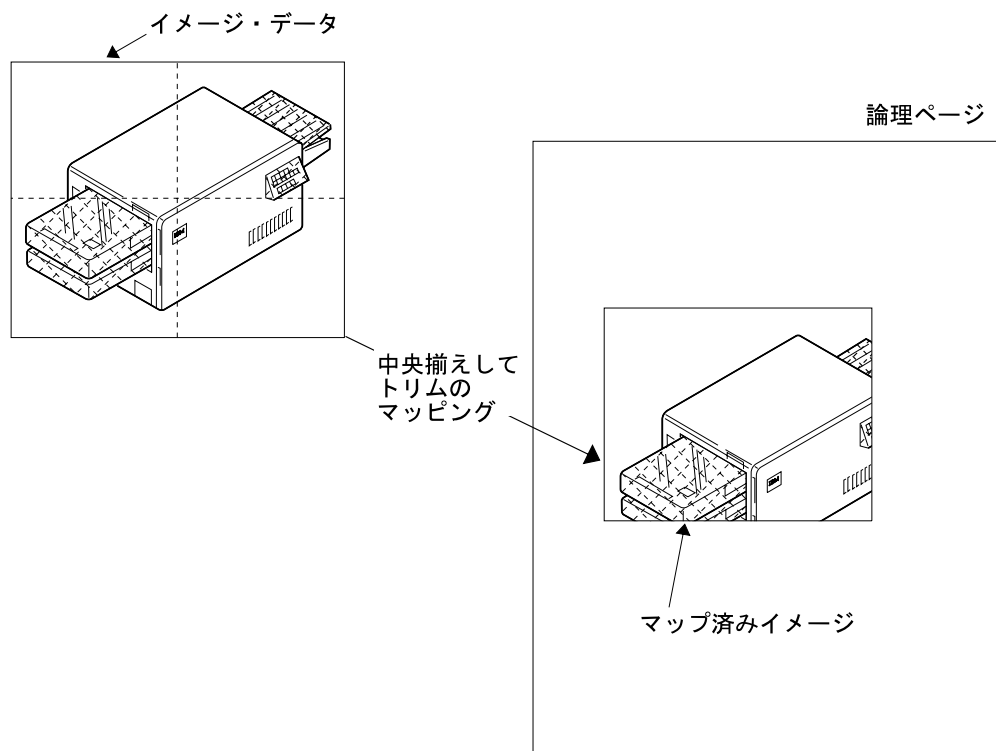


図 23. 位置を決めてトリムするマッピングの例

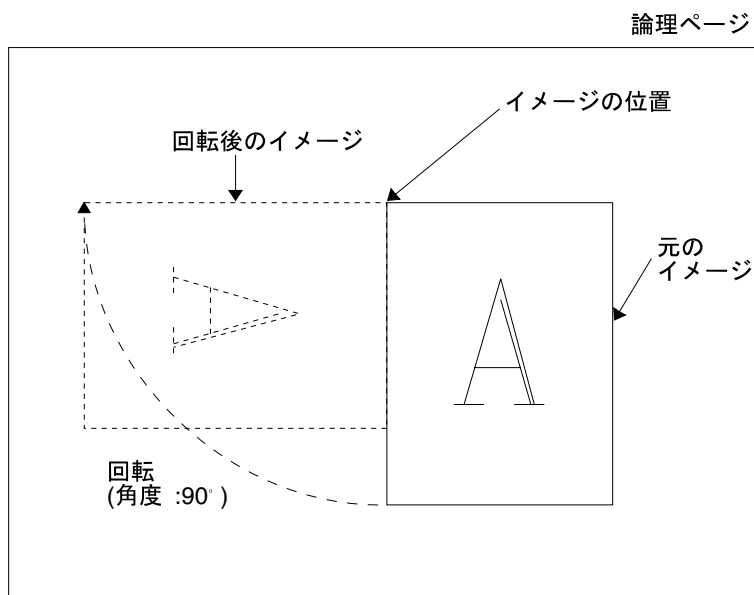


図 24. 合わせて位取りのマッピングの例

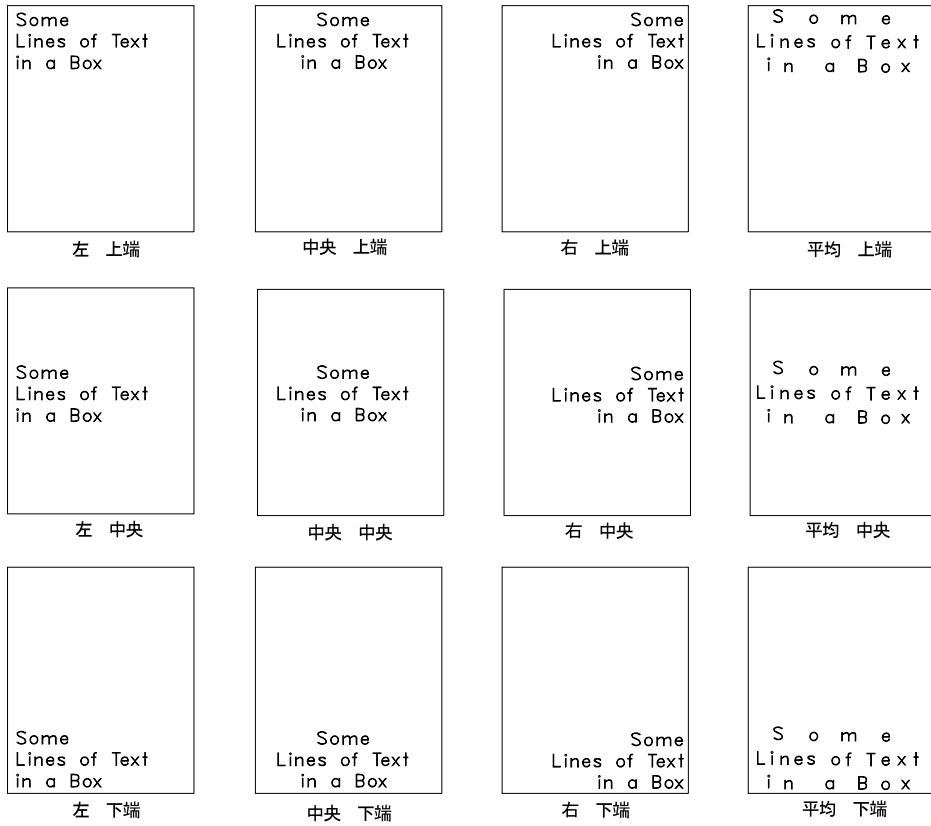


図 25. 中央をそろえてトリムのマッピングの例

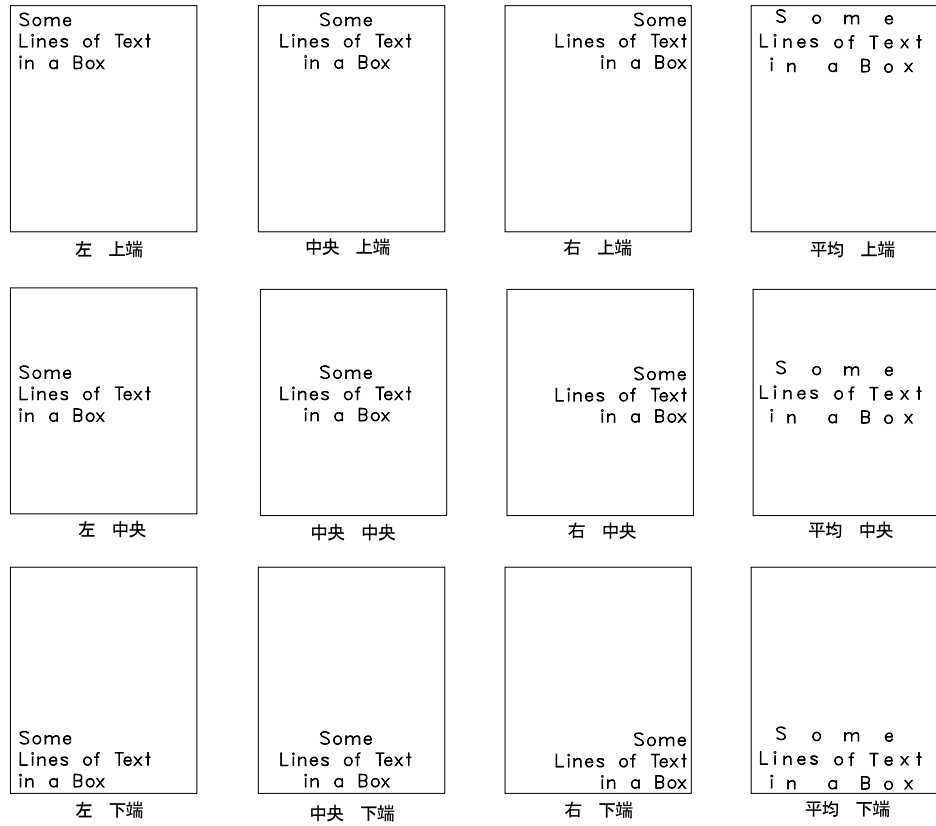


図 26. イメージ・ブロックの回転例

第 19 章 オーバーレイの処理機能

オーバーレイの処理機能によって、オーバーレイ・ユーティリティーによって作成したオーバーレイ・オブジェクトのコピー、削除、名前の変更、および印刷を行うこと、オーバーレイの記述を表示して変更すること、および選択したライブラリーの中に入っているオーバーレイのリストから、オーバーレイ・オブジェクトを物理ファイルに変換することができます。

オーバーレイの処理機能を使用するには、365 ページの「IBM Advanced Function Printing Utilities」のメニュー画面で、「選択項目またはコマンド」行に 22 と入力して、実行キーを押してください。次の画面が表示されます。

オーバーレイの処理		
ライブラリー	<u>OVLLIB</u>	名前, *LIBL, *CURLIB *ALL, *USRLIBL, *ALLUSR
オーバーレイ	<u>*ALL</u>	名前, 総称 *, *ALL
位置指定	<u> </u>	開始文字
オプションを入力して、実行キーを押してください。 3= コピー 4= 削除 6= 印刷 7= 名前の変更 8= 記述の表示 9= ファイルへの変換 13= テキストの変更		
OPT オーバーレイ ライブラリー テキスト		
<u> </u> STATIONE	<u> </u> OVLLIB	用紙番号 3 からのサンプル
		終わり
パラメーターまたはコマンド		
===>		
F3= 終了	F4= プロンプト	F5= 最新表示
F9= コマンドの複写	F11= 名前だけの表示	F12= 取り消し

「オーバーレイの処理」画面には、指定したライブラリーの中に入っているオーバーレイのリストが表示されます。オーバーレイのプロンプトにオーバーレイ名または総称名を指定した場合は、その指定した値と一致するオーバーレイだけがリストに入れられます。

次の表は、「オーバーレイの処理」画面についての説明です。

プロンプト

表 69. オーバーレイの処理機能プロンプト

プロンプト	説明
ライブラリー	<p>リストするオーバーレイが入っているライブラリーの名前を指定します。このプロンプトに指定できるライブラリー値としては、以下のものがあります。</p> <p>*LIBL ライブラリー・リストを使用して、オーバーレイをリストします。ライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーにあるオーバーレイが、すべてリストされます。</p> <p>*USRLIBL ライブラリー・リストのユーザー部分を使用して、オーバーレイのリストを作成します。</p> <p>*CURLIB ジョブの現行ライブラリーを使用して、オーバーレイをリストします。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。</p> <p>*ALL システム内のライブラリーをすべて使用して、オーバーレイのリストを作成します。</p> <p>*ALLUSR システム内のすべてのユーザー・ライブラリーを使用して、オーバーレイのリストを作成します。すべてのユーザー・ライブラリーとは、名前が Q で始まっていないすべてのライブラリーと QGPL ライブラリーを意味します。</p> <p>名前 指定されたライブラリーを使用して、オーバーレイのリストを作成します。</p>
オーバーレイ	<p>リストしたいオーバーレイの名前を指定します。このパラメーターを使用すると、指定したライブラリーの中に入っているオーバーレイのすべて、またはサブセットを処理することができます。</p> <p>*ALL 指定したライブラリーに入っているすべてのオーバーレイをリストするには、*ALL を指定してください。</p>
総称*	<p>総称名で始まるオーバーレイ名のリストを表示するには、オーバーレイ名の部分名をアスタリスク (*) で修飾して指定してください。</p>
位置指定	<p>名前 リストに表示したいオーバーレイの名前を指定してください。このプロンプトは、リストをすばやく位置変更するために使用します。リストのサブセット作成用ではありません。次の項目の中から 1 つを選択してください。</p> <p>*TOP *TOP を指定すると、リストの最上部に進みます。</p> <p>*BOT *BOT を指定すると、リストの最下部に進みます。</p> <p>名前または部分名 リストの中の進みたい先の名前または部分名を指定します。リストは、指定したストリングで始まる最初の名前に位置指定されます。</p>

オプション

表 70. オーバーレイの処理機能オプション

オプション	説明
3= コピー	<p>このオプションを指定すると、「複製オブジェクト作成 (CRTDUPOBJ)」コマンドを使用して、オーバーレイ・オブジェクトをコピーすることができます。</p> <p>コピーしたいオーバーレイの隣の <i>OPT</i> の欄に 3 (コピー) を指定し、実行キーを押してください。</p> <p>オーバーレイを作成するライブラリはすでに存在していなければなりません。存在しない場合は、オーバーレイをコピーする前に、「ライブラリ作成 (CRTLIB)」コマンドを使用して、そのライブラリを作成してください。</p>
4= 削除	<p>このオプションを指定すると、AFP ユーティリティは、「オーバーレイ削除 (DLTOVL)」コマンドを使用して、オーバーレイ・オブジェクトを削除します。</p> <p>削除したいオーバーレイの隣の <i>OPT</i> の欄に 4 (削除) を指定し、実行キーを押してください。</p>
6= 印刷	<p>このオプションを指定すると、オーバーレイ・オブジェクトを印刷することができます。</p> <p>印刷したいオーバーレイの隣の <i>OPT</i> の欄に 6 (印刷) を指定し、実行キーを押してください。</p>
7= 名前の変更	<p>このオプションを選択すると、オーバーレイ・オブジェクトの名前の変更をすることができます。</p> <p>名前変更したいオーバーレイの隣の <i>OPT</i> の欄に 7 (名前の変更) を指定し、実行キーを押してください。</p>
8= 記述の表示	<p>このオプションを指定すると、「オブジェクト記述表示 (DSPOBJD)」コマンドを使用して、オーバーレイの記述を表示することができます。</p> <p>記述を表示したいオーバーレイの隣の <i>OPT</i> の欄に 8 (記述の表示) を指定し、実行キーを押してください。</p>
9= ファイルへの変換	<p>このオプションを使用すれば、オーバーレイを物理ファイル・メンバーに変換することができます。</p> <p>物理ファイル・メンバーに変換したいオーバーレイの隣の <i>OPT</i> の欄に 9 (ファイルへの変換) を指定し、実行キーを押してください。</p>
13= テキストの変更	<p>このオプションを指定すると、「オブジェクト記述変更 (CHGOBJD)」コマンドを使用して、オーバーレイの記述を変更することができます。</p> <p>記述を変更したいオーバーレイの隣の <i>OPT</i> の欄に 13 (テキストの変更) を指定し、実行キーを押してください。</p>

欄

表 71. オーバーレイの処理機能欄

欄	説明
Opt	処理したいオーバーレイの隣にオプションの番号を指定します。
オーバーレイ	指定したライブラリーに入っているオーバーレイの名前を表示します。
ライブラリー	オーバーレイが入っているライブラリーの名前を表示します。
テキスト	オーバーレイを記述するテキストを表示します。

3= オーバーレイ・オブジェクトのコピー

オーバーレイ・オブジェクトをコピーするには、385 ページに示してある「オーバーレイの処理」画面で、以下を行ってください。

1. コピーしたいオーバーレイの隣の *OPT* の欄に 3 と入力する。
2. 実行キーを押す。

これで CL コマンド **CRTDUPOBJ** が呼び出されます。

4= オーバーレイの削除

オーバーレイ・オブジェクトを削除するには、385 ページに示してある「オーバーレイの処理」画面で、以下を行ってください。

1. 削除したいオーバーレイの隣の *OPT* の欄に 4 と入力する。
2. 実行キーを押す。

「オーバーレイの削除の確認」画面が表示されます。

オーバーレイの削除の確認

「4= 削除」の選択項目が正しい場合には、実行キーを押してください。
選択項目を変更するためには、F12 キーを押して戻ってください。

OPT	オーバーレイ	ライブラリー	テキスト
4	STATIONE	OVLLIB	用紙番号 3 からのサンプル

終わり

F11= 名前だけの表示 F12= 取り消し

この画面には、前の画面で削除するように指定したオーバーレイがリストされています。

リストを確認し、削除する場合は実行キーを押し、削除を取り消す場合は F12 キーを押してください。実行キーを押すと、CL コマンド DLTOVL が呼び出されます。

次の表は、「オーバーレイの削除の確認」画面についての説明です。

表 72. 「オーバーレイの削除の確認」画面のフィールド

フィールド名	説明
Opt	OPT の欄には、確認画面を表示させた削除オプションが表示されます。この画面では、オプション番号は常に 4 です。
オーバーレイ ライブラリー	前の画面で削除するように指定したオーバーレイがリストされます。 前の画面で削除するように指定したオーバーレイが入っているライブラリーがリストされます。
テキスト	前の画面で削除するように指定したオーバーレイを記述するテキストが表示されます。

6= オーバーレイの印刷

オーバーレイ・オブジェクトを印刷するには、385 ページに示してある「オーバーレイの処理」画面で、以下を行ってください。

1. 印刷したいオーバーレイの隣の OPT の欄に 6 と入力する。
2. 実行キーを押す。

「オーバーレイの印刷」画面が表示されます。

オーバーレイの印刷

オーバーレイ : STATIONE
ライブラリー : OVLLIB

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

出力待ち行列	*JOB	名前, *JOB
ライブラリー	_____	名前, *LIBL, *CURLIB
コピー部数	1	1-255
印刷精度	*CONTENT	*CONTENT, *ABSOLUTE

終わり

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

オーバーレイの印刷機能を使用して IPDS 印刷装置でオーバーレイを印刷することができます。

この画面では、出力キューの名前、コピー部数、および印刷精度を指定することができます。

次の表は、「オーバーレイの印刷」画面についての説明です。

表 73. 「オーバーレイの印刷」画面のフィールド

フィールド名	説明
オーバーレイ ライブラリー 出力キュー	<p>印刷するオーバーレイのネームを示します。 オーバーレイが入っているライブラリーの名前を示します。 スプール・ファイルを作成する出力キューの名前を指定します。</p> <p>指定できる値は次のとおりです。</p> <p>*JOB このジョブに関連したジョブ記述の中で指定された、出力キューを使用することを指定します。</p> <p>これは省略時の値です。</p> <p>出力キュー名 使用する出力キューの名前を指定します。</p>
ライブラリー	<p>出力キューを見つけるためのライブラリーの名前を指定します。指定できる事前定義値は次のとおりです。</p> <p>*LIBL ライブラリー・リストを使用して、出力キューを見つけます。</p> <p>*CURLIB ジョブの現行ライブラリーを使用して、出力キューを見つけます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。</p> <p>ライブラリー名 出力キューが入っているライブラリーを指定します。</p>
コピー部数	<p>印刷したい部数を指定します。指定できる値の範囲は 1 から 255 までです。</p>
印刷精度	<p>オーバーレイの印刷時に必要な正確さの程度を指定します。指定できる事前定義値は次のとおりです。</p> <p>*CONTENT 使用可能な例外処理をすべて使用して、オーバーレイを印刷します。</p> <p>*ABSOLUTE ジョブが印刷されるのは、データ・ストリームおよび外部制御によって指定されたとおりにオーバーレイが印刷できる場合だけです。</p>

7= オーバーレイの名前の変更

オーバーレイの名前の変更をするには、385 ページの「オーバーレイの処理」画面で、次のことを行ってください。

1. 名前の変更をしたいオーバーレイの隣の *OPT* の欄に 7 と入力する。
2. 実行キーを押す。

CL コマンド *RNMOBJ* が呼び出されます。

8= オーバーレイ記述の表示

オーバーレイ記述を表示するには、385 ページに示してある「オーバーレイの処理」画面で、以下を行ってください。

1. 記述を表示したいオーバーレイの隣の *OPT* の欄に 8 と入力する。
2. 実行キーを押す。

CL コマンド *DSPOBJD* が呼び出されます。

9= 物理ファイル・メンバーへのオーバーレイの変換

オーバーレイを物理ファイル・メンバーに変換するには、385 ページの「オーバーレイの処理」画面で次の操作を行ってください。

注: ターゲット・システムでオーバーレイを使用する前に、そのオーバーレイを使用するために必要な資源 (たとえば、フォント、ページ・セグメント) がターゲット・システムに存在していることを確認しなければなりません。オーバーレイの転送だけでは、不十分である場合があります。ターゲット・システムの印刷サービス機能のバージョンおよびサポートされる構造化フィールドも確認する必要があります。

iSeries システムで使用できるオーバーレイが、ターゲット・システムで常に使用できるとは限りません。

1. 物理ファイル・メンバーに変換したいオーバーレイの名前の隣の *OPT* の欄に 9 を入力する。
2. 実行キーを押す。

次の画面が表示されます。

PFM へのオーバーレイの変換

オーバーレイ : SMPLOVL
 ライブラリー : QGPL

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

データの形式	-	1= 固定, 2= 連続
T0 ファイル	-	名前, *VM, *MVS
ライブラリー	<u>*CURLIB</u>	名前, *CURLIB
T0 メンバー	<u>*OVL</u>	名前, *OVL
テキスト '記述'	<u>*OVLTXT</u>	
<hr/>		
置き換え	N	Y=YES, N=NO
ファイルの作成	<u>N</u>	Y=YES, N=NO

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

1. プロンプトにデータを入力する。
2. 実行キーを押す。

ファイルの作成 プロンプトに 'Y' を指定すると、テキスト '記述' プロンプトが次のように表示されます。

PFM へのオーバーレイの変換

オーバーレイ : SMPLOVL
 ライブラリー : QGPL

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

データの形式	-	1= 固定, 2= 連続
T0 ファイル	-	名前, *VM, *MVS
ライブラリー	<u>*CURLIB</u>	名前, *CURLIB
T0 メンバー	<u>*OVL</u>	名前, *OVL
テキスト '記述'	<u>*OVLTXT</u>	
<hr/>		
置き換え	N	Y=YES, N=NO
ファイルの作成	<u>Y</u>	Y=YES, N=NO
テキスト '記述'	<u>-</u>	

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

下表は、「オーバーレイのファイルへの変換」画面についての説明です。

表 74. 「オーバーレイのファイルへの変換」画面のフィールド

フィールド名	説明
オーバーレイ ライブラリー データの形式	<p>物理ファイル・メンバーに変換するオーバーレイの名前を示します。 オーバーレイが入っているライブラリーの名前を示します。 データを物理ファイル・メンバーに埋め込む方法を指定します。</p> <p>指定できる値は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 つのレコードには、1 つの構造化フィールドがあります。埋め込み文字は 2 進数の 0 です。固定様式を使用するファイルのレコード長は、オーバーレイの中の AFPDS 構造化フィールドの最大の長さです。既存のファイルの長さが、構造化フィールドの最大の長さより短い場合には、エラー・メッセージが表示されます。既存のファイルの長さが、構造化フィールドの最大の長さより大きい場合には、レコードの最後に埋め込み文字が追加されます。この様式は、VM システム用または MVS システム用です。 2 構造化フィールドは、連続して埋め込まれ、折り返されます。最後のレコードだけが、埋め込み文字を追加されます。埋め込み文字は 2 進数の 0 です。既存のファイルのいずれのレコード長も受け入れられます。作成されるファイルのレコード長は、256 バイトです。この様式は、OS/2* 用です。
TO ファイル	<p>これは、必要パラメーターです。 オーバーレイ・データを埋め込むために使用する物理ファイルの修飾名を指定します。</p> <p>*VM 名前 OVLY38PP の使用を指定します。これは、VM システム上のオーバーレイに有効なファイル・タイプになります。</p> <p>*MVS 名前 O1xxxxxx の使用を指定します。'xxxxxx' は、オーバーレイ プロンプトに指定した名前の最初の有効な 6 文字です。これは、MVS システム上のオーバーレイに有効なメンバー名になります。</p>
ライブラリー	<p>ファイル名 オーバーレイ・データを置くファイル名を指定します。</p> <p>指定できる値は次のとおりです。</p> <p>*CURLIB ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルを見つけます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合は、QGPL が使用されます。</p> <p>ライブラリー名 ファイルが入っているライブラリーを指定します。</p>

表 74. 「オーバーレイのファイルへの変換」画面のフィールド (続き)

フィールド名	説明
メンバー	<p>オーバーレイ・データによって埋め込まれる物理ファイル・メンバーの名前を使用することを指定します。</p> <p>指定できる値は次のとおりです。</p> <p>*OVL オーバーレイ フィールドに表示されたオーバーレイの名前が使用されることを指定します。</p> <p>メンバー名</p>
テキスト'記述'	<p>オーバーレイ・データを埋め込むメンバー名を指定します。メンバーとその機能を簡単に説明するテキストを指定します。記述は、50 文字以内のテキストをアポストロフィで囲んで指定しなければなりません。</p> <p>指定できる値は次のとおりです。</p> <p>*OVLTXT</p> <p>オーバーレイ フィールドに表示されたオーバーレイに関する記述と同じ記述を使用することを指定します。</p> <p>'記述' メンバーの記述を指定します。</p>
置き換え	<p>同じ名前の物理ファイル・メンバーが、ライブラリーの中にすでに存在している場合に、既存の物理ファイル・メンバーを物理ファイル・メンバーが置き換えるかどうかを指定します。</p> <p>指定できる値は次のとおりです。</p> <p><u>N</u> 同じ名前の古い物理ファイル・メンバーが、ライブラリーの中にすでに存在している場合には、新しい物理ファイル・メンバーは作成されません。</p> <p>Y</p> <p>新しい物理ファイル・メンバーが作成され、古い物理ファイル・メンバーはそれによって置き換えられます。</p>
ファイルの作成	<p>ファイルが存在しない場合に、ファイルを作成するかどうかを指定します。</p> <p>指定できる値は次のとおりです。</p> <p><u>N</u> ファイルを作成しません。</p> <p>Y ファイルを作成します。</p>
テキスト'記述'	<p>ファイルとその機能を簡単に説明するテキストを指定します。このプロンプトは、ファイルの作成 プロンプトに Y を指定したときだけ有効です。記述は、50 文字以内のテキストをアポストロフィで囲んで指定しなければなりません。</p>

13= オーバーレイ・テキストの変更

オーバーレイ・テキストを変更するには、385 ページに示してある「オーバーレイの処理」画面で、以下を行ってください。

1. 記述テキストを変更したいオーバーレイの隣の *OPT* の欄に 13 と入力する。
2. 実行キーを押す。

CL コマンド `CHGOBJD` が呼び出されます。

第 20 章 ページ・セグメントの処理機能

ページ・セグメントの処理機能によって、ページ・セグメントのコピー、削除、名前の変更、および印刷を行うこと、ページ・セグメントの記述を表示して変更すること、および選択したライブラリーの中にあるページ・セグメントのリストから、ページ・セグメントを物理ファイル・メンバーに変換することができます。

ページ・セグメントの処理機能を使用するには、365 ページの「IBM Advanced Function Printing Utilities」のメニュー画面で、「選択項目またはコマンド」行に 23 と入力して、実行キーを押してください。「ページ・セグメントの処理」画面が表示されます。

ページ・セグメントの処理		
ライブラリー	*LIBL _____	名前, *LIBL, *CURLIB *ALL, *USRLIBL, *ALLUSR
ページ・セグメント	*ALL _____	名前, 総称 *, *ALL
位置指定	_____	開始文字
オプションを入力して、実行キーを押してください。		
3= コピー 4= 削除 6= 印刷 7= 名前の変更 8= 記述の表示		
9= ファイルへの変換 13= テキストの変更		
ページ		
OPT	セグメント	ライブラリー テキスト
-	QFCPAGS QAFP	SAMPLE PAGE SEGMENT - IM1 FORMAT
-	QFCPAGS2 QAFP	SAMPLE PAGE SEGMENT - IOCA FUNCTION SET 10 FORMAT
-	BEAR QGPL	BEAR
-	QFCLOGO QGPL	SAMPLE PAGE SEGMENT - IM1 FORMAT
-	QFCLOGO2 QGPL	SAMPLE PAGE SEGMENT - IOCA FUNCTION SET 10 FORMAT
		終わり
パラメーターまたはコマンド		
===>		
F3= 終了	F4= プロンプト	F5= 最新表示 F9= コマンドの複写
F11= 名前だけの表示	F12= 取り消し	

「ページ・セグメントの処理」画面には、指定したライブラリーの中のページ・セグメントのリストが表示されます。ページ・セグメントのプロンプトにページ・セグメント名または総称名を指定した場合は、指定した値と一致するページ・セグメントだけがリストに入っています。

ページ・セグメントのコピー、削除、名前の変更、および印刷を行うこと、ページ・セグメントのテキスト記述を表示して変更すること、ならびにページ・セグメントのリストからページ・セグメントを物理ファイル・メンバーに変換することができます。

次の表は、「ページ・セグメントの処理」画面についての説明です。

プロンプト

表 75. ページ・セグメントの処理機能プロンプト

プロンプト	説明
ライブラリー	<p>リストしたいページ・セグメントが入っているライブラリーの名前を指定します。このプロンプトに指定できるライブラリー値としては、以下のものがあります。</p> <p>*LIBL ライブラリー・リストを使用して、ページ・セグメントのリストを作成します。ライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーに存在しているページ・セグメントが、すべてリストに含まれます。</p> <p>*USRLIBL ライブラリー・リストのユーザー部分を使用して、ページ・セグメントのリストを作成します。</p> <p>*CURLIB ジョブの現行ライブラリーを使用して、ページ・セグメントのリストを作成します。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されません。</p> <p>*ALL システム内のライブラリーをすべて使用して、ページ・セグメントのリストを作成します。</p> <p>*ALLUSR システム内のすべてのユーザー・ライブラリーを使用して、ページ・セグメントのリストを作成します。すべてのユーザー・ライブラリーとは、名前が Q で始まっていないすべてのライブラリーと QGPL ライブラリーを意味します。</p>
名前	<p>指定されたライブラリーを使用して、ページ・セグメントのリストを作成します。</p>
ページ・セグメント	<p>リストするページ・セグメントの名前を指定します。このプロンプトを使用すると、指定したライブラリーに入っているページ・セグメントのすべて、またはサブセットを処理することができます。</p> <p>*ALL 指定したライブラリーの中のすべてのページ・セグメントのリストを表示する場合は、*ALL を指定してください。</p>
総称*	<p>総称名で始まるページ・セグメント名のリストを表示する場合は、ページ・セグメント名の部分名をアスタリスク (*) で修飾して指定してください。</p>
名前	<p>リストに表示したいページ・セグメントの名前を指定してください。</p>

表 75. ページ・セグメントの処理機能プロンプト (続き)

プロンプト	説明
位置指定	<p>このプロンプトは、リストをすばやく位置変更するために使用します。リストのサブセット作成用ではありません。次の項目の中から 1 つを選択してください。</p> <p>*TOP *TOP を指定すると、リストの最上部に進みます。</p> <p>*BOT *BOT を指定すると、リストの最下部に進みます。</p> <p>名前または部分名 リストの中の進みたい先の名前または部分名を指定します。リストは、指定したストリングで始まる最初の名前に位置指定されます。</p>

オプション

表 76. ページ・セグメントの処理機能オプション

オプション	説明
3= コピー	<p>このオプションを指定すると、「複製オブジェクト作成 (CRTDUPOBJ)」コマンドを使用して、ページ・セグメントをコピーすることができます。</p> <p>コピーしたいページ・セグメントの隣の <i>OPT</i> の欄に 3 (コピー) を指定し、実行キーを押してください。</p> <p>別のライブラリーにページ・セグメントをコピーするときは、そのライブラリーはすでに存在していなければなりません。存在しない場合は、いずれかの画面のコマンド入力行に「ライブラリー作成 (CRTLIB)」コマンドを入力してそのライブラリーを作成してください。</p>
4= 削除	<p>このオプションを指定すると、「ページ・セグメント削除 (DLTPAGSEG)」コマンドを使用して、ページ・セグメントを削除することができます。</p> <p>削除したいページ・セグメントの隣の <i>OPT</i> の欄に 4 (削除) を指定し、実行キーを押してください。</p>
6= 印刷	<p>このオプションを使用すると、ページ・セグメントを印刷することができます。</p> <p>印刷したいページ・セグメントの隣の <i>OPT</i> の欄に 6 (印刷) を指定し、実行キーを押してください。</p>
7= 名前の変更	<p>このオプションを使用すると、ページ・セグメントの名前の変更をすることができます。</p> <p>名前の変更をしたいページ・セグメントの隣の <i>OPT</i> の欄に 7 (名前の変更) を指定し、実行キーを押してください。</p>
8= 記述の表示	<p>このオプションを指定すると、「オブジェクト記述表示 (DSPOBJD)」コマンドを使用して、ページ・セグメントの記述を表示することができます。</p> <p>記述を表示したいページ・セグメントの隣の <i>OPT</i> の欄に 8 (記述の表示) を指定し、実行キーを押してください。</p>
9= ファイルへの変換	<p>このオプションを使用すれば、ページ・セグメントを物理ファイル・メンバーに変換することができます。</p> <p>物理ファイル・メンバーに変換したいページ・セグメントの隣の <i>OPT</i> の欄に 9 (ファイルに変換) を指定し、実行キーを押してください。</p>
13= テキストの変更	<p>このオプションを使用すると、「オブジェクト記述変更 (CHGOBJD)」コマンドを使用して、ページ・セグメントの記述を変更することができます。</p> <p>記述を変更したいページ・セグメントの隣の <i>OPT</i> の欄に 13 (テキストの変更) を指定し、実行キーを押してください。</p>

欄

表 77. ページ・セグメントの処理機能欄

欄	説明
Opt	処理したいページ・セグメントの隣にオプションの番号を指定します。
ページ・セグメン ト	指定したライブラリーの中のページ・セグメントの名前を示します。
ライブラリー	ページ・セグメントが入っているライブラリーの名前を示します。
テキスト	ページ・セグメントを記述するテキストを示します。

3= ページ・セグメントのコピー

ページ・セグメントをコピーする場合は、397 ページに示してある「ページ・セグメントの処理」画面で、次のことを行ってください。

1. コピーしたいページ・セグメントの隣の *OPT* の欄に 3 と入力する。
2. 実行キーを押す。

CL コマンド CRTDUPOBJ が表示されます。

4= ページ・セグメントの削除

ページ・セグメントを削除する場合は、397 ページに示してある「ページ・セグメントの処理」画面で、次のことを行ってください。

1. 削除したいページ・セグメントの隣の *OPT* の欄に 4 と入力する。
2. 実行キーを押す。

「ページ・セグメントの削除の確認」画面が表示されます。

ページ・セグメントの削除の確認

「4= 削除」の選択項目が正しい場合には、実行キーを押してください。
選択項目を変更するためには、F12 キーを押して戻ってください。

ページ	セグメント	ライブラリー	テキスト
4	BEAR	QGPL	BEAR

終わり

F11= 名前だけの表示 F12= 取り消し

この画面には、前の画面で削除するように指定したページ・セグメントがすべてリストされます。

リストのページ・セグメントを削除する場合は、実行キーを押し、削除を取り消す場合は、F12 キーを押してください。実行キーを押すと、CL コマンド DLTPAGSEG が呼び出されます。

次の表は、「ページ・セグメントの削除の確認」画面についての説明です。

表 78. 「ページ・セグメントの削除の確認」画面のフィールド

フィールド名	説明
Opt	<i>OPT</i> の欄には、削除オプションが表示されます。この画面では、常に 4 という番号が表示されます。
ページ・セグメント	前の画面で削除するように指定したページ・セグメントがリストされます。
ライブラリー	前の画面で削除するように指定したページ・セグメントが入っているライブラリーがリストされます。
テキスト	前の画面で削除するように指定したページ・セグメントを記述するテキストが表示されます。

6= ページ・セグメントの印刷

ページ・セグメントを印刷する場合は、397 ページに示してある「ページ・セグメントの処理」画面で、次のことを行ってください。

1. 印刷したいページ・セグメントの隣の *OPT* の欄に 6 と入力する。
2. 実行キーを押す。

「ページ・セグメントの印刷」画面が表示されます。

ページ・セグメントの印刷

ページ・セグメント : BEAR
ライブラリー : QGPL

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

出力待ち行列	<u>*JOB</u>	名前, *JOB
ライブラリー	_____	名前, *LIBL, *CURLIB
コピー部数	<u>1</u>	1-255
印刷精度	<u>*CONTENT</u>	*CONTENT, *ABSOLUTE

終わり

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

ページ・セグメントの印刷機能を使用すると、IPDS 印刷装置でページ・セグメントを印刷することが可能になります。

この画面では、出力キューの名前、コピー部数、および印刷精度を指定することができます。

次の表は、「ページ・セグメントの印刷」画面についての説明です。

表 79. 「ページ・セグメントの印刷」画面のフィールド

フィールド名	説明
ページ・セグメント	印刷するページ・セグメントの名前を示します。
ライブラリー	ページ・セグメントが入っているライブラリーの名前を示します。
出力キュー	スプール・ファイルを作成する出力キューの名前を指定します。
	指定できる値は次のとおりです。
	*JOB このジョブに関連したジョブ記述の中で指定された出力キューを使用することを指定します。
	これは省略時の値です。
	出力キュー名
	使用する出力キューの名前を指定します。
ライブラリー	出力キューを見つけるためのライブラリーの名前を指定します。指定できる事前定義値は次のとおりです。
	*LIBL ライブラリー・リストを使用して、出力キューを見つけます。
	*CURLIB
	ジョブの現行ライブラリーを使用して、出力キューを見つけます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。
	ライブラリー名
	出力キューが入っているライブラリーを指定します。
コピー部数	印刷したい部数を指定します。指定できる値の範囲は 1 から 255 までです。
印刷精度	ページ・セグメントの印刷時に必要な正確さの程度を指定します。指定できる事前定義値は次のとおりです。
	*CONTENT
	使用可能な例外処理をすべて使用して、オーバーレイを印刷します。
	*ABSOLUTE
	ジョブが印刷されるのは、データ・ストリームおよび外部制御によって指定されたとおりにオーバーレイが印刷できる場合だけです。

7= ページ・セグメントの名前の変更

ページ・セグメントの名前の変更をするには、397 ページに示した「ページ・セグメントの処理」画面で次のことを行ってください。

1. 名前の変更をしたいページ・セグメントの隣の *OPT* の欄に 7 と入力する。
2. 実行キーを押す。

CL コマンド *RNMOBJ* が呼び出されます。

8= ページ・セグメント記述の表示

ページ・セグメント記述を表示するには、397 ページの「ページ・セグメントの処理」画面で、次のことを行ってください。

1. 記述を表示したいページ・セグメント名の隣の *OPT* の欄に 8 と入力する。
2. 実行キーを押す。

CL コマンド *DSPOBJD* が呼び出されます。

9= 物理ファイル・メンバーへのページ・セグメントの変換

ページ・セグメントを物理ファイル・メンバーに変換するには、397 ページの「ページ・セグメントの処理」画面で次の操作を行ってください。

注: ターゲット・システムの印刷サービス機能のバージョンおよびサポートされる構造化フィールドを確認しなければなりません。

iSeries システムで使用されるページ・セグメントが、ターゲット・システムで常に使用できるとは限りません。

1. 物理ファイル・メンバーに変換したいページ・セグメント名の隣の *OPT* の欄に 9 と入力する。
2. 実行キーを押す。

次の画面が表示されます。

PFM へのページ・セグメントの変換		
ページ・セグメント	QFCLOGO	
ライブラリー	QGPL	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
データの形式	-	1= 固定, 2= 連続
T0 ファイル		名前, *VM, *MVS
ライブラリー	*CURLIB	名前, *CURLIB
T0 メンバー	*PAGSEG	名前, *PAGSEG
テキスト '記述'	*PSGTX	
置き換え	N	Y=YES, N=NO
ファイルの作成	N	Y=YES, N=NO
F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し		

1. プロンプトにデータを入力する。
2. 実行キーを押す。

ファイルの作成 プロンプトに 'Y' を指定して、実行キーを押すと、そのファイルのテキスト '記述' プロンプトが表示されます。

PFM へのページ・セグメントの変換

ページ・セグメント : QFCLOGO
 ライブラリー : QGPL

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

データの形式	-	1= 固定, 2= 連続
T0 ファイル	-	名前, *VM, *MVS
ライブラリー	*CURLIB	名前, *CURLIB
T0 メンバー	*PAGSEG	名前, *PAGSEG
テキスト '記述'	*PSGTXT	
<hr/>		
置き換え	N	Y=YES, N=NO
ファイルの作成	Y	Y=YES, N=NO
テキスト '記述'	-	
<hr/>		

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

次の表は、「ファイルへのページ・セグメントの変換」画面についての説明です。

表 80. 「ファイルへのページ・セグメントの変換」画面のフィールド

フィールド名	説明
ページ・セグメント	物理ファイル・メンバーに変換するページ・セグメントの名前を示します。
ライブラリー	ページ・セグメントが入っているライブラリーの名前を示します。
データの形式	データを物理ファイル・メンバーに埋め込む方法を指定します。
	指定できる値は次のとおりです。
1	1 つのレコードには、1 つの構造化フィールドがあります。レコードの残りの部分には、2 進数の 0 が埋め込まれます。固定様式を使用するファイルのレコード長は、ページ・セグメントの中の AFPDS 構造化フィールドの最大の長さです。既存のファイルのレコード長が、最長の構造化フィールドの長さより短い場合には、エラー・メッセージが表示されます。既存のファイルのレコード長が、最長の構造化フィールドの長さより長い場合には、2 進数の 0 が埋め込まれます。この様式は、VM システム用または MVS システム用です。
2	構造化フィールドは、連続して埋め込まれ、折り返されます。最後のレコードだけが、埋め込み文字を追加されます。埋め込み文字は 2 進数の 0 です。既存のファイルのいずれのレコード長も受け入れられます。ファイルが作成される場合、ファイルのレコード長は、256 バイトです。この様式は、OS/2* 用です。これは、必要パラメーターです。

表 80. 「ファイルへのページ・セグメントの変換」画面のフィールド (続き)

フィールド名	説明
TO ファイル	<p>ページ・セグメント・データを埋め込むために使用する物理ファイルの修飾名を指定します。</p> <p>指定できる値は次のとおりです。</p> <p>*VM 名前 PSEG38PP の使用を指定します。これは、VM システム上のページ・セグメントに有効なファイル・タイプになります。</p> <p>*MVS 名前 S1xxxxxx の使用を指定します。'xxxxxx' は、ページ・セグメント・プロンプトに指定した名前の最初の有効な 6 文字です。これは、MVS システム上のページ・セグメントに有効なメンバー名になります。</p> <p>ファイル名 ページ・セグメント・データを入れるファイル名を指定します。</p>
ライブラリー	<p>指定できる値は次のとおりです。</p> <p>*CURLIB ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルを見つけます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。</p> <p>ライブラリー名 ファイルが入っているライブラリーを指定します。</p>
メンバー	<p>ページ・セグメント・データによって埋め込まれる物理ファイル・メンバーの名前を使用することを指定します。</p> <p>指定できる値は次のとおりです。</p> <p>*PAGSEG ページ・セグメント フィールドに表示されたページ・セグメントの名前の使用を指定します。</p> <p>メンバー名 ページ・セグメント・データを埋め込むメンバー名を指定します。</p>
テキスト'記述'	<p>メンバーとその機能を簡単に説明するテキストを指定します。記述は、50 文字以内のテキストをアポストロフィで囲んで指定しなければなりません。</p> <p>指定できる値は次のとおりです。</p> <p>*PSGTXT ページ・セグメント フィールドに表示されたページ・セグメントに関する記述と同じ記述を使用することを指定します。</p> <p>'記述' メンバーの記述を指定します。</p>

表 80. 「ファイルへのページ・セグメントの変換」画面のフィールド (続き)

フィールド名	説明
置き換え	<p>すでに同じファイルおよびライブラリーに存在している、同じ名前の物理ファイル・メンバーを置き換えるかどうかを指定します。</p> <p>指定できる値は次のとおりです。</p> <p>N 同じ名前の古い物理ファイル・メンバーが、すでにファイルおよびライブラリー内に存在している場合は、新しい物理ファイル・メンバーは作成されません。</p> <p>Y 新しい物理ファイル・メンバーが作成され、古い物理ファイル・メンバーはそれによって置き換えられます。</p>
ファイルの作成	<p>ファイルが存在しない場合に、ファイルを作成するかどうかを指定します。</p> <p>指定できる値は次のとおりです。</p> <p>N ファイルを作成しません。</p> <p>Y ファイルを作成します。</p>
テキスト'記述'	<p>ファイルとその機能を簡単に説明するテキストを指定します。このプロンプトは、ファイルの作成 プロンプトに Y を指定したときだけ表示されます。記述は、50 文字以内のテキストをアポストロフィで囲んで指定しなければなりません。</p>

13= ページ・セグメント・テキストの変更

ページ・セグメントの記述テキストを変更するには、397 ページに示した「ページ・セグメントの処理」画面で次のことを行ってください。

1. 記述テキストを変更したいページ・セグメントの隣の *OPT* の欄に 13 と入力する。
2. 実行キーを押す。

CL コマンド CHGOBJD が呼び出されます。

第 6 部 参照

第 21 章 AFP Utilities for iSeries 用のコマンド	411
STRAFPU (AFP Utilities for iSeries 開始) コマンド	411
STROVLU (オーバーレイ・ユーティリティー開始) コマンド	411
STRPFU (印刷形式ユーティリティー開始) コマンド	415
PRTPFDDTA (PFD データ印刷) コマンド	418
CVTPCDPAGS (PC 文書をページ・セグメントへ変換) コマンド	423
CVTPFMPAGS (物理ファイル・メンバーをページ・セグメントへ変換) コマンド	429
CVTOVLPFM (オーバーレイを物理ファイル・メンバーへ変換) コマンド	435
CVTPAGSPFM (ページ・セグメントを物理ファイル・メンバーへ変換) コマンド	439
第 22 章 制限事項および制約事項	443
オーバーレイ・ユーティリティー	443
制限事項	443
下限値および上限値	443
破線および点線	443
線の幅およびオーバーレイ・サイズ	443
要素の位置	444
制約事項	444
ソース・オーバーレイ・ファイル	444
フォント	444
ページ・セグメント	445
線	445
枠	445
枠内のテキスト	445
枠内の陰影付け	446
グラフィックス (GDF) サイズ	446
グラフィックス (GDF) におけるテキスト・フォント	446
オーバーレイ・オブジェクトの権限	446
印刷装置の前提条件	446
印刷形式ユーティリティー	447
制限事項	447
下限値および上限値	447
破線および点線	447
線の幅およびページ・サイズ	447
要素の位置	448
制約事項	448
PFD 定義ファイル	448
フォント	448
ページ・セグメント	449
線	449
枠	449
枠内のテキスト	449
枠内の陰影付け	450
グラフィックス (GDF) サイズ	450
グラフィックス (GDF) におけるテキスト・フォント	450
資源管理ユーティリティー	450
制限事項	450
制約事項	450
IMDS (IOCA) データ・ストリーム	450
印刷操作	451
ページ・セグメントの作成	451

物理ファイル・メンバーへのオーバーレイの変換	451
物理ファイル・メンバーへのページ・セグメントの変換	451
ソース・オーバーレイおよび PFD 定義の送信	451
第 23 章 問題の分析	453
問題分析の手順の使用法	453
問題の識別	453
0100: 問題分析の手順	453
共通の徴候および推定原因	458
センス・コードおよび考えられる原因	462
IBM サービス技術員に連絡する場合	464
要素タイプと位置	465
テキスト要素と位置	465
測定方式が行／桁の場合	465
測定方式がインチまたはセンチメートルの場合	465
線要素と位置	466
測定方式が行／桁の場合	466
測定方式がインチまたはセンチメートルの場合	468
枠要素と位置	468
測定方式が行／桁の場合	468
バーコード要素と位置	470
測定方式が行／桁の場合	470
測定方式がインチまたはセンチメートルの場合	470
ページ・セグメント要素と位置	471
測定方式が行／桁の場合	471
測定方式がインチまたはセンチメートルの場合	471
レコード・レイアウト要素と位置	471
測定方式が行／桁の場合	471
測定方式がインチまたはセンチメートルの場合	471
グラフィックス要素および位置	472
測定方式が行／桁の場合	472
測定方式がインチまたはセンチメートルの場合	473

第 21 章 AFP Utilities for iSeries 用のコマンド

この章では、AFP Utilities for iSeries のコマンドについて説明します。AFP Utilities for iSeries には、次の 8 つのコマンドがあります。

- STRAFPU
- STROVLU
- STRPFU
- PRTPFDDTA
- CVTPCDPAGS
- CVTPFMPAGS
- CVTOVLPFM
- CVTPAGSPFM

上記のコマンドは、コマンド行がある画面であればどの画面でも入力することができます。

STRAFPU (AFP Utilities for iSeries 開始) コマンド

STRAFPU コマンドを入力すると、「IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries」のメニュー画面が表示され、AFP ユーティリティー機能を使用できます。

このコマンドにはパラメーターはありません。

STROVLU (オーバーレイ・ユーティリティー開始) コマンド

STROVLU コマンドを使用すると、「ソース・オーバーレイの処理」画面を表示しなくても、オーバーレイ・ユーティリティーのオプションを直接実行できます。

下記の図は STROVLU コマンドのコマンド構文を示しています。

```
-----*
STROVLU----->
Required
-----
Option
*->*PRV*-----*
>--FILE--* *--->*LIBL/*-----* *----->
*--+----*CURLIB/*-----+*source-overlay-file-name**
*---*library-name/**

*->*PRV*-----*
>--MBR--+---**SELECT*-----+----->
*--*source-overlay-name*--*

*->*BLANK--*
>--OPTION--+-1-----+-----
*->2-----*
*--3-----*
*--4-----*
*--6-----*
*--7-----*
*--9-----*

*-----*
| Job: I   Pgm: I   REXX: I Exec |
*-----*
-----*
```

図 27. STROVLU コマンドのコマンド構文

以下で STROVLU コマンドのパラメーターについて説明します。

ソース・オーバーレイ・ファイル (FILE)

処理したいソース・オーバーレイが入っているソース・オーバーレイ・ファイルおよびライブラリーを指定します。

指定できる値は次のとおりです。

*PRV

オーバーレイ・ユーティリティーは、前回のオーバーレイ・ユーティリティー・セッションで使用したソース・オーバーレイ・ファイルおよびライブラリーの名前を使用することを指定します。FILE パラメーターに *PRV を指定した場合は、ライブラリーを指定する必要はありません。

ソース・オーバーレイ・ファイル名

使用したい既存のソース・オーバーレイ・ファイルの名前を指定します。ソース・オーバーレイ・ファイル名およびライブラリー名を指定した場合は、オーバーレイ・ユーティリティーは、ソース・オーバーレイ・ファイルを見つけるために、指定されたライブラリーを探索します。ライブラリー名を指定しなかった場合は、*LIBL が使用されます。

次のライブラリー値を使用することができます。

*LIBL ライブラリー・リストを使用して、ファイルを見つけます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルを見つけます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーを指定します。

ソース・オーバーレイ (MBR)

処理または作成したいソース・オーバーレイの名前を指定します。このパラメーターのデフォルト値は、ユーザーが FILE パラメーターを指定したかどうかによって異なります。

指定できる値は次のとおりです。

***SELECT**

FILE パラメーターを指定した場合は、これがデフォルト値になります。 *SELECT を選択した場合は、指定したソース・オーバーレイ・ファイルおよびライブラリーの中のすべてのソース・オーバーレイのリストが表示されます。処理したい 1 つまたは複数のソース・オーバーレイを画面上で選択してください。

***PRV** FILE パラメーターを選択しなかった場合は、これが省略時の値になります。 *PRV は、前回使用されたソース・オーバーレイの名前です。

FILE パラメーターを選択しなかった場合は、これが省略時の値になります。 *PRV は、前回使用されたソース・オーバーレイの名前です。

ソース・オーバーレイ名

処理したいソース・オーバーレイの名前を指定します。

オプション (OPTION)

選択したソース・オーバーレイに対して実行したい機能を指定します。
指定できる値は次のとおりです。

*BLANK または ' '

ソース・オーバーレイ名を指定しなかった場合は、これが省略時の値になります。 *BLANK は何も処置を行わないことを指定しています。

1= 作成

ソース・オーバーレイを作成するには、1 と入力してください。

2= 変更

ソース・オーバーレイ名を指定した場合は、これが省略時の値になります。

ソース・オーバーレイを変更するには、2 と入力してください。

3= コピー

ソース・オーバーレイをコピーするには、3 と入力してください。

4= 削除

ソース・オーバーレイを削除するには、4 と入力してください。

6= 印刷

ソース・オーバーレイを印刷するには、6 と入力してください。

7= 名前の変更

ソース・オーバーレイの名前の変更をするには、7 と入力してください。

9= オーバーレイの作成

ソース・オーバーレイを元にしてオーバーレイを作成するには、9 と入力してください。

STRPFU (印刷形式ユーティリティー開始) コマンド

このコマンドを使用すると、「ソース・オーバーレイの処理」画面を表示しなくても、印刷形式ユーティリティーのオプションを直接実行することが可能になります。次ページの図 28 に STRPFU コマンドのコマンド構文が示してあります。

```
STRPFU*----->
必要
-----*
任意指定

*->*PRV-----*
>--PFDFILE*----* *->*LIBL/*-----* *---->
*--+--*CURLIB/*-----+--PFD-definition-file-name---*
*-*library-name/*---*

*->*PRV-----*
>--PFDMBR-----+--*SELECT-----+----->
*--PFD-definition-name--*

*->*BLANK**
>--OPTION*--+1-----+-----*
*->2*-----*
*-*3*-----*
*-*4*-----*
*-*6*-----*
*-*7*-----*
*-*9*-----*

*-----*
| Job: I Pgm: I REXX: I Exec |
*-----*
```

図 28. STRPFU コマンドのコマンド構文

STRPFU コマンドのパラメーターについて、次に説明します。

PFD ファイル (PFDFILE)

処理したい PFD 定義が入っている PFD 定義ファイルおよびライブラリーを指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***PRV** 印刷形式ユーティリティーは、前回の印刷形式ユーティリティー・セッションで使用された PFD 定義ファイルおよびライブラリーの名前を使用するということを指定します。PFDFILE パラメーターに *PRV を指定した場合は、ライブラリーを指定する必要はありません。

PFD 定義ファイル名

使用する既存の PFD 定義ファイルの名前を指定します。PFD 定義ファイル名およびライブラリー名を指定した場合は、印刷形式ユーティリティーは、PFD 定義ファイルを見つけるために、指定されたライブラリーを探索します。ライブラリー名を指定しなかった場合は、*LIBL が使用されます。

次のライブラリー値を使用することができます。

***LIBL** ライブラリー・リストを使用して、ファイルを見つけます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルを見つけます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーを指定します。

PFD 定義 (PFDMBR)

処理または作成したい PFD 定義の名前を指定します。このパラメーターのデフォルト値は、ユーザーが PFDFILE パラメーターを指定したかどうかによって異なります。

指定できる値は次のとおりです。

***SELECT**

PFDFILE パラメーターを指定した場合は、これが省略時の値になります。*SELECT を選択した場合は、指定した PFD 定義ファイルおよびライブラリーの中のすべての PFD 定義のリストが表示されます。処理したい 1 つまたは複数の PFD 定義を画面上で選択してください。

***PRV**

PFDFILE パラメーターを指定しなかった場合は、これが省略時の値になります。*PRV は、前回使用された PFD 定義の名前です。

PFD 定義名

処理したい PFD 定義の名前を指定します。

オプション (OPTION)

選択した PFD 定義に対して実行したい機能を指定します。省略時の値は、PFD 定義名を指定したかどうかによって異なります。

指定できる値は次のとおりです。

*BLANK または ' '

PFD 定義名を指定しなかった場合は、これが省略時の値になります。*BLANK は何も処置を行わないことを指定しています。

1= 作成

PFD 定義を作成するには、1 と入力してください。

2= 変更

PFD 定義名を指定した場合は、これが省略時の値になります。

PFD 定義を変更するには、2 と入力してください。

3= コピー

PFD 定義をコピーするには、3 と入力してください。

4= 削除

PFD 定義を削除するには、4 と入力してください。

6= 印刷

PFD 定義を印刷するには、6 と入力してください。

7= 名前の変更

PFD 定義の名前の変更をするには、7 と入力してください。

9= データベース・ファイルの印刷

PFD 定義を使用してデータベース・ファイル・メンバーを印刷するには、9 と入力してください。

PRTPFDDTA (PFD データ印刷) コマンド

このコマンドを使用すると、PFD 定義の設計に従って、データベース・ファイル・メンバーを印刷することができます。

下記の図は PRTPFDDTA コマンドのコマンド構文を示しています。

```

                                *LIBL/ -----
PRTPFDDTA----PFDFILE- --*CURLIB/-- ---- --PFD-definition-file-name---
                                - library-name/ -

必要
-----
任意指定

                                *FIRST----- |P|
--PFDMBR ---- -
                                --PFD-definition-name----

                                --*PFD-----
                                | --*LIBL/----- |
--FILE----- -- --*CURLIB/----- --file-name-----
                                --library-name/--

                                -*FIRST-----
--MBR--- -
                                --member-name-----

                                -*NO--
---GRID--- -----

                                --*YES-
                                --*YES-
                                --*END-----
--RCDSLT-- ----- --ENDPAGE--- page-number -
                                --*NO--

                                ---*PFD -----
---DRAWER-- - *E1 -----
                                - *CUT -----
                                --print-drawer -----

                                ---*DEVD-----
---OUTBIN-- -----*COPIES--
                                --output-bin---- --number-of-copies--

                                -----*JOB -----
---OUTQ- -----
                                | ---*LIBL/ ----- |
                                - --*CURLIB/----- output-queue -----
                                --library-name ---

                                ---*PFD-----
---FORMDF-- - *INLINE -----
                                | ---*LIBL/ ----- |
                                - --*CURLIB/----- form-definition-name-----
                                --library-name ---

                                -----
                                | Job: B, I Pgm: B, I REXX: B, I Exec |
                                -----

```

図 29. PRTPFDDTA コマンドのコマンド構文

次に PRTPFDDTA コマンドのパラメーターについて説明します。

PFD ファイル (PFDFILE)

使用したい PFD 定義が入っている PFD 定義ファイルおよびライブラリーを指定します。

指定できる値は次のとおりです。

PFD 定義ファイル名

使用する既存の PFD 定義ファイルの名前を指定します。PFD 定義ファイル名およびライブラリー名を指定した場合は、印刷形式ユーティリティは、PFD 定義ファイルを見つけるために、指定されたライブラリーを探索します。ライブラリー名を指定しなかった場合は、*LIBL が使用されます。

次のライブラリー値を使用することができます。

***LIBL** ライブラリー・リストを使用して、ファイルを見つけます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルを見つけます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーを指定します。

PFD 定義 (PFDMBR)

データベース・ファイル・メンバーを印刷するのに使用する PFD 定義の名前を指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***FIRST**

これは省略時の値です。PFD 定義ファイルの中の最初の PFD 定義が使用されます。

PFD 定義名

使用したい PFD 定義の名前を指定します。

データベース・ファイル (FILE)

印刷するメンバーが入っているデータベース・ファイルおよびライブラリーを指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***PFD** PFD 定義の中で指定されているデータベース・ファイルおよびライブラリーを印刷するということを指定します。

ファイル名

使用したい既存のデータベース・ファイルの名前を指定します。ファイル名およびライブラリー名を指定した場合は、印刷形式ユーティリティは、データベース・ファイルを見つけるために、指定されたライブラリーを探索します。ライブラリー名を指定しなかった場合は、*LIBL が使用されます。

次のライブラリー値を使用することができます。

***LIBL** ライブラリー・リストを使用して、ファイルを見つけます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルを見つけます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーを指定します。

メンバー (MBR)

印刷されるメンバー名を指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***FIRST**

これは省略時の値です。データベース・ファイルの最初のメンバーが印刷されます。

メンバー名

印刷したいメンバーの名前を指定します。

格子の組み込み (GRID)

印刷出力に格子を組み込むかどうかを指定します。格子は横線と縦線で構成され、横線間の間隔および縦線間の間隔は、PFD 仕様の中で指定されます。

指定できる値は次のとおりです。

***NO** これは省略時の値です。印刷出力に格子は含まれません。

***YES** 印刷出力に格子は含まれます。

レコード選択 (RCDSLT)

PFD 定義の中で指定されている選択条件に従って、レコードを選択するかどうかを指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***YES** PFD 定義の中で指定されている選択条件に合うレコードだけを選択して印刷したい場合は、*YES と入力してください。

PFD 定義に条件が指定されていない場合は、すべてのレコードが印刷されます。

***NO** PFD 定義の中で指定されている選択条件に関係なく、すべてのレコードを印刷したい場合は、*NO と入力してください。

終了ページ (ENDPAGE)

印刷を特定のページで停止するか、すべてのレコードが処理されるまで続行させるかを指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***END** すべてのレコードが処理されるまで印刷することを指定します。

ページ番号

印刷すべき最後のページ番号を指定します。印刷形式ユーティリティーは、このパラメーターで指定された最後のページが印刷された時点、またはすべてのレコードが印刷された時点で、印刷を停止します。

指定できる値の範囲は 1 ~ 9999 です。

ソース用紙入れ (DRAWER)

単一カット用紙を印刷装置に送り込むとき、使用するソース用紙入れを指定します。指定できる値は次のとおりです。

***PFD** 印刷出力仕様で指定された値が使用されます。*PFD が省略時値です。

***E1** 封筒はカット用紙送り機構上の封筒入れから送り込まれます。

***CUT** 手動送り込みを用いる印刷装置では、カット用紙は手動送り込み機構を通じて手操作で送り込まれます。

ソース用紙入れ

用紙をどの用紙入れから送るかを指定します。有効な値の範囲は 1 から 255 までです。手動送りの印刷装置では、100 を指定することは、*CUT を指定するのと同じことです。

出力ビン (OUTBIN)

複数の出力ビンを取り扱える印刷装置に対して、出力の宛先を指定します。指定できる値は次のとおりです。

*DEV D

装置記述で指定された値が使用されます。*DEV D が省略時値です。

出力ビン

出力の宛先としての出力ビンを指定します。指定できる値の範囲は 1 から 65535 までです。

コピー部数 (COPIES)

印刷する部数を指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***PFD** PFD 定義の中で指定されている部数を使用することを指定します。

これは省略時の値です。

コピー部数

印刷する部数を指定します。

指定できる値の範囲は 1 ~ 255 です。

出力キュー (OUTQ)

スプール・ファイルを作成する出力キューの修飾名を指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***JOB** このジョブに関連したジョブ記述の中で指定された、出力キューを使用することを指定します。

これは省略時の値です。

出力キュー名

使用する出力キューの名前を指定します。

次のライブラリー値を使用することができます。

***LIBL** ライブラリー・リストを使用して、出力キューを見つけます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、出力キューを見つけます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

出力キューが入っているライブラリーを指定します。

用紙定義 (FORMDF)

スプール・ファイルの印刷時に使用する、用紙定義の修飾名を指定します。
指定できる値は次のとおりです。

***PFD** PFD 定義で指定された用紙定義とライブラリーが、メンバーの印刷に使用されることを指定します。

これは省略時の値です。

*DEV D

印刷装置の装置記述で指定された用紙定義が使用されることを指定します。

*IN LINE

印刷形式ユーティリティーが、データの印刷時に使用するインライン用紙定義を作成することを指定します。印刷出力形式定義で指定されたページの幅と長さが、連続用紙印刷装置でのページ制御用に作成された用紙定義に挿入されます。これらの値は、印刷装置のページ・サイズ制御値が *YES に設定されると使用されます。ページ・サイズ制御値の設定には、PSF 構成の処理 (WRKPSFCFG) コマンドを使用してください。

用紙定義名

使用する用紙定義の名前を指定します。

次のライブラリー値を使用することができます。

***LIB L** ライブラリー・リストを使用して、用紙定義を見つけます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーを使用して、用紙定義を見つけます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

用紙定義が入っているライブラリーを指定します。

CVTPCDPAGS (PC 文書をページ・セグメントへ変換) コマンド

CVTPCDPAGS コマンドを使用すると、フォルダーの中の PC 文書をページ・セグメントに変換することが可能になります。PC 文書には IMDS (イメージ・データ・ストリーム) 形式のイメージ・データまたはイメージ・オブジェクト・コンテンツ体系 (IOCA) 機能セット 10 のデータが入っていないとなりません。

次の図に CVTPCDPAGS コマンドのコマンド構文を示します。

```

CVTPCDPAGS-----PAGSEG--- -----*PRV -----
-----*CURLIB/----- ---
- page-segment-name--
- library-name -

必要
-----
任意指定

-----*PRV----- -----*PRV ----- |P|
----FRMFLR-- -FRMDOC- -*PAGSEG-----
--folder-name- --PC-document-name --

-----*SAME-
----CHGIMGSIZE-- --*NO--
--*YES--

(1) ----*SAME-- ----*SAME----- ----*SAME-----
----IMGSIZE-- --*INCH-- --- --
--*CM--- --width-value- --length-value--

(1) ----*SAME -
----MAPPING - --*PAT-----
--*STF---
- *CAT---
- *ITPD--
- *ITPD-

-----*SAME -
----IMGRIT - --0-----
--90----
- 180----
- 270----

-----*SAME -----
---*LIBCRTAUT---
----AUT - --*CHANGE-----
---*ALL-----
---*USE-----
---*EXCLUDE-----
-- name -----

-----*SAME -----
----TEXT - -- *BLANK -----REPLACE - ----*YES -
-- 'description'-- - *NO --

(1) CHGIMGSIZE='*YES'の場合のみ

-----
|Job: B, I Pgm: B, I REXX: B, I Exec |
-----

```

図 30. CVTPCDPAGS コマンドのコマンド構文

次に CVTPCDPAGS コマンドのパラメーターについて説明します。

ページ・セグメント (PAGSEG)

作成するページ・セグメントの修飾名を指定してください。これは、必要パラメーターです。

指定できる値は次のとおりです。

***PRV** このコマンドを最後に使用した時のページ・セグメントおよびライブラリーの名前を使用することを指定します。PAGSEG パラメーターに *PRV を指定した場合は、ライブラリーを指定する必要はありません。

ページ・セグメント名

作成するページ・セグメントの名前を指定します。

次のライブラリー値を使用することができます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ページ・セグメントを作成します。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ページ・セグメントを作成して入れるライブラリーを指定します。

FROM フォルダー (FRMFLR)

変換する PC 文書が入っているフォルダーの名前を指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***PRV** 同じ名前のページ・セグメントを前回作成した時に使用したフォルダーの名前を使用することを指定します。

フォルダー名

フォルダー名を指定します。

FROM PC 文書 (FRMDOC)

変換する PC 文書の名前を指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***PRV** 同じ名前のページ・セグメントを前回作成した時に使用した PC 文書の名前を使用することを指定します。

***PAGSEG**

作成するページ・セグメントの名前が、PC 文書の名前と同じであることを指定します。

PC 文書名

変換される PC 文書名を指定します。

イメージ・サイズの変更 (CHGIMGSIZE)

ページ・セグメントの中のイメージのサイズを変更するかどうかを指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***SAME**

同じ名前のページ・セグメントを前回作成したときに、このパラメーターに使用したのと同じ値を使用することを指定します。これが初めて作成するページ・セグメントの場合は、省略時の値は *NO です。

***NO** イメージ・サイズを変更しないことを指定します。

***YES** イメージ・サイズを変更することを指定します。

*YES を指定すると、IMGSIZE および MAPPING パラメーターが表示され、ページ・セグメントの新しいイメージ・サイズ、ならびに入力イメージをそのサイズにマップする方法を指定することができます。

イメージ区域サイズ (IMGSIZE)

ページ・セグメントの中に作成するイメージの測定単位、幅、および長さを指定します。

測定単位

下記の 2 つのパラメーターを指定するときに使用する測定単位を指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***SAME**

同じ名前のページ・セグメントを前回作成した時に使用した測定単位を使用することを指定します。

***INCH** インチが測定単位として使用されます。

***CM** センチメートルが測定単位として使用されます。

幅 作成するイメージの幅を指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***SAME**

同じ名前のページ・セグメントを前回作成した時に使用した幅値を使用することを指定します。

幅値 選択した測定単位で幅の値を指定します。

長さ 作成するイメージの長さを指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***SAME**

同じ名前のページ・セグメントを前回作成した時に使用した長さ値を使用することを指定します。

長さ値 選択した測定単位で長さの値を指定します。

マッピング・オプション (MAPPING)

入力イメージがページ・セグメントの中で指定されたサイズの出カイメージにどのようにマップされるかを指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***SAME**

同じ名前のページ・セグメントを前回作成した時に使用したマッピング・オプションを使用することを指定します。

***PAT (位置決めしてトリム)**

入力イメージの左上角が出カイメージ区域の左上角に位置付けられます。イメージ・サイズは変更されません。出カイメージ・サイズからはみ出る入力イメージの部分はトリミングされます。

***STF (合わせて位取り)**

入力イメージの中心が出カイメージ区域の中心に位置付けられます。イメージ・サイズは、入力イメージが出カイメージ・サイズに収まるように変更されます。

***CAT (中央そろえてトリム)**

入力イメージの中心が出カイメージ区域の中心に位置付けられます。イメージ・サイズは変更されません。出カイメージ・サイズからはみ出る入力イメージの部分はトリミングされます。

***IPTP (イメージ・ポイントから画素)**

入力イメージの左上角が出カイメージ区域の左上角に位置付けられます。解像度修正は行われません。入力イメージの各イメージ・ポイントが出カ印刷装置の画素にマップされます。イメージ・サイズは出力印刷装置の画素密度によって変わる場合があります。出カイメージ・サイズからはみ出る入力イメージの部分はトリミングされます。

***IPTPD (イメージ・ポイントから二重点線の画素)**

入力イメージの左上角が出カイメージ区域の左上角に位置付けられます。解像度修正は行われません。入力イメージの各イメージ・ポイントが二次元とも 2 倍され (複製され)、出力印刷装置の画素にマップされます。イメージ・サイズは出力印刷装置の画素密度によって変わる場合があります。出カイメージ・サイズからはみ出る入力イメージの部分はトリミングされます。

回転の角度 (IMGRTT)

出力イメージの時計まわりの回転角度を指定します。回転の中心点は、イメージの左上角です。

指定できる値は次のとおりです。

***SAME**

同じ名前のページ・セグメントを前回作成した時に使用した回転の角度を使用することを指定します。

0 回転しません。

90 イメージは時計まわりに 90 度回転します。

180 イメージは時計まわりに 180 度回転します。

270 イメージは時計まわりに 270 度回転します。

権限 (AUT)

作成されたページ・セグメントに関して、特定の権限を持っていないユーザー、権限リストに載っていないユーザー、または特定の権限を持っていないユーザー・グループのユーザーに付与される権限を指定します。

注: 既存のページ・セグメントを置き換える場合は、この値は無視され、現行権限がそのまま残ります。

指定できる値は次のとおりです。

***SAME**

同じ名前のページ・セグメントを前回作成したときに、このパラメーターに使用したのと同じ値を使用することを指定します。これが初めて作成するページ・セグメントの場合は、省略時の値は *LIBCRTAUT です。

***LIBCRTAUT**

作成されるページ・セグメントが入るライブラリー用のライブラリー作成コマンド (CRTLIB) の作成権限プロンプト (CRTAUT パラメーター) に指定された値を使用して、システムがページ・セグメントに対する権限を決めます。作成権限プロンプト (CRTAUT パラメーター) に指定した値が変更されても、新しい値がこのページ・セグメントに影響を与えることはありません。

***CHANGE**

ユーザーに変更権限が付与されている場合は、ユーザーは、所有者に限定されている操作、あるいはオブジェクト存在権限およびオブジェクト管理権限の制御下にある操作を除き、すべての操作をページ・セグメントに対して実行することができます。ユーザーは、ページ・セグメントを変更し、ページ・セグメントに対して基本機能を実行することができます。変更権限が付与されると、オブジェクト操作権およびすべてのデータ権限を有します。

***ALL** ユーザーに全権限が付与されている場合は、ユーザーは所有者に限定されている操作、あるいは権限リスト管理権限の制御下にある操作を除き、すべての操作をページ・セグメントに対して実行することができます。ユーザーは、ページ・セグメントの存在を管理し、

ページ・セグメントを変更し、ページ・セグメントに対して基本機能を実行することができます。ユーザーは、ページ・セグメントの所有権を移転することはできません。

***USE** ユーザーが使用権限を付与されている場合は、ページ・セグメントに対して、ページ・セグメントの読み取りなど、基本操作を実行することができます。ユーザーはページ・セグメントを変更することは許されていません。使用権限が付与されると、オブジェクト操作権、読み取り権限、および実行権限を使用することができます。

***EXCLUDE**

排他権限は、ユーザーがページ・セグメントにアクセスすることを禁じます。

権限リスト名

権限リストの名前を指定します。権限リストに載っているユーザーには、そのリストに指定されているページ・セグメントに対する権限が付与されます。ページ・セグメントの作成時には、権限リストが存在していなければなりません。

テキスト'記述'(TEXT)

作成するページ・セグメントを簡潔に説明するテキストを使用することを指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***SAME**

同じ名前のページ・セグメントを前回作成した時に使用したテキストを使用することを指定します。

***BLANK**

テキストがブランクであることを指定します。

'記述' 50 文字以内のテキストをアポストロフィで囲んで指定します。

置き換え (REPLACE)

同じ名前のページ・セグメントがライブラリーの中にすでに存在している場合に、既存のページ・セグメントをページ・セグメントで置き換えるかどうかを指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***YES** 新しいページ・セグメントが作成され、古いページ・セグメントをそれで置き換えます。

***NO** 同じ名前のページ・セグメントがライブラリーの中にすでに存在している場合は、新しいページ・セグメントは作成されません。

CVTPFMPAGS (物理ファイル・メンバーをページ・セグメントへ変換) コマンド

このコマンドを使用すると、物理データベース・ファイルの中のメンバーをページ・セグメントに変換することができます。メンバーには IMDS (イメージ・データ・ストリーム) 形式または IOCA 機能セット 10 のイメージ・データが入っていないければなりません。

下記の図は CVTPFMPAGS コマンドのコマンド構文を示しています。

```

CVTPFMPAGS-----PAGSEG--- -----*PRV -----
                        -----*CURLIB/-----
                        --- - page-segment-name-
                        - library-name -

必要
-----
任意指定

        -----*PRV -----
        |                                     |
----FILE - ----*LIBL/----- |           -----*PRV ----- |P|
        - --*CURLIB/----- -- file-name -           - *PAGSEG -----
        --library-name/-                               - member-name

        -----*NO---
----CHGIMSIZE-- -----
        --*YES--

(1)  ----*SAME--   ----*SAME-----   ----*SAME-----
----IMGSIZE-- --*INCH-- ---          ---          -----
        --*CM----   --width-value-   --length-value--

(1)  ----*SAME -
----MAPPING - --*PAT-----
        --*STF---
        - *CAT---
        - *ITP--
        - *ITPD-

        -----*SAME -
----IMGRTT - --0-----
        -90----
        - 180----
        - 270----

        -----*SAME -----
        ----*LIBCRTAUT---
----AUT - ----*CHANGE-----
        ----*ALL-----
        ----*USE-----
        ----*EXCLUDE-----
        -- name -----

        -----*SAME -----
----TEXT - -- *BLANK ----- --REPLACE - ----*YES -
        -- 'description'--          - *NO --

(1) CHGIMSIZE='*YES'の場合のみ

-----
|Job: B, I Pgm: B, I REXX: B, I Exec |
-----

```

図 31. CVTPFMPAGS コマンドのコマンド構文

以下で、CVTPFMPAGS コマンドのパラメーターについて説明します。

ページ・セグメント (PAGSEG)

作成するページ・セグメントの修飾名を指定してください。これは、必要パラメーターです。

指定できる値は次のとおりです。

***PRV** このコマンドを最後に使用した時のページ・セグメントおよびライブラリーの名前を使用することを指定します。PAGSEG パラメーターに *PRV を指定した場合は、ライブラリーを指定する必要はありません。

ページ・セグメント名

作成するページ・セグメント名を指定します。

次のライブラリー値を使用することができます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ページ・セグメントを作成します。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ページ・セグメントを作成して入れるライブラリーを指定します。

FROM ファイル (FILE)

変換するメンバーが入っている物理ファイルの修飾名を指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***PRV** 同じ名前のページ・セグメントを前回作成した時に使用したファイルおよびライブラリーを使用することを指定します。

ファイル名

使用する既存の物理データベース・ファイルの名前を指定します。ライブラリー名を指定しなかった場合は、*LIBL が使用されます。

次のライブラリー値を使用することができます。

***LIBL** ライブラリー・リストを使用して、ファイルを見つけます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルを見つけます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーを指定します。

FROM メンバー (MBR)

変換する物理ファイル・メンバーの名前を指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***PRV** 同じ名前のページ・セグメントを前回作成した時に使用したメンバー名を使用することを指定します。

***PAGSEG**

作成するページ・セグメントの名前が、メンバーの名前と同じであることを指定します。

メンバー名

変換されるメンバー名を指定します。

イメージ・サイズの変更 (CHGIMGSIZE)

ページ・セグメントの中のイメージのサイズを変更するかどうかを指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***SAME**

同じ名前のページ・セグメントを前回作成したときに、このパラメーターに使用したのと同じ値を使用することを指定します。これが初めて作成するページ・セグメントの場合は、省略時の値は *NO です。

***NO** イメージ・サイズを変更しないことを指定します。

***YES** イメージ・サイズを変更することを指定します。

*YES を指定すると、IMGSIZE および MAPPING パラメーターが表示され、ページ・セグメントの新しいイメージ・サイズ、ならびに入力イメージをそのサイズにマップする方法を指定することができます。

イメージ区域サイズ (IMGSIZE)

ページ・セグメントの中に作成するイメージの測定単位、幅、および長さを指定します。

測定単位

下記の 2 つのパラメーターを指定するときに使用する測定単位を指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***SAME**

同じ名前のページ・セグメントを前回作成した時に使用した測定単位を使用することを指定します。

***INCH** インチが測定単位として使用されます。

***CM** センチメートルが測定単位として使用されます。

幅 作成するイメージの幅を指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***SAME**

同じ名前のページ・セグメントを前回作成した時に使用した幅値を使用することを指定します。

幅値 選択した測定単位で幅の値を指定します。

長さ 作成するイメージの長さを指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***SAME**

同じ名前のページ・セグメントを前回作成した時に使用した長さ値を使用することを指定します。

長さ値 選択した測定単位で長さの値を指定します。

マッピング・オプション (MAPPING)

入力イメージがページ・セグメントの中で指定されたサイズの出カイメージにどのようにマップされるかを指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***SAME**

同じ名前のページ・セグメントを前回作成した時に使用したマッピング・オプションを使用することを指定します。

***PAT (位置決めしてトリム)**

入力イメージの左上角が出カイメージ区域の左上角に位置付けられます。イメージ・サイズは変更されません。出カイメージ・サイズからはみ出る入力イメージの部分はトリミングされます。

***STF (合わせて位取り)**

入力イメージの中心が出カイメージ区域の中心に位置付けられます。イメージ・サイズは、入力イメージが出カイメージ・サイズに収まるように変更されます。

***CAT (中央そろえてトリム)**

入力イメージの中心が出カイメージ区域の中心に位置付けられます。イメージ・サイズは変更されません。出カイメージ・サイズからはみ出る入力イメージの部分はトリミングされます。

***IPTP (イメージ・ポイントから画素)**

入力イメージの左上角が出カイメージ区域の左上角に位置付けられます。解像度修正は行われません。入力イメージの各イメージ・ポイントが出カ印刷装置の画素にマップされます。イメージ・サイズは出力印刷装置の画素密度によって変わる場合があります。出カイメージ・サイズからはみ出る入力イメージの部分はトリミングされます。

***IPTPD (イメージ・ポイントから二重点線の画素)**

入力イメージの左上角が出カイメージ区域の左上角に位置付けられます。解像度修正は行われません。入力イメージの各イメージ・ポイントが二次元とも 2 倍され (複製され)、出力印刷装置の画素にマップされます。イメージ・サイズは出力印刷装置の画素密度によって変わる場合があります。出カイメージ・サイズからはみ出る入力イメージの部分はトリミングされます。

回転の角度 (IMGRTT)

出カイメージの時計まわりの回転角度を指定します。回転の中心点は、イメージの左上角です。

指定できる値は次のとおりです。

***SAME**

同じ名前のページ・セグメントを前回作成した時に使用した回転の角度を使用することを指定します。

0 回転しません。

90 イメージは時計まわりに 90 度回転します。

180 イメージは時計まわりに 180 度回転します。

270 イメージは時計まわりに 270 度回転します。

権限 (AUT)

作成されたページ・セグメントに関して、特定の権限を持っていないユーザー、権限リストに載っていないユーザー、または特定の権限を持っていないユーザー・グループのユーザーに付与される権限を指定します。

注: 既存のページ・セグメントを置き換える場合は、この値は無視され、現行権限がそのまま残ります。

指定できる値は次のとおりです。

***SAME**

同じ名前のページ・セグメントを前回作成したときに、このパラメーターに使用したのと同じ値を使用することを指定します。これが初めて作成するページ・セグメントの場合は、省略時の値は *LIBCRTAUT です。

***LIBCRTAUT**

作成されるページ・セグメントが入るライブラリー用のライブラリー作成コマンド (CRTLIB) の作成権限プロンプト (CRTAUT パラメーター) に指定された値を使用して、システムがページ・セグメントに対する権限を決めます。作成権限プロンプト (CRTAUT パラメーター) に指定した値が変更されても、新しい値がこのページ・セグメントに影響を与えることはありません。

***CHANGE**

ユーザーに変更権限が付与されている場合は、ユーザーは、所有者に限定されている操作、あるいはオブジェクト存在権限およびオブジェクト管理権限の制御下にある操作を除き、すべての操作をページ・セグメントに対して実行することができます。ユーザーは、ページ・セグメントを変更し、ページ・セグメントに対して基本機能を実行することができます。変更権限が付与されると、オブジェクト操作権およびすべてのデータ権限を有します。

***ALL** ユーザーに全権限が付与されている場合は、ユーザーは所有者に限定されている操作、あるいは権限リスト管理権限の制御下にある操作を除き、すべての操作をページ・セグメントに対して実行することができます。ユーザーは、ページ・セグメントの存在を管理し、ページ・セグメントを変更し、ページ・セグメントに対して基本機能を実行することができます。ユーザーは、ページ・セグメントの所有権を移転することはできません。

***USE** ユーザーが使用権限を付与されている場合は、ページ・セグメントに対して、ページ・セグメントの読み取りなど、基本操作を実行す

ることができます。ユーザーはページ・セグメントを変更することは許されていません。使用権限が付与されると、オブジェクト操作権、読み取り権限、および実行権限を使用することができます。

***EXCLUDE**

排他権限は、ユーザーがページ・セグメントにアクセスすることを禁じます。

権限リスト名

権限リストの名前を指定します。権限リストに載っているユーザーには、そのリストに指定されているページ・セグメントに対する権限が付与されます。ページ・セグメントの作成時には、権限リストが存在していなければなりません。

テキスト'記述'(TEXT)

作成するページ・セグメントを簡潔に説明するテキストを使用することを指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***SAME**

同じ名前のページ・セグメントを前回作成した時に使用したテキストを使用することを指定します。

***BLANK**

テキストがブランクであることを指定します。

'記述' 50 文字以内のテキストをアポストロフィで囲んで指定します。

置き換え (REPLACE)

同じ名前のページ・セグメントがライブラリーの中にすでに存在している場合に、既存のページ・セグメントをページ・セグメントで置き換えるかどうかを指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***YES** 新しいページ・セグメントが作成され、古いページ・セグメントをそれで置き換えます。

***NO** 同じ名前のページ・セグメントがライブラリーの中にすでに存在している場合は、新しいページ・セグメントは作成されません。

CVTOVLPM (オーバーレイを物理ファイル・メンバーへ変換) コマンド

このコマンドによって、オーバーレイ (オブジェクト) を物理データベース・ファイル内のメンバーに変換することができます。物理データベース・ファイルに変換されたオーバーレイは、VM、MVS、および OS/2 に転送することができます。

下記の図は CVTOVLPM コマンドのコマンド構文を示しています。

```

-----*LIBL/-----
CVTOVLPM-----OVL-----*CURLIB/----- overlay-name-----
-----library-name--
--*FIXED-----
----DTAFMT-----
--*CONTINUOUS-
-----*CURLIB/----- --*VM-----
----FILE----- --*MVS-----
--library-name- --file-name--

必要
-----
任意指定
-----
--*OVL----- |P|
----MBR---
--member-name--
-----*OVLTXT-----
----TEXT--
-'description'-
----*NO --
----REPLACE-----
--*YES--
----*NO --
----CRTFILE-----
--*YES--

(1) ---*BLANK-----
----FILETEXT--
-'description'-

(1) CRTFILE='*YES'の場合のみ

-----
| Job: B/I Pgm: B/I REXX: B/I EXEC |
-----

```

図 32. CVTOVLPM コマンドのコマンド構文

CVTOVLPM コマンドのパラメーターについて、次に説明します。

オーバーレイ (OVL)

物理ファイル・メンバーに変換するオーバーレイの修飾名を指定します。これは、必要パラメーターです。

***LIBL** ライブラリー・リストを使用して、オーバーレイを見つけます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーを使用して、オーバーレイを見つけます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

オーバーレイが入っているライブラリーを指定します。

データの形式 (DTAFMT)

データを物理ファイル・メンバーに埋め込む方法を指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***FIXED**

1 つのレコードには、1 つの構造化フィールドがあります。埋め込み文字は 2 進数の 0 です。固定様式ファイルのレコード長は、オーバーレイの中の最大の AFPDS 構造化フィールドの長さです。既存のファイルの長さが、構造化フィールドの最大の長さより短い場合には、エラー・メッセージが表示されます。既存のファイルの長さが、構造化フィールドの最大の長さより長い場合には、レコードの最後に埋め込み文字が追加されます。この様式は、VM システム用または MVS システム用です。

***CONTINUOUS**

構造化フィールドは、連続して埋め込まれ、折り返されます。最後のレコードだけが、埋め込み文字を追加されます。埋め込み文字は 2 進数の 0 です。既存のファイルのいずれのレコード長も受け入れられます。作成されるファイルのレコード長は、256 バイトです。この様式は、OS/2 用です。

これは、必要パラメーターです。

TO ファイル (FILE)

オーバーレイ・データを埋め込むために使用する物理ファイルの修飾名を指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***VM** 名前 OVLY38PP の使用を指定します。これは、VM システム上のオーバーレイに有効なファイル・タイプになります。

***MVS** 名前 O1xxxxxx の使用を指定します。'xxxxxx' は OVL パラメーターに指定した名前の最初の有効な 6 文字です。これは、MVS システム上のオーバーレイに有効なメンバー名になります。

ファイル名

オーバーレイ・データを埋め込むためのファイル名を指定します。

ライブラリー・リストを使用して、オーバーレイを見つけます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルを見つけます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーを指定します。

TO メンバー (MBR)

オーバーレイ・データによって埋め込まれる物理ファイル・メンバーの名前を使用することを指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***OVL** OVL パラメーターに指定したオーバーレイの名前を指定します。

メンバー名

オーバーレイ・データを埋めるメンバー名を指定します。

テキスト'記述'(TEXT)

メンバーとその機能を簡単に説明するテキストを指定します。記述は、50文字以内のテキストをアポストロフィで囲んで指定しなければなりません。指定できる値は次のとおりです。

*OVLTXT

オーバーレイ・オブジェクトに指定したオーバーレイに関する同じ記述を指定します。

'記述' メンバーの記述を指定します。

置き換え (REPLACE)

同じ名前の物理ファイル・メンバーが、ライブラリーの中にすでに存在している場合に、既存の物理ファイル・メンバーを物理ファイル・メンバーが置き換えるかどうかを指定します。

指定できる値は次のとおりです。

*NO 同じ名前の古い物理ファイル・メンバーが、ライブラリーの中にすでに存在している場合には、新しい物理ファイル・メンバーは作成されません。

*YES 新しい物理ファイル・メンバーが作成され、古い物理ファイル・メンバーはそれによって置き換えられます。

ファイルの作成 (CRTFILE)

ファイルが存在しない場合に、ファイルを作成するかどうかを指定します。指定できる値は次のとおりです。

*NO ファイルを作成しません。

*YES ファイルを作成します。

テキスト'記述'(FILETEXT)

ファイルとその機能を簡単に説明するテキストを指定します。 CRTFILE パラメーターが *YES のときだけ、このプロンプトは有効です。記述は、50文字以内のテキストをアポストロフィで囲んで指定しなければなりません。指定できる値は次のとおりです。

*BLANK

テキストは、指定されません。

'記述' ファイルの記述を指定します。

注: ターゲット・システムでオーバーレイを使用する前に、そのオーバーレイを使用するために必要な資源 (たとえば、フォント、ページ・セグメント) がターゲット・システムに存在していることを確認しなければなりません。 オーバーレイの転送だけでは、不十分である場合があります。 ターゲット・システムの PSF* のバージョンおよびサポートされる構造化フィールドも検査する必要があります。

iSeries システムで使用できるオーバーレイが、ターゲット・システムで常に使用できるとは限りません。

CVTPAGSPFM (ページ・セグメントを物理ファイル・メンバーへ変換) コマンド

このコマンドによって、ページ・セグメントを物理データベース・ファイル内のメンバーに変換することができます。物理データベース・ファイルに変換されたページ・セグメントは、VM、MVS、および OS/2 システムに転送することができます。

下記の図は CVTPAGSPFM コマンドのコマンド構文を示しています。

```

-----*LIBL/-----
CVTPAGSPFM----PAGSEG----  ---*CURLIB/-----  ----page-segment-name-----
                        ---library-name--
                        --*FIXED-----
----DTAFMT-----  -----
                        --*CONTINUOUS-
                        ---*CURLIB/-----  ---*VM-----
----FILE-----  -----  ---*MVS-----
                        -library-name-  --file-name--

必要
-----
任意指定
                        ---*PAGSEG-----  --P|
----MBR---  -----
                        --member-name--
                        ---*PSGTX-----
----TEXT--  -----
                        -'description'-
                        ----*NO --
----REPLACE-----  -----
                        --*YES--
                        ----*NO --
----CRTFILE-----  -----
                        --*YES--

(1)  ---*BLANK-----
----FILETEXT--  -----
                        -'description'-

(1) CRTFILE='*YES'の場合のみ

-----
| Job: B/I Pgm: B/I REXX: B/I EXEC |
-----

```

図 33. CVTPAGSPFM コマンドのコマンド構文

CVTPAGSPFM コマンドのパラメーターについて、次に説明します。

ページ・セグメント (PAGSEG)

物理ファイル・メンバーに変換するページ・セグメントの修飾名を指定します。これは、必要パラメーターです。

***LIBL** ライブラリー・リストを使用して、ページ・セグメントを見つけます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ページ・セグメントを見つけます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ページ・セグメントが入っているライブラリーを指定します。

データの形式 (DTAFMT)

データを物理ファイル・メンバーに埋め込む方法を指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***FIXED**

1 つのレコードには、1 つの構造化フィールドがあります。埋め込み文字は 2 進数の 0 です。固定様式を使用するファイルのレコード長は、ページ・セグメントの中の AFPDS 構造化フィールドの最大の長さです。既存のファイルの長さが、構造化フィールドの最大の長さより短い場合には、エラー・メッセージが表示されます。既存のファイルの長さが、構造化フィールドの最大の長さより長い場合には、レコードの最後に埋め込み文字が追加されます。この様式は、VM システム用または MVS システム用です。

***CONTINUOUS**

構造化フィールドは、連続して埋め込まれ、折り返されます。最後のレコードだけが、埋め込み文字を追加されます。埋め込み文字は 2 進数の 0 です。既存のファイルのいずれのレコード長も受け入れられます。作成されるファイルのレコード長は、256 バイトです。この様式は OS/2 システム用です。

これは、必要パラメーターです。

TO ファイル (FILE)

ページ・セグメント・データを埋め込むために使用する物理ファイルの修飾名を指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***VM** 名前 PSEG38PP の使用を指定します。これは、VM システム上のページ・セグメントに有効なファイル・タイプになります。

***MVS** 名前 S1xxxxxx の使用を指定します。'xxxxxx' は、PAGESEG パラメーターに指定した名前の最初の有効な 6 文字です。これは、MVS システム上のページ・セグメントに有効なメンバー名になります。

ファイル名

ページ・セグメント・データを埋め込むファイルを指定します。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルを見つけます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されたライブラリーがない場合は、QGPL ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーを指定します。

TO メンバー (MBR)

ページ・セグメント・データによって埋め込まれる物理ファイル・メンバーの名前を使用することを指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***PAGSEG**

PAGSEG パラメーターに指定したページ・セグメントの名前を指定します。

メンバー名

ページ・セグメント・データを埋め込むメンバー名を指定します。

テキスト'記述'(TEXT)

メンバーとその機能を簡単に説明するテキストを指定します。記述は、50文字以内のテキストをアポストロフィで囲んで指定しなければなりません。

指定できる値は次のとおりです。

***PSGTX**

PAGSEG パラメーターに指定したページ・セグメントに関する同じ記述を使用することを指定します。

'記述' メンバーの記述を指定します。

置き換え (REPLACE)

同じ名前の物理ファイル・メンバーが、ライブラリーの中にすでに存在している場合に、既存の物理ファイル・メンバーを物理ファイル・メンバーが置き換えるかどうかを指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***NO** 同じ名前の古い物理ファイル・メンバーが、ライブラリーの中にすでに存在している場合には、新しい物理ファイル・メンバーは作成されません。

***YES** 新しい物理ファイル・メンバーが作成され、古い物理ファイル・メンバーはそれによって置き換えられます。

ファイルの作成 (CRTFILE)

ファイルが存在しない場合に、ファイルを作成するかどうかを指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***NO** ファイルを作成しません。

***YES** ファイルを作成します。

テキスト'記述'(FILETEXT)

ファイルとその機能を簡単に説明するテキストを指定します。CRTFILE パラメーターが *YES のときだけ、このプロンプトは有効です。記述は、50文字以内のテキストをアポストロフィで囲んで指定しなければなりません。

指定できる値は次のとおりです。

***BLANK**

テキストは、指定されません。

'記述' ファイルの記述を指定します。

注: ターゲット・システムの PSF のバージョンおよびサポートされる構造化フィールドを確認する必要があります。

iSeries で使用されるページ・セグメントが、ターゲット・システムで常に使用できるとは限りません。

第 22 章 制限事項および制約事項

この章では、AFP Utilities for iSeries を使用するにあたって、知っておくべき制限事項および制約事項について説明します。

オーバーレイ・ユーティリティー

制限事項

下限値および上限値

表 81. オーバーレイ・ユーティリティーの下限値および上限値の制限事項

項目	下限値	上限値
ソース・オーバーレイ内の要素数	0	999
オーバーレイの幅	0.1 インチ	22.75 インチ
オーバーレイの高さ	0.1 インチ	22.75 インチ
ソース・オーバーレイ内のページ・セグメント数	0	999
		各印刷装置には固有の制限がある。大部分の印刷装置は、最大 127 ページ・セグメントまで可能。印刷装置の記憶域サイズによっても、ページ・セグメント数が制限を受けることがある。
ソース・オーバーレイ内のグラフィックス数	0	999
		印刷装置の記憶域サイズによって数に制限を受けることがある。
テキストの長さ	1 (ブランクの場合がある)	203
枠要素内のテキスト行数	0 (テキストなし)	51

破線および点線

線の長さが線の幅に比べて短過ぎる場合は、破線および点線は実線で印刷されません。

この制限事項の最短の長さは線の幅によって異なります。

線の幅およびオーバーレイ・サイズ

線または枠がオーバーレイの縁の近くにあり、しかも線の幅が太過ぎる場合は、線または枠要素がオーバーレイ・サイズの内側にあっても、線の一部がオーバーレイ・サイズを超えることがあります。

このような場合は、その要素の線は印刷されず、エラー・メッセージが表示されます。

要素の位置

オーバーレイ・サイズをインチまたはセンチメートルで指定し、要素の位置をインチまたはセンチメートルで指定した場合は、位置がオーバーレイ・サイズの内側にあっても、その位置を指定できないことがあります。このことは、オーバーレイの右端または最下部に近い位置で起こります。オーバーレイが行および桁で指定されている場合は、インチまたはセンチメートルで指定された位置は、そのオーバーレイの内側になければなりません。次に例を示します。

1 行当たりの数	10
1 インチ当たりの行数	6
オーバーレイの幅	5.15 インチ (51 桁)
高さ	6.1 インチ (36 行)
位置 左右	5.12 インチは、52 桁目になるので 指定することができません。
上下	6.05 インチは、37 桁目になるので 指定することができません。

300 ペルの印刷装置を使用して、文字サイズが *DEFAULT でないテキスト要素を印刷する場合、テキスト要素の位置がオーバーレイの最下部に近すぎると、印刷されないことがあります。このような場合は、テキスト要素を上方の位置に移動するか、またはオーバーレイ・サイズの高さをもっと高くしなければなりません。

制約事項

ソース・オーバーレイ・ファイル

ファイルが次の 4 つの条件に適合する場合は、ソース・オーバーレイ・ファイルとして作成されたものでなくても、ソース・オーバーレイ・ファイルとして「ソース・オーバーレイ・ファイルの処理」画面に表示されます。

- ファイルが物理ファイルである。
- ファイルがソース・ファイルではない。
- ファイルが DDM ファイルではない。
- レコード長が 80 である。

オーバーレイ・ユーティリティーを使用して作成したファイルの使用をお勧めします。

フォント

1. 指定されたフォントが存在しているかどうかの検査は行われません。フォントが存在しない場合は、オーバーレイを用いた印刷出力が印刷装置に送られた時点で、エラーが発生します。
2. 指定されたフォントが SBCS フォントであるか、DBCS フォントであるかの検査は行われません。SBCS 文字に DBCS フォントを指定したり、DBCS 文字に SBCS フォントを指定した場合は、その結果は印刷されるテキストによって異なります。テキストが予想外の文字で印刷される場合もあれば、テキストが印刷されないで、エラーが起こる場合もあります。
3. 「ソース・オーバーレイ・フォントの処理」画面で *DEFAULT を選択することによって、テキスト要素、枠要素、またはグラフィックス要素の省略時のフォント値を指定することができます。何も変更せずに *DEFAULT を使用してオー

バーレイを印刷すると、 Courier 10 フォント (FONT ID 11) が印刷装置に送られます。 Courier 10 のない印刷装置モード (たとえば、4224 印刷装置のドラフト・モードなど) でタイプ 1 の印刷装置 (IBM 4224/4234/4230) を使用する場合は、*ABSOLUTE の印刷精度では印刷ができません。このような場合は、*CONTENT の印刷精度を選択してください。

ページ・セグメント

1. プログラムは、指定したページ・セグメントが存在するかどうかは検査しません。ページ・セグメントがジョブのライブラリー・リスト中のライブラリーにない場合は、印刷出力が印刷装置に送られた時点で、エラーが出されます。
2. オーバーレイを用いた印刷出力が印刷装置に送られると、指定したページ・セグメントを見つけるために、印刷出力を作成したジョブのライブラリー・リスト中のライブラリーが検索されます。
オーバーレイを用いた印刷出力を作成する前に、次に挙げることを行っておく必要があります。
 - 正しいページ・セグメントをライブラリーに入れる。
 - ライブラリーをライブラリー・リストに入れる。
 - 希望するページ・セグメントを含むライブラリーが、ライブラリー・リスト中で、同じ名前のページ・セグメントを含む他のライブラリーの前にあることを確認してください。
3. ページ・セグメントがテキストを含む場合は、どのフォントが使用されるかは予期できません。テキストを印刷するために使用するフォントは指定できません。状況により、ページ・セグメント内のテキストに指定したフォントが使用できることも、印刷装置の省略時フォントが使用できることもあります。
4. ページ・セグメントに含まれているのが IM1 イメージと IO1 イメージの一方または両方かの検査は行われません。印刷装置によっては、IM1 イメージを希望の解像度で印刷できなかったり、IO1 イメージを印刷できない場合もあります。IOCA イメージを使用する場合は、IOCA 機能セット 10 だけをサポートします。
各印刷装置ごとの制約事項については、475 ページの『付録 A. 印刷装置の特性』を参照してください
5. 「オーバーレイ仕様の定義」画面の回転の角度 プロンプトで、90、180、または 270 を指定した場合、ソース・オーバーレイで定義したページ・セグメントはオーバーレイとともに回転しません。

線

線の幅が線の長さよりも大きい場合は、何も印刷されません。

枠

指定した線の幅が枠の幅または枠の高さよりも大きい場合は、何も印刷されません。

枠内のテキスト

枠内のテキストは、枠要素上に指定する文字間隔パラメーターを使用することによって形式設定されます。フォント・サイズが異なっている場合は、形式設定は正しく行われません。

次に例を示します。

文字スペーシング :

左右	10
上下	6

枠の中のテキストのフォント

幅	0.2 インチ (5 CPI)
高さ	0.33 インチ (3 CPI)

テキストは、中央の正しい位置の右に印刷されます。2 行目およびそれ以後の行は、部分的に前の行と重複します。

この状態を回避するためには、フォントの場合と同じ文字スペーシング値を指定してください。

枠内の陰影付け

陰影付き枠の印刷に長い時間がかかることがあります (特に IBM 4028 印刷装置の場合)。

グラフィックス (GDF) サイズ

AFP Utilities for iSeries には、グラフィックス (GDF) サイズに関する制限および制約事項はありませんが、大きなグラフィックス (GDF) が入っているオーバーレイを印刷したり、多すぎるグラフィックスを印刷したりすると、印刷装置記憶域超過のエラーが生じる可能性があります。このような場合は、印刷装置の記憶域のサイズを調べてください。

グラフィックス (GDF) におけるテキスト・フォント

グラフィック要素にテキスト文字が含まれている場合、そのテキストはグラフィックス要素に指定されたフォントを使って印刷されます。

オーバーレイ・オブジェクトの権限

オーバーレイを作成することによって、既存のオーバーレイが置き換えられる場合、権限 パラメーターは無視され、既存のオーバーレイの権限がそのまま残ります。

印刷装置の前提条件

各印刷装置には、それぞれ固有の制約事項があります。たとえば、印刷装置によっては、データ・ストリームのテキストを縦に印刷することができないものがあります。

各印刷装置ごとの制約事項については、475 ページの『付録 A. 印刷装置の特性』を参照してください。

印刷形式ユーティリティー

制限事項

下限値および上限値

表 82. 印刷形式ユーティリティーの下限値および上限値の制限事項

項目	下限値	上限値
PFD 定義内の要素数	0	レコード・レイアウトでは 999 で、ページ・レイアウトでは 999。そのため、PFD 定義では 1998。
ページの幅	0.1 インチ	22.75 インチ
ページの高さ	0.1 インチ	22.75 インチ
レコード・レイアウトおよびページ・レイアウトの中のページ・セグメント数	0	両方とも 999 各印刷装置には固有の制限がある。大部分の印刷装置は、最大 127 ページ・セグメントまで可能。印刷装置の記憶域サイズによっても、ページ・セグメント数が制限を受けることがある。
ページ・レイアウト内の反復レコード・レイアウト数	0	999
PFD 定義内グラフィックスの数	0	999 印刷装置の記憶域サイズによって数に制限を受けることがある。
テキストの長さ	1 (ブランクの場合がある)	203
枠要素内のテキスト行数	0 (テキストなし)	51
1 オブジェクト・タイプ当たりのマッピング・オブジェクト名の数	0	99

破線および点線

線の長さが線の幅に比べて短過ぎる場合は、破線および点線は実線で印刷されません。

この制限事項の最短の長さは線の幅によって異なります。

線の幅およびページ・サイズ

線または枠がページの縁に近く、しかも線の幅が太過ぎる場合は、線または枠要素はページ・サイズの内側にあっても、線の一部がページ・サイズを超えることがあります。

このような場合は、その要素の線は印刷されなくて、エラー・メッセージが表示されます。

要素の位置

ページ・サイズをインチまたはセンチメートルで指定し、要素の位置をインチまたはセンチメートルで指定した場合は、ページ・サイズの内側であっても、その位置を指定できないことがあります。

ページの右縁または最下部に近い位置でこのようなことが起こります。ページが行および桁で表されている場合は、インチまたはセンチメートルで指定された位置は、そのページの内側になければなりません。次に例を示します。

1 行当たりの数	10
1 インチ当たりの行数	6
ページ幅	5.15 インチ (51 桁)
高さ	6.1 インチ (36 行)
位置 左右	5.12 インチは、52 桁目になるので 指定することができません。
上下	6.05 インチは、37 桁目になるので 指定することができません。

300 ペルの印刷装置を使用して、文字サイズが *DEFAULT でないテキスト要素を印刷する場合、テキスト要素の位置がページの最下部に近すぎると、印刷されないことがあります。この場合は、テキスト要素をページ内の上方に移動するか、またはページ・サイズの高さをもっと高くしなければなりません。

制約事項

PFD 定義ファイル

ファイルが下記の4つの条件に適合する場合は、たとえ PFD 定義ファイルとして作成されたものでなくても、「PFD 定義ファイルの処理」画面には PFD 定義ファイルとして表示されます。

- ファイルが物理ファイルである。
- ファイルがソース・ファイルではない。
- ファイルが DDM ファイルではない。
- レコード長が 80 である。

印刷形式ユーティリティを使用して作成したファイルの使用をお勧めします。

フォント

1. 指定されたフォントが存在しているかどうかの検査は行われません。フォントが存在しない場合は、印刷出力が印刷装置に送られた時点で、エラーが通知されます。
2. 指定されたフォントが SBCS フォントであるか、DBCS フォントであるかの検査は行われません。SBCS 文字に DBCS フォントを指定したり、DBCS 文字に SBCS フォントを指定した場合は、その結果は印刷されるテキストによって異なります。テキストが予想外の文字で印刷される場合もあれば、テキストが印刷されないで、エラーが起こる場合もあります。
3. 「PFD 定義フォントの処理」画面で、*DEFAULT を選択して、テキスト要素、枠要素、またはグラフィックス要素の省略時のフォント値を指定することができます。何も変更せずに *DEFAULT を使用してページを印刷する場合は、

Courier 10 フォント (FONT ID 11) が印刷装置に送られます。 Courier 10 のない印刷装置モード (たとえば、4224 印刷装置のドラフト・モードなど) でタイプ 1 の印刷装置 (IBM 4224/4234/4230) を使用する場合は、*ABSOLUTE の印刷精度でページを印刷することはできません。 このような場合は、*CONTENT の印刷精度を選択してください。

ページ・セグメント

1. 指定されたページ・セグメントが存在するかどうかの検査は行われません。 ページ・セグメントがジョブのライブラリー・リスト中のライブラリーにない場合は、印刷出力が印刷装置に送られた時点で、エラーが出されます。
2. データベース・ファイル印刷出力が印刷装置に送られると、印刷出力を作成したジョブのライブラリー・リストのライブラリーは、指定したページ・セグメントを見つけるために探索されます。

PFD 定義でデータベース・ファイル・メンバーを印刷する前に、次の操作を行ってください。

- 正しいページ・セグメントをライブラリーに入れる。
 - ライブラリーをライブラリー・リストに入れる。
 - ページ・セグメントを含むライブラリーが、ライブラリー・リスト中で、同じ名前のページ・セグメントを含む他のライブラリーの前にあることを確認してください。
3. ページ・セグメントがテキストを含む場合は、どのフォントが使用されるかは予想できません。 テキストを印刷するために使用するフォントは指定できません。 状況により、ページ・セグメント内のテキストに指定したフォントが使用できることも、印刷装置の省略時フォントが使用できることもあります。
 4. プログラムは、ページ・セグメントに含まれているのが IM1 イメージと IO1 イメージのいずれであるか、あるいはその両方かの検査は行いません。 印刷装置によっては、IM1 イメージを希望の解像度で印刷できなかつたり、 IO1 イメージを印刷できない場合もあります。 IOCA イメージを使用する場合は、IOCA 機能セット 10 だけをサポートします。

各印刷装置ごとの制約事項については、475 ページの『付録 A. 印刷装置の特性』を参照してください

5. 「PFD 仕様の定義」画面の回転の角度 プロンプトで、90、180、または 270 を指定した場合、 PFD 定義で定義したページ・セグメントはページ・レイアウトとともに回転しません。

線

線の幅が線の長さよりも大きい場合は、何も印刷されません。

枠

指定した線の幅が枠の幅または枠の高さよりも大きい枠の場合は、何も印刷されません。

枠内のテキスト

枠内のテキストは、枠要素上に指定する文字間隔パラメーターを使用することによって形式設定されます。 フォント・サイズが異なっている場合は、形式設定は正しく行われません。

次に例を示します。

文字スペーシング :

左右	10
上下	6

枠の中のテキストのフォント

幅	0.2 インチ (5 CPI)
高さ	0.33 インチ (3 CPI)

テキストは、中央の正しい位置の右に印刷されます。2 行目およびそれ以後の行は、部分的に前の行と重複します。

この状態を回避するためには、フォントの場合と同じ文字スペーシング値を指定してください。

枠内の陰影付け

陰影付き枠の印刷に長い時間がかかることがあります (特に IBM 4028 印刷装置の場合)。

グラフィックス (GDF) サイズ

AFP Utilities for iSeries には、グラフィックス (GDF) サイズに関する制限および制約事項はありませんが、印刷するページに含まれるグラフィックス (GDF) が大きかったり、グラフィックスの数が多すぎたりすると、印刷装置記憶域超過のエラーが生じる可能性があります。このような場合は、印刷装置の記憶域のサイズを調べてください。

グラフィックス (GDF) におけるテキスト・フォント

グラフィック要素にテキスト文字が含まれている場合、そのテキストはグラフィック要素に指定されたフォントを使って印刷されます。各印刷装置には、それぞれ固有の制約事項があります。たとえば、印刷装置によっては、データ・ストリームのテキストを縦に印刷することができないものがあります。

各印刷装置ごとの制約事項については、475 ページの『付録 A. 印刷装置の特性』を参照してください。

資源管理ユーティリティー

制限事項

なし。

制約事項

IMDS (IOCA) データ・ストリーム

入力 IMDS (IOCA) データが正しくなければなりません。IOCA 機能セット 10 のみがサポートされます。パラメーターによって、検査されるものと、検査されない

ものがあります。入力 IMDS データが正しくない場合は、結果は予測できません。印刷はされるが、エラーが起こる場合もあれば、印刷されない場合もあります。

イメージ描画データ構造化フィールドに表示される、イメージ・サイズ・パラメーター・イメージ・オーダーのバイト 3 ~ 6 (単位ベース当たりの論理単位数) フィールドは 0 であってはなりません。

印刷操作

宛先の印刷装置で印刷できるかどうか、オーバーレイおよびページ・セグメントの内容は検査されません。

各印刷装置ごとの制約事項の詳細については、475 ページの『付録 A. 印刷装置の特性』を参照してください。

ページ・セグメントの作成

ページ・セグメントを作成して、既存のものを置き換えると、権限 パラメーターは無視され、現行の権限がそのまま残ります。

物理ファイル・メンバーへのオーバーレイの変換

注: ターゲット・システムでオーバーレイを使用する前に、そのオーバーレイを使用するために必要な資源 (たとえば、フォント、ページ・セグメント) がターゲット・システムに存在していることを確認しなければなりません。オーバーレイの転送だけでは、不十分である場合があります。また、ターゲット・システムの PSF のバージョンおよびサポートされる構造化フィールドを確認しなければなりません。

iSeries で使用できるオーバーレイが、ターゲット・システムで常に使用できるとは限りません。

物理ファイル・メンバーへのページ・セグメントの変換

注: ターゲット・システムの PSF のバージョンおよびサポートされる構造化フィールドを確認しなければなりません。

iSeries で使用されるページ・セグメントが、ターゲット・システムで常に使用できるとは限りません。

ソース・オーバーレイおよび PFD 定義の送信

ソース・オーバーレイまたは PFD 定義を別の iSeries システムに転送する場合は、SNDNETF コマンドを使用して直接送信しないでください。その代わりに、次のように保管ファイルとして送信してください。そうしないと、宛先の iSeries システム上で、それがソース・オーバーレイまたは PFD 定義として認識されません。

発信元 iSeries システムにおいて:

1. 保管ファイルを作成します。

`CRTSAVF SRCOVLSAVF`

2. ソース・オーバーレイ・ファイルまたは PFD 定義ファイルを保管します。

```
SAVOBJ OBJ(SRCOVLFIL) LIB(OVLLIB) DEV(*SAVF) SAVF(SRCOVLSAVF)
```

3. 保管ファイルを送信します。

```
SNDNETF SRCOVLFIL TOUSRID((USER NEWSYS))
```

宛先 iSeries システムにおいて:

1. 保管ファイルを作成します。

```
CRSAVF SRCOVLSAVF
```

2. WRKNETF コマンドを出します。

```
WRKNETF
```

3. オプション 1 で、新規作成の保管ファイルにファイルを受け入れます。

4. 以下のように、保管ファイルを復元します。

```
RSTOBJ OBJ(*ALL) SAVLIB(OVLLIB) DEV(*SAVF) SAVF(SRCOVLSAVF)
```

注: ファイル内のすべてのソース・オーバーレイまたは PFD 定義と一緒に送信されます。

第 23 章 問題の分析

Advanced Function Printing Utilities for iSeries を使用中、またはその出力を印刷中に問題が生じたとしても、問題の原因が明らかでないことがあります。ご使用のアプリケーション、システム環境、または Advanced Function Printing Utilities for iSeries のすべてがエラーの原因となる可能性があります。この章で説明する問題分析の手順は、問題の原因を判別し解決する上で役に立ちます。詳細については、464 ページの『IBM サービス技術員に連絡する場合』を参照してください。

問題分析の手順の使用法

問題分析の手順を使用するにあたって、事前にその制約事項を理解しておく必要があります。一般的な制約事項については、443 ページの『第 22 章 制限事項および制約事項』を参照し、印刷装置の制約事項については、475 ページの『付録 A. 印刷装置の特性』を参照してください。

この手順は、YES または NO で答えることができる一連の質問形式に整理されています。その応答に応じて、別の質問に進むか、推奨措置に進むか、のいずれかが指示されます。枠で囲んだ番号はステップのシーケンス番号です。

458 ページの『共通の徴候および推定原因』および 462 ページの『センス・コードおよび考えられる原因』も原因の迅速な究明に役立つよう用意されています。以下の手順によって指示が出され、これらの表のいずれかに進むよう指示されることがあります。

質問 1 から始めて、指示された各質問に回答しながら、一連の Q & A をたどってください。さらに詳細な手順が必要となる問題であれば、それらの手順を参照するように指示されます。

問題の識別

問題が生じたら、次に挙げる手順に従って、考えられる原因を正確に把握してください。

0100: 問題分析の手順

001: 問題が生じたのは、スプール・ファイルが作成された後ですか？

この質問で尋ねているのは、Advanced Function Printing Utilities for iSeries のプログラムは完了し、スプール・ファイルに問題があるのかどうかということです。たとえば、スプール・ファイルの印刷ができないか、印刷出力が予期していたものでない場合です。

Yes ステップ 002 に進んでください。

No ステップ 006 に進んでください。

002: 印刷出力が予想したものと違いましたか？

印刷出力を期待していたのに、何も受け取らなかった場合は、答えは 'YES' になります。

Yes 458 ページの『共通の徴候および推定原因』を参照し、指示にしたがってください。

No 454 ページのステップ 005 に進んでください。

003: まだ問題がありますか？

Yes ステップ 004 に進んでください。

No 問題は解決しました。

004: 印刷装置は現行 PTF レベルですか？

印刷装置の資料を参照して、PTF レベルを確認してください。

Yes 下のステップ 005 に進んでください。

No 以下を行ってください。

1. 現行レベルの PTF を導入する。
2. Advanced Function Printing Utilities for iSeries 機能を再試行する。

005: 印刷書き出しプログラム・ジョブのジョブの完了を妨げるエラー条件を示すメッセージが、印刷書き出しプログラムのメッセージ・キューにありましたか？

Yes 462 ページの『センス・コードおよび考えられる原因』を参照し、指示にしたがってください。

No 457 ページのステップ 012 に進んでください。

006: まだ問題がありますか？

Yes 457 ページのステップ 012 に進んでください。

No 問題は解決しました。

007: 作業の完了を妨げるエラー条件を示すメッセージを受け取りましたか？

Yes メッセージによって指示された処置を取ってください。それがヘルプを必要とする処置である場合は、464 ページの『IBM サービス技術員に連絡する場合』を参照してください。

メッセージを調べて必要な処置を確認する場合は、次の項目を調べてください。

- メッセージを詳細に記述する 2 次レベル・メッセージのテキスト。2 次レベル・メッセージのテキストを表示するには、カーソルの位置をメッセージ行に合わせ、F1 (ヘルプ) キーを押してください。
- 原因および回復処置。適用する場合、問題の考えられる原因および適切な回復処置の説明が得られます。

複数のメッセージを受け取る場合があります。メッセージの終わりに正符号 (+) が表示されていれば、メッセージの続きが送られてきていることを示します。残りのメッセージを表示するには、カーソルをメッセージ行に合わせ、「次ページ」キーを押してください。

メッセージをよく調べても、問題がまだ解決できない場合は、464 ページの『IBM サービス技術員に連絡する場合』を参照してください。

No 455 ページのステップ 008 に進んでください。

008: 入力禁止ライトが予想以上に長くオンになっていますか？

Yes

エラー/リセット・キーを押してください。入力禁止ライトがオフにならない場合は、次の処置のうち 1 つを行ってください。

- システム要求キーを押し、実行キーを押す。システム要求メニューが表示されたら、代替ジョブを開始する。
- 別のワークステーションに移り、サインオンする。

「サブシステム処理 (WRKSBS)」コマンドを入力して、「サブシステムの処理」画面を要求してください。実行中のサブシステムについてサブシステム・ジョブの処理のオプションを選択します。問題を生じているワークステーションと同じジョブ名のジョブ項目を探してください。2 つの項目が表示されたら、両方に注意します。それらの名前を書き留めてください。

No 457 ページのステップ 010 に進んでください。

009: ジョブ項目 (複数の場合もある) は HELD の状況を示していますか?

Yes ジョブ名の隣の入力プロンプトに 6 を入力して、ジョブを解放してください。

No

ループ状態または待ち状態が考えられます。次のことを行って、必要な情報を収集してください。

「ジョブ処理 (WRKJOB)」コマンドを入力し、F4 (プロンプト) キーを押してください。 コマンド・パラメーターについて次の値を選択してください。

パラメーター値

ジョブ名

障害のあるジョブのジョブ名、ユーザー名、およびジョブ番号。

出力 後で使用するためのジョブ情報を印刷するための「*PRINT」。

1. 「ジョブの処理」のメニューが表示されたら、オプション 11 (プログラム・スタックの表示) を選択してください。「ページ印刷」キーを押して、障害のあるジョブのプログラム・スタックを印刷してください。

プログラム・スタックには、現在プログラムが位置している命令がリストされます。これはループまたは遅延が生じた理由を判断する上で役立つことがあります。

2. 「コマンド入力」画面に戻るまで、F3 (終了) キーを押してください。
3. 「ジョブ終了 (ENDJOB)」コマンドを入力して、障害のあるジョブを取り消してください。次に例を示します。

ENDJOB JOB(008298/QUSER/DSP01)

システム・オペレーターに連絡して、障害のあるジョブのジョブ・ログが印刷されているかどうかを確認してください。ジョブ・ログは、各プログラム処置、およびそれらのプログラム処置の結果として出されたメッセージの記録です。

注: ENDJOB コマンドのログ限界値 (LOGLMT) パラメーターに省略時の値を使用した場合は、ジョブ・ログが印刷されます。ジョブ記述で LOG パラメーターのメッセージ・レベルに 0 を指定した場合は、ジョブ・ログは印刷されません。

4. ジョブ・ログを調べて、問題が生じた理由を見つけ出してください。

問題が解決できない場合は、464 ページの『IBM サービス技術員に連絡する場合』を参照してください。

010: 別の iSeries にソース・オーバーレイまたは PFD 定義を送信し、その宛先 iSeries システムでそれが使用不可能でしたか？

Yes 詳細については、451 ページの『ソース・オーバーレイおよび PFD 定義の送信』を参照してください。

No 下のステップ 011 に進んでください。

011: システムの Advanced Function Printing Utilities for iSeries は現行のバージョンおよびリリースですか？

システムのバージョンおよびリリース番号を確認するには、次の例のようにします。

GO LICPGM

メニューから「導入済みライセンス・プログラムの表示」を選択し、リスト上の 5716-SS1 の導入済みリリースを参照してください。

Advanced Function Printing Utilities for iSeries のバージョンおよびリリース番号を確認するには、リスト上のインストール済みの 5716-AF1 のリリースを見てください。

Advanced Function Printing Utilities for iSeries は、IBM iSeries オペレーティング・システムと同じバージョン番号、同じリリース番号でなければなりません。

Yes 下のステップ 012 に進んでください。

No 以下を行ってください。

1. 現行バージョンおよびリリース・レベルの Advanced Function Printing Utilities for iSeries をインストールする。
2. Advanced Function Printing Utilities for iSeries に対する現行のプログラム変更をすべてインストールする。
3. Advanced Function Printing Utilities for iSeries 機能を再試行する。

Advanced Function Printing Utilities for iSeries のインストールと、プログラムを変更する方法の説明については、「ソフトウェアの導入」マニュアルを参照してください。

012: 現行リリースの Advanced Function Printing Utilities for iSeries に関して受け取った IBM 提供のプログラム変更をすべて導入しましたか？

Yes 追加の援助を必要とする場合は、次のようにしてください。

- 障害のあるジョブを取り消し、ジョブ・ログを印刷する。ワークステーションからサインオフし、LOG パラメーターには *LIST を選択する。たとえば、次のように入力します。

```
SIGNOFF LOG(*LIST)
```

システム・オペレーターに連絡して、ジョブ・ログが印刷されたことを確認する。

- 464 ページの『IBM サービス技術員に連絡する場合』の指示に従う。

No

まだ適用していないプログラム変更があれば、それをインストールし、Advanced Function Printing Utilities for iSeries 機能を再試行してください。プログラムを変更する方法の説明については、「ソフトウェアの導入」を参照してください。

共通の徴候および推定原因

以下には、共通の徴候およびその考えられる原因が示してあります。

問題が表の中の複数の項目に該当する場合もあり得ます。たとえば、ページ・セグメントを印刷したのに、印刷されなかった場合には、「なにも印刷されない」と「イメージ (ページ・セグメント) が印刷されない」の両方を調べなければならない可能性があります。

指定したフォントのタイプがシステムによって変更されている場合もあります。そのような場合は、印刷装置書き出しプログラムのメッセージ・キューに、フォントの置換を示すメッセージが送られます。

表 83. 共通の徴候および推定原因

徴候	考えられる原因
何も印刷されない	<ul style="list-style-type: none"> • 印刷装置書き出しプログラムが開始されていない。 • 出力キューに入っているスプール・ファイルの数が多し。 (これはエラーではありません。 順番を待つか、そのスプール・ファイルの優先順位を上げてください。) • 印刷装置が IPDS 印刷装置ではない。 • 印刷装置が高機能印刷の構成になっていない。 • スプール・ファイルが入っている出力キューが活動中の印刷装置書き出しプログラムに対応していない。 • 印刷装置書き出しプログラムがメッセージ応答を待っている。 • 印刷精度に *ABSOLUTE が指定され、エラーが起こった。 印刷装置書き出しプログラムのメッセージ・キューを表示するか、印刷精度に *CONTENT を指定してください。 • オーバーレイ・サイズまたはページ・サイズが印刷可能域を超えている。 印刷可能域のサイズについて、印刷装置のマニュアルを参照してください。 用紙定義のオフセット値が 0 ではない場合は、その値を調べてください。 用紙定義名は印刷装置の装置記述に指定されています。 書式定義のオフセット値については、印刷装置プログラミングを参照してください。 • 印刷装置ではフォントのタイプ 2 (コード化フォントによる指定) およびフォントのタイプ 3 (コード・ページおよびフォント文字セットによる指定) しかサポートしていない場合に、タイプ 1 (フォントおよび文字 ID による指定) のフォントが指定されたか、またはフォントが何も指定されなかった。 • 印刷装置ではフォントのタイプ 1 (フォントおよび文字 ID による指定) しかサポートしていないのに、フォントのタイプ 2 (コード化フォントによる指定) またはフォントのタイプ 3 (コード・ページおよびフォント文字セットによる指定) のフォントが指定された。
ページ番号が印刷されない	<ul style="list-style-type: none"> • 印刷データが印刷装置記憶域のサイズを超えている。 • 用紙より大きいページ・サイズが指定された。 ページ番号はページの最後の行の中央に印刷されます。
バーコードが印刷されない	<ul style="list-style-type: none"> • 印刷装置が指定されたタイプのバーコードをサポートしていない。 • 印刷装置がバーコードの回転の角度をサポートしていない。 (オーバーレイまたはページを回転する場合は、バーコードに回転の角度を指定してください。) • バーコードでデータベースの中のフィールドを印刷している場合、フィールドの値または長さがそのバーコード・タイプについては正しくない。

表 83. 共通の徴候および推定原因 (続き)

徴候	考えられる原因
イメージ (ページ・セグメント) が印刷されない	<ul style="list-style-type: none"> • スプール・ファイルの作成時に、イメージがライブラリー・リストのライブラリーに入っていない。 • スプール・ファイルが印刷される前に、イメージが削除された。 • 印刷装置では IO1 イメージをサポートしていないのに、イメージが IO1 イメージであった。 注: IO1 と IOCA 機能セット 10 とは同義語です。 • 回転が指定され、イメージがページ外へはみ出た。 • ページ・セグメントの数が印刷装置の許容最大値を超えている。ほとんどの印刷装置では、1 ページあたり最大 127 個のページ・セグメントを指定することができます。 • ページ・セグメントにイメージが入っていない。 • データベース・ファイルの中のフィールドがページ・セグメントで使用されているけれども、そのフィールドの値または長さが正しくない。
グラフィックスが印刷されない。	<ul style="list-style-type: none"> • 印刷装置がグラフィックスをサポートしていない。 • 印刷装置がグラフィックスの回転の角度をサポートしていない。(オーバーレイまたはページを回転する場合は、グラフィックスに回転の角度を指定してください。) • データベース・ファイルの中のフィールドがグラフィックス・オブジェクト名を含む場合、そのフィールドの値または長さが正しくない。 • 黒以外のカラーをサポートしていない印刷装置の印刷精度に対して *ABSOLUTE を指定した。一般的にこのような印刷装置でサポートしないカラーが、グラフィックス (GDF) にある。印刷精度に *CONTENT を指定すること。
1 つまたは複数の要素が印刷されない	<ul style="list-style-type: none"> • 要素が除去されている。 • 指定されたフォントが使用できない。 • フォントの指定が間違っている。たとえば、DBCS テキストに SBCS フォントを指定した。 • 線の幅が 0 である。 • レコード・レイアウトに要素が入っていない。 • 印刷装置ではフォントのタイプ 2 (コード化フォントによる指定) およびフォントのタイプ 3 (コード・ページおよびフォント文字セットによる指定) しかサポートしていない場合に、タイプ 1 (フォントおよび文字 ID による指定) のフォントが指定されたか、またはフォントが何も指定されなかった。 • 印刷装置ではフォントのタイプ 1 (フォントおよび文字 ID による指定) しかサポートしていないのに、フォントのタイプ 2 (コード化フォントによる指定) およびフォントのタイプ 3 (コード・ページおよびフォント文字セットによる指定) のフォントが指定された。 • 印刷装置でサポートされていないカラーを指定した。

表 83. 共通の徴候および推定原因 (続き)

徴候	考えられる原因
別のイメージ (ページ・セグメント) が印刷される	<ul style="list-style-type: none"> • スプール・ファイルの作成時に、イメージがライブラリー・リストのライブラリーに入っていないか、あるいは別のイメージがライブラリー・リストの中の上位のライブラリーの中に存在している。 • スプール・ファイルが印刷される前に、イメージが変更された。 • イメージが IM1 であり、密度 (普通は 1 インチ当たり 240 画素) が印刷装置の密度と異なっている。 • ページ・セグメントの作成時に別のマッピング・オプションを指定した。
テキスト行がオーバーラップする 枠内のテキストが正しく形式設定されていない フォントが予想したものではない	<ul style="list-style-type: none"> • フォントの高さが、「オーバーレイ仕様」画面または、「PFD 仕様」画面で 1 インチ当たりの行数に指定された値と同じでない。 • フォント・サイズが、枠要素上の文字間隔 として指定された値と同じでない。 • 指定されたフォントが存在せず、別のフォントが代用された。 • 印刷装置が異なる場合は、同じフォントを指定しても、印刷出力が若干異なることがあります。
文字サイズが予想したものではない	<ul style="list-style-type: none"> • 文字サイズの幅および高さに関別の値が指定されたが、印刷装置によっては、別の値をサポートせず、幅と高さにより小さい値が使用される。 • 印刷装置が文字サイズの変更をサポートしていない。 • テキストにはフォントのタイプ 2 (コード化フォントによる指定) またはフォントのタイプ 3 (コード・ページおよびフォント文字セットによる指定) が使用されているが、これらのタイプのフォントの文字サイズを変更することはできない。 • フォントの文字の周りのスペースが予想以上に大きい。(幅および高さによって指定するのは、文字周りのスペースを含めたフォント・サイズです。)
要素位置が予想したとおりではない	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザーが要素位置を誤解していた。位置は要素タイプによって異なります。詳細については、465 ページの『要素タイプと位置』を参照してください。 • 測定単位の値が違っている。 • 測定方式が変更された。この場合は、測定方式を再度変更しても、同じ行/桁位置内で要素が移動することがあります。
テキストが予想したものではない	<ul style="list-style-type: none"> • テキストに指定したフィールドがファイルの中に存在しない。 • 回転が指定されたが、印刷装置では回転をサポートしていない。(オーバーレイまたはページを回転する場合は、テキスト要素に回転の角度を指定してください。) • 縦方向様式が指定されたが、印刷装置では縦方向様式をサポートしていない。 • 印刷装置でサポートされていないカラーを指定した。 • 「テキスト明細の定義」画面または「テキスト明細の変更」画面で文字サイズ プロンプトに指定した値が小さすぎ、しかも印刷装置が、4224 印刷装置、4234 印刷装置、または 4230 印刷装置である。

表 83. 共通の徴候および推定原因 (続き)

徴候	考えられる原因
グラフィックス内のテキストが予想したものでない。	<ul style="list-style-type: none"> グラフィックス要素に指定したサイズが小さく、しかも印刷装置が 4224 印刷装置、4234 印刷装置、または 4230 印刷装置である。
点線または破線の長さが正しくない	<ul style="list-style-type: none"> 「オーバーレイ仕様」または「PFD 仕様」に別の印刷装置タイプを指定した。
枠要素内の陰影が正しくない	<ul style="list-style-type: none"> 「オーバーレイ仕様」または「PFD 仕様」に別の印刷装置タイプを指定した。

センス・コードおよび考えられる原因

印刷装置書き出しプログラムのメッセージ・キューに送られたメッセージには、印刷装置によって戻されたセンス・データを表示するものがあります。センス・データを表示するには、カーソルの位置をメッセージに合わせてから、F1 (ヘルプ) キーを押してください。2 次レベル・メッセージが表示され、該当する場合は、その原因はセンス・データを表示します。たとえば、次のとおりです。

```
...
the corresponding sense data is X'0118'..X'02' X'01'. Processing of the
...
```

01、18、および 02 がセンス・バイト 0、1、および 19 です。

次の表は、代表的なセンス・バイトおよび考えられるそれらの原因を示します。

表 84. センス・バイトおよび考えられる原因

センス・バイト	説明および考えられる原因	回復処置
0、1、19		
0218..02	<p>使用できないフォント ID</p> <p>縦方向様式のテキストが指定されましたが、そのフォントはフォント・タイプ 1 (フォントおよび文字 ID による指定) です。</p>	<p>横方向形式を指定するか、あるいはフォント・タイプ 2 (コード化フォントによる指定) またはフォント・タイプ 3 (コード・ページおよびフォント文字セットによる指定) のフォントを使用してください。</p>
0300..01	<p>割り振られていないか、サポートされないグラフィックス・コマンド・コード</p> <p>印刷装置でサポートされるカラーは黒のみにもかかわらず、テキストに次のものが両方とも指定されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> カラー のプロンプトに対して *DEFAULT または 8= 黒以外の値。 文字サイズ のプロンプトに対して *DEFAULT 以外の値。 	<p>カラー のプロンプトに *DEFAULT を指定してください。</p>

表 84. センス・バイトおよび考えられる原因 (続き)

センス・バイト	説明および考えられる原因	回復処置
0、1、19		
0300..0E	サポートされていない属性値 印刷装置は GDF のグラフィックス・オーダーの属性値をサポートしていない。	印刷精度に *CONTENT を指定するか、または属性に対して標準的な省略時値を使用してください。
03C3..00	文字記号セットが使用不能 縦方向様式のテキストが指定され、文字サイズ値に *DEFAULT 以外が指定されましたが、そのフォントはフォント・タイプ 1 (フォントおよび文字 ID による指定) です。	横方向形式を指定するか、あるいはフォント・タイプ 2 (コード化フォントによる指定) またはフォント・タイプ 3 (コード・ページおよびフォント文字セットによる指定) のフォントを使用してください。
0403..00	サポートされていないバーコード・タイプ 印刷装置でサポートされていないバーコード・タイプが指定されました。	バーコード・タイプまたは印刷装置を変更してください。
0405..00	サポートされていないバーコード・カラー 印刷装置で黒だけがサポートされているのに、バーコードのカラー のプロンプトに *DEFAULT または 8= 黒以外の値を指定した。	カラー のプロンプトに *DEFAULT を指定してください。
0406..00	サポートされていない単位/モジュールの幅 印刷装置でサポートされていないバーコードのモジュールの幅値を指定した。	モジュールの幅または印刷装置を変更してください。
0821..00	未定義文字 テキスト内の 1 つまたは複数の文字が、定義されていないコード・ポイントを持っている。 <ul style="list-style-type: none"> コード・ポイントが定義されていない 1 つ以上の文字を含むデータベース・ファイル・メンバーを印刷しようとした。 データベース・ファイル・メンバーの中のレコードに指定されたバーコード・タイプでサポートされない文字が入っている。 テキストの印刷に指定されたフォントが正しくない。たとえば、SBCS テキストに対して DBCS フォントが指定されている。 	正しいデータおよび正しいフォントを使用してください。

表 84. センス・バイトおよび考えられる原因 (続き)

センス・バイト	説明および考えられる原因	回復処置
0、1、19		
08C1.00	位置検査 オーバーレイ・サイズが大き過ぎます。	オーバーレイ・サイズを小さくしてください。

IBM サービス技術員に連絡する場合

この章にリストしてある問題分析の手順を使用しても問題を解決できない場合は、IBM サービス技術員に連絡してください。IBM サービス技術員に連絡する前に、あらかじめ下記の情報をご用意ください。

- 問題が生じた画面のコピー、および指定した値。
ページ印刷キーを押すことができないためにコピーを取ることができない場合は、画面のタイトル、指定したすべての値、および押したキー。
- 処理中のソース・オーバーレイまたは PFD 定義のコピー (該当する場合)。
- 入力データベース・ファイルのコピー (該当する場合)。

スプール・ファイルの印刷中に生じた問題の場合は、次に挙げるものも必要です。

- 使用中のページ・セグメントのコピー。
- 印刷中のスプール・ファイルのコピー。
- 印刷装置書き出しプログラムのジョブ・ログのコピー。
- 印刷出力のコピー。

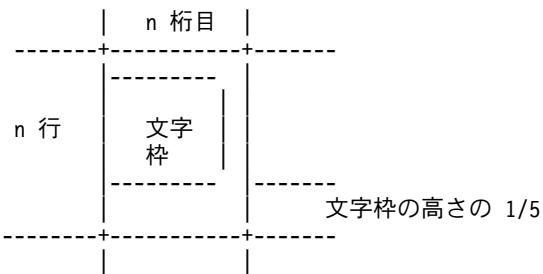
要素タイプと位置

要素の位置は、要素タイプによって微妙に異なります。

テキスト要素と位置

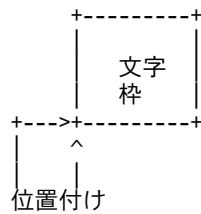
測定方式が行／桁の場合

文字の左端が桁の左端に位置付けられます。文字の最下部が行の最下部より文字の高さの $1/5$ だけ上に位置付けられます。



測定方式がインチまたはセンチメートルの場合

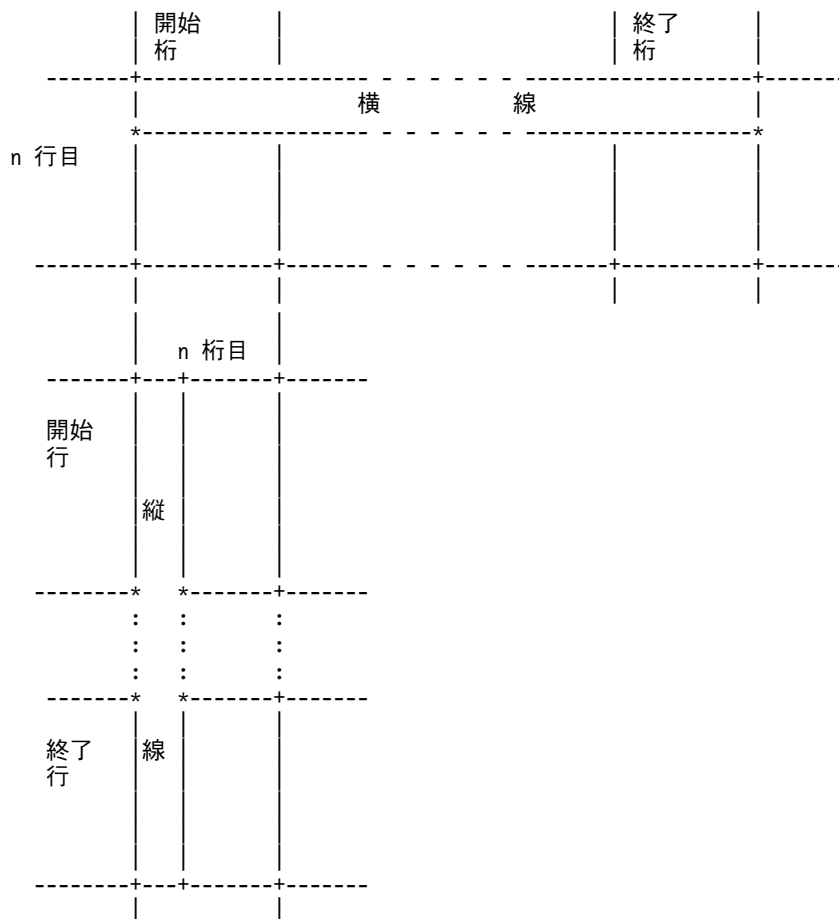
文字の左端が横方向位置に位置付けられます。文字の最下部が縦方向位置に位置付けられます。



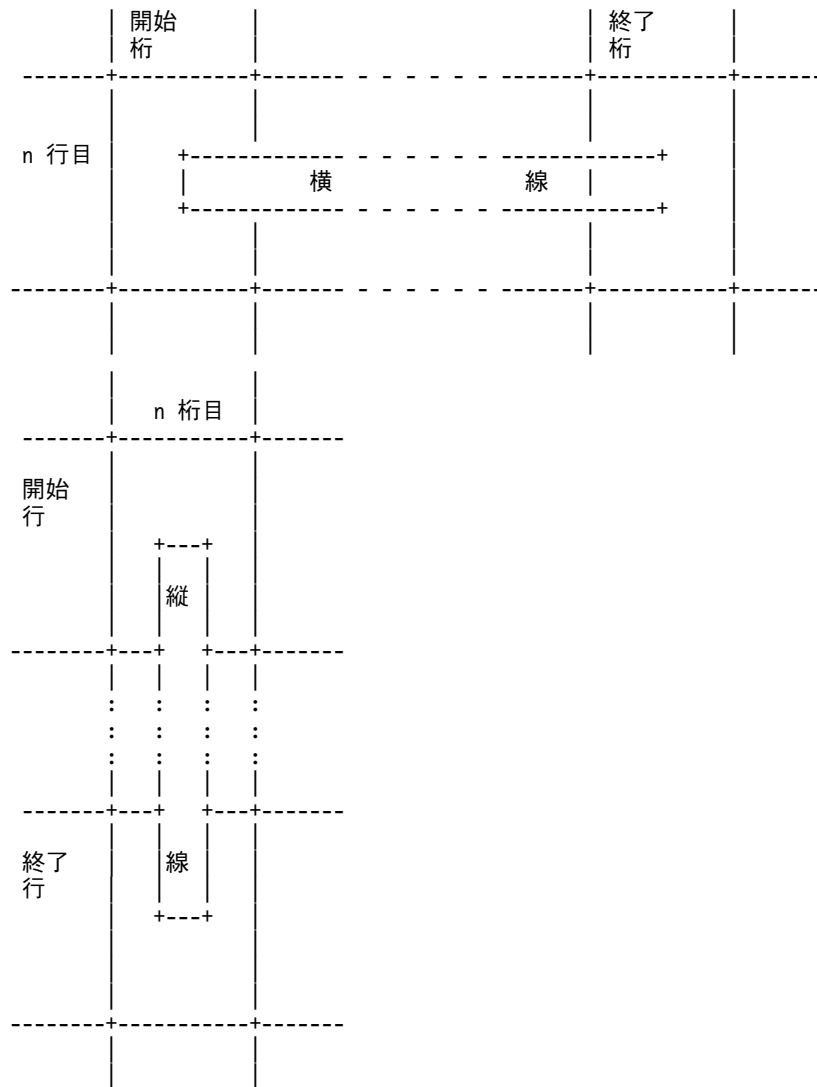
線要素と位置

測定方式が行／桁の場合

線の挿入が端の場合：横線の最上部が行の最上部に位置付けられます。縦線の左端が桁の左に位置付けられます。

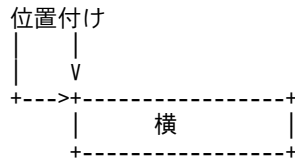


線の挿入が中央の場合：横線の中央または縦線の最上部が行または桁の中央に位置付けられます。縦線の中央または横線の左端が桁の中央に位置付けられます。



測定方式がインチまたはセンチメートルの場合

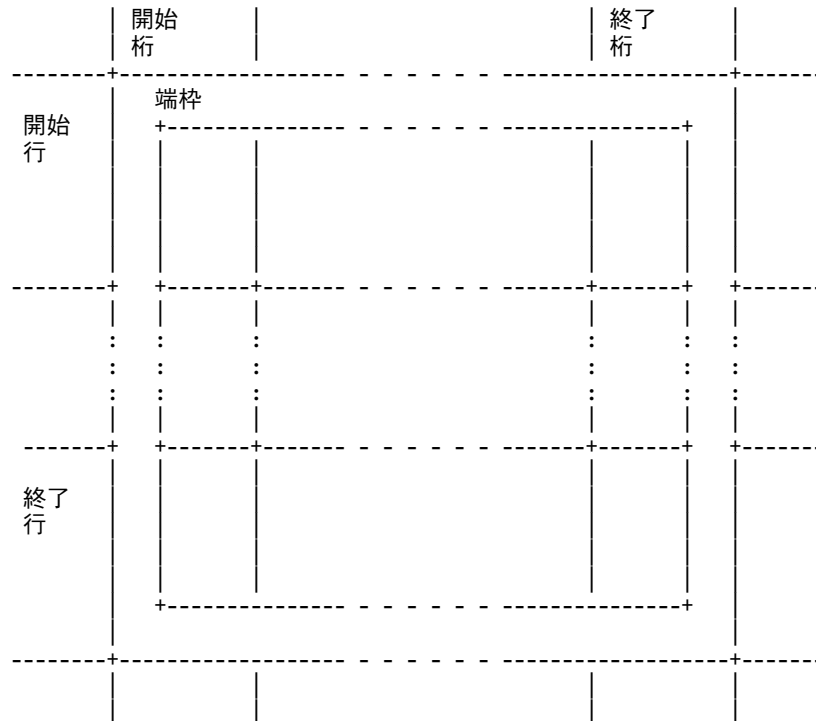
横線の最上部が縦方向位置に位置付けられます。縦線の左端が横方向位置に位置付けられます。



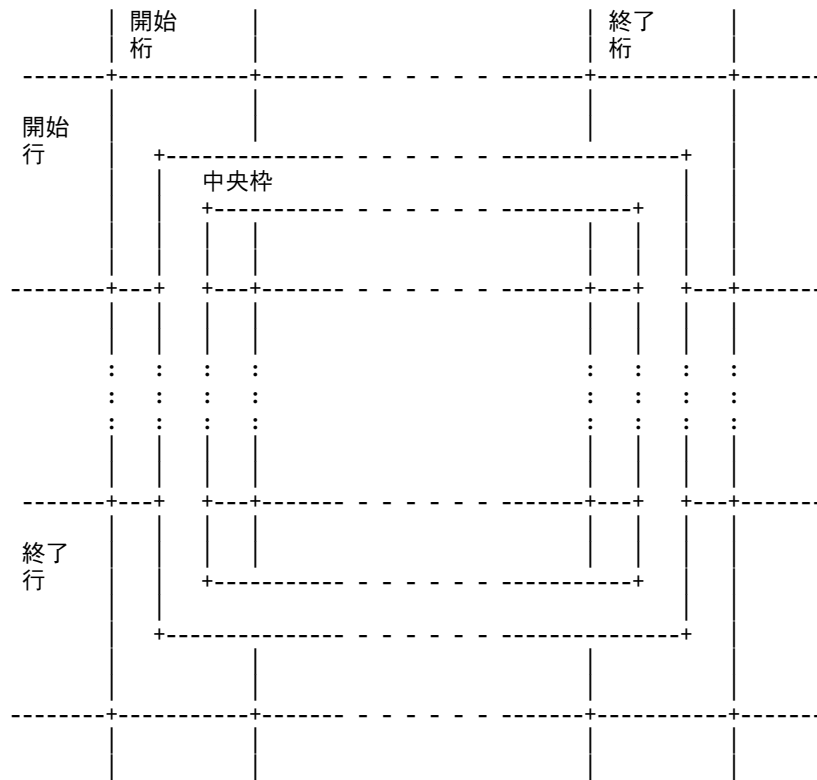
枠要素と位置

測定方式が行／桁の場合

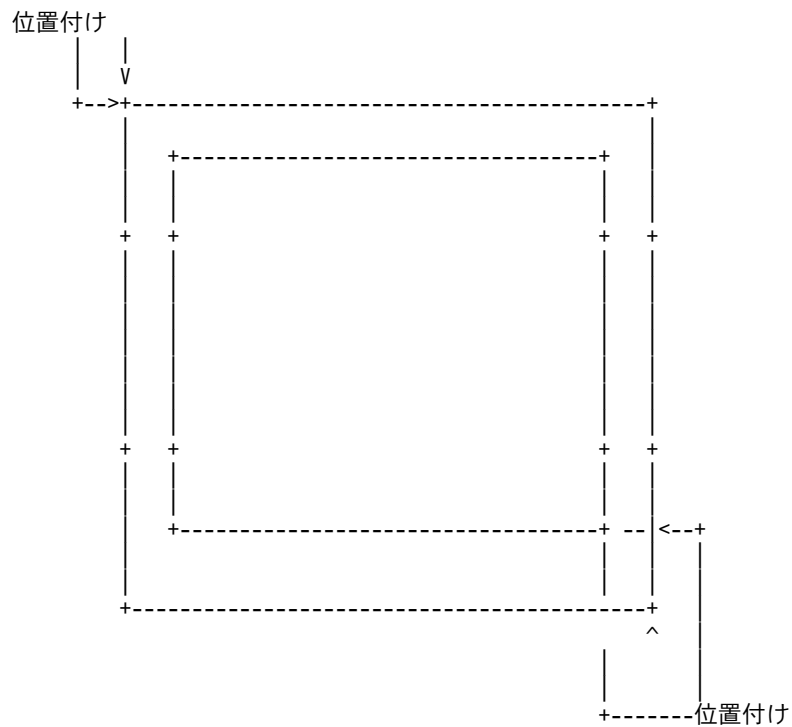
線の挿入が端の場合：上横線の最上部が行の最上部に位置付けられます。下横線の最下部が行の最下部に位置付けられます。左縦線の左端が桁の左に位置付けられます。右縦線の右端が桁の右に位置付けられます。



線の挿入が中央の場合：横線の中央が行の中央に位置付けられます。縦線の中央が桁の中央に位置付けられます。



測定方式がインチまたはセンチメートルの場合：横線の最上部が縦方向位置に位置付けられます。縦線の左端が横方向位置に位置付けられます。

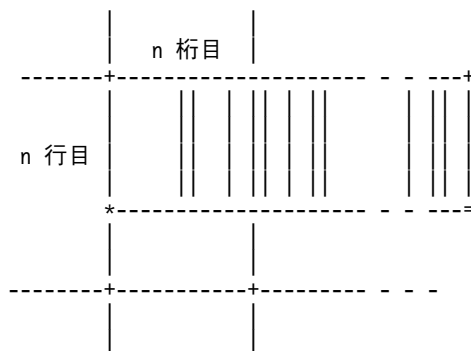


バーコード要素と位置

注: バーコードのバーの前には先行ブランクがあります。したがって、最初のバーが指定された位置から始まるわけではありません。

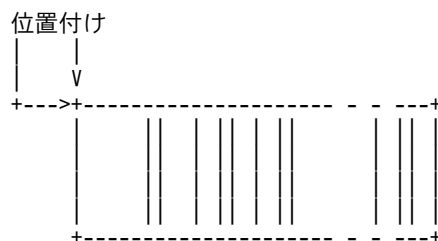
測定方式が行／桁の場合

行の最上部および桁の左端がバーコード位置になります。



測定方式がインチまたはセンチメートルの場合

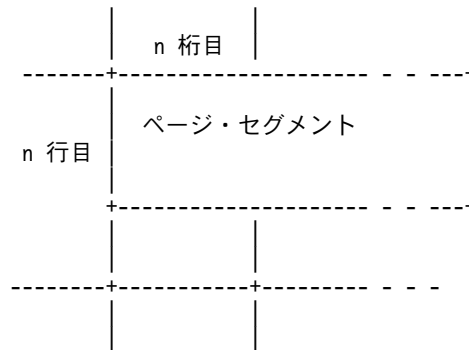
バーコード区域の左上角の位置が指定されます。



ページ・セグメント要素と位置

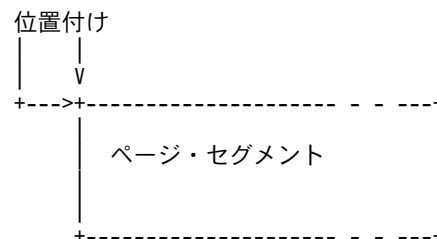
測定方式が行／桁の場合

行の最上部および桁の左端がページ・セグメント位置になります。



測定方式がインチまたはセンチメートルの場合

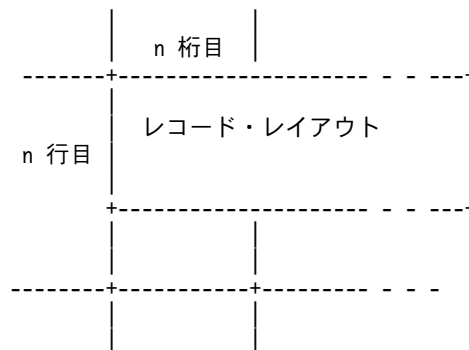
ページ・セグメントの左上角の位置が指定されます。



レコード・レイアウト要素と位置

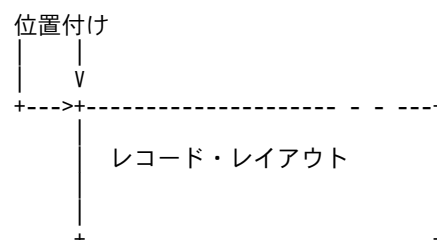
測定方式が行／桁の場合

行の最上部および桁の左端がレコード・レイアウト位置になります。



測定方式がインチまたはセンチメートルの場合

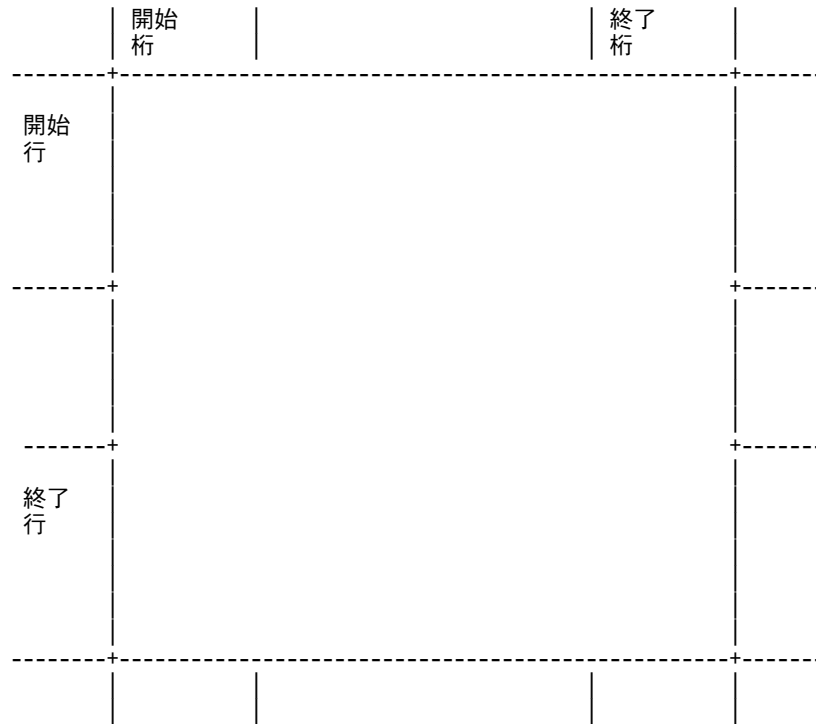
レコード・レイアウトの左上角の位置が指定されます。



グラフィックス要素および位置

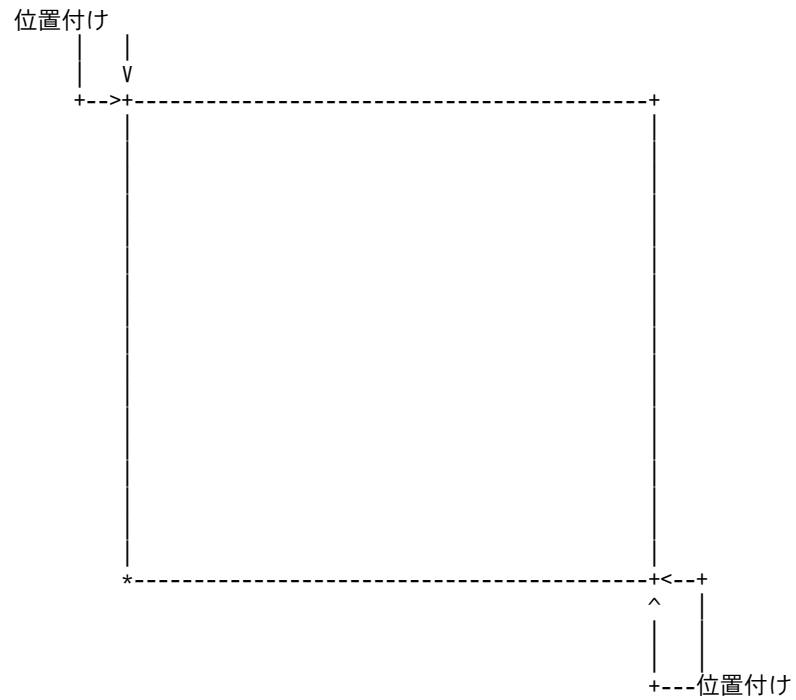
測定方式が行／桁の場合

グラフィックス・ブロックの上端が行の上端に位置付けられます。グラフィックス・ブロックの下端が行の下端に位置付けられます。グラフィックス・ブロックの左端が桁の左に位置付けられます。グラフィックス・ブロックの右端が桁の右に位置付けられます。



測定方式がインチまたはセンチメートルの場合

グラフィックス・ブロックの横方向の端が縦方向位置に位置付けられます。グラフィックス・ブロックの縦方向の端が横方向位置に位置付けられます。



付録 A. 印刷装置の特性

印刷装置によっては、出力を設計どおりに印刷することができないものがあります。この付録では、ペル密度、1 バイト (SBCS) 文字セットおよび 2 バイト (DBCS) 文字セットのサポートのような、印刷出力に影響するいくつかの印刷装置の特性について説明しています。印刷装置の特性に関する詳細は、*Advanced Function Printing: Printer Information*、またはご使用の印刷装置に該当する資料を参照してください。

サポートされる印刷装置

サポートされる IBM AFP 印刷装置の詳細については、*IBM Printing Systems: Printer Information*、S544-5750 を参照してください。追加情報については、IBM 印刷装置の Web ページ <http://www.ibm.com/printers> も参照してください

印刷可能域

印刷装置が異なれば印刷可能区域も異なります。印刷可能域も、使用するページ・レイアウトまたはオーバーレイに指定した用紙サイズと回転角度によっても異なります。

印刷出力が印刷装置の印刷可能域に収まるように、「オーバーレイ仕様の定義」画面または「PFD 仕様の定義」画面のオフセットのプロンプトを指定しなければなりません。

印刷可能域の説明については、*IBM Printing Systems: Printer Information*、S544-5750、またはご使用の印刷装置に該当する資料を参照してください。

印刷装置記憶域に関する制限事項

印刷出力を印刷するのに必要なデータは、印刷装置記憶域にロードされます。非常に複雑な印刷出力の場合、記憶域所要量が印刷装置の記憶域の限界に近づいたり、それを超えたりすることがあります。記憶域の限界を超えた場合は、印刷出力は印刷されません。使用記憶域が限界に近づいた場合は、印刷がいくぶん遅くなります。

そのような場合は、以下の一つまたは複数の方法により、印刷出力の単純化を考えなければなりません。

- 要素の数を削減する。
- フォントの数を削減する。
- ページ・セグメントの数を削減する。
- グラフィックスの数を削減する。
- 陰影の使用を避ける。
- 点線または破線、あるいは枠の使用を避ける。
- 拡大または縮小文字の使用を避ける。

- 相対的に小さいフォントを使用する。

印刷装置用にラスター・イメージ記憶域を追加購入することも考えなければなりません (ただし、そうすることが妥当な場合)。

付録 B. 枠内の回転、様式、および陰影パターン

様式、テキストの挿入、および回転

オーバーレイまたはページの回転の角度、および枠要素の中のテキスト位置を指定することができます。

「枠明細の定義」画面で、**様式** のプロンプト、**テキストの挿入** のプロンプト、および**回転の角度** のプロンプトに、それぞれ**様式**、**テキストの挿入**、および**回転**を指定することができます。

様式

様式 のプロンプトには次の値を指定することができます。

- 1 左右
 - 2 上下
 - 3 上下、右から左
- 注: 値 3 を指定することができるのは、「ソース・オーバーレイ・ファイルの作成」画面または「PFD 定義ファイルの作成」画面で、ユーザー指定の DBCS データのプロンプトに Y を指定した時で、かつ iSeries システムが 2 バイト文字を処理可能の場合のみです。

テキストの挿入

様式が左右の場合は、**左右** のプロンプトおよび**上下** のプロンプトに次の値を指定することができます。

- **左右** のプロンプト

- 1 左
- 2 中央
- 3 右
- 4 平均

- **上下** のプロンプト

- 1 上端
- 2 中央
- 3 下端

様式が上下か、または上下、右から左の場合は、**左右** のプロンプトおよび**上下** のプロンプトに次の値を指定することができます。

- **左右** のプロンプト

- 1 左
- 2 中央
- 3 右

• 上下のプロンプト

- 1 上端
- 2 中央
- 3 下端
- 4 平均

回転の角度

0、90、180、および 270 を指定して、テキストを時計まわりに回転することができます。

下の印刷例に、テキストの様々な回転および様式を示してあります。

表 85. 回転の角度および回転の様式

	様式	回転の角度 (粋)	回転の角度 (オーバーレイ またはページ)
印刷例 - 1	1	0	0
印刷例 - 2	1	90	0
印刷例 - 3	1	180	0
印刷例 - 4	1	270	0
印刷例 - 5	1	90	90
印刷例 - 6	2	0	0
印刷例 - 7	2	90	0
印刷例 - 8	2	180	0
印刷例 - 9	2	270	0
印刷例 - 10	2	90	90
印刷例 - 11	3	0	0
印刷例 - 12	3	90	0
印刷例 - 13	3	180	0
印刷例 - 14	3	270	0
印刷例 - 15	3	90	90

「枠明細の定義」画面の選択項目:

様式 : 1= 左右
回転の角度 : 0

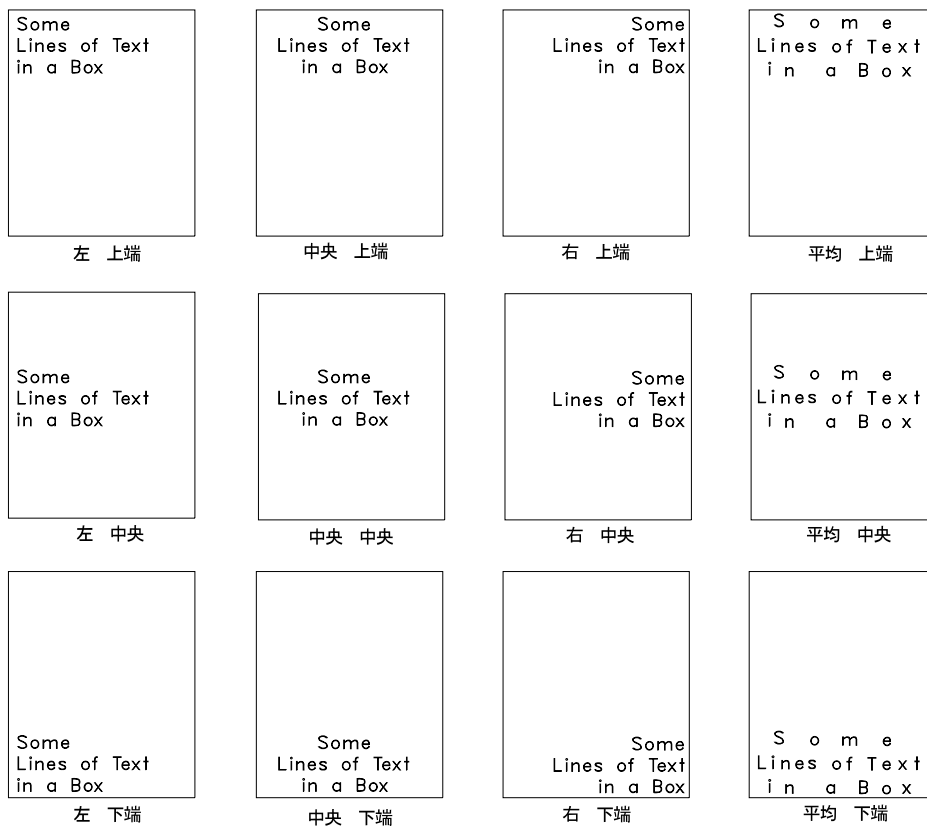


図 34. 印刷例 - 1

「枠明細の定義」画面の選択項目:

様式 : 1= 左右
回転の角度 : 90

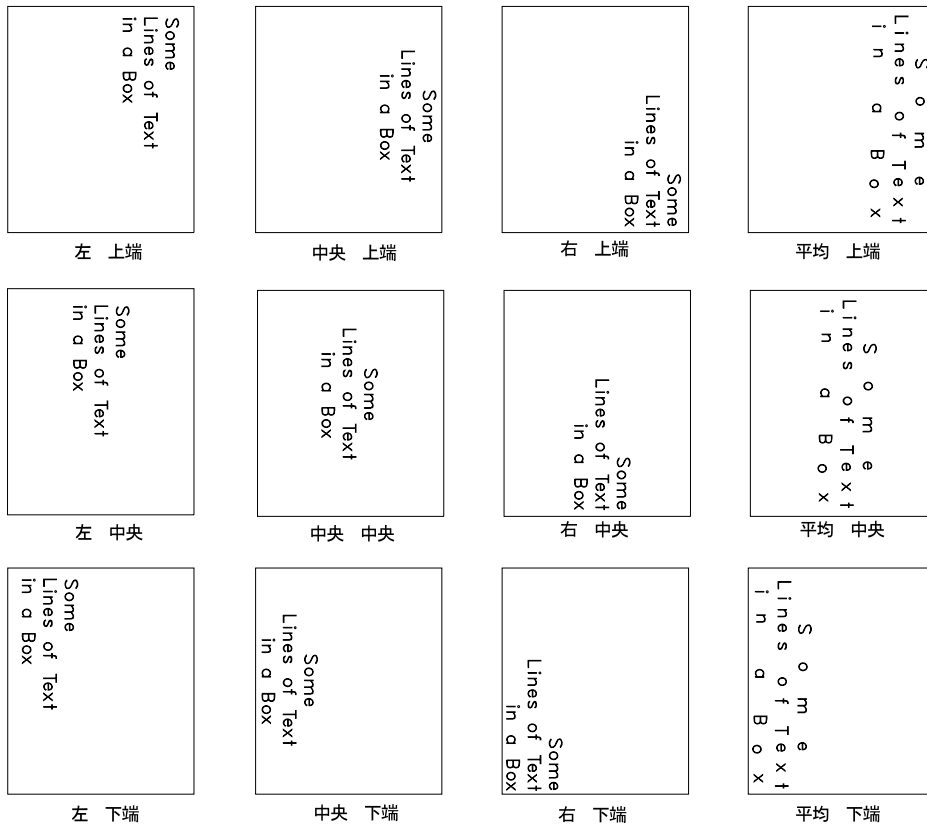


図 35. 印刷例 - 2

「枠明細の定義」画面の選択項目:

様式 : 1= 左右
回転の角度 : 180

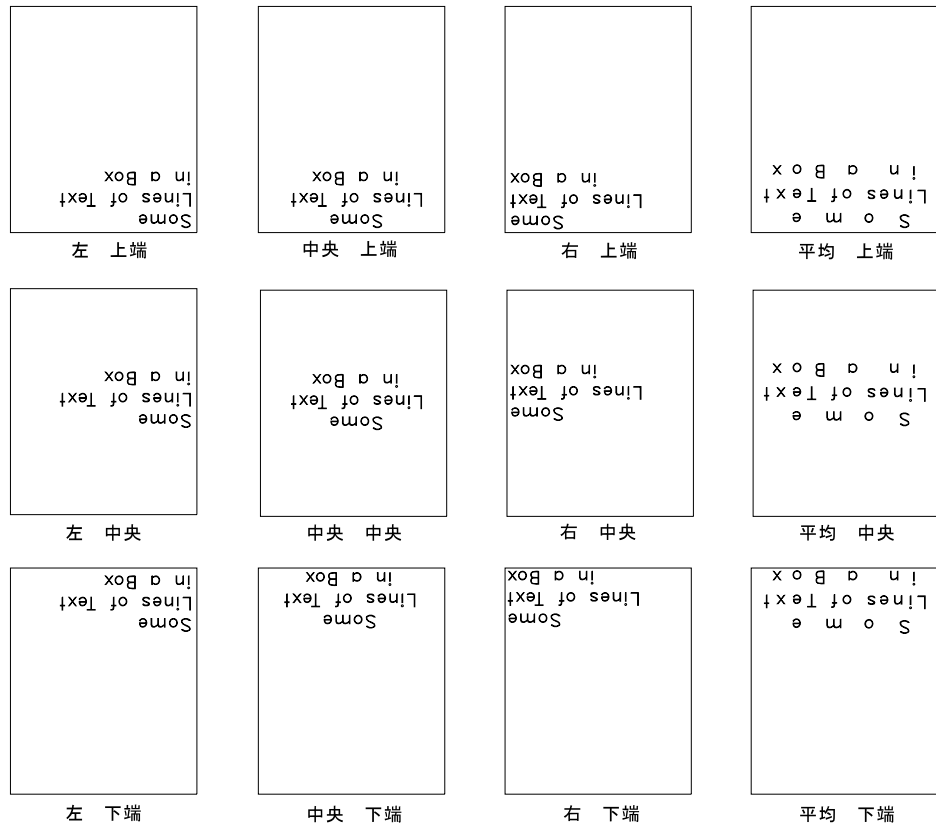


図 36. 印刷例 - 3

「枠明細の定義」画面の選択項目:

様式 : 1= 左右
回転の角度 : 270

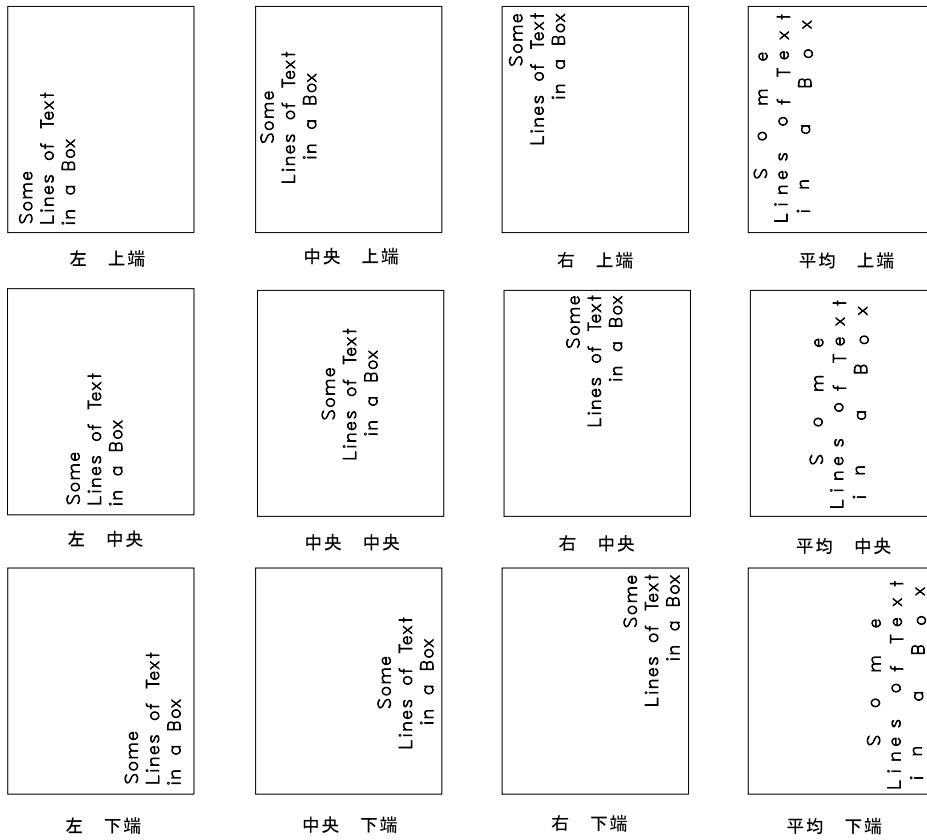


図 37. 印刷例 - 4

「枠明細の定義」画面の選択項目:

様式 : 1= 左右
回転の角度 : 90

「オーバーレイ仕様の定義」画面または
「PFD 仕様の定義」画面の選択項目:

回転の角度 : 90

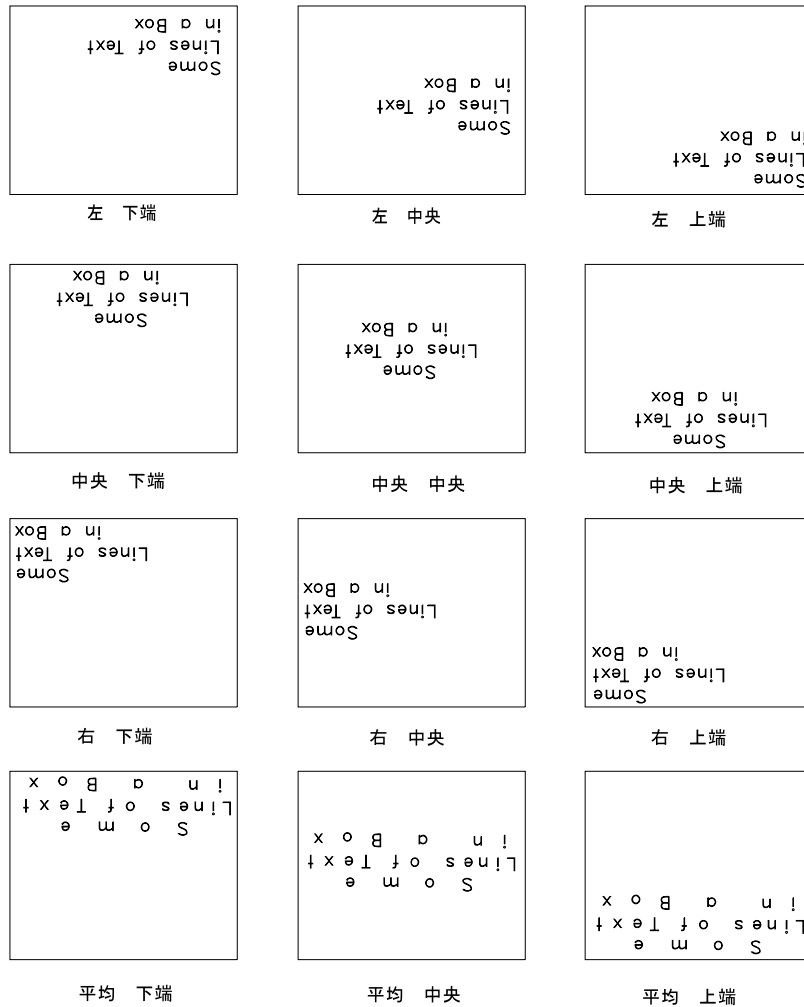


図 38. 印刷例 - 5

「枠明細の定義」画面の選択項目:

様式 : 2= 上下
回転の角度 : 0

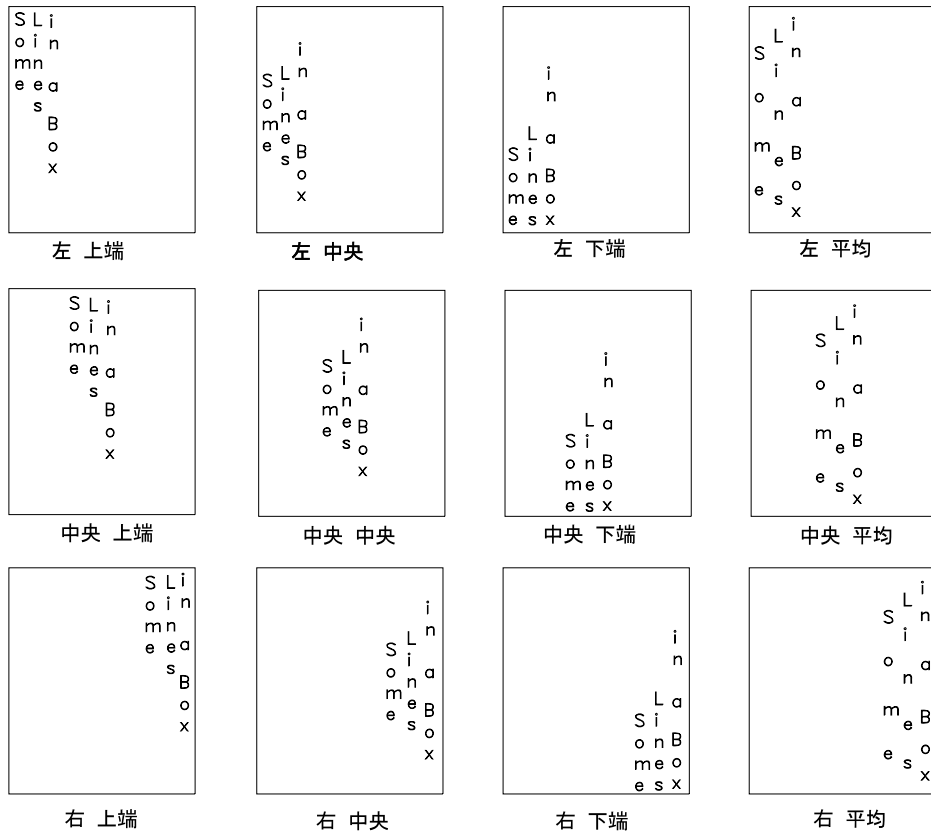


図 39. 印刷例 - 6

「枠明細の定義」画面の選択項目:

様式 : 2= 上下
回転の角度 : 90

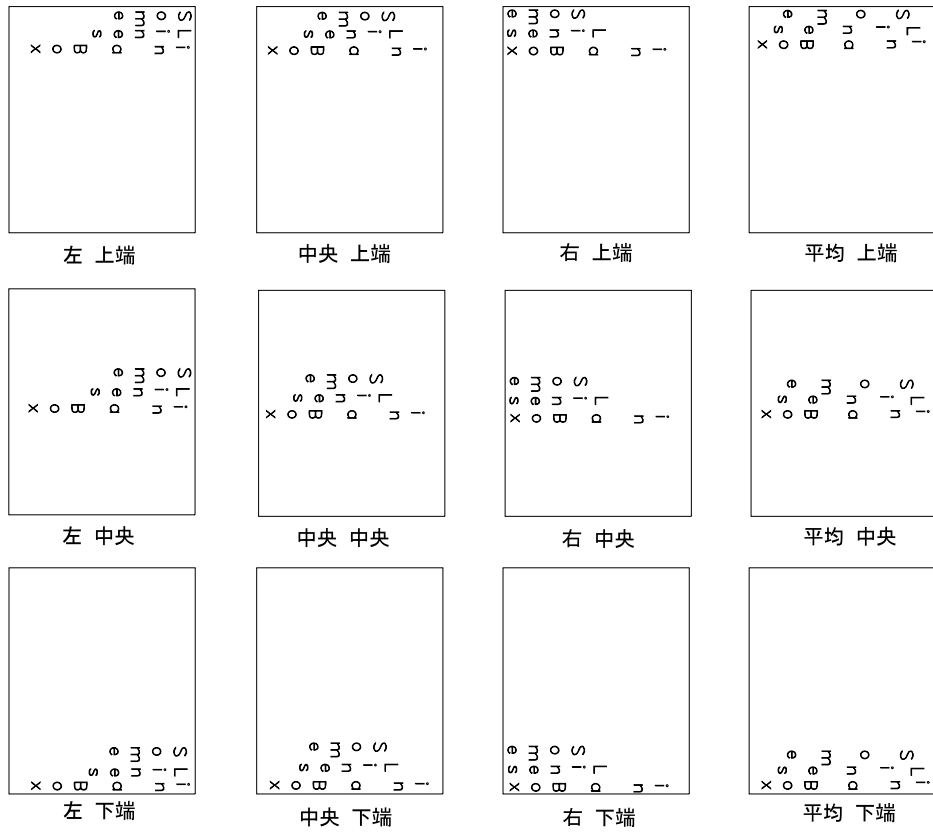


図 40. 印刷例 - 7

「枠明細の定義」画面の選択項目:

様式 : 2= 上下
回転の角度 : 180

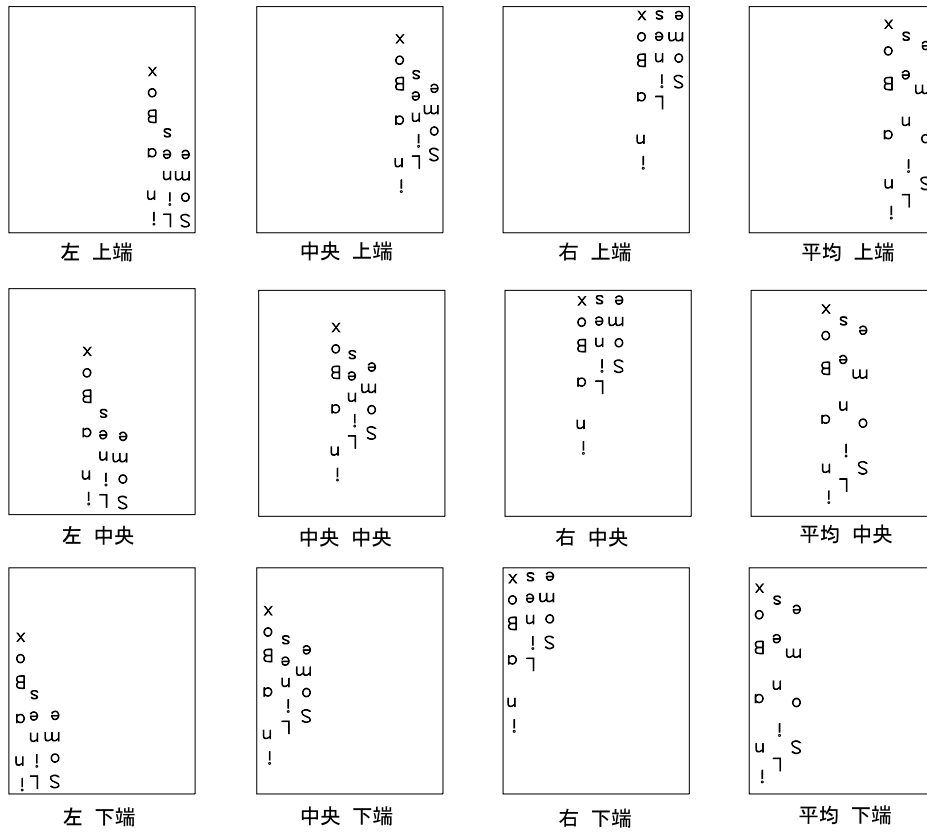


図 41. 印刷例 - 8

「枠明細の定義」画面の選択項目:

様式 : 2= 上下
回転の角度 : 270

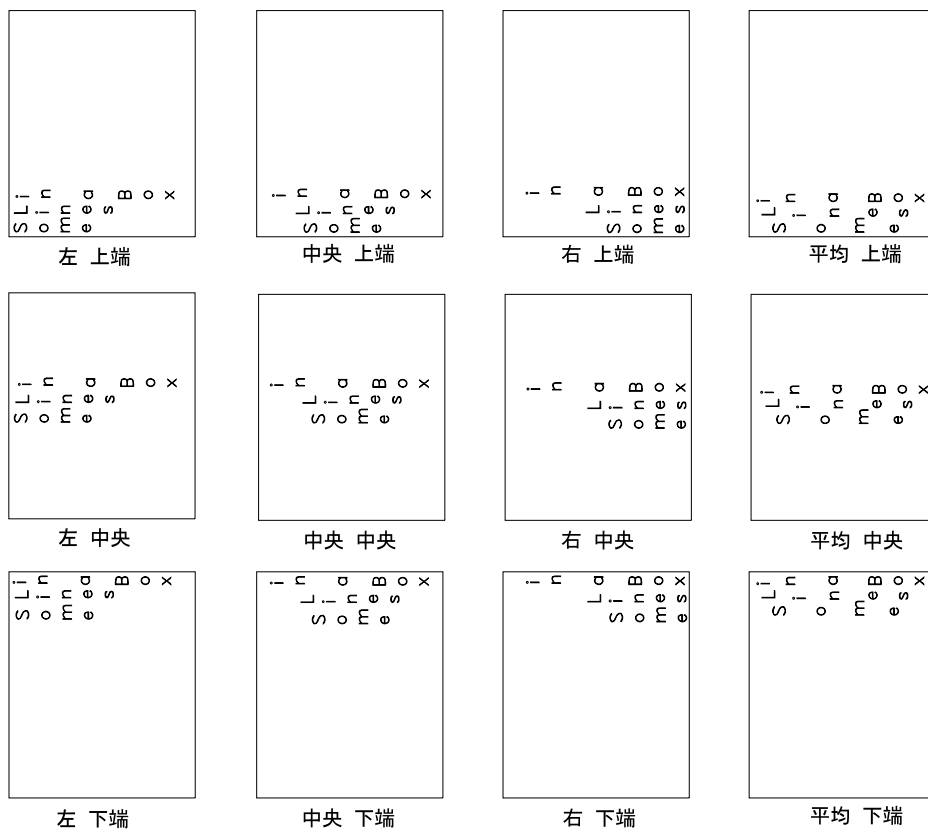


図 42. 印刷例 - 9

「枠明細の定義」画面の選択項目:

様式 : 2= 上下
回転の角度 : 90

「オーバーレイ仕様の定義」画面または
「PFD 仕様の定義」画面の選択項目:

回転の角度 : 90

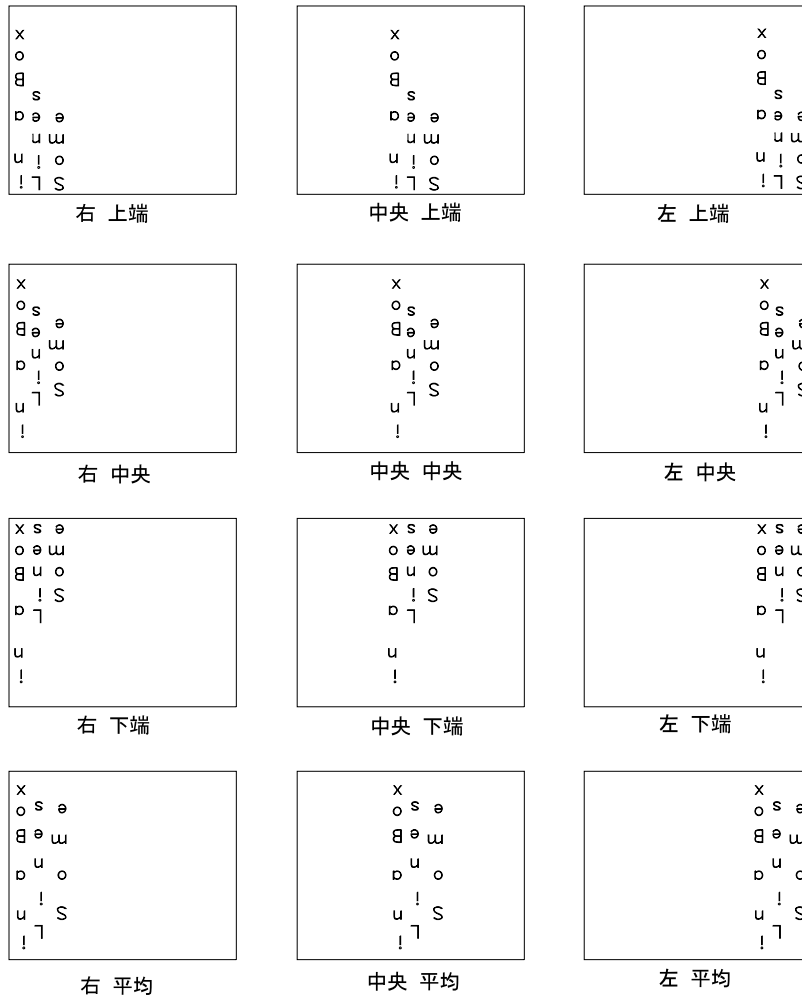


図 43. 印刷例 - 10

「枠明細の定義」画面の選択項目:

様式 : 3= 上下、右から左
回転の角度 : 0

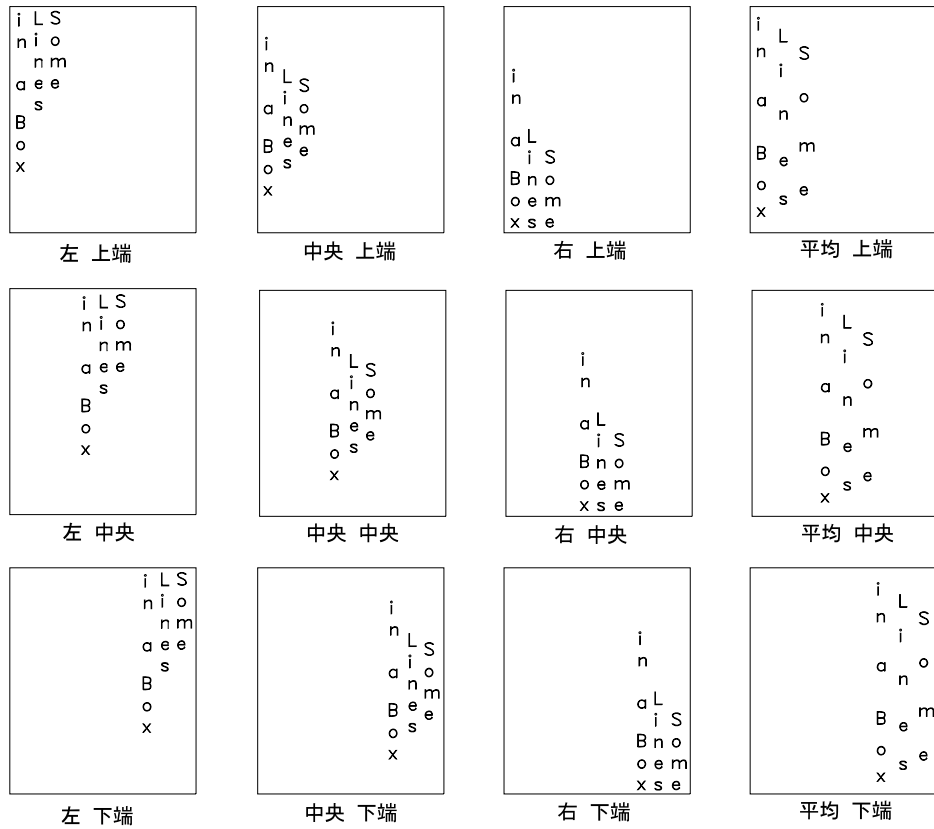


図 44. 印刷例 - 11

「枠明細の定義」画面の選択項目:

様式 : 3= 上下、右から左
回転の角度 : 90

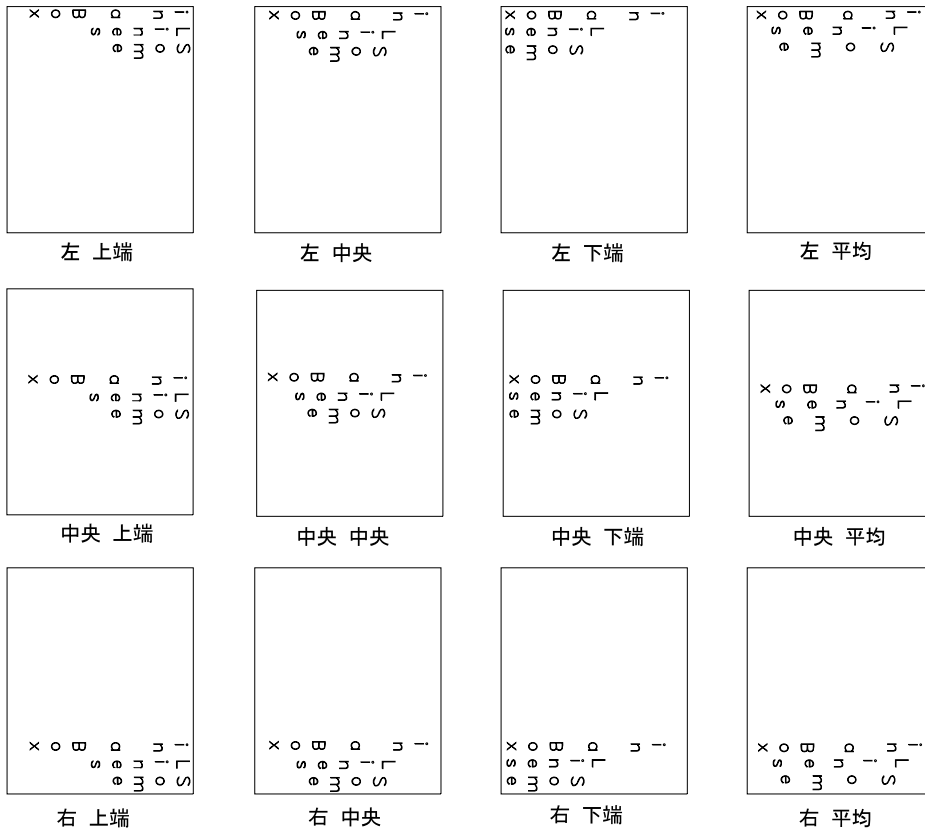


図 45. 印刷例 - 12

「枠明細の定義」画面の選択項目:

様式 : 3= 上下、右から左
回転の角度 : 180

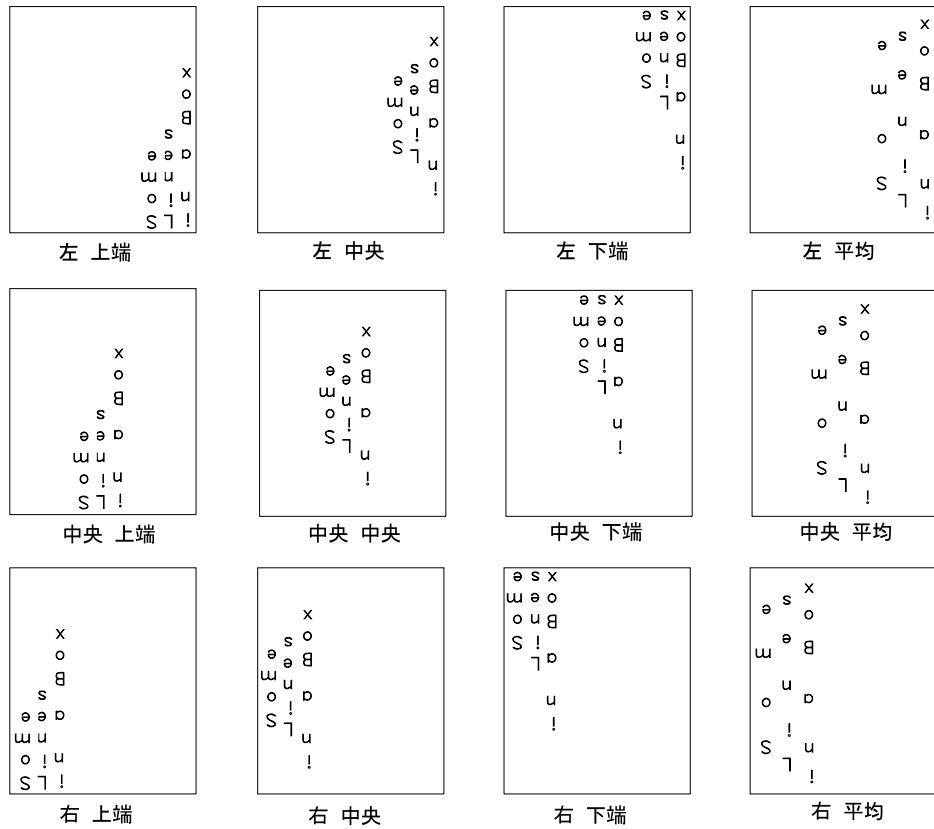


図 46. 印刷例 - 13

「枠明細の定義」画面の選択項目:

様式 : 3= 上下、右から左
回転の角度 : 270

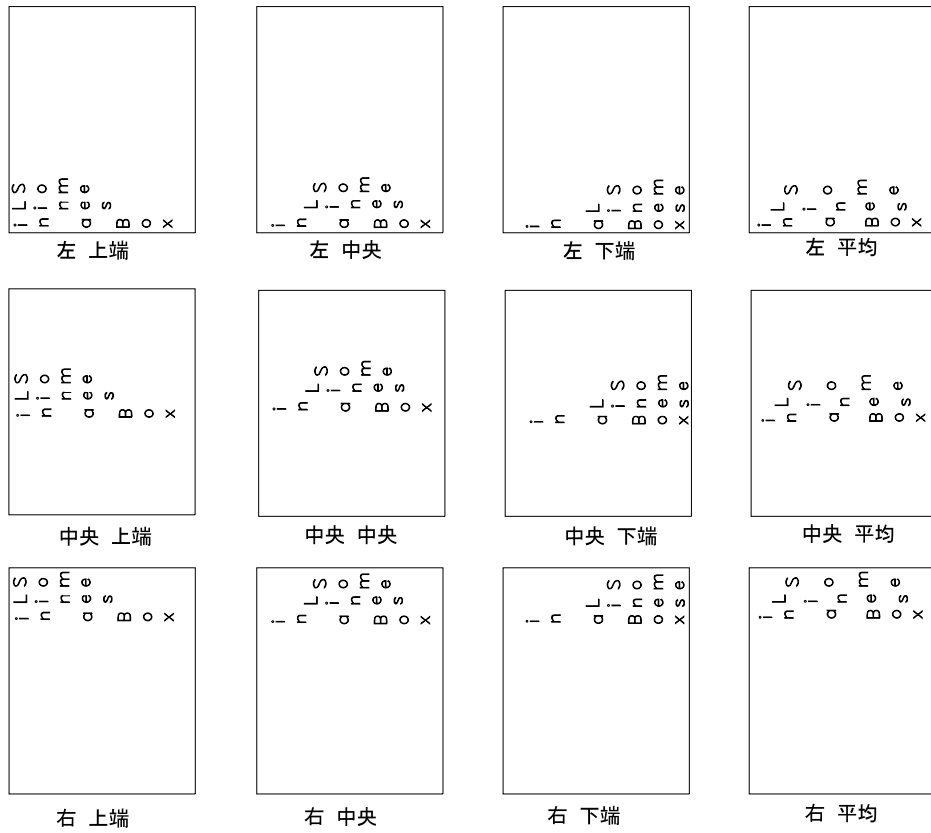


図 47. 印刷例 - 14

「枠明細の定義」画面の選択項目:

様式 : 3= 上下、右から左
回転の角度 : 90

「オーバーレイ仕様の定義」画面または
「PFD 仕様の定義」画面の選択項目:

回転の角度 : 90

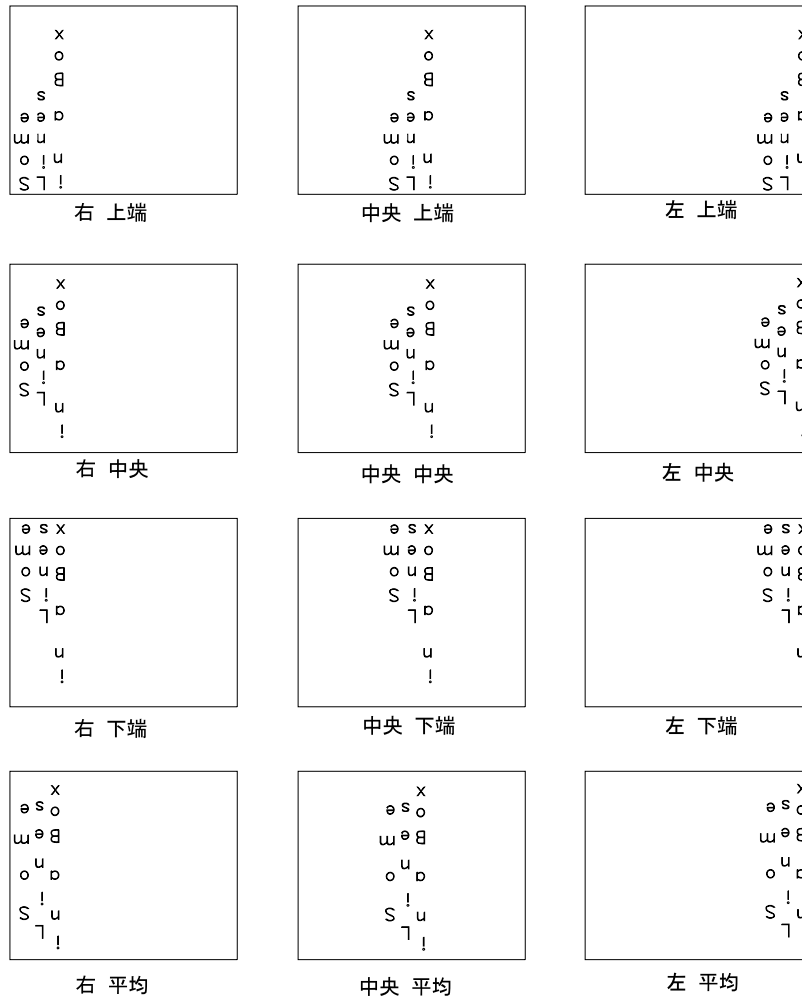


図 48. 印刷例 - 15

枠内の陰影パターン

「枠明細の定義」画面で、陰影パターンのプロンプトおよび陰影タイプのプロンプトに、枠要素の中の陰影を指定することができます。

標準の陰影が選択された場合、陰影の程度は画面の陰影と同じ比率で増加します。両者の違いは、画面の陰影は画面らしいパターンを生成するのに対し、標準の陰影はパターンではなくドット・マトリックスを生成します。

以下に陰影の例を示します。

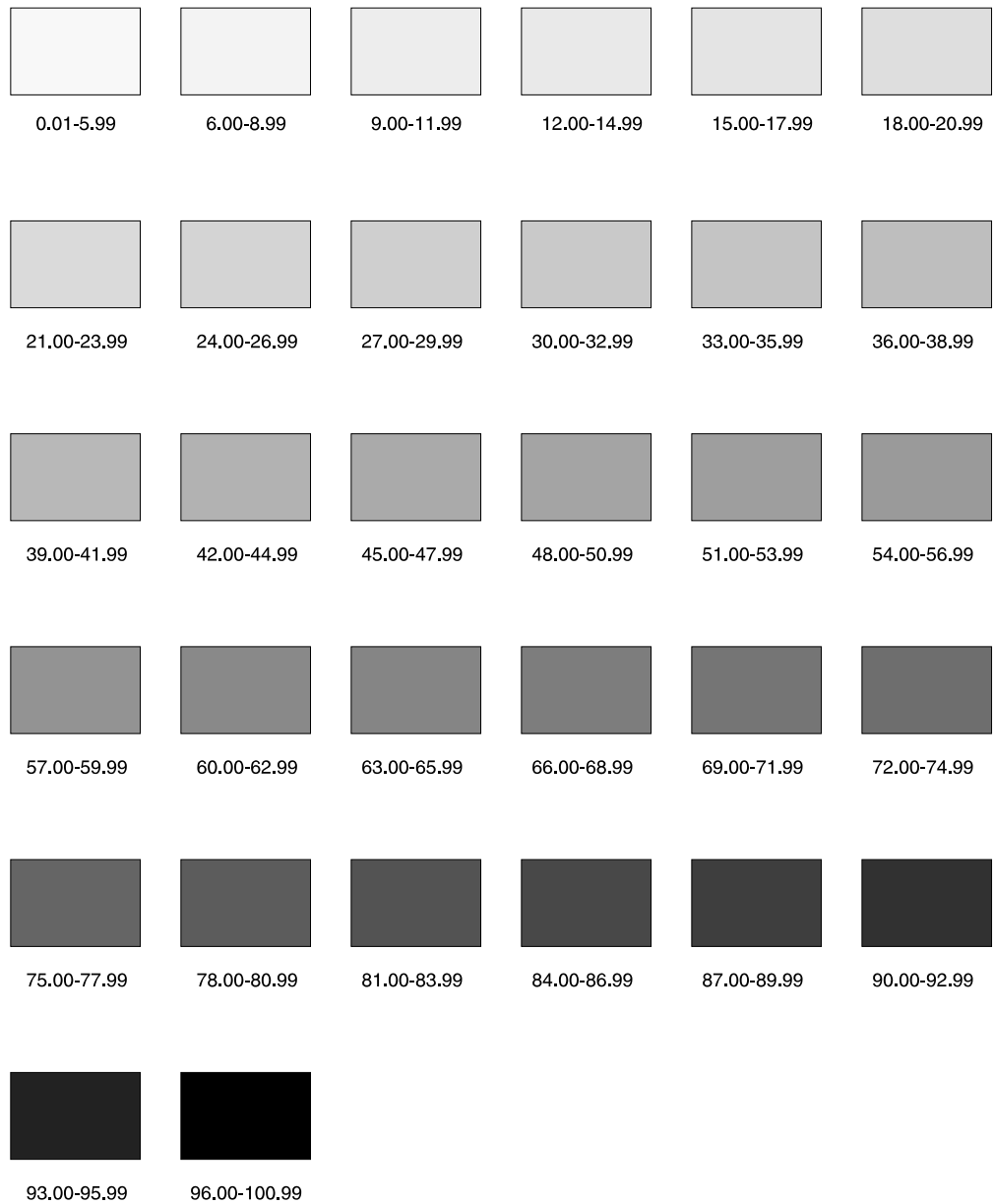


図 49. 陰影パターン

陰影タイプ のプロンプトに次の選択項目を指定すると、それぞれに示されているパーセンテージ範囲が指定されます。

陰影タイプ	値 (%)
*LIGHT	24.00 ~ 26.99
*MEDIUM	48.00 ~ 50.99
*DARK	72.00 ~ 74.99

付録 C. グラフィックスの回転

グラフィックス要素にはグラフィックスの回転を指定することができます。

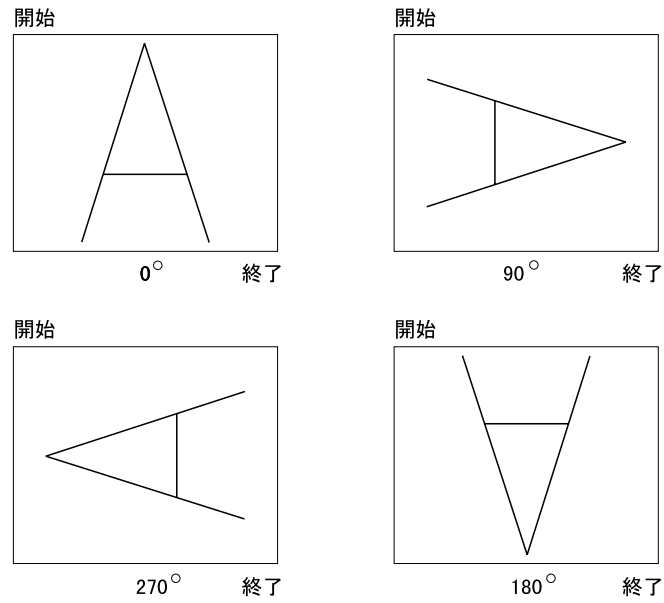


図 50. グラフィックスの回転

付録 D. AFP ユーティリティーでの GDF の使用

IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries は、それ自体で GDF を作成することはできません。

グラフィック・データ・フォーマット (GDF) は、ピクチャーを保管する手段です。GDDM はこれを内部的に使用し、さらにそれをアプリケーション・プログラムが使用できるようにします。これは、GDDM グラフィックス呼び出しステートメントによく似た意味をもつ 1 組のオーダーで、構成されています。多くの場合、GDF オーダーと GDDM 呼び出しステートメントとの間のマッピングは 1 対 1 です。

ビジネス・グラフィックス・ユーティリティー (BGU) を使用すると、簡単に GDF を作成することができます。アプリケーション・プログラムを使用しても同様です。また、システム/390 でも GDF を作成することができます。

システム/390 GDF ファイルを使用するには、まず GDF ファイルを、サーバーで使用できるように、変換しなければなりません。GDF ファイルを変換するには、ライセンス・プログラム、図形データ照会プログラム (QGDF) の GDF ブリッジ・ユーティリティーを使用してください。変換は VM または MVS/TSO のどちらでも実行することができます。

VM をサポートしているシステム/390 の場合は、GDF ブリッジ・ユーティリティーを開始するために以下のように入力し、実行キーを押してください。

```
EMGGDFB fn TOGDF |EXPAND|
```

この手順の各入力項目は次のとおりです。

fn	CMS ファイル名 (ファイル・タイプは ADMGDF)。これは ADMGDF オブジェクトが入っているファイルです。
TOGDF	指定したファイルが GDF ファイルに変換されるものであることを示します。
EXPAND	ベクトル記号および弧を線に展開することを示します。

MVS/TSO をサポートしているシステム/390 の場合は、GDF ブリッジ・ユーティリティーを開始するために次のように入力し、実行キーを押してください。

```
EMGGDFB indsn outdsn member TOGDF |EXPAND|
```

この手順の各入力項目は次のとおりです。

indsn	ADMGDF オブジェクトを格納しているデータ・セットの完全修飾名。
outdsn	GDF オブジェクトを格納予定のデータ・セットの完全修飾名。
member	入出力を格納している上記データ・セット内のメンバー名。
TOGDF	入力メンバーを GDF ファイルに変換し、出力メンバーに保管することを示します。
EXPAND	ベクトル記号および弧が線に展開されることを示します。

これらの手順で作成された GDF ファイルを、iSeries システムで使用するために、サーバーに移行することができます。

注: システム/390 GDDM のリリース 1.3 以降のリリースで作成した GDF は、システムではサポートされない場合があります。

次の表で、S/390、iSeries システムで生成した GDF オーダー、および AFP ユーティリティーがサポートする GDF オーダーを示します。

表 86. S/390、iSeries システムで生成した GDF オーダー、および AFP ユーティリティーがサポートする GDF オーダー

オーダー	S/390 GDDM で生成した GDF	iSeries GDDM で生成した GDF	AFP Utilities for iSeries でサポート
00-ノー・オペレーション	-	-	無視 ²
01-注釈	サポート	サポート	サポート
02-プロセス特定の制御	サポート	-	無視 ²
03-文字枠のプッシュおよびセット	サポート	-	無視 ²
04-セグメント特性	サポート	-	サポート
07-セグメント呼び出し	サポート	-	無視 ²
09-パターンのプッシュおよびセット	サポート	-	無視 ²
0A-カラーのセット	サポート	-	サポート ¹
0C-前景カラー混合のセット	サポート	-	サポート ¹
0D-背景カラー混合のセット	サポート	-	サポート ¹
10-テキスト配置のセット	サポート	-	無視 ²
11-部分的な線の幅のセット	サポート	-	サポート
18-線タイプのセット	サポート	サポート	サポート ¹
19-線の幅のセット	サポート	-	サポート ¹
21-現在位置のセット	サポート	-	サポート
22-弧パラメーターのセット	サポート	サポート	サポート
23-ピック (タグ) ID のプッシュおよびセット	サポート	-	無視 ²
24-モデル変換のセット	サポート	-	無視 ²
26-拡張カラーのセット	サポート	サポート	サポート
27-表示ウィンドウのセット	サポート	-	無視 ²
28-パターン記号のセット	サポート	サポート	サポート ¹
29-マーカー記号のセット	サポート	-	サポート ¹
33-文字セルのセット	サポート	サポート	サポート
34-文字角度のセット	サポート	サポート	サポート
35-文字傾斜のセット	サポート	サポート	サポート
36-文字枠スペースのセット	サポート	-	無視 ²
37-マーカー・セルのセット	サポート	-	サポート
38-文字セットのセット	サポート	サポート	サポート ¹
39-文字精度のセット	サポート	サポート	サポート ¹
3A-文字方向のセット	サポート	サポート	サポート ¹
3E-プロローグ終了	サポート	-	サポート ¹
3F-属性のポップ	サポート	-	無視 ²
41-マーカー・スケール	サポート	-	無視 ²
43-ピック ID のセット	サポート	サポート	サポート
4A-カラーのプッシュおよびセット	サポート	-	無視 ²
4C-前景カラー混合のプッシュおよびセット	サポート	-	無視 ²

表 86. S/390、iSeries システムで生成した GDF オーダー、および AFP ユーティリティーがサポートする GDF オーダー (続き)

オーダー	S/390 GDDM で生成した GDF	iSeries GDDM で生成した GDF	AFP Utilities for iSeries でサポート
4D-背景カラー混合のプッシュおよびセット	サポート	-	無視 ²
50-テキスト配置のプッシュおよびセット	サポート	-	無視 ²
51-部分的な線の幅のプッシュおよびセット	サポート	-	無視 ²
53-セグメントの位置	サポート	-	無視 ²
58-線タイプのプッシュおよびセット	サポート	-	無視 ²
59-線の幅のプッシュおよびセット	サポート	-	無視 ²
60-エリアの終了	サポート	サポート	サポート
61-現在位置のプッシュおよびセット	サポート	-	無視 ²
62-弧パラメーターのプッシュおよびセット	サポート	-	無視 ²
64-モデル変換のプッシュおよびセット	サポート	-	無視 ²
66-拡張カラーのプッシュおよびセット	サポート	-	無視 ²
67-表示ウィンドウのプッシュおよびセット	サポート	-	無視 ²
68-エリアの開始	サポート	サポート	サポート ¹
69-マーカー・タイプのプッシュおよびセット	サポート	-	無視 ²
70-セグメント開始	サポート	サポート	サポート
71-セグメント終了	サポート	サポート	サポート ¹
72-セグメント属性	サポート	サポート	無視 ²
73-セグメント属性の変更	サポート	-	無視 ²
74-文字角度のプッシュおよびセット	サポート	-	無視 ²
75-文字傾斜のプッシュおよびセット	サポート	-	無視 ²
76-文字枠スペースのプッシュおよびセット	サポート	-	無視 ²
77-マーカー・ボックスのプッシュおよびセット	サポート	-	無視 ²
78-文字セットのプッシュおよびセット	サポート	-	無視 ²
79-文字モードのプッシュおよびセット	サポート	-	無視 ²
7A-文字方向のプッシュおよびセット	サポート	-	無視 ²
81-現在位置の線	サポート	サポート	サポート
82-現在位置のマーカー	サポート	-	サポート
83-現在位置の文字列	サポート	サポート	サポート
85-現在位置の輪郭曲線	サポート	-	サポート
86-現在位置の弧	サポート	サポート	無視 ²
87-現在位置の円	サポート	-	無視 ²
91-現在位置からイメージ・データの開始	サポート	サポート	無視 ²
92-イメージ・データ	サポート	サポート	サポート
93-イメージの終了	サポート	サポート	サポート
A1-現在位置の相対線	サポート	-	サポート
C1-線	サポート	サポート	サポート
C2-マーカー	サポート	-	サポート
C3-文字ストリング	サポート	-	サポート
C5-輪郭曲線	サポート	-	サポート
C6-弧	サポート	-	無視 ²

表 86. S/390、iSeries システムで生成した GDF オーダー、および AFP ユーティリティーがサポートする GDF オーダー (続き)

オーダー	S/390 GDDM で生成した GDF	iSeries GDDM で生成した GDF	AFP Utilities for iSeries でサポート
C7-円	サポート	-	無視 ²
D1-イメージの開始	サポート	-	無視 ²
E1-相対線	サポート	-	サポート

注:

¹ サポートされているこのオーダーは短形式で、長さフィールドがありません。

² は、このオーダーを見つけると、このオーダーをスキップして、次のオーダーを処理します。

注: AFP Utilities for iSeries はこの表にないオーダーを見つけると、そのファイルを間違った GDF ファイルと見なし、グラフィックス処理を終了します。

付録 E. 作業の実行方法

この章の利用法

この章では作業の早見表を提供します。 iSeries および IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries の使い方についての基礎知識が必要です。 この章での説明に使用されている以下の規則を心得ていなければなりません。

- 「入力する」とは、それに続くデータを入力し、実行キーを押すことを意味します。
- メニュー画面であれば、「n を入力する」(n はオプション番号で、「2 を入力する」などとなります) は、コマンド行にオプション番号を入力し、実行キーを押すことを意味します。
- 処理画面であれば、「n を入力する」(n はオプション番号で、「2 を入力する」などとなります) は、リスト内の該当する項目の隣にオプション番号を入力し、実行キーを押すことを意味します。
- 詳細がすべて説明されているわけではありません。必要なパラメーターでも説明していないものがありますが、それらは画面に表示され、オンライン・ヘルプ情報の中で説明されているからです。

ソース・オーバーレイ関連の作業

注: 以下の説明は、コマンド行のある画面で作業中であることを前提にしています。

表 87. ソース・オーバーレイ関連の作業

作業	作業の実行方法
ソース・オーバーレイの作成	<ol style="list-style-type: none">1. STRAFPUP を入力する。2. 1 を入力する。3. リストの最上部に 1 およびソース・オーバーレイ名を入力する。
ソース・オーバーレイの変更	<ol style="list-style-type: none">1. STRAFPUP を入力する。2. 1 を入力する。3. 2 を入力する。
ソース・オーバーレイのコピー	<ol style="list-style-type: none">1. STRAFPUP を入力する。2. 1 を入力する。3. 3 を入力する。
ソース・オーバーレイの削除	<ol style="list-style-type: none">1. STRAFPUP を入力する。2. 1 を入力する。3. 4 を入力する。
ソース・オーバーレイの印刷	<ol style="list-style-type: none">1. STRAFPUP を入力する。2. 1 を入力する。3. 6 を入力する。

表 87. ソース・オーバーレイ関連の作業 (続き)

作業	作業の実行方法
ソース・オーバーレイの名前の変更	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUPU を入力する。 2. 1 を入力する。 3. 7 を入力する。
ソース・オーバーレイからのオーバーレイ・オブジェクトの作成	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUPU を入力する。 2. 1 を入力する。 3. 9 を入力する。

ソース・オーバーレイ・ファイル関連の作業

注: 以下の説明は、コマンド行のある画面で作業中であることを前提にしています。

表 88. ソース・オーバーレイ・ファイル関連の作業

作業	作業の実行方法
ソース・オーバーレイ・ファイルの作成	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUPU を入力する。 2. 2 を入力する。 3. リストの最上部に 1、ソース・オーバーレイ・ファイル名、およびライブラリー名を入力する。
ソース・オーバーレイ・ファイル記述の変更	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUPU を入力する。 2. 2 を入力する。 3. 2 を入力する。
ソース・オーバーレイ・ファイルのコピー	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUPU を入力する。 2. 2 を入力する。 3. 3 を入力する。
ソース・オーバーレイ・ファイルの削除	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUPU を入力する。 2. 2 を入力する。 3. 4 を入力する。
ソース・オーバーレイ・ファイルの名前の変更	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUPU を入力する。 2. 2 を入力する。 3. 7 を入力する。
ソース・オーバーレイ・ファイル記述の表示	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUPU を入力する。 2. 2 を入力する。 3. 8 を入力する。

PFD 定義関連の作業

注: 以下の説明は、コマンド行のある画面で作業中であることを前提にしています。

表 89. PFD 定義関連の作業

作業	作業の実行方法
PFD 定義の作成	<ol style="list-style-type: none">1. STRAFPUP を入力する。2. 11 を入力する。3. リストの最上部に 1 および PFD 定義名を入力する。
PFD 定義の変更	<ol style="list-style-type: none">1. STRAFPUP を入力する。2. 11 を入力する。3. 2 を入力する。
PFD 定義のコピー	<ol style="list-style-type: none">1. STRAFPUP を入力する。2. 11 を入力する。3. 3 を入力する。
PFD 定義の削除	<ol style="list-style-type: none">1. STRAFPUP を入力する。2. 11 を入力する。3. 4 を入力する。
PFD 定義の印刷	<ol style="list-style-type: none">1. STRAFPUP を入力する。2. 11 を入力する。3. 6 を入力する。
PFD 定義の名前の変更	<ol style="list-style-type: none">1. STRAFPUP を入力する。2. 11 を入力する。3. 7 を入力する。
PFD 定義によるデータベース・ファイルの印刷	<ol style="list-style-type: none">1. STRAFPUP を入力する。2. 11 を入力する。3. 9 を入力する。

PFD 定義ファイル関連の作業

注: 以下の説明は、コマンド行のある画面で作業中であることを前提にしています。

表 90. PFD 定義ファイル関連の作業

作業	作業の実行方法
PFD 定義ファイルの作成	<ol style="list-style-type: none">1. STRAFPUP を入力する。2. 12 を入力する。3. リストの最上部に 1、PFD 定義ファイル名、およびライブラリー名を入力する。

表 90. PFD 定義ファイル関連の作業 (続き)

作業	作業の実行方法
PFD 定義ファイル記述の変更	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUP を入力する。 2. 12 を入力する。 3. 2 を入力する。
PFD 定義ファイルのコピー	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUP を入力する。 2. 12 を入力する。 3. 3 を入力する。
PFD 定義ファイルの削除	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUP を入力する。 2. 12 を入力する。 3. 4 を入力する。
PFD 定義ファイルの名前の変更	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUP を入力する。 2. 12 を入力する。 3. 7 を入力する。
PFD 定義ファイル記述の表示	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUP を入力する。 2. 12 を入力する。 3. 8 を入力する。

オーバーレイ・オブジェクト関連の作業

注: 以下の説明は、コマンド行のある画面で作業中であることを前提にしています。

表 91. オーバーレイ・オブジェクト関連の作業

作業	作業の実行方法
オーバーレイ・オブジェクトの作成	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUP を入力する。 2. 1 を入力する。 3. 9 を入力する。
オーバーレイ・オブジェクトの変更	ソース・オーバーレイを変更し、オーバーレイ・オブジェクトを再度作成する。
オーバーレイ・オブジェクトのコピー	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUP を入力する。 2. 22 を入力する。 3. 3 を入力する。
オーバーレイ・オブジェクトの削除	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUP を入力する。 2. 22 を入力する。 3. 4 を入力する。
オーバーレイ・オブジェクトの印刷	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUP を入力する。 2. 22 を入力する。 3. 6 を入力する。
オーバーレイ・オブジェクトの名前の変更	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUP を入力する。 2. 22 を入力する。 3. 7 を入力する。

表 91. オーバーレイ・オブジェクト関連の作業 (続き)

作業	作業の実行方法
オーバーレイ・オブジェクト記述の表示	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUP を入力する。 2. 22 を入力する。 3. 8 を入力する。
オーバーレイ・オブジェクトの物理ファイル・メンバーへの変換	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUP を入力する。 2. 22 を入力する。 3. 9 を入力する。
オーバーレイ・オブジェクト記述テキストの変更	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUP を入力する。 2. 22 を入力する。 3. 13 を入力する。

ページ・セグメント関連の作業

注: 以下の説明は、コマンド行のある画面で作業中であることを前提にしています。

表 92. ページ・セグメント関連の作業

作業	作業の実行方法
ページ・セグメントの作成	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUP を入力する。 2. 21 を入力する。
ページ・セグメントの変更	PC 文書の中のイメージを変更し、ページ・セグメントを再度作成する。
ページ・セグメントのコピー	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUP を入力する。 2. 23 を入力する。 3. 3 を入力する。
ページ・セグメントの削除	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUP を入力する。 2. 23 を入力する。 3. 4 を入力する。
ページ・セグメントの印刷	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUP を入力する。 2. 23 を入力する。 3. 6 を入力する。
ページ・セグメントの名前の変更	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUP を入力する。 2. 23 を入力する。 3. 7 を入力する。
ページ・セグメント記述の表示	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUP を入力する。 2. 23 を入力する。 3. 8 を入力する。
ページ・セグメント・オブジェクトの物理ファイル・メンバーへの変換	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPUP を入力する。 2. 23 を入力する。 3. 9 を入力する。

表 92. ページ・セグメント関連の作業 (続き)

作業	作業の実行方法
ページ・セグメント記述テキストの変更	<ol style="list-style-type: none"> 1. STRAFPU を入力する。 2. 23 を入力する。 3. 13 を入力する。

設計画面の画面ビュー関連の作業

注: 以下の説明は、次のいずれかの画面で、画面ビューで作業中であることを前提としています。

「オーバーレイの設計」画面

「レコード・レイアウトの設計」画面

「ページ・レイアウトの設計」画面

要素の定義

表 93. 設計画面の画面ビューで要素の定義

作業	作業の実行方法
テキスト要素の定義	<ol style="list-style-type: none"> 1. カーソルの位置をイメージ域に合わせる。 2. F6 キーを押す。
線要素の定義	<ol style="list-style-type: none"> 1. カーソルの位置をイメージ域に合わせる。 2. F9 キーを押す。 3. カーソルをイメージ域のもう一方の位置に合わせる。 4. F9 キーを押す。
枠要素の定義	<ol style="list-style-type: none"> 1. カーソルの位置をイメージ域に合わせる。 2. F10 キーを押してください。 3. カーソルをイメージ域のもう一方の位置に合わせる。 4. F10 キーを押してください。
バーコード要素の定義	<ol style="list-style-type: none"> 1. カーソルの位置をイメージ域に合わせる。 2. F11 キーを押す。
グラフィックス要素の定義	<ol style="list-style-type: none"> 1. カーソルの位置をイメージ域に合わせる。 2. F13 キーを押す。 3. F6 キーを押す。 4. カーソルをイメージ域のもう一方の角に合わせる。 5. F6 キーを押す。
ページ・セグメント要素の定義	<ol style="list-style-type: none"> 1. カーソルの位置をイメージ域に合わせる。 2. F13 キーを押す。 3. F9 キーを押す。

表 93. 設計画面の画面ビューで要素の定義 (続き)

作業	作業の実行方法
レコード・レイアウト要素の定義	<ol style="list-style-type: none"> 1. カーソルの位置をイメージ域に合わせる。 2. F13 キーを押す。 3. F11 キーを押す。

既存の要素の処理

表 94. 設計画面の画面ビューで既存の要素の処理

作業	作業の実行方法
要素の変更	<ol style="list-style-type: none"> 1. カーソルの位置を要素マークに合わせる。 2. F14 キーを押す。
要素のコピー	<ol style="list-style-type: none"> 1. カーソルの位置を要素マークに合わせる。 2. F21 キーを押す。 3. カーソルを新しい位置に合わせる。 4. F6 キーを押す。
要素の移動	<ol style="list-style-type: none"> 1. カーソルの位置を要素マークに合わせる。 2. F21 キーを押す。 3. カーソルを新しい位置に合わせる。 4. F9 キーを押す。
要素の除去	<ol style="list-style-type: none"> 1. カーソルの位置を要素マークに合わせる。 2. F21 キーを押す。 3. F10 キーを押してください。
要素のブロックのコピー	<ol style="list-style-type: none"> 1. カーソルの位置をブロックの 1 つの角に合わせる。 2. F22 キーを押してください。 3. カーソルの位置をブロックの対角の隅に合わせる。 4. F22 キーを押してください。 5. カーソルを新しい位置に合わせる。 6. F6 キーを押す。
要素のブロックの移動	<ol style="list-style-type: none"> 1. カーソルの位置をブロックの 1 つの角に合わせる。 2. F22 キーを押してください。 3. カーソルの位置をブロックの対角の隅に合わせる。 4. F22 キーを押してください。 5. カーソルを新しい位置に合わせる。 6. F9 キーを押す。

表 94. 設計画面の画面ビューで既存の要素の処理 (続き)

作業	作業の実行方法
要素のブロックの除去	<ol style="list-style-type: none"> 1. カーソルの位置をブロックの 1 つの角に合わせる。 2. F22 キーを押してください。 3. カーソルの位置をブロックの対角の隅に合わせる。 4. F22 キーを押してください。 5. F10 キーを押してください。

画面のビューの変更

表 95. 設計画面の画面ビューで画面のビューの変更

作業	作業の実行方法
マークの隠蔽	1. F15 キーを押してください。
マークの最新表示	1. F15 キーを押してください。
イメージ域からの要素の一時的除去 (要素の隠蔽)	<ol style="list-style-type: none"> 1. カーソルの位置を要素に合わせる。 2. F16 キーを押してください。
一時的に除去した要素の最新表示	1. F5 キーを押してください。

設計画面のリスト・ビュー関連の作業

注: 以下の説明は、次の画面のいずれかで、リスト・ビューで作業中であることを前提としています。

「オーバーレイの設計」画面

「レコード・レイアウトの設計」画面

「ページ・レイアウトの設計」画面

要素の定義

表 96. 設計画面のリスト・ビューで要素の定義

作業	作業の実行方法
テキスト要素の定義	1. F6 キーを押す。
線要素の定義	1. F9 キーを押す。
枠要素の定義	1. F10 キーを押してください。
バーコード要素の定義	1. F11 キーを押す。
グラフィックス要素の定義	<ol style="list-style-type: none"> 1. F13 キーを押す。 2. F6 キーを押す。
ページ・セグメント要素の定義	<ol style="list-style-type: none"> 1. F13 キーを押す。 2. F9 キーを押す。
レコード・レイアウト要素の定義	<ol style="list-style-type: none"> 1. F13 キーを押す。 2. F11 キーを押す。

既存の要素の処理

表 97. 設計画面のリスト・ビューで既存の要素の処理

作業	作業の実行方法
要素の変更	1. カーソルの位置を要素の行に合わせる。 2. F14 キーを押す。
要素のコピー	1. カーソルの位置を要素の行に合わせる。 2. NBR の欄に C を入力する。 3. 新しい位置を入力する。
要素の移動	1. カーソルの位置を要素の行に合わせる。 2. NBR の欄に M を入力する。 3. 新しい位置を入力する。
要素の除去	1. カーソルの位置を要素の行に合わせる。 2. NBR の欄に R を入力する。
要素の復元	1. カーソルの位置を要素の行に合わせる。 2. NBR の欄に S を入力する。

各要素関連の作業

テキスト要素

注: 以下の説明は、次の画面のいずれかで作業中であることを前提にしています。

「テキスト明細の定義」画面

「テキスト明細の変更」画面

「枠明細の定義」画面

「枠明細の変更」画面

表 98. テキスト要素関連の作業

作業	作業の実行方法
可変フィールドの値をテキストとして指定する。	次の例のように、フィールド名を&と . で囲む。 &PRODUCT.
マークを意味のある名前に変更する。	注: これが指定できるのはレコード・レイアウトの場合だけです。 要素 のプロンプトに名前を指定する。
テキストを縦方向に印刷する。 テキストを回転する。	様式 のプロンプトに 2 または 3 を指定する。 回転の角度 の欄に 90、180、または 270 を指定する。

表 98. テキスト要素関連の作業 (続き)

作業	作業の実行方法
テキストを黒以外のカラーで印刷する。	カラー のプロンプトにカラーを指定する。 注: 詳細は、 <i>IBM Printing Systems: Printer Information</i> 、S544-5750 を参照してください。
テキストに下線を付ける。	下線 のプロンプトに Y を指定する。
テキストに文字を重ね打ちする。	重ね打ち のプロンプトに文字を指定する。
テキストを別のフォントで印刷する。	フォント のプロンプトにフォント番号を指定する。
DBCS テキストを印刷する。	DBCS フォント のプロンプトにフォント番号を指定する。
テキストを別のサイズで印刷する。	文字サイズ のプロンプトにサイズを指定する。

注: 以下の説明は、次の画面のいずれかで作業中であることを前提にしています。

「枠明細の定義」画面

「枠明細の変更」画面

表 99. テキスト要素関連の作業

作業	作業の実行方法
複数行のテキストを指定する。	下の例のように、各行をアポストロフィで囲む。 'first line' 'second line'
複数行のテキストを横方向にそろえる。	左右 のプロンプトに 1、2、3、または 4 を指定する。
複数行のテキストを縦方向にそろえる。	上下 のプロンプトに 1、2、3、または 4 を指定する。
枠を印刷しない。(テキストだけを印刷する)	線の幅 のプロンプトに 0 を指定する。

線要素

注: 以下の説明は、次の画面のいずれかで作業中であることを前提にしています。

「線明細の定義」画面

「線明細の変更」画面

表 100. 線要素関連の作業

作業	作業の実行方法
マークを意味のある名前に変更する。	要素 のプロンプトに名前を指定する。
破線の印刷	線の種類 のプロンプトに 2 を指定する。
点線の印刷	線の種類 のプロンプトに 3 を指定する。
太めまたは細めの線で印刷する。	線の幅 のプロンプトに幅を指定する。
線を行および桁の周りに印刷する。	線の挿入 のプロンプトに 2 を指定し、測定方式に行／桁を使用する。
線を行または桁の中央に印刷する。	線の挿入 のプロンプトに 1 を指定し、測定方式に対して行／桁を使用する。

枠要素

注: 以下の説明は、次の画面のいずれかで作業中であることを前提にしています。

「枠明細の定義」画面

「枠明細の変更」画面

表 101. 枠要素関連の作業

作業	作業の実行方法
マークを意味のある名前に変更する。	要素 のプロンプトに名前を指定する。
枠を破線で印刷する。	線の種類 のプロンプトに 2 を指定する。
枠を点線で印刷する。	線の種類 のプロンプトに 3 を指定する。
枠を太めまたは細めの線で印刷する。	線の幅 のプロンプトに幅を指定する。
行および桁の周りに枠を印刷する。	線の挿入 のプロンプトに 2 を指定し、測定方式に行／桁を使用する。
行または桁の中央に枠を印刷する。	線の挿入 のプロンプトに 1 を指定し、測定方式に対して行／桁を使用する。
枠内の区域をパターンで陰影づける。	パターン のプロンプトに 1 または 2 を指定する。

バーコード要素

注: 以下の説明は、次の画面のいずれかで作業中であることを前提にしています。

「バーコード明細の定義」画面

「バーコード明細の変更」画面

注: バーコード・タイプによっては、次のように実行できない作業もあります。

表 102. バーコード要素関連の作業

作業	作業の実行方法
マークを意味のある名前に変更する。	要素 のプロンプトに名前を指定する。
可変フィールドの値をバーコードとして指定する。	次の例のように、フィールド名を&と . で囲む。 &PRODC.T. 注: これが指定できるのはレコード・レイアウトの場合だけです。
バーコードを縦方向に印刷する。	回転の角度 の欄に 90、または 270 を指定する。
バーコードを回転する。	回転の角度 の欄に 90、180、または 270 を指定する。
バーコードを黒以外のカラーで印刷する。	カラー のプロンプトにカラーを指定する。 注: 詳細は、 <i>IBM Printing Systems: Printer Information</i> 、S544-5750 を参照してください。
検査数字を付けてバーコードを印刷する。	検査数字 のプロンプトに Y を指定する。
バーコード・データのテキストを付けてバーコードを印刷する。	HRI のプロンプトに Y を指定する。

表 102. バーコード要素関連の作業 (続き)

作業	作業の実行方法
バーコード・データのテキストにアスタリスクを付けて印刷する。	<i>HRI</i> アスタリスク のプロンプトに Y を指定する。
バーコード・データのテキストを別のフォントで印刷する。	<i>HRI</i> フォント のプロンプトにフォント番号を指定する。
幅を変えてバーコードを印刷する。	モジュールの幅 のプロンプトに別の値を指定する。
高さを変えてバーコードを印刷する。	要素の高さ のプロンプトに別の値を指定する。
バーおよびスペースの幅の比率を変えてバーコードを印刷する。	広幅/狭幅比 のプロンプトに別の値を指定する。

グラフィック要素

注: 以下の説明は、次の画面のいずれかで作業中であることを前提にしています。

「グラフィックス明細の挿入」画面

「グラフィックス明細の変更」画面

表 103. グラフィックス要素関連の作業

作業	作業の実行方法
マークを意味のある名前に変更する。	要素 のプロンプトに名前を指定する。
グラフィックスを回転する。	回転の角度 の欄に 90、180、または 270 を指定する。
グラフィック・データのテキストを別のフォントで印刷する。	フォント のプロンプトにフォント番号を指定する。
可変フィールドの値をグラフィックスのオブジェクト名として指定する。	次の例のように、フィールド名を&と . で囲む。 &PRODC.T.
	注: これが指定できるのはレコード・レイアウトの場合だけです。

ページ・セグメント要素

注: 以下の説明は、次の画面のいずれかで作業中であることを前提にしています。

「ページ・セグメント明細の挿入」画面

「ページ・セグメント明細の変更」画面

表 104. ページ・セグメント要素関連の作業

作業	作業の実行方法
マークを意味のある名前に変更する。	要素 のプロンプトに名前を指定する。

表 104. ページ・セグメント要素関連の作業 (続き)

作業	作業の実行方法
可変フィールドの値をページ・セグメント名として指定する。	次の例のように、フィールド名を&と . で囲む。 &PRODUCT. 注: これが指定できるのはレコード・レイアウトの場合だけです。

レコード・レイアウト要素

注: 以下の説明は、次の画面のいずれかで作業中であることを前提としています。

「レコード・レイアウト明細の挿入」画面

「レコード・レイアウト明細の変更」画面

表 105. レコード・レイアウト要素関連の作業

作業	作業の実行方法
マークを意味のある名前に変更する。	要素 のプロンプトに名前を指定する。
レコード・レイアウトをページ内に複数回印刷する。	反復 のプロンプトに繰り返す回数を指定する。
ページ内で反復レコードの順序を変更する。	方向 のプロンプトに 1 または 2 を指定する。
レコード・レイアウト間の間隔を変更する。	距離 のプロンプトに間隔を指定する。

データベース・ファイルの選択関連の作業

注: 以下の説明は、「データベース・ファイルの指定」画面で作業中であることを前提としています。

1. データベース・ファイル のプロンプトにデータベース・ファイル名を入力するか、あるいは F4 キーを押してデータベース・ファイル名のリストを表示し、データベース・ファイル名を 1 つ選択する。
2. ライブラリー のプロンプトにライブラリー名を入力する。
3. レコード様式 のプロンプトにレコード様式名を入力するか、あるいは F4 キーを押してレコード様式名のリストを表示し、レコード様式名を 1 つ選択する。
4. 実行キーを押す。

レコードの選択関連の作業

注: 以下の説明は、「レコード選択の指定」画面で作業中であることを前提としています。

1. リストは F4 の欄にフィールド名を入力するか、あるいは F4 キーを押してフィールド名のリストを表示し、フィールド名を 1 つ選択する。
2. テスト の欄に次のテスト名の中のいずれか一つを入力する。

- EQ
 - NE
 - LE
 - GE
 - LT
 - GT
 - RANGE
3. 値 (フィールド、数字、または '文字') の欄に値を入力するか、あるいは F4 キーを押してフィールド名のリストを表示し、フィールド名を 1 つ選択する。
 複数の条件を指定する場合は、AND/OR の欄に AND または OR を、フィールドの欄にフィールド名を、テストの欄にテスト名を、値の欄に値を、入力する。
 4. 実行キーを押す。

オーバーレイ仕様関連および PFD 仕様関連の作業

注: 以下の説明は、次の画面のいずれかで作業中であることを前提にしています。

「オーバーレイ仕様の定義」画面

「PFD 仕様の定義」画面

表 106. オーバーレイ仕様関連および PFD 仕様関連の作業

作業	作業の実行方法
印刷装置タイプを変更する。	印刷装置タイプ のプロンプトに別の値を指定する。
桁位置の幅 (1 インチ当たりの文字数) を変更する。	1 インチ当たり文字数 のプロンプトに別の値を指定する。
行位置の高さ (1 インチ当たりの行数) を変更する。	1 インチ当たりの行数 のプロンプトに別の値を指定する。
位置を指定するのにインチを使用する。	単位 のプロンプトに 1 を指定し、要素を定義または変更するとき、F6 キーを押して測定方式にインチを使用する。
位置を指定するのにセンチメートルを使用する。	単位 のプロンプトに 2 を指定し、要素を定義または変更するとき、F6 キーを押して測定方式にセンチメートルを使用する。
オーバーレイまたはページのサイズを変更する。	サイズ のプロンプトに別の値を指定する。
オーバーレイまたはページを回転する。	回転の角度 の欄に 90、180、または 270 を指定する。
シフトアウト文字およびシフトイン文字をブランクとして印刷しない。	DBCS の SO/SI のスペース のプロンプトに N を指定する。
オーバーレイまたはページをページ起点から離れた位置に印刷する。	オフセット のプロンプトにオフセット値を指定する。

表 106. オーバーレイ仕様関連および PFD 仕様関連の作業 (続き)

作業	作業の実行方法
設計作業を容易にするために、オーバーレイまたはページ・レイアウトに格子を印刷する。	これは別の画面で行なう。 <ul style="list-style-type: none"> オーバーレイに格子を印刷するには、「オーバーレイの作成」画面で格子の組み込みのプロンプトに Y を指定する。 ページ・レイアウトに格子を印刷するには、「データベース・ファイル・メンバーの印刷」画面で格子の組み込みのプロンプトに Y を指定する。
格子のピッチを変更する。	格子 プロンプトに値を指定する。

フォント関連の作業

注: 以下の説明は、次の画面のいずれかで作業中であることを前提にしています。

「ソース・オーバーレイ・フォントの処理」画面

「PFD 定義フォントの処理」画面

表 107. フォント関連の作業

作業	作業の実行方法
現行定義の表示	1. 5 を入力する。
フォントおよび文字 ID でフォントの指定	1. 2 を入力する。 2. 1 を入力する。
コード化フォントでフォントの指定	1. 2 を入力する。 2. 2 を入力する。
コード・ページおよびフォント文字セットでフォントの指定	1. 2 を入力する。 2. 3 を入力する。
フォントの初期フォントへの戻し	1. 9 を入力する。

印刷出力仕様関連の作業

注: 以下の説明は、「印刷出力仕様の定義」画面で作業中であることを前提にしています。

表 108. 印刷出力仕様関連の作業

作業	作業の実行方法
複数枚のコピーを印刷する。	コピー部数 のプロンプトに枚数を指定する。
エラーがあっても印刷する。	印刷精度 のプロンプトに *CONTENT を指定する。
できるだけ高品質で印刷する。	印刷品質 のプロンプトに *NLQ を指定する。
できるだけ高速で印刷する。	印刷品質 のプロンプトに *DRAFT を指定する。
用紙の両面に印刷する。	両面印刷 のプロンプトに Y を指定する。
印刷される時点でオペレーターに用紙の変更を通知する。	用紙タイプ のプロンプトに用紙名を指定する。
代替用紙入れの用紙を使用する。	ソース用紙入れ のプロンプトに 2 から 255 までの範囲の数字、*E1、または *CUT を指定する。

表 108. 印刷出力仕様関連の作業 (続き)

作業	作業の実行方法
印刷出力でオーバーレイを印刷する。	前面オーバーレイ のプロンプトにオーバーレイ名を指定する。
印刷出力で用紙のもう一方の面に別のオーバーレイを印刷する。	背面オーバーレイ のプロンプトにオーバーレイ名を指定する。

マッピング・オブジェクト関連の作業

注: 以下の説明は、「マッピング・オブジェクト名の指定」画面で作業中であることを前提としています。

表 109. マッピング・オブジェクト関連の作業

作業	作業の実行方法
マッピング・オブジェクト名の指定	<ol style="list-style-type: none"> 1. マッピングを指定したいオブジェクト・タイプを選択する。 2. データ・フィールドの値と、そのフィールド値をマップしなければならないオブジェクト名を対にして指定する。

切れ目フィールド関連の作業

注: 以下の説明は、「切れ目フィールドの指定」画面で作業中であることを前提としています。

表 110. 切れ目フィールド関連の作業

作業	作業の実行方法
リスト内のフィールドを、切れ目フィールドとして指定する。	OPT フィールドに 1 を入力する。
リスト内の切れ目フィールドを取り消す。	OPT フィールドをブランクで消去する。

付録 F. 他のシステムへの可搬性

IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries は、資源 (オーバーレイとページ・セグメント) およびスプール・ファイル用に AFPDS を生成します。AFPDS は iSeries と他のシステム (MVS、VM、DOS/VSE など) との間で互換性があります。したがって、IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries で作成された資源およびスプール・ファイルは、AFPDS 資源およびスプール・ファイルをサポートする他のシステムでも、次に挙げる制約事項を除けば、基本的には使用することができます。

制約事項をすべて回避したとしても、資源またはスプール・ファイルを正しく印刷できない場合があります。他のシステムで印刷した場合は、印刷出力が満足できるものかどうかを確かめてください。

IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries バージョン 2 リリース 3 およびそれ以降のリリースには、iSeries システム上のオーバーレイ・オブジェクトおよびページ・セグメントを、VM、MVS または OS/2 の各システムで使用可能な物理データベース・ファイルに変換する機能があります。変換済みファイルは、サーバー上の通信機能または iSeries アクセスを使用して、これらのシステムに送信することができます。

注: IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries は、サーバーから資源とスプール・ファイルを送信する機能は提供しません。

制約事項

IPDS タワー

IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries では、下記の IPDS データ・タイプのタワーを使用します。

表 111. IPDS データ・タイプのタワー

データ・タイプ	IPDS タワー
テキスト	PT1 PT2
IM イメージ	IM1
IO イメージ	IO1 (IOCA 機能セット 10)
グラフィックス	DR1 DR2
バーコード	BC1 (印刷装置タイプ 1、2、3、9 の場合)
	PT1 (印刷装置タイプ 4、5、6 の場合)

ターゲットの印刷装置でサポートされていない IPDS タワーが資源に含まれている場合は、その資源は使用できません。たとえば、バーコード (BC1 タワー) が含まれている資源を 3820 印刷装置で使用することはできません。

この制約事項を回避するには、オーバーレイ仕様または PFD 仕様の中で、使用される印刷タワーをサポートする印刷装置だけを指定してください。

PT2 タワー (下線および重ね打ち)

「テキスト明細の定義」画面または「枠明細の定義」画面で、下線 のプロンプトに Y を指定するか、または重ね打ち のプロンプトに文字を指定すると、IBM Advanced Function Printing Utilities for iSeries は、テキスト用に PT2 タワー・データ・ストリームを生成します。

PT2 タワーをサポートしていない印刷装置でも、それが iSeries システムに接続されていれば、PT2 データ・ストリームが、必要に応じて、PT1 データ・ストリームに変換されるので、印刷することができます。しかし、PT2 タワーをサポートしていない印刷装置が、iSeries システム以外のシステムに接続されている場合は、PT2 から PT1 への変換がサポートされないため、そのような印刷装置で印刷することはできません。

フォント

フォントの種類には 2 つあります。1 種類目のフォントは、印刷装置に常駐し、フォントおよび文字 ID によって指定されます。この種類のフォントは、「ソース・オーバーレイ・フォントの変更」画面または「PFD 定義フォントの変更」画面で、フォントの種類 のプロンプトに 1 を指定することによって、指定することができます。

もう 1 種類のフォントは、印刷装置が接続された iSeries システムに常駐フォントとして常駐します。印刷装置にフォントが必要なとき、印刷装置はシステムにフォント・ダウンロード要求を出して、必要な 1 つまたは複数のフォントを要求します。この要求を出したあと、サーバーは印刷装置にフォントをダウンロードします。これらのフォントは、コード化フォント名、またはコード・ページ名と文字セット名の組み合わせによって指定されます。「ソース・オーバーレイ・フォントの変更」画面または「PFD 定義フォントの変更」画面のフォントの種類 プロンプトに 2 または 3 を選択してフォントを指定できます。

すべての印刷装置が両方のフォントの種類をサポートしているわけではありません。ターゲットの印刷装置でサポートされていないフォントが資源に含まれている場合は、その資源は使用できません。たとえば、1 種類目のフォント (印刷装置常駐の) は、3820 印刷装置では使用することができません。

印刷装置が iSeries システムに接続されている場合は、互換性のない種類のフォントを指定しても、必要に応じてフォントの置換が行われるので、その印刷装置を使用することができます。しかし、同じ印刷装置でも、iSeries システム以外のシステムにそれが接続されている場合には、フォントの置換がサポートされないため、その印刷装置で印刷することはできません。

注: フォントの置換は、他のシステムでも、下記のリリースからサポートされるようになっています。したがって、下記のリリースを使用すれば、この制約を回避できます。

- PSF/MVS バージョン 2、リリース 1 以降のもの
- PSF/VM バージョン 2、リリース 1 以降のもの

指定したフォントが正しく置き換えられたかどうかの確認は、ユーザーの責任で行ってください。

他のシステムには、iSeries と同じフォント資源がない可能性があります。必要なフォント資源が他のシステムに常駐していない場合には、オーバーレイまたはスプール・ファイルの印刷はできません。指定したフォントが、システムに常駐しているかどうか、また、iSeries システムと同じかどうかの確認は、必ず行ってください。

ページ・セグメント

オーバーレイまたはスプール・ファイルにページ・セグメントを組み込む場合には、これらのページ・セグメントもターゲット・システムに送信しなければなりません。

PSF (印刷サービス機能)

AFPDS 構造化フィールドのサポート・レベルは、システムによって、また PSF* のリリースによって異なります。使用している PSF のリリース・レベルが、その資源 (オーバーレイとページ・セグメント) およびスプール・ファイルで使用している AFPDS 構造化フィールドをサポートしているかどうかの確認は、必ず行なってください。

付録 G. オーバーレイのサンプルおよび PFD 定義のサンプル

オーバーレイおよび PFD 定義のサンプルが、AFP Utilities for iSeries プログラムとともに出荷されます。これらのサンプルは、AFP Utilities for iSeries プログラムを導入すると、自動的に QGPL ライブラリーにコピーされます。

オーバーレイのサンプル

オーバーレイのサンプルがいくつか提供されます。これらのオーバーレイは、IBM iSeries 販売情報管理システム (DMAS) および生産情報管理システム/データベース (MAPICS*/DB) の事前印刷された用紙に代えて、使用することができます。

ソース・オーバーレイをライブラリー QGPL からコピーし、新規に作成されたソース・オーバーレイを変更し、そして iSeries アプリケーション・プログラム用の新しいオーバーレイを作成することができます。たとえば、オーバーレイに社名を入れることができます。

印刷装置に合わせて、次のリストからソース・オーバーレイ・ファイルを選択してください。

ソース・オーバーレイ・ファイル	説明
QAFCXMP0V1	4224、4234、および 4230 印刷装置用オーバーレイのサンプル
QAFCXMP0V2	3812 および 3816 印刷装置用オーバーレイのサンプル
QAFCXMP0V3	3916 および 4028 印刷装置用オーバーレイのサンプル
QAFCXMP0V4	他の印刷装置用オーバーレイのサンプル

ソース・オーバーレイのサンプルによっては、ソース・オーバーレイ・ファイルに入っていないものもあります。その理由は、オーバーレイの最大サイズなど、特定の印刷装置の制約のためです。

注: これらのサンプルは、あらゆる条件のもとで完全にテストがなされているわけではありません。導入先の責任で、必要に応じてソース・オーバーレイを変更してください。

DMAS 用紙

DMAS (IBM iSeries 販売情報管理システム) 事前印刷用紙用のオーバーレイが提供されます。DMAS は次に挙げる 10 のプログラム・プロダクトで構成されています。

- 5728-D48 買掛管理
- 5728-D42 売掛管理
- 5728-D41 請求管理
- 5728-D4X 適用業務共通支援機能
- 5728-D47 財務会計
- 5728-D43 在庫管理
- 5728-D46 在庫運営管理
- 5728-D45 購買管理
- 5728-D44 販売統計
- 5728-D49 給与計算

次のソース・オーバーレイが提供されます。

ソース・オーバーレイ	説明
DMAS_XMP_1	買掛金送金通知書
DMAS_XMP_2	延滞通知書
DMAS_XMP_3	購入注文書

MAPICS/DB 用紙

MAPICS/DB (生産情報管理システム/データベース) 用のオーバーレイが提供されます。MAPICS/DB は、実際には次に挙げる 18 のプログラム・プロダクトで構成されています。

5728-M7X	適用業務共通支援機能
5728-M73	買掛管理
5728-M74	売掛管理
5728-M7G	工程能力計画
5728-M7H	財務分析
5728-M7L	予測管理
5728-M77	財務会計
5728-M75	在庫管理
5728-M7J	基準生産日程計画
5728-M7B	資材所要量計画
5728-M79	受注・売上
5728-M72	給与計算
5728-M76	製品データ管理
5728-M7I	進捗管理と原価計算
5728-M7S	生産モニタリング
5728-M7K	購買管理
5728-M7R	ジャストインタイム型生産管理
5728-M78	販売分析
5706-287	製造データ分析支援

次のソース・オーバーレイが提供されます。

ソース・オーバーレイ	説明
MPCS_XMP_1	送り状 タイプ 1 用紙
MPCS_XMP_2	送り状 タイプ 2 用紙
MPCS_XMP_3	購入注文書

PFD 定義のサンプル

PFD 定義およびデータベース・ファイルのサンプルが提供されます。標準ラベル用のバーコード・ラベルを印刷するには、PFD 定義を使用します。

ライブラリー QGPL から PFD 定義をコピーし、新規に作成された PFD 定義を変更し、そしてバーコード・ラベルを印刷することができます。たとえば、ラベルに導入先の社名を入れることができます。

印刷装置に合わせて、次のリストから PFD 定義ファイルを選択してください。

PFD 定義ファイル	説明
QAFXMPPF1	4224、4234、および 4230 印刷装置用オーバーレイのサンプル
QAFXMPPF2	3812 および 3816 印刷装置用 PFD 定義のサンプル
QAFXMPPF3	3916 および 4028 印刷装置用 PFD 定義のサンプル
QAFCTUTPFD	AFP Utilities for iSeries tutorial PFD file
QAFCTUTXMP	解説の例付きの PFD ファイル のサンプル

PFD 定義のサンプルによっては PFD 定義に入っていないものもあります。その理由は、オーバーレイの最大サイズなど、印刷装置側の制約があるからです。

注: これらのサンプルは、あらゆる条件のもとで完全にテストがなされているわけではありません。導入先の責任で、必要に応じて PFD 定義を変更してください。

AIAG (AUTOMOTIVE INDUSTRY ACTION GROUP) ラベル

次に挙げる AIAG ラベル用 PFD 定義が提供されます。

PFD	
定義	説明
AIAG_B2_HA	AIAG-B2 (車体 ID 番号ラベル) 横方向のバーコード、HRI 上付き
AIAG_B2_HB	AIAG-B2 (車体 ID 番号ラベル) 横方向のバーコード、HRI 下付き
AIAG_B3_SP	AIAG-B3 出荷/部品識別番号ラベル
AIAG_B3_ML	AIAG-B3 マスター・ラベル
AIAG_B3_LL	AIAG-B3 混合積荷ラベル
AIAG_B4_PL	AIAG-B4 部品ラベル
AIAG_B4_PT	AIAG-B4 単一の行に部品およびトレース可能データ
AIAG_B4_PD	AIAG-B4 行を別にして部品、トレース可能データ、および提供者
AIAG_B5_PM	AIAG-B5 原料金属識別タグ

次のデータベース・ファイルが PFD 定義のサンプルの入力ファイルとして提供されます。

ファイル名	レコード様式	説明
QAFCXMPAI2	VINLBL	データベース・ファイルのサンプル (AIAG_B2)
QAFCXMPAI3	SPILBL	データベース・ファイルのサンプル (AIAG_B3)
QAFCXMPAI4	IPLBL	データベース・ファイルのサンプル (AIAG_B4)
QAFCXMPAI5	SMPILBL	データベース・ファイルのサンプル (AIAG_B5)

EIA (米国電子工業会) ラベル

次に挙げる EIA ラベル用 PFD 定義が提供されます。

PFD	
定義	説明
EIA_SMPL_1	単一受注ラベル (単一の製品/単一の梱包)
EIA_SMPL_2	混合積荷ラベル (単一の受注/複数の製品 ID)
EIA_SMPL_3	複数受注ラベル (複数の受注/単一の製品 ID)
EIA_SMPL_4	複数積荷ラベル (複数の受注/複数の製品 ID)

次のデータベース・ファイルが PFD 定義のサンプルの入力ファイルとして提供されます。

ファイル名	レコード様式	説明
QAFCXMEIA	SHPLBL	データベース・ファイルのサンプル (EIA)

AFP ユーティリティー解説 PFD 定義

以下の PFD 定義は、AFP ユーティリティー解説の一部として提供されます。

PFD

定義	説明
TUTORIAL	解説全体
TUTOR10	概要 - 解説で扱うトピック
TUTOR20	ソース・オーバーレイ・ファイルおよびソース・オーバーレイの作成
TUTOR25	ソース・オーバーレイの作成
TUTOR30	データベース・ファイルの作成および DFU によるデータの追加
TUTOR32	データベース・ファイルの作成 - データなし
TUTOR40	DFU によるデータのデータベース・ファイルへの追加
TUTOR50	PFD ファイルの作成、PFD の作成と変更
TUTOR55	PFD 定義の作成
TUTOR57	PFD 定義の変更
TUTOR60	PFD データの印刷
TUTOR70	PFD 定義のコピー
TUTOR80	ページ・セグメントの物理ファイル・メンバーへの変換
TUTOR90	物理ファイル・メンバーのページ・セグメントへの変換

以下のデータベース・ファイルは、AFP ユーティリティー解説用の入力ファイルとして提供されます。

ファイル名	レコード様式	説明
QAFCTUTDBF	FORMAT1	解説用のデータベース・ファイルのサンプル
QAFCTUTOR	TUTORTXT	AFPU 解説テキスト

付録 H. コード 128 の文字セット

表 112. コード 128 の文字セット

文字	16 進数	文字	16 進数	文字	16 進数	文字	16 進数
NUL	00	.	4B	i	89	I	C9
SOH	01	<	4C	FNC 1	8F	}	D0
STX	02	(4D	j	91	J	D1
ETX	03	+	4E	k	92	K	D2
HT	05		4F	l	93	L	D3
VT	0B	&	50	m	94	M	D4
FF	0C	!	5A	n	95	N	D5
CR	0D	\$	5B	o	96	O	D6
SO	0E	*	5C	p	97	P	D7
SI	0F)	5D	q	98	Q	D8
DLE	10	;	5E	r	99	R	D9
DC1	11	--	60	~	A1	\	E0
DC2	12	/	61	s	A2	S	E2
DC3	13	,	6B	t	A3	T	E3
BS	16	%	6C	u	A4	U	E4
CAN	18	-	6D	v	A5	V	E5
EM	19	>	6E	w	A6	W	E6
GS	1D	?	6F	x	A7	X	E7
RS	1E	'	79	y	A8	Y	E8
US	1F	:	7A	z	A9	Z	E9
FS	22	#	7B		B0	FNC 2	EA
LF	25	@	7C	[BA	0	F0
ETB	26	'	7D]	BB	1	F1
ESC	27	=	7E	FNC 4	BE	2	F2
ENQ	2D	"	7F	{	C0	3	F3
ACK	2E	a	81	A	C1	4	F4
BEL	2F	b	82	B	C2	5	F5
SYN	32	c	83	C	C3	6	F6
EOT	37	d	84	D	C4	7	F7
DC4	3C	e	85	E	C5	8	F8
NAK	3D	f	86	F	C6	9	F9
SUB	3F	g	87	G	C7	FNC 3	FA
SP	40	h	88	H	C8	DEL	FF

注: 印刷装置または AFP Utilities for iSeries は、所定のデータからできる限り短いバーコードを作成するために、すべての START、STOP、SHIFT、および CODE 文字を生成します。

付録 I. フォントのサンプル

この付録では、IBM が提供している各種フォントのサンプルを記載します。IBM が提供しているフォントの詳しい説明およびイラストについては、*IBM AFP Fonts: Font Samples* を参照してください。

Times New Roman Medium

フォント名	ポイント ・サイズ	文字 セット
Times New Roman Medium 6pt	6	CON20060
Times New Roman Medium 7pt	7	CON20070
Times New Roman Medium 8pt	8	CON20080
Times New Roman Medium 9pt	9	CON20090
Times New Roman Medium 10pt	10	CON20000
Times New Roman Medium 11pt	11	CON200A0
Times New Roman Medium 12pt	12	CON200B0
Times New Roman Medium 14pt	14	CON200D0
Times New Roman Medium 16pt	16	CON200F0
Times New Roman Medium 18pt	18	CON200H0
Times New Roman Medium 20pt	20	CON200J0
Times New Roman Medium 24pt	24	CON200N0
Times New Roman Medium 30pt	30	CON200T0
Times New Rom Med 36pt	36	CON200Z0

図 51. *Times New Roman Medium*

Helvetica Roman Bold

フォント名	ポイント ・サイズ	文字 セット
Helvetica Roman Bold 6pt	6	C0H40060
Helvetica Roman Bold 7pt	7	C0H40070
Helvetica Roman Bold 8pt	8	C0H40080
Helvetica Roman Bold 9pt	9	C0H40090
Helvetica Roman Bold 10pt	10	C0H40000
Helvetica Roman Bold 11pt	11	C0H400A0
Helvetica Roman Bold 12pt	12	C0H400B0
Helvetica Roman Bold 14pt	14	C0H400D0
Helvetica Roman Bold 16pt	16	C0H400F0
Helvetica Roman Bold 18pt	18	C0H400H0
Helvetica Roman Bold 20pt	20	C0H400J0
Helvetica Roman Bold 24pt	24	C0H400N0
Helvetica Roman Bold 30pt	30	C0H400T0
Helvetica Rom Bld 36pt	36	C0H400Z0

図 52. Helvetica Roman Bold

Courier

フォント名	ポイント ・サイズ	文字 セット
Courier Roman Medium 7pt	7	C0420070
Courier Roman Medium 8pt	8	C0420080
Courier Roman Medium 10pt	10	C0420000
Courier Roman Medium 12pt	12	C04200B0
Courier Roman Medium 14pt	14	C04200D0
Courier Roman Medium 20pt	20	C04200J0
Courier Roman Bold 7pt	7	C0440070
Courier Roman Bold 8pt	8	C0440080
Courier Roman Bold 10pt	10	C0440000
Courier Roman Bold 12pt	12	C04400B0
Courier Roman Bold 14pt	14	C04400D0
Courier Roman Bold 20pt	20	C04400J0
Courier Italic 7pt	7	C0430070
Courier Italic 8pt	8	C0430080
Courier Italic 10pt	10	C0430000
Courier Italic 12pt	12	C04300B0
Courier Italic 14pt	14	C04300D0
Courier Italic 20pt	20	C04300J0
Courier Italic Bold 7pt	7	C0450070
Courier Italic Bold 8pt	8	C0450080
Courier Italic Bold 10pt	10	C0450000
Courier Italic Bold 12pt	12	C04500B0
Courier Italic Bold 14pt	14	C04500D0
Courier Italic Bold 20pt	20	C04500J0

図 53. Courier フォントのサンプル

用語集

[ア行]

アプリケーション (application). 在庫管理業務、売掛金業務など、特定の業務。

アプリケーション・プログラム (application program). 在庫管理や給与計算などの、特定のデータ処理作業を実行するために使用されるプログラム。

一時変更、オーバーライド (override). (1) ファイル記述またはプログラムの中で指定された属性を変更する属性を実行時に指定すること。(2) ファイル記述またはプログラムの中で指定された属性を変更する、実行時に指定された属性。

イメージ (image). 走査装置によって記録されたオリジナル文書の電子表現。

イメージ域 (image area). AFP ユーティリティーでは、ユーザーが AFP 資源を設計するときに、その資源のイメージが表示される画面上の 1 区域。「キー入力域 (key entry area)」も参照。

イメージ・オブジェクト・コンテンツ体系 (IOCA) (Image Object Content Architecture (IOCA)). 定義されたデータ・ストリームで、ラスター・イメージ・データを保管するために使用される。混合オブジェクト: 文書内容体系の文書の中のイメージは、IOCA を使用して保管される。「IOI」および「混合オブジェクト: 文書内容体系 (Mixed Object: Document Content Architecture)」も参照。

イメージ・データ・ストリーム (image data stream). イメージ・データを表す、高機能印刷用データ・ストリーム。「IOI」および「IMI」も参照。

印刷形式ユーティリティー (PFU) (print format utility (PFU)). AFP ユーティリティーでは、このユーティリティーを使用すると、ユーザーは、プログラムを作成しなくても、データベース・ファイル・メンバーをさまざまな形式で印刷することが可能になる。

印刷出力形式定義 (PFD) (printout format definition (PFD)). AFP ユーティリティーでは、レコード・レイアウト、ページ・レイアウト、レコードの選択、およびデータベース・ファイル名に関する情報が入っているファイル・メンバー。PFD を使用して、データベース・ファイル・メンバーのレコードを様々な形式で印刷する。

印刷装置書き出しプログラム (printer writer). スプーリング・ファイルを印刷装置に書き出すシステム・プログラム。

印刷装置ファイル (printer file). 印刷出力が持つ属性を決める装置ファイル。印刷装置には、印刷装置ファイルで指定されたすべての属性をサポートするものもあれば、サポートしないものもある。

印刷テキスト (print text). ユーザーがリストの最下部に 1 行分のテキストを指定することができるようにするオプション。

隠蔽機能 (hide function). AFP ユーティリティーでは、画面ビューにおける機能の 1 つであり、同じまたはほぼ同じ位置に指定した他の要素によって隠蔽された要素を表示するのに使用される。

遠隔 (remote). (装置、システム、またはファイルが) 通信回線によって別の装置、システム、またはファイルに接続されていること。

オーバーレイ (overlay). (1) 既存のファイルに重ね書きする (したがって、既存のファイルを壊す) こと。(2) 主記憶域にロードされて、前にロードされているプログラム・セグメントの全部または一部と置き換わるプログラム・セグメント。(3) AFP サポートについては、電子オーバーレイ (electronic overlay) を参照。

オーバーレイ・ユーティリティー (overlay utility). AFP ユーティリティーでは、ユーザーがオーバーレイを作成できるようにする対話式ツール。

オブジェクト (object). オブジェクトそのものを記述する 1 組の特性と、場合によってはデータとで構成される、名前の付いた記憶域スペース。オブジェクトとは、記憶域に存在して、そのスペースを占有し、それに対して何らかの操作を行なうことができるものをいう。オブジェクトの例としては、プログラム、ファイル、ライブラリー、およびフォルダーなどがある。

オブジェクト記述 (object description). オブジェクトを記述する特性 (名前、タイプ、および所有者名など)。

オブジェクト操作権 (object operational authority). オブジェクト権限の 1 つで、これを使用すると、ユーザーはオブジェクトの記述を表示し、そのオブジェクトに対するユーザーのデータ権限内でそのオブジェクトを使用することができる。「全権限 (all authority)」および「使用権限 (use authority)」も参照。

オブジェクト存在権限 (object existence authority). オブジェクト権限の 1 つで、これを使用すると、ユーザーはオブジェクトの削除、オブジェクトの記憶域の解放、オブジェクトの保管および復元、オブジェクトの所有権の移転、および権限保持者によって名前を指定されたオブジェクトの作成を行うことができる。

オフセット (offset). あるオブジェクトの初めから特定のフィールドの初めまでの距離、あるいは、サブストリングの場合は、フィールドの初めからの文字位置の数。

オンライン情報 (online information). 画面、メッセージ、およびプログラムについて説明する表示画面上の情報。

[力行]

カーソル (cursor). 表示装置のユーザーにタイプ位置を示したり、選択する項目を識別するための移動可能な記号で、通常は明滅するか点灯したままの四角。

解像度 (resolution). コンピューター・グラフィックスでは、イメージの鮮明度を表す尺度。そのイメージの 1 単位の長さ当たりの識別可能な線の数、または 1 単位の面積当たりの識別可能な点の数で表される。

概念 (concept). 抽象的な考え。

改ページ (page break). AFP ユーティリティには、改ページを引き起こすフィールドがある。が、レコード内の指定されたフィールドの値が直前のレコードのそのフィールドの値と等しくないレコードを見つけた場合、新しいページにレコードを印刷する。この状態は、「改ページ」と呼ばれる。

重ね打ち (overstrike). (文字または記号が) 別の文字または記号と同じ位置を占めること。

片面 (simplex). AFP サポートでは、用紙の片面だけに印刷することを表す用語。「両面印刷 (duplex)」と対比。

可変データ (variable data). AFP ユーティリティでは、レコード・レイアウトの中の要素の 1 つ。その値はデータベース・ファイルの中で表される。「固定データ (fixed data)」と対比。

画面ビュー (screen view). AFP ユーティリティでは、ユーザーが画面編集モードを選択しているときに表示される画面。「リスト・ビュー (list view)」も参照。

漢字 (Kanji). 日本語で使用されている中国語起源の文字。

関数 (function). (1) 特定の操作を実行する命令または関連した命令のセット。

完了メッセージ (completion message). 作業が正常に終了した時点でそのことをオペレーターに通知するメッセージ。

キー入力域 (key entry area). AFP ユーティリティでは、イメージ域の下部に表示され、要素のパラメーターを入力するための区域。「イメージ域 (image area)」も参照。

機能キー (function key). ユーザーにキーボード機能またはプログラマー機能を選択できるようにするキーボードのキー。「文字キー (character key)」と対比。

キュー (queue). あらかじめ決まった順序で読み取り、処理、印刷、または配布されるのを待っているメッセージ、ジョブ、ファイル、または要求のリスト。

共通権限 (public authority). オブジェクトに対して特定の (専用) 権限を持っていないユーザー、権限リストに載っていないユーザー (そのオブジェクトについて権限リストが指定されている場合)、およびグループ・プロファイルがオブジェクトに対して特定の権限を持っていないユーザーに付与される権限。「専用権限 (private authority)」と対比。

切れ目フィールド (break field). AFP ユーティリティでは、改ページを引き起こすフィールド。が、レコード内の指定されたフィールドの値が直前のレコードのそのフィールドの値と等しくないレコードを見つけた場合、改ページが起こる。

組み合わせ (merge). (1) 1 つの出力ファイル全体を通してレコードを挿入すること。(2) 最初の呼び出しレベルから上位の呼び出しレベルまで、1 つのファイルのオーバーライドを組み合わせ、そのファイルの使用時に適用するオーバーライドを作成すること。

グラフィックス (graphics). (1) AFP ユーティリティでは、ソース・オーバーレイ、レコード・レイアウト、およびページ・レイアウトにグラフィック・データを挿入することができる。(2) ピクチャーおよびイラストレーション。(3) 図、表、およびその作成に関する用語。

形式、様式 (format). (1) 文字、フィールド、および行などの定義済みの配列であり、通常、これは画面、印刷出力、ファイル、または文書に使用される。(2) レコードの中のフィールドの配列またはレイアウト。(3) ディスク、テープ、またはディスクケットなどのストレージ・メディア上のデータの配列またはレイアウト。

権限リスト (authorization list). システム資源に関する複数のユーザー ID および権限のリスト。このオブジェクト・タイプのシステム認識 ID は *AUTL である。

現行ライブラリー (current library). ユーザーが要求したオブジェクトを見つけるために、最初に探索されるユーザー・ライブラリーとして指定されているライブラリー。現行ライブラリーの名前は、「サインオン」画面またはユーザー・プロファイルの中で指定することができる。あるコマンドでオブジェクト名 (ファイルまたはプログラムの名前など) を指定し、ライブラリー名を指定しなかった場合は、システムは、ライブラリー・リストのシステム部分にあるライブラリーを探索し、次に現行ライブラリーを探索し、その後でライブラリー・リストのユーザー部分を探索する。新しいオブジェクトを作成する際に、ライブラリー名を指定しなかった場合に、システムが使用するライブラリーも現行ライブラリーである。

現行リリース (current release). ライセンス内部コードまたはオペレーティング・システム、あるいはその両方が置き換わった、システムの使用可能な最新リリース。

検査数字 (check digit). 自己検査フィールドの最右端の数字で、フィールドの正確さを検査するために使用される。

コード化フォント (coded font). AFP サポートでは、コード・ページとフォント文字セットを関連づけるフォント・ファイル。2 バイト・フォントの場合は、コード化フォントは、コード・ページとフォント文字セットの複数の組み合わせを関連づける。

コード点 (code point). (1) 文字セット内の文字に割り当てられたビット・パターンの1つ。システムでは、コード点は 16 進数で表される。たとえば、コード・ページ 256 (EBCDIC) では、「e」という文字には、コード点として 16 進数 85 が割り当てられている。(2) AFP サポートでは、使用可能な 256 個の文字の 1 つを表す 8 ビットの 2 進数。

コード・ページ (code page). (1) 図形文字に対する 16 進 ID の特定の割り当て。(2) AFP サポートでは、コード点と図形文字 ID を関連づけるフォント・ファイル。

コード・ページ ID (code-page ID). 図形文字に対するコード点の特定の割り当てを指定するために使用される 5 桁の登録された ID。コード・ページ ID は、QCHRID システム値または CHRID パラメーター値の 2 番目の部分である。「図形文字セット ID (graphic character-set ID)」も参照。

高機能印刷 (AFP) (advanced function printing (AFP)). 全点アドレス可能概念を用いて、印刷装置でテキストおよびイメージを印刷することができるプログラムの機能。

高機能印刷装置データ・ストリーム (IPDS) (intelligent printer data stream (IPDS)). ユーザーがテキスト、イメージ、およびグラフィックスを印刷ページ上の定義されているどの点にも位置づけることができるようにする、全点アドレス可能データ・ストリーム。

高機能印刷データ・ストリーム (AFPDS) (advanced function printing data stream (AFPDS)). AFP サポートでは、高機能印刷用データを印刷するために使用される印刷装置データ・ストリーム。AFPDS には、複合テキスト、ページ・セグメント、電子オーバーレイ、用紙定義、および iSeries システムから印刷装置へダウンロードされるフォントなどが含まれる。

合計データ (summary data). 次に挙げるデータは、「合計データ」と呼ばれる。

- グループの中の最初のレコードのフィールド値。
- グループの中の最後のレコードのフィールド値。
- グループの中のフィールド値の合計。
- グループの中のフィールド値の平均。
- グループの中の最小フィールド値。
- グループの中の最大フィールド値。
- グループのレコード・カウント。

これらのデータは、ページ・レイアウト内の、次に挙げる要素に印刷することができる。

- テキスト要素上のテキスト・データ
- 枠要素上のテキスト・データ

格子 (grid). AFP ユーティリティでは、電子オーバーレイなど、AFP 資源に印刷された横方向および縦方向の線。AFP 資源の設計に役立つ。

広幅/狭幅比 (wide-to-narrow ratio). AFP ユーティリティでは、バーコードの広幅要素の寸法と狭幅要素の寸法の比率。「要素 (element)」も参照。

構文 (syntax). コマンドまたはステートメントを作成するための規則。

項目ヘルプ (contextual help). Help キーを押した時にカーソルが位置していたフィールドについて説明するヘルプ。「全般ヘルプ (extended help)」と対比。

互換性 (compatibility). システム内で機能することができること、または他の装置またはプログラムと一緒に機能することができること。

固定データ (fixed data). AFP ユーティリティーでは、レコード・レイアウトおよびページ・レイアウトの中の、定数値をもつ要素。「可変データ (variable data)」と対比。

コマンド (command). (1) システムの機能を要求するために使用されるステートメント。コマンドは、要求された機能を識別するコマンド名省略形、およびそのパラメーターで構成される。プロトコルを開始する。

コマンド行 (command line). コマンド、オプション番号、または選択項目を入力することのできる画面上のブランク行。

コマンド・プロンプト (command prompt). ユーザーが処理のためにコマンドを入力してもよいということを指示する、表示された文字 (または一連の文字)。

[サ行]

シーケンス番号 (sequence number). (1) レコードの番号。これによって原始メンバー内でそのレコードが識別される。(2) ジャーナル項目の中のフィールドの 1 つ。これにはシステムによって割り当てられた番号が入っている。この番号は最初が 1 で、ジャーナルが変更されるか、またはユーザーによってシーケンス番号がリセットされるまで、1 ずつ増加する。

資源 (resource). ジョブまたはタスクで必要とされるシステムの部分。これには主記憶域、入出力装置、処理装置、プログラム、ファイル、ライブラリー、およびフォルダーなどが含まれる。

資源管理ユーティリティー (RMU) (resource management utility (RMU)). AFP ユーティリティーでは、AFP 資源を保守するのに使用される対話式ツール。

資源名 (resource name). システムに接続されている回線、制御装置、または装置にシステムが割り当てる名前。

システム装置 (system unit). コンピューターの一部。これには処理装置のほかに、磁気ディスク装置やテープ装置など、入出力装置も含まれることがある。

修飾名 (qualified name). オブジェクトおよびオブジェクトの名前が入っているライブラリーの名前。

出力 (output). コンピューターから受け取った情報またはデータ。それは画面に表示されるか、印刷装置で印刷されるか、あるいはディスク、ディスケット、またはテープに保管される。

出力キュー (output queue). 印刷装置またはディスケットなどの出力装置に書き込まれるスプール・ファイルのリストが入っているオブジェクト。このオブジェクト・タイプのシステム認識 ID は *OUTQ である。

使用権限 (use authority). オブジェクト権限の 1 つ。これを使用すると、ユーザーはプログラムの実行、またはファイルの内容の表示を行うことができる。使用権限は、オブジェクト操作権と読み取り権限を組み合わせたもの。

昇順 (ascending sequence). データの比較の規則に従って、値の小さいものから大きいものへという順にデータを配列すること。「降順 (descending sequence)」と対比。

省略時の値 (default). ユーザーが値を指定しなかった場合に、システムまたはプログラムによって自動的に与えられる値または想定される値。

ジョブ (job). コンピューターによって実行される作業の単位。

ジョブ記述 (job description). ジョブをどのように処理するかを定義するシステム・オブジェクト。オブジェクト・タイプは *JOB D。

ジョブ名 (job name). システムに対して識別表示されるジョブの名前。対話式ジョブの場合、そのジョブが開始されたワークステーションの名前がジョブに割り当てられる。バッチ・ジョブの場合、そのジョブを実行依頼するために使用するコマンドの中で名前を指定する。

ジョブ・ログ (job log). あるジョブによってシステムに実行依頼された要求、それらの要求に関連したメッセージ、およびそのジョブに対してシステムが行なった処置の記録。ジョブ・ログはシステム・プログラムによって保守される。

所有者 (owner). オブジェクトを作成したユーザー (または、オブジェクトの所有者として指定されたユーザー)。

診断 (diagnostic). エラーの検出および分離を示す用語。

数字 (digit). 0 から 9 までの数字のいずれか。

図形文字 (graphic character). 表示または印刷することができる文字。「制御文字 (control character)」と対比。

図形文字セット (graphic character set). コード・ページの中の図形文字のセット。

ステップ (step). コンピューターに 1 つの操作を実行させること。

スプール (spool). 後で処理または印刷をすることができるように、ファイルまたはジョブを磁気ディスク装置に入れるシステム機能。

スプール・ファイル (spooled file). 印刷を待っている情報のような、処理待ちの出力データを入れているファイル。「スプール出力ファイル (spooled output file)」とも呼ばれる。

制御言語 (CL) (control language (CL)). ユーザーがシステムの機能を要求するために使用する、すべてのコマンドのセット。

制御言語 (CL) プログラム (control language (CL) program). 制御言語コマンドだけで構成される原始ステートメントから作成されたプログラム。

制御フィールド (control field). AFP ユーティリティーでは、画面ビュー上の入力フィールドの 1 つで、イメージ域を上下左右に移動するのに使用される。

精度 (fidelity). AFP サポートでは、ファイルを印刷するために入力データ・ストリームを処理する際に要求される正確度。様々なレベルの精度を指定することができ、それによってエラーの処理方法が決まる (たとえば、データ・ストリームの中に名前を指定されたフォントが見つからないときに、フォント置換を行うなど)。

セッション (session). ユーザーが表示装置でサインオンした時点で始まり、サインオフした時点で終わるまでの時間。

全 2 重、両面印刷 (duplex). (1) データの送信と受信が同時に可能な通信を指す。「半 2 重 (half-duplex)」と対比。(2) AFP サポートでは、用紙の両面への印刷を指す。「片面 (simplex)」と対比。

全権限 (all authority). オブジェクト権限の 1 つで、この権限を付与されているユーザーは、所有者に限定されている操作、または権限リスト管理権限の管理下にある操作を除いて、すべての操作をオブジェクトに対して実行することができる。このユーザーは、オブジェクトの存在を管理し、オブジェクトのセキュリティーを指定し、オブジェクトを変更することができる。「排他権限 (exclude authority)」と対比。

全点アドレス可能 (all-points-addressable). AFP サポートでは、紙面の印刷可能区域上の任意の定義点上のテキスト、オーバーレイ、およびイメージをアドレッシング、参照、および位置付けすることができる機能を指す。

全般ヘルプ (extended help). 画面の目的を説明するヘルプ。全般ヘルプが表示されるのは、カーソルが項目ヘルプの使用可能な区域より外にあるときに、ユーザーが Help キーを押した場合である。「項目ヘルプ (contextual help)」と対比。

専用権限 (private authority). あるオブジェクトについて特にユーザーに付与される権限。これは他のあらゆる権限 (たとえば、あるユーザーのグループ・プロフィール、権限リストなどの権限) を一時変更する。「共通権限 (public authority)」と対比。

ソース・オーバーレイ (source overlay). AFP ユーティリティーでは、オーバーレイの定義が入っているファイル・メンバー。

操作 (operation). 高水準言語のステートメントの処理結果。

総称 (generic). グループまたはクラス全体に関連する用語、もしくははその特性。

総称名 (generic name). (1) 複数のオブジェクト名に共通の文字で、これを用いてオブジェクトのグループを識別することができる。総称名はアスタリスク (*) で終わる。たとえば、ORD* は、名前が ORD で始まっているすべてのオブジェクトを識別する。(2) 階層ファイル・システムでは、1 つまたは複数のワイルドカード文字を含むパス名。

挿入操作 (place operation). AFP ユーティリティーでは、AFP 資源の中にページ・セグメントまたはレコード・レイアウトを定義する操作のこと。

[夕行]

対話式 (interactive). 人間とコンピューター間のダイアログに似た情報交換。「バッチ (batch)」と対比。

データ域 (data area). 1 つのジョブの中のプログラム相互間、またはジョブ相互間で、CL 変数値などのデータをやりとりするために使用されるシステム・オブジェクト。データ域のシステム認識 ID は *DTAARA である。

データ管理 (data management). オペレーティング・システムの一部で、アプリケーション・プログラムへの、またはアプリケーション・プログラムからのデータの保管およびアクセスを制御する。データは、内部記憶域 (たとえば、データベース) にあっても、外部メディア (ディスケット、テープ、または印刷装置) にあっても、あるいは別のシステムにあってもよい。

データベース (database). システムに保管されているすべてのデータ・ファイル。

データベース・ファイル. システムに保持されているシステム・オブジェクト・タイプ *FILE のタイプの 1 つであり、入力データを内部記憶域からプログラムに提示する方法、および出力データをプログラムから内部記憶域に提示する方法に関する記述が入っている。「物理ファイル (physical file)」および「論理ファイル (logical file)」も参照。

データ保全性 (data integrity). (1) 偶発または故意によるデータの破壊、変更、または脱落が起こらない限り存在している状態。(2) 作業単位の範囲内で、データベース管理システムに対する変更は、すべて完了しているか、まったく行われていないかいずれかである。変更操作のセットは完全セットと見なされる。

データ・ストリーム (data stream). 通常は 1 回の読み取り操作または書き込み操作で、データ・リンクを使用して送られるすべての情報 (データおよび制御コマンド)。

データ・タワー (data tower). AFP ユーティリティーでは、高機能印刷装置データ・ストリーム・コマンドのセットであり、テキスト、イメージ、グラフィックス、およびバー・コードなどのデータ・タイプを表す。

テーブル (table). 行と列による規則的なデータの配列であり、数字、テキスト、あるいはその両方を含むことができる。このオブジェクト・タイプのシステム認識 ID は *TBL である。

電子オーバーレイ (electronic overlay). 線、陰影、テキスト、枠、またはロゴなど、事前定義データの集合である AFP 資源オブジェクト。これは印刷時にページ上で可変データと組み合わせることができる。このオブジェクト・タイプのシステム認識 ID は *OVL である。

特定の権限 (specific authority). ユーザーがシステム資源を使用するために付与される権限のタイプで、オブジェクト権限とデータ権限とがある。

ドラフト (draft). まだ完成していない文書の印刷コピー。

[ナ行]

入力フィールド (input field). 表示装置ファイルまたはデータベース・ファイル内の指定されたフィールドで、ユーザーが供給する情報用に予約されている。「出力フィールド (output field)」と対比。

人間可読解釈文字 (HRI) (human readable interpretation (HRI)). AFP ユーティリティーでは、バー・コードの上または下に印刷される文字。これらの文字は人間が読み取るためのものであり、スキャナーに読み取らせるものではない。

[ハ行]

バーコード (bar code). 様々の幅のバーを組み合わせたパターンで、走査装置によって解釈されるデータが入っている。

ハードウェア (hardware). プログラム、プロシージャ、規則、および関連の情報ではなく、物理装置。

排除権限 (exclude authority). オブジェクトまたはその内容をユーザーが使用することを禁止するオブジェクト権限。「全権限 (all authority)」と対比。

バイト (byte). (1) 直接アドレスすることができる記憶域の最小単位。(2) 隣接する 8 ビットの集まり。EBCDIC コーディング方式では、1 バイトで 1 文字を表すことができる。2 バイト・コーディング方式では、2 バイトで 1 文字を表す。

バッチ (batch). オペレーターの処置をほとんど、あるいはまったく必要としないで、同じプログラムによりコンピューターで順々に実行されるジョブのグループを表す用語。「対話式 (interactive)」と対比。

バッチ・ジョブ (batch job). ユーザーとシステムとの間の対話をほとんど、あるいはまったく必要とせずに実行されるべく、あらかじめ定義されてシステムに受け渡される処理のグループ。「対話式ジョブ (interactive job)」と対比。

パネル (panel). UIM では、画面上でのデータの視覚表示。

パラメーター (parameter). コマンドまたはプログラムに供給する値で、入力として使用されるか、あるいはコマンドまたはプログラムの行動を制御するために使用される。

パリティ (parity). 偶数または奇数の状態。パリティ・ビットは、2 進数のグループに追加されて、そのグループの合計を常に奇数 (奇数パリティ) または常に偶数 (偶数パリティ) にする、2 進数である。

汎用ライブラリー (general-purpose library). 多くのシステム機能に必要な IBM 提供オブジェクト、および作成時に他のライブラリーに入れることを明示しないユ

ユーザー作成オブジェクトを入れるために、システムとともに出荷されるライブラリー。 QGPL という名前が付いている。

ビン (bin). AFP サポートでは、IBM 3820 の標準サイズ給紙箱。

ファイル (file). (1) データベース・ファイル、装置ファイル、または保管ファイルを指すオブジェクト・タイプの総称。 オブジェクト・タイプのシステム認識 ID は *FILE である。(2) 階層ファイル・システムでは、文書など、1 つの関連情報 (データ)。

ファイル記述 (file description). ファイルおよびその内容の記述。

ファイル名 (file name). ファイルを識別するためにプログラムによって使用される名前。「ラベル (label)」も参照。

ファイル・タイプ (file type). データ・タイプの 1 つで、これを使用すると、Pascal のプログラムで入力を読み取りおよび出力の書き出しを行うことができる。

ファイル・リスト (file list). ライブラリーに入っているファイルのリスト。

フィールド (field). レコードの中で 1 単位として扱われる、関連バイトのグループ (たとえば、名前または数量)。

フォント (font). (1) 一定のサイズおよび書体を持つ文字の一そろい。(2) 文字セット、マーカー・セット、およびパターン・セットの定義を含む特定の印字の書体 (たとえば、Bodini や Times Roman など)。

フォント ID (font ID). 特定の印刷装置用の文字の書体とサイズを識別する番号。

フォント資源 (font resource). iSeries システムにおいて、AFPDS 文書を印刷装置で印刷するために必要な資源オブジェクト。フォント資源には、フォント、文字セット、およびコード・ページという 3 つのタイプがある。このオブジェクト・タイプのシステム認識 ID は *FNTRSC である。

フォント文字セット (font character set). AFP サポートでは、文字のラスター・パターン、ID、および記述を内容とするフォント・ファイル。

復元 (restore). テープ、ディスケット、または保管ファイルから補助記憶域にデータをコピーすること。「保管 (save)」と対比。

プログラム (program). コンピューターが解釈し実行できる一連の命令。

ブロック編集機能 (block edit function). AFP ユーティリティーでは、イメージ域の指定された範囲に定義されたすべての要素を一度に移動、コピー、または除去する機能。

プロンプト (prompt). ユーザーの注意の喚起、あるいは情報またはユーザーの処置を求めるときに表示される要求。プログラムを進めるためには、ユーザーはこれに応答しなければならない。

文書 (document). テキストまたはその他のデータ・ストリングの集まり。1 つのシステム上のすべての文書およびフォルダーから文書ライブラリーが構成される。文書には、アプリケーションによってそこに格納される、任意のタイプのデータを入れることができる。たとえば、アプリケーションは、注釈、メモ、報告書、およびその他の項目を保管することができ、共有フォルダー・アプリケーションは、それ以外に PC ファイルに保管されるデータを記憶することができる。アプリケーションは、FILDOC および RPLDOC などの CL コマンドを使用して、任意のデータを文書に格納することができる。文書オブジェクト・タイプのシステム認識 ID は *DOC である。

文書名 (document name). フォルダーに入れる文書を作成する際に、ユーザーがその文書に割り当てる 1 ~ 12 文字の名前。「ライブラリー割り当て文書名 (library-assigned document name)」および「文書オブジェクト名 (document object name)」と対比。

ページ. (1) 印刷装置用紙の 1 枚。(2) 画面上で情報を上下に動かすこと。

ページ送り (page down). 画面上に表示されたデータを上方へ移動させること。これによって、ユーザーはデータの終わりの方へ移動することができる。「ページ戻し (page up)」と対比。

ページ戻し (page up). 画面上に表示されたデータを下方へ移動させること。これによって、ユーザーはデータの始めの方へ移動することができる。「ページ送り (page down)」と対比。

ページ・セグメント. AFP 資源オブジェクトの 1 つで、テキストおよびイメージを入れておくことができる。なお、これはページまたは電子オーバーレイの任意のアドレス可能点に位置づけることができる。このオブジェクト・タイプのシステム認識 ID は *PAGSEG である。

ページ・レイアウト (page layout). AFP ユーティリティーでは、印刷出力形式定義 (PFD) の中の 1 つのページの印刷出力形式。印刷形式ユーティリティーを使用することによって、ユーザーは、定数データを持つ事

前定義レコード・レイアウトを挿入および繰り返すことによって、ページ・レイアウトを設計することができる。「レコード・レイアウト (*record layout*)」も参照。

変更権限 (change authority). オブジェクト権限の 1 つであり、この権限を付与されたユーザーは、所有者に限定されている操作、またはオブジェクト存在権限およびオブジェクト管理権限の管理下にある操作を除いて、すべての操作をオブジェクトに対して実行することができる。このユーザーは、オブジェクト内の項目の追加、変更、および削除、またはオブジェクト内の項目の内容の読み取りを行うことができる。変更権限は、オブジェクト操作権とすべてのデータ権限を組み合わせたものである。

編集 (edit). 対話式にデータを追加、変更、削除、または再編成すること。たとえば、文字、文、または段落の挿入または除去、あるいは日付への文字または 10 進数の挿入または除去など。

ポイント、点 (point). (1) DBCS コードの 2 番目のバイト。これは同一区内の 2 バイト文字を固有に識別する。(2) AFP サポートでは、主として印字サイズを記述するために使用される測定の単位。各ピカ活字は 12 ポイントで、1 インチは約 72 ポイントである。

保管 (save). 特定のオブジェクト、ライブラリー、またはデータを、主記憶域または補助記憶域からテープ、ディスク、または保管ファイルなどの磁気メディアに転送することによってコピーすること。「復元 (*restore*)」と対比。

保管、格納 (store). データを記憶装置に入れる、すなわち保存すること。

健全性 (integrity). 「データ健全性 (*data integrity*)」を参照。

保留 (pending). (要求が) 実行依頼されたが、処理を待っていることを指す。

[マ行]

マーク (mark). 「要素マーク (*element mark*)」を参照。

マイグレーション (migration). データの変換を行わずに、あるコンピューター・システムから別のコンピューター・システムへデータおよびソース仕様を移すプロセス。

マッピング (mapping). 項目を対応づけること。

マッピング・オブジェクト (mapping object). データベース・フィールド値をオブジェクト名にマップするための機能。

マトリックス (matrix). 行と列とからなる配列。

見出し検索 (index search). オンライン・ヘルプ情報の検索可能な部分。これは特定の画面のヘルプを補うために方法および説明トピックを提供する。このオブジェクト・タイプのシステム認識 ID は *SCHIDX である。

メッセージ (message). 人間またはプログラムから別の人間またはプログラムに送られる連絡事項。

メッセージ行 (message line). メッセージが表示される画面上の区域。

メッセージ・キュー (message queue). メッセージがユーザー ID または装置記述に送信された時に入れられるリスト。このオブジェクト・タイプのシステム認識 ID は *MSGQ である。

メニュー (menu). ユーザーがその中から選択できる、表示された項目のリスト。このオブジェクト・タイプのシステム認識 ID は *MENU である。

メンバー (member). 1 つのデータベース・ファイル内で、それぞれが同じ形式を持つ、別個のデータの集まり。「ソース・メンバー (*source member*)」も参照。

文字 (character). データ文字セット内の英字、数字、またはその他の記号であり、データの編成、制御、または表現に使用される。

文字ストリング (character string). 1 つの値として使用される一連の文字。

文字セット (character set). 特定の理由で使用される文字のグループ。たとえば、表示装置が表示できる文字のセット、印刷装置が印刷できる文字のセット、またはコード・ページ内の特定の図形文字のセット。例として、256 EBCDIC 文字がある。

モジュール幅 (module width). AFP ユーティリティでは、バーコードで使用される基本要素幅。実際のコード要素は、モジュールの幅のことも、モジュールの幅の倍数のこともある。

問題分析 (problem analysis). 問題の原因を究明するプロセス。たとえば、プログラム・エラー、装置エラー、またはユーザー・エラーなど。

[ヤ行]

用紙 (form). AFP サポートでは、データを印刷する紙。メディア、物理ページ、およびシートと同義。

用紙タイプ (form type). 印刷出力に使用する各タイプの用紙を識別するために、ユーザーによって割り当てられる 10 文字の ID。

用紙定義 (form definition). 印刷メディアの特性を定義する AFP 資源オブジェクト。たとえば、使用されるオーバーレイ、テキスト抑止、用紙上のページ・データの位置、およびページの番号と修正事項。このオブジェクト・タイプのシステム認識 ID は *FORMDF である。

要素 (element). (1) パラメーター値のリストの中の 1 つの値。(2) バーコードのバーかバーの中のスペースのいずれか。(3) AFP ユーティリティでは、テキスト、イメージ、またはバーコードなど、電子オーバーレイのような AFP 資源を設計するのに使用される最小単位。「要素マーク (element mark)」および「要素名 (element name)」も参照。

要素マーク (element mark). AFP ユーティリティでは、要素の位置を画面上で示すのに使用されるマーク。たとえば、*B005 は、B はバーコードを意味し、005 は 5 番目の要素を意味する。「要素 (element)」および「要素名 (element name)」も参照。

要素名 (element name). AFP ユーティリティでは、要素マークの代りにイメージ域に表示される名前。「要素 (element)」および「要素マーク (element mark)」も参照。

読み取り権限 (read authority). データ権限の一つで、これを使用すると、ユーザーはオブジェクトの内容を表示し、プログラムを実行したりすることが可能になります。

予約可変データ (reserved variable data). 以下のデータは、「予約可変データ」と呼ばれ、データベース・ファイルからの可変データの印刷と同様に、レコード・レイアウト上のテキストとして印刷することができる。

- ジョブ日付
- ジョブ時刻
- ページ番号
- レコード番号
- データベース・ファイル名
- ライブラリー名
- メンバー名

[ラ行]

ライセンス・プログラム (licensed program). ユーザー・データの処理に関連した機能を実行する、別途注文できる IBM 提供のプログラム。ライセンス・プログラムの例としては、クライアント・アクセス OS/400 用、COBOL OS/400 用、適用業務開発ツールセット OS/400 用、OfficeVision OS/400 用などがある。

ライブラリー (library). (1) 他のオブジェクトの登録簿の役目をするシステム・オブジェクト。ライブラリーでは関連したオブジェクトがグループ化されていて、ユーザーはオブジェクトを名前で見つけることができる。このオブジェクト・タイプのシステム認識 ID は *LIB である。(2) システムの参照資料のセット。

ライブラリー名 (library name). ライブラリーに名づけられたユーザー定義の語。

ライブラリー・リスト (library list). 探索するライブラリー、およびライブラリーを探索する順序を示すリスト。システム認識 ID は *LIBL である。

ラベル (label). (1) ディスケットまたはテープ上のファイルの名前。(2) 一般に分岐のために使用される、コマンドまたはプログラム・ステートメントの ID。

リーダー (leader). リールの初めにあるテープのブランク部分。

リスト・ビュー (list view). AFP ユーティリティでは、ユーザーがリスト編集モードを選択しているときに表示される画面。「画面ビュー (screen view)」も参照。

レコード (record). 名前、住所、および電話番号など、1 単位として扱われる関連したデータ、語、またはフィールドの集まり。

レコード選択 (record selection). ファイルから特定のレコードを選択し、選択したレコードから取り出した情報を、たとえば、報告書などに組み込むプロセス。

レコード様式 (record format). ファイルの名前が付いた部分。これは指定されたレコード様式記述のレコードを識別する。

レコード・レイアウト (record layout). AFP ユーティリティでは、データベース・ファイル・レコードの各フィールドが印刷形式ユーティリティによって形式設定および印刷される方法を定義する、印刷出力形式定義の一部。「ページ・レイアウト (page layout)」も参照。

連結する (concatenate). 2 つの文字ストリングを結合すること。

ロゴ (logo). (1) 語全体を表す文字、文字の組み合わせ、または記号 (略符の省略形)。 (2) ライセンス・プログラム上で IBM 社およびプログラム名を識別する表示。

[ワ行]

枠 (box). AFP ユーティリティでは、長方形を構成する連続した線。

[数字]

1 インチ当たりの行数 (lpi) (lines per inch (lpi)). 1 インチ内に縦方向に印刷することのできる文字数。

1 インチ当たりの文字数 (cpi) (characters per inch (cpi)). ページ上で 1 インチ内に横方向に印刷される文字の数。

1 バイト文字セット (SBCS) (single-byte character set (SBCS)). 各文字が 1 バイトのコードで表される文字セット。「2 バイト文字セット (DBCS) (double-byte character set)」と対比。

1 バイト・コード化フォント (single-byte coded font). AFP サポートでは、文字が 1 バイトのコード点で定義されるフォント。1 つの 1 バイト・コード化フォントに対応するコード化フォント・セクションは 1 つだけである。1 バイト・フォントと同義。「2 バイト・コード化フォント (double-byte coded font)」と対比。

2 バイト文字 (double-byte character). 2 文字バイトを必要とするエンティティ。

2 バイト文字セット (DBCS) (double-byte character set (DBCS)). 各文字がそれぞれ 2 バイトで表される文字のセット。日本語、中国語、および韓国語など、256 個のコード点では表せない記号を含む言語では、2 バイト文字セットが必要である。各文字に 2 バイトずつ必要なので、DBCS 文字をタイプ、表示、および印刷するには、DBCS をサポートするハードウェアおよびプログラムが必要である。システムでは 4 つの 2 バイト文字セット (日本語、韓国語、中国語 (簡体字)、および中国語 (繁体字)) がサポートされている。「1 バイト文字セット (single-byte character set)」と対比。

2 バイト・コード化フォント (double-byte coded font). AFP サポートでは、文字が 2 バイトで定義されているフォント。1 バイト目はコード化フォント・セクションを定義し、2 バイト目は、コード点を定義す

る。2 バイト・フォントと同義。「1 バイト・コード化フォント (single-byte coded font)」と対比。

A

AFP. 「高機能印刷 (AFP) (advanced function printing (AFP))」を参照。

AFP 資源 (AFP resources). 用紙定義、ページ定義、フォント、オーバーレイ (電子書式)、およびページ・セグメント (図形イメージ)。プリントマネージャーを使用すると、資源は、システム・ライブラリーの中に存在していてもよく、またジョブがスプールに書き込まれる時に、印刷ジョブによってインラインに配置することもできる。

AFPDS. 「高機能印刷用データ・ストリーム (AFPDS) (advanced function printing data stream (AFPDS))」を参照。

C

CL. 「制御言語 ((CL)control language (CL))」を参照。

cpi. 「1 インチ当たりの文字数 (cpi) (characters per inch (cpi))」を参照。

D

DBCS. 「2 バイト文字セット (DBCS) (double-byte character set (DBCS))」を参照。

DBCS 変換 (DBCS conversion). オペレーティング・システムの機能の 1 つであり、これを使用すると、DBCS 表示装置のユーザーは、英数字データを入力し、その英数字データを 2 バイト・データに変換することを要求できる。

E

EIA. 米国電子工業会 (Electronic Industries Association)。

G

GDF (グラフィック・データ・フォーマット) (Graphics Data Format). AFP ユーティリティは、GDF を使って、電子オーバーレイやスプール・ファイルなどの AFP 資源を作成することができる。

H

HRI. 「可読文字 (HRI) (human readable interpretation (HRI))」を参照。

I

IBM AFP ユーティリティー バージョン 2 (IBM Advanced Function Printing Utilities Version 2). iSeries システム上で AFP 機能を提供する IBM ライセンス・プログラム。次のメニュー方式の対話式ユーティリティーで構成されている。オーバーレイ・ユーティリティー、印刷形式ユーティリティー、および資源管理ユーティリティー。

IBM iSeries アクセス (IBM iSeries Access). 接続されたパーソナル・コンピュータにシステム機能を提供する IBM ライセンス・プログラム。

IBM iSeries 生産情報管理システム I (MAPICS I) (IBM iSeries Manufacturing, Accounting, and Production Information Control System I (MAPICS I)). 財務、受注処理、および製造パッケージを含む 12 の統合アプリケーションのセットを提供する IBM ライセンス・プログラム。

IBM オペレーティング・システム/400 バージョン 4 (IBM Operating System/400 Version 4 (OS/400)). システムのオペレーティング・システムとして使用できる IBM ライセンス・プログラム。

ID (identifier). (1) 何かの名前。(2) ユーザー、プログラム、装置、またはシステムを別のユーザー、プログラム、装置、またはシステムに対して識別する一連のビットまたは文字。

IM1. イメージ・データを表す高機能印刷装置データ・ストリームのデータ・タワー。「IO1」も参照。

IMDS. イメージ・データ・ストリーム (Image Data Stream) (IOCA)。AFP ユーティリティーは IMDS からページ・セグメントを作成することができる。「イメージ・オブジェクト・コンテンツ体系 (IOCA) (Image Object Content Architecture (IOCA))」および「IO1」を参照。

IO1. イメージ・データを表す高機能印刷装置データ・ストリームのデータ・タワー。IM1 と IO1 はともにラスタ・パターンを表すが、IO1 コマンドは追加の機能を提供する。「IMI」および「イメージ・オブジェクト・コンテンツ体系 (IOCA) (Image Object Content Architecture (IOCA))」も参照。

IOCA. 「イメージ・オブジェクト・コンテンツ体系 (IOCA) (Image Object Content Architecture (IOCA))」を参照。

IPDS. 「高機能印刷装置データ・ストリーム (IPDS) (intelligent printer data stream (IPDS))」を参照。

L

lpi. 「1 インチ当たりの行数 (lpi) (lines per inch (lpi))」を参照。

P

PC ファイル (PC file). パーソナル・コンピュータに保管されているファイル。

PDF. 「印刷出力形式定義 (PDF) (printout format definition (PDF))」を参照。

PFU. 「印刷形式ユーティリティー (PFU) (print format utility (PFU))」を参照。

Q

QGPL. 「汎用ライブラリー (general-purpose library)」を参照。

R

RMU. 「資源管理ユーティリティー (RMU) (resource management utility (RMU))」を参照。

S

SBCS. 「1 バイト文字セット (SBCS) (single-byte character set (SBCS))」を参照。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アスタリスク (*) マーク 256

値 206

後書きスペース 301

移動

要素 324

要素リスト 332

イメージ域 18, 254

陰影タイプ 286

陰影パターン 286

印刷

オーバーレイ 62, 352, 359, 389

ソース・オーバーレイ 91

データベース・ファイル 151, 222

データベース・ファイル・メンバー 156

ページ・セグメント 353, 361, 403

AFP ユーティリティの解説 153, 156

AFP ユーティリティのメニュー 245

PFD 定義 222

「PFD 定義の処理」画面 239

印刷、形式ユーティリティを使用した 115

印刷、ソース・オーバーレイの 91

印刷可能域 475

印刷形式ユーティリティ 11, 111

開始 120, 122, 154

終了 152, 154

紹介 111

制限事項 447

下限値および上限値 447

線の幅およびページ・サイズ 447

破線および点線 447

要素の位置 447

制約事項 448

印刷装置の前提条件 450

グラフィックス (GDF) サイズ 450

グラフィックス (GDF) におけるテキスト・フォント 450

線 449

フォント 448

印刷形式ユーティリティ (続き)

制約事項 (続き)

ページ・セグメント 449

枠 449

枠内の陰影付け 450

枠内のテキスト 449

PFD 定義ファイル 448

印刷出力形式定義 111

印刷形式ユーティリティ 115

印刷出力仕様 115

オブジェクト名のマッピング 115

データベース・ファイル 112

ページ・レイアウト 113

要素 114

レコード選択 115

レコード・レイアウト 112

PFD 仕様 111

PFD 定義フォント 112

印刷出力仕様 115

定義 147, 207

印刷出力仕様の定義 147, 207

印刷操作

制約事項 451

印刷装置依存関係の制約事項 446, 450

印刷装置記憶域に関する制限事項 475

印刷装置のタイプ (オーバーレイ仕様) 76

印刷装置のタイプ (PFD 仕様) 168

印刷装置の特性 475

印刷装置ファイル 61

印刷用紙 25

隠蔽、要素マークの 257

緑 281, 286

オーバーレイ 25

印刷 62, 352, 359, 389

コピー 351

削除 351, 388

作成 91

使用 61

処理 351

名前の変更 352, 391

変換 352

変換 (物理ファイル・メンバーへの) 391

例 9, 26

オーバーレイ記述

画面 352, 391

変更 352

オーバーレイ記述の表示 352

オーバーレイ記述の変更 352

オーバーレイ仕様 26

オーバーレイ仕様 (続き)

印刷装置タイプ 76

オフセット 78

回転の角度 77

格子 78

サイズ 77

設計 27

測定単位 77

測定方式 77, 78, 79

高さ 78

定義 75

幅 78

フォント 26

変更 79

1 インチ当たりの行数 77

1 インチ当たりの文字数 76

DBCS の SO/SI のスペース 77

オーバーレイの印刷 352

オーバーレイのコピー 351

オーバーレイの削除 351

「オーバーレイの削除の確認」画面 388

オーバーレイの作成 91

オーバーレイの使用 61

オーバーレイの処理 351

オーバーレイの処理機能 366, 385

オーバーレイの設計 83

オーバーレイの名前の変更 352

オーバーレイ・オブジェクト

権限 446

コピー 388

オーバーレイ・オブジェクトの権限

制約事項 446

オーバーレイ・テキスト

変更 395

オーバーレイ・ユーティリティ 9

開始 29, 33, 62

作成 36

終了 62

紹介 25

制限事項 443

下限値および上限値 443

線の幅およびオーバーレイ・サイズ 443

破線および点線 443

要素の位置 443

制約事項 444

印刷装置の前提条件 446

オーバーレイ・オブジェクトの権限 446

グラフィックス (GDF) サイズ

446

オーバーレイ・ユーティリティー (続き)
制約事項 (続き)
グラフィックス (GDF) におけるテキスト・フォント 446
線 445
ソース・オーバーレイ・ファイル 444
フォント 444
ページ・セグメント 445
枠 445
枠内の陰影付け 446
枠内のテキスト 445
ソース・オーバーレイ 26
オーバーレイ仕様 26
操作の流れ 28
オブジェクト名のマッピング 115
指定 211
オフセット (PFD 仕様) 170
オフセット (オーバーレイ仕様) 78
オンライン情報 21

[力行]

開始

印刷形式ユーティリティー 120, 122, 155
オーバーレイ・ユーティリティー 29, 33, 63
資源管理ユーティリティー 353, 355, 365
CVTOVLPMF コマンド 370
CVTPAGSPFM コマンド 371
CVTPCDPAGS コマンド 366
CVTPFMPAGS コマンド 368
STRAFPU コマンド 365

開始、オーバーレイ・ユーティリティーの 63

解説 153, 156

回転の角度 478

オーバーレイ仕様 77
グラフィック 317
テキスト 274
バーコード 299
枠内 289
PFD 仕様 169

角度、回転の (オーバーレイ仕様) 77

角度、回転の (PFD 仕様) 169

確認、ソース・オーバーレイの削除の 90
確認、ソース・オーバーレイ・ファイルの削除の 106

下限値および上限値

制限事項 447

重ね打ち 275, 290

下線 275, 290

可搬性

制約事項 517

可搬性 (続き)

フォント 518
ページ・セグメント 519

可搬性、他のシステムへの 517

可変テキスト・データ

指定 133

画面 16

「印刷出力仕様の定義」画面 147, 148, 207

オーバーレイ記述 352, 391

「オーバーレイ仕様の定義」画面 75

オーバーレイの PFM への変換

(CVTOVLPMF) 画面 370

「オーバーレイの PFM への変換」画面 392

「オーバーレイの印刷」画面 360,

389

「オーバーレイの削除の確認」画面

388

「オーバーレイの作成」画面 52, 59, 91

「オーバーレイの処理」画面 359,

360, 385

「オーバーレイの設計」画面 38, 39,

40, 41, 42, 43, 44, 45, 47, 48, 49,

56, 57, 254, 266, 269, 270, 279, 281,

294, 306, 311, 312, 313, 325, 326,

327, 328, 329

「オーバーレイ・ユーティリティーの

終了」画面 51, 58, 83

「切れ目フィールドの指定」画面 181

「グラフィックス明細の挿入」画面

315

「合計データの定義」画面 201

処理画面 17

「数値の編集」画面 188

「数値の編集のためのフィールドの選

択」画面 190

設計画面 18, 252, 253

画面ビュー 254

リスト・ビュー 254

「線明細の定義」画面 280

「ソース・オーバーレイのコピー」画面 88

「ソース・オーバーレイの削除の確

認」画面 90

「ソース・オーバーレイの作成」画面

36, 51, 73

「ソース・オーバーレイの処理」画面

36, 53, 55, 60, 67

「ソース・オーバーレイの変更」画面

55, 58, 87

「ソース・オーバーレイの保管」画面

52, 59, 85

ソース・オーバーレイ・ファイル記述

107

画面 (続き)

「ソース・オーバーレイ・ファイルの

コピー」画面 105

「ソース・オーバーレイ・ファイルの

削除の確認」画面 106

「ソース・オーバーレイ・ファイルの

作成」画面 35, 102, 104

「ソース・オーバーレイ・ファイルの

処理」画面 34, 53, 95, 97

ソース・オーバーレイ・フォントの処

理 335

「ソース・オーバーレイ・フォントの

選択」画面 278

「データベース・ファイルの指定」画

面 126, 127, 177

「データベース・ファイルの選択」画

面 178

「データベース・ファイル・メンバー

の印刷」画面 151, 153, 240, 244,

245

「データベース・ファイル・メンバー

の選択」画面 243

「定義の終了」画面 149

「テキスト明細の定義」画面 133,

134

「テキスト明細の変更」画面 271,

272

「バーコード明細の定義」画面 297

「バーコード明細の変更」画面 296

フォント 342

ページ・セグメント記述 353, 404

「ページ・セグメントの印刷」画面

363, 403

「ページ・セグメントの削除の確認」

画面 402

「ページ・セグメントの処理」画面

362, 397

「ページ・セグメントの選択」画面

310

「ページ・セグメントへの変換」画面

356, 358, 373, 374, 375, 378

「ページ・セグメント明細の挿入」画

面 308

「ページ・レイアウトの設計」画面

144, 145, 146, 147, 190, 191, 195,

196, 320

「ページ・レイアウト要素の削除の確

認」画面 175

ヘルプ 21

「マッピング・オブジェクト名の指

定」画面 211

「マッピング・ページ・セグメント

名」画面 213

メニュー画面 16

要素選択の指定 141

「要素の削除の確認」画面 82

画面 (続き)

- 「予約済み変数名の選択」画面 185
- 「レコード選択の指定」画面 204
- 「レコード様式の選択」画面 180
- 「レコード様式のフィールドの選択」画面 134, 185, 310, 318
- 「レコード・レイアウトの設計」画面 128, 131, 132, 135, 136, 137, 138, 139, 140, 142, 143, 183, 187
- 「レコード・レイアウト明細の挿入」画面 145, 193, 194, 321
- 「レコード・レイアウト要素の削除の確認」画面 174
- 「枠明細の定義」画面 283, 284
- IBM Advanced Function Printing
 - Utilities for iSeries の画面 17, 33, 54, 63, 122, 152, 155, 245, 355, 365
- iSeries メイン・メニュー 247
- PCD のページ・セグメントへの変換 (CVTPCDPAGS) 画面 367, 368
 - 「PFD 仕様の定義」画面 166, 167
 - 「PFD データの印刷 (PRTPFDDTA)」画面 248
 - 「PFD 定義のコピー」画面 219
 - 「PFD 定義の削除の確認」画面 221
 - 「PFD 定義の作成」画面 126, 148, 164
 - 「PFD 定義の終了」画面 215
 - 「PFD 定義の処理」画面 125, 150, 152, 159, 217, 239
 - 「PFD 定義の選択」画面 154, 246
 - 「PFD 定義の変更」画面 218
 - 「PFD 定義の保管」画面 149, 216
- PFD 定義ファイル記述 236
 - 「PFD 定義ファイルのコピー」画面 234
 - 「PFD 定義ファイルの削除の確認」画面 235
 - 「PFD 定義ファイルの作成」画面 124, 230
 - 「PFD 定義ファイルの処理」画面 123, 223, 225
 - 「PFD 定義ファイルの選択」画面 246
 - 「PFD 定義ファイルの変更」画面 233
 - 「PFD 定義フォントの処理」画面 335
 - 「PFD 定義フォントの表示」画面 343, 344, 345
 - 「PFD 定義フォントの変更」画面 338, 339, 340, 341
- PFM のページ・セグメントへの変換 (CVTPFMPAGS) 画面 368, 369
 - 「PFM へのページ・セグメント」画面 405, 406

画面 (続き)

- PFM へのページ・セグメントの変換 (CVTPAGSPFM) 画面 371
- 画面ビュー 254
 - 要素操作 259
 - 要素の定義 254
 - レイアウト 254
- キー入力域 18, 254
- 機能キー 19
 - ページ送り 261
 - ページ戻し 261
 - ロールアップ 261
 - ロールダウン 261
- 行数、1 インチ当たりの (オーバーレイ仕様) 77
- 行数、1 インチ当たりの (PFD 仕様) 169
- 共通の徴候 458
- 切れ目フィールド
 - 関連の作業 516
 - 指定 181
- 切れ目フィールドの指定 181
- グラフィック
 - 開始位置 314, 317
 - 回転 495
 - 回転の角度 317
 - 終了位置 314, 317
 - 制御 314
 - 測定方式 314, 317
 - フォルダー 314, 317
 - フォント 317
 - マーク 314, 317
 - 要素名 317
- グラフィックス (GDF) サイズ
 - 制約事項 446, 450
- グラフィックス (GDF) におけるテキスト・フォント
 - 制約事項 446, 450
- グラフィックスの回転 495
- グラフィックス要素および位置 472
 - 測定方式 472, 473
- 権限
 - オーバーレイ・オブジェクト 446
 - ソース・オーバーレイ 92
 - ソース・オーバーレイ・ファイル 103
 - ページ・セグメント 377
 - PFD 定義ファイル 232
- 検査数字 304
- コード 128 の文字セット 525
- 合計データ 198
 - *AVG 201
 - *CNT 201
 - *FIRST 201
 - *LAST 201
 - *MAX 201
 - *MIN 201
 - *TOTAL 201

格子 (オーバーレイ仕様) 78

- 格子 (PFD 仕様) 170
 - 固定テキスト・データ
 - 指定 131
 - コピー
 - オーバーレイ 351
 - オーバーレイ・オブジェクト 388
 - ソース・オーバーレイ 88
 - ソース・オーバーレイ・ファイル 105
 - ページ・セグメント 352
 - ページ・セグメント機能 401
 - 要素 324
 - 要素リスト 332
 - PFD 定義 219
 - PFD 定義ファイル 234
 - コピー、ソース・オーバーレイの 88
 - コピー、ソース・オーバーレイ・ファイルの 105
 - コピー、PFD 定義の 219
 - コピー、PFD 定義ファイルの 234
 - コマンド
 - CVTOVLPMF 435
 - CVTPAGSPFM 439
 - CVTPCDPAGS 423
 - CVTPFMPAGS 429
 - PRTPFDDTA 418
 - STRAFPU 411
 - STROVLU 411
 - STRPFU 415
- ## [サ行]
- サービス技術員 464
 - 最新表示 (refresh)
 - 要素マーク 257
 - サイズ (オーバーレイ仕様) 77
 - サイズ (PFD 仕様) 169
 - 作業 501
 - 印刷出力仕様関連 515
 - オーバーレイ仕様関連 514
 - オーバーレイ・オブジェクト関連 504
 - 切れ目フィールド関連 516
 - 設計画面の画面ビュー関連 506
 - 設計画面のリスト・ビュー関連 508
 - ソース・オーバーレイ関連 501
 - ソース・オーバーレイ・ファイル関連 502
 - データベース・ファイルの選択関連 513
 - フォント関連 515
 - ページ・セグメント関連 505
 - マッピング・オブジェクト関連 516
 - 要素関連 509
 - レコードの選択関連 513
 - PFD 仕様関連 514
 - PFD 定義関連 503

作業 (続き)

PFD 定義ファイル関連 503
作業の実行方法 501
削除
オーバーレイ 351, 388
ソース・オーバーレイ 90
ソース・オーバーレイ・ファイル 106
ページ・セグメント 352
ページ・セグメント機能 402
PFD 定義 221
PFD 定義ファイル 235
削除、ソース・オーバーレイの 90
削除、ソース・オーバーレイ・ファイルの 106
削除、PFD 定義の 221
削除、PFD 定義ファイルの 235
作成
オーバーレイ 91
オーバーレイ (ソース・オーバーレイから) 59
ソース・オーバーレイ 36, 73
ソース・オーバーレイ・ファイル 34, 102
ページ・セグメント
制約事項 451
ページ・セグメント (ファイルからの) 375
ページ・セグメント (PC 文書からの) 375
要素 331
PFD 定義 124, 164
PFD 定義ファイル 123, 230
作成、ソース・オーバーレイの 36
作成、ソース・オーバーレイ・ファイルの 102
サポートされる印刷装置 475
サンプル、オーバーレイの 9, 26, 521
DMAS 用紙 521
MAPICS/DB 用紙 522
資源管理ユーティリティ 13
開始 353, 355, 363
終了 363
紹介 349
制限事項 450
制約事項 450
印刷操作 451
オーバーレイの変換 451
ページ・セグメントの作成 451
ページ・セグメントの変換 451
IMDS (IOCA) データ・ストリーム 450
CVTOVLPFM コマンド 370
CVTPAGSPFM コマンド 371
CVTPCDPAGS コマンド 366
CVTPFMPAGS コマンド 368
STRAFPU コマンド 365

指定

オブジェクト名のマッピング 211
可変テキスト・データ 133
切れ目フィールド 181
固定テキスト・データ 131
線要素 142
データベース・ファイル 126, 177
バーコード要素 137
ページ・セグメント 136
要素選択 140
レコード選択 204
枠要素 139
終了
印刷形式ユーティリティ 152, 157
オーバーレイ・ユーティリティ 64
資源管理ユーティリティ 371
定義、PFD 定義の 148
レコード・レイアウトの設計 143
終了、印刷形式ユーティリティの 152
終了、オーバーレイ・ユーティリティの 64
終了、資源管理ユーティリティの 371
使用
イメージ 8
印刷装置ファイル 61
オーバーレイ 7
グラフィックス 8
バーコード 8
省略、背面ページ・レイアウトの 209
除去
要素 324
要素リスト 332
処理
オーバーレイ 351
オーバーレイ機能 366, 385
ソース・オーバーレイ 64, 65, 108
ソース・オーバーレイのフォント 83
ソース・オーバーレイ・ファイル 64, 94
フォント 335
ページ・セグメント 352
ページ・セグメント機能 366, 395
PFD 定義 156, 157, 236
PFD 定義ファイル 156, 222
PFD 定義フォント 177
処理、ソース・オーバーレイの 64, 65, 108
処理画面 17
数値編集 188
スクロール
要素マーク 258
制限事項 443
印刷形式ユーティリティ 447
印刷装置記憶域 475
オーバーレイ・ユーティリティ 443
資源管理ユーティリティ 450

制約事項 443

印刷形式ユーティリティ 448
オーバーレイ・ユーティリティ 444
資源管理ユーティリティ 450
設計
ページ・レイアウト 143, 190
レコード・レイアウト 128, 183
設計、ページ・レイアウトの 143, 190
設計画面 18
機能キー 260
要素の定義 252
設計画面での機能キー 260
設計操作 251
要素タイプ 251
線 251
テキスト 251
バーコード 251
ページ・セグメント 251, 252
レコード・レイアウト 252
枠 251
設定
フォント 345
線
制約事項 445, 449
センス・コード 462
推定原因 462
選択
ソース・オーバーレイ・ファイル 101
ソース・オーバーレイ・リスト 72
データベース・ファイル 178
レコード様式 180
PFD 定義ファイル・リスト 229
PFD 定義リスト 163
選択、データベース・ファイルの 178
選択、レコード様式の 180
線の幅およびオーバーレイ・サイズ 443
線の幅およびページ・サイズ
制限事項 447
線要素
縁 281
開始位置 280
指定 142
終了位置 280
種類 281
制御 279
挿入 281
測定方式 279, 280
幅 281
マーク 279, 280
要素 281
線要素と位置 466
測定方式 466, 468
ソース用紙入れ 242
ソース・オーバーレイ 26
印刷 91
オーバーレイ仕様 26

ソース・オーバーレイ (続き)
 オーバーレイの設計 27
 オーバーレイ・フォント 26
 コピー 88
 削除 90
 作成 73
 処理 108
 送信 451
 名前の変更 91
 変更 54, 87
 保管 51, 83
 「ソース・オーバーレイの作成」画面 36
 ソース・オーバーレイ・ファイル
 コピー 105
 削除 106
 作成 34, 102
 処理 94
 制約事項 444
 選択 101
 名前の変更 107
 ソース・オーバーレイ・ファイル記述
 画面 107
 変更 104
 ソース・オーバーレイ・ファイルの処理
 64, 94
 ソース・オーバーレイ・ファイル・リスト
 表示 101
 ソース・オーバーレイ・フォントの処理
 83
 ソース・オーバーレイ・リスト
 選択 72
 表示 72
 ソート
 要素リスト 332
 操作の流れ 28, 117
 送信
 ソース・オーバーレイ 451
 PFD 定義 451
 挿入
 グラフィック要素 47
 ページ・セグメント 54
 測定単位 (PFD 仕様) 169
 測定方式 (オーバーレイ仕様) 77, 78, 79
 測定方式 (PFD 仕様) 169, 170, 171
 ソフトウェア要件 15

[夕行]

タイプ (要素) 251
 高さ (PFD 仕様) 169
 高さ (オーバーレイ仕様) 78
 単位、計測 (オーバーレイ仕様) 77
 徴候
 イメージ (ページ・セグメント) が印刷されない 460

徴候 (続き)
 グラフィックスが印刷されない。 460
 グラフィックス内のテキストが予想したものでない。 462
 テキストが予想したものではない 461
 テキスト行がオーバーラップする 461
 点線または破線の長さが正しくない 462
 何も印刷されない 459
 バーコードが印刷されない 459
 フォントが予想したものではない 461
 ページ番号が印刷されない 459
 別のイメージ (ページ・セグメント) が印刷される 461
 文字サイズが予想したものではない 461
 要素位置が予想したとおりではない 461
 枠内のテキストが正しく形式設定されていない 461
 枠要素内の陰影が正しくない 462
 1 つまたは複数の要素が印刷されない 460
 データベース・ファイル 112
 印刷 151, 222
 指定 126, 177
 選択 178
 データベース・ファイルの印刷 151, 222
 データベース・ファイルの指定 177
 データベース・ファイル・メンバー
 印刷 156
 データベース・ファイル・メンバーの印刷 237
 データ要素の測定方法 (オーバーレイ仕様) 77
 定義
 印刷出力仕様 147, 207
 オーバーレイ仕様 75
 線要素 41
 テキスト要素 38
 バーコード要素 45
 要素 265
 要素操作 259
 枠要素 42
 PFD 仕様 166
 定義、画面ビューでの要素の義 254
 定義、PFD 定義の
 終了 148
 テキスト
 位置 271, 272
 回転の角度 274
 重ね打ち 275
 下線 275
 カラー 274
 制御 270
 測定方式 270, 272

テキスト (続き)
 高さ 277
 テキスト・データ 271, 273
 幅 276
 フォント 275
 マーク 270, 272
 文字サイズ 276
 様式 274
 DBCS フォント 276
 テキスト要素および位置 465
 測定方式 465
 テスト
 EQ 205
 GE 205
 GT 205
 LE 205
 LT 205
 NE 205
 RANGE 205
 等号 (=) 326

[ナ行]

名前の変更
 オーバーレイ 352, 391
 ソース・オーバーレイ 91
 ソース・オーバーレイ・ファイル 107
 ページ・セグメント 352, 404
 PFD 定義 222
 PFD 定義ファイル 236
 名前の変更、ソース・オーバーレイの 91
 名前の変更、ソース・オーバーレイ・ファイルの 107
 名前の変更、PFD 定義ファイルの 236

[ハ行]

バーコード要素
 位置 298
 オフセット 299
 回転の角度 299
 カラー 299
 検査数字 299
 広幅 / 狭幅比 301
 指定 137
 測定方式 298
 タイプ 298
 高さ 301
 データ 298
 マーク 298
 文字の補足 298
 モジュールの幅 300
 HRI 299
 HRI アスタリスク 300
 HRI フォント 300

- バーコード要素と位置 470
 - 測定方式 470
 - バーコード・タイプ 295, 298
 - バーコード・データ 296, 298
 - パーセント (%) マーク 256
 - ハードウェア要件 14
 - 背面オーバーレイ 209
 - 破線および点線 443
 - 制限事項 447
 - 幅 (PFD 仕様) 169
 - 幅 (オーバーレイ仕様) 78
 - ビュー
 - リスト・ビューのレイアウト 328
 - レイアウト、画面ビューの 254
 - AFP ワークベンチによるオーバーレイ 49
 - 表示
 - ソース・オーバーレイ・ファイル・リスト 101
 - ソース・オーバーレイ・リスト 72
 - PFD 定義ファイル・リスト 229
 - PFD 定義リスト 162
 - 表示、ソース・オーバーレイ・ファイルの記述の 107
 - ファイル 15
 - フィールド 205
 - フォント
 - 画面 342
 - 初期の設定 345
 - 処理 335
 - 制約事項 444, 448
 - 変更 338
 - フォントのサンプル 527
 - Courier 528
 - Helvetica Roman Bold 528
 - Times New Roman Medium 527
 - フォントの処理 335
 - フォントの変更 338
 - 復元
 - 要素リスト 332
 - 物理ファイル・メンバー 352, 353
 - ブロック編集要素 326
 - プロンプト 17
 - ページ内でのレコードの反復 192
 - ページ番号 (PFD 仕様) 170
 - ページ・セグメント 8
 - 位置 309
 - 印刷 353, 361, 403
 - コピー 352
 - 削除 352
 - 指定 136
 - 処理 352
 - 制約事項 445, 449
 - 挿入 54
 - 測定方式 309
 - 名前の変更 352, 404
 - ページ・セグメント (続き)
 - 変換 353, 405
 - 変換 (データベース・ファイル) 349
 - 変換 (PC 文書からの) 350
 - マーク 309
 - ページ・セグメント記述
 - 画面 353, 404
 - ページ・セグメント記述の表示 353
 - ページ・セグメント記述の変更 353
 - ページ・セグメント機能 366, 372
 - コピー 401
 - 削除 402
 - 処理 395
 - 変換 372
 - ページ・セグメントの印刷 353
 - ページ・セグメントのコピー 352
 - ページ・セグメントの削除 352
 - 「ページ・セグメントの削除の確認」画面 402
 - ページ・セグメントの処理 352
 - ページ・セグメントの名前の変更 352
 - ページ・セグメントの変換
 - 制約事項 451
 - ページ・セグメント要素と位置 471
 - 測定方式 471
 - ページ・セグメント・テキスト
 - 変更 408
 - ページ・レイアウト 113
 - 設計 143, 190
 - ヘルプ
 - 画面 21
 - 制御言語コマンド 21
 - 変換
 - オーバーレイ 352, 391
 - 制約事項 451
 - オーバーレイ (物理ファイル・メンバーへの) 352
 - 物理ファイル・メンバー 391, 405
 - ページ・セグメント 349, 353
 - ページ・セグメント (データベース・ファイル) 349
 - ページ・セグメント (物理ファイル・メンバーへの) 353
 - ページ・セグメント (PC 文書からの) 350, 356
 - ページ・セグメント機能 366, 372
 - PC 文書 356
 - 変更
 - オーバーレイ記述 352
 - オーバーレイ仕様 79
 - オーバーレイ・テキスト 395
 - ソース・オーバーレイ 54, 87
 - ソース・オーバーレイ・ファイル記述 104
 - フォント 338
 - ページ・セグメント記述 353
 - 変更 (続き)
 - ページ・セグメント・テキスト 408
 - 要素 265, 332
 - 要素、リスト・ビューでの 328
 - 要素操作 259
 - PFD 仕様 171
 - PFD 定義 218
 - PFD 定義ファイル 233
 - 変更、イメージ・サイズの 376
 - 変更、印刷装置ファイルの 61
 - 変更、ソース・オーバーレイの 54, 87
 - 変更、ソース・オーバーレイ・ファイル記述の 104
 - 変更、PFD 仕様の 171
 - 変更、PFD 定義の 218
 - 編集
 - 要素 324, 332
 - 要素操作 260
 - 保管
 - ソース・オーバーレイ 51, 83
 - PFD 定義 215
 - 保管、ソース・オーバーレイ 51, 83
 - 保管、PFD 定義の 215
- ## [マ行]
- マッピング・オブジェクト名の指定 211
 - マッピング・オプション
 - 合わせて位取り 380
 - 位置を決めて トリム 380
 - イメージ・ポイントから画素 380
 - イメージ・ポイントから二重点線の画素 380
 - 中央そろえてトリム 380
 - メニュー画面 16
 - メンバー 15
 - 文字間隔
 - 上下 292
 - 左右 291
 - 文字サイズ 276
 - 文字サイズの拡大 276
 - 文字数、1 インチ当たりの (オーバーレイ仕様) 76
 - 文字数、1 インチ当たりの (PFD 仕様) 169
 - 文字セット 340, 342, 345
 - 問題
 - 共通の徴候 458
 - 推定原因 458
 - 問題の識別 453
 - 問題の分析 453
 - 問題の識別 453

[ヤ行]

- 要件
 - ソフトウェア (software) 15
 - ハードウェア 14
- 様式設定例 293
- 要素 16, 114
 - 移動 324
 - グラフィック 47, 311
 - グラフィックス 472
 - コピー 324
 - 削除の確認 82
 - 作成 331
 - 除去 324
 - 線 41, 278, 466
 - 定義 265
 - テキスト 38, 269, 465
 - バーコード 45, 294, 470
 - ブロック編集 326
 - ページ・セグメント 306, 471
 - 変更 265, 331
 - 編集 324, 332
 - 要素、リスト・ビューでの 328
 - レコード・レイアウト 320, 471
 - 枠 42, 281, 468
 - 陰影 493
 - 回転 478
 - テキストの挿入 477
 - 様式 477
- 要素選択
 - 指定 140
- 要素操作
 - 画面ビュー 259
 - 定義 259
 - 変更 259
 - 編集 260
- 要素タイプ 251, 465
 - 線 251
 - テキスト 251
 - バーコード 251
 - ページ・セグメント 251, 252
 - レコード・レイアウト 252
 - 枠 251
- 要素タイプと位置 (問題の分析) 465
- 要素の位置 443, 447, 465
- 要素の削除の確認 174
 - オーバーレイ 82
 - 画面 82
 - ページ・レイアウト 175
 - レコード・レイアウト 174
- 要素マーク 256
 - 隠蔽 257
 - オン/オフ (on/off) 257
 - 最新表示 (refresh) 257
 - スクロール 258

- 要素リスト
 - 移動 332
 - コピー 332
 - 除去 332
 - ソート 332
 - 復元 332

[ラ行]

- ライブラリー 15
- ラベル
 - 例 11
- 欄 17
- リスト・ビュー 254
 - 制御 329
 - 名前 330
 - レイアウト 328
 - ID 330
 - M 330
 - NBR 330
- リスト・ビューのレイアウト 328
- 両面印刷 208
- 両面に印刷 208
- 例、ラベルの 11
- レイアウト、画面ビューの 254
- レコード選択 115
 - 指定 204
- レコード選択の指定 204
- レコード様式
 - 選択 180
- レコード・レイアウト 112
 - 位置 321
 - 制御 321
 - 設計 128, 183
 - 測定方式 321
 - マーク 321
- レコード・レイアウトの設計 183
 - 終了 143
- レコード・レイアウトの中のデータ 184
- レコード・レイアウト要素と位置 471
 - 測定方式 471

[ワ行]

- 枠内の陰影付け
 - 制約事項 446, 450
- 枠内の陰影パターン 476
- 枠内の回転 476
- 枠内のテキスト
 - 制約事項 445, 449
- 枠内の様式 476
- 枠要素 251, 281
 - 陰影 493
 - 陰影タイプ 286
 - 陰影パターン 286

- 枠要素 (続き)
 - 縁 286
 - 開始位置 285
 - 回転 478
 - 回転の角度 289
 - 重ね打ち 290
 - 下線 290
 - カラー 289
 - 指定 139
 - 終了位置 285
 - 制約事項 445, 449
 - 線の種類 285
 - 線の幅 285
 - 測定方式 285
 - テキストの挿入 477
 - マーク 285
 - 文字間隔 291
 - 様式 288, 477
 - DBCS フォント 291
- 枠要素と位置 468
 - 測定方式 468, 469

[数字]

- 2-of-5 industrial 295
- 2-of-5 matrix 295
- 3-of-9 code 295

A

- AFP Utilities for iSeries
 - 印刷形式ユーティリティ 11
 - オーバーレイ・ユーティリティ 9
 - オンライン情報 21
 - 概要 3
 - 基本 15
 - コマンド 411
 - 資源管理ユーティリティ 13
 - 紹介 3
 - ソース・オーバーレイ・ファイル 94
 - できること 5
 - イメージの使用 8
 - オーバーレイの使用 7
 - グラフィックスの使用 8
 - バーコードの使用 8
 - 要件 14
 - AFP 資源 14
 - GDF の使用 497
- AFP Utilities for iSeries の基本
 - 画面 16
 - ファイル 15
 - メンバー 15
 - 要素 16
 - ライブラリー 15

AFP Utilities for iSeries 用のコマンド
411

AFP ユーティリティの解説

印刷 153, 156

PF 定義 524

AFP ユーティリティの解説の印刷 153

AFP ワークベンチ

ビュー、オーバーレイ 49

AIAG (AUTOMOTIVE INDUSTRY

ACTION GROUP) ラベル 523

C

CVTOVLPM コマンド 435

資源管理ユーティリティ 370

CRTFILE パラメーター 438

DTAFMT パラメーター 436

FILE パラメーター 437

FILETEXT パラメーター 438

MBR パラメーター 437

OVL パラメーター 436

REPLACE パラメーター 438

TEXT パラメーター 438

CVTPAGSPM コマンド 439

資源管理ユーティリティ 371

CRTFILE パラメーター 441

DTAFMT パラメーター 440

FILE パラメーター 440

FILETEXT パラメーター 441

MBR パラメーター 441

PAGSEG パラメーター 439

REPLACE パラメーター 441

TEXT パラメーター 441

CVTPCDPAGS コマンド 423

資源管理ユーティリティ 366

AUT パラメーター 428

CHGIMGSIZE パラメーター 425

FRMDOC パラメーター 425

FRMFLR パラメーター 425

IMGRTT パラメーター 428

IMGSIZE パラメーター 426

MAPPING パラメーター 427

PAGSEG パラメーター 425

REPLACE パラメーター 429

TEXT パラメーター 429

CVTPFMPAGS コマンド 429

資源管理ユーティリティ 368

AUT パラメーター 434

CHGIMGSIZE パラメーター 432

FILE パラメーター 431

IMGRTT パラメーター 433

IMGSIZE パラメーター 432

MAPPING パラメーター 433

MBR パラメーター 431

PAGSEG パラメーター 430

REPLACE パラメーター 435

CVTPFMPAGS コマンド (続き)

TEXT パラメーター 435

D

DBCS SO/SI (オーバーレイ仕様) 77

DBCS の SO/SI のスペース (PF 仕様) 170

DBCS フォント 276, 291

DMAS 用紙 521

E

EAN-13 295

EAN-8 295

EIA (米国電子工業会) ラベル 523

EQ 205

G

GDF 446, 450, 497

作成 497

GDF の使用 497

GE 205

GT 205

I

IBM サービス技術員に連絡 464

IMDS (IOCA) データ・ストリーム

制約事項 450

infoseeker 21

IOCA データ・ストリーム 450

IPDS タワー 517

J

JAN-short 295

JAN-standard 295

JPBC 295

L

LE 205

LT 205

M

MAPICS/DB 用紙 522

MSI 295

N

NE 205

P

PC 文書

変換 356

PF 仕様 111

印刷装置タイプ 168

オフセット 170

回転の角度 169

格子 170

サイズ 169

測定単位 169

測定方式 169, 170, 171

高さ 169

定義 166

幅 169

ページ番号 170

変更 171

1 インチ当たりの行数 169

1 インチ当たりの文字数 169

DBCS SO/SI 170

PF 仕様の定義 166

PF 定義 111

印刷 222

印刷形式ユーティリティ 115

印刷出力仕様 115

オブジェクト名のマッピング 115

コピー 219

削除 221

作成 124, 164

処理 156, 157, 236

送信 451

データベース・ファイル 112

名前の変更 222

ページ・レイアウト 113

変更 218

保管 215

要素 114

レコード選択 115

レコード・レイアウト 112

PF 仕様 111

PF 定義フォント 112

PF 定義の印刷 222

「PF 定義の削除の確認」画面 221

PF 定義のサンプル 522

AFP ユーティリティ解説 PF 定義
524

AIAG (AUTOMOTIVE INDUSTRY
ACTION GROUP) ラベル 523

EIA (米国電子工業会) ラベル 523

PF 定義の処理 236

PF 定義の名前の変更 222

PFD 定義ファイル
コピー 234
削除 235
作成 123, 230
処理 156, 222
制約事項 448
名前の変更 236
変更 233
PFD 定義ファイル記述
画面 236
PFD 定義ファイルの記述の表示 236
PFD 定義ファイルの作成 230
PFD 定義ファイルの処理 222
PFD 定義ファイルの変更 233
PFD 定義ファイルのリストからの選択
229
PFD 定義ファイル・リスト
選択 229
表示 229
PFD 定義フォント 112
処理 177
PFD 定義フォントの処理 177
PFD 定義リスト
選択 163
表示 162
PRTPFDDTA コマンド 247, 418
COPIES パラメーター 422
DRAWER パラメーター 421
ENDPAGE パラメーター 421
FILE パラメーター 419
FORMDF パラメーター 423
GRID パラメーター 420
MBR パラメーター 420
OUTBIN パラメーター 421
OUTQ パラメーター 422
PFDFILE パラメーター 419
PFDMBR パラメーター 419
RCDSLT パラメーター 420
PSF (印刷サービス機能) 519
PT2 タワー (下線および重ね打ち) 517

R

RANGE 205

S

STRAFPU コマンド 411
資源管理ユーティリティ 365
FILE パラメーター 412
MBR パラメーター 413
OPTION パラメーター 414
STROVLU (オーバーレイ・ユーティリ
ティー開始) コマンド 411
STRPFU コマンド 415

STRPFU コマンド (続き)
OPTION パラメーター 417
PFDFILE パラメーター 415
PFDMBR パラメーター 416

[特殊文字]

* マーク 256
= 符号 326
% マーク 256



Printed in Japan

SB88-5009-02



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12